

中国学園大学 子ども学部 子ども学科 シラバス

科目授業名	授業代表教員氏名	ページ数
日本語表現	太田 憲孝	1
芸術	牛島 光太郎	3
心理学	國田 祥子	5
倫理学	小谷 彰吾	7
歴史学	大山 章	9
社会学	中田 周作	11
日本国憲法	俵野 英二	13
数学概論	森寺 勝之	15
現代環境論	岸 誠一	17
自然科学概論	岸 誠一	19
生活と情報処理 1クラス	岸 誠一	21
生活と情報処理 2クラス	岸 誠一	23
情報処理演習	岸 誠一	25
英語 I 1クラス	西田 寛子	27
英語 I 2クラス	西田 寛子	29
英語 II 1クラス	西田 寛子	31
英語 II 2クラス	西田 寛子	33
韓国語	宋 煥沃	35
英語 III 1クラス	西田 寛子	37
英語 III 2クラス	西田 寛子	39
体育講義 全8回	清田 知茂	41
体育実技 1クラス	梶谷 信之	43
体育実技 2クラス	梶谷 信之	45
フーストイヤーセミナー	中田 周作/中 典子/岸 誠一/齊藤 佳子/森寺 勝之/岡崎 三鈴/大橋 由佳	47
現代子ども学入門	中田 周作/中 典子/國田 祥子/佐々木 弘記/清田 知茂/岸 誠一/土師 範子/齊藤 佳子/伊藤 智里/廣畑 まゆ美/川崎 泰子/西田 寛子/牛島 光太郎/岡崎 三鈴/太田 憲孝/山田 恵子	49
子ども研究法 I	中田 周作/中 典子/佐々木 弘記/岸 誠一/土師 範子/齊藤 佳子/伊藤 智里/廣畑 まゆ美/森寺 勝之/西田 寛子/牛島 光太郎/太田 憲孝/山田 恵子	51
子ども研究法 II	中田 周作/中 典子/國田 祥子/清田 知茂/岸 誠一/土師 範子/齊藤 佳子/伊藤 智里/廣畑 まゆ美/森寺 勝之/川崎 泰子/西田 寛子/牛島 光太郎/太田 憲孝	53
課題研究 I	中田 周作/中 典子/國田 祥子/佐々木 弘記/清田 知茂/土師 範子/齊藤 佳子/伊藤 智里/廣畑 まゆ美/川崎 泰子/西田 寛子/牛島 光太郎/太田 憲孝	55
課題研究 II	中田 周作/中 典子/國田 祥子/佐々木 弘記/清田 知茂/土師 範子/齊藤 佳子/伊藤 智里/廣畑 まゆ美/川崎 泰子/西田 寛子/牛島 光太郎/太田 憲孝	57
卒業研究 I	中田 周作/中 典子/國田 祥子/佐々木 弘記/清田 知茂/岸 誠一/齊藤 佳子/伊藤 智里/廣畑 まゆ美/川崎 泰子/西田 寛子/牛島 光太郎	59
卒業研究 II	中田 周作/中 典子/國田 祥子/佐々木 弘記/清田 知茂/岸 誠一/齊藤 佳子/伊藤 智里/廣畑 まゆ美/川崎 泰子/西田 寛子/牛島 光太郎	61
基礎学力養成セミナー I 1クラス	佐々木 弘記/西田 寛子/牛島 光太郎/太田 憲孝	63
基礎学力養成セミナー I 2クラス	佐々木 弘記/西田 寛子/牛島 光太郎/太田 憲孝	65
基礎学力養成セミナー II 1クラス	佐々木 弘記/西田 寛子/牛島 光太郎/太田 憲孝	67
基礎学力養成セミナー II 2クラス	佐々木 弘記/西田 寛子/牛島 光太郎/太田 憲孝	69
総合教養養成セミナー I	太田 憲孝/山田 恵子	71
総合教養養成セミナー II	太田 憲孝/山田 恵子	73
キャリア教育論	清田 知茂/西田 寛子/牛島 光太郎/岡崎 三鈴/太田 憲孝	75
キャリア教育演習	佐々木 弘記/清田 知茂/齊藤 佳子/伊藤 智里/森寺 勝之/西田 寛子/牛島 光太郎/岡崎 三鈴/太田 憲孝	77
人権教育論	森寺 勝之	79
子どもとおやつ	加賀田 江里	81
子どもと楽器 1クラス	土師 範子/岡崎 三鈴	83
子どもと楽器 2クラス	土師 範子/岡崎 三鈴	85
子どもと手芸	齊藤 佳子	87
子どもとダンス	佐々木 弘記/清田 知茂/大田原 愛美	89
子どもとゲーム	牛島 光太郎	91
障害児援助論	佐藤 伸隆	93
子ども家庭支援の心理学	國田 祥子	95
子どもの理解と援助 1クラス	土師 範子	97
子どもの理解と援助 2クラス	土師 範子	99
幼児理解の理論と方法	國田 祥子	101
教育社会学	中田 周作	103
教育相談	國田 祥子	105
発達心理学	國田 祥子	107
教育社会学演習	中田 周作	109
国語	太田 憲孝	111
算数	森寺 勝之	113
生活	池原 繁延	115
音楽	川崎 泰子	117
図画工作	牛島 光太郎	119
体育	清田 知茂	121
基礎音楽A 2限	河田 健二/土師 範子/廣畑 まゆ美/川崎 泰子/多田 悦子/嶋田 泉/織田 典恵	123
基礎音楽A 3限	河田 健二/土師 範子/廣畑 まゆ美/川崎 泰子/多田 悦子/嶋田 泉/織田 典恵	125
基礎音楽A 4限	河田 健二/土師 範子/廣畑 まゆ美/川崎 泰子/多田 悦子/嶋田 泉/織田 典恵	127
社会	山田 瓜紗	129
理科	佐々木 弘記	131
家庭	齊藤 佳子	133
英語	西田 寛子	135
児童英語演習	西田 寛子	137
基礎音楽B 2限	河田 健二/土師 範子/廣畑 まゆ美/川崎 泰子	139
基礎音楽B 3限	河田 健二/土師 範子/廣畑 まゆ美/川崎 泰子	141
国語科教育法	太田 憲孝	143
社会科教育法	山田 瓜紗	145
算数科教育法	森寺 勝之	147
理科教育法	佐々木 弘記	149
生活科教育法	池原 繁延	151
音楽科教育法	川崎 泰子	153
図画工作科教育法	牛島 光太郎	155
体育科教育法	清田 知茂	157
家庭科教育法	齊藤 佳子	159
英語科教育法	西田 寛子	161
道徳教育指導論	重松 恵子	163
小学校教育研究 I	佐々木 弘記/清田 知茂/森寺 勝之/牛島 光太郎/太田 憲孝/山田 恵子	165
小学校教育研究 II	佐々木 弘記/清田 知茂/齊藤 佳子/森寺 勝之/牛島 光太郎/太田 憲孝/山田 恵子	167
小学校教育研究 III	清田 知茂/森寺 勝之/牛島 光太郎/太田 憲孝/山田 恵子	169
保育実践研究 I α	國田 祥子/佐々木 弘記/齊藤 佳子/伊藤 智里/岡崎 三鈴/山田 恵子/大田原 愛美	171
保育実践研究 I β	國田 祥子/佐々木 弘記/齊藤 佳子/伊藤 智里/岡崎 三鈴/山田 恵子/大田原 愛美	173
保育実践研究 II α	國田 祥子/佐々木 弘記/齊藤 佳子/伊藤 智里/岡崎 三鈴/大田原 愛美	175
保育実践研究 II β	國田 祥子/佐々木 弘記/齊藤 佳子/伊藤 智里/岡崎 三鈴/大田原 愛美	177
小学校教育基礎演習	清田 知茂/森寺 勝之/山田 恵子	179
教育原理	中田 周作	181
教育史	梶井 一暎	183
教育方法学	住野 好久	185
保育者論	岡崎 三鈴	187
教育心理学	國田 祥子	189
教育・保育課程総論	佐々木 弘記/岡崎 三鈴	191
保育内容総論 1クラス	岡崎 三鈴	193
保育内容総論 2クラス	岡崎 三鈴	195
特別支援教育	中 典子	197
教職概論	太田 憲孝	199
特別活動・総合的な学習の時間の指導法	佐々木 弘記	201
生徒指導・進路指導の理論と方法	住野 好久	203
子どもと健康 1クラス	岡崎 三鈴	205
子どもと健康 2クラス	岡崎 三鈴	207
子どもと人間関係 1クラス	廣畑 まゆ美	209
子どもと人間関係 2クラス	廣畑 まゆ美	211
子どもと環境 1クラス	齊藤 佳子	213
子どもと環境 2クラス	齊藤 佳子	215
子どもと言葉 1クラス	伊藤 智里	217
子どもと言葉 2クラス	伊藤 智里	219

子どもと表現 1クラス	土師 範子/牛島 光太郎/織田 典恵	221
子どもと表現 2クラス	土師 範子/牛島 光太郎/織田 典恵	223
子どもと音楽	河田 健二/土師 範子/川崎 泰子	225
子どもと造形 1クラス	伊藤 智里/牛島 光太郎	227
子どもと造形 2クラス	伊藤 智里/牛島 光太郎	229
ICT活用の理論と実践	岸 誠一	231
メディア教育演習	岸 誠一	233
小学校教育基礎研究	清田 知茂/森寺 勝之/山田 恵子	235
子どもと健康指導法	岡崎 三鈴	237
子どもと人間関係指導法	廣畑 まゆ美	239
子どもと環境指導法	齊藤 佳子	241
子どもと言葉指導法	伊藤 智里	243
子どもと表現指導法	土師 範子/牛島 光太郎/織田 典恵	245
子どもと音楽研究	土師 範子	247
教育実習研究A 1クラス	齊藤 佳子/岡崎 三鈴	249
教育実習研究A 2クラス	齊藤 佳子/岡崎 三鈴	251
教育実習研究B	清田 知茂/森寺 勝之/太田 憲孝/山田 恵子	253
保育・教職実践演習(幼・小)	清田 知茂/岸 誠一/土師 範子/齊藤 佳子/伊藤 智里/森寺 勝之/岡崎 三鈴/太田 憲孝	255
教育実習A	齊藤 佳子/岡崎 三鈴	257
教育実習B	清田 知茂/森寺 勝之/太田 憲孝/山田 恵子	259
社会福祉	中 典子	261
子ども家庭支援論	中 典子	263
子育て支援 1クラス	中 典子	265
子育て支援 2クラス	中 典子	267
子ども家庭福祉	中 典子	269
保育原理	伊藤 智里	271
社会的養護 I	中 典子	273
子どもの保健	藤原 敏恵	275
子どもの食と栄養 I 1クラス	高坂 由理/児玉 彩	277
子どもの食と栄養 I 2クラス	高坂 由理/児玉 彩	279
障害児保育 1クラス	佐藤 伸隆	281
障害児保育 2クラス	佐藤 伸隆	283
地域福祉論	佐藤 伸隆	285
保育計画 I 1クラス	岡崎 三鈴	287
保育計画 I 2クラス	岡崎 三鈴	289
学童保育論	中田 周作/伊藤 智里	291
学童保育方法論	住野 好久	293
社会的養護 II 1クラス	青木 幹生	295
社会的養護 II 2クラス	青木 幹生	297
子どもの健康と安全 1クラス	梶谷 信之	299
子どもの健康と安全 2クラス	梶谷 信之	301
子どもの食と栄養 II 1クラス(隔週)	下田 裕恵	303
子どもの食と栄養 II 2クラス(隔週)	下田 裕恵	305
保育計画 I 1クラス	岡崎 三鈴	307
保育計画 II 2クラス	岡崎 三鈴	309
保育実習研究 I 1クラス	土師 範子/廣畑 まゆ美	311
保育実習研究 I 2クラス	土師 範子/廣畑 まゆ美	313
施設実習研究 1クラス	中 典子/牛島 光太郎	315
施設実習研究 2クラス	中 典子/牛島 光太郎	317
保育実習研究 II	中田 周作	319
学童保育実習研究	中田 周作/伊藤 智里	321
保育所実習 I	土師 範子/廣畑 まゆ美	323
保育所実習 II	土師 範子/廣畑 まゆ美	325
施設実習	中 典子/牛島 光太郎	327
保育実習 III	中田 周作	329
学童保育実習 I	中田 周作/伊藤 智里	331
学童保育実習 II	中田 周作	333

科目名	日本語表現			授業番号	CA201	サブタイトル	(音声言語と文章表現)		
教員	太田 憲孝								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	この授業では、「文章表現」を中心に絵本や物語、説明的文章等の言語表現の面白さや特徴を分析し、毎日の生活で使用している日本語表現に対する理解を深めるとともに、日本語表現への関心を高める授業を行う。								
到達目標	絵本や物語、説明的文章等の表現方法も分析し、その特徴を理解することを通して、日本語表現についての基礎的な知識を身に付けるとともに、日本語表現に対する関心を高めることを目標とする。 なお、本科目はデプロイポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
回	概要						担当		
第1回	身の周りにおける様々な日本語表現 「身の周りにおける日本語表現を探したり分類したりすることを通して、日本語表現に対して関心をもつ」								
第2回	乳幼児の日本語獲得(1) 「第1歳頃までに行われる「クレーンゲーム」や「視線」指さしなどの非言語コミュニケーションについてその意味を理解する。」								
第3回	乳幼児の日本語獲得(2) 「意味を伴う音声による表現の獲得に向けて、その過程や特徴等について理解する。」								
第4回	読者を引きつける絵本のひみつ(1) 「絵本を取り上げ、乳幼児を引き付ける「丸い正面顔」「主人公の位置」等の仕掛けを理解する。」								
第5回	読者を引きつける絵本のひみつ(2) 「読み聞かせの場面を取り上げ、「絵本モニター」の仕組みや「母親の語り掛け」の働きについて理解する。」								
第6回	読者を引きつける物語の仕掛け 「教科書に取り上げられている物語を分析し、「物語の構造」や「虚構」等の読者を引き付ける物語の特徴を理解する。」								
第7回	読者を引きつける物語の表現 「前時に使用した物語を細部の表現について分析し、読者に想像を促す文学的表現のおもしろさを理解する。」								
第8回	主題に迫る物語表現の仕掛け 「前時に使用した物語の終末部を分析し、作者の想を表現した仕掛けのおもしろさを理解する。」								
第9回	身の周りにおける説明的表現(広告)の工夫 「身の周りにおける広告の表現を分析し、読み手に対する「写真」「色」「キャッチコピー」「レイアウト」等の作り手の工夫を理解する。」								
第10回	身の周りにおける説明的表現(取扱い説明書)の工夫 「身の周りにおける「取扱い説明書」の表現を分析し、読み手に対する「イラスト」「レイアウト」等の作り手の工夫を理解する。」								
第11回	読者を説得する説明的文章の仕掛け 「教科書に取り上げられている説明的文章について分析し、読者を説得しよとする「段落」「結論」「事例」等の仕掛けの工夫を理解する。」								
第12回	読者を説得する説明的文章の表現 「前時に取り上げた説明的文章の事例の表現を分析し、読者にイメージをもたらす文学的表現の工夫を理解する。」								
第13回	言葉を楽しむ詩的表現 詩を読み味わい、「比喩表現」「象徴的表現」等の詩的表現のおもしろさを理解する。」								
第14回	読者の「予測」を利用した読み物(1) 怪談の表現や仕掛けを分析し、「予測→不安→緊張→出現」という怪談の仕掛けを理解する。」								
第15回	読者の「予測」を利用した読み物(2) ショートショート等の表現や仕掛けを分析し、「予測→クイズ→オチ」という予測を外すおもしろさを理解する。」								
授業計画 備考2	補講や天候等により授業内容が前後したり変更になる場合がある。								
評価の方法									
種別	割合	評価基準・その態備考							
授業への取り組みの姿勢/態度	20	意欲的な学習態度、話し合い活動への参加を評価する。							
レポート	30	授業ごとの学習内容の定着度を評価する。提出されたレポートにはコメントを記載して返却し、学習の深まりを確認できるようにする。							
小テスト									
定期試験	50	最終的な学習内容の定着度を評価する。							
その他									

評価の方法：自由記載	授業ごとにまとめ提出するレポートは、配布した資料を写すのではなく、自分で考えたことや深まったことを記述するように努める。
受講の心得	配布資料及びレポートをファイルしておくこと。 学生相互による話し合い活動では、積極的に参加し互いに考えを深めること。
授業外学習	1. 事前に配布した資料は目を通し、授業に臨むこと。 2. 授業を通して理解した日本語表現の特徴や面白さをもとに、身の周りの日本語表現に関心を広げること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト：自由記載	毎回プリント資料を配付する。			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の業務経験の有無	有			
担当教員の業務経験	小学校教諭、中学校教諭、教育委員会主任指導主事、岐阜大学教育学部附属中学校文部教育			
担当教員以外で指導に関わる業務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる業務経験者				
業務経験をいかした教育内容	絵本、物語や説明的文章等の表現分析			

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. 文章のジャンルに合わせて、日本語表現の特徴を捉え、そのおもしろさを理解している。	・様々なジャンルの文章を比較しながら、日本語表現の特徴を捉え、そのおもしろさを理解している。	・取り上げた文種について、多様な視点から日本語表現の特徴を捉え、そのおもしろさを理解している。	・取り上げた文種について、日本語表現の特徴を捉え、そのおもしろさを理解している。	・取り上げた文種について、日本語表現の特徴を見つめることはできるが、そのおもしろさを感じるには至らない。	・取り上げた文種について、日本語表現の特徴を見つめることが難しい。
知識・理解	2. 様々なジャンルにおける日本語表現の特徴を捉え、日本語表現についての基礎的な知識を身に付けている。	・様々なジャンルにおける日本語表現の特徴を捉え、日本語表現についての基礎的な知識を十分に身に付けている。	・取り上げた文種について、日本語表現の特徴を捉え、日本語表現についての基礎的な知識を十分に身に付けている。	・取り上げた文種について、日本語表現の特徴を捉え、日本語表現についての基礎的な知識を身に付けている。	・取り上げた文種について、日本語表現の特徴を捉え、日本語表現についての基礎的な知識の定着がやや不十分である。	・取り上げた文種について、日本語表現の特徴を捉え、日本語表現についての基礎的な知識の定着が不十分である。
思考・問題解決能力	1. 日本語表現のおもしろさを、様々なジャンルにおける特徴的な表現や仕掛けの工夫の中に追究している	・日本語表現のおもしろさを、様々なジャンルにおける特徴的な表現や仕掛けの工夫の中に興味をもって追究している。	・日本語表現のおもしろさを、取り上げた文種における様々な特徴的な表現や仕掛けの工夫の中に追究している。	・日本語表現のおもしろさを、取り上げた文種における、特徴的な表現や仕掛けの工夫の中に追究している。	・日本語表現のおもしろさを、取り上げた文種における、特徴的な表現や仕掛けの工夫の中に追究することがやや不十分である。	・日本語表現のおもしろさを、取り上げた文種における、特徴的な表現や仕掛けの工夫の中に追究することが難しい。
技能	1. 文章のジャンルに合わせて、日本語表現のおもしろさに関係する工夫された表現や仕掛けを見つけている。	・様々なジャンルにおける文章の特徴を踏まえて、日本語表現のおもしろさに関係する工夫された表現や仕掛けを見つけている。	・取り上げた文種の特徴を踏まえて、日本語表現のおもしろさに関係する様々な工夫された表現や仕掛けを見つけている。	・取り上げた文種の特徴を踏まえて、日本語表現のおもしろさに関係する工夫された表現や仕掛けを見つけている。	・日本語表現のおもしろさに関係する工夫された表現や仕掛けを見つめることがやや不十分である。	・日本語表現のおもしろさに関係する工夫された表現や仕掛けを見つめることが不十分である。

科目名	芸術		授業番号	CA202	サブタイトル	(アートとデザイン)				
教員	牛島 光太郎									
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択	
授業概要	<p>本授業では、アート及びデザインとは何かについて考える。そのために、これまで世界各地で制作されたアートやデザインについて触れ、それらが制作された歴史的、文化的な背景や手法等について学ぶ。また、近隣の美術館に行き、作品鑑賞を通して、美術作品に対する自分なりに考えを深め、多様な価値観や考え方に触れ、創造的な感性を広げる。</p>									
到達目標	<p>1. 幅広い分野の作品に触れ、自分なりの考えを述べる事ができる。 2. アートやデザインについて基礎的な用語を理解し、それを用いて作品を説明することができる。 3. 自身の好きなアート作品やデザインを取り上げ、図書館やインターネット等を利用して調査し、自分なりの解釈をまとめ、他者に説明することができる。 4. 県内外にある美術館に触れ、自分なりの視点で作品を批評することができる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士方の内容のうち、〈知識・理解〉の修得に貢献する。</p>									
授業計画 備考	令和6年度改訂									
回	概要					担当				
第1回	芸術の定義とその役割について アート作品の社会的影響について									
第2回	西洋を中心とした芸術の歴史的な発展 時代背景と文化的な脈絡									
第3回	様々な芸術について 絵画、彫刻、写真、建築、写真などについて									
第4回	身近なアート作品について1 パブリックアートとは									
第5回	身近なアート作品について2 絵画の歴史と技法について									
第6回	身近なアート作品について1 彫刻の歴史と技法について									
第7回	身近なアート作品について1 現代美術について									
第8回	身近なアート作品について2 インスタレーションやグラフィティ									
第9回	デザインとは デザインの歴史と展開									
第10回	アート作品に触れる1 美術館に出かける									
第11回	アート作品に触れる2 美術館に出かける									
第12回	作家・作品研究1 好きな作家やアート作品、デザインなどを取り上げ調べる									
第13回	作家・作品研究2 自身の選択した作家やアート作品、デザインなどについて分析し自分なりの解釈をまとめる									
第14回	プレゼンテーション1 自身の選択した作家やアート作品、デザインなどについて発表 発表内容についてのディスカッション									
第15回	プレゼンテーション2 自身の選択した作家やアート作品、デザインなどについて発表 発表内容についてのディスカッション									
授業計画 備考2										
評価の方法										
	種別	割合	評価基準・その他備考							
	授業への取り組みの姿勢/態度	20	意欲的な授業態度、予・復習の状況によって評価する。							
	レポート	60	各回の主要なポイントの理解を提出された課題やレポート等によって評価する。課題提出後の授業で全体的な傾向についてコメントする。							
	その他	20	ディスカッション等への積極的な参加、発表、提出物（コメントペーパー）により評価する。							

評価の方法：自由記載	
受講の心得	教員の引率の元、美術館で鑑賞活動を行う。その際の交通費や入館料（企画展のみ）は自費となる。
授業外字修	1 予習として、授業内容にかかわる文献等を読み、疑問点を明らかにする。 2 復習として、課題のレポートを書く。 3 発展字修として、授業で紹介された参考文献等を読む。 以上の内容を、適当に4時間以上字修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト：自由記載	適宜、提示する。			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	適宜、提示する。			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の業務経験の有無				
担当教員の業務経験				
担当教員以外で指導に関わる業務経験者の有無				
担当教員以外で指導に関わる業務経験者				
業務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. アートやデザインについて、それらがつけられた時代背景や文化的な文脈を理解している	アートやデザインについて十分な知識を身につけ、それらがつけられた時代背景や文化的な文脈を十分に理解し説明することができる	アートやデザインについて十分な知識を身につけ、それらがつけられた時代背景や文化的な文脈を理解している	アートやデザインについて一般的な知識を身につけ、それらがつけられた時代背景や文化的な文脈を理解している	アートやデザインについて一般的な知識を身につけているが、それらがつけられた時代背景や文化的な文脈の理解が十分ではない	アートやデザインについて一般的な知識や理解が十分ではない
知識・理解	2. アートやデザインに関する基礎的な用語を理解している	アートやデザインに関する基礎的な用語を十分に理解し、説明することができる	アートやデザインに関する基礎的な用語を理解し、説明することができる	アートやデザインに関する基礎的な用語を理解している	アートやデザインに関する基礎的な用語の理解が十分ではない	アートやデザインに関する基礎的な用語を理解していない
知識・理解	3. アートやデザインについて、自分なりの視点で作品を批評することができる	アーティストやデザイナーの作品を取り上げ、それらがつけられた歴史的、文化的な背景を調べてパワーポイントで十分にまとめ、発表とディスカッションを通して自分なりの視点で批評することができる	アーティストやデザイナーの作品を取り上げ、それらがつけられた歴史的、文化的な背景を調べてパワーポイントで適切にまとめ、発表を通して自分なりの視点で批評することができる	アーティストやデザイナーの作品を取り上げ、それらがつけられた歴史的、文化的な背景を調べてパワーポイントでまとめ、発表することができる	アーティストやデザイナーの作品を取り上げ、それらがつけられた歴史的、文化的な背景を調べてパワーポイントでまとめられているが、批評することが不十分である	アーティストやデザイナーの作品を取り上げ、それらがつけられた歴史的、文化的な背景について調べられておらず、発表を通して批評することができない

科目名	心理学	授業番号	CA203	サブタイトル	(心と行動の科学)
教員	園田 祥子				
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期
				授業形態	講義
					必修・選択
					選択
授業概要	この授業では、心理学全般の基本的な知識、心理学理論による人間理解とその技法の基礎について解説する。				
到達目標	クリティカルシンキングやクリエイティブシンキングなどの心理学的思考法を身につけることを目的とする。 なお、本科目はデプロードポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。				
授業計画 備考					
回	概要				担当
第1回	心理学とは 「不思議」とされる現象を題材に、人の心のしくみについて長年研究を積み重ねてきた心理学の概要を紹介する。				
第2回	予知体験の不思議 「予知」「予言」と呼ばれる現象はなぜ起こるのか、推論のプロセスから解説する。				
第3回	記憶の不思議 「存在しない記憶」を確信を持って思い出してしまうのはなぜ？ 不思議な記憶のメカニズムについて解説する。				
第4回	影響されること 意見や態度は変容するものである。しかし「影響されやすい状況やその特徴を知っておくことは重要かもしれない。				
第5回	揺れ動くこと 感情が私たちの生活の中でどのような働きをするのか、憲徳商法や、心身に良いとされるものを例に考える。				
第6回	検査で「自分」がわかるのか ネットや雑誌などで目にする「心理テスト」はあてになる？ 本物の心理検査「パーソナリティ測定」は。				
第7回	古い新宗教がもつ現代的意味 古いほどのスピリチュアルな世界に魅力を感じる人は多い。その心理を、背景にある悩みや迷いから紐解いていく。				
第8回	中間のまとめ 第1回～第7回の内容を振り返り、理解を確認する。				
第9回	子どもから見た現実と想像の世界 さっまで鬼を怖がって逃げた子だが、今度は鬼の面を付けて「鬼さん」に变身！ 子どもたちが世界をどう捉えているのか考える。				
第10回	「もしかして……」と揺れ動く心の発達 「本当はいいけど分かっていてもいるかも」と思ふオバケへの恐怖。想像と現実を行き来する子どもの心を考える。				
第11回	不思議現象に立ち向かう子どもたち 子どもたちは想像の世界に積極的に立ち向かうことで、現実を探索するよう。「科学する心」の始まりを解説する。				
第12回	脳と心との不思議な世界 「念轉り」や「幻覚」はなぜ起こるのか。脳神経系の生理的変化から説明できる心の活動について解説する。				
第13回	科学的に検証するとはどういうことか 目に見えない「心」の存在やその活動を科学的に捉えるには、厳密な実験計画と統計的検定が重要。				
第14回	心理学を学ぶ人のために 分かりやすくもないうまくもない、意外と地味な心理学だからこそ学べる「面白さ」。				
第15回	期末のまとめ 第9回～第14回の内容を振り返り、理解を確認する。				
授業計画 備考2					
評価の方法					
	種別	割合	評価基準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度				
	レポート				
	小テスト				
	定期試験	100	理解度を評価する。		
	その他				

評価の方法：自由記載	
受講の心得	積極的な受講態度を期待します。
授業外学修	毎回の授業の内容を4時間以上復習しておくこと。復習の結果を第8回および第15回で確認し、不十分な点について再度4時間以上の復習を行うこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト：自由記載	なし			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
不思議現象 なぜ信じるのか こころの科学入門	菊地 聡・谷口高士・宮元博康 (編著)	北大路書房	978-4-7628-2032-8	1900円
不思議現象 子どもの心と教育	菊地 聡・木下孝司 (編著)	北大路書房	978-4-7628-2089-2	1900円

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 講義内容を多面的かつ十分に理解し、自らの知識として獲得できる	呈示された知識を十分に獲得している	呈示された知識をほぼ獲得し、多少の不十分があっても獲得する努力をしている	知識の獲得は十分とは思われないものの、努力は明らかである	授業内容を十分に理解できているとは思われず、知識獲得への努力も不十分である	講義そのものを理解できておらず、知識を獲得できていない

科目名	倫理学		授業番号	CA204	サブタイトル	(人間形成の倫理と論理)			
教員	小谷 彰吾								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	激変する時代の中で、偶然に起こる事象に対処しながら「よよく生きてゆく」ことが求められている。そこで、先哲の思想、中でも儒教の視点の一つの柱として、現代社会における倫理を考察したりする中で自らの生き方を見つめる観点から倫理学をとりえていく。								
到達目標	東洋、西洋、それぞれの時代の中で、人間は「よよく生きる」ことを究明しようとして続けてきた歴史と思想があったことを知るとともに、我が国には、神道、仏教、儒教が融合する独特の精神文化があり、それら一つ一つの参考になら現代社会において「よよい行動」を実現しようとする態度を形成する。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <態度>の修得に貢献する。								
授業計画 備考	『倫理学』の概念を知り、『善悪』の判断とその背景、その価値基準となる考え方について先哲の言葉を参考に考えていく。								
回	概要					担当			
第1回	倫理の基礎(1) ガイダンス 『倫理学』を概観するとともに、授業の展開、授業上の注意事項についてのガイダンス								
第2回	倫理の基礎(2) 倫理観と社会的背景 現代社会の現状、社会的病理など踏まえ、倫理観の低下の原因となる共同体意識の低下などの根拠に触れる								
第3回	倫理の基礎(3) 倫理観の形成と体験の欠如 現代社会が便利になればなるほど、「よよく生きる」という概念が軽視され、自己中心的発想によって他者に対する思いやりが欠如して行く。幼少期の大自然との関わり、他者との関わりが欠如がますます客観的に自己を見つめることを理解する。								
第4回	倫理の思想(1) 倫理と道徳 『倫理』と『道徳』のルーツから、その違いや同じ「善行」という考え方に行きつくことを理解するとともに、「知行合一」頭での理解と実践を重ねていくことに課題がある事理解する。								
第5回	倫理と思想(2) 知識基盤社会と倫理 文明が進化しても、人間の倫理観が追いついていない現実を昨今の社会的現象や事件などから考える								
第6回	倫理学の基礎(1) 倫理と思考実験 著名なトロッコ実験を例に、「安楽死」をどうとらえるかにつなげていく。								
第7回	倫理学の基礎(2) 義務論と功利主義 「タラソフの事例」を基にカントの考え方を理解したり、自問について考える。								
第8回	現代社会の倫理(1) 死刑制度 日本は死刑の有る少数の国の一つであることを資料から理解すると共に、死刑が必要かどうか議論しながら考えを深める								
第9回	現代社会の倫理(2) 老いと安楽死 これまでの「死生観」をさらに深めるとともに「老いる」とことについて考察を深める								
第10回	現代社会の倫理(3) いじめと自殺 日本のいじめの現状を理解すると共に、その特徴を知り、特に子供を取り巻く大人の一人として必要なことを考える								
第11回	現代社会の倫理(4) 徳の教育と学校 日本の千五の道徳教育の変遷といじめ打開のための道徳の教科化について知る								
第12回	現代社会の倫理(5) 伝統文化と食の倫理 輸入に頼る日本の食の危機と子どもを取り巻くファストフードについて考える								
第13回	日本倫理の思想(1) 江戸時代の徳の教育 「江戸しぐさ」を理解し、品位品格を求めた当時の教育、また、家庭、寺子屋、地域ともに同じベクトルで子どもに合わせた教育を考える								
第14回	日本倫理の思想(2) 『論語』 著名なものの中から、現代の『倫理観』を向上させるにふさわしい章句を取り上げその意味を知る								
第15回	『倫理学』のまとめ 総括レポート これまでの学習から、自分が今何を為すべきか、また、一人の大人として我が国の倫理観の低下に歯止めをかける案を考える								
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その態備考						
	授業への取り組みの姿勢/態度	50	ディスカッション等授業における意欲・態度、各授業のコメントペーパー						
	レポート								
	小テスト								
	定期試験								
	その他	50	15回目の論文で評価する。						

評価の方法：自由記載	
受講の心得	
授業外学習	

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト：自由記載	テキストは使用しない。(必要に応じて講義内で随時紹介する)			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	講義内で随時、紹介する。			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の業務経験の有無	有			
担当教員の業務経験	公立小学校教諭15年、私立高等学校教諭18年			
担当教員以外で指導に関わる業務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる業務経験者				
業務経験をいかした教育内容	現在、学校教育現場では、アクティブラーニングの研究が進められており、「受動的な学習」からの脱却を図っている。しかし、特に小学校においては、遅が前から実践されていた学びであり、特に「道徳」は教科化されて以降、「議論する道徳」「思考する道徳」、すなわち自らの意見を持って、仲間と意見をぶつけ合い、新しい価値を見出していく学習が展開されている。「倫理学習」で同様の学習を展開すれば、「主体的な学び」が展開できるものと考えている。グループワーク、ディスカッションなど積極的に取り入れて活気ある学習の雰囲気を作成したい。			

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	学問としての倫理学を概観するとともに、現代日本社会の倫理観の現状、原因等について理解する	学問としての倫理学を概観するとともに、現代日本社会の倫理観の現状、原因等について十分理解できている	学問としての倫理学を概観し、現代日本社会の倫理観の現状、原因等についての理解は優れている	学問としての倫理学を概観し、現代日本社会の倫理観の現状、原因等についての理解は十分なレベルである	学問としての倫理学を概観し、現代日本社会の倫理観の現状、原因等についての理解が今一つである	学問としての倫理学を概観すること、現代日本社会の倫理観の現状、原因等についての理解が非常に劣っている。
態度	学習して気づいたよりよい生き方考え方を自らが主体的に実践しようとする。	学習して気づいたよりよい生き方考え方を自らが主体的に実践しようとする点において非常に優れている。	学習して気づいたよりよい生き方考え方を自らが主体的に実践しようとする点において優れている。	学習して気づいたよりよい生き方考え方を自らが主体的に実践しようとする点において十分なレベルである。	学習して気づいたよりよい生き方考え方を自らが主体的に実践しようとする点においてやや劣っている。	学習して気づいたよりよい生き方考え方を自らが主体的に実践しようとする点において非常に劣っている。

科目名	歴史学		授業番号	CA205	サブタイトル	(歴史家は過去の何に注目し、どう考えてきたか)			
教員	大山 章								
単位数	2単位	開講年次	がキリウムにより異なります。	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	「歴史」と聞くと、書かれたものを読み、記憶する、どちらかと言えば受け身のイメージが強いが、「歴史学」は、過去の出来事を史料を用いて分析・解釈し、それをもとに歴史像・時代像を描き、叙述する主体的な営みである。この授業では、近年話題になっているものを中心に、歴史家が過去の出来事や時代をどのようにとらえ、解釈してきたかを取り上げる。授業は、特定の時期・時代を取り上げる回も多いが、一つのテーマ・視点で長い歴史をおつかつ回も同程度計画している。また、歴史研究に関わる内容をおつかつ授業も設けている。								
到達目標	1 歴史学の意義と歴史研究の基本を理解することができる。 2 近年の歴史研究の成果について理解することができる。 3 授業内容をもとに、現代社会の問題とも関連づながら、歴史について積極的に考察したり、発表したりすることができる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
回	概要					担当			
第1回	歴史と歴史学 歴史学がどのような学問であるかを理解する。 一般の人々が「歴史」を学ぶ意味、「歴史」に関わる意味を考える。								
第2回	農耕・牧畜の始まり 世界における農耕・牧畜の始まりを、西アジアでの始まりを中心に理解する。 世界における稲の栽培の始まりと日本列島への伝播について理解する。								
第3回	気候変動・災害と歴史 歴史学が気候変動や自然災害をどのようにあつかってきたかを理解する。								
第4回	モンゴル帝国 モンゴル帝国の成立とその支配の特色を理解する。 モンゴル帝国の成立が後の歴史に与えた影響を理解する。								
第5回	東アジア海域の歴史 倭寇の活動や琉球の活発な交易が目立った14～16世紀頃の東アジア海域の歴史を理解する。								
第6回	歴史研究における地図の利用 国土地理院の旧版地図や古地図・縮図の歴史研究での利用について理解する。								
第7回	世界の一体化 「コロンブスの交換」の内容とそれがもたらした結果・影響を理解する。 16～17世紀に進んだ世界の一体化の動きへの日本の関わりを理解する。								
第8回	イギリスの工業化とフランス革命 イギリスの工業化（産業革命）とフランス革命のおおきな研究史を理解する。								
第9回	ジェンダーと歴史 ジェンダー史の研究の始まりと現状を理解する。 ジェンダー史の事例を学ぶ。								
第10回	歴史の中で「人種主義」はどのように生まれたか 「人種」概念の誕生や「人種」による人間の分類の始まりについて理解する。 「人種主義」と「黒人奴隷制」の関係を理解する。								
第11回	東アジアのウエスト・インパクト 欧米列強の東アジアへの進出とそれに対する清と日本の対応を理解する。								
第12回	アメリカ合衆国とメキシコ 3000km以上に及ぶ国境で接するアメリカ合衆国とメキシコの関係史を、国境の変化を中心に理解する。 20世紀を中心に、メキシコ・アメリカ合衆国間の人の移動の変化を理解する。								
第13回	パレスチナの悲劇とウクライナの歴史 各自の歴史をももどきの悲劇がおきているパレスチナ地域の長く複雑な歴史を理解する。 ウクライナなど中東欧の歴史が、パレスチナの課題と深く関わっていることを理解する。								
第14回	感染症と歴史 感染症の流行が歴史に与えた影響を理解する。 コレラの流行に対する19世紀の日本の対応を理解する。 スペイン・インフルエンザを例に、新聞が歴史研究に役立つことを理解する。								
第15回	自分なりの歴史像を描いてみよう 授業で学んだことをもとに、歴史についての自分の考えを発表したり、話し合ったりする。								
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢/態度	10	授業での発表・発言の状況やその内容、予習復習の状況によって評価する。						
	レポート								
	小テスト	15	前回の授業の基本的な事項の理解度について評価する。						
	定期試験	60	授業で取り上げた内容の理解度、歴史的現象についての自分の考えを根拠をあげて論理的に表現する力について評価する。						
	その他	15	毎授業後に提出するコメントペーパーの内容によって評価する。 提出されたコメントペーパーは、記入内容についてのコメントを加えて返却する。						

評価の方法：自由記載	定期試験は、論述を中心とした筆記試験とする。(持ち込み可)
受講の心得	「歴史学」は、定まった知識を覚え、蓄積するものではなく、自らが生きる時代が直面する課題などをふまえて、過去を様々な切り口から追求する学問です。一定の歴史的知識は必要ですが、より大切なのは、人の行動や社会で起きていることに対する関心や疑問です。また、授業では、可能な範囲で史料をもとに考察したり、発表したりする活動を設定します。積極的な参加を期待します。
授業外学習	予習として、高校の世界史・日本史、中学校の歴史的分野の教科書などの関係部分を読んでおく。授業後は、授業で取り上げられた時代、テーマについての歴史像、時代像などを、自分なりに文章にまとめておくようにする。以上の内容を週当たり4時間以上学習すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト：自由記載	レジュメ、資料を配付する。			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	授業で随時紹介する。			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の業務経験の有無	有			
担当教員の業務経験	中学校教諭（25年）			
担当教員以外で指導に関わる業務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる業務経験者				
業務経験をいかした教育内容	学校現場での歴史教育の経験（25年）を生かして、歴史に関する今日的な内容、テーマをわかりやすく指導する。			

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学土力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. 歴史学の意義と歴史研究の基本を理解している。	「言語論的転回」がつかける問題や史実を無視した解釈の横行など、現代の歴史学がもたらしている課題についても理解している。	歴史家が歴史学の意義をどのように考えているかを理解している。近年の歴史研究が、従来からの考古学だけでなく、古気候学など自然科学の成果なども積極的に活用していることを理解している。	歴史家がおこなう歴史学の基本的な営みを理解している。「歴史実践」とも言われる歴史家以外の人々の歴史への関わりについても理解している。	歴史学の基本的な営みである「認識」と「解釈」についてはおおむね理解できているが、地図や新聞などを含むさまざまな史料を利活用する際の留意点については理解が不十分である。	歴史書と歴史小説の一般的な違いも理解できていない。
知識・理解	2. 授業で取り上げられた近年の歴史研究の成果を理解している。	同じ時代・地域、近接する時代・地域、共通の視点などつながりがある複数の授業の内容を関連づけて理解している。	各授業で取り上げられた歴史研究の進展のようすや重要な役割を果たした歴史家などについても理解している。	各授業のまとめて取り上げられた内容のほとんどを理解している。	各授業のまとめて取り上げられた内容のうち、基本的な内容についても理解できていないものが一部ある。	各授業のまとめて取り上げられた内容のうち、基本的な内容についても理解できていないものが多い。
思考・問題解決能力	1. 授業で取り上げられた歴史事象についての自分の考察を、文章にまとめたり、発表したりしている。	歴史事象についての自分の考察を発表する授業では、現代社会の課題と関連づけて、自学した内容などを盛り込んだりして、発表している。	多くの授業で、現代社会の課題とも関連づけるながら、授業で取り上げられた歴史事象についての自分の考察を、文章にまとめている。	授業で取り上げられた歴史事象についての自分の考察を、その根拠をふくめて文章にまとめている。一部の授業については発表もしている。	一部の授業で、授業で取り上げられた歴史事象についての自分の考察を、文章にまとめることも、発表することもできていない。	多くの授業で、授業で取り上げられた歴史事象についての自分の考察を、文章にまとめることも、発表することもできていない。

科目名	社会学		授業番号	CA206	サブタイトル	(配偶者の選択と家族編成の社会的規則)				
教員	中田 陽作									
単位数	2単位	開講年次	が1キリムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択	
授業概要	<p>本講義では、社会学の方法によって家族を理解するための枠組みを学習する。 現代社会における家族の姿は、多元化する価値意識のもとで、その形態や機能が多様化している。 そのため、本講義では家族の中核をなす夫婦関係に焦点をあて、家族編成に関する社会的規則について講義する。</p>									
到達目標	<p>現代社会の家族集団を、より深く理解するためには社会学的な枠組みを活用すると有効である。 これにより、地域社会の中にも存する様々な家族を理解し、実践活動に実際に資することができる知識や分析の視角を身につけることを目標とする。 なお、本科目は、ディプロマポリシーに掲げた「学士力のうち<知識・理解><思考・問題解決能力>の修得に貢献する。</p>									
授業計画 備考										
回	概要					担当				
第1回	配偶者選択をめぐる社会状況の変化 現代社会の現状									
第2回	家族社会学における「家族」の定義 家族集団の特徴と世帯									
第3回	家族を対象とした社会学的アプローチの方法 家族をいかにとらえるか 漫画・映画などに描かれた家族のかたち									
第4回	家族の類型と分類 夫婦家族制・直系家族制・複合家族制の理解									
第5回	青年期の異性交際に関する社会学的意味の考察 日本における青年期の異性交際の現状と国際比較									
第6回	青年期の異性交際の実際 出生力調査にみる実際									
第7回	家族編成の社会的ルールとは何か 配偶者の選択はいつに行われるか									
第8回	配偶者選択の社会的メカニズム 配偶者の選択と結婚									
第9回	配偶者選択のプロセス 出生力調査における独身者調査と夫婦調査の比較									
第10回	結婚の社会的意味 結婚はどのような意味をもつのか									
第11回	結婚の社会的機能 結婚するとどうよくなるのか									
第12回	離婚の社会的意味と機能 離婚に関する意味付け 離婚の現状に関するデータ									
第13回	家族の新しい形 変化する家族像 多元化する価値観									
第14回	子どもの養育 家族集団における子どもの社会化									
第15回	老親の介護 高齢化社会の中の家族集団									
授業計画 備考2										
評価の方法										
	種別	割合	評価基準・その他備考							
	最終試験レポート	70	各自で最終レポートを作成し提出する。							
	コメントペーパー	30	基本的には、毎回、提出する。 理解の状況の確認を行う。 提出物については、次回の授業の冒頭で共有し、コメントする。							

評価の方法：自由記載	
受講の心得	自らの配偶者選択や、家族集団に興味・関心があることが望ましい。 しかしながら、あまりにも身近で現実的な問題であるため、ある程度、客観視できる受講態度が望ましい。
授業外学修	1. 配付資料を事前に読んでおくこと。 文章を読むだけでなく、掲載されている図表の意味するところを考える。 具体的なアプロ－チの方法は、授業時間内に指示する。 2. 最終レポートの課題を探しながら受講すること。 テーマに関するニュースや、身近な出来事に関心をもつこと。 両方の課題を合わせて、週当たり4時間以上、取り組むこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	講義の進行にあわせて適宜紹介する。			
その他	特になし。			
備考				
注意事項				
担当教員の業務経験の有無	無			
担当教員の業務経験				
担当教員以外で指導に関わる業務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる業務経験者				
業務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー/学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 家族社会学における基礎的な概念を理解できている。	家族社会学における基礎的な概念について、その社会背景を踏まえて理解しており、自分の言葉で説明することができる。	家族社会学における基礎的な概念について、その社会背景を踏まえて理解している。	家族社会学における基礎的な概念について、その関係を理解している。	家族社会学における基礎的な概念について、キーワードを覚えている。	家族社会学における基礎的な概念について、キーワードを覚えていない。
知識・理解	2. 結婚の社会的機能と配偶者選択の規則について理解できている。	教育の歴史に係る重要事項について、その展開と社会的背景について理解している。	教育の歴史に係る重要事項の展開について理解している。	教育の歴史に係る重要事項について理解している。	教育の歴史に係るキーワードを覚えている。	教育の歴史に係るキーワードを覚えていない。
知識・理解	3. 青年期の異性交際に関するデータを読み解くことができる。	関連するデータを踏まえて、青年期の異性交際に関するデータを読み解くことができる。	社会背景を踏まえて、青年期の異性交際に関するデータを読み解くことができる。	青年期の異性交際に関するデータを読み解くことができる。	青年期の異性交際に関するデータを、ほとんど読み解くことができない。	青年期の異性交際に関するデータを読み解くことができない。
思考・問題解決能力	1. データに基づき、家族に関する現状を考察することができる。	家族に関する現状を、複数のデータと社会背景を踏まえて考察を深め、説明することができる。	家族に関する現状を、複数のデータに基づき考察し、説明することができる。	家族に関する現状を、データに基づき理解し、考察することができる。	家族に関する現状を、データに基づき理解することができる。	家族に関する現状を、データに基づき理解することができない。

科目名	日本国憲法		授業番号	CA207	サブタイトル	(身近な問題から憲法の役割を考える)			
教員	佐野 英二								
単位数	2単位	開講年次	が1年次から2年次まで	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	<p>本科目では、日本国憲法及び他国の憲法の沿革、様々な人々の人権について講義する。また、憲法原理とともに体系的な思考方法を概説し、それらを活用して身近な現代的問題を分析・考察する。具体的には、身近な憲法問題を取り上げて関係する憲法の基本原則及び基礎知識を教員の教育委員会及び実行における人権啓発・相談経験を踏まえて概説する。Universal Passportにより事前に小テストの課題を課し、その基本原則の理解及び基礎知識の定着を確認する。次に、基本原則等に関する憲法問題を発展学習として、学生が任意に選んだ課題解決に向けてグループで取り組む。そのグループで調査した内容をUniversal Passportで公開、講義でプレゼンして全体討議を行う。これらの活動により、問題の全体像の把握と、多面的な分析及び多様な価値観や背景の認識を踏まえた上で、自らの見解の形成や表現の仕方を身に付ける。</p>								
到達目標	<p>憲法の基本原則・原則及び基礎知識を理解し、それらを活用して身近な憲法問題を異なる価値観や考えに配慮しながら、主体かつ論理的に考えることができるようになることを目標とする。 なお、本科目は、到達目標達成の前提として異なる価値観、文化、背景および相互関係を知り、深い認識と理解など幅広い教養の修得とともに、子どもに関わる場面など様々な場面で主体的に憲法の視点から問題解決の方法を思考する力の修得を目的とする。ディプロマ・ポリシーに掲げた学士上の内容のうち「知識・理解」<思考・問題解決能力>の修得に貢献する。</p>								
授業計画 備考									
回	概要					担当			
第1回	ガイダンス、憲法とは何か 1 学修の目標、評価方法などを説明する。 2 法律家の思考の特徴や憲法とは何かについて学修する。								
第2回	国家機関としての天皇制 1 徳川時代、大日本帝國憲法下、日本国憲法下の天皇の地位について考える。 2 国民主権主義下における国家機関としての象徴天皇制について考える。								
第3回	憲法が目指す平和を守る仕組み――平和主義 1―― 非武装平和主義の採用の背景とその後について学修する。								
第4回	憲法が目指す平和を守る仕組み――平和主義 2―― 近年の安全保障をめぐる状況について学修する。								
第5回	国民主権を実現する仕組み 1 政治と国民、国会議員について学修する。								
第6回	国民主権を実現する仕組み 2 選挙、選挙制度、政党について学修する。								
第7回	人権を守るための組織――統治機構 1―― 国会、内閣について学修する。								
第8回	人権を守るための組織――統治機構 2―― 地方自治、裁判所について学修する。								
第9回	良心をもつ自由、寛く権利、中間試験 1 良心の意義について学修する。 2 教師の良心を寛く権利について考える。 3 中間試験を実施する。								
第10回	表現の自由と書かれない権利 1 表現の自由と各言論・プライバシーの権利について考える。 2 表現の自由の機能的地位について学修する。								
第11回	知る権利とマス・メディアの自由、グループワーク 1 1 知る権利とマス・メディアの自由について学修する。 2 マス・メディアと国民との利害対立の調整について考える。 3 グループワーク (課題選択)								
第12回	営業の自由と消費者の権利、グループワーク 2 1 職業選択の自由、営業の自由と消費者の権利について学ぶ。 2 職業を規制することの合理性の判断の仕方について考える。 3 グループワーク (課題分析)								
第13回	子どもの権利と学校における生徒の人権 1 学校における生徒、教師の人権について学ぶ。 2 グループワーク (情報収集、整理)								
第14回	働く人の権利、グループワーク 4 1 勤労の権利や労働基本権について学ぶ。 2 女性や非正規労働者の問題について考える。 3 グループワーク (全体討議 1)								
第15回	グループワーク 5 グループワーク (全体討議 2)								
授業計画 備考2									
評価の方法	種別	割合	評価基準・その他備考						
	グループワークの取り組み姿勢/態度	20	各回のグループワーク終了時に提出するワークシートに、要求されているステップに沿ったグループワークの結果が書かれていること。不十分な点については、コメントを付けて連絡する。						
	小テスト	20	各章の主要なポイントの理解を評価する。回答期限後、Universal Passportに解説を表示する。						
	中間テスト	20	憲法の基本原則及び基礎知識の理解及び課題に対する論理的思考を評価する。Universal Passportに解説を提示し、全体の講義を講義で行う。						
	定期試験	40	中間テストの基礎に加え、異なる価値観・意見に配慮した主体的な意見の論理的思考を総合評価する。解説をUniversal Passportに提示する。						

評価の方法：自由記載	
受講の心得	<ol style="list-style-type: none"> 1 事前に授業の範囲のテキストを読み、分からない用語を調べておく。 2 第11回以降、任意に選択した発展学習をグループで調査・報告する。各自積極的に取り組むこと。講義時間中にスマートフォン、タブレットなどで法律情報をリサーチしたり、Universal Passportにワークシートや報告書をアップするの十分充電して講義に臨むこと。 3 中間（第9回）に1回中間テストがある。
授業外学習	<ol style="list-style-type: none"> 1 事前学習：テキスト及び講義資料の予定範囲を読み、意味の分からない用語についてインターネットや辞書を使って調べておく。 2 事後学習：前回の講義において学修した基本原理や基礎知識を復習する。理解が不十分であったところをテキストや講義資料を読み返して理解を深め、Universal Passportで小テストを受験する。また、小テスト受験後、誤った理解が不十分であった箇所について復習する。 3 グループワークで選択した課題について、インターネット等で調査し、調査した情報や講義により修得した基本原理や情報を踏まえて、各自の情報や意見を整理する。さらに、グループ報告書のため、プレゼンテーションの準備に向け、共同作業のための事前準備を行う。事前学習及び事後学習を合わせて、1週間に4時間程度必要である。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
憲法のちから—身近な問題から憲法の役割を考える	中富公一	法律文化社	978-4-589-04140-1	2400円+税
使用テキスト：自由記載	第2版の改訂作業中です。第2版が出版された場合、そちらを採用します。			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
基本判例1 憲法（第4版）	右崎正博・浦田一郎編	法学書院	978-4-587-52413-5	2500円+税
参考書：自由記載	授業において随時紹介する。			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の業務経験の有無	有			
担当教員の業務経験	県教育委員会（24年）、県（人権・同和政策課）（4年）の実務経験を有する。			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	県教育委員会（24年）、県（人権・同和政策課）（4年）の実務経験から、いじめや学校内の人権問題など学生に身近な人権問題および統治の仕組みを学生の目線で憲法の基本原則から説明する。			

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 憲法に関する基本原則・基礎的事項を理解している。	学修した憲法に関する基本原則・基礎的事項について、正確に理解し述べることができる。	学修した憲法に関する基本原則・基礎的事項について、正確ではないがほぼ理解し述べることができる。	学修した憲法に関する基本原則・基礎的事項について、大体述べることができる。	学修した憲法に関する基本原則・基礎的事項について、正確に述べることができないが、自分の言葉では表現できる。	学修した憲法に関する基本原則・基礎的事項について、全く表現することができない。
知識・理解	2. 国際社会・地域社会の多様な価値観・意見を認識し、理解している。	学修した憲法問題に関する価値観・意見の対立について、正確に理解し述べることができる。	学修した憲法問題に関する価値観・意見の対立について、正確ではないがほぼ理解し述べることができる。	学修した憲法問題に関する価値観・意見の対立について、大体述べることができる。	学修した憲法問題に関する価値観・意見の対立について、正確に述べることができないが、自分の言葉では表現できる。	学修した憲法問題に関する価値観・意見の対立について、全く表現することができない。
思考・問題解決能力	1. 憲法や法令を使って論理的に問題を考えることができる。	課題に対し、論理的整合性をもち、多角的に考察をしている。	課題に対し、ほぼ論理的整合性をもった考察をしている。	課題に対し、自分の考えを述べることができる。	課題に対し、結論を述べることができる。	課題に対し、結論を述べることができない、または指示事項に沿っていない。

2024年度授業概要(シラバス)

科目名	数学概論		授業番号	CB201	サブタイトル				
教員	森寺 勝之								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	古代エジプトや古代ギリシアの時代から「数学」は常に人類の生活に変化を与えてきた。人々の認識を変化させ、歴史を動かしてきたともいえる。そういう意味で「数学」は人類が受け継いできた「叢書の結晶」である。日常生活の様々な事象だけでなく、自然の事象や芸術でさえ数学的な裏付けが存在している。こうした「数学」の価値と魅力を、歴史的に多角的に豊かに学び、「数学」そのものに親しみや楽しみを見出ししていく。								
到達目標	「数学」にかかわる基礎的・基本的な知識を理解するとともに、様々な事象について、「数学」を活用し、論理的に問題解決することの価値と魅力を実感できるようになる。 なお、本科目はデプロイポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈態度〉の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
回	概要				担当				
第1回	代数・解析・幾何								
第2回	ローマ数字からアラビア数字 0の発見								
第3回	古代エジプト縄張師 ピタゴラスの定理								
第4回	正多面体 半正多面体 星型多面体								
第5回	分数 小数								
第6回	アポロニオス定数 指数								
第7回	対数 計算尺								
第8回	フリスミ推計								
第9回	曲線								
第10回	統計								
第11回	円周率								
第12回	魔方陣								
第13回	ハリーの塔								
第14回	数字パズル								
第15回	何のために数学を学ぶのか								
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢/態度	20	意欲的な受講態度、発表・討議への取り組みの姿勢を評価する。						
	レポート・ノート整理	30	「授業からの学び」と「自分の気づき」を評価する。						
	小テスト・大テスト	50	前回の授業や15回の内容の理解度を評価する。						
	定期試験								

評価の方法：自由記載	
受講の心得	小テストを行うので、復習をして授業に臨むこと。
授業外学修	1 配付資料や小テスト等を整理し貼付して、本時の講義内容をノートにまとめ、復習する。 2 発展学習として、授業で興味をもった内容について調べ深める。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載

なし（資料配布）

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載

その他	
備考	

注意事項

--

担当教員の業務経験の有無

有

担当教員の業務経験

教員(教頭を含む)16年、岡山県教育委員会専門的教育職員16年、校長7年

担当教員以外で指導に関わる業務経験者の有無

無

担当教員以外で指導に関わる業務経験者

--

業務経験をいかした教育内容

教育委員会や業務現場での経験を生かして、数学概論について指導を行う。

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 「数学」にかかわる基礎的・基本的な知識について理解する。	「数学」にかかわる基礎的・基本的な知識について十分に理解できている。	「数学」にかかわる基礎的・基本的な知識について概ね理解できている。	「数学」にかかわる基礎的・基本的な知識について普通に理解できている。	「数学」にかかわる基礎的・基本的な知識についてやや理解が不十分。	「数学」にかかわる基礎的・基本的な知識について全く理解できていない。
思考・問題解決能力	1. 社会で実際に起こりうるさまざまな事象について「数学」を活用し論理的に問題解決することができる。	社会で実際に起こりうるさまざまな事象について「数学」を活用し論理的に問題解決することに優れている。	社会で実際に起こりうるさまざまな事象について「数学」を活用し論理的に問題解決することに優れている。	社会で実際に起こりうるさまざまな事象について「数学」を活用し論理的に問題解決することが普通に行える。	社会で実際に起こりうるさまざまな事象について「数学」を活用し論理的に問題解決することがやや苦手である。	社会で実際に起こりうるさまざまな事象について「数学」を活用し論理的に問題解決することは全くできない。
態度	1. 提出物	演習課題は迅速・かつ課題をよく理解して的確に処理された成果物を期限内に提出できる。	演習課題は課題を概ね理解してほぼ的確に処理された成果物を期限内に提出できる。	演習課題は課題をよく理解して普通に処理された成果物を期限内に提出できる。	演習課題は課題の理解がやや不十分のまま処理された成果物を期限内に提出できる。	演習課題は課題の理解が全く理解できていない成果物を提出したり、成果物の提出が期限内にできない。

科目名	現代環境論			授業番号	CB202	サブタイトル	現代の身近な環境を「実感」する		
教員	岸 誠一								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	私たちの日常の関わりの中から、現代の身近な環境を概観する授業を行う。野外学修やグループワークといった参加体験型の学修手法を多く用いて、現代環境を「実感」して探究心を高める授業を行う。								
到達目標	「多様で変化の激しい社会を生き抜く力」の養成に力点を置き、環境問題という現代的、社会的な課題に対して地球的な視野で考え、自らの問題として捉え、身近なところから取り組むことができるようになることを目指す。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力のうち、「知識・理解」と「思考・問題解決能力」の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
回	概要						担当		
第1回	授業概要の説明、環境に関する基礎講座I 地球温暖化等、今世界が直面している様々な環境問題について学修することについて理解する。								
第2回	環境に関する基礎講座II 喫緊の課題である「カーボンニュートラル」の各国の取り組みについて理解する。								
第3回	地球温暖化について 地球温暖化のしくみについて実際に実験を通して理解する。								
第4回	吉備の中山フィールドワーク(ドングリとイシシに学ぶ?) 吉備の中山でのフィールドワークを通して、身近な環境問題を実感する。								
第5回	中国学園近辺の用水の水は大丈夫か? 中国学園近辺の水質検査と用水の清掃活動を通して、身近な水の環境問題について理解を深める。								
第6回	SDGs【エヌ・ディー・ジープ】って何だ? SDGsの17の目標を理解し、自分たちでできる具体的な取組みについて考える。								
第7回	中国学園近辺に降る雨は大丈夫か? 酸性雨のできる仕組みについて理解し、大気汚染と酸性雨との関係について学修する。								
第8回	発電と節電について 火力発電、原子力発電等様々な発電の仕組みを理解し、CO2削減のための節電について学修する。								
第9回	「シーベルト」「ベクレル」って何だ? 放射能についての正しい知識を中国学園の放射線量測定から学ぶ								
第10回	循環型社会へ向けて 環境問題と国際的な取り組みについて理解を深める。								
第11回	環境問題解決のための新技術I 脱化石エネルギー、リサイクルなど環境問題解決の取り組みを理解する。								
第12回	環境問題解決のための新技術II 水素エネルギーや燃料電池、太陽光発電など環境問題解決のための新技術について理解する。								
第13回	太陽光発電で中国学園大にイルミネーションを！(再生可能エネルギーの実践を通して) 太陽光発電について実際の発電装置を稼働してイルミネーションを点灯させることを試み、太陽光発電についての理解を深める。								
第14回	環境問題について特別講義 環境についての専門家を招聘して、環境問題の理解を深める。								
第15回	まとめ 環境問題について討論会を実施し、自分の考えを発表し環境問題の理解を深める。								
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その態備考						
	授業への取り組みの姿勢/態度	20	意欲的な受講態度、グループワーク等への参加度、予・復習の状況によって評価する。						
	レポート	20	野外学修等の後はレポートを提出してもらい、何に気づき、何を学んだのかなど、書かれた具体的な学びの成果を評価する。記載された内容は、その後の授業の中でコメントするなどのフィードバックを適宜行う。						
	小テスト	20	小テストを実施し、個々の内容について理解度を評価する。						
	定期試験	40	最終的な理解度を評価する。						
	その他								

評価の方法：自由記載	
受講の心得	この授業は、野外学修も行うため、天候等によって適宜内容を変更することがある。また、内容に継続性や関連性があるため、授業を欠席しない、遅刻しないよういただきたい。授業は毎回の積み重ねの中で進んでいくので、配付資料等は毎回、持参していただきたい(ノートに貼ることを推奨している)。野外学修等の後はレポートを提出してもらい、レポートはコメントをつけて返却する。
授業外学修	1. 予習として、授業時間に配付した資料や授業の中で提示した課題等について適宜調べ学修等を行い、考えてくること。 2. 復習として、授業時間に配付した資料や授業メモ(記録)等を用いてよりわかり、適宜調べ学修や実践等を行い、学びを深めていく(探究すること)。以上の学修を、授業1回あたり4時間以上行うこと。なお、学修のための情報提供をclassroomで行うので、よく見ること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト：自由記載	毎回プリント資料を配布する			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	講義の進行にあわせて適宜紹介する。			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の業務経験の有無	無			
担当教員の業務経験				
担当教員以外で指導に関わる業務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる業務経験者				
業務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. 環境問題という現代的、社会的な課題の理解	地球温暖化、大気汚染、酸性雨等環境問題について十分に理解し、この環境問題をどのように解決していくかその対策についてもよく理解している。	地球温暖化、大気汚染、酸性雨等環境問題について概ね理解し、この環境問題をどのように解決していくかその対策についても概ね理解している。	地球温暖化、大気汚染、酸性雨等環境問題について普通に理解し、この環境問題をどのように解決していくかその対策についても理解している。	地球温暖化、大気汚染、酸性雨等環境問題について理解が不十分であり、この環境問題をどのように解決していくかの理解も不十分である。	地球温暖化、大気汚染、酸性雨等環境問題について全く理解できておらず、この環境問題をどのように解決していくかについても説明できない。
思考・問題解決能力	1. 環境問題を地球的な視野で考え、自らの問題として捉え、身近なところから環境問題を改善することができる。	環境問題を十分自らの問題とらえており、どのようにして自分が環境問題に取り組んでいくか、自分の考えを詳しく説明することができる。	環境問題を十分自らの問題とらえており、どのようにして環境問題に取り組んでいくか、他の事例をあげながら(自分がする意識はやや薄い)詳しく説明することができる。	環境問題を普通に自らの問題とらえており、どのようにして自分が環境問題に取り組んでいくかについては、自分から進んで実践する態度は見受けられない。	環境問題を自らの問題とらえていることはやや不十分であり、どのようにして自分が環境問題に取り組んでいくかについても、自分から進んで実践する態度は見受けられない。	環境問題を自らの問題とらえていることは全くなく、どのようにして自分が環境問題に取り組んでいくかについても、全く自分から進んで実践する態度は見受けられない。
態度	1. 提出物	レポート、ノートなどの提出物について、授業提示の内容を適切にまとめ、自分で調べるなどして内容が発展的に充足している。あわせて、提出期限内に提出ができる。	レポート、ノートなどの提出物について、授業提示の内容を自分なりにまとめ、工夫して作成することができる。あわせて提出期限内に提出ができる。	レポート、ノートなどの提出物について授業提示した内容が適切にまとめられており、期限内に提出することができる。	レポート、ノートなどの提出物について授業提示した内容が不十分であるが自分なりに工夫して提出することができる。	レポート、ノートなどの提出物について授業提示した内容が不十分である。または、提出されない。

科目名	自然科学概論			授業番号	CB203	サブタイトル	体感型授業で自然科学の楽しさを実感しよう		
教員	岸 誠一								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	私たちの日常の関わりの中から、自然科学を概観する授業を行う。野外体験学修や科学実験といった体験・体感型の学修手法を多く用いて、自然科学を「見える化」して探究心を高める授業を行う。また、科学工作も行う。科学のおもしろさと不思議さを実感する。								
到達目標	私たちの身のまわり、日常の中にある自然科学の基本概念や知識、科学的なものの考え方ができるようにすることを旨とする。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉の修得に貢献する。								
授業計画 備考	授業の中では、様々な測定装置、電気関係の測定機器や実験器具などを用いて、私たちの身のまわりの環境、自然科学について実測、体感しながら学びを深めていく。								
回	概要						担当		
第1回	中国学園の庭で「幸せ」を探そう? 四つ葉のクローバーから見えてくるフィールドワークの楽しさを体験し、自然の不思議さに気づくことの大切さを実感する。								
第2回	科学マシクを通して学ぶ科学のおもしろさ 空き缶を斜めに立てる科学マシクを通して、力学の法則を理解する。								
第3回	楽しいフィールドワーク 吉備の中山をグループで協力しながら歩き、自然に生息する動植物について理解を深める。								
第4回	コンピュータについて学ぶ 生成系AIによる画像の生成などの体験を通して、ネット社会の未来について理解を深める。								
第5回	地球温暖化のしくみ 二酸化炭素により、地表温度が上昇するしくみが分かる実験装置を活用して、地球温暖化のしくみを理解する。								
第6回	君のどみは一万ボルト? はやぶさのイオンエンジンは一万五千ボルト! 高電圧の実験を通して、電気の性質を理解する。また、高電圧を使うイオンエンジンの模型を用いて飛行実験を行い、イオンエンジンの原理について理解する。								
第7回	電子オルゴール作りを通して学ぶ「オームの法則」 はんだ付けしながら、電子オルゴールを製作し、半導体の構造・性質について理解する。								
第8回	高価なバイオリンと安価なバイオリンの音の違いは? (音を「見える化」して分かってくる新芸能人格付けチェック) 音を電気信号に変換するオシロスコープという測定器を使い、音を「見える化」しながら「音の3要素」の性質について理解を深める。								
第9回	スライムで遊ぼう!! 「光るスライム」づくりを通して、物質の分子構造について理解する。								
第10回	糖を科学するべっこ指づりの実験と実習 べっこ指づりを通して物質の分子構造について学ぶ。								
第11回	天然色素と酸アルカリの実験と実習 ムラサキキャベツから作る液体の色の反応から酸性・アルカリ性の水溶液の性質を理解する。また、最後に緑色の焼きそばを作る。								
第12回	光に関する基礎講座ならびに実験と実習 偏光フィルターを使った光の回折実験やレンズを使った光学実験を行いながら、光の性質について理解を深める。								
第13回	楽しい数学 微分や積分などの難しい数学にチャレンジし、数学の問題を解く楽しさを実感する。								
第14回	流しそめんの加速度を測定しよう! 実際に流しそめんをしながら、運動の法則の理解を深める。								
第15回	まとめ 授業全体の振り返りと自然科学全体のトピックスについて解説。								
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢/態度	20	意欲的な受講態度、実験・実習・討議等への参加度等によって評価する。						
	レポート	20	野外学習等授業によっては、レポートを提出し、その内容について評価する。提出されたレポートについてはコメントをつけて返却する。						
	小テスト	20	各回の主要なポイントの理解を評価する。						
	定期試験	40	最終的な理解度を評価する						

評価の方法：自由記載	
受講の心得	この授業は、自然を対象にしているため、天候等によって適宜内容を変更することがある。また、内容に継続性や関連性があるため、授業を欠席しない、遅刻しないようにしていただきたい。授業は毎回の積み重ねの中で進んでいくので、配付資料等は毎回、持参していただきたい(ノードに貼ることを推奨している)。
授業外学習	1. 予習として、授業時間に配付した資料や授業の中で提示した課題等について適宜調べ学習等を行い、考えてくること。 2. 復習として、授業時間に配付した資料や授業メモ(記録)等を用いてふりかえり、適宜調べ学習や実践等を行い、学びを深めていく(探究する)こと。 以上の学習を、授業1回あたり4時間以上行うこと。 3.classroomを立ち上げ次の授業の準備物等の連絡や授業の復習用動画を情報提供するので必ず視聴すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載

毎回プリント資料を配布する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載

講義の進行にあわせて適宜紹介する。

その他	
備考	
注意事項	
担当教員の業務経験の有無	無
担当教員の業務経験	
担当教員以外で指導に関わる業務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる業務経験者	
業務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 身のまわりの、日常の中にある自然科学の基本概念や知識について理解している。	身のまわりの、日常の中にある自然科学の基本概念や知識について十分に理解している。	身のまわりの、日常の中にある自然科学の基本概念や知識について概ね理解している。	身のまわりの、日常の中にある自然科学の基本概念や知識について普通に理解している。	身のまわりの、日常の中にある自然科学の基本概念や知識について理解がやや不十分である。	身のまわりの、日常の中にある自然科学の基本概念や知識について理解できていない。
態度	1. 身のまわりの自然現象に関心を持ち、科学的なものの考え方ができるようになる。	身のまわりの自然現象に強い関心を持ち、自ら自然に触れたりするなど積極的に自然に関わろうとする。	身のまわりの自然現象に関心を持ち、自ら自然に触れたりするなど自然に関わろうとする。	身のまわりの自然現象に関心を持ち、自然のことを調べるなどして科学的な考え方を身に蓄けている。	身のまわりの自然現象にあまり関心がなく、科学的なものの考え方も十分にできない。	身のまわりの自然現象に全く関心がなく、科学的なものの考え方も全く身に蓄けていない。

科目名	生涯と情報処理 1クラス			授業番号	CC201A	サブタイトル	ネットワーク時代の生活術		
教員	岸 誠一								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	現代の情報社会においては、パソコンは最も基礎的なツールの一つである。この情報の持つ様々な側面のうち情報と人間社会のかかわりを明らかにする。そのため、パソコンの基本的な使い方や仕組み、さらにはネットワークの基礎的な使用方法および、今のネットワークによってもたらされている様々な情報モラルの課題について学修する。								
到達目標	本授業も具体的な目標は、次の3点である。 (1) パソコンに関する基礎的知識を学ぶ。 (2) ネットを利用した情報収集、加工、発信の仕方学ぶ。 (3) 情報を扱う場合の倫理やセキュリティについて学ぶ。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
回	概要						担当		
第1回	ガイダンス:パソコン操作についての基礎知識I 本学のPC教室の使い方、ログインの仕方(ID、パスワード)、Gメールのログインの仕方等パソコン操作の基本について理解する。								
第2回	パソコン操作についての基礎知識II 演習用課題のファイルのアクセスの仕方、課題の提出の仕方、PC教室のプリンターの使い方等を理解し、実際に使えるようになるための操作を習得する。								
第3回	ネット利用についての基礎知識I インターネットによる検索技術の基礎について理解し、これらを活用して必要な画像等を収集するなど、ネット利用について学修する。								
第4回	ネット利用についての基礎知識II YouTube等オンライン配信プラットフォームの歴史およびその活用法について理解する。また、その際にかかるセキュリティや著作権の問題について理解する。								
第5回	ワードの基礎知識I Wordの起動、終了、文字入力の基本、印刷等を学び、簡単な文章を入力し、プリントアウトできる技術を習得する。								
第6回	ワードの基礎知識II Wordによる表の作成、画像の挿入、図形の作成などWordの多様な編集機能を理解し、簡単なチラシ等が作成できる技術を習得する。								
第7回	パワーポイントの基礎知識I パワーポイントの起動、終了、画像の挿入、図形の作成などパワーポイントの描画機能の基本について理解する。								
第8回	パワーポイントの基礎知識II パワーポイントのアニメーションの機能を活用し、簡単な動画を作成する技術を習得する。								
第9回	パワーポイントの基礎知識III パワーポイントのプレゼンテーションの機能を活用し、簡単な自己紹介のプレゼンテーション資料を作成する技術を習得する。								
第10回	生成系AIの活用I 生成系AIの仕組みについて理解し、簡単な画像や動画を作成するなど、ルールを守って生成系AIが活用できることを学修する。								
第11回	デジタルコンテンツの作成の仕方I 教育におけるデジタルコンテンツの活用意義・活用例について理解する。								
第12回	デジタルコンテンツの作成の仕方II 授業における活用場面を想定しながら、パワーポイントにより、簡単なデジタルコンテンツの作成の仕方を理解する。								
第13回	デジタルコンテンツの作成の仕方III デジタルコンテンツを活用するための簡略化した指導案(授業レシピ)を作成して、模擬授業を行うための実践力を習得する。								
第14回	情報の倫理とセキュリティI 情報セキュリティの基本的な知識を身に付け、パスワードを適切に設定・管理するなど、コンピュータやインターネットを安全に利用できるような知識・技術を習得する。								
第15回	情報の倫理とセキュリティII SNS等のネットによるコミュニケーションの特色を理解し、情報社会への参画にあたって自らの行動に責任を持ち、自他の権利を尊重して、ルールやマナーを守って情報を集めたり発信できるようにするための学修をする。								
授業計画 備考2									
評価の方法									
種別	割合	評価基準・その他備考							
授業への取り組みの姿勢/態度	20	毎回の授業で演習に取り組み態度等を総合的に評価する。							
レポート	80	毎回の授業で学修した情報教育の知識及び情報技術等が適正に理解・習得されているか、提出される演習課題等を総合的に評価する。レポートについては、コメントを記入して返却する。							

評価の方法：自由記載	毎回授業の初めに「本日の学習目標」を具体的に提示し、その目標が達成されたかどうかについて評価する。したがって、その目標をしっかり意識して演習課題に取り組むこと。
受講の心得	新聞やTV等で報道される情報に関するニュースやレポートに興味を持ってほしい。 わからないことは質問すること。
授業外学習	1. 予習として、授業時間に配付した資料や授業の中で提示した課題等について適宜調べ学習等を行い、考えてくること。 2. 復習として、授業時間に配付した資料や授業メモ(記録)等を用いて振り返り、適宜調べ学習や実践等を行い、学びを深めていく(探究すること)。 以上の学習を、授業1回あたり4時間以上行うこと。 3.classroomを立ち上げ次の授業の準備物等の連絡や授業の復習用動画を情報提供するので必ず視聴すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト：自由記載	毎回プリント資料を配布する。			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の業務経験の有無	有			
担当教員の業務経験	岡山県情報教育センター(6年)			
担当教員以外で指導に関わる業務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる業務経験者				
業務経験をいかした教育内容	情報教育センターにおいて幼・小・中・高の教員対象に「授業における情報通信技術」の活用例について様々な取り組みを指導してきた経験を生かして、「学校現場」を想定した具体的な活用事例を紹介しながら教員志望の学生に必要な思考力・実践力が身に付けられるような授業を展開していく。			

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. パソコンに関する基礎的知識を理解する。	パソコンに関する基礎的知識を十分に理解している。	パソコンに関する基礎的知識を概ね理解している。	パソコンに関する基礎的知識を普通に理解している。	パソコンに関する基礎的知識の理解がやや不十分。	パソコンに関する基礎的知識が全く理解できていない。
思考・問題解決能力	1. 情報を扱う場合の倫理やセキュリティについて理解している。	情報を扱う場合の倫理やセキュリティについて十分に理解しており、これらを知識を活用して、安全な情報管理や正しいネットワークコミュニケーションを構築することができる。	情報を扱う場合の倫理やセキュリティについて概ね理解しており、これらを知識を活用して、安全な情報管理や正しいネットワークコミュニケーションを構築することができる。	情報を扱う場合の倫理やセキュリティについて普通に理解しており、これらを知識を活用して、安全な情報管理や正しいネットワークコミュニケーションを概ね構築することができる。	情報を扱う場合の倫理やセキュリティについての理解がやや不十分であり、これらを知識を活用して、安全な情報管理や正しいネットワークコミュニケーションの構築もやや不十分である。	情報を扱う場合の倫理やセキュリティについて理解できておらず、これらを知識を活用して、安全な情報管理や正しいネットワークコミュニケーションを構築することができない。
技能	1. パソコンに関する基礎的的操作ができる。	ワード・エクセル・パワーポイントなどのソフトの使用方法を十分理解しており、これらを活用した課題を迅速・的確に作成することができる。	ワード・エクセル・パワーポイントなどのソフトの使用方法を十分理解しており、これらを活用した課題を作成することができる。	ワード・エクセル・パワーポイントなどのソフトの使用方法を普通に理解しており、これらを活用した課題を作成することができる。	ワード・エクセル・パワーポイントなどのソフトの使用方法の理解がやや不十分であり、これらを活用した課題についてもやや時間がかかり、的確さに欠ける。	ワード・エクセル・パワーポイントなどのソフトの使用方法の理解が不十分であり、これらを活用した課題についても時間がかかり、的確さに欠ける。
技能	2. ネットを利用した情報収集、加工、発信の仕方の基本操作ができる。	ネットの利用の知識が十分あり、これらを活用して十分な情報収集・情報発信ができる。	ネットの利用について概ね理解しており、これらを活用して十分な情報収集・情報発信ができる。	ネットの利用について普通に理解しており、これらを活用して普通な情報収集・情報発信ができる。	ネットの利用についての理解がやや不十分であり、これらを活用した情報収集・情報発信も十分にできない。	ネットの利用についての理解が不十分であり、これらを活用した情報収集・情報発信もできない。
技能	3. デジタルコンテンツ(紹介ビデオ)の制作	授業提示された基礎的な制作方法だけでなく、自分で調べ工夫して、受け手の意識を想定して丁寧に作る事ができる。	授業提示された基礎的な制作方法だけでなく、自分で調べ工夫して、受け手の意識を大まかに想定して丁寧に作る事ができる。	授業提示された基礎的な制作方法を理解し、留意点を制作に反映することができる。	授業提示された基礎的な制作方法を理解が不十分であり、制作物の丁寧さが不足している。	授業提示された基礎的な政策方法の理解が不十分で、留意点を制作に全く反映していない。

科目名	生涯と情報処理 2クラス			授業番号	CC201B	サブタイトル	ネットワーク時代の生活術		
教員	岸 誠一								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	現代の情報社会においては、パソコンは最も基礎的なツールの一つである。この情報の持つ様々な側面のうち情報と人間社会のかかわりを明らかにする。そのため、パソコンの基本的な使い方や仕組み、さらにはネットワークの基礎的な使用方法および、今このネットワークによってもたらされている様々な情報モラルの課題について学修する。								
到達目標	本授業も具体的な目標は、次の3点である。 (1) パソコンに関する基礎的知識を学ぶ。 (2) ネットを利用した情報収集、加工、発信の仕方学ぶ。 (3) 情報を扱う場合の倫理やセキュリティについて学ぶ。 なお、本科目はデジタルポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <思考・問題解決能力> <技能>の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
回	概要						担当		
第1回	ガイダンス:パソコン操作についての基礎知識I 本学のPC教室の使い方、ログインの仕方(ID、パスワード)、Gメールのログインの仕方等パソコン操作の基本について理解する。								
第2回	パソコン操作についての基礎知識II 演習用課題のファイルのアクセスの仕方、課題の提出の仕方、PC教室のプリンターの使い方等を理解し、実際に使えるようになるための操作を習得する。								
第3回	ネット利用についての基礎知識I インターネットによる検索技術の基礎について理解し、これらを活用して必要な画像等を収集するなど、ネット利用について学修する。								
第4回	ネット利用についての基礎知識II YouTube等オンライン配信プラットフォームの歴史およびその活用法について理解する。また、その際にかかるセキュリティや著作権の問題について理解する。								
第5回	ワードの基礎知識I Wordの起動、終了、文字入力の基本、印刷等を学び、簡単な文章を入力し、プリントアウトできる技術を習得する。								
第6回	ワードの基礎知識II Wordによる表の作成、画像の挿入、図形の作成などWordの多様な編集機能を理解し、簡単なチラシ等が作成できる技術を習得する。								
第7回	パワーポイントの基礎知識I パワーポイントの起動、終了、画像の挿入、図形の作成などパワーポイントの描画機能の基本について理解する。								
第8回	パワーポイントの基礎知識II パワーポイントのアニメーションの機能を活用し、簡単な動画を作成する技術を習得する。								
第9回	パワーポイントの基礎知識III パワーポイントのプレゼンテーションの機能を活用し、簡単な自己紹介のプレゼンテーション資料を作成する技術を習得する。								
第10回	生成系AIの活用I 生成系AIの仕組みについて理解し、簡単な画像や動画を作成するなど、ルールを守って生成系AIが活用できることを学修する。								
第11回	デジタルコンテンツの作成の仕方I 教育におけるデジタルコンテンツの活用意義・活用例について理解する。								
第12回	デジタルコンテンツの作成の仕方II 授業における活用場面を想定しながら、パワーポイントにより、簡単なデジタルコンテンツの作成の仕方を理解する。								
第13回	デジタルコンテンツの作成の仕方III デジタルコンテンツを活用するための簡略化した指導案(授業レシピ)を作成して、模擬授業を行うための実践力を習得する。								
第14回	情報の倫理とセキュリティI 情報セキュリティの基本的な知識を身に付け、パスワードを適切に設定・管理するなど、コンピュータやインターネットを安全に利用できるような知識・技術を習得する。								
第15回	情報の倫理とセキュリティII SNS等のネットによるコミュニケーションの特色を理解し、情報社会への参画にあたって自らの行動に責任を持ち、自他の権利を尊重して、ルールやマナーを守って情報を集めたり発信できるようにするための学修をする。								
授業計画 備考2									
評価の方法									
種別	割合	評価基準・その他備考							
授業への取り組みの姿勢/態度	20	毎回の授業で演習に取り組む態度等を総合的に評価する。							
レポート	80	毎回の授業で学修した情報教育の知識及び情報技術等が適正に理解・習得されているか、提出される演習課題等を総合的に評価する。レポートについては、コメントを記入して返却する。							

評価の方法：自由記載	毎回授業の初めに「本日の学習目標」を具体的に提示し、その目標が達成されたかどうかについて評価する。したがって、その目標をしっかり意識して演習課題に取り組むこと。
受講の心得	新聞やTV等で報道される情報に関するニュースやレポートに興味を持ってほしい。 わからないことは質問すること。
授業外学習	1. 予習として、授業時間に配付した資料や授業の中で提示した課題等について適宜調べ学習等を行い、考えてくること。 2. 復習として、授業時間に配付した資料や授業メモ(記録)等を用いて振り返り、適宜調べ学習や実践等を行い、学びを深めていく(探究すること)。 以上の学習を、授業1回あたり4時間以上行うこと。 3.classroomを立ち上げ次の授業の準備物等の連絡や授業の復習用動画を情報提供するので必ず視聴すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト：自由記載	毎回プリント資料を配布する。			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の業務経験の有無	有			
担当教員の業務経験	岡山県情報教育センター(6年)			
担当教員以外で指導に関わる業務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる業務経験者				
業務経験をいかした教育内容	情報教育センターにおいて幼・小・中・高の教員対象に「授業における情報通信技術」の活用例について様々な取り組みを指導してきた経験を生かして、「学校現場」を想定した具体的な活用事例を紹介しながら教員志望の学生に必要な思考力・実践力が身に付けられるような授業を展開していく。			

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. パソコンに関する基礎的知識を理解する。	パソコンに関する基礎的知識を十分に理解している。	パソコンに関する基礎的知識を概ね理解している。	パソコンに関する基礎的知識を普通に理解している。	パソコンに関する基礎的知識の理解がやや不十分。	パソコンに関する基礎的知識が全く理解できていない。
思考・問題解決能力	1. 情報を扱う場合の倫理やセキュリティについて理解している。	情報を扱う場合の倫理やセキュリティについて十分に理解しており、これらを知識を活用して、安全な情報管理や正しいネットワークコミュニケーションを構築することができる。	情報を扱う場合の倫理やセキュリティについて概ね理解しており、これらを知識を活用して、安全な情報管理や正しいネットワークコミュニケーションを構築することができる。	情報を扱う場合の倫理やセキュリティについて普通に理解しており、これらを知識を活用して、安全な情報管理や正しいネットワークコミュニケーションを概ね構築することができる。	情報を扱う場合の倫理やセキュリティについての理解がやや不十分であり、これらを知識を活用して、安全な情報管理や正しいネットワークコミュニケーションの構築もやや不十分である。	情報を扱う場合の倫理やセキュリティについて理解できておらず、これらを知識を活用して、安全な情報管理や正しいネットワークコミュニケーションを構築することができない。
技能	1. パソコンに関する基礎的的操作ができる。	ワード・エクセル・パワーポイントなどのソフトの使用方法を十分理解しており、これらを活用した課題を迅速・的確に作成することができる。	ワード・エクセル・パワーポイントなどのソフトの使用方法を十分理解しており、これらを活用した課題を作成することができる。	ワード・エクセル・パワーポイントなどのソフトの使用方法を普通に理解しており、これらを活用した課題を作成することができる。	ワード・エクセル・パワーポイントなどのソフトの使用方法の理解がやや不十分であり、これらを活用した課題についてもやや時間がかかり、的確さに欠ける。	ワード・エクセル・パワーポイントなどのソフトの使用方法の理解が不十分であり、これらを活用した課題についても時間がかかり、的確さに欠ける。
技能	2. ネットを利用した情報収集、加工、発信の仕方の基本操作ができる。	ネットの利用の知識が十分あり、これらを活用して十分な情報収集・情報発信ができる。	ネットの利用について概ね理解しており、これらを活用して十分な情報収集・情報発信ができる。	ネットの利用について普通に理解しており、これらを活用して十分な情報収集・情報発信ができる。	ネットの利用についての理解がやや不十分であり、これらを活用した情報収集・情報発信も十分にできない。	ネットの利用についての理解が不十分であり、これらを活用した情報収集・情報発信もできない。
技能	3. デジタルコンテンツ(紹介ビデオ)の制作	授業提示された基礎的な制作方法だけでなく、自分で調べ工夫して、受け手の意識を想定して丁寧に作る事ができる。	授業提示された基礎的な制作方法だけでなく、自分で調べ工夫して、受け手の意識を大まかに想定して丁寧に作る事ができる。	授業提示された基礎的な制作方法を理解し、留意点を制作に反映することができる。	授業提示された基礎的な制作方法を理解が不十分であり、制作物の丁寧さが不足している。	授業提示された基礎的な制作方法を理解が不十分であり、留意点を制作に全く反映していない。

科目名	情報処理演習			授業番号	CC202	サブタイトル	サイバー空間の歩き方
教員	岸 誠一						
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	講義
							必修・選択
授業概要	現代の情報社会においては、ITは最も基礎的なツールの一つである。この情報の持つ様々な側面と人間社会のかわり方を明らかにする。そのため、ITの基本的な使い方や仕組み、さらにはネットワークの基礎的な使用方法および、今のネットワークによってもたらされている様々な情報モラルの課題について学ぶ。また、実際の教育現場における児童・児童に対するITの活用技術を学び、またそれらを活用した教材作成も体験し、教員としてのIT活用の実践力を体得する。						
到達目標	本授業も具体的な目標は、次の3点である。 (1) ITに関する基礎的知識を学ぶ。 (2) ネットを利用した情報収集、加工、発信の仕方を学ぶ。 (3) 情報を探る場合の倫理やセキュリティについて学ぶ。 なお、本科目はデジタルリテラシーに掲げた学習力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉の修得に貢献する。						
授業計画 備考							
回	概要						担当
第1回	ガイダンス・教育の情報化、現代社会におけるICTの役割と導入教育の方法・技術、ICT教育に関する基本的内容に関して説明すると共に「主体的・対話的で深い学び」を実現するためのICTの活用について学ぶ。						
第2回	エクセルの基礎知識Ⅰ 表計算等のエクセルの基礎知識を演習を通して理解する。また、基本的な関数などについても理解し、簡単な表計算処理ができるようになる。実際に学校で使用する児童(園児)名簿の作成をしながら、ソート、検索といったエクセルの基本的な機能を体得する。また、保存時のパスワードの設定など個人情報保護についても学ぶ。						
第3回	エクセルの基礎知識Ⅱ エクセルのグラフ機能の基礎的な内容について学ぶ。小学校の児童の保健データ(ダミー)を用いて、グラフ化し、そのデータをもとに分析を行う。分析の際に平均とか標準偏差など基本的な統計処理をエクセルの関数で行うことも学ぶ。						
第4回	ネット利用についての基礎知識 YouTube等オンライン配信プラットフォームの歴史およびその活用について理解する。また、その際起こるセキュリティや著作権の問題についても理解する。						
第5回	ワードの基礎知識Ⅰ Wordの起動、終了、文字入力の基本、印刷等を学び、簡単な文章を入力し、プリントアウトできる技術を習得する。また、最終課題として簡単なチラシを作成し印刷する。						
第6回	ワードの基礎知識Ⅱ Wordによる表の作成、画像の挿入、図形の作成などWordの多様な編集機能を理解し、簡単なチラシ(学級通信)等が作成できる技術を習得する。						
第7回	パワーポイントの基礎知識Ⅰ パワーポイントの起動、終了、画像の挿入、図形の作成などパワーポイントの描画機能の基本について理解する。また、この機能を活用して学校行事を広報するチラシを作成する。						
第8回	パワーポイントの基礎知識Ⅱ パワーポイントのアニメーション機能を活用し、簡単な動画を作成する技術を習得する。また、学校現場で活用できる動画教材を作成し、学生同士で相互評価する。						
第9回	パワーポイントの基礎知識Ⅲ パワーポイントのプレゼンテーション機能を活用し、簡単な自己紹介のプレゼンテーション資料を作成する技術を習得する。また、教育現場で活用できそうな学習教材を作成し、学生同士で相互評価する。						
第10回	生成系AIの活用 生成系AIの仕組みについて理解し、簡単な画像や動画を作成するなど、ルールを守って生成系AIが活用できることを学ぶ。						
第11回	ITと音楽 音楽ソフト(ボカロID)を活用した創作を体験する。また、音楽教育におけるITの活用について学ぶ。情報教育センターの録音スタジオを用いた音楽の録音についても紹介する。						
第12回	デジタルコンテンツの作成の仕方Ⅰ 授業における活用場面を想定しながら、パワーポイントにより、簡単なデジタルコンテンツの作成の仕方を理解する。また、保育現場・小学校現場での活用事例を示したビデオを視聴しながら、こうした場合のICT活用の仕方を学ぶ。						
第13回	デジタルコンテンツの作成の仕方Ⅱ デジタルコンテンツを活用するための簡略化した指導案(授業レシピ)を作成し、保育園・幼稚園・小学校における児童・児童を対象にした模擬授業を行う。この体験を通じ、教育現場でのICT活用の実践力を体得する。						
第14回	情報の倫理とセキュリティ 情報セキュリティの基本的な知識を身に付け、パスワードを適切に設定・管理するなど、コンピュータやインターネットを安全に利用できるように知識・技術を習得する。						
第15回	情報の倫理とセキュリティⅡ SNS等のネットによるコミュニケーションの特色を理解し、情報社会への参画にあたって自らの行動に責任を持ち、自他の権利を尊重して、ルールやマナーを守って情報を集めたり発信できるようにするための学習をする。また、児童・児童にどのような指導したらよいか模擬授業の実践を通して学ぶ。						
授業計画 備考2							
評価の方法							
	種別	割合	評価基準・その態備考				
	授業への取り組みの姿勢/態度	20	毎回の授業で演習に取り組み態度等を総合的に評価する。				
	レポート	80	毎回の授業で学修した情報教育の知識及び情報技術等が適正に理解・習得されているか、提出される演習課題等を総合的に評価する。レポートについては、コメントを記入して返却する。				

評価の方法：自由記載	毎回授業の初めに「本日の学習目標」を具体的に提示し、その目標が達成されたかどうかについて評価する。したがって、その目標をしっかり意識して演習課題に取り組むこと。
受講の心得	新聞やTV等で報道される情報に関するニュースやレポートに興味を持ってほしい。 わからないことは質問すること。
授業外学習	1. 予習として、授業時間に配付した資料や授業の中で提示した課題等について適宜調べ学習等を行い、考えてくること。 2. 復習として、授業時間に配付した資料や授業メモ(記録)等を用いて振り返り、適宜調べ学習や実践等を行い、学びを深めていく(探究すること)。 以上の学習を、授業1回あたり4時間以上行うこと。 3.classroomを立ち上げ2回の授業の準備物等の連絡や授業の復習用動画を情報提供するの必ず視聴すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト：自由記載	毎回プリント資料を配布する。			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の業務経験の有無	有			
担当教員の業務経験	岡山県情報教育センター(6年)			
担当教員以外で指導に関わる業務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる業務経験者				
業務経験をいかした教育内容	情報教育センターにおいて幼・小・中・高の教員対象に「授業における情報通信技術」の活用例について様々な取り組みを指導してきた経験を生かして、「学校現場」を想定した具体的な活用事例を紹介しながら教員志望の学生に必要な思考力・実践力が身に付けられるような授業を展開していく。			

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー「学士力」)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. ネットワークの利用の仕方、データの処理の仕方、電子メール、情報セキュリティの基本について理解する。	ネットワークの利用の仕方、データの処理の仕方、電子メール、情報セキュリティの基本について十分に理解できている。	ネットワークの利用の仕方、データの処理の仕方、電子メール、情報セキュリティの基本について概ね理解できている。	ネットワークの利用の仕方、データの処理の仕方、電子メール、情報セキュリティの基本について普通に理解できている。	ネットワークの利用の仕方、データの処理の仕方、電子メール、情報セキュリティの基本についてやや理解が不十分。	ネットワークの利用の仕方、データの処理の仕方、電子メール、情報セキュリティの基本について全く理解ができていない。
技能	1. 文書入力(Word)の基本操作ができる。	文書入力(Word)の基本操作が十分できる。	文書入力(Word)の基本操作が概ねできる。	文書入力(Word)の基本操作が最低限できる。	文書入力(Word)の基本操作がやや不十分。	文書入力(Word)の基本操作が全くできない。
技能	2. プレゼンテーションソフト(PowerPoint)の基本操作ができる。	プレゼンテーションソフト(PowerPoint)の基本操作が十分できる。	プレゼンテーションソフト(PowerPoint)の基本操作が概ねできる。	プレゼンテーションソフト(PowerPoint)の基本操作が最低限できる。	プレゼンテーションソフト(PowerPoint)の基本操作がやや不十分。	プレゼンテーションソフト(PowerPoint)の基本操作が全くできない。
技能	3. 表計算ソフト(Excel)の基本操作ができる。	表計算ソフト(Excel)の基本操作が十分できる。	表計算ソフト(Excel)の基本操作が概ねできる。	表計算ソフト(Excel)の基本操作が最低限できる。	表計算ソフト(Excel)の基本操作がやや不十分。	表計算ソフト(Excel)の基本操作が全くできない。
態度	1. 提出物	演習課題は迅速かつ課題をよく理解して的確に処理された成果物を期限内に提出できる。	演習課題は課題を概ね理解してほぼ的確に処理された成果物を期限内に提出できる。	演習課題は課題をよく理解して普通に処理された成果物を期限内に提出できる。	演習課題は課題の題意の理解がやや不十分のまま処理された成果物を期限内に提出できる。	演習課題は課題の題意が全く理解できていない成果物を提出したり、成果物の提出が期限内にできない。

2024年度授業概要(シラバス)

科目名	英語 I 1クラス	授業番号	CD201A	サブタイトル	実践英語 I
教員	西田 寛子				
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期
授業形態	演習	必修・選択	必修		
授業概要	<p>本学の立地する岡山県の観光地、文化、習慣などについて外国人に紹介する対話を扱ひ、英語の読解力を高めるとともに岡山についての理解が深まるように演習を通して講義する。ペアやグループ活動も取り入れ、最終的には、自ら素材を選んで岡山の紹介文を書き、英語で発表できる力を育成する。また、各自の英語の能力に応じた実用英語技能検定あるいは幼保英語検定の取得を目指す。</p>				
到達目標	<p>・英語の基本的な語彙、文法、文構造を理解できる。 ・英語の対話文を素早く理解し、その内容を理解できる。 ・日常的な話題や社会的な話題について、適切な表現を用いて伝え合うことができる。 ・地元岡山の文化や生活習慣等についての知識を身に付けている。 ・岡山の紹介文を作成し、Show and Tellの形で発表できる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉(技能)〈態度〉の修得に貢献する。</p>				
授業計画 備考					
回	概要			担当	
第1回	Introduction: 講座の目標、内容、評価方法を確認する。 1-1-2 Welcome to Okayama: 空港でALTを迎える場面での対話の内容を理解する。				
第2回	1-1-4 At Korakuen: 後楽園を案内する場面での対話の内容を理解する。				
第3回	1-2-1 Hofukuji and Sesshu: 宝福寺と雷舟に関する対話の内容を理解する。				
第4回	1-2-2 Kibiji District: 吉備路に関する対話の内容を理解する。				
第5回	1-2-4 Ohara Museum of Art: 大原美術館に関する対話の内容を理解する。				
第6回	1-3-1 Hiruzen Height: 葦山高原に関する対話の内容を理解する。 Achievement Test: 既習事項の到達度確認テストを受ける。				
第7回	1-3-2 A Trip to Inujima: 犬島への旅行に関する対話の内容を理解する。				
第8回	1-3-3 A One-day Trip to Kibitsu Shrine: 吉備津神社への日帰り旅行に関する対話の内容を理解する。				
第9回	1-3-5 Yunogo Hot Springs: 湯郷温泉に関する対話の内容を理解する。				
第10回	2-1-3 Gift Wrapping: 贈り物の包装に関する対話の内容を理解する。				
第11回	2-2-3 Covering Hakuto with Paper Bags: 白樺の袋かに関する対話の内容を理解する。 Achievement Test: 既習事項の到達度確認テストを受ける。				
第12回	Introduction Report of Okayama: 岡山紹介のレポートを作成する。 Interview and Reading Test①: 教員からの英語の質問に答えるとともに、テキストの中からその場で指定された箇所を音読するマンツーマンのテストを受ける。				
第13回	Okayama Introduction Practice: 岡山紹介の練習をする。 Interview and Reading Test②: 教員からの英語の質問に答えるとともに、テキストの中からその場で指定された箇所を音読するマンツーマンのテストを受ける。				
第14回	Show and Tell of Okayama Introduction: 岡山紹介のShow and Tellをする。視聴する学生は聞き取り内容のメモをとり、発表者への質問をする。				
第15回	Future Goals: 将来に関する対話文の内容を理解し、各自の将来の夢について英語で書く。 Summary and Reflection of the Entire Lecture: 講義全体のまとめと省察				
授業計画 備考2	<p>・毎時間の最初、ペアでTopic Talk等のコミュニケーション活動を行い、英語によるコミュニケーション能力を高める。 ・テキストの内容理解後は、毎回ペアやグループで音読練習を行う。 * R6年度改定</p>				
評価の方法					
種別	割合	評価基準・その他備考			
授業への取り組みの姿勢/態度	40	・意欲的な受講態度（ペアやグループワークを含む）、ノート点検による予習・復習の状況を確認する。〈態度〉			
レポート	10	・テーマについて調査・整理・分析し、具体的かつ適切にまとめるかを評価する。（岡山の紹介）〈技能〉 * レポートについてはコメントを記入して返却するとともに、良い例はクラス全体で紹介する。			
小テスト	50	・既習事項の中から有用な語彙・表現の理解度を評価する。（到達度確認テスト）〈知識・理解〉 ・授業中のコミュニケーション活動や音読の到達度を確認する。（Interview and Reading Test）〈技能〉			

評価の方法：自由記載	
受講の心得	<ul style="list-style-type: none"> ・予習と復習を心がけ、自らの学びの状況を把握し向上させるよう、自主的で粘り強い学習に努めること。 ・授業中にはペアやグループでのコミュニケーション活動をするので積極的に参加すること。 ・実用英語検定あるいは功保英語検定の問題集を購入し、検定合格を目標として学習すること。
授業外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト内容については授業までに2時間以上予習すること。 ・前時の授業内容については2時間以上復習しておくこと。 ・課題については十分に調査してレポートを作成すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
岡山からハロー	岡山口・パル英語研究会	山陽新聞社	978-4-88197-759-0:c00	1,000円

使用テキスト：自由記載

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載

その他

備考

注意事項

担当教員の業務経験の有無

担当教員の業務経験

担当教員以外で指導に関わる業務経験者の有無

担当教員以外で指導に関わる業務経験者

業務経験をいかした教育内容

有	公立中学校教諭・指導教諭（28年）、公立中高一貫教育校指導教諭（6年）、公立小学校指導教諭（公立中学校指導教諭との兼務：1年）、県教育委員会指導主事（4年）での業務経験を有する。
	英語科教員・指導主事としての業務経験（38年）を生かし、小学校や乳幼児教育施設等の英語教育に携わる指導者に求められる基礎的な英語力を育成する。

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分レベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. 英語の基本的な語彙・文法・文構造の理解	英語の基本的な語彙・文法・文構造を十分正確に理解し、問いに対して9割以上の回答ができる。	英語の基本的な語彙・文法・文構造を正確に理解し、問いに対して8割以上の回答ができる。	英語の基本的な語彙・文法・文構造を理解し、問いに対して7割以上の回答ができる。	英語の基本的な語彙・文法・文構造について、やや理解できていないところもあるが、問いに対して6割以上の回答ができる。	英語の基本的な語彙・文法・文構造について、あまり理解できておらず、問いに対して6割未満の回答である。
知識・理解	2. 対話文の内容理解 (Reading)	英語で書かれた対話文の内容について、未習事項があっても、文の前後関係から類推する等して読み、人物の心情を考えたり、自分の意見と比較したりできる。	英語で書かれた対話文の内容について、未習事項があっても、文の前後関係から類推する等して正確に読み取ることができる。	英語で書かれた対話文の内容について、既習事項を用いて、正確に読み取ることができる。	英語で書かれた対話文の内容について、既習事項を用いて、ほぼ正確に読み取ることができる。	英語で書かれた対話文の内容について、既習事項を用いても、正確に読み取ることができない。
知識・理解	3. 対話文の内容理解 (Listening)	英語で書かれた対話文の内容について、未習事項があっても、文の前後関係から類推する等して聞き、人物の心情を考えたり、自分の意見と比較したりできる。	英語で書かれた対話文の内容について、未習事項があっても、文の前後関係から類推する等して正確に聞き取ることができる。	英語で書かれた対話文の内容について、既習事項を用いて、正確に聞き取ることができる。	英語で書かれた対話文の内容について、既習事項を用いて、ほぼ正確に聞き取ることができる。	英語で書かれた対話文の内容について、既習事項を用いても、正確に聞き取ることができない。
知識・理解	4. 地元岡山の文化や習慣等についての知識	地元岡山の文化や習慣等に関するテキスト以外の英文も自ら進んで読み、その知識を正確に身に付けている。	地元岡山の文化や習慣等に関するテキストの英文を読み、その知識を十分正確に身に付けている。	地元岡山の文化や習慣等に関するテキストの英文を読み、その知識を正確に身に付けている。	地元岡山の文化や習慣等に関するテキストの英文を読み、その知識をほぼ身に付けている。	地元岡山の文化や習慣等に関するテキストの英文を読むが、その知識が身に付いていない。
技能	1. 英語でのやりとり	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを、適切な表現を用いて伝え合うことができる。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを、伝え合うことができる。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを、伝え合うことができる。	日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを、伝え合うことができる。	日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを、伝え合うことができない。
技能	2. 英文の音読	正確な発音・イントネーションと適切なポーズ・声量で、感情を込めながら相手に伝える工夫をして音読できる。	正確な発音・イントネーションと適切なポーズ・声量で、感情を込めて音読できる。	正確な発音・イントネーションと適切なポーズ・声量で音読できる。	ほぼ正確な発音・イントネーションとほぼ適切なポーズ・声量で音読できる。	正確な発音・イントネーションと適切なポーズ・声量で音読できない。
技能	3. 発表原稿の作成 (書くこと)	未習の語彙・表現は自ら進んで調べ、事実や自分の考え、気持ちを入れる等して、相手に伝わりやすい英文を書くことができる。	未習の語彙・表現は自ら進んで調べ、事実や自分の考え、気持ちを入れる等して書くことができる。	既習の語彙・表現を用いて、事実や自分の考え、気持ちを入れる等して書くことができる。	簡単な語彙・表現を用いて、事実について書くことができる。	簡単な語彙・表現を用いても、事実について書くことができない。
技能	4. Show and Tell (岡山紹介の発表)	適切な声量・アイコンタクト・姿勢で、原稿を見ずに実物や写真を示しながら、聞き手にわかりやすく伝えることができる。	適切な声量・アイコンタクト・姿勢で、あまり原稿を見ずに、実物や写真を示しながら、聞き手にわかりやすく伝えることができる。	適切な声量・姿勢で、実物や写真を示しながら、聞き手にわかりやすく伝えることができる。	適切な声量・姿勢で、実物や写真を示しながら、聞き手に伝えることができる。	聞き手にわかりやすく伝えることができない。
態度	1. ペアやグループでのコミュニケーション活動	ペアやグループでのコミュニケーション活動にたいへん積極的に参加し、適切な表現を用いて対話をしたり、分からない人にアドバイスをしたりできる。	ペアやグループでのコミュニケーション活動にたいへん積極的に参加し、適切な表現を用いて対話ができる。	ペアやグループでのコミュニケーション活動にたいへん積極的に参加して対話ができる。	ペアやグループでのコミュニケーション活動に積極的に参加して対話ができる。	ペアやグループでのコミュニケーション活動に積極的に参加できない。
態度	2. 自律的な学び (予習・復習)	自ら進んで予習・復習の範囲を越えて学習し、必要に応じてその内容を自分の言葉で説明できる。	予習・復習の範囲を学習し、その内容を十分に理解した上で、自分の言葉で説明できる。	予習・復習の範囲を学習し、その内容を十分に理解している。	予習・復習の範囲を学習するが、その内容が不十分である。	予習・復習の範囲の学習ができていない。

2024年度授業概要(シラバス)

科目名	英語 I 2クラス			授業番号	CD201B	サブタイトル	実践英語 1		
教員	西田 寛子								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
授業概要	<p>本学の立地する岡山県の観光地、文化、習慣などについて外国人に紹介する対話文を扱い、英語の読解力を高めるとともに岡山についての理解が深まるように演習を通して講義する。ペアやグループ活動も取り入れ、最終的には、自ら素材を選んで岡山の紹介文を書き、英語で発表できる力を育成する。また、各自の英語の能力に応じた実用英語技能検定あるいは幼保英語検定の取得を目指す。</p>								
到達目標	<p>・英語の基本的な語彙、文法、文構造を理解できる。 ・英語の対話文を素早く正確に読み取り、その内容を理解できる。 ・日常的な話題や社会的な話題について、適切な表現を用いて伝え合うことができる。 ・地元岡山の文化や生活習慣等についての知識を身に付けている。 ・岡山の紹介文を作成し、Show and Tellの形で発表できる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉(技能)〈態度〉の修得に貢献する。</p>								
授業計画 備考									
回	概要						担当		
第1回	Introduction: 講座の目標、内容、評価方法を確認する。 1-1-2 Welcome to Okayama: 空港でALTを迎える場面での対話の内容を理解する。								
第2回	1-1-4 At Korakuen: 後楽園を案内する場面での対話の内容を理解する。								
第3回	1-2-1 Hofukuji and Sesshu: 宝福寺と雷舟に関する対話の内容を理解する。								
第4回	1-2-2 Kibijii District: 吉備路に関する対話の内容を理解する。								
第5回	1-2-4 Ohara Museum of Art: 大原美術館に関する対話の内容を理解する。								
第6回	1-3-1 Hiruzen Height: 葦山高原に関する対話の内容を理解する。 Achievement Test: 既習事項の到達度確認テストを受ける。								
第7回	1-3-2 A Trip to Inujima: 犬島への旅行に関する対話の内容を理解する。								
第8回	1-3-3 A One-day Trip to Kibitsu Shrine: 吉備津神社への日帰り旅行に関する対話の内容を理解する。								
第9回	1-3-5 Yunogo Hot Springs: 湯郷温泉に関する対話の内容を理解する。								
第10回	2-1-3 Gift Wrapping: 贈り物の包装に関する対話の内容を理解する。								
第11回	2-2-3 Covering Hakuto with Paper Bags: 白樺の袋かきに関する対話の内容を理解する。 Achievement Test: 既習事項の到達度確認テストを受ける。								
第12回	Introduction Report of Okayama: 岡山紹介のレポートを作成する。 Interview and Reading Test①: 教員からの英語の質問に答えるとともに、テキストの中からその場で指定された箇所を音読するマンツーマンのテストを受ける。								
第13回	Okayama Introduction Practice: 岡山紹介の練習をする。 Interview and Reading Test②: 教員からの英語の質問に答えるとともに、テキストの中からその場で指定された箇所を音読するマンツーマンのテストを受ける。								
第14回	Show and Tell of Okayama Introduction: 岡山紹介のShow and Tellをする。視聴する学生は聞き取り内容のメモをとり、発表者への質問をする。								
第15回	Future Goals: 将来に関する対話文の内容を理解し、各自の将来の夢について英語で書く。 Summary and Reflection of the Entire Lecture: 講義全体のまとめと省察								
授業計画 備考2	<p>・毎時間の最初、ペアでTopic Talk等のコミュニケーション活動を行い、英語によるコミュニケーション能力を高める。 ・テキストの内容理解後は、毎回ペアやグループで音読練習を行う。 * R6年度改定</p>								
評価の方法									
種別	割合	評価基準・その他備考							
授業への取り組みの姿勢/態度	40	・意欲的な受講態度（ペアやグループワークを含む）、ノート点検による予習・復習の状況を確認する。〈態度〉							
レポート	10	・テーマについて調査・整理・分析し、具体的かつ適切にまとめるかを評価する。（岡山の紹介）〈技能〉 * レポートについてはコメントを記入して返却するとともに、良い例はクラス全体で紹介する。							
小テスト	50	・既習事項の中から有用な語彙・表現の理解度を評価する。（到達度確認テスト）〈知識・理解〉 ・授業中のコミュニケーション活動や音読の到達度を確認する。（Interview and Reading Test）〈技能〉							

評価の方法：自由記載	
受講の心得	<ul style="list-style-type: none"> ・予習と復習を心がけ、自らの学びの状況を把握し向上させるよう、自主的で粘り強い学習に努めること。 ・授業中にはペアやグループでのコミュニケーション活動をするので積極的に参加すること。 ・実用英語検定あるいは幼保英語検定の問題集を購入し、検定合格を目標して学習すること。
授業外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト内容については授業までに2時間以上予習すること。 ・前時の授業内容については2時間以上復習しておくこと。 ・課題については十分に調査してレポートを作成すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
岡山からハロー	岡山口・パル英語研究会	山陽新聞社	978-4-88197-759-0:c00	1,000円
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の实務経歴	公立中学校教諭・指導教諭（28年）、公立中高一貫教育校指導教諭（6年）、公立小学校指導教諭（公立中学校指導教諭との兼務：1年）、県教育委員会指導主事（4年）での実務経験を有する。			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	英語科教員・指導主事としての実務経験（38年）を生かし、小学校や乳幼児教育施設等の英語教育に携わる指導者に求められる基礎的な英語力を育成する。			

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分レベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. 英語の基本的な語彙・文法・文構造の理解	英語の基本的な語彙・文法・文構造を十分正確に理解し、問いに対して9割以上の回答ができる。	英語の基本的な語彙・文法・文構造を正確に理解し、問いに対して8割以上の回答ができる。	英語の基本的な語彙・文法・文構造を理解し、問いに対して7割以上の回答ができる。	英語の基本的な語彙・文法・文構造について、やや理解できていないところもあるが、問いに対して6割以上の回答ができる。	英語の基本的な語彙・文法・文構造について、あまり理解できておらず、問いに対して6割未満の回答である。
知識・理解	2. 対話文の内容理解 (Reading)	英語で書かれた対話文の内容について、未習事項があっても、文の前後関係から類推する等して読み、人物の心情を考えたり、自分の意見と比較したりできる。	英語で書かれた対話文の内容について、未習事項があっても、文の前後関係から類推する等して正確に読み取ることができる。	英語で書かれた対話文の内容について、既習事項を用いて、正確に読み取ることができる。	英語で書かれた対話文の内容について、既習事項を用いて、ほぼ正確に読み取ることができる。	英語で書かれた対話文の内容について、既習事項を用いても、正確に読み取ることができない。
知識・理解	3. 対話文の内容理解 (Listening)	英語で書かれた対話文の内容について、未習事項があっても、文の前後関係から類推する等して聞き、人物の心情を考えたり、自分の意見と比較したりできる。	英語で書かれた対話文の内容について、未習事項があっても、文の前後関係から類推する等して正確に聞き取ることができる。	英語で書かれた対話文の内容について、既習事項を用いて、正確に聞き取ることができる。	英語で書かれた対話文の内容について、既習事項を用いて、ほぼ正確に聞き取ることができる。	英語で書かれた対話文の内容について、既習事項を用いても、正確に聞き取ることができない。
知識・理解	4. 地元岡山の文化や習慣等についての知識	地元岡山の文化や習慣等に関するテキスト以外の英文も自ら進んで読み、その知識を正確に身に付けている。	地元岡山の文化や習慣等に関するテキストの英文を読み、その知識を十分正確に身に付けている。	地元岡山の文化や習慣等に関するテキストの英文を読み、その知識を正確に身に付けている。	地元岡山の文化や習慣等に関するテキストの英文を読み、その知識をほぼ身に付けている。	地元岡山の文化や習慣等に関するテキストの英文を読むが、その知識が身に付いていない。
技能	1. 英語でのやりとり	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを、適切な表現を用いて伝え合うことができる。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを、伝え合うことができる。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを、伝え合うことができる。	日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを、伝え合うことができる。	日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを、伝え合うことができない。
技能	2. 英文の音読	正確な発音・イントネーションと適切なポーズ・声量で、感情を込めながら相手に伝わる工夫をして音読できる。	正確な発音・イントネーションと適切なポーズ・声量で、感情を込めて音読できる。	正確な発音・イントネーションと適切なポーズ・声量で音読できる。	ほぼ正確な発音・イントネーションとほぼ適切なポーズ・声量で音読できる。	正確な発音・イントネーションと適切なポーズ・声量で音読できない。
技能	3. 発表原稿の作成 (書くこと)	未習の語彙・表現は自ら進んで調べ、事実や自分の考え、気持ちを入れる等して、相手に伝わりやすい英文を書くことができる。	未習の語彙・表現は自ら進んで調べ、事実や自分の考え、気持ちを入れる等して書くことができる。	既習の語彙・表現を用いて、事実や自分の考え、気持ちを入れる等して書くことができる。	簡単な語彙・表現を用いて、事実について書くことができる。	簡単な語彙・表現を用いても、事実について書くことができない。
技能	4. Show and Tell (岡山紹介の発表)	適切な声量・アイコンタクト・姿勢で、原稿を見ずに実物や写真を示しながら、聞き手にわかりやすく伝えることができる。	適切な声量・アイコンタクト・姿勢で、あまり原稿を見ずに、実物や写真を示しながら、聞き手にわかりやすく伝えることができる。	適切な声量・姿勢で、実物や写真を示しながら、聞き手にわかりやすく伝えることができる。	適切な声量・姿勢で、実物や写真を示しながら、聞き手に伝えることができる。	聞き手にわかりやすく伝えることができない。
態度	1. ペアやグループでのコミュニケーション活動	ペアやグループでのコミュニケーション活動にたいへん積極的に参加し、適切な表現を用いて対話をしたり、分からない人にアドバイスをしたりできる。	ペアやグループでのコミュニケーション活動にたいへん積極的に参加し、適切な表現を用いて対話ができる。	ペアやグループでのコミュニケーション活動にたいへん積極的に参加して対話ができる。	ペアやグループでのコミュニケーション活動に積極的に参加して対話ができる。	ペアやグループでのコミュニケーション活動に積極的に参加できない。
態度	2. 自律的な学び (予習・復習)	自ら進んで予習・復習の範囲を越えて学習し、必要に応じてその内容を自分の言葉で説明できる。	予習・復習の範囲を学習し、その内容を十分に理解した上で、自分の言葉で説明できる。	予習・復習の範囲を学習し、その内容を十分に理解している。	予習・復習の範囲を学習するが、その内容が不十分である。	予習・復習の範囲の学習ができていない。

科目名	英語Ⅱ 1クラス	授業番号	CD202A	サブタイトル	実践英語Ⅱ
教員	西田 寛子				
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期
				授業形態	演習
					必修・選択
必修					
授業概要	最新かつ身近で興味深いテーマが取り上げられている文章を読解し、基本的な文法・語彙・表現を復習するとともに、各テーマに沿ったペアでのコミュニケーション活動を行う。また、スピーキング・リスニング・リーディング・ライティングの4技能を統合的に学ぶことにより、乳幼児教育施設における実践英語や、小学校での英語教育の基礎となる英語運用能力の向上を図る。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な語彙や文法・文構造を理解し、テーマに沿った文章の内容を正確に読解したり、リスニングにおいて正確に聞き取ったりできる。 ペアワークでのスピーキングやインタビューにおいて、自分の考えを的確に表現したり、相手の意見を正確に聞き取ったりできる。 予習をして意欲的に授業に参加し、授業後は疑問に思った点や確認すべき事項について復習する等、自律的に学ぶことができる。 本科目はマイクロマシリーに拠る上級士力の内容のうち、＜知識・理解＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。 				
授業計画 備考					
回	概要			担当	
第1回	<ul style="list-style-type: none"> -Introduction：講座の目標、内容、評価方法について確認する。 -UNIT 1：Resellers - Good or Bad? 転売ヤーに関する文章を読解し、その内容に関するリスニングとペアでの対話を行う。 				
第2回	<ul style="list-style-type: none"> -UNIT 2：About Earphones 昨今のイヤホン事情に関する文章を読解し、その内容に関するリスニングとペアでの対話を行う。 				
第3回	<ul style="list-style-type: none"> -UNIT 3：Cash Registers 有人/無人のレジに関する文章を読解し、その内容に関するリスニングとペアでの対話を行う。 				
第4回	<ul style="list-style-type: none"> -UNIT 4：Funny Happenings During Online Lessons オンライン授業で起きたバグに関する文章を読解し、その内容に関するリスニングとペアでの対話を行う。 				
第5回	<ul style="list-style-type: none"> -UNIT 5：Loose-Fitting Clothing 流行りのオーバーサイズの服に関する文章を読解し、その内容に関するリスニングとペアでの対話を行う。 				
第6回	<ul style="list-style-type: none"> -UNIT 6：Shrinkflation ショッピングに関する文章を読解し、その内容に関するリスニングとペアでの対話を行う。 -Unit 1～6のまとめをする。 				
第7回	<ul style="list-style-type: none"> -UNIT 7：Living in the Countryside 田舎暮らしに慣れる若者に関する文章を読解し、その内容に関するリスニングとペアでの対話を行う。 -Achievement Test: 読解事項の到達度確認テストを受ける。 				
第8回	<ul style="list-style-type: none"> -UNIT 8：Hanging Out in Streets and Parks 外で友人と過ごす大学生に関する文章を読解し、その内容に関するリスニングとペアでの対話を行う。 				
第9回	<ul style="list-style-type: none"> -UNIT 9：Plant Burgers Are Popular in America 植物ベースの代替肉ハンバーガーに関する文章を読解し、その内容に関するリスニングとペアでの対話を行う。 				
第10回	<ul style="list-style-type: none"> -UNIT 10：South Korean Culture Is Popular Worldwide 韓国文化に関する文章を読解し、その内容に関するリスニングとペアでの対話を行う。 				
第11回	<ul style="list-style-type: none"> -UNIT 11：Doxing ドキシングに関する文章を読解し、その内容に関するリスニングとペアでの対話を行う。 				
第12回	<ul style="list-style-type: none"> -UNIT 12：Fast Movies ファスト映画に関する文章を読解し、その内容に関するリスニングとペアでの対話を行う。 -UNIT 7～12のまとめをする。 				
第13回	<ul style="list-style-type: none"> -UNIT 13：Do We Need "Dislike" Button on Social Media? 「嫌い」ボタンは必要かどうかに関する文章を読解し、その内容に関するリスニングとペアでの対話を行う。 -Achievement Test: 読解事項の到達度確認テストを受ける。 				
第14回	<ul style="list-style-type: none"> -UNIT 14：Ramen Subscription サブスクリプションに関する文章を読解し、その内容に関するリスニングとペアでの対話を行う。 				
第15回	<ul style="list-style-type: none"> -UNIT 15：Which Video-Sharing App Is Best? おすすめの動画共有アプリに関する文章を読解し、その内容に関するリスニングとペアでの対話を行う。 -講座全体のまとめと宿題をする。 				
授業計画 備考2	各回のUNITにおいて、読解の確認→文章読解・要約→文法・リスニング→スピーキング（ペアワーク）を行う。 * R6年度改定				
評価の方法					
種別	割合	評価基準・その他備考			
授業への取り組みの姿勢/態度	40	意欲的な受講態度、ノート点検による予習・復習の内容を評価する。＜態度＞			
スピーキング・インタビュー	10	ペアワークにおけるスピーキングやインタビューについて、自分の考えを的確に表現したり、相手の意見を正確に理解できているかを評価する。＜技能＞			
小テスト	50	到達度確認テストにおいて、語彙・表現の理解度ならびにリスニング力を評価する。＜知識・理解＞			

評価の方法：自由記載	
受講の心得	・予習と復習を必ず行い、自らの学びの状況を把握し向上できるように、自主的で粘り強い学習に努めること。 授業中にはペアやグループでのコミュニケーション活動を実施するので積極的に取り組むこと。
授業外学習	・テキストの内容については授業までに2時間以上予習すること。 ・授業内容について定着が図られるよう、2時間以上復習すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
Trend Scope	Jonathan Lynch, 委文光太郎	成美堂	978-4-7919-7265-4	2,640円
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の实務経験	公立中学校教諭・指導教諭（28年）、公立中高一貫教育校指導教諭（6年）、公立小学校指導教諭（公立中学校指導教諭との兼務：1年）、県教育委員会指導主事（4年）での実務経験を有する。			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかけた教育内容	英語科教員・指導主事としての実務経験（38年）を生かし、乳幼児教育施設や小学校等の英語教育に関わる指導者に求められる実践的な英語力を育成する。			

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. 英語の基本的な語彙・文法・文構造の理解	英語の基本的な語彙・文法・文構造を十分に正確に理解し、問いに対して9割以上の回答ができる。	英語の基本的な語彙・文法・文構造を正確に理解し、問いに対して8割以上の回答ができる。	英語の基本的な語彙・文法・文構造を理解し、問いに対して7割以上の回答ができる。	英語の基本的な語彙・文法・文構造について、やや理解できていないところもあるが、問いに対して6割以上の回答ができる。	英語の基本的な語彙・文法・文構造について、あまり理解できておらず、問いに対して6割未満の回答である。
知識・理解	2. 対話文の内容理解 (Reading)	英語で書かれた対話文の内容について、未習事項があっても、文の前後関係から類推する等して読み、人物の心情を考えたり、自分の意見と比較したりできる。	英語で書かれた対話文の内容について、未習事項があっても、文の前後関係から類推する等して正確に読み取ることができる。	英語で書かれた対話文の内容について、既習事項を用いて、正確に読み取ることができる。	英語で書かれた対話文の内容について、既習事項を用いて、ほぼ正確に読み取ることができる。	英語で書かれた対話文の内容について、既習事項を用いても、正確に読み取ることができない。
知識・理解	3. 対話文の内容理解 (Listening)	英語で書かれた対話文の内容について、未習事項があっても、文の前後関係から類推する等して聞き、人物の心情を考えたり、自分の意見と比較したりできる。	英語で書かれた対話文の内容について、未習事項があっても、文の前後関係から類推する等して正確に聞き取ることができる。	英語で書かれた対話文の内容について、既習事項を用いて、正確に聞き取ることができる。	英語で書かれた対話文の内容について、既習事項を用いて、ほぼ正確に聞き取ることができる。	英語で書かれた対話文の内容について、既習事項を用いても、正確に聞き取ることができない。
技能	1. 英語でのやりとり	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的话题や社会的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを、適切な表現を用いて伝え合うことができる。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的话题や社会的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを、伝え合うことができる。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的话题について、事実や自分の考え、気持ちなどを、伝え合うことができる。	日常的话题について、事実や自分の考え、気持ちなどを、伝え合うことができる。	日常的话题について、事実や自分の考え、気持ちなどを、伝え合うことができない。
態度	1. ペアやグループでのコミュニケーション活動	ペアやグループでのコミュニケーション活動にたいへん積極的に参加し、適切な表現を用いて対話をしたり、分からない人にアドバイスをしたりできる。	ペアやグループでのコミュニケーション活動にたいへん積極的に参加し、適切な表現を用いて対話ができる。	ペアやグループでのコミュニケーション活動にたいへん積極的に参加して対話ができる。	ペアやグループでのコミュニケーション活動に積極的に参加して対話ができる。	ペアやグループでのコミュニケーション活動に積極的に参加できない。
態度	2. 自律的な学び (予習・復習)	自ら進んで予習・復習の範囲を越えて学修し、必要に応じてその内容を自分の言葉で説明できる。	予習・復習の範囲を学修し、その内容を十分に理解した上で、自分の言葉で説明できる。	予習・復習の範囲を学修し、その内容を十分に理解している。	予習・復習の範囲を学修するが、その内容が不十分である。	予習・復習の範囲の学修ができていない。

科目名	英語Ⅱ 2クラス			授業番号	CD202B	サブタイトル	実践英語Ⅱ		
教員	西田 寛子								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
授業概要	最新かつ身近で興味深いテーマが取り上げられている文章を読解し、基本的な文法・語彙・表現を復習するとともに、各テーマに沿ったペアでのコミュニケーション活動を行う。また、スピーキング・リスニング・リーディング・ライティングの4技能を統合的に学ぶことにより、乳幼児教育施設における実践英語や、小学校での英語教育の基礎となる英語運用能力の向上を図る。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な語彙や文法・文構造を理解し、テーマに沿った文章の内容を正確に読解したり、リスニングにおいて正確に聞き取ったりできる。 ペアワークでのスピーキングやインタビューにおいて、自分の考えを的確に表現したり、相手の意見を正確に聞き取ったりできる。 予習をして意欲的に授業に参加し、授業後は疑問に思った点や確認すべき事項について復習する等、自律的に学ぶことができる。 本科目はマイクロモジュール制に基づいた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。 								
授業計画 備考									
回	概要						担当		
第1回	<ul style="list-style-type: none"> -Introduction: 講座の目標、内容、評価方法について確認する。 -UNIT 1: Resellers - Good or Bad? 転売ヤーに関する文章を読解し、その内容に関するリスニングとペアでの対話を行う。 								
第2回	<ul style="list-style-type: none"> -UNIT 2: About Earphones 昨今のイヤホン事情に関する文章を読解し、その内容に関するリスニングとペアでの対話を行う。 								
第3回	<ul style="list-style-type: none"> -UNIT 3: Cash Registers 有人/無人のレジに関する文章を読解し、その内容に関するリスニングとペアでの対話を行う。 								
第4回	<ul style="list-style-type: none"> -UNIT 4: Funny Happenings During Online Lessons オンライン授業で起きたバグに関する文章を読解し、その内容に関するリスニングとペアでの対話を行う。 								
第5回	<ul style="list-style-type: none"> -UNIT 5: Loose-Fitting Clothing 流行りのオーバーサイズの服に関する文章を読解し、その内容に関するリスニングとペアでの対話を行う。 								
第6回	<ul style="list-style-type: none"> -UNIT 6: Shrinkflation ショッピングに関する文章を読解し、その内容に関するリスニングとペアでの対話を行う。 -Unit 1～6のまとめをする。 								
第7回	<ul style="list-style-type: none"> -UNIT 7: Living in the Countryside 田舎暮らしに慣れる若者に関する文章を読解し、その内容に関するリスニングとペアでの対話を行う。 -Achievement Test: 既習事項の到達度確認テストを受ける。 								
第8回	<ul style="list-style-type: none"> -UNIT 8: Hanging Out in Streets and Parks 外で友人と過ごす大学生に関する文章を読解し、その内容に関するリスニングとペアでの対話を行う。 								
第9回	<ul style="list-style-type: none"> -UNIT 9: Plant Burgers Are Popular in America 植物ベースの代替肉ハンバーガーに関する文章を読解し、その内容に関するリスニングとペアでの対話を行う。 								
第10回	<ul style="list-style-type: none"> -UNIT 10: South Korean Culture Is Popular Worldwide 韓国文化に関する文章を読解し、その内容に関するリスニングとペアでの対話を行う。 								
第11回	<ul style="list-style-type: none"> -UNIT 11: Diving ドキニングに関する文章を読解し、その内容に関するリスニングとペアでの対話を行う。 								
第12回	<ul style="list-style-type: none"> -UNIT 12: Fast Movies ファスト映画に関する文章を読解し、その内容に関するリスニングとペアでの対話を行う。 -UNIT 7～12のまとめをする。 								
第13回	<ul style="list-style-type: none"> -UNIT 13: Do We Need "Dislike" Button on Social Media? 「嫌い」ボタンは必要かどうかに関する文章を読解し、その内容に関するリスニングとペアでの対話を行う。 -Achievement Test: 既習事項の到達度確認テストを受ける。 								
第14回	<ul style="list-style-type: none"> -UNIT 14: Ramen Subscription サブスクリプションに関する文章を読解し、その内容に関するリスニングとペアでの対話を行う。 								
第15回	<ul style="list-style-type: none"> -UNIT 15: Which Video-Sharing App Is Best? おすすめの動画共有アプリに関する文章を読解し、その内容に関するリスニングとペアでの対話を行う。 -講座全体のまとめと宿習をする。 								
授業計画 備考2	各回のUNITにおいて、読解の確認→文章読解・要約→文法・リスニング→スピーキング（ペアワーク）を行う。 * R6年度改定								
評価の方法									
種別	割合	評価基準・その他備考							
授業への取り組みの姿勢/態度	40	意欲的な受講態度、ノート点検による予習・復習の内容を評価する。〈態度〉							
スピーキング・インタビュー	10	ペアワークにおけるスピーキングやインタビューについて、自分の考えを的確に表現したり、相手の意見を正確に理解できているかを評価する。〈技能〉							
小テスト	50	到達度確認テストにおいて、語彙・表現の理解度ならびにリスニング力を評価する。〈知識・理解〉							

評価の方法：自由記載	
受講の心得	・予習と復習を必ず行い、自らの学びの状況を把握し向上できるように、自主的で粘り強い学習に努めること。 ・授業中にはペアやグループでのコミュニケーション活動を実施するので積極的に取り組むこと。
授業外学習	・テキストの内容については授業までに2時間以上予習すること。 ・授業内容について定着が図られるよう、2時間以上復習すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
Trend Scope	Jonathan Lynch, 委文光太郎	成美堂	978-4-7919-7265-4	2,640円

使用テキスト：自由記載

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載

その他	
-----	--

備考	
----	--

注意事項	
------	--

担当教員の実務経験の有無	有
--------------	---

担当教員の実務経験	公立中学校教諭・指導教諭（28年）、公立中高一貫教育校指導教諭（6年）、公立小学校指導教諭（公立中学校指導教諭との兼務：1年）、県教育委員会指導主事（4年）での実務経験を有する。
-----------	---

担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
-----------------------	--

担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
--------------------	--

実務経験をいかにした教育内容	英語科教員・指導主事としての実務経験（38年）を生かし、乳幼児教育施設や小学校等の英語教育に関わる指導者に求められる実践的な英語力を育成する。
----------------	---

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. 英語の基本的な語彙・文法・文構造の理解	英語の基本的な語彙・文法・文構造を十分に正確に理解し、問いに対して9割以上の回答ができる。	英語の基本的な語彙・文法・文構造を正確に理解し、問いに対して8割以上の回答ができる。	英語の基本的な語彙・文法・文構造を理解し、問いに対して7割以上の回答ができる。	英語の基本的な語彙・文法・文構造について、やや理解できていないところもあるが、問いに対して6割以上の回答ができる。	英語の基本的な語彙・文法・文構造について、あまり理解できておらず、問いに対して6割未満の回答である。
知識・理解	2. 対話文の内容理解 (Reading)	英語で書かれた対話文の内容について、未習事項があっても、文の前後関係から類推する等して読み、人物の心情を考えたり、自分の意見と比較したりできる。	英語で書かれた対話文の内容について、未習事項があっても、文の前後関係から類推する等して正確に読み取ることができる。	英語で書かれた対話文の内容について、既習事項を用いて、正確に読み取ることができる。	英語で書かれた対話文の内容について、既習事項を用いて、ほぼ正確に読み取ることができる。	英語で書かれた対話文の内容について、既習事項を用いても、正確に読み取ることができない。
知識・理解	3. 対話文の内容理解 (Listening)	英語で書かれた対話文の内容について、未習事項があっても、文の前後関係から類推する等して聞き、人物の心情を考えたり、自分の意見と比較したりできる。	英語で書かれた対話文の内容について、未習事項があっても、文の前後関係から類推する等して正確に聞き取ることができる。	英語で書かれた対話文の内容について、既習事項を用いて、正確に聞き取ることができる。	英語で書かれた対話文の内容について、既習事項を用いて、ほぼ正確に聞き取ることができる。	英語で書かれた対話文の内容について、既習事項を用いても、正確に聞き取ることができない。
技能	1. 英語でのやりとり	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的话题や社会的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを、適切な表現を用いて伝え合うことができる。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的话题や社会的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを、伝え合うことができる。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的话题について、事実や自分の考え、気持ちなどを、伝え合うことができる。	日常的话题について、事実や自分の考え、気持ちなどを、伝え合うことができる。	日常的话题について、事実や自分の考え、気持ちなどを、伝え合うことができない。
態度	1. ペアやグループでのコミュニケーション活動	ペアやグループでのコミュニケーション活動にたいへん積極的に参加し、適切な表現を用いて対話をしたり、分からない人にアドバイスをしたりできる。	ペアやグループでのコミュニケーション活動にたいへん積極的に参加し、適切な表現を用いて対話ができる。	ペアやグループでのコミュニケーション活動にたいへん積極的に参加して対話ができる。	ペアやグループでのコミュニケーション活動に積極的に参加して対話ができる。	ペアやグループでのコミュニケーション活動に積極的に参加できない。
態度	2. 自律的な学び (予習・復習)	自ら進んで予習・復習の範囲を越えて学修し、必要に応じてその内容を自分の言葉で説明できる。	予習・復習の範囲を学修し、その内容を十分に理解した上で、自分の言葉で説明できる。	予習・復習の範囲を学修し、その内容を十分に理解している。	予習・復習の範囲を学修するが、その内容が不十分である。	予習・復習の範囲の学修ができていない。

科目名	韓国語			授業番号	CD204	サブタイトル	[韓国語の基礎を学ぶ]		
教員	宋 煥沃								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	近年韓国の映画、音楽、食べ物などの文化や社会生活が世界から注目され、韓国への関心が一層高まっている。こうした関心は韓国語の習得につながり、韓国語はどのような仕組みで作られているのかを知っていく必要がある。韓国語と日本語は文法が類似していると同時に、言葉によって大切な語彙がほとんど一致している。本講義は、前半では韓国語学習を思い始める初歩の段階としてハングルの基礎から始まり、韓国語のごく初級・文の読み書き、聞き取りを学習する。後半では日常会話として自己紹介、挨拶の言葉、韓国旅行のための簡単な会話など、基本的なやり取りの実践的な力をつける。また、韓国の若者の意識、大学生活、エンターテインメント、社会への理解を深めるため、ビデオ鑑賞を行う。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> -韓国語の基礎的な文法、発音を理解して活用できる。 -簡単な韓国語の読み書きができる。 -韓国語の挨拶や簡単な会話ができるようになる。 なお、本科目はデパートコースに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
回	概要						担当		
第1回	韓国語とは 韓国語はいつ作られ、どのように作られたのかをハングルの由来、韓国語の歴史的な経緯を学習する。								
第2回	文字と発音・母音 韓国語の特徴や文字の基本構成を学び、その仕組みを理解する。								
第3回	文字と発音・子音 韓国語の特徴や文字の基本構成を学び、その仕組みを理解する。								
第4回	敬音と重音、パッチム 韓国語の基本母音と子音から表れる敬音と重音の発音の違いについて学習する。 終声子音の「パッチム」について理解する。								
第5回	韓国語の動詞、動詞 韓国語の一文を完成するための動詞と動詞の仕組みについて学習する。								
第6回	基本文型の過去形の作り方 基本文型の現在から過去、未来はどのように表現されているのかを学習する。								
第7回	感嘆文・疑問文の形式 韓国語の感嘆文や疑問文を簡単な言葉を用いて理解する。								
第8回	基本文型の指示代名詞・助数詞 韓国語の指示代名詞を事例から説明し、一つの文章を作るようにする。								
第9回	用語の丁寧形・尊敬形 韓国語の丁寧形や尊敬形を具体例から学び、理解する。								
第10回	会話練習・表現 文章の基礎的な仕組みから短い表現を学習する。								
第11回	挨拶・訪問の言葉 韓国語の基本的な挨拶の言葉を学習する。								
第12回	韓国の大学と若者 韓国の大学と日本の大学との違い、若者の意識について理解する。								
第13回	韓国の食生活と食べ物 韓国の食生活や近年関心が高まっている食べ物について学習する。								
第14回	韓国の映画と文化 韓国のエンターテインメントや映画について理解する。								
第15回	韓国の音楽と日常会話 近年のKPOPや音楽について、日常会話を用いて学習する。								
授業計画 備考2									

評価の方法		
種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢や態度	20	授業への意欲、質問、課題を積極的に取り組んでいたかを評価する。
小テスト	40	授業の中間時点で、どの程度内容を理解しているのかを確認する。
期末テスト	40	授業全体の理解度や言葉の習得ができていたかを評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	毎回の教科書の授業内容に相当する部分を前もって読み、疑問点をチェックして来ること。
授業外学修	・予習として、教科書の授業内容に相当する部分を前もって読むこと。 ・復習として、課題をノートに書いて来ること。 ・韓国語の教科書のCDを聞くようにして、言葉に慣れること。 以上の内容を適当に94時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
はじめての韓国語	李昌圭	ナツメ社	978-4-8163-5558-5	1,600円+税
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の業務経験の有無	無			
担当教員の業務経験				
担当教員以外で指導に関わる業務経験者の有無				
担当教員以外で指導に関わる業務経験者				
業務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. 外国語や韓国語の必要性を十分に認識している	韓国語の必要性をほぼ理解している	韓国語の文法の仕組みや会話の基本構造をほぼ理解している	韓国語の文法の仕組みをほぼ理解している	韓国語は理解しているが、具体的な知識が十分でない	あまり外国語に対して興味を持たない
知識・理解	2. 新しい知識として外国語の必要性を十分に認識している	言葉の仕組みや子音・母音を十分に理解している	知識として韓国語の発音や会話の仕組みが理解できる	知識として韓国語の発音や会話の仕組みが理解できる	韓国語の文字体系を理解しようとしていない	外国語や他の国のことを理解していない
知識・理解	3. 韓国語の学ぶ上で韓国の文化や社会のことを認識している	韓国で起こっている諸問題から対応策を考えられる	最近の韓国文化に興味を持って勉強に取り組んでいる	学生自ら進んで韓国語を学習する能力が備えている	あまり外国の文化や言葉を理解しようとしていない	韓国のこと、韓国語にあまり関心が少ない
技能	1. 新しい言葉を身につけることで自分の知識が深まる	韓国語の基礎が出来ており、自ら進んで韓国の文化に関しても勉強している	韓国語の会話や発音の子音・母音の体系が理解できている	韓国語の発音の仕組み、会話の基礎が出来ている	韓国語を学習する目的や基礎知識が理解できていない	韓国語の内容や発音の体系が理解できていない
技能	2. 外国語を学ぶことで一層他文化に対する理解が深まる	韓国語の基礎知識は十分に備え、自ら進んで韓国の文化を勉強している	韓国語の基礎知識を備えられ、その国のことまで把握できる	韓国語の会話がほぼ理解でき、韓国の社会に関しても知ろうとしている	外国語を修得し、1つでも自分の知識を増やすことの重要性が認識できていない	韓国語を学ぶことの意味と目的が明確ではない
技能	3. 外国語や海外の人や文化を通じて自国のことや自分のことを再考することになる	韓国語の学習が十分にでき、今日のグローバル社会が理解できる	韓国語の学習を通じて他の国のことが理解できる	韓国語の基礎知識が勉強でき、他の語学にも興味を持つことが可能になる	韓国語の基本的発音体系や会話を身につける意味が認識できていない	韓国語の内容や発音の体系をどのように理解し、勉強しようかという認識ができていない

科目名	英語Ⅲ 1クラス	授業番号	CD303A	サブタイトル	実践英語Ⅲ
教員	西田 寛子				
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期
				授業形態	演習
					必修・選択
授業概要	アメリカの日常生活を描いた映像資料を題材にして、英語の4技能をバランスよく使いながら言語活動に取り組み、英語運用能力の向上を図るとともに、アメリカ文化についても学修する。具体的には、各回において、映像資料を視聴してその内容について確認し、抜粋したシーンを使って会話表現を練習する。次に、文法項目を確認し、練習問題に取り組み、そして、スライドショーによりロサンゼルスやアメリカ文化について深く学んだ後、ターゲットダンスを用いたライティング活動を行う。以上のように、様々な言語活動を行うことを通して、乳幼児教育施設や小学校における英語教育の基礎となる英語運用能力の向上を図る。				
到達目標	・基本的な語彙、文法、文構造を理解し、テーマに沿った文章の内容を正確に読解したり、リスニングにおいて正確に聞き取ったりできる。 ・映像資料を活用しながら異文化理解を深める。 ・ペアやグループでのコミュニケーション活動において、自分の考えを的確に表現したり、相手の意見を正確に聞き取ったりできる。 ・予習をして意欲的に授業に参加し、授業後は疑問に思った点や練習すべき事項について復習する等、自律的に学ぶことができる。 なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈能力〉の修得に貢献する。				
授業計画 備考					
回	概要			担当	
第1回	・Introduction: 本講座の目標、内容、評価方法について理解する。 ・Unit 1 Welcome to L.A. 上記トピックに関する映像資料を視聴し、その内容に関する言語活動に英語の4技能を用いて取り組む。				
第2回	・Unit 2 I Love Fruit! 上記トピックに関する映像資料を視聴し、その内容に関する言語活動に英語の4技能を用いて取り組む。				
第3回	・Unit 3 Campus Life 上記トピックに関する映像資料を視聴し、その内容に関する言語活動に英語の4技能を用いて取り組む。				
第4回	・Unit 4 Lunchtime 上記トピックに関する映像資料を視聴し、その内容に関する言語活動に英語の4技能を用いて取り組む。				
第5回	・Unit 5 First Date 上記トピックに関する映像資料を視聴し、その内容に関する言語活動に英語の4技能を用いて取り組む。				
第6回	・Unit 6 Where's Linda? 上記トピックに関する映像資料を視聴し、その内容に関する言語活動に英語の4技能を用いて取り組む。 ・Unit 1～6のまとめをする。				
第7回	・Unit 7 Andy's News 上記トピックに関する映像資料を視聴し、その内容に関する言語活動に英語の4技能を用いて取り組む。 ・Achievement Test: 既習事項の到達度確認テストを受ける。				
第8回	・Unit 8 Shopping in Santa Monica 上記トピックに関する映像資料を視聴し、その内容に関する言語活動に英語の4技能を用いて取り組む。				
第9回	・Unit 9 Moving Day 上記トピックに関する映像資料を視聴し、その内容に関する言語活動に英語の4技能を用いて取り組む。				
第10回	・Unit 10 A Beautiful View 上記トピックに関する映像資料を視聴し、その内容に関する言語活動に英語の4技能を用いて取り組む。				
第11回	・Unit 11 Sunday Fun 上記トピックに関する映像資料を視聴し、その内容に関する言語活動に英語の4技能を用いて取り組む。				
第12回	・Unit 12 Seeing Stars 上記トピックに関する映像資料を視聴し、その内容に関する言語活動に英語の4技能を用いて取り組む。 ・Unit 7～12のまとめをする。				
第13回	・Unit 13 Buying Food for a BBQ 上記トピックに関する映像資料を視聴し、その内容に関する言語活動に英語の4技能を用いて取り組む。 ・Achievement Test: 既習事項の到達度確認テストを受ける。				
第14回	・Unit 14 Putting on a New Face 上記トピックに関する映像資料を視聴し、その内容に関する言語活動に英語の4技能を用いて取り組む。				
第15回	・Unit 15 Nice Surprises 上記トピックに関する映像資料を視聴し、その内容に関する言語活動に英語の4技能を用いて取り組む。 ・講座全体のまとめと宿習をする。				
授業計画 備考2	* R6年度改定				
評価の方法					
	種別	割合	評価基準・その態備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度	40	意欲的な受講態度、言語活動への積極的な取り組み、課題や予習の取り組み姿勢などを評価する。〈態度〉		
	言語活動における技能	10	言語活動において、自分の考えを的確に表現できているかどうかを評価する。〈技能〉		
	小テスト	50	到達度確認テストにおける語彙・表現の理解度ならびにリスニング力を評価する。〈知識・理解〉 * テスト返却時に、全体的な傾向や今後の学修のポイントを解説する。		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	<ul style="list-style-type: none"> ・言語活動に積極的に取り組むこと。 ・予習・復習において、音声ファイルをダウンロードして自主的に学修すること。
授業外学修	<ul style="list-style-type: none"> ・予習として、授業で指示された箇所を読み、その問題をしておくこと。 ・復習として、授業で学んだ文法事項と英語表現をノートに書いて練習し、知識として定着させること。また、音声データをダウンロードして音声を確認し、音読すること。 以上の内容を、適当に4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
We Love LA! ～映像で学ぶ大学基礎英語～	Robert Hickling 白倉美里	金屋堂	978-4-7647-4049-5	2,500円+税
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	公立中学校教諭・指導教諭（28年）、公立中高一貫教育校指導教諭（6年）、公立小学校指導教諭（公立中学校指導教諭との兼務：1年）、県教育委員会指導主事（4年）での実務経験を有する。			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかにした教育内容	英語科教員・指導主事としての実務経験（38年）を生かし、乳幼児教育施設や小学校等の英語教育に関わる指導者に求められる総合的な英語運用能力を育成する。			

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学土力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. 英語の基本的な語彙・文法・文構造の理解	英語の基本的な語彙・文法・文構造を十分に理解し、問いに対して9割以上の回答ができる。	英語の基本的な語彙・文法・文構造を正確に理解し、問いに対して8割以上の回答ができる。	英語の基本的な語彙・文法・文構造を理解し、問いに対して7割以上の回答ができる。	英語の基本的な語彙・文法・文構造について、やや理解できていないところもあるが、問いに対して6割以上の回答ができる。	英語の基本的な語彙・文法・文構造について、あまり理解できておらず、問いに対して6割未満の回答である。
知識・理解	2. 英文の内容理解 (Reading)	英文の内容について、未習事項があっても、文の前後関係から類推する等して読み、人物の心情を考えたり、自分の意見と比較したりできる。	英文の内容について、未習事項があっても、文の前後関係から類推する等して正確に読み取ることができる。	英文の内容について、既習事項を用いて、正確に読み取ることができる。	英文の内容について、既習事項を用いて、ほぼ正確に読み取ることができる。	英文の内容について、既習事項を用いても、正確に読み取ることができない。
知識・理解	3. 英文の内容理解 (Listening)	英文の内容について、未習事項があっても、文の前後関係から類推する等して聞き、人物の心情を考えたり、自分の意見と比較したりできる。	英文の内容について、未習事項があっても、文の前後関係から類推する等して正確に聞き取ることができる。	英文の内容について、既習事項を用いて、正確に聞き取ることができる。	英文の内容について、既習事項を用いて、ほぼ正確に聞き取ることができる。	英文の内容について、既習事項を用いても、正確に聞き取ることができない。
知識・理解	4. 異文化理解 (アメリカ文化や生活習慣等)	アメリカの文化や習慣等に関するテキスト以外の英文も自ら進んで読み、その知識を正確に身に付けている。	アメリカの文化や生活習慣に関するテキストの英文を読み、その知識を十分かつ正確に身に付けている。	アメリカの文化や習慣等に関するテキストの英文を読み、その知識を正確に身に付けている。	アメリカの文化や習慣等に関するテキストの英文を読み、その知識をほぼ身に付けている。	アメリカの文化や習慣等に関するテキストの英文を読むが、その知識が身に付いていない。
技能	1. 英語でのやりとり	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを、適切な表現を用いて伝え合うことができる。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを、伝え合うことができる。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを、伝え合うことができる。	日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを、伝え合うことができる。	日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを、伝え合うことができない。
態度	1. ペアやグループでのコミュニケーション活動	ペアやグループでのコミュニケーション活動にたいへん積極的に参加し、適切な表現を用いて対話をしたり、分からない人にアドバイスをしたりできる。	ペアやグループでのコミュニケーション活動にたいへん積極的に参加し、適切な表現を用いて対話ができる。	ペアやグループでのコミュニケーション活動にたいへん積極的に参加して対話ができる。	ペアやグループでのコミュニケーション活動に積極的に参加して対話ができる。	ペアやグループでのコミュニケーション活動に積極的に参加できない。
態度	2. 自律的な学び (予習・復習)	自ら進んで予習・復習の範囲を越えて学修し、必要に応じてその内容を自分の言葉で説明できる。	予習・復習の範囲を学修し、その内容を十分に理解した上で、自分の言葉で説明できる。	予習・復習の範囲を学修し、その内容を十分に理解している。	予習・復習の範囲を学修するが、その内容が不十分である。	予習・復習の範囲の学修ができていない。

科目名	英語Ⅲ 2クラス	授業番号	CD303B	サブタイトル	実践英語Ⅲ
教員	西田 寛子				
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期
				授業形態	演習
					必修・選択
授業概要	アメリカの日常生活を描いた映像資料を題材にして、英語の4技能をバランスよく使いながら言語活動に取り組み、英語運用能力の向上を図るとともに、アメリカ文化についても学修する。具体的には、各回において、映像資料を視聴してその内容について確認し、抜粋したシーンを使って会話表現を練習する。次に、文法項目を確認し、練習問題に取り組み、そして、スライドショーによりロサンゼルスやアメリカ文化について深く学んだ後、ターゲットダンスを用いたライティング活動を行う。以上のように、様々な言語活動を行うことを通して、乳幼児教育施設や小学校における英語教育の基礎となる英語運用能力の向上を図る。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な語彙、文法、文構造を理解し、テーマに沿った文章の内容を正確に読解したり、リスニングにおいて正確に聞き取ったりできる。 映像資料を活用しながら異文化理解を深める。 ペアやグループでのコミュニケーション活動において、自分の考えを的確に表現したり、相手の意見を正確に聞き取ったりできる。 予習をして意欲的に授業に参加し、授業後は疑問に思った点や練習すべき事項について復習する等、自律的に学ぶことができる。 なお、本科目はディグリーポリシーに掲げた学士学位の内容のうち、〈知識・理解〉〈能力〉の修得に貢献する。				
授業計画 備考					
回	概要			担当	
第1回	-Introduction: 本講座の目標、内容、評価方法について理解する。 -Unit 1 Welcome to L.A. 上記トピックに関する映像資料を視聴し、その内容に関する言語活動に英語の4技能を用いて取り組む。				
第2回	-Unit2 I Love Fruit! 上記トピックに関する映像資料を視聴し、その内容に関する言語活動に英語の4技能を用いて取り組む。				
第3回	-Unit 3 Campus Life 上記トピックに関する映像資料を視聴し、その内容に関する言語活動に英語の4技能を用いて取り組む。				
第4回	-Unit 4 Lunchtime 上記トピックに関する映像資料を視聴し、その内容に関する言語活動に英語の4技能を用いて取り組む。				
第5回	-Unit 5 First Date 上記トピックに関する映像資料を視聴し、その内容に関する言語活動に英語の4技能を用いて取り組む。				
第6回	-Unit 6 Where's Linda? 上記トピックに関する映像資料を視聴し、その内容に関する言語活動に英語の4技能を用いて取り組む。 -Unit1～6のまとめをする。				
第7回	-Unit 7 Andy's News 上記トピックに関する映像資料を視聴し、その内容に関する言語活動に英語の4技能を用いて取り組む。 -Achievement Test: 既習事項の到達度確認テストを受ける。				
第8回	-Unit 8 Shopping in Santa Monica 上記トピックに関する映像資料を視聴し、その内容に関する言語活動に英語の4技能を用いて取り組む。				
第9回	-Unit 9 Moving Day 上記トピックに関する映像資料を視聴し、その内容に関する言語活動に英語の4技能を用いて取り組む。				
第10回	-Unit10 A Beautiful View 上記トピックに関する映像資料を視聴し、その内容に関する言語活動に英語の4技能を用いて取り組む。				
第11回	-Unit11 Sunday Fun 上記トピックに関する映像資料を視聴し、その内容に関する言語活動に英語の4技能を用いて取り組む。				
第12回	-Unit 12 Seeing Stars 上記トピックに関する映像資料を視聴し、その内容に関する言語活動に英語の4技能を用いて取り組む。 -Unit7～12のまとめをする。				
第13回	-Unit 13 Buying Food for a BBQ 上記トピックに関する映像資料を視聴し、その内容に関する言語活動に英語の4技能を用いて取り組む。 -Achievement Test: 既習事項の到達度確認テストを受ける。				
第14回	-Unit 14 Putting on a New Face 上記トピックに関する映像資料を視聴し、その内容に関する言語活動に英語の4技能を用いて取り組む。				
第15回	-Unit 15 Nice Surprises 上記トピックに関する映像資料を視聴し、その内容に関する言語活動に英語の4技能を用いて取り組む。 -講座全体のまとめと宿習をする。				
授業計画 備考2	* R6年度改定				

評価の方法		
種別	割合	評価基準・その態備考
授業への取り組みの姿勢/態度	40	意欲的な受講態度、言語活動への積極的な取り組み、課題や予習の取り組み姿勢などを評価する。〈態度〉
言語活動における技能	10	言語活動において、自分の考えを的確に表現できているかどうかを評価する。〈技能〉
小テスト	50	到達度確認テストにおける語彙・表現の理解度ならびにリスニング力を評価する。〈知識・理解〉 * テスト返却時に、全体的な傾向や今後の学修のポイントを解説する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	<ul style="list-style-type: none"> ・言語活動に積極的に取り組むこと。 ・予習・復習において、音声ファイルをダウンロードして自主的に学修すること。
授業外学修	<ul style="list-style-type: none"> ・予習として、授業で指示された箇所を読み、その問題をしておくこと。 ・復習として、授業で学んだ文法事項と英語表現をノートに書いて練習し、知識として定着させること。また、音声データをダウンロードして音声を確認し、音読すること。 以上の内容を、適当に4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
We Love LA! ～映像で学ぶ大学基礎英語～	Robert Hickling 白倉美里	金屋堂	978-4-7647-4049-5	2,500円+税
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	公立中学校教諭・指導教諭（28年）、公立中高一貫教育校指導教諭（6年）、公立小学校指導教諭（公立中学校指導教諭との兼務：1年）、県教育委員会指導主事（4年）での実務経験を有する。			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかけた教育内容	英語科教員・指導主事としての実務経験（38年）を生かし、乳幼児教育施設や小学校等の英語教育に関わる指導者に求められる総合的な英語運用能力を育成する。			

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 英語の基本的な語彙・文法・文構造の理解	英語の基本的な語彙・文法・文構造を十分に理解し、問いに対して9割以上の回答ができる。	英語の基本的な語彙・文法・文構造を正確に理解し、問いに対して8割以上の回答ができる。	英語の基本的な語彙・文法・文構造を理解し、問いに対して7割以上の回答ができる。	英語の基本的な語彙・文法・文構造について、やや理解できていないところもあるが、問いに対して6割以上の回答ができる。	英語の基本的な語彙・文法・文構造について、あまり理解できておらず、問いに対して6割未満の回答である。
知識・理解	2. 英文の内容理解 (Reading)	英文の内容について、未習事項があっても、文の前後関係から類推する等して読み、人物の心情を考えたり、自分の意見と比較したりできる。	英文の内容について、未習事項があっても、文の前後関係から類推する等して正確に読み取ることができる。	英文の内容について、既習事項を用いて、正確に読み取ることができる。	英文の内容について、既習事項を用いて、ほぼ正確に読み取ることができる。	英文の内容について、既習事項を用いても、正確に読み取ることができない。
知識・理解	3. 英文の内容理解 (Listening)	英文の内容について、未習事項があっても、文の前後関係から類推する等して聞き、人物の心情を考えたり、自分の意見と比較したりできる。	英文の内容について、未習事項があっても、文の前後関係から類推する等して正確に聞き取ることができる。	英文の内容について、既習事項を用いて、正確に聞き取ることができる。	英文の内容について、既習事項を用いて、ほぼ正確に聞き取ることができる。	英文の内容について、既習事項を用いても、正確に聞き取ることができない。
知識・理解	4. 異文化理解 (アメリカ文化や生活習慣等)	アメリカの文化や習慣等に関するテキスト以外の英文も自ら進んで読み、その知識を正確に身に付けている。	アメリカの文化や生活習慣に関するテキストの英文を読み、その知識を十分かつ正確に身に付けている。	アメリカの文化や習慣等に関するテキストの英文を読み、その知識を正確に身に付けている。	アメリカの文化や習慣等に関するテキストの英文を読み、その知識をほぼ身に付けている。	アメリカの文化や習慣等に関するテキストの英文を読むが、その知識が身に付いていない。
技能	1. 英語でのやりとり	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを、適切な表現を用いて伝え合うことができる。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを、伝え合うことができる。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを、伝え合うことができる。	日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを、伝え合うことができる。	日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを、伝え合うことができない。
態度	1. ペアやグループでのコミュニケーション活動	ペアやグループでのコミュニケーション活動にたいへん積極的に参加し、適切な表現を用いて対話をしたり、分からない人にアドバイスをしたりできる。	ペアやグループでのコミュニケーション活動にたいへん積極的に参加し、適切な表現を用いて対話ができる。	ペアやグループでのコミュニケーション活動にたいへん積極的に参加して対話ができる。	ペアやグループでのコミュニケーション活動に積極的に参加して対話ができる。	ペアやグループでのコミュニケーション活動に積極的に参加できない。
態度	2. 自律的な学び (予習・復習)	自ら進んで予習・復習の範囲を越えて学修し、必要に応じてその内容を自分の言葉で説明できる。	予習・復習の範囲を学修し、その内容を十分に理解した上で、自分の言葉で説明できる。	予習・復習の範囲を学修し、その内容を十分に理解している。	予習・復習の範囲を学修するが、その内容が不十分である。	予習・復習の範囲の学修ができていない。

科目名	体育講義 全8回	授業番号	CE201	サブタイトル	(日常生活と健康)
教員	満田 知茂				
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	前期
授業形態	講義	必修・選択	選択		
授業概要	現代社会においては、技術革新に伴う機械化・情報化等が進み、日常生活における身体活動が減少するとともに、食生活のバランスの崩れも伴って、運動不足と生活習慣の乱れが深刻な問題となっている。こうした状況によって、我々の身体は危機的な状況にさらされている場合もある。本講義では、からだの仕組みについて、身近にある道具や簡単な方法でもセルフチェックできる力を身に付ける。				
到達目標	人間のからだの仕組みについて、日常生活で何気なく実践している事柄の意味について知ることを目的とする。 なお本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち<知識・理解> <思考・問題解決能力>の修得に貢献する。				
授業計画 備考					
回	概要			担当	
第1回	「体力」について考える 「体力」がどのような要素で構成されているかを考え理解する。				
第2回	「自律神経」の働きについて考える 人間のからだの自動調節機能である自律神経の仕組みや働きについて考え理解する。				
第3回	「ホルモン」の働きについて考える 肥りのホルモンと呼ばれる「メタボニン」について、分泌の仕組みや働きについて考え理解する。				
第4回	「睡眠障害」について考える 睡眠障害の種類を知ること、そしてその原因と対策について理解し日常生活に取り入れる。				
第5回	「高血圧」について考える 高血圧の仕組みを知ること、そしてその原因と対策について理解し日常生活に取り入れる。				
第6回	「目の病気」について考える 目の病気の種類を知ること、そしてその原因と対策について理解し日常生活に取り入れる。				
第7回	「健康診断」で分かることについて考える 普段学校で実施する健康診断で分かること、健康診断で分からないことについて考える。				
第8回	「背筋力」の働きについて考える 二足歩行する上で重要な働きをしている背筋力について測定しながら、生活に必要な背筋力を知る。				
第9回					
第10回					
第11回					
第12回					
第13回					
第14回					
第15回					
授業計画 備考2					
評価の方法					
種別	割合	評価基準・その態備考			
授業への取り組みの姿勢 / 態度	40	意欲的な受講態度、予習・復習の状況によって評価する。 フィードバックは、その時々の場で行う。			
レポート					
小テスト					
定期試験	60	各回の主要なポイントの理解度を評価する。 テストは、採点もして返却する。			
その他					

評価の方法：自由記載	
受講の心得	-スポーツに関わる知識と理解を深め、スポーツ・運動への志向性を高めることを目指しているため、自らの生活と関連付けながら受講すること。
授業外学修	-「スポーツ」から「心」などをキーワードとした新聞記事やニュースを常に意識し、興味関心を高める。 -各回の授業内容に合わせた情報を収集したり、書籍等を読んで予備知識を得ておくこと。 以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト：自由記載	特に使用しない。(作成資料を活用)			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 体育講義の基本的考え方が理解できている。	体育講義の内容が理解できている。	体育講義の内容がほぼ理解できている。	体育講義の基本的な内容が理解できている。	体育講義の基本的な内容の理解が十分ではない。	相談援助の基本的な内容が理解できていない。
思考・問題解決能力	1. 事例に基づいて、道具や簡単な方法でセルフチェックできる。	事例に基づいて、道具や簡単な方法でセルフチェックできる。	事例に基づいて、道具や簡単な方法でほぼセルフチェックできる。	事例に基づいて、簡単にセルフチェックできる。	簡単なセルフチェックの方法についての理解が十分ではない。	簡単なセルフチェックの方法を理解できていない。

科目名	体育実技 1クラス			授業番号	CE202A	サブタイトル	(スポーツに親しもう)		
教員	梶谷 優之								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
授業概要	各チームの課題を基にメンバーで協力しながら、各種のスポーツ（集団的スポーツ・個人的スポーツ）の練習や試合に取り組む。								
到達目標	健康的な生活を送るために、運動の大切さ・楽しさなどを実践を通して体得することをねらいとする。集団でのコミュニケーション能力の向上や基本的なルール・理解・運動技能の習得を図ることを目標とする。 なお本科目はディプロマポリシーに掲げた学士方の内容のうち<知識・理解> <技能> の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
回	概要						担当		
第1回	バスケットボールI（ルールと基本技術の理解） 基本的なルールの確認と基本技術の練習をします。								
第2回	バスケットボールII（基本技術の習得とゲームの導入） 基本技術を反復しつつ、実際にゲームを行います。								
第3回	バスケットボールIII（ゲームの展開） チームに分かれ、リーグ戦方式でゲームをします。								
第4回	バレーボールI（ルールと基本技術の理解） 基本的なルールの確認と基本技術の練習をします。								
第5回	バレーボールII（基本技術の習得とゲームの導入） 基本技術を反復しつつ、実際にゲームを行います。								
第6回	バレーボールIII（ゲームの展開） チームに分かれ、リーグ戦方式でゲームをします。								
第7回	バドミントンI（ルールと基本技術の理解） 基本的なルールの確認と基本技術の練習をします。								
第8回	バドミントンII（基本技術の習得とゲームの導入） 基本技術を反復しつつ、実際にゲームを行います。								
第9回	バドミントンIII（ゲームの展開） ペアを組み、リーグ戦方式でゲームをします。								
第10回	ソフトバレーボールI（ルールと基本技術の理解） 基本的なルールの確認と基本技術の練習をします。								
第11回	ソフトバレーボールII（基本技術の習得とゲームの導入） 基本技術を反復しつつ、実際にゲームを行います。								
第12回	ソフトバレーボールIII（ゲームの展開） チームに分かれ、リーグ戦方式でゲームをします。								
第13回	卓球I（ルールと基本技術の理解） 基本的なルールの確認と基本技術の練習をします。								
第14回	卓球II（基本技術の習得とゲームの導入） 基本技術を反復しつつ、実際にゲームを行います。								
第15回	卓球III（ゲームの展開） ペアを組み、リーグ戦方式でゲームをします。								
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その態備考						
	授業への取り組みの姿勢/態度	60	授業の準備や後片付けに率先して取り組んだり、自らのスキルアップやメンバーと協力してゲームに参加する等積極的に授業参加している。 フィードバックは、その時その場で行う。						
	レポート								
	小テスト	40	各競技ごとに試合を実施する。 フィードバックは、その時その場で行う。						
	定期試験								
	その他								

評価の方法：自由記載	
受講の心得	運動着を着用し、体育館シューズを使用する。 全員協力の上、準備・片付けをする。
授業外学習	-日頃から自らの健康に対する興味関心や体力向上に努め、日常生活の中で自主的に身体を動かす習慣づきの心をつける。 -各種目のルールやスキルアップを図るため、書籍や映像を活用して準備すること。 以上の内容を、週当たり1時間以上学習すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト：自由記載	特に使用しない。(作成資料を活用)			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. 各種目のルールに対する理解	各種目のルールがある程度理解でき、楽しく活動できるのに加え、友だちにもルールをアドバイスできている。	各種目のルールがある程度理解できており、楽しく活動することができる。	各種目のルールがある程度理解して活動できる。	特定の種目のルールについては、ある程度理解して活動できる。	各種目のルールが、ほとんど理解できず、活動することもできない。
知識・理解	2. 各種目のポイントや練習方法の共有	各種目のポイントや練習の仕方がある程度理解でき、メンバーにも上達する方法をアドバイスしながら楽しく活動できている。	各種目のポイントや練習の仕方がある程度理解できており、メンバーと楽しく活動できている。	各種目のポイントや練習の仕方がある程度理解して活動できる。	特定の種目についてはポイントや練習の仕方がある程度理解して活動できる。	各種目のポイントや練習の仕方が理解できず、活動することもできない。
技能	1. 各種目に対するスキルアップの方法	各種目を楽しむことのできる技能が、十分備わっているのに加え、チーム全体のレベルアップにも寄与できている。	各種目を楽しむことのできる技能が、ある程度備わっているのに加え、さらに高めることができている。	各種目を楽しむことのできる技能が、ある程度備わっている。	特定の種目に対しては、楽しむことのできる技能が備わっている。	各種目を楽しむことのできる技能が、ほとんど備わっていない。

科目名	体育実技 2クラス			授業番号	CE202B	サブタイトル	(スポーツに親しもう)		
教員	梶谷 優之								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
授業概要	各チームの課題を基にメンバーで協力しながら、各種のスポーツ（集団的スポーツ・個人的スポーツ）の練習や試合に取り組む。								
到達目標	健康的な生活を送るために、運動の大切さ・楽しさなどを実践を通して体得することをめざるとともに、集団でのコミュニケーション能力の向上や基本的なルール・理解・運動技能の習得を図ることを目標とする。 なお本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち<知識・理解> <技能> の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
回	概要						担当		
第1回	バスケットボールI（ルールと基本技術の理解） 基本的なルールの確認と基本技術の練習をします。								
第2回	バスケットボールII（基本技術の習得とゲームの導入） 基本技術を反復しつつ、実際にゲームを行います。								
第3回	バスケットボールIII（ゲームの展開） チームに分かれ、リーグ戦方式でゲームをします。								
第4回	バレーボールI（ルールと基本技術の理解） 基本的なルールの確認と基本技術の練習をします。								
第5回	バレーボールII（基本技術の習得とゲームの導入） 基本技術を反復しつつ、実際にゲームを行います。								
第6回	バレーボールIII（ゲームの展開） チームに分かれ、リーグ戦方式でゲームをします。								
第7回	バドミントンI（ルールと基本技術の理解） 基本的なルールの確認と基本技術の練習をします。								
第8回	バドミントンII（基本技術の習得とゲームの導入） 基本技術を反復しつつ、実際にゲームを行います。								
第9回	バドミントンIII（ゲームの展開） ペアを組み、リーグ戦方式でゲームをします。								
第10回	ソフトバレーボールI（ルールと基本技術の理解） 基本的なルールの確認と基本技術の練習をします。								
第11回	ソフトバレーボールII（基本技術の習得とゲームの導入） 基本技術を反復しつつ、実際にゲームを行います。								
第12回	ソフトバレーボールIII（ゲームの展開） チームに分かれ、リーグ戦方式でゲームをします。								
第13回	卓球I（ルールと基本技術の理解） 基本的なルールの確認と基本技術の練習をします。								
第14回	卓球II（基本技術の習得とゲームの導入） 基本技術を反復しつつ、実際にゲームを行います。								
第15回	卓球III（ゲームの展開） ペアを組み、リーグ戦方式でゲームをします。								
授業計画 備考2									
評価の方法									
種別		割合	評価基準・その態備考						
授業への取り組みの姿勢/態度		60	授業の準備や後片付けに率先して取り組んだり、自らのスキルアップやメンバーと協力してゲームに参加する等積極的に授業参加している。 フィードバックは、その時その場で行う。						
レポート									
小テスト		40	各競技ごとに試合を実施する。 フィードバックは、その時その場で行う。						
定期試験									
その他									

評価の方法：自由記載	
受講の心得	運動着を着用し、体育館シューズを使用する。 全員協力の上、準備・片付けをする。
授業外学習	-日頃から自らの健康に対する興味関心や体力向上に努め、日常生活の中で自主的に身体を動かす習慣づくりを心がける。 -各種目のルールやスキルアップを図るため、書籍や映像を活用して準備すること。 以上の内容を、週当たり1時間以上学習すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト：自由記載	特に使用しない。(作成資料を活用)			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. 各種目のルールに対する理解	各種目のルールがある程度理解でき、楽しく活動できるのに加え、友だちにもルールをアドバイスできている。	各種目のルールがある程度理解できており、楽しく活動することができる。	各種目のルールがある程度理解して活動できる。	特定の種目のルールについては、ある程度理解して活動できる。	各種目のルールが、ほとんど理解できず、活動することもできない。
知識・理解	2. 各種目のポイントや練習方法の共有	各種目のポイントや練習の仕方がある程度理解でき、メンバーにも上達する方法をアドバイスしながら楽しく活動できている。	各種目のポイントや練習の仕方がある程度理解できており、メンバーと楽しく活動できている。	各種目のポイントや練習の仕方がある程度理解して活動できる。	特定の種目についてはポイントや練習の仕方がある程度理解して活動できる。	各種目のポイントや練習の仕方が理解できず、活動することもできない。
技能	1. 各種目に対するスキルアップの方法	各種目を楽しむことのできる技能が、十分備わっているのに加え、チーム全体のレベルアップにも寄与できている。	各種目を楽しむことのできる技能が、ある程度備わっているのに加え、さらに高めることができている。	各種目を楽しむことのできる技能が、ある程度備わっている。	特定の種目に対しては、楽しむことのできる技能が備わっている。	各種目を楽しむことのできる技能が、ほとんど備わっていない。

2024年度授業概要(シラバス)

科目名	アーストイヤーセミナー		授業番号	CF101	サブタイトル	(大学生活に慣れよう！)				
教員	西條 佳子、中 典子、中田 周作、岸 誠一、森寺 勝之、岡崎 三鈴、大橋 由佳									
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択	
授業概要	子ども学部子ども学科の理念・目標、学びの姿勢、図書館の活用、情報倫理、「子ども学」の基礎、社会人としての素養など、将来への展望も含めて、オムニバス形式で講義を行う。									
到達目標	大学生として必要な学ぶ姿勢や情報の活用など、大学生活を充実したものとしていくための基礎的な知識や技能を身に付ける。<知識・理解> <技能> また、将来、保育者・教育者として、子どもの最善の利益を実現できる努力を続ける態度を形成するための基地を養う。<態度> なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <技能> <態度> の修得に貢献する。									
授業計画 備考										
回	概要					担当				
第1回	感染予防講習会 図書館利用エンタートーション 学校保健安全法に定める感染症等予防対策や大学図書館の使い方について学ぶ。					西條, 波多江 (人間栄養), 図書館スタッフ				
第2回	子ども学部 学部長講義 演題：これからの大学生活					中				
第3回	ボランティアとは何か ボランティアとは何か、ボランティア活動の今日的意義について理解する。また、本学部でのボランティア活動について理解する。					担当講師, 西條				
第4回	スタディスキルズ(1) 大学生のノートのとりの基本やテキストの読み方について学ぶ。					西條				
第5回	白箱eラーニング(1) 白箱eラーニングとは、学習内容や学習の進め方について学ぶ。					岸				
第6回	スタディスキルズ(2) レポートの書き方や資料の探し方について学ぶ。					森寺				
第7回	人権について 人権教育の全体像について学ぶ。					森寺				
第8回	マナーに関する講座 大学生が身に付けたいマナーについて考える。					大橋, 西條				
第9回	地域清掃 地域貢献の一環として、創立記念日(6月16日)に合わせて実施する。					西條, 子ども学科教員				
第10回	金融に関する講座 大学生が理解しておくべき「人生とお金」に関する知恵、金融リテラシーについて学ぶ。					外部講師, 岡崎				
第11回	生と性について 大学生の生と性について考える。					岡本, 岡崎				
第12回	インターネットやスマホの安全な活用について SNSの使い方を見直し、インターネットやスマホの安全な活用について考える。					岸				
第13回	取得できる免許・資格・大学院進学について 取得できる免許・資格について確認し、将来の進路について考える。					中田				
第14回	子ども学部のカリキュラムとコースについて 子ども学部のカリキュラムとコースについて自分の将来像とつなげて考える。					中田				
第15回	白箱eラーニング(2) 白箱eラーニングを活用する。					岸				
授業計画 備考2										
評価の方法										
	種別	割合	評価基準・その他備考							
	授業への取り組みの姿勢/態度	20	意欲的な受講態度、発表・討議への参加、予・復習の状況によって評価する。							
	レポート	80	授業の内容や自分の考えをまとめたコメントペーパーやレポートによって評価する。 レポートやコメントペーパーについてはコメントを記入して返却する。また提出後の授業で全体的な傾向についてコメントをする。							
	小テスト									
	定期試験									
	その他									

評価の方法：自由記載	毎回、授業の内容や自分の考えをコメントページにまとめて、提出する。 コメントページや関連の資料はファイルに載し、毎回授業に持参する。 最終的にコメントページや資料を綴じたファイルを提出する。
受講の心得	大学生の基礎的素養として大切な内容であるため、積極的な態度で受講すること。
授業外学習	1 予習として、授業で配付された資料等を読み、疑問点を明らかにする。 2 復習として、授業で提示された課題のレポートを書く。 3 発展学習として、授業で紹介された参考文献や資料等を読む。 以上の内容を、適当に4時間以上学習すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト：自由記載	必要な資料は、随時、配付する。			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	外部講師等を招聘する場合は、一部、開講時間の変更を行うことがあるので注意すること。 本授業は、子ども学科必修科目として位置づけている。			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の業務経験の有無	有			
担当教員の業務経験	公立小学校教諭（13年）・校長（8年）、県生涯学習センター（3年）、県情報教育センター（6年）（岸誠一） 公立小学校教諭・教頭（16年）・校長（7年）、県教育委員会（16年）（森寺勝之）			
担当教員以外で指導に関わる業務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる業務経験者				
業務経験をいかした教育内容	学校、教育センター等での経験を生かして、教育現場の実態を反映させた実践的な教育を行う。			

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 大学生活に必要な基礎的な知識を身に付けている。	大学生活に必要な基礎的な知識について、正確に理解し説明できる。	大学生活に必要な基礎的な知識について、正確ではないがほぼ理解し説明できる。	大学生活に必要な基礎的な知識について、大体述べることができる。	大学生活に必要な基礎的な知識について、正確に説明できないが、自分の言葉では表現できる。	大学生活に必要な基礎的な知識について、まったく表現することができない。
技能	1. 大学生活に必要な基礎的な技能を身に付けている。	大学生活に必要な基礎的な技能をきわめて身に付けている。	大学生活に必要な基礎的な技能を身に付けている。	大学生活に必要な基礎的な技能を大体身に付けている。	大学生活に必要な基礎的な技能をほとんど身に付けていない。	大学生活に必要な基礎的な技能が全く身に付けていない。
態度	1. 授業に意欲的に参加できる。	質問など積極的にを行い、疑問を解決し、授業内容を理解した上で、適切なコメントシートを提出している。	授業に前向きに臨む姿勢が見受けられ、授業内容を理解した上で、コメントシートを提出している。	授業に出席し、授業内容を理解した上でコメントシートを提出している。	授業に出席し、コメントシートを提出しているが、理解が十分ではない。	授業に出席しているが、コメントシートの提出をしていない。

科目名	現代子ども学入門		授業番号	CL101	サブタイトル				
教員	中田 陽作、中 典子、佐々木 弘記、岸 誠一、齊藤 佳子、山田 恵子、西田 寛子、満田 知茂、伊藤 留里、牛島 光太郎、太田 憲孝、園田 祥子、廣畑 まゆ美、川崎 泰子、岡崎 三鈴、土師 範子								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	子ども学とは、子どもを対象とする学際的な学問である。子どものあり方と子どもを取り巻く問題を、学校教育学、幼児教育学、保育学、社会学、心理学、社会福祉など様々な学問分野から、広い視点で見直し、本講義では、オムニバス形式によって、各学問領域から多角的に子どもにアプローチすることにより、総合的に子ども研究を進めていくための基礎を培う。								
到達目標	学校教育学、幼児教育学、保育学、社会学、心理学、社会福祉など様々な学問分野から子ども学にアプローチをすることにより、総合的に子ども研究を進めていくための基礎となる知識や技能を身に付ける。 なお、本科目はデプロイ制に拠り、学力の向上、＜知識・理解＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考	第2回から第15回の授業では、小グループに分かれ、各回ごとに、子どもの多様な研究領域を学修する。								
回	概要						担当		
第1回	子ども学の基礎概念						中田		
第2回	子ども学の研究I-(1) 児童福祉学、情報教育学、幼児生活学、英語教育学、体育教育学、基礎心理学、幼児教育学、幼児表現学						中、岸、齊藤、西田、満田、園田、廣畑・土師		
第3回	子ども学の研究I-(2) 児童福祉学、情報教育学、幼児生活学、英語教育学、体育教育学、基礎心理学、幼児教育学、幼児表現学						中、岸、齊藤、西田、満田、園田、廣畑・土師		
第4回	子ども学の研究I-(3) 児童福祉学、情報教育学、幼児生活学、英語教育学、体育教育学、基礎心理学、幼児教育学、幼児表現学						中、岸、齊藤、西田、満田、園田、廣畑・土師		
第5回	子ども学の研究I-(4) 児童福祉学、情報教育学、幼児生活学、英語教育学、体育教育学、基礎心理学、幼児教育学、幼児表現学						中、岸、齊藤、西田、満田、園田、廣畑・土師		
第6回	子ども学の研究I-(5) 児童福祉学、情報教育学、幼児生活学、英語教育学、体育教育学、基礎心理学、幼児教育学、幼児表現学						中、岸、齊藤、西田、満田、園田、廣畑・土師		
第7回	子ども学の研究I-(6) 児童福祉学、情報教育学、幼児生活学、英語教育学、体育教育学、基礎心理学、幼児教育学、幼児表現学						中、岸、齊藤、西田、満田、園田、廣畑・土師		
第8回	子ども学の研究I-(7) 児童福祉学、情報教育学、幼児生活学、英語教育学、体育教育学、基礎心理学、幼児教育学、幼児表現学						中、岸、齊藤、西田、満田、園田、廣畑・土師		
第9回	子ども学の研究II-(1) 教育実践学、教育社会学、学校教育学、国語科教育学、保育文化学、図画工作教育学、歌唱演奏学						佐々木、中田、山田、太田、伊藤、牛島、川崎・岡崎		
第10回	子ども学の研究II-(2) 教育実践学、教育社会学、学校教育学、国語科教育学、保育文化学、図画工作教育学、歌唱演奏学						佐々木、中田、山田、太田、伊藤、牛島、川崎・岡崎		
第11回	子ども学の研究II-(3) 教育実践学、教育社会学、学校教育学、国語科教育学、保育文化学、図画工作教育学、歌唱演奏学						佐々木、中田、山田、太田、伊藤、牛島、川崎・岡崎		
第12回	子ども学の研究II-(4) 教育実践学、教育社会学、学校教育学、国語科教育学、保育文化学、図画工作教育学、歌唱演奏学						佐々木、中田、山田、太田、伊藤、牛島、川崎・岡崎		
第13回	子ども学の研究II-(5) 教育実践学、教育社会学、学校教育学、国語科教育学、保育文化学、図画工作教育学、歌唱演奏学						佐々木、中田、山田、太田、伊藤、牛島、川崎・岡崎		
第14回	子ども学の研究II-(6) 教育実践学、教育社会学、学校教育学、国語科教育学、保育文化学、図画工作教育学、歌唱演奏学						佐々木、中田、山田、太田、伊藤、牛島、川崎・岡崎		
第15回	子ども学の研究II-(7) 教育実践学、教育社会学、学校教育学、国語科教育学、保育文化学、図画工作教育学、歌唱演奏学						佐々木、中田、山田、太田、伊藤、牛島、川崎・岡崎		
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その態備考						
	授業への取り組みの姿勢/態度	50	意欲的な受講態度、発表・討議への参加、予・復習の状況によって評価する。						
	レポート	50	毎回作成するレポートで評価する。						
	小テスト								
	定期試験								
	その他								

評価の方法：自由記載	毎回、授業の内容をコメントページにまとめて、提出する。 コメントページや関連の資料はファイルに綴じ、毎回授業に持参すること。
受講の心得	原則として「ファーストイヤーセミナー」を履修していること。
授業外学習	1 予習として、授業で配付された資料等を読み、疑問点を明らかにする。 2 復習として、授業で提示された課題のレポートを書く。 3 発展学習として、授業で紹介された参考文献や資料等を読む。 以上の内容を、週当たり4時間以上学習すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載

なし

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載

適宜、指示する。

その他

本授業は、子ども学科必修科目として位置づけている。

備考

--

注意事項

--

担当教員の業務経験の有無

有

担当教員の業務経験

公立中学校理科教諭、県教育センター（佐々木弘記）、公立小学校教諭・校長、県生涯学習センター、県情報教育センター（岸誠一）
--

担当教員以外で指導に関わる業務経験者の有無

無

担当教員以外で指導に関わる業務経験者

--

業務経験をいかした教育内容

学校現場での現場体験を通して得た知見を学生に伝えることで、実感を持った理解を促し、学習指導力、生徒指導力などの実践的指導力の向上に努める。

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学土力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	子どもについて、多角的な観点から理解することができる。	子ども学について、学際的な学問分野であることを理解し、学校教育学、幼児教育学、保育学、社会学、心理学、社会福祉学などの多角的な観点からのアプローチが理解できる。	子ども学について、学際的な学問分野であることを理解し、学校教育学、幼児教育学、保育学、社会学、心理学、社会福祉学などの学問分野からのアプローチが理解できる。	子ども学について、学際的な学問分野であることを理解し、学校教育学、幼児教育学、保育学、社会学、心理学、社会福祉学などの学問分野からのアプローチが理解できる。	子ども学が学際的な学問分野であることが理解できている。	子ども学が学際的な学問分野であることが理解できていない。

科目名	子ども研究法 I		授業番号	CL202	サブタイトル				
教員	中 典子、佐々木 弘記、中田 周作、岸 誠一、齊藤 佳子、山田 恵子、西田 寛子、伊藤 智里、牛島 光太郎、太田 憲孝、森寺 勝之、廣畑 まゆ美、土師 範子								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	本講義では、1年次の「現代子ども学入門」を踏まえ、子ども学を構成する学校教育学、情報教育学、教科教育学、児童福祉学、教育社会学、幼児教育学、保育学について追究するための基礎的・基本的な知識や技能を習得する。								
到達目標	子ども学を探究していくために学校教育学、情報教育学、教科教育学、児童福祉学、教育社会学、幼児教育学、保育学に関する基礎的・基本的な知識や技能を習得することを目的とする。 本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解>の修得に貢献する。なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解><技能>の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
回	概要					担当			
第1回	科学的に考えるには 児童福祉学の研究内容・方法					中			
第2回	教育社会学の研究内容・方法					中田			
第3回	教育実践学の研究内容・方法					佐々木			
第4回	情報教育学の研究内容・方法					岸			
第5回	算数教育学の研究内容・方法					森寺			
第6回	国語教育学の研究内容・方法					太田			
第7回	幼児生活学の研究内容・方法					齊藤			
第8回	英語教育学の研究内容・方法					西田			
第9回	保育文化学の研究内容・方法					伊藤			
第10回	図画工作教育学の研究内容・方法					牛島			
第11回	幼稚園・小学校教育実習の意義と方法					森寺・齊藤			
第12回	施設実習（介護等体験含む）の意義と方法					中			
第13回	保育の実践（1）					廣畑・土師			
第14回	保育の実践（2）					廣畑・土師			
第15回	幼稚園・小学校教育実習の実践					森寺・齊藤			
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢/態度	50	意欲的な受講態度、発表・討論への参加、予・復習の状況によって評価する。						
	レポート	50	授業の内容や自分の考えをまとめたコメントペーパーによって評価する。						
	小テスト								
	定期試験								
	その他								

評価の方法：自由記載	毎回、授業の内容や自分の考えをコメントページにまとめ、提出する。 コメントページや関連の資料はファイルに綴じ、毎回授業に持参する。
受講の心得	原則として「現代子ども学入門」を履修していること。
授業外学習	1 予習として、授業で配付された資料等を読み、疑問点を明らかにする。 2 復習として、授業で提示された課題のレポートを書く。 3 発展学習として、授業で紹介された参考文献や資料等を読む。 以上の内容を、適当に4時間以上学習すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	なし
-------------	----

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	適宜、指示する。
その他	本授業は、子ども学必修科目として位置づけている。
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の实務経験	公立中学校理科教師、県教育センター（佐々木）、公立小学校教諭・校長・県情報教育センター（岸）、公立小学校教諭・校長（森寺）、公立小学校教諭・教養（太田）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	学校現場での現場体験を通して知見を学生に伝えることで、実感を持った理解を回り、学習指導力、生徒指導力などの実践的指導力の向上に努める。

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. 子ども学を探究するために様々な学問分野に関する基礎的・基本的な知識を習得する。	子ども学を探究するために様々な学問分野に関する基礎的・基本的な知識を広範囲かつ詳細に習得している。	子ども学を探究するために様々な学問分野に関する基礎的・基本的な知識を広範囲に習得している。	子ども学を探究するために様々な学問分野に関する基礎的・基本的な知識を十分に習得している。	子ども学を探究するために様々な学問分野に関する基礎的・基本的な知識を十分に習得していない。	子ども学を探究するために様々な学問分野に関する基礎的・基本的な知識を習得していない。
技能	1. 子ども学を探究するために様々な学問分野に関する基礎的・基本的な技能を習得する。	子ども学を探究するために様々な学問分野に関する基礎的・基本的な技能を広範囲かつ詳細に習得している。	子ども学を探究するために様々な学問分野に関する基礎的・基本的な技能を広範囲に習得している。	子ども学を探究するために様々な学問分野に関する基礎的・基本的な技能を十分に習得している。	子ども学を探究するために様々な学問分野に関する基礎的・基本的な技能を十分に習得していない。	子ども学を探究するために様々な学問分野に関する基礎的・基本的な技能を習得していない。

2024年度授業概要(シラバス)

科目名	子ども研究法Ⅱ		授業番号	CL203	サブタイトル				
教員	中 典子、中田 周作、岸 誠一、西藤 佳子、山田 恵子、太田 恵孝、満田 知茂、森寺 勝之、岡田 祥子、廣畑 まゆ美、川崎 泰子、土師 範子、岡崎 三鈴								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	本講義では、「子ども研究法I」を踏まえ、子ども学を構成する学校教育学、情報教育学、教科教育学、児童福祉学、教育社会学、幼児教育学、保育学について追究するための知識や技能を一層深く習得する。								
到達目標	子ども学を探究していくために、学校教育学、情報教育学、教科教育学、児童福祉学、教育社会学、幼児教育学、保育学に関する知識や技能を一層深く習得することを目的とする。 本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <技能> の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
回	概要					担当			
第1回	体育科教育学の研究内容・方法					満田			
第2回	基礎心理学の研究内容・方法					岡田			
第3回	幼児教育学の研究内容・方法					廣畑			
第4回	歌壇演義学の研究内容・方法					川崎			
第5回	幼児音楽の研究内容と方法					土師			
第6回	研究倫理					太田			
第7回	小学校教育実習の実際（1） 幼稚園教育実習の実際（1）					森寺・満田 西藤・岡崎			
第8回	小学校教育実習の実際（2） 幼稚園教育実習の実際（2）					森寺・満田 西藤・岡崎			
第9回	小学校教育の実際（1） 幼児教育の実際（1）					岸・太田 西藤・岡崎			
第10回	小学校教育の実際（2） 幼児教育の実際（2）					岸・太田 西藤・岡崎			
第11回	施設実習の実際					中			
第12回	小学校・幼稚園教育実習へ向けて					森寺・西藤			
第13回	子ども研究の成果（1）					満田			
第14回	子ども研究の成果（2）					中			
第15回	子ども研究のまとめ					中田			
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢/態度	50	意欲的な受講態度、発表・討議への参加、予・復習の状況によって評価する。						
	レポート	50	授業の内容や自分の考えをまとめたコメントペーパーによって評価する。						
	小テスト								
	定期試験								
	その他								

評価の方法：自由記載	毎回、授業の内容や自分の考えをコメントページにまとめ、提出する。 コメントページや関連の資料はファイルに綴じ、毎回授業に持参する。
受講の心得	原則として「子ども研究法」を履修していること。
授業外学習	1 予習として、授業で配付された資料等を読み、疑問点を明らかにする。 2 復習として、授業で提示された課題のレポートを書く。 3 発展学習として、授業で紹介された参考文献や資料等を読む。 以上の内容を、適当に4時間以上学習すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載

なし

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載

適宜、指示する。

その他

本授業は、子ども学科必修科目として位置づけている。

備考

--

注意事項

--

担当教員の実務経験の有無

有

担当教員の実務経験

公立小学校教諭・校長・県情報教育センター（岸）、公立小学校教諭・校長・教委（森寺）、公立小学校教諭・教委（太田）
--

担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無

無

担当教員以外で指導に関わる実務経験者

--

実務経験をいかした教育内容

学校現場での現場体験を通して得た知見を学生に伝えることで、実感を持った理解を回り、学習指導力、生徒指導力などの実践的指導力の向上に努める。

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. 子ども学を探究するために様々な学問分野に関する基礎的・基本的な知識を一層深く習得する。	子ども学を探究するために様々な学問分野に関する基礎的・基本的な知識を広範囲かつ詳細に一層深く習得している。	子ども学を探究するために様々な学問分野に関する基礎的・基本的な知識を広範囲に一層深く習得している。	子ども学を探究するために様々な学問分野に関する基礎的・基本的な知識を十分に一層深く習得している。	子ども学を探究するために様々な学問分野に関する基礎的・基本的な知識を十分に一層深く習得していない。	子ども学を探究するために様々な学問分野に関する基礎的・基本的な知識を一層深く習得していない。
技能	1. 子ども学を探究するために様々な学問分野に関する基礎的・基本的な技能を一層深く習得する。	子ども学を探究するために様々な学問分野に関する基礎的・基本的な技能を広範囲かつ詳細に一層深く習得している。	子ども学を探究するために様々な学問分野に関する基礎的・基本的な技能を広範囲に一層深く習得している。	子ども学を探究するために様々な学問分野に関する基礎的・基本的な技能を十分に一層深く習得している。	子ども学を探究するために様々な学問分野に関する基礎的・基本的な技能を十分に一層深く習得していない。	子ども学を探究するために様々な学問分野に関する基礎的・基本的な技能を一層深く習得していない。

科目名	課題研究 I		授業番号	CL304	サブタイトル				
教員	中 典子、佐々木 弘記、中田 周作、西藤 佳子、西田 寛子、満田 知茂、伊藤 智里、牛島 光太郎、太田 恵孝、藤田 祥子、廣畑 まゆ美、川崎 泰子、土師 範子								
単位数	1単位	開講年次	3年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
授業概要	課題研究は、卒業研究へのガイドとしての演習の授業である。卒業論文の執筆にあたって必要とされる先行研究の検討を行う。そのため、当該領域の基礎的知識の獲得や、データの収集方法を学ぶ。本学科において「子ども学」は、学校教育学、情報教育学、教科教育学、児童福祉学、教育社会学、幼児教育学、保育学から成り、それぞれに担当教員がいる。学生は、その指導教員のもとで、領域の特性に応じた研究方法を用いて研究を進めていく。								
到達目標	様々な分野の子どもをめぐる研究課題を整理し、学生自身からの研究課題を明確にすることを目的とする。 なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <思考・問題解決能力> <技能> <態度> の修得に貢献する。								
授業計画 備考	第1回 授業の概要・目的の解説、授業の進め方について、各領域の特性について理解する。 第2回 各領域における研究課題。 第3回～第15回 指導教員のもとで各領域の特性に応じた研究方法を用いて研究を進める。								
授業計画 自由記載	領域（キーワード） 教育実践学、情報教育学、児童福祉学、教育社会学、幼生生活学、体育教育学、保育文化学、基礎心理学、国語科教育学、英語教育学、歌謡演奏学、幼児教育学								
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢/態度	70	課題への取り組み意欲、取り組み行為から評価する						
	レポート								
	小テスト								
	定期試験								
	その他	30	課題の理解度と定着度を評価する						

評価の方法：自由記載	
受講の心得	原則として「子ども研究法Ⅱ」を履修していること。
授業外学習	授業で提示された課題を実施し、週当たり2時間程度学習すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト：自由記載	必要な資料は、随時、提示する。			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の業務経験の有無	有			
担当教員の業務経験	公立中学校教諭，県教育センター（佐々木弘記） 公立小学校教諭・校長，県生涯学習センター，県情報教育センター（岸 誠一） 公立小学校教諭・教委（太田 憲孝） 公立中学校指導教諭，県教育委員会（西田 寛子）			
担当教員以外で指導に関わる業務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる業務経験者				
業務経験をいかした教育内容	学校現場での現場体験を通して得た知見を学生に伝えることで，実感を伴った理解を促し，学習指導力，生徒指導力などの実践的指導力の向上に努める。			

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. 様々な分野の子どもをめぐる研究課題を整理し理解することができる。	様々な分野の子どもをめぐる研究課題を整理し広範囲かつ詳細に理解している。	様々な分野の子どもをめぐる研究課題を整理し広範囲に理解している。	様々な分野の子どもをめぐる研究課題を整理し十分に理解している。	様々な分野の子どもをめぐる研究課題を整理し十分に理解していない。	様々な分野の子どもをめぐる研究課題を整理し理解していない。
思考・問題解決能力	1. 学生自身が自らの研究課題を明確にすることができる。	学生自身が自らの研究課題を広範囲かつ詳細に整理し，明確にしている。	学生自身が自らの研究課題を広範囲に明確にしている。	学生自身が自らの研究課題を十分に明確にしている。	学生自身が自らの研究課題を十分に明確にしていない。	学生自身が自らの研究課題を明確にしていない。
技能	1. 卒業研究の基礎となる研究手法を身に付けることができる。	卒業研究の基礎となる研究手法を広範囲かつ詳細に身に付けている。	卒業研究の基礎となる研究手法を広範囲に身に付けている。	卒業研究の基礎となる研究手法を十分に身に付けている。	卒業研究の基礎となる研究手法を十分に身に付けていない。	卒業研究の基礎となる研究手法を身に付けていない。

2024年度授業概要(シラバス)

科目名	課題研究Ⅱ		授業番号	CL305	サブタイトル				
教員	中 典子、佐々木 弘記、中田 周作、西藤 佳子、西田 寛子、満田 知茂、伊藤 智里、牛島 光太郎、太田 憲孝、藤田 祥子、廣畑 まゆ美、川崎 泰子、土師 範子								
単位数	1単位	開講年次	3年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
授業概要	<p>課題研究IIでは、課題研究Iで整理された先行研究をもとに、どのような研究課題があるのか、またどのような研究方法があるのかについて学習していく。課題研究は、卒業研究へのガイドとしての演習の授業である。卒業論文の執筆にあたって必要とされる先行研究の検討を行う。そのため、当該領域の基礎的知識の獲得や、データの収集方法を学ぶ。本学科において「子ども学」は、学校教育学、教科教育学、情報教育学、児童福祉学、教育社会学、幼児教育学、保育学、基礎心理学から成り、それぞれに担当教員がいる。学生は、その指導教員のもとで、領域の特性に応じた研究方法を用いて研究を進めていく。</p>								
到達目標	<p>卒業論文の執筆にあたって必要とされる先行研究の検討を行い、卒業研究I-IIへ繋がっていくように研究課題を明らかにすることができる。なお、本科目はデプロイ・ホラーに特化した学士力の内容のうち、<知識・理解> <思考・問題解決能力> <技能> <態度> の修得に貢献する。</p>								
授業計画 備考	第1回～第15回 指導教員のもとで領域の特性に応じた研究方法を用いて研究を進める。								
授業計画 自由記載	<p>領域（キーワード） 教育実教学、情報教育学、児童福祉学、教育社会学、幼生生活学、体育教育学、保育文化学、基礎心理学、国語科教育学、英語教育学、歌謡演奏学、幼児教育学</p>								
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢/態度	70	課題への取り組み意欲、取り組み行為から評価する						
	レポート								
	小テスト								
	定期試験								
	その他	30	課題の理解度・定着度を評価する						

評価の方法：自由記載	
受講の心得	原則として「課題研究I」と「キャリア教育論」を履修していること。 授業時間外にも調査・文献整理することが求められる。
授業外学習	授業で提示された課題を実施し、週当たり2時間程度学習すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載

必要な資料は、随時、提示する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載

その他	
備考	

注意事項	
------	--

担当教員の実務経験の有無	有
--------------	---

担当教員の実務経験	公立中学校教諭，県教育センター（佐々木弘記） 公立小学校教諭・校長，県生涯学習センター，県情報教育センター（岸 誠一） 公立小学校教諭・教委（太田 憲孝） 公立中学校指導教諭，県教育委員会（西田 寛子）
-----------	---

担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
-----------------------	---

担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
--------------------	--

実務経験をいかした教育内容	学校現場での現場体験を通して得た知見を学生に伝えることで，実感を伴った理解を促し，学習指導力，生徒指導力などの実践的指導力の向上に努める。
---------------	---

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. 様々な分野の子どもをめぐり研究課題を一層深く整理し理解することができる。	様々な分野の子どもをめぐり研究課題を一層深く整理し広範囲かつ詳細に理解している。	様々な分野の子どもをめぐり研究課題を一層深く整理し広範囲に理解している。	様々な分野の子どもをめぐり研究課題を一層深く整理し十分に理解している。	様々な分野の子どもをめぐり研究課題を一層深く整理し十分に理解していない。	様々な分野の子どもをめぐり研究課題を一層深く整理し理解していない。
思考・問題解決能力	1. 学生自身が自らの研究課題を一層深く明確にすることができる。	学生自身が自らの研究課題を広範囲かつ詳細に整理し，一層深く明確にしている。	学生自身が自らの研究課題を広範囲に一層深く明確にしている。	学生自身が自らの研究課題を十分に一層深く明確にしている。	学生自身が自らの研究課題を十分に一層深く明確にしている。	学生自身が自らの研究課題を一層深く明確にしている。
技能	1. 卒業研究の基礎となる研究手法を一層深く身に付けることができる。	卒業研究の基礎となる研究手法を広範囲かつ詳細に一層深く身に付けている。	卒業研究の基礎となる研究手法を広範囲に一層深く身に付けている。	卒業研究の基礎となる研究手法を十分に一層深く身に付けている。	卒業研究の基礎となる研究手法を十分に一層深く身に付けていない。	卒業研究の基礎となる研究手法を一層深く身に付けていない。

2024年度授業概要(シラバス)

科目名	卒業研究 I		授業番号	CL406	サブタイトル					
教員	中 典子、佐々木 弘記、中田 周作、岸 誠一、齊藤 佳子、西田 寛子、清田 知茂、伊藤 智里、牛島 光太郎、岡田 祥子、廣畑 まゆ美、川崎 泰子									
単位数	2単位	開講年次	4年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
授業概要	卒業研究Iは、課題研究で到達した卒業研究の課題に対して研究をどのように進めるかを具体的に学修する。課題の設定や研究への着手に先立って、先行研究をレビューし、リサーチクエスチョンを明らかにする。子ども学には、様々な領域や方法が存在するので、領域の特色に応じた質的研究や量的研究等の研究方法が用いられる。各指導教員の指導計画に沿って計画的に卒業研究がまとめられるように進めていく。									
到達目標	卒業論文のテーマを明らかにし、研究も具体的に進めることができる。 なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。									
授業計画 備考										
授業計画 自由記載	領域（キーワード） 教育実践学、情報教育学、児童福祉学、教育社会学、美術教育学、幼児生活学、体育教育学、保育文化学、基礎心理学、国語科教育学、英語教育学、幼児音楽学									
授業計画 備考2										
評価の方法										
	種別	割合	評価基準・その他備考							
	授業への取り組みの姿勢/態度	50	課題への取り組み意欲、取り組み行為から評価する							
	レポート									
	小テスト									
	定期試験									
	その他	50	卒業研究の内容を評価する							

評価の方法：自由記載	
受講の心得	原則として「課題研究II」を履修していること。
授業外学習	中期計画及び長期計画の目標に沿った行動をする。授業で提示された課題を実施し、適当に5時間程度学習すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	必要な資料は、随時、提示する。
-------------	-----------------

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の業務経験の有無	有
担当教員の業務経験	公立中学校教諭，県教育センター（佐々木弘記） 公立小学校教諭・校長，県生涯学習センター，県情報教育センター（岸 誠一） 公立小学校教諭，教育委員会（太田 憲孝） 公立中学校指導教諭，県教育委員会（西田 寛子）
担当教員以外で指導に関わる業務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる業務経験者	
業務経験をいかした教育内容	学校現場での現場体験を通して得た知見を学生に伝えることで，実感を伴った理解を促し，学習指導力，生徒指導力などの実践的指導力の向上に努める。

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. 卒業論文のテーマに関する先行研究を理解することができる。	卒業論文のテーマに関する先行研究を広範囲かつ詳細に理解している。	卒業論文のテーマに関する先行研究を広範囲に理解している。	卒業論文のテーマに関する先行研究を十分に理解している。	卒業論文のテーマに関する先行研究を十分に理解していない。	卒業論文のテーマに関する先行研究理解していない。
思考・問題解決能力	1. 卒業論文のテーマを明らかにし，研究を具体的に進めることができる。	卒業論文のテーマを明らかにし，広範囲かつ詳細に研究を具体的に進めることができる。	卒業論文のテーマを明らかにし，広範囲に研究を具体的に進めることができる。	卒業論文のテーマを明らかにし，研究を十分に具体的に進めることができる。	卒業論文のテーマを明らかにし，研究を十分に具体的に進めることができない。	卒業論文のテーマを明らかにし，研究を具体的に進めることができない。
技能	1. 卒業研究の研究手法を身に付けることができる。	卒業研究の研究手法を広範囲かつ詳細に身に付けている。	卒業研究の研究手法を広範囲に身に付けている。	卒業研究の研究手法を十分に身に付けている。	卒業研究の研究手法を十分に身に付けていない。	卒業研究の研究手法を身に付けていない。

2024年度授業概要(シラバス)

科目名	卒業研究Ⅱ			授業番号	CL407	サブタイトル			
教員	中 典子、佐々木 弘記、中田 周作、岸 誠一、齊藤 佳子、西田 寛子、清田 知茂、伊藤 智里、牛島 光太郎、岡田 祥子、廣畑 まゆ美、川崎 泰子								
単位数	2単位	開講年次	4年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
授業概要	卒業研究Ⅱは、これまで受けてきた卒業研究Ⅰでの指導のもと、卒業論文の提出を目指して、各自、計画的に研究活動を進めていく。演習形式と個別指導とを適宜、組み合わせて、各自の論文の構想について報告し合いながら具体的な指導を行う。また、学生が4年間の学びの集大成として、将来への自信を持つことができるように卒業研究の指導を行う。								
到達目標	卒業研究を卒業論文あるいは作品として完成させることを目標とする。 なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <思考・問題解決能力> <技能> <態度> の修得に貢献する。								
授業計画 備考	領域（キーワード） 教育実践学、情報教育学、児童福祉学、教育社会学、美術教育学、幼児生活学、体育教育学、保育文化学、基礎心理学、国語科教育学、英語教育学、幼児音楽学、幼児教育学								
授業計画 自由記載									
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
授業への取り組みの姿勢/態度		50	課題への取り組み意欲、取り組み行為から評価する						
レポート									
小テスト									
定期試験									
その他		50	卒業研究の成果と発表内容						

評価の方法：自由記載	
受講の心得	原則として「卒業研究」を履修していること。
授業外学習	各自が卒業論文を完成させるために、授業で提示された課題を実施し、週当たり5時間程度学習すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載

必要な資料は、随時、提示する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載

その他	
-----	--

備考	
----	--

注意事項	
------	--

担当教員の業務経験の有無	有
--------------	---

担当教員の業務経験	公立中学校教諭，県教育センター（佐々木弘記） 公立小学校教諭・校長，県生涯学習センター，県情報教育センター（岸 誠一） 公立小学校教諭，教育委員会（太田 惠孝） 公立中学校指導教諭，県教育委員会（西田 寛子）
-----------	--

担当教員以外で指導に関わる業務経験者の有無	無
-----------------------	---

担当教員以外で指導に関わる業務経験者	
--------------------	--

業務経験をいかした教育内容	学校現場での現場体験を通して得た知見を学生に伝えることで，実感を伴った理解を促し，学習指導力，生徒指導力などの実践的指導力の向上に努める。
---------------	---

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学力)	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. 卒業研究として完成させる卒業論文あるいは作品の内容を理解することができる。	卒業研究として完成させる卒業論文あるいは作品の内容を広範囲かつ詳細に理解している。	卒業研究として完成させる卒業論文あるいは作品の内容を広範囲に理解している。	卒業研究として完成させる卒業論文あるいは作品の内容を十分に理解している。	卒業研究として完成させる卒業論文あるいは作品の内容を十分に理解していない。	卒業研究として完成させる卒業論文あるいは作品の内容を理解していない。
思考・問題解決能力	1. 卒業研究として完成させる卒業論文あるいは作品の内容を問題解決に役立てることができる。	卒業研究として完成させる卒業論文あるいは作品の内容を広範囲かつ詳細に問題解決に役立てている。	卒業研究として完成させる卒業論文あるいは作品の内容を広範囲に問題解決に役立てている。	卒業研究として完成させる卒業論文あるいは作品の内容を十分に問題解決に役立てている。	卒業研究として完成させる卒業論文あるいは作品の内容を十分に問題解決に役立てていない。	卒業研究として完成させる卒業論文あるいは作品の内容を問題解決に役立てていない。
技能	1. 卒業研究として完成させる卒業論文あるいは作品の内容をわかりやすく発表することができる。	卒業研究として完成させる卒業論文あるいは作品の内容を広範囲かつ詳細にわかりやすく発表することができる。	卒業研究として完成させる卒業論文あるいは作品の内容を広範囲にわかりやすく発表することができる。	卒業研究として完成させる卒業論文あるいは作品の内容を十分にわかりやすく発表することができる。	卒業研究として完成させる卒業論文あるいは作品の内容を十分にわかりやすく発表することができない。	卒業研究として完成させる卒業論文あるいは作品の内容をわかりやすく発表することができない。

科目名	基礎学力養成セミナー1 1クラス			授業番号	CM101A	サブタイトル	
教員	佐々木 弘記、西田 寛子、牛島 光太郎、太田 憲孝						
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	演習
						必修・選択	選択
授業概要	専門知識を修得するために必要となる教養や学修方法を身に付ける。内容としては、学校教育における主な教科である国語・数学・理科・社会・英語を扱う。						
到達目標	専門知識を修得するために必要となる教養や学修方法に関する問題を解くことができる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉の修得に貢献する。						
授業計画 備考							
回	概要					担当	
第1回	国語(1) 専門的知識の修得に係る国語の教養について学修する。					(太田)	
第2回	国語(2) 専門的知識の修得に係る国語の教養について演習する。					(太田)	
第3回	国語(3) 専門的知識の修得に係る国語の学修方法について学修する。					(太田)	
第4回	国語(4) 専門的知識の修得に係る国語の学修方法について演習する。					(太田)	
第5回	国語(5) 専門的知識の修得に係る国語の教養や学修方法に関する問題を解く。					(太田)	
第6回	社会(1) 専門的知識の修得に係る社会の教養について学修する。					(牛島)	
第7回	社会(2) 専門的知識の修得に係る社会の学修方法について学修する。					(牛島)	
第8回	社会(3) 専門的知識の修得に係る社会の教養や学修方法に関する問題を解く。					(牛島)	
第9回	英語(1) 専門的知識の修得に係る英語の教養について学修する。					(西田)	
第10回	英語(2) 専門的知識の修得に係る英語の学修方法について学修する。					(西田)	
第11回	数学(1) 専門的知識の修得に係る数学の教養について学修する。					(佐々木)	
第12回	数学(2) 専門的知識の修得に係る数学の学修方法について学修する。					(佐々木)	
第13回	理科(1) 専門的知識の修得に係る理科の教養について学修する。					(佐々木)	
第14回	理科(2) 専門的知識の修得に係る理科の学修方法について学修する。					(佐々木)	
第15回	数学(3)・理科(3) 専門的知識の修得に係る数学・理科の教養や学修方法に関する問題を解く。					(佐々木)	
授業計画 備考2							
評価の方法							
	種別	割合	評価基準・その他備考				
	授業への取り組みの姿勢/態度	10	意欲的な受講態度、発表・討議への参加、予・復習の状況によって評価する。				
	レポート	10	レポートの内容と提出状況によって評価する。レポートについてはコメントを記入して返却する。				
	小テスト	10	授業時に行なう小テストによって評価する。小テストは採点して返却し、解説する。				
	定期試験	70	期末の5教科テストによって評価する。				
	その他						

評価の方法：自由記載	
受講の心得	授業で配付した資料（あるいは教材）の指示された範囲を予習し授業に臨む。授業で学修した内容については、授業内での確認テストによって修得状況をチェックし、フィードバックして完全習得を目指すこと。分らなかった問題は、オフィスアワーに各担当教員に質問したり、eラーニング教材を活用したりしながら、専門知識修得の基礎となる教養の向上に努めること。
授業外学修	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業で解説された内容について復習しておくこと。 2. 授業で配付した資料（あるいは教材）の指示された範囲の予習しておくこと。 3. 分からない問題や領域については、オフィスアワーに教員に質問していくこと。 4. 分からない問題や領域については、オンデマンド教材（課題として課す場合もあり）を活用すること。 5. 白箱eラーニングを活用し学力向上に努めること。 以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
基礎学力養成セミナーⅠⅡ問題集				
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他	本授業科目は、子ども学科必修科目として位置付けている。特に、小学校で教育実習を希望する学生は、確実に単位を修得すること。			
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経歴	公立中学校理科教諭(15年)、県教育庁(9年)（佐々木弘記） 公立中学校英語科教諭・指導教諭（28年）、県教育委員会指導主事（4年）、公立中高一貫校指導教諭（6年）、公立小学校指導教諭（公立中学校指導教諭との兼務：1年）（西田寛子）			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	学校(15年)、教育センター(15年)等での経験を生かして、教育現場の実態を反映させた実践的な教育を行う。（佐々木弘記） 英語科教員・指導主事としての実務経歴（38年）を生かし、小学校や幼児教育施設等の指導者・保育者に求められる基礎的学力を養成する。（西田寛子）			

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 専門知識を習得するために必要な学修方法や教養を学び、基礎学力にかかわる問題を解くことができる。	専門知識を習得するために必要な学修方法や教養を学び、基礎学力にかかわる問題を広範囲かつ詳細に解いている。	専門知識を習得するために必要な学修方法や教養を学び、基礎学力にかかわる問題を広範囲に解いている。	専門知識を習得するために必要な学修方法や教養を学び、基礎学力にかかわる問題を十分に解いている。	専門知識を習得するために必要な学修方法や教養を学び、基礎学力にかかわる問題を十分に解いていない。	専門知識を習得するために必要な学修方法や教養を学び、基礎学力にかかわる問題を解いていない。

2024年度授業概要(シラバス)

科目名	基礎学力養成セミナーⅠ 2クラス			授業番号	CM101B	サブタイトル	
教員	佐々木 弘記、西田 寛子、牛島 光太郎、太田 恵孝						
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	演習
						必修・選択	選択
授業概要	専門知識を修得するために必要となる教養や学修方法を身に付ける。内容としては、学校教育における主な教科である国語・数学・理科・社会・英語を扱う。						
到達目標	専門知識を修得するために必要となる教養や学修方法に関する問題を解くことができる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉の修得に貢献する。						
授業計画 備考							
回	概要					担当	
第1回	国語(1) 専門的知識の修得に係る国語の教養について学修する。					(太田)	
第2回	国語(2) 専門的知識の修得に係る国語の教養について演習する。					(太田)	
第3回	国語(3) 専門的知識の修得に係る国語の学修方法について学修する。					(太田)	
第4回	国語(4) 専門的知識の修得に係る国語の学修方法について演習する。					(太田)	
第5回	国語(5) 専門知識の修得に係る国語の教養や学修方法に関する問題を解く。					(太田)	
第6回	社会(1) 専門的知識の修得に係る社会の教養について学修する。					(牛島)	
第7回	社会(2) 専門的知識の修得に係る社会の学修方法について学修する。					(牛島)	
第8回	社会(3) 専門知識の修得に係る社会の教養や学修方法に関する問題を解く。					(牛島)	
第9回	英語(1) 専門的知識の修得に係る英語の教養について学修する。					(西田)	
第10回	英語(2) 専門的知識の修得に係る英語の学修方法について学修する。					(西田)	
第11回	数学(1) 専門的知識の修得に係る数学の教養について学修する。					(佐々木)	
第12回	数学(2) 専門的知識の修得に係る数学の学修方法について学修する。					(佐々木)	
第13回	理科(1) 専門的知識の修得に係る理科の教養について学修する。					(佐々木)	
第14回	理科(2) 専門的知識の修得に係る理科の学修方法について学修する。					(佐々木)	
第15回	数学(3)・理科(3) 専門知識の修得に係る数学・理科の教養や学修方法に関する問題を解く。					(佐々木)	
授業計画 備考2							
評価の方法							
	種別	割合	評価基準・その他備考				
	授業への取り組みの姿勢/態度	10	意欲的な受講態度、発表・討議への参加、予・復習の状況によって評価する。				
	レポート	10	レポートの内容と提出状況によって評価する。レポートについてはコメントを記入して返却する。				
	小テスト	10	授業時に行なう小テストによって評価する。小テストは採点して返却し、解説する。				
	定期試験	70	期末の5教科テストによって評価する。				
	その他						

評価の方法：自由記載	
受講の心得	授業で配付した資料（あるいは教材）の指示された範囲を予習し授業に臨む。授業で学修した内容については、授業内での確認テストによって修得状況をチェックし、フィードバックして完全習得を目指すこと。分らなかった問題は、オフィスアワーに各担当教員に質問したり、eラーニング教材を活用したりしながら、専門知識修得の基礎となる教養の向上に努めること。
授業外学修	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業で解説された内容について復習しておくこと。 2. 授業で配付した資料（あるいは教材）の指示された範囲の予習しておくこと。 3. 分からない問題や領域については、オフィスアワーに教員に質問していくこと。 4. 分からない問題や領域については、オンデマンド教材（課題として課す場合もあり）を活用すること。 5. 白箱eラーニングを活用し学力向上に努めること。 以上の内容を、適当に1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
基礎学力養成セミナーⅠⅡ問題集				
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他	本授業科目は、子ども学科必修科目として位置付けている。特に、小学校で教育実習を希望する学生は、確実に単位を修得すること。			
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の实務経歴	公立中学校理科教諭(15年)、県教育センター(9年) (佐々木弘記) 公立中学校英語科教諭・指導教諭(28年)、県教育委員会指導主事(4年)、公立中高一貫校指導教諭(6年)、公立小学校指導教諭(公立中学校指導教諭との兼務：1年) (西田寛子)			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	学校(15年)、教育センター(15年)等での経験を生かして、教育現場の実際を反映させた実践的な教育を行う。(佐々木弘記) 英語科教員・指導主事としての実務経験(38年)を生かし、小学校や幼児教育施設等の指導者・保育者に求められる基礎的学力を養成する。(西田寛子)			

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. 専門知識を習得するために必要な学修方法や教養を学び、基礎学力にかかわる問題を解くことができる。	専門知識を習得するために必要な学修方法や教養を学び、基礎学力にかかわる問題を広範囲かつ詳細に解いている。	専門知識を習得するために必要な学修方法や教養を学び、基礎学力にかかわる問題を広範囲に解いている。	専門知識を習得するために必要な学修方法や教養を学び、基礎学力にかかわる問題を十分に解いている。	専門知識を習得するために必要な学修方法や教養を学び、基礎学力にかかわる問題を十分に解いていない。	専門知識を習得するために必要な学修方法や教養を学び、基礎学力にかかわる問題を解いていない。

科目名	基礎学力養成セミナーⅡ 1クラス			授業番号	CM102A	サブタイトル	
教員	佐々木 弘記、西田 寛子、牛島 光太郎、太田 恵孝						
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	演習
						必修・選択	選択
授業概要	専門知識を修得するために必要となる発展的な教養や学修方法を身に付ける。内容としては、学校教育における主な教科である国語・数学・理科・社会・英語を扱う。						
到達目標	専門知識を修得するために必要となる発展的な教養や学修方法に関する問題を解くことができる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉の修得に貢献する。						
授業計画 備考							
回	概要					担当	
第1回	数学(1) 専門的知識の修得に係る数学の発展的な教養について学修する。					(佐々木)	
第2回	数学(2) 専門的知識の修得に係る数学の発展的な学修方法について学修する。					(佐々木)	
第3回	理科(1) 専門的知識の修得に係る理科の発展的な教養について学修する。					(佐々木)	
第4回	理科(2) 専門的知識の修得に係る理科の発展的な学修方法について学修する。					(佐々木)	
第5回	数学(3)・理科(3) 専門的知識の修得に係る数学・理科の発展的な教養や学修方法に関する問題を解く。					(佐々木)	
第6回	国語(1) 専門的知識の修得に係る国語の発展的な教養について学修する。					(太田)	
第7回	国語(2) 専門的知識の修得に係る国語の発展的な学修方法について学修する。					(太田)	
第8回	国語(3) 専門的知識の修得に係る国語の発展的な教養や学修方法に関する問題を解く。					(太田)	
第9回	社会(1) 専門的知識の修得に係る社会の発展的な教養について学修する。					(牛島)	
第10回	社会(2) 専門的知識の修得に係る社会の発展的な学修方法について学修する。					(牛島)	
第11回	社会(3) 専門的知識の修得に係る社会の発展的な教養や学修方法に関する問題を解く。					(牛島)	
第12回	英語(1) 専門的知識の修得に係る英語の発展的な教養について学修する。					(西田)	
第13回	英語(2) 知識の修得に係る英語の発展的な学修方法について学修する。					(西田)	
第14回	英語(3) 専門的知識の修得に係る英語の発展的な教養や学修方法に関する問題を解く。					(西田)	
第15回	5教科のまとめ 専門知識を修得するために必要となる発展的な教養や学修方法の定着状況を白紙eラーニングを用いて確認する。					(佐々木)	
授業計画 備考2							
評価の方法							
	種別	割合	評価基準・その他備考				
	授業への取り組みの姿勢/態度	10	意欲的な受講態度、発表・討議への参加、予・復習の状況によって評価する。				
	レポート	10	レポートの内容と提出状況によって評価する。レポートについてはコメントを記入して返却する。				
	小テスト	20	授業時に行なう小テストによって評価する。小テストは採点して返却し、解説する。				
	定期試験	50	期末の5教科テストによって評価する。				
	その他	10	白紙eラーニングの学修状況・復習テスト				

評価の方法：自由記載	
受講の心得	授業で配付した資料（あるいは教材）の指示された範囲を予習して授業に臨む。授業で学習した内容については、授業内での確認テストによって習得状況をチェックし、フィードバックして完全習得を目指すこと。分らなかった問題は、オフィスアワーに各担当教員に質問したり、オンデマンド教材を活用したりしながら、基礎学力の向上に努めること。
授業外学習	1. 授業で解説された内容について復習しておくこと。 2. 授業で配付した資料（あるいは教材）の指示された範囲の予習しておくこと。 3. 分からない問題や領域については、オフィスアワーに教員に質問すること。 4. 分からない問題や領域については、オンデマンド教材（課題として課す場合もあり）を活用すること。 以上の内容を、週当たり1時間以上学習すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
基礎学力養成セミナーⅠⅡ問題集				
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他	本授業科目は、子ども学科必修科目として位置付けている。 特に、小学校で教育実習を希望する学生は、確実な単位を修得すること。			
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	公立中学校理科教諭(15年)、県教育センター(9年)（佐々木弘記） 公立中学校英語科教諭・指導教諭（28年）、県教育委員会指導主事（4年）、公立中高一貫校指導教諭（6年）、公立小学校指導教諭（公立中学校指導教諭との兼務：1年）（西田寛子）			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	学校(15年)、教育センター(9年)等での経験を生かして、教育現場の実態を反映させた実践的な教育を行う。(佐々木弘記) 英語科教員・指導主事としての実務経験（38年）を生かし、小学校や乳幼児教育施設等の指導者・保育者に求められる基礎的学力を養成する。(西田寛子)			

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. 専門知識を習得するために必要な学修方法や教養を学び、基礎学力にかかわる問題を解くことができる。	専門知識を習得するために必要な学修方法や教養を学び、基礎学力にかかわる問題を広範囲で詳細に解いている。	専門知識を習得するために必要な学修方法や教養を学び、基礎学力にかかわる問題を広範囲に解いている。	専門知識を習得するために必要な学修方法や教養を学び、基礎学力にかかわる問題を十分に解いている。	専門知識を習得するために必要な学修方法や教養を学び、基礎学力にかかわる問題を十分に解いていない。	専門知識を習得するために必要な学修方法や教養を学び、基礎学力にかかわる問題を解いていない。

科目名	基礎学力養成セミナーⅡ 2クラス			授業番号	CM102B	サブタイトル	
教員	佐々木 弘記、西田 寛子、牛島 光太郎、太田 恵孝						
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	演習
						必修・選択	選択
授業概要	専門知識を修得するために必要となる発展的な教養や学修方法を身に付ける。内容としては、学校教育における主な教科である国語・数学・理科・社会・英語を扱う。						
到達目標	専門知識を修得するために必要となる発展的な教養や学修方法に関する問題を解くことができる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉の修得に貢献する。						
授業計画 備考							
回	概要					担当	
第1回	数学(1) 専門的知識の修得に係る数学の発展的な教養について学修する。					(佐々木)	
第2回	数学(2) 専門的知識の修得に係る数学の発展的な学修方法について学修する。					(佐々木)	
第3回	理科(1) 専門的知識の修得に係る理科の発展的な教養について学修する。					(佐々木)	
第4回	理科(2) 専門的知識の修得に係る理科の発展的な学修方法について学修する。					(佐々木)	
第5回	数学(3)・理科(3) 専門的知識の修得に係る数学・理科の発展的な教養や学修方法に関する問題を解く。					(佐々木)	
第6回	国語(1) 専門的知識の修得に係る国語の発展的な教養について学修する。					(太田)	
第7回	国語(2) 専門的知識の修得に係る国語の発展的な学修方法について学修する。					(太田)	
第8回	国語(3) 専門的知識の修得に係る国語の発展的な教養や学修方法に関する問題を解く。					(太田)	
第9回	社会(1) 専門的知識の修得に係る社会の発展的な教養について学修する。					(牛島)	
第10回	社会(2) 専門的知識の修得に係る社会の発展的な学修方法について学修する。					(牛島)	
第11回	社会(3) 専門的知識の修得に係る社会の発展的な教養や学修方法に関する問題を解く。					(牛島)	
第12回	英語(1) 専門的知識の修得に係る英語の発展的な教養について学修する。					(西田)	
第13回	英語(2) 知識の修得に係る英語の発展的な学修方法について学修する。					(西田)	
第14回	英語(3) 専門的知識の修得に係る英語の発展的な教養や学修方法に関する問題を解く。					(西田)	
第15回	5教科のまとめ 専門知識を修得するために必要となる発展的な教養や学修方法の定着状況を白紙eラーニングを用いて確認する。					(佐々木)	
授業計画 備考2							
評価の方法							
	種別	割合	評価基準・その他備考				
	授業への取り組みの姿勢/態度	10	意欲的な受講態度、発表・討議への参加、予・復習の状況によって評価する。				
	レポート	10	レポートの内容と提出状況によって評価する。レポートについてはコメントを記入して返却する。				
	小テスト	20	授業時に行なう小テストによって評価する。小テストは採点して返却し、解説する。				
	定期試験	50	期末の5教科テストによって評価する。				
	その他	10	白紙eラーニングの学修状況・復習テスト				

評価の方法：自由記載	
受講の心得	授業で配付した資料（あるいは教材）の指示された範囲を予習して授業に臨む。授業で学習した内容については、授業内での確認テストによって習得状況をチェックし、フィードバックして完全習得を目指すこと。分らなかった問題は、オフィスアワーに各担当教員に質問したり、オンデマンド教材を活用したりしながら、基礎学力の向上に努めること。
授業外学習	1. 授業で解説された内容について復習しておくこと。 2. 授業で配付した資料（あるいは教材）の指示された範囲の予習しておくこと。 3. 分からない問題や領域については、オフィスアワーに教員に質問すること。 4. 分からない問題や領域については、オンデマンド教材（課題として課す場合もあり）を活用すること。 以上の内容を、週当たり1時間以上学習すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
基礎学力養成セミナーⅠⅡ問題集				
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他	本授業科目は、子ども学科必修科目として位置付けている。特に、小学校で教育実習を希望する学生は、確実に単位を修得すること。			
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	公立中学校理科教諭(15年)、県教育センター(9年) (佐々木弘記) 公立中学校英語科教諭・指導教諭(28年)、県教育委員会指導主事(4年)、公立中高一貫校指導教諭(6年)、公立小学校指導教諭(公立中学校指導教諭との兼務：1年) (西田寛子)			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	学校(15年)、教育センター(9年)等での経験を生かして、教育現場の実態を反映させた実践的な教育を行う。(佐々木弘記) 英語科教員・指導主事としての実務経験(38年)を生かし、小学校や幼児教育施設等の指導者・保育者に求められる基礎的学力を養成する。(西田寛子)			

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. 専門知識を習得するために必要な学修方法や教養を学び、基礎学力にかかわる問題を解くことができる。	専門知識を習得するために必要な学修方法や教養を学び、基礎学力にかかわる問題を広範囲で詳細に解いている。	専門知識を習得するために必要な学修方法や教養を学び、基礎学力にかかわる問題を広範囲に解いている。	専門知識を習得するために必要な学修方法や教養を学び、基礎学力にかかわる問題を十分に解いている。	専門知識を習得するために必要な学修方法や教養を学び、基礎学力にかかわる問題を十分に解いていない。	専門知識を習得するために必要な学修方法や教養を学び、基礎学力にかかわる問題を解いていない。

科目名	総合教養養成セミナーI			授業番号	CM203	サブタイトル	
教員	山田 恵子、太田 恵孝						
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	演習
						必修・選択	選択
授業概要	1年次に実施した「基礎学力セミナーI-II」を深化・統合させる講座である。前半は、小学校コース、保幼コースともに、現代文や古文、自然科学、数学、地理歴史・公民、外国語など一般教養に関する内容を学修し、幅広い教養を身に付ける。						
到達目標	現代文や古文、自然科学、数学、地理歴史・公民、外国語など一般教養に関する知識を身に付けている。 なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、「知識・理解」の修得に貢献する。						
授業計画 備考							
回	概要					担当	
第1回	オリエンテーション、自己課題の分析と確認					太田	
第2回	一般教養：文学					太田	
第3回	一般教養：古典					太田	
第4回	一般教養：数的推理					山田	
第5回	一般教養：判断推理					山田	
第6回	一般教養：平面図形と立体図形					山田	
第7回	一般教養：地理					太田	
第8回	一般教養：歴史					太田	
第9回	一般教養：公民					太田	
第10回	一般教養：物理					山田	
第11回	一般教養：化学					山田	
第12回	一般教養：生物・地学					山田	
第13回	一般教養：英語の読み方					太田	
第14回	一般教養：英語の書き方					太田	
第15回	総合評価テスト					山田	
授業計画 備考2							
評価の方法							
	種別	割合	評価基準・その他備考				
	授業への取り組みの姿勢/態度	20	意欲的な受講態度、発表・討議への参加、予・復習の状況によって評価する。				
	レポート	30	レポートの内容と提出状況によって評価する。				
	小テスト		授業時に行なう小テストによって評価する。				
	定期試験	50	まとめとなるテストによって評価する。				
	その他		白紙eラーニングの学修状況・復習テスト				

評価の方法：自由記載	
受講の心得	授業で配付された資料を予習して授業に臨む。授業で学習した内容については、フィードバックして完全習得を目指すこと。分からない問題は、オフィスアワーに担当教員に質問すること。
授業外学習	1 予習として、授業で配付された資料等を読み、疑問点を明らかにする。 2 復習として、授業で示された課題等のレポートやオンデマンド教材の学習をする。 3 発展学習として、授業で紹介された参考文献や資料等を読む。 以上の内容を、適当に94時間以上学習すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載

必要な資料は随時配付する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載

--

その他

3年次に教育実習Bを履修する学生、及び、公立の保育園・幼稚園の採用試験を受験する予定の学生は必ず受講すること。

備考

--

注意事項

--

担当教員の業務経験の有無

有

担当教員の業務経験

教員(教頭を含む)16年、岡山県教育委員会専門的教職員16年、校長7年

担当教員以外で指導に関わる業務経験者の有無

--

担当教員以外で指導に関わる業務経験者

--

業務経験をいかした教育内容

学校現場や教育委員会での教職経験から、総合的な教養が培われるよう指導します。
--

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点(到達目標に基づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 現代文や古文、自然科学、数学、地理歴史・公民、外国語など一般教養に関する知識を習得するために必要な学修方法を学び、一般教養にかかわる問題を解くことができる。	現代文や古文、自然科学、数学、地理歴史・公民、外国語など一般教養に関する知識を習得するために必要な学修方法を学び、一般教養にかかわる問題を広範かつ詳細に解いている。	現代文や古文、自然科学、数学、地理歴史・公民、外国語など一般教養に関する知識を習得するために必要な学修方法を学び、一般教養にかかわる問題を広範に解いている。	現代文や古文、自然科学、数学、地理歴史・公民、外国語など一般教養に関する知識を習得するために必要な学修方法を学び、一般教養にかかわる問題を十分に解いている。	現代文や古文、自然科学、数学、地理歴史・公民、外国語など一般教養に関する知識を習得するために必要な学修方法を学び、一般教養にかかわる問題を十分に解いていない。	現代文や古文、自然科学、数学、地理歴史・公民、外国語など一般教養に関する知識を習得するために必要な学修方法を学び、一般教養にかかわる問題を解いていない。

2024年度授業概要(シラバス)

科目名	総合教養養成セミナーⅡ			授業番号	CM204	サブタイトル	
教員	太田 憲孝、山田 恵子						
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	演習
必修・選択	必修・選択						
選択	選択						
授業概要	1年次に実施した「基礎学力セミナーⅠ・Ⅱ」を深化・統合させる講座である。前半は、小学校コース、保幼コースともに、現代文や古文、自然科学、数学、地理歴史・公民、外国語など一般教養に関する内容を学修し、幅広い教養を身に付ける。後半は、特に社会・理科・英語に重点をおいて学修を深める。						
到達目標	現代文や古文、自然科学、数学、地理歴史・公民、外国語など一般教養に関する知識を身に付けている。 なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、「知識・理解」の修得に貢献する。						
授業計画 備考							
回	概要					担当	
第1回	オリエンテーション、自己課題の確認と分析					太田	
第2回	一般教養：文学					太田	
第3回	一般教養：古典					太田	
第4回	一般教養：数的推理					山田	
第5回	一般教養：判断推理					山田	
第6回	一般教養：数学					山田	
第7回	一般教養：地理					太田	
第8回	一般教養：歴史					太田	
第9回	一般教養：公民					太田	
第10回	一般教養：物理					山田	
第11回	一般教養：化学					山田	
第12回	一般教養：生物・地学					山田	
第13回	一般教養：英語の読み方					太田	
第14回	一般教養：英語の書き方					太田	
第15回	総合評価テスト					山田	
授業計画 備考2							
評価の方法							
種別	割合	評価基準・その他備考					
授業への取り組みの姿勢/態度	30	意欲的な受講態度、発表・討議への参加、予・復習の状況によって評価する。					
レポート	10	ノート資料整理・レポート等の内容と提出状況によって評価する。					
小テスト							
定期試験	50	まとめとなるテストによって評価する。					
その他	10	白紙eラーニングの学修状況・復習テスト					

評価の方法：自由記載	
受講の心得	授業で配付された資料を予習して授業に臨む。授業で学習した内容については、授業内での小テストによって習得状況をチェックし、フィードバックして完全習得を目指すこと。分らなかった問題は、オフィスアワーに担当教員に質問したり、オンデマンド教材を活用したりして学力の向上に努める。
授業外学習	1 予習として、授業で配付された資料等を読み、疑問点を明らかにする。 2 復習として、授業で示された課題等のレポートやオンデマンド教材の学習をする。 3 発展学習として、授業で紹介された参考文献や資料等を読む。 以上の内容を、適当に4時間以上学習すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載

必要な資料は随時配付する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載

その他	3年次に教育実習Bを履修する学生、及び、公立の保育園・幼稚園の採用試験を受験する予定の学生は必ず受講すること。
-----	---

備考	
----	--

注意事項	
------	--

担当教員の実務経験の有無	有
--------------	---

担当教員の職務経歴	教員(教師を含む)16年、岡山県教育委員会専門的教育職員16年、校長7年(山田) 小学校教諭、中学校教諭、教育委員会主任指導主事、岐阜大学教育学部附属中学校文部教育(太田)
-----------	---

担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
-----------------------	---

担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
--------------------	--

実務経験をいかした教育内容	教育委員会や学校現場での経験をいかした、総合教養の育成になるよう努める。
---------------	--------------------------------------

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学力)	評価の観点(到達目標に基づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 現代文や古文、自然科学、数学、地理歴史・公民、外国語など一般教養に関する知識を習得するために必要な学修方法を学び、一般教養にかかわる問題を解くことができる。	現代文や古文、自然科学、数学、地理歴史・公民、外国語など一般教養に関する知識を習得するために必要な学修方法を学び、一般教養にかかわる問題を広範囲かつ詳細に解いている。	現代文や古文、自然科学、数学、地理歴史・公民、外国語など一般教養に関する知識を習得するために必要な学修方法を学び、一般教養にかかわる問題を広範囲に解いている。	現代文や古文、自然科学、数学、地理歴史・公民、外国語など一般教養に関する知識を習得するために必要な学修方法を学び、一般教養にかかわる問題を十分に解いている。	現代文や古文、自然科学、数学、地理歴史・公民、外国語など一般教養に関する知識を習得するために必要な学修方法を学び、一般教養にかかわる問題を十分に解いていない。	現代文や古文、自然科学、数学、地理歴史・公民、外国語など一般教養に関する知識を習得するために必要な学修方法を学び、一般教養にかかわる問題を解いていない。

科目名	キャリア教育論			授業番号	CM305	サブタイトル	
教員	満田 知深、西田 寛子、牛島 光太郎、太田 憲孝、岡崎 三鈴						
単位数	2単位	開講年次	3年	開講期	前期	授業形態	講義
必修・選択	必修・選択		選択				
授業概要	卒業後、保育士・幼稚園教諭・小学校教諭として進路に向かうために、これらの職業・職業人に関する基礎知識を学習するとともに、望ましい職業観・勤労観を考へ、また、進路選択に必要な能力及び心構えを学ぶ。						
到達目標	職業・職業人に関する基礎知識を習得するとともに、望ましい職業観・勤労観を醸成し、社会人基礎力を身に付ける。 なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜態度＞の修得に貢献する。						
授業計画 備考							
回	概要					担当	
第1回	一生涯のキャリアを考える 一生涯のキャリア計画を年代別に考える。						
第2回	キャリア形成について キャリア計画に必要なスキルを考える。						
第3回	敬語について、自己分析について 社会人として必要な敬語を理解し、自分の人生を振り返り、特徴を発見しながら自己分析を行う。						
第4回	エントリーシートの作り方 思いが伝わるエントリーシートを完成させる。						
第5回	自己PRを作成する 学生時代に力を入れたことと自己PRのテンプレートを作成する。						
第6回	進路目標の明確化・具体化 コーチングによる進路目標の明確化・具体化していく。						
第7回	就職活動の基本 就職活動の基本的な流れを理解する。						
第8回	就職情報サイトについて 個人個人に合わせた就職情報サイトの利用の仕方について理解する。						
第9回	仕事研究について やりたくないことを見直し、自分にとっての優良企業を見つける。						
第10回	インターンシップについて インターンシップの基礎知識を理解し、インターン生の心得を学ぶ。						
第11回	保育士・幼稚園教諭の勤務の実態 「公立園、私立園の違いについて」、「保育者の仕事の魅力」、「園での仕事の流れ」、「同僚、先輩とスムーズに仕事をするためには」、「保護者との関わり」等について理解を深める。社会						
第12回	小学校教諭の勤務の実態 「小学校教諭の仕事の魅力」、「小学校教諭での仕事の流れ」、「保護者との関わり」等について理解を深める。						
第13回	保育士・幼稚園教諭への道 「保育士・幼稚園教諭としてのキャリアプランの考え方」、「具体的な目標とそれを実現するための方法」、「自分だけの特技を作ろう」、「保育者が持っている、便利な資格」、「就職まででできる準備」等について理解を深める。						
第14回	小学校教諭への道 「小学校教諭としてのキャリアプランの考え方」、「具体的な目標とそれを実現するための方法」、「就職まででできる準備」等について理解を深める。						
第15回	就職試験・採用試験に向けて 就職試験・採用試験に向けて必要な知識を深め、必要な試験対策を理解する。						
授業計画 備考2							
評価の方法							
種別	割合	評価基準・その他備考					
授業への取り組みの姿勢/態度	80	意欲的な受講態度、予習・復習の状況によって評価する。 フィードバックは、その時その場で行う。					
レポート	20	課題内容について十分に理解した上で自分なりの考察を述べること。 レポートは、コメントを記入して返却する。					
小テスト							
定期試験							
その他							

評価の方法：自由記載	
受講の心得	自らの将来について真摯に考え、取り組むこと。
授業外学習	毎回の授業について、4時間以上を予習復習に充てること。 模範試験に向けて2時間以上の予習して臨み、その結果を受けて2時間以上復習すること。 また、レポート課題が与えられた際は4時間以上をその作成に充てること。 更に、就職支援センターを1度は訪れ、就職活動の具体を体験すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載

授業の中で適宜紹介する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載

その他

備考

注意事項

担当教員の実務経験の有無

無

担当教員の実務経験

担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無

無

担当教員以外で指導に関わる実務経験者

実務経験をいかした教育内容

実務現場での経験を生かして、キャリアの形成について指導を行う。

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. 職業・職業人に関する基礎知識を身に付けることができる。	職業・職業人に関する基礎知識を身に付けることができる。	職業・職業人に関する基礎知識をほぼ身に付けることができる。	職業・職業人に関する基本的な基礎知識を身に付けることができる。	職業・職業人に関する基礎知識を身に付けることが十分ではない。	職業・職業人に関する基礎知識を身に付けることができない。
思考・問題解決能力	1. 望ましい職業観・勤労観を理解することができる。	望ましい職業観・勤労観を理解することができる。	望ましい職業観・勤労観をほぼ理解することができる。	望ましい職業観・勤労観を基本的に理解することができる。	望ましい職業観・勤労観を理解が十分ではない。	望ましい職業観・勤労観を理解することができない。
態度	1. 社会人基礎力を身に付けることができる。	社会人基礎力を身に付けることができる。	社会人基礎力をほぼ身に付けることができる。	社会人基礎力を基本的に身に付けることができる。	社会人基礎力が十分ではない。	社会人基礎力を身に付けることができない。

科目名	キャリア教育演習		授業番号	CM306	サブタイトル				
教員	満田 知茂、佐々木 弘紀、岡藤 佳子、西田 寛子、伊藤 智里、牛島 光太郎、太田 恵孝、森寺 勝之、岡崎 三鈴								
単位数	1単位	開講年次	3年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	将来の仕事と生き方を考えるための情報提供をし、具体的な準備と行動について学ぶ。就職活動に先駆けて自己分析・基礎研究を行い、自分にあったキャリアプランを作成する。								
到達目標	採用試験・就職試験で行われる面接、筆記試験、実技などに対応できる知識・技能を身に付ける。 上記のように、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士上の内容のうち、＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
回	概要					担当			
第1回	就職活動の流れ 就職活動スタートに向けて、今から何を始めていくか理解する。								
第2回	身だしなみについて 身だしなみを意識して第一印象をアップする。好印象を与えるスーツの着こなしのポイントを理解する。								
第3回	メイクセミナー ビジネスメイクの必要性を知る。就活メイクのポイントを理解する。								
第4回	履歴書・エントリーシートの作成 履歴書・エントリーシートの基礎・作成のポイントを理解する。								
第5回	面接の受け方 自分の強みを知り、面接の基本や面接官が見ているポイントを知る。面接で、伝える・伝わる話し方を理解する。								
第6回	企業研究 企業研究がなぜ必要なのかその大切さを理解する。世の中の仕事について興味関心を深める。								
第7回	先輩からのメッセージ 先輩の話を聞いて、今から何を始めていくべきか理解する。								
第8回	インターンシップの重要性 インターンシップの基本的な流れを知り、知識を深め、重要性について理解する。								
第9回	企業研究の進め方 企業研究の進め方を知って、幅広く仕事について興味関心を深める。								
第10回	求人票の見方 求人票の見方を知り、就職活動の準備について理解する。								
第11回	一般教養の理解 一般教養の知識を深める。								
第12回	専門教養の理解 専門教養の理解を深める。								
第13回	SPIの理解 SPIの様々な形式・特徴を理解する。								
第14回	市町村が望む保育士・教師像 保育士・幼稚園教諭・小学校教諭としてどのような準備をするべきか理解する。								
第15回	進路決定へ向けて 改めてキャリアプランを考える。								
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢/態度	30	意欲的な受講態度、発表・討論への参加、予・復習の状況によって評価する。 フィードバックは、その時その場で行う。						
	レポート	30	各回の授業で提示される課題について、自分の考えを具体的に述べていること。 レポートは、コメントを記入して返却する。						
	小テスト	40	各回の主要なポイントの理解度を評価する。 小テストは、採点をして返却する。						
	定期試験								
	その他								

評価の方法：自由記載	
受講の心得	卒業後の進路を見据えて、積極的な態度で授業に参加することが望ましい。
授業外学修	1 予習として、授業で配付される資料を読み、疑問点を明らかにする。 2 復習として、授業で提示された課題のレポートを書く。 3 発展学習として、授業で紹介された参考文献や資料等を読む。 以上の内容を、適当に4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
教員採用試験対策セミナー1 教職教養	東京アカデミー	七賢出版		1500
教員採用試験対策セミナー3 専門教科小学校全科	東京アカデミー	七賢出版		1500
使用テキスト：自由記載	「保育所指導指針・解説」「幼稚園教育要領・解説」「就活グリーンBOOK」中国学園大学・中国短期大学就職支援委員会			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	授業中に適宜紹介する。			
その他	プリント等を整理するためクリアファイルを持参すること。			
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の实務経験	公立中学校理科教諭、県教育センター（佐々木弘記）			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかけた教育内容	学校、教育センター等での経験を生かして、教育現場の実際を反映させた実践的な教育を行う。（佐々木）			

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー-学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. 将来の仕事と生き方を考えるための情報を理解することができる。	将来の仕事と生き方を考えるための情報を理解することができる。	将来の仕事と生き方を考えるための情報をほぼ理解することができる。	将来の仕事と生き方を考えるための基本的な情報を理解することができる。	将来の仕事と生き方を考えるための情報の理解が十分ではない。	将来の仕事と生き方を考えるための情報を理解することができない。
知識・理解	2. 自己分析・職業研究ができています。	自己分析・職業研究ができています。	自己分析・職業研究がほぼできています。	基本的な自己分析・職業研究ができています。	自己分析・職業研究が十分ではない。	自己分析・職業研究ができていない。
技能	1. 自分にあったキャリアプランを作成することができる。	自分にあったキャリアプランを作成することができる。	自分にあったキャリアプランをほぼ作成することができる。	自分にあった基本的なキャリアプランを作成することができる。	自分にあったキャリアプランの作成が十分ではない。	自分にあったキャリアプランを作成することができない。

科目名	人権教育論		授業番号	CN201	サブタイトル				
教員	森寺 勝之								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	人権問題の現状と課題についての考察を通じ、人権の正しい理解を深めるとともに、差別や偏見をなくする手立てとしての人権教育の在り方について考え、人権課題の解決につながる実践力を高める。								
到達目標	課題解決の実践力向上に向け、人権問題について認識を深め、人権教育の重要性を理解する。 あわせて、現代の子どもを取りまく多様な問題に対応できる人権感覚を身に付け、適切な対応ができるようになる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち<知識・理解>・<態度>の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
回	概要					担当			
第1回	人権とは、人権問題とは身近な生活の中にある人権問題から								
第2回	人権問題の現状と課題(子どもについて)いじめ、いじめ対策等について考える								
第3回	人権問題の現状と課題(児童虐待について)児童虐待の種類や対応の仕方について考える								
第4回	人権問題の現状と課題(障がい者について)心のケア、関係法令、サポートの仕方について考える								
第5回	人権問題の現状と課題(女性について)男女共同参画、デートDV等について考える								
第6回	人権問題の現状と課題(ハンセン病患者について)ハンセン病患者の人権について考える								
第7回	人権問題の現状と課題(同和問題について)同和問題等について考える								
第8回	人権問題の現状と課題(LGBTについて)性的マイノリティ等について考える								
第9回	人権ワークショップ 人権カードを作成しよう								
第10回	人権問題の現状と課題(高齢者について)高齢者虐待等について考える								
第11回	公務員、保母、教員採用試験における人権関係の問題を解いてみよう 憲法、教育基本法等を理解しよう								
第12回	人権ワークショップ 人権カードの発表をしよう								
第13回	人権教育の国際潮流 国連憲章、児童憲章等を理解しよう								
第14回	学校における人権教育 進め方や指導内容、指導方法を理解しよう								
第15回	SDGsと人権 字修のまとめをしよう								
授業計画 備考2									
評価の方法									
種別		割合	評価基準・その他備考						
授業への取り組みの姿勢/態度		20	意欲的な受講態度、発表、ノート整理、予習復習等によって評価する。						
レポート		30	レポートや学習シートによる考察や記述、意欲的、具体的、自分なりに取り組んでいるか。						
小テスト									
定期試験		50	講義で学んだ人権課題及び人権教育の現状や取組について具体的に理解できていること。						
その他									

評価の方法：自由記載	
受講の心得	人権問題への関心を高め、自らの課題として人権問題の解決に取り組むことができる意欲や実践力を高めようとする前向きで、謙虚な態度で受講してください。
授業外学修	ノート整理や配付する資料や紹介する参考文献やネットでの検索等を次回までしておくこと。 毎回、学習シートの提出等を実施するので、復習を十分しておくこと。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載

授業用資料を配付する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載

授業で随時紹介する。

その他

備考

注意事項

担当教員の業務経験の有無

有

担当教員の業務経験

教員(教頭を含む)16年 岡山県教育委員会専門的教育職員16年 小学校校長7年

担当教員以外で指導に関わる業務経験者の有無

無

担当教員以外で指導に関わる業務経験者

業務経験をいかした教育内容

小中高の教員や小学校教頭・校長、教育委員会専門的教育職員として人権教育に取り組んできた経験を活かし、学校現場に直結した人権教育計画や授業構想などの講義を行う。

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	人権問題について認識を深め、人権教育の重要性を理解している。	人権問題について認識を深め、人権教育の重要性を講義内容を超えて幅広くかつ深く理解している。	人権問題について認識を深め、人権教育の重要性をほぼ100%理解している。	人権問題について認識を深め、人権教育の重要性をおおむね理解している。	人権問題について認識を深め、人権教育の重要性を理解しているが十分でない。	人権問題について認識を深め、人権教育の重要性について、基本的な事項が理解できていない。
態度	現代の子どもたちをとりまく多様な問題に対応できる人権感覚を身に付け、適切な対応ができるようになる。	現代の子どもたちをとりまく多様な問題に対応できる人権感覚を講義内容を超えて身に付け、より適切な対応ができるようになる。	現代の子どもたちをとりまく多様な問題に対応できる人権感覚を身に付け、ほぼ100%、適切な対応ができるようになる。	現代の子どもたちをとりまく多様な問題に対応できる人権感覚を身に付け、おおむね適切な対応ができるようになる。	現代の子どもたちをとりまく多様な問題に対応できる人権感覚を身に付け、適切な対応ができるようもあるが、十分でない。	現代の子どもたちをとりまく多様な問題に対応できる人権感覚を身に付け、適切な対応ができない。

科目名	子どもとおやつ			授業番号	CN202	サブタイトル	
教員	加賀田 江里						
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	演習
必修・選択							必修・選択
選択							
授業概要	<p>幼児期の食事は健康な発達において重要である。その中でも間食は幼児期において不足しがちな栄養素を補つという意義をもち、欠かすことのないものである。そこで、この授業では幼児期における補食としてのおやつを作るために必要な基礎知識と基本操作を学ぶ。</p>						
到達目標	<p>・幼児期の栄養の基礎知識を習得する ・幼児期における間食の必要性について理解する ・間食を選択する上での基礎的な知識と技術を習得する なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学上力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉の修得に貢献する。</p>						
授業計画 備考	この授業は全8回の授業である。 履修人数によっては2クラスで隔週開講となる場合がある。						
回	概要					担当	
第1回	【第1回】幼児期の間食の意義 子どもにとっておやつとはどんな存在かについて理解する。						
第2回	【第2回】子どものおやつ（1） 子どものおやつを作る上で必要な事項（エネルギー、形態など）を理解する。						
第3回	【第3回】子どものおやつ（2） 子どものおやつとアレルギー（アレルギーの多いもの、食品表示の見方）について理解する。						
第4回	【第4回】子どものおやつ（3） 子どものおやつ作り方を理解する。						
第5回	【第5回】子どものおやつ（4） 子どものおやつ作り方を理解する。						
第6回	【第6回】子どものおやつ（5） 子どものおやつ作り方を理解する。						
第7回	【第7回】アレルギー対応のおやつ アレルギーをもつ子どものおやつ作り方を理解する。						
第8回	【第8回】子どもと一緒に作るおやつ 子どもと一緒に作れるおやつについて理解する。						
第9回							
第10回							
第11回							
第12回							
第13回							
第14回							
第15回							
授業計画 備考2							
評価の方法							
種別	割合	評価基準・その他備考					
授業への取り組みの姿勢/態度	30	意欲的な受講態度によって評価する。					
レポート							
小テスト							
定期試験	70	授業の内容の最終的な理解度を評価する。					
その他							

評価の方法：自由記載	
受講の心得	幼児の栄養や、調理の基本操作について自ら積極的に学ぶ姿勢をもって臨むこと。 髪を結ぶ、爪を切る、マニキュアは落とす、ピアス、ネックレスなどのアクセサリー類を外す等、実習にふさわしい身支度を整え、安全面・衛生面に十分配慮して実習を行うこと。
授業外学修	1. 授業で出てきたポイントを復習すること 2. 日頃から子どもと食に関する情報に興味関心を持ち、自ら情報収集を行うこと 以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学土力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. 幼児期の栄養の基礎知識を修得できている	幼児期の栄養の基礎知識を十分に修得でき、不足しがちな栄養素を補うための工夫をすることができる	幼児期の栄養の基礎知識を十分に修得でき、不足しがちな栄養素を補うための工夫を考慮することができる	幼児期の栄養の基礎知識を修得できている	幼児期の栄養の基礎知識をやや修得できている	幼児期の栄養の基礎知識を修得できていない
知識・理解	2. 幼児期における間食の必要性について理解できている	幼児期における間食の必要性について十分理解でき、子どもに応じたおやつを選択することができる	幼児期における間食の必要性について理解でき、子どもに応じたおやつを選択することができる	幼児期における間食の必要性について理解できている	幼児期における間食の必要性についてやや理解できている	幼児期における間食の必要性について理解できていない
技能	1. 間食を調理する上での基礎的な知識と技術が修得できている	間食を調理する上での基礎的な知識と技術が十分に修得でき、自分で間食を作ることができる	間食を調理する上での基礎的な知識と技術が修得でき、自分で間食を作ることができる	間食を調理する上での基礎的な知識と技術が修得できている	間食を調理する上での基礎的な知識と技術がやや修得できている	間食を調理する上での基礎的な知識と技術が修得できていない

科目名	子ども楽器 1クラス		授業番号	CN204A	サブタイトル				
教員	土師 穂子、岡崎 三鈴								
単位数	1単位	開講年次	がキリウムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	幼稚園教育要領等について講義を行う。子どもが豊かな音楽表現をするために楽器の種類を知る。教育（保育）現場で望ましい音楽指導を行うようになるために、身体や言葉、楽器を使ってリズムの理解をする。また、楽器の扱いや奏法、応用の仕方について学ぶ。子どもの想像力を広げ、身体を使った音楽あそびを通して、「表現の楽しさ」を教える。子どもの発達段階に応じて、楽器を使用し、表現の幅を広げる指導の方法を学ぶ。								
到達目標	子どもの発達に応じた楽器を理解する。言葉や身体を使ってリズムの理解ができるようになる。楽器やリズムの楽しさを理解する。子どもに「表現の楽しさ」を教えるには、指導者（保育者）自身が必要です。集中して音に耳を傾ける事ができ、子どもの気持ちになって、生き生きと表現することを楽しむことができるようになることが大切である。そして、それらを教育（保育）現場で生かすことができる知識を身に付けることを目標とする。なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士上の内容のうち、(知識・理解)の習得に貢献する。								
授業計画 備考									
回	概要				担当				
第1回	領域/表現と楽器の関係								
第2回	様々な楽器の演奏と指導法								
第3回	子どもが使用する楽器								
第4回	子どもが使用する楽器と楽曲（3，4歳児）								
第5回	子どもが使用する楽器と楽曲（5，6歳児）								
第6回	楽器と合奏								
第7回	合奏法とその留意点								
第8回	日本の楽器（1）								
第9回	日本の楽器（2）								
第10回	日本の楽器と指導法（1）								
第11回	日本の楽器と指導法（2）								
第12回	世界の楽器（1）								
第13回	世界の楽器（2）								
第14回	生活と楽器（1）								
第15回	生活と楽器（2）								
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その態備考						
	授業への取り組みの姿勢/態度	40	意欲的な受講態度、発表・グループ課題への参加、予・復習の状況によって評価する。						
	レポート	30	出された課題で問われている事の意味が理解でき、それに合った内容を述べているかを評価する。						
	小テスト	30	各回の主要なポイントの理解を評価する。						
	定期試験								
	その他								

評価の方法：自由記載	
受講の心得	子ども、指導者の、教育（保育）現場での気持ちを想像する事。 音を出す時、出さない時のメリハリを大切にすること。 学ぶ者同士、お互いに、良い所を認め合う事。 日常生活の中でも、さまざまな音やリズム遊びの要素を発見し、実践できるようにすること。
授業外学習	1. 予習として、子どもの楽器について調べること。 2. 復習として、授業内容を実際の保育現場をイメージして実践する。または、授業の内容を踏まえて課題を行うことで復習とする。 3. 発展学習として、ピアノなどの楽器や、リズムの練習をする。または、単発の授業ではなく、それぞれの講師内容が繋がっていることを踏まえ、授業の内容を理解、発展させていく。 以上の内容を、週あたり4時間以上学習すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載 講義ごとに必要なプリントを配布します。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載

その他

備考

注意事項

担当教員の業務経験の有無 有

担当教員の業務経験 ジュニアオーケストラ講師(同席)

担当教員以外で指導に関わる業務経験者の有無 無

担当教員以外で指導に関わる業務経験者

業務経験をいかした教育内容

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. 子どもが豊かな音楽表現をするための、楽器の種類を知ることができる。	子どもが豊かな音楽表現をするために、積極的に楽器の種類を知り、それらの特性を理解し発展することができる。	子どもが豊かな音楽表現をするために、楽器の種類を十分に知ることができる。	子どもが豊かな音楽表現をするために、必要な楽器の種類を理解できている。	子どもが豊かな音楽表現をするために、必要な楽器の種類を理解しようと努力している。	子どもが豊かな音楽表現をするために、必要な楽器の種類を理解しようとしている。
知識・理解	2. 教育（保育）現場で望ましい器楽指導を行えるようになるために、身体や言葉、楽器を使ってリズムの理解をする。	教育（保育）現場で望ましい器楽指導を行えるようになるために、身体や言葉、楽器を使ってリズムの理解が十分にでき、発展することができる。	教育（保育）現場で望ましい器楽指導を行えるようになるために、身体や言葉、楽器を使ってリズムの理解が十分にできている。	教育（保育）現場で望ましい器楽指導を行えるようになるために、身体や言葉、楽器を使ってリズムの理解ができている。	教育（保育）現場で望ましい器楽指導を行えるようになるために、身体や言葉、楽器を使ってリズムの理解しようと努力している。	教育（保育）現場で望ましい器楽指導を行えるようになるために、身体や言葉、楽器を使ってリズムの理解しようとしている。
思考・問題解決能力	1. 子どもの想像力を広げ、身体を使った音楽あそびを通して、「表現の楽しさ」を教えようとする事ができる。	子どもの想像力を広げ、身体を使った音楽あそびを通して、「表現の楽しさ」を十分に教えようとする事ができ、具体的な内容を考察したり、発展することができる。	子どもの想像力を広げ、身体を使った音楽あそびを通して、「表現の楽しさ」を十分に教えようとする事ができている。	子どもの想像力を広げ、身体を使った音楽あそびを通して、「表現の楽しさ」を教えようとする事ができている。	子どもの想像力を広げ、身体を使った音楽あそびを通して、「表現の楽しさ」を教えようと努力している。	子どもの想像力を広げ、身体を使った音楽あそびを通して、「表現の楽しさ」を教えようとしている。
技能	1. 楽器の扱いや奏法、応用の仕方について習得している。	楽器の扱いや奏法を十分に理解し、応用することができ、子どもたちへの指導について考察することができる。	楽器の扱いや奏法を十分に理解し、応用することができる。	楽器の扱いや奏法を理解し、応用することができる。	楽器の扱いや奏法を理解し、応用できるよう努力している。	楽器の扱いや奏法を理解している。
技能	2. 子どもの発達段階に応じて楽器を使用し、表現の幅を広げる指導の方法を習得している。	子どもの発達段階に応じた望ましい楽器を使用し、表現の幅を広げる指導の方法を十分に習得し、演奏や指導を行うことができる。	子どもの発達段階に応じた望ましい楽器を使用し、表現の幅を広げる指導の方法を十分に習得している。	子どもの発達段階に応じた楽器を使用し、表現の幅を広げる指導の方法を習得している。	子どもの発達段階に応じた楽器を使用し、表現の幅を広げる指導の方法を習得しようと努力している。	子どもの発達段階に応じた楽器の理解は不十分であるが、表現の幅を広げる指導の方法を習得しようとしている。
態度	1. 出された課題で問われている事の意味が理解でき、それに合った内容を予・復習を含め取り組むことができる。	主要なポイントを十分に理解し、課題に即した内容について予・復習を十分にやり取りしている。	主要なポイントを理解し、課題に即した内容を行うことができ、予・復習を行って取り組んでいる。	課題に即した内容を行うことができ、予・復習を行って取り組んでいる。	課題に即した内容を行おうと努力しているが、予・復習の取り組みが乏しく内容が不十分である。	課題への理解ができず、予・復習への取り組みが見受けられず、内容が不十分である。
態度	2. 意欲的な受講態度や発表・グループ課題への参加ができている。	楽器の扱いや、音を出すときなどのメリハリを大切にすることができ、お互いの良いところを認め合いながら積極的に発表やグループ課題へ参加できている。	楽器の扱いや、音を出すときなどのメリハリを大切にすることができ、お互いの良いところを認め合いながら発表やグループ課題へ参加できている。	楽器の扱いや、音を出すときなどのメリハリを理解することができ、発表やグループ課題へ参加できている。	楽器の扱いや、音を出すときなどのメリハリが不十分であり、発表やグループ課題への参加が消極的である。	楽器の扱いや、音を出すときなどのメリハリがつかず、発表やグループ課題への参加が不十分である。

科目名	子ども楽器 2クラス		授業番号	CN204B	サブタイトル				
教員	土師 穂子、岡崎 三鈴								
単位数	1単位	開講年次	が1キリムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	幼稚園教育要領等について講義を行う。子どもが豊かな音楽表現をするために楽器の種類を知る。教育（保育）現場で望ましい音楽指導を行うようになるために、身体や言葉、楽器を使ってリズムの理解をする。また、楽器の扱いや奏法、応用の仕方について学ぶ。子どもの想像力を広げ、身体を使った音楽あそびを通して、「表現の楽しさ」を教える。子どもの発達段階に応じて、楽器を使用し、表現の幅を広げる指導の方法を学ぶ。								
到達目標	子どもの発達に応じた楽器を理解する。言葉や身体を使ってリズムの理解ができるようになる。楽器やリズムの楽しさを理解する。子どもに「表現の楽しさ」を教えるには、指導者（保育者）自身が必要です。集中して音に耳を傾ける事ができ、子どもの気持ちになって、生き生きと表現することを楽しむことができるようになることが大切である。そして、それらを教育（保育）現場で生かすことができる知識を身に付けることを目標とする。なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士上の内容のうち、(知識・理解)の習得に貢献する。								
授業計画 備考									
回	概要				担当				
第1回	領域/表現と楽器の関係								
第2回	様々な楽器の演奏と指導法								
第3回	子どもが使用する楽器								
第4回	子どもが使用する楽器と楽曲（3，4歳児）								
第5回	子どもが使用する楽器と楽曲（5，6歳児）								
第6回	楽器と合奏								
第7回	合奏法とその留意点								
第8回	日本の楽器（1）								
第9回	日本の楽器（2）								
第10回	日本の楽器と指導法（1）								
第11回	日本の楽器と指導法（2）								
第12回	世界の楽器（1）								
第13回	世界の楽器（2）								
第14回	生活と楽器（1）								
第15回	生活と楽器（2）								
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その態備考						
	授業への取り組みの姿勢/態度	40	意欲的な受講態度、発表・グループ課題への参加、予・復習の状況によって評価する。						
	レポート	30	出された課題で問われている事の意味が理解でき、それに合った内容を述べているかを評価する。						
	小テスト	30	各回の主要なポイントの理解を評価する。						
	定期試験								
	その他								

評価の方法：自由記載	
受講の心得	子ども、指導者の、教育（保育）現場での気持ちを想像する事。 音を出す時、出さない時のメリハリを大切にすること。 学ぶ者同士、お互いに、良い所を認め合う事。 日常生活の中でも、さまざまな音やリズム遊びの要素を発見し、実践できるようにすること。
授業外学習	1. 予習として、子どもの楽器について調べること。 2. 復習として、授業内容を実際の保育現場をイメージして実践する。または、授業の内容を踏まえて課題を行うことで復習とする。 3. 発展学習として、ピアノなどの楽器や、リズムの練習をする。または、単発の授業ではなく、それぞれの講師内容が繋がっていることを踏まえ、授業の内容を理解、発展させていく。 以上の内容を、週あたり4時間以上学習すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載 講義ごとに必要なプリントを配布します。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載

その他

備考

注意事項

担当教員の業務経験の有無 有

担当教員の業務経験 ジュニアオーケストラ講師(同席)

担当教員以外で指導に関わる業務経験者の有無 無

担当教員以外で指導に関わる業務経験者

業務経験をいかした教育内容

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. 子どもが豊かな音楽表現をするための、楽器の種類を知ることができる。	子どもが豊かな音楽表現をするために、積極的に楽器の種類を知り、それらの特性を理解し発展することができる。	子どもが豊かな音楽表現をするために、楽器の種類を十分に知ることができる。	子どもが豊かな音楽表現をするために、必要な楽器の種類を理解できている。	子どもが豊かな音楽表現をするために、必要な楽器の種類を理解しようと努力している。	子どもが豊かな音楽表現をするために、必要な楽器の種類を理解しようとしている。
知識・理解	2. 教育（保育）現場で望ましい音楽指導を行えるようになるために、身体や言葉、楽器を使ってリズムの理解をする。	教育（保育）現場で望ましい音楽指導を行えるようになるために、身体や言葉、楽器を使ってリズムの理解が十分にでき、発展することができる。	教育（保育）現場で望ましい音楽指導を行えるようになるために、身体や言葉、楽器を使ってリズムの理解が十分にできている。	教育（保育）現場で望ましい音楽指導を行えるようになるために、身体や言葉、楽器を使ってリズムの理解ができている。	教育（保育）現場で望ましい音楽指導を行えるようになるために、身体や言葉、楽器を使ってリズムの理解しようと努力している。	教育（保育）現場で望ましい音楽指導を行えるようになるために、身体や言葉、楽器を使ってリズムの理解しようとしている。
思考・問題解決能力	1. 子どもの想像力を広げ、身体を使った音楽あそびを通して、「表現の楽しさ」を教えようとする事ができる。	子どもの想像力を広げ、身体を使った音楽あそびを通して、「表現の楽しさ」を十分に教えようとする事ができ、具体的な内容を考察したり、発展することができる。	子どもの想像力を広げ、身体を使った音楽あそびを通して、「表現の楽しさ」を十分に教えようとする事ができている。	子どもの想像力を広げ、身体を使った音楽あそびを通して、「表現の楽しさ」を教えようとする事ができている。	子どもの想像力を広げ、身体を使った音楽あそびを通して、「表現の楽しさ」を教えようと努力している。	子どもの想像力を広げ、身体を使った音楽あそびを通して、「表現の楽しさ」を教えようとしている。
技能	1. 楽器の扱いや奏法、応用の仕方について習得している。	楽器の扱いや奏法を十分に理解し、応用することができ、子どもたちへの指導について考察することができる。	楽器の扱いや奏法を十分に理解し、応用することができる。	楽器の扱いや奏法を理解し、応用することができる。	楽器の扱いや奏法を理解し、応用できるよう努力している。	楽器の扱いや奏法を理解している。
技能	2. 子どもの発達段階に応じて楽器を使用し、表現の幅を広げる指導の方法を十分に習得し、演奏や指導を行うことができる。	子どもの発達段階に応じた望ましい楽器を使用し、表現の幅を広げる指導の方法を十分に習得し、演奏や指導を行うことができる。	子どもの発達段階に応じた望ましい楽器を使用し、表現の幅を広げる指導の方法を十分に習得している。	子どもの発達段階に応じた楽器を使用し、表現の幅を広げる指導の方法を習得している。	子どもの発達段階に応じた楽器を使用し、表現の幅を広げる指導の方法を習得しようと努力している。	子どもの発達段階に応じた楽器の理解は不十分であるが、表現の幅を広げる指導の方法を習得しようとしている。
態度	1. 出された課題で問われている事の意味が理解でき、それに合った内容を予・復習を含め取り組むことができる。	主要なポイントを十分に理解し、課題に即した内容について予・復習を十分にやり取りしている。	主要なポイントを理解し、課題に即した内容を行うことができ、予・復習を行って取り組んでいる。	課題に即した内容を行うことができ、予・復習を行って取り組んでいる。	課題に即した内容を行おうと努力しているが、予・復習の取り組みが不十分である。	課題への理解ができておらず、予・復習への取り組みが見受けられず、内容が不十分である。
態度	2. 意欲的な受講態度や発表・グループ課題への参加ができている。	楽器の扱いや、音を出すときなどのメリハリを大切にすることができ、お互いの良いところを認め合いながら積極的に発表やグループ課題へ参加できている。	楽器の扱いや、音を出すときなどのメリハリを大切にすることができ、お互いの良いところを認め合いながら発表やグループ課題へ参加できている。	楽器の扱いや、音を出すときなどのメリハリを理解することができ、発表やグループ課題へ参加できている。	楽器の扱いや、音を出すときなどのメリハリが不十分であり、発表やグループ課題への参加が消極的である。	楽器の扱いや、音を出すときなどのメリハリがつかず、発表やグループ課題への参加が不十分である。

科目名	子ども手芸		授業番号	CN205	サブタイトル				
教員	西條 佳子								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	乳幼児の年齢と発達に応じた布おもちゃの製作に関する知識と技術について講義する。また、製作した布おもちゃの特性を生かした保育への取り入れ方や具体的な保育場面を想定した布おもちゃの活用方法の考察を通して保育実践力を育成する。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 乳幼児の年齢と発達を考慮した布おもちゃの特徴を理解し、製作することができる。 製作した布おもちゃの遊び方を工夫することができる。 乳幼児の年齢と発達を考慮した布おもちゃの特性を理解する。 保育現場で役立つ裁縫に関する知識と技術を身に付ける。 製作を通して、計画的、能動的に作業する態度を身に付ける。 なお、本科目はデュロマ・ポリシニに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <思考・問題解決能力> <技能> <態度>の修得に貢献する。								
授業計画 備考	人形、布製ボール、フェルトのボタン・ファスナー・フラスナー・ひも通し、指人形、フェルトの絵本など、さまざまな布おもちゃが考案されている。製作する布おもちゃに関しては、受講者の要望に柔軟に対応。								
回	概要					担当			
第1回	布おもちゃの魅力を探る ・布おもちゃの乳幼児にとっての意義について、現在、保育現場において、どのような布おもちゃが存在しているのか、現状を調べるなどして把握する。 ・乳幼児の年齢と発達を考慮した布おもちゃの特徴を理解する。 ・製作手順として、計画、製作の準備、製作、仕上げ、片付けといった作業の流れがあり、効率や安全のために作業の順番を決める必要があることを理解する。								
第2回	布おもちゃに関する教材研究 ・布おもちゃ作りの資料収集、題材の選定、製作に必要な材料と用具を準備する。 ・製作に必要な材料として、布の性質に適した糸や製作する物に応じて準備するものが必要であることを理解する。								
第3回	フェルトを用いた指人形の製作、素材の知識 ・布を用いて製作する際、目的や使い方に応じて布の丈夫さや縫いやすさなどの性質を考え、適したものを選ぶことを理解する。								
第4回	布（フェルトなど）を用いた名札・ワッペンづくり(1) ・製作の準備作業として布を裁ち、縫う線にしるすをつけたり、まち針で布をとめて縫い合わせる。 ・手縫いには、縫い針に糸を通したり、糸端を玉結びや玉どめしたり、布を合わせて縫ったりすることなどがあることを理解する。								
第5回	布（フェルトなど）を用いた名札・ワッペンづくり(2) ・手縫いとして、なみ縫い、返し縫い、かがり縫い、ブランケットステッチなどの縫い方と特徴を理解し、縫う部分や目的に応じて、適した手縫いを選ぶ必要があることを理解し、できるようにする。 ・縫った後に縫い目を整えたり、糸の始末をしりする。								
第6回	布おもちゃ作り(1) 布おもちゃ製作の手順、製作計画、型紙の作り方、型紙の写し方 ・製作に必要な材料や手順が分かり、製作計画について理解する。								
第7回	布おもちゃ作り(2) 布の切り方、基本的な縫い方 ・布の裁ち方や手縫いの仕方、目的に応じた縫い方に関する基礎的・基本的な知識及び技術を理解する。								
第8回	布おもちゃ作り(3) 手芸綿の入れ方 ・綿を入れる際は、かがり縫いやブランケットステッチをして布端をかがることによって綿が出ないように布と綿を縫合することを理解する。								
第9回	布おもちゃ作り(4) 顔・体・手・足のつけ方 ・狭み縫いの知識及び技術を習得する。								
第10回	布おもちゃ作り(5) 手芸用ボンド、接着剤の特性 ・手芸用ボンドと接着剤の特性を理解し、使用するメリットとデメリットを考える。								
第11回	布おもちゃ作り(6) 面ファスナー・マジックテープ、ひも、安全ピン、キーホルダーのつけ方 ・面ファスナー・マジックテープの名称を確認し、縫い付け方の知識及び技術を習得する。								
第12回	布おもちゃ作り(7) 製作の工夫、表情のつけ方 ・自分の作品を仕上げるために、授業で身に付けた製作手順や手縫いの技術をより上手く活用できるようにする。								
第13回	布おもちゃ作り(8) 仕上げ ・縫い始めや縫い終わりの、角の縫い方を考えた処理の仕方などを確認する。								
第14回	年齢と発達に適した布おもちゃと遊びの展開方法(1) ・製作した作品を活用した保育実践について考える。								
第15回	年齢と発達に適した布おもちゃと遊びの展開方法(2) ・製作した作品を活用した保育実践について発表する。								
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
授業への取り組みの姿勢/態度		20	授業終了時に当日の講義の要約を記述して提出を求めコメントシートにより、評価を行う。 ・布おもちゃの製作に意欲をもって取り組むことができる。 ・製作計画に沿って、製作することができる。 ・布おもちゃを作る楽しさや使う喜びを感じることができる。						
レポート		20	布おもちゃ製作の立案から遊び方への展開に関して授業で学修した内容を深めることができたと評価する。						
小テスト									
定期試験									
その他		60	以下の製作物について、丈夫さや楽しさ、保育での使用目的の観点から考え、工夫して製作に取り組むことができたかを評価する。 指人形：15%、名札・ワッペン：15%、布おもちゃ：30%						

評価の方法：自由記載	授業ごとに自分で感じたこと、工夫したこと、考えたことについてのレポートを作成して提出する。
受講の心得	・演習中心の授業なので、毎回出席することが大切である。作品だけが評価されるのではなく、授業に取り組み姿勢や態度も重要である。 ・製作において必要となる参考資料や材料等は、各自が必要に応じ自主的に準備するものとする。
授業外学習	

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の業務経験の有無	無			
担当教員の業務経験				
担当教員以外で指導に関わる業務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる業務経験者				
業務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. 乳幼児の年齢と発達を考慮した布おもちゃの特徴を理解している。	乳幼児の年齢と発達を考慮した布おもちゃの特徴について、正確に理解し述べることができる。	乳幼児の年齢と発達を考慮した布おもちゃの特徴について、ほぼ正確に理解し述べるができる。	乳幼児の年齢と発達を考慮した布おもちゃの特徴について、大体述べるができる。	乳幼児の年齢と発達を考慮した布おもちゃの特徴について、正確に述べるができないが、自分の言葉では表現できる。	乳幼児の年齢と発達を考慮した布おもちゃの特徴について、まったく表現することができない。
知識・理解	2. 保育現場で役立つ裁縫に関する知識を理解している。	保育現場で役立つ裁縫に関する知識について、正確に理解し述べるができる。	保育現場で役立つ裁縫に関する知識について、ほぼ正確に理解し述べるができる。	保育現場で役立つ裁縫に関する知識について、概ね述べるができる。	保育現場で役立つ裁縫に関する知識について、正確に述べるができないが、自分の言葉では表現できる。	保育現場で役立つ裁縫に関する知識について、まったく表現することができない。
思考・問題解決能力	製作した布おもちゃの遊び方を考え工夫することができる。	製作した布おもちゃの遊び方を多角的に考え工夫することができる。	製作した布おもちゃの遊び方を考え工夫することができる。	製作した布おもちゃの遊び方を考えある程度工夫することができる。	製作した布おもちゃの遊び方を十分に考え工夫することができない。	製作した布おもちゃの遊び方をまったく考えることができない。
技能	1. 乳幼児の年齢と発達を考慮した布おもちゃを製作することができる。	乳幼児の年齢と発達を考慮した布おもちゃを大変よく製作することができる。	乳幼児の年齢と発達を考慮した布おもちゃを製作することができる。	乳幼児の年齢と発達を考慮した布おもちゃをある程度製作することができる。	乳幼児の年齢と発達を考慮した布おもちゃを十分に製作することができない。	乳幼児の年齢と発達を考慮した布おもちゃをまったく製作することができない。
技能	2. 保育現場で役立つ裁縫に関する技能を身につけている。	保育現場で役立つ裁縫に関する技能を大変よく身につけている。	保育現場で役立つ裁縫に関する技能を身につけている。	保育現場で役立つ裁縫に関する技能をある程度身につけている。	保育現場で役立つ裁縫に関する技能を十分に身につけていない。	保育現場で役立つ裁縫に関する技能をまったく身につけていない。
態度	1. 授業への取り組みの姿勢や態度は意欲的である。	授業への取り組みに非常に意欲的な姿勢や態度がみられ、適切なコメントシートを提出している。	授業への取り組みに意欲的な姿勢や態度がみられ、コメントシートを提出している。	授業への取り組みに一定程度意欲的な姿勢や態度がみられ、コメントシートを提出している。	授業への取り組みに十分な意欲的な姿勢や態度がみられず、十分ではないコメントシートを提出している。	授業への取り組みに意欲的な姿勢や態度がみられず、コメントシートの提出をしていない。

2024年度授業概要(シラバス)

科目名	子どもダンス		授業番号	CN206	サブタイトル				
教員	佐々木 弘記、満田 知茂、大田原 愛美								
単位数	1単位	開講年次	3年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	幼児期（児童期）で扱うダンス、踊り、パフォーマンス等を工夫し、それらの適切な指導方法を工夫する。また、幼児（児童）のダンス等について適切に分析する方法を考案し、ダンス等を分析する。その結果から保育・授業を分析・評価する方法を修得する。								
到達目標	<p>【知識・理解】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 幼児期（児童期）に適切なダンス、踊り、パフォーマンスについて理解できている。 2. 幼児（児童）のダンス等について各種の分析方法的な目的と内容を理解できている。 3. 幼児（児童）のダンス等について分析した結果から、保育・授業を分析する方法を理解できている。 <p>【思考・問題解決能力】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 幼児（児童期）のダンス等の保育・授業の発展、また有効性を考えることができる。 <p>【技能】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 幼児期（児童期）に適切なダンス、踊り、パフォーマンスができる。 2. 幼児（児童）のダンス等 について各種の分析ができる。 3. 幼児（児童）のダンス等について計画できる。 <p>【態度】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業に積極的に参加できる。 <p>なお本科目はディプロマ・ポリシーの「<知識・理解> <思考・問題解決能力> <技能> <態度>」の修得に貢献する。</p>								
授業計画 備考									
回	概要					担当			
第1回	幼児期（児童期）の子どもの身体的発達過程とその発達過程に沿ったダンス等 幼児期から児童期にかけての身体的発達の特徴と認知的発達段階との関連を考察し、それぞれの時期にふさわしいダンスの在り方について検討する。					満田			
第2回	幼児期（児童期）におけるダンス等の実際と教育的意義(1) 幼児期から児童期にかけての身体的・認知的発達段階を考慮したダンスについて幼児期に育てたい1.0の姿や児童期に育成する資質・能力の3つの柱と対応させながら考察する。					満田			
第3回	幼児期（児童期）におけるダンス等の実際と教育的意義(2) 幼児期から児童期にかけてのダンスの歴史の変遷を教育課程の変遷と関連付けながら教育的意義について考察する。					満田			
第4回	幼児期（児童期）におけるダンス等の実際と指導法についての演習(1) 提示したダンス（第4回とは異なるダンス）を踊りながら、指導する上での配慮や留意点を理解し、現場での実際の姿や指導するための準備について明らかにする。 また、各グループでダンスを創作し発表する。					大田原			
第5回	児童期におけるダンス等の実際と指導法についての演習(2) 提示したダンス（第4回とは異なるダンス）を踊りながら、指導する上での配慮や留意点を理解し、現場での実際の姿や指導するための準備について明らかにする。 また、各グループでダンスを創作し発表する。					大田原			
第6回	デジタルテクノロジーの活用法(1)エンタドースイッチの活用法と演習(1) ダンスソフトを実際に体験し、現場での活用方法を明らかにする。（準備、設定、使用方法を含む） また、各グループでテーマを決め創作をする。					大田原・佐々木			
第7回	デジタルテクノロジーの活用法(2)エンタドースイッチの活用法と演習(2) ダンスソフトを実際に体験し、現場での活用方法を明らかにする。（準備、設定、使用方法を含む） また、各グループでテーマを決め創作をする。					大田原・佐々木			
第8回	デジタルテクノロジーの活用法(3)メタクエストの活用法と演習(1) メタクエストを実際に体験する。（準備、設定、使用方法を含む） また、各グループで現場での活用方法を模索し発表する。					大田原・佐々木			
第9回	デジタルテクノロジーの活用法(4)メタクエストの活用法と演習(2) メタクエストを実際に体験する。（準備、設定、使用方法を含む） また、各グループで現場での活用方法を模索し発表する。					大田原			
第10回	幼児期・児童期に適切なダンス、踊り、パフォーマンスを行うための設定・計画等について グループに分かれ、年齢や用いる場面、場所などを設定し、選曲、創作をする。 また、必要に応じて衣装や小道具の準備の計画を行う。					大田原			
第11回	グループ演習(1) 発表に向けて準備を行う。 （創作ダンス、衣装、音楽準備等）					大田原			
第12回	グループ演習(2) 発表に向けて準備を行う。 （創作ダンス、衣装、音楽準備等）					大田原			
第13回	グループ演習(3) 発表に向けて準備を行う。 （創作ダンス、衣装、音楽準備等）					大田原			
第14回	グループ創作ダンス発表会 質疑応答を交しながら、各グループの発表をする。					大田原			
第15回	グループ創作ダンス発表会のフィードバックディスカッション（結果の発表：質疑応答） 各グループで分析をする。					大田原			
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢/態度	20	意欲的な態度、発表・討論への参加、予・復習の状況によって評価する。						
	レポート	30	レポートについてはコメントを記入して返却する。						
	その他	50	ダンス、踊り、パフォーマンス等、それに伴った準備過程を含めて評価する。						

評価の方法：自由記載	
受講の心得	授業で修得した内容が次の授業で表現・発揮できるよう、努力すること。本科目の性質上、開講教室が変動することがあるため、確認をすること。また、欠席・遅刻がないよう体調管理等に注意すること。
授業外学習	1 予習として、幼児期（児童期）向けの音楽、ダンスを調べる。 2 復習として、授業内容をレポートにまとめ、身体を動かして授業内容の確認をする。 3 発展学習として、授業内容に関連した音楽を聴きながらリズムをとること、幼児期（児童期）が好きなダンスを踊る。 以上の内容を、適当に1時間以上学習すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の業務経験の有無	有			
担当教員の業務経験	公立中学校理科教諭(15年)、県教育センター(9年)(佐々木弘記)			
担当教員以外で指導に関わる業務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる業務経験者				
業務経験をいかした教育内容	学校(15年)、教育センター(9年)等での経験を生かして、教育現場の実態を反映させた実践的な教育を行う。(佐々木)			

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. 幼児期（児童期）に適切なダンス、踊り、パフォーマンスについて理解できている。	学修した幼児期（児童期）に適切なダンス、踊り、パフォーマンスについて理解し、正確に述べることができる。	学修した幼児期（児童期）に適切なダンス、踊り、パフォーマンスについて正確ではないがほぼ理解し述べることができる。	学修した幼児期（児童期）に適切なダンス、踊り、パフォーマンスについて大体述べることができる。	学修した幼児期（児童期）に適切なダンス、踊り、パフォーマンスについて正確に述べることができないが、自分の言葉では表現できる。	学修した幼児期（児童期）に適切なダンス、踊り、パフォーマンスについて、全く表現することができない。
知識・理解	2. 幼児（児童）のダンス等について各種の分析方法の目的と内容を理解できている。	幼児（児童）のダンス等について各種の分析方法の目的と内容について、正確に述べることができる。	幼児（児童）のダンス等について各種の分析方法の目的と内容について、正確ではないがほぼ理解し述べることができる。	幼児（児童）のダンス等について各種の分析方法の目的と内容について、大体述べることができる。	幼児（児童）のダンス等について各種の分析方法の目的と内容について、正確に述べることができないが、自分の言葉では表現できる。	幼児（児童）のダンス等について各種の分析方法の目的と内容について、全く表現することができない。
知識・理解	3. 幼児（児童）のダンス等について分析した結果から、保育・授業を分析する方法を理解できている。	幼児（児童）のダンス等について分析した結果から、保育・授業を分析する方法を、正確に述べることができる。	幼児（児童）のダンス等について分析した結果から、保育・授業を分析する方法を、正確ではないがほぼ理解し述べることができる。	幼児（児童）のダンス等について分析した結果から、保育・授業を分析する方法を、大体述べることができる。	幼児（児童）のダンス等について分析した結果から、保育・授業を分析する方法を、正確に述べることができないが、自分の言葉では表現できる。	幼児（児童）のダンス等について分析した結果から、保育・授業を分析する方法を、全く表現することができない。
思考・問題解決能力	1. 幼児（児童期）のダンス等の保育・授業の発案、また有効性を考えることができる。	課題に対し、論理的融合性を持ち、多角的に考察をしている。	課題に対し、ほぼ論理的融合性を持った考察をしている。	課題に対し、自分の考えを述べることができる。	課題に対する結果を述べることができる。	課題を作成したが指示事項に沿っていない。
技能	1. 幼児期（児童期）に適切なダンス、踊り、パフォーマンスができる。	正確に身体をコントロールして豊かに表現することができる。	ほぼ正確に身体をコントロールして表現することができる。	身体をコントロールして表現することができる。	正確ではないが身体で表現することができる。	課題とは異なるが表現をしている。
技能	2. 幼児（児童）のダンス等について各種の分析ができる。	ダンス等について分析でき、正確に再現できる。	ダンス等について分析でき、ほぼ正確に再現できる。	ダンス等について分析でき、自分なりに表現できる。	ダンス等について概ね分析でき、自分なりに表現できる。	ダンス等について概ね分析できる。
技能	3. 幼児（児童）のダンス等について計画ができる。	課題に応じたダンス等の保育・授業計画が正確にできる。	課題に応じたダンス等の保育・授業計画がほぼ正確にできる。	課題に応じたダンス等の保育・授業計画ができる。	課題に応じたダンス等の保育・授業計画が概ねできる。	ダンス等の保育・授業計画はできるが課題に沿っていない。
態度	1. 授業に積極的に参加できる。	質問など積極的に問い、疑問を解決し、授業内容を理解した上で、適切な表現ができている。	授業に前向きに望む姿勢が見受けられ、授業内容を理解した上で、表現ができている。	授業に出席し、内容を理解した上で、表現できている。	授業に出席し、表現しているが、理解が十分ではない。	授業に出席しているが、表現が不十分な。

2024年度授業概要(シラバス)

科目名	子どもとゲーム			授業番号	CN207	サブタイトル	
教員	牛島 光太郎						
単位数	1単位	開講年次	4年	開講期	前期	授業形態	演習
授業概要	本授業では、「ゲーム」を何からどの規則や守るべきルールのもと行い勝敗を決める活動だと定義し、どこで遊ぶのか競争や明確な勝敗のない活動を選び定義する。「ゲーム」も「遊び」も幼児や児童の成長や発達において教育的価値の高い重要な活動である。本授業では、既存する様々な「ゲーム」や「遊び」の実践と分析を通して、それらを支えているルールや必要な環境などの特性について考え、対象を明確にした上で、オリジナルの「ゲーム」や「遊び」の開発を行う。						
到達目標	<p>1. 幼児期、児童期で遊ぶゲームや遊びなどの有効性について理解することができる。</p> <p>2. ゲームや遊びの特性に応じて指導方法を検討し、対象に応じて適切な支援をすることができる。</p> <p>3. ゲームや遊びの特性を理解し、オリジナルのゲームあるいは遊びを考案し、それらのゲームや遊びを通して、幼児や児童の学びを促進させるための環境を設定することができる。</p> <p>なお、本科目はデプロイマシンの「知識・理解」<思考・問題解決能力>の修得に貢献する。</p>						
授業計画 備考	令和6年度改訂						
回	概要					担当	
第1回	「ゲーム」と「遊び」について 幼児期、児童期の子どもを身体的発達と発達過程に沿ったゲームと遊びについて						
第2回	伝承遊びの実践と分析1 鬼遊び、缶けり、かくれんぼなど						
第3回	伝承遊びの実践と分析2 けん玉、だるま落とし、めんこなど						
第4回	デジタルメディアを活用した「ゲーム」と「遊び」 スマートフォン/パソコン、Nintendo Switchなどの活用						
第5回	ゲームの研究 幼児期、児童期の子どもを対象にしたゲームの種類と分類について						
第6回	遊びの研究 幼児期、児童期の子どもを対象にした遊びの種類と分類について						
第7回	幼児期におけるゲームや遊びの実践 教育的意義について						
第8回	児童期におけるゲームや遊びの実践 教育的意義について						
第9回	幼児期、児童期の子どもを対象にしたカードゲームの実践1 グループワークを通じたゲームの分析						
第10回	幼児期、児童期の子どもを対象にしたカードゲームの実践2 グループワークを通じたゲーム分析の発表						
第11回	身体を使った「ゲーム」や「遊び」1 幼児期、児童期の子どもを対象にした身体を動かす「ゲーム」や「遊び」のサーチ、ディスカッション						
第12回	身体を使った「ゲーム」や「遊び」2 幼児期、児童期の子どもを対象にした身体を動かす「ゲーム」や「遊び」の実践、振り返り						
第13回	オリジナルのゲームや遊びの開発1 ゲームや遊びで使用する教材のサーチ、考案						
第14回	オリジナルのゲームや遊びの開発2 ゲームや遊びで使用する教材などの制作						
第15回	オリジナルのゲームや遊びの開発3 オリジナルのゲームや遊びの発表、実践、振り返り						
授業計画 備考2							
評価の方法							
	種別	割合	評価基準・その他備考				
	授業への取り組みの姿勢/態度	20	意欲的な授業態度、予・復習の状況によって評価する。				
	レポート・課題	80	各回の主要なポイントの理解を提出されたレポートや課題によって評価する。課題提出後の授業で全体的な傾向についてコメントする。				

評価の方法：自由記載	
受講の心得	
授業外学修	1 予習として、授業内容にかかわる文献等を読み、疑問点を明らかにする。 2 復習として、課題のレポートを書く。 以上の内容を、適当に1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載

その他	
-----	--

備考	
----	--

注意事項	
------	--

担当教員の実務経験の有無	無
--------------	---

担当教員の実務経験	
-----------	--

担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
-----------------------	---

担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
--------------------	--

実務経験をいかした教育内容	
---------------	--

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. 幼児期、児童期で扱うゲームや遊びの有用性を理解している	ゲームや遊びの要素について十分に理解し、教育的意義を十分に説明することができる	ゲームや遊びの要素について理解し、教育的意義について説明することができる	ゲームや遊びの要素、教育的意義などを理解している	ゲームや遊びの要素について理解しているが、教育的意義についての説明が不十分である	ゲームや遊びの要素、教育的意義などを理解していない
思考・問題解決能力	1. ゲームや遊びの特性に応じて指導方法を検討し、オリジナルのゲームや遊びを提案できる	考案したゲームや遊びの特性を十分に理解し、適切な教材や環境をつくり、遊びの機会を具体的に提案し、改善することができる	考案したゲームや遊びの特性を十分に理解し、適切な教材や環境をつくり、遊びの機会を具体的に提案することができる	考案したゲームや遊びの特性を理解し、教材や環境をつくり、遊びの機会を提案することができる	考案したゲームや遊びの特性を理解し、教材をつくり、遊びの機会を提案することはできるが、環境の設定が不十分である	考案したゲームや遊びの特性の理解が不十分で、教材制作や環境の設定ができていない

科目名	障害児援助論			授業番号	CN208	サブタイトル	
教員	佐藤 伸隆						
単位数	2単位	開講年次	4年	開講期	後期	授業形態	講義
必修・選択	必修・選択		選択				
授業概要	2年生後期の「障害児保育」を踏まえ、障害のある子どもとその家庭（保護者）への支援、配慮をより具体的に学修する。特に、知的障害や発達障害のある子どもの特性や支援を、単なる直感ではなく客観的な思考をもって理解し、根拠立てて支援できるようになることをめざす。						
到達目標	1. 障害のある子どもの障害特性を理解し、それを説明することができる。 2. 障害のある子どもに対する支援・配慮の理念と方法を理解し、それを実践することができる。 3. 障害特性や現場の状況に応じた支援・配慮を行うため、客観的な見立てを行うことができる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <思考・問題解決能力> <技能> <態度>の修得に貢献する。						
授業計画 備考							
回	概要					担当	
第1回	障害児保育の理念 →障害者（児）をめぐる3つの理念を理解する。／障害者権利条約・児童権利条約と今日の障害児保育（支援）の関係性を理解する。						
第2回	障害児保育の視点 →総合（生活）モデルとICFについて理解する。／障害の捉え方を学修する。／障がいのある子どもの生活を理解する。／合理的配慮の視点と実際を修得する。／インクルーシブ保育（支援）を理解する。						
第3回	障害の理解 →身体障害（視覚障害／聴覚・平衡機能障害／音声・言語・そしゃく機能障害／肢体不自由）の特性を理解する。／精神障害の特性を理解する。／その他の障害の種類と特性を理解する。						
第4回	知的障害の理解と支援・配慮 →知的障害の障害特性を理解する。／知的障害のある子どもに対する支援・配慮の方法を理解する。						
第5回	発達障害の理解と支援・配慮① →自閉スペクトラム症の理解と障害特性を理解する。／自閉スペクトラム症のある子どもに対する支援・配慮の方法を理解する。						
第6回	発達障害の理解と支援・配慮② →注意欠陥（AD）多動性障害の理解と障害特性を理解する。／注意欠陥（AD）多動性障害のある子どもに対する支援・配慮の方法を理解する。						
第7回	発達障害の理解と支援・配慮③ →学習障害の理解と障害特性を理解する。／学習障害のある子どもに対する支援・配慮の方法を理解する。 →その他の発達障害の理解と特性を理解する。／その他の発達障害のある子どもに対する支援・配慮の方法を理解する。						
第8回	場面別の支援・配慮方法① →感覚・運動、ルール理解、遊び・学び・行事、おともだちとの関係性などの場面における支援・配慮方法を理解する。						
第9回	場面別の支援・配慮方法 →登園（所）時・日課・給食・行事・外出・帰園（所）時などにおける支援・配慮方法を理解する。						
第10回	障害へのアプローチ① →知的障害・発達障害のある子どもの行動を理解する。／発達障害の行動特性とそのパターンを理解する。／行動特性の背景をとらえる。／背景から支援・配慮の方法を考察する。						
第11回	支援・配慮の技法① →専門技法（ABAアプローチ・SST・ソーシャルストーリー・TEACHプログラムなど）の概要を学修する。						
第12回	支援・配慮の技法② →スモールステップの展開方法を理解する。／コミュニケーション技法を知る。						
第13回	個別支援（指導）計画 →個別支援（指導）計画の意義と作成方法を学修する。／個別支援（指導）計画作成を模擬的に経験する。						
第14回	クラスづくり・集団づくり →クラスづくり・集団づくりの方法、ポイントを学修する。／クラス運営・集団あそびなどを模擬的に経験する。						
第15回	関係機関・団体の活動 →障害児通所支援（放課後等デイサービス・児童発達支援・保育所等訪問支援）、障害児入所支援施設、放課後児童クラブ（学童保育所）、療育センター、学校などの機能と支援方法を理解する。						
授業計画 備考2							

評価の方法		
種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講態度、予習・復習の取り組み状況の評価する。
演習への取り組み姿勢／態度	20	ワークへの取り組み姿勢や発表内容を、授業理解度、目標達成度を基準に評価する。
定期試験	60	授業全体の理解度、目標達成度を筆記試験で評価する。

評価の方法：自由記載	(フィードバック) ○レポート等については、授業中にコメントする。個別の質問等については授業時間の前後に申し出ること。 ○定期試験等についてはフィードバックが必要な場合は、担当教員のメールアドレスに個別に申し出ること。 ※授業時間外は学内にはないため。
受講の心得	科目「障害児保育」の時に伝えたとおり、まずは「しょうがい」に関心を持ち、障害のある子どもの「生活」を知ることからはじめることが何よりも重要である。そして、もしも自分自身に障害があったら？ 障害のある子どもに必要な配慮は？ 障害のない子に伝えるべきことは？ クラス全体ではどのような配慮や工夫が必要か？などの視点をもち授業に臨んでほしい。
授業外学修	(予習)※90分/週 ○授業内容に該当する教科書の節を読み込み、基本的なことを理解する。授業中、任意に説明を求めることがある。 また、不明点や疑問点をまとめ、質問できるように準備をして授業に臨むこと。 →授業は教科書を一通り読むことを前提に行う。 (復習)※120分/週 (1)毎回の授業内容を自分なりにまとめ直す(どのような授業内容だったのか、自分の言葉で整理する)。 (2)事前学修(予習)内容と授業の内容を振り返り合わせ、「理解できたこと」「理解しづらかったこと」「新たな疑問点」を明らかにする。 (3)「分からなかったこと」「新たな疑問点」を、参考書籍や図書館の雑誌、インターネット等で調べ、自分自身で明らかにする。 →自分で調べても不明な場合、真偽を確認したい場合は、オフィスアワーを活用して担当教員に質問すること。 (発展)※30分/週 ○授業中に関心をもったことやさらに知りたいと思ったことを書籍、インターネット等で調べ、学びを深める。 ※学修方法が分からない場合や参考図書を知りたい場合は、翌週の授業前後に質問すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
障害と子どもたちの生きるかたち	浜田寿美男	岩波書店	9784006031794	
発達障害のある子との関わり方	安藤忠・眞訪田克彦	Gakken	9784058011232	
「再興」から考える気になる子の保育サポートブック	浜田市子どもの発達支援・交流センターとここ・木村一俊	新星出版社	9784405072947	
よくわかる障害児保育第2版	尾崎康子・小林真・水内豊和・阿部美穂子	ミネルヴァ書房	9784623081240	
よくわかるインクルージョン保育	尾崎康子・阿部美穂子・水内豊和	ミネルヴァ書房	9784623087341	

参考書：自由記載

その他

備考 令和6年度改訂

注意事項

担当教員の業務経験の有無 有

担当教員の業務経験 障害児者やその家族への相談支援、合理的配慮の提供支援(5年)、障害者虐待・障害者差別対応(2年)、障害児者の権利擁護支援、障害理解の普及啓発、障害児支援・保護者支援の助言・指導等(15年)。

担当教員以外で指導に関わる業務経験者の有無 無

担当教員以外で指導に関わる業務経験者

業務経験をいかにした教育内容 障害児者やその家族への相談支援、合理的配慮の経験を生かして、障害のある子どもの支援の基礎を養う。

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー-学士力)	評価の観点(到達目標に基づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分レベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 障害のある子どもの障害特性を理解し、それを説明することができる。	障害特性を、根拠立てて説明することができる。	障害特性を、自分の言葉で一通り説明することができる。	障害特性を、教員の説明通りに一通り説明することができる。	障害特性の一部を説明することができる。	障害特性を、ほとんど説明することができない。
知識・理解	2. 障害のある子どもに対する支援・配慮の理念と方法を理解し、それを実践することができる。	障害特性や発達に応じた支援、配慮方法を、根拠立てて説明することができる。	障害特性や発達に応じた支援、配慮方法を、自分の言葉で一通りの説明することができる。	障害特性や発達に応じた支援、配慮方法を、教員の説明通りに一通り説明することができる。	障害特性や発達に応じた支援、配慮方法の一部を説明することができる。	障害特性や発達に応じた支援、配慮方法を、ほとんど説明することができない。
知識・理解	3. 障害特性や現場の状況に応じた支援・配慮を行うため、客観的な見立てを行うことができる。	客観的な見立てを、根拠立てて説明することができる。	客観的な見立てを、自分なりに説明することができる。	客観的な見立てを、教員の説明通りに一通り説明することができる。	見立ての方法の一部を説明することができる。	見立ての方法を、ほとんど説明することができない。
思考・問題解決能力	1. 障害のある子どもに対する支援・配慮の理念と方法を理解し、それを実践することができる。	障害特性や発達に応じた支援、配慮方法を、根拠立てて考察することができる。	障害特性や発達に応じた支援、配慮方法を、自分なりに考察することができる。	障害特性や発達に応じた支援、配慮方法を、教員の助言や友人からの助言を得て、一緒に考察することができる。	障害特性や発達に応じた支援、配慮方法を考察できるときと、できないときがある。	障害特性や発達に応じた支援、配慮方法を、ほとんど考察することができない。
思考・問題解決能力	2. 障害特性や現場の状況に応じた支援・配慮を行うため、客観的な見立てを行うことができる。	客観的な見立てを、根拠立てて考察、応用することができる。	客観的な見立てを、考察、応用することができる。	客観的な見立てを、教員や友人からの助言を得て、一緒に行うことができる。	見立てを考察、応用できるときと、できないときがある。	見立てを、ほとんど考察することができない。
技能	1. 障害のある子どもに対する支援・配慮の理念と方法を理解し、それを実践することができる。	障害特性や発達に応じた支援、配慮方法を、根拠立てて行うことができる。	障害特性や発達に応じた支援、配慮方法を、自分なりに一通り行うことができる。	障害特性や発達に応じた支援、配慮方法を、教員の説明通りに一通り行うことができる。	障害特性や発達に応じた支援、配慮方法を行うことができるときと、できないときがある。	障害特性や発達に応じた支援、配慮方法を、ほとんど行うことができない。
技能	2. 障害特性や現場の状況に応じた支援・配慮を行うため、客観的な見立てを行うことができる。	客観的な見立てを、根拠立てて行うことができる。	客観的な見立てを、行うことができる。	見立てを、行うことができる。	見立てを行なうことができるときと、できないときがある。	見立てを、ほとんど行うことができない。
態度	1. 障害のある子どもに対する支援・配慮の理念と方法を理解し、それを実践することができる。	児童の権利条約・障害者権利条約に則り、障害のある子どもに対する今日的な支援者の価値を、根拠立てて説明することができる。	児童の権利条約・障害者権利条約に則り、障害のある子どもに対する今日的な支援者の価値を、自分の言葉で一通りの説明することができる。	児童の権利条約・障害者権利条約に則り、障害のある子どもに対する今日的な支援者の価値を、教員の説明通りに一通り説明することができる。	児童の権利条約・障害者権利条約に則り、障害のある子どもに対する今日的な支援者の価値の一部を説明することができる。	児童の権利条約・障害者権利条約に則り、障害のある子どもに対する今日的な支援者の価値を、ほとんど説明することができない。

科目名	子ども家庭支援の心理学			授業番号	CN210	サブタイトル	
教員	園田 祥子						
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義
							必修・選択
選択							
授業概要	この授業では、生涯発達の視点から人の一生を捉え、特に発達変化の著しい乳幼児期を中心に、人の生理的・心理的発達について、家族・家庭の影響を踏まえて解説する。						
到達目標	子どもの発達についての基礎知識を身につけ、子どもを取り巻く家族・家庭の意義や機能を理解する。さらに、子どもの心の健康とその課題について理解する なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学力のうち、＜知識・理解＞の習得に貢献する。						
授業計画 備考							
回	概要						担当
第1回	子ども家庭支援の心理学とは 子どもの育ちとそれに大きな影響を及ぼす家庭環境について、発達段階、保護者の育ちといった視点から解説する。						
第2回	乳幼児期における発達 生涯にわたる心身の土台を形成する重要な時期である乳幼児期について、養育、応答的な関わり、基本的信頼といったキーワードから解説する。						
第3回	学童期における発達 学童期(いわゆる小学生の時期)の子どもの発達にみられる基本的な特徴と課題について、大きく前期と後期に分けて解説する。						
第4回	青年期における発達 生涯の中で乳幼児期に次いで心身が激しく変化する青年期について、心理的離乳やアイデンティティの獲得といった観点から解説する。						
第5回	成人期・老年期における発達 親としての世代である成人期および老年期において達成されるべき発達課題について理解を深め、家庭支援の視点を養う。						
第6回	家族・家庭の意義と機能 現代の子育て家庭について、家族や家庭の形態の種類や時代や社会による変化、またそれが子どもの育ちにどのように影響するかを解説する。						
第7回	親子関係・家族関係の理解 親子関係や家族関係が子どもに、また子どもの将来にどのように影響するかを解説し、保育者としての支援について理解する。						
第8回	中間のまとめ 第1回～第7回までの内容(生涯発達および家族・家庭の理解)を振り返り、学習者の理解を確認する。理解が不十分だった点についてはその場でフィードバックし、復習を促す。						
第9回	子育て家庭に関する現状と課題 少子化、さらには父親・母親の子育ての現状について、ワンオペ育児や父親の育休取得における課題などを解説する。						
第10回	ライフコースと仕事・子育て それぞれの人生の道筋について、その考え方や時代の特徴を理解し、性別役割分業および家庭と仕事のバランスについて保護者支援の視点から解説する。						
第11回	多様な家庭とその理解 子どもの異国、ひとり親家庭、ステップファミリーといったさまざまな事情をもつ家庭の支援ニーズと子どもに及ぼす影響について解説する。						
第12回	特別な配慮を要する家庭 発達的な課題を有する子どもの家庭、保護者が障害や心の病気を有する家庭、外国にルーツを持つ家庭などの特別な配慮を要する家庭について解説する。						
第13回	子どもの生活・生育環境とその影響 子どもの発達に及ぼす環境の影響について、その理論的背景を理解するとともに、時代的・社会的変化が子どもにもたらす影響について解説する。						
第14回	子どもの心の健康に関する問題 乳幼児期の子どもに起こりやすい心の健康に関する問題について、心身症および障害を中心に解説する。						
第15回	期末のまとめ 第9回～第14回までの内容(子育て家庭・子どもの精神保健に関する現状と課題)を振り返り、学習者の理解を確認する。理解が不十分だった点についてはその場でフィードバックし、復習を促す。						
授業計画 備考2							
評価の方法							
種別	割合	評価基準・その他備考					
授業への取り組みの姿勢/態度							
レポート							
小テスト							
定期試験	100	理解度を評価する。					
その他							

評価の方法：自由記載	
受講の心得	積極的な受講態度を期待します。
授業外学習	毎回の授業の内容を4時間以上復習しておくこと。復習の成果を第8回および第15回で確認し、不十分な点について再度4時間以上の復習を行うこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
子どもと保護者に寄り添った子ども家庭支援の心理学	立花直樹・津田尚子(監修)	泉洋書房	978-4-7710-3606-2	2000
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. 講義内容を多面的かつ十分に理解し、自らの知識として獲得できる	呈示された知識を十分に獲得している	呈示された知識をほぼ獲得し、多少の不十分があっても獲得する努力をしている	知識の獲得は十分とは思われないものの、努力は明らかである	授業内容を十分に理解できているとは思われず、知識獲得への努力も不十分である	講義そのものを理解できておらず、知識を獲得できていない

科目名	子どもの理解と援助 1クラス			授業番号	CN211A	サブタイトル			
教員	土師 穂子								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	保育実践において実態に応じた子どもの一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義についてや、子どもを理解するための具体的な方法、子どもの理解に基づく保育上の援助や態度の基本について理解できるよう解説する。								
到達目標	1, 保育実践において、実態に応じた子どもの一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義について理解できる。 2, 子どもの体験や学びの過程において、子どもを理解する上での基本的な考え方を理解できる。 3, 子どもを理解するための具体的な方法を理解できる。 4, 子どもの理解に基づく保育上の援助や態度の基本について理解できる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈態度〉の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
回	概要					担当			
第1回	保育における子どもの理解								
第2回	子どもに対するかかわりと共感的理解								
第3回	子どもの生活や遊び								
第4回	保育の人的環境としての保育者と子どもの発達								
第5回	子ども相互のかかわりと関係づくり								
第6回	集団における経験と育ち								
第7回	発達による懸念やつまづき								
第8回	保育の環境の理解と構成								
第9回	環境の変化や移行								
第10回	子ども理解のための観察・記録と省察・評価								
第11回	子ども理解のための職員間の対話								
第12回	子ども理解のための保護者との情報共有								
第13回	発達の課題に応じた援助とかかわり								
第14回	特別な配慮を要する子どもの理解と援助								
第15回	発達の連続性と就学への支援								
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢/態度	30	意欲的な受講態度、発表・討議への参加、予・復習の状況によって評価する。						
	レポート	50	授業内容を理解し、課題に即して(計画・考察など)取り組んでいるかを評価する。 また、課題やレポートについてはコメントを記入して返却。または、課題提出後の授業で全体的な傾向についてコメントをする。						
	定期試験	20	最終的な理解度を評価する。						
	その他								

評価の方法：自由記載	
受講の心得	常に自分自身の見方や援助の方法を問いつながら、子ども理解に努めること。
授業外学習	予・復習を行い、週当たり2時間以上学習すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載

その他	
備考	
注意事項	
担当教員の業務経験の有無	無
担当教員の業務経験	
担当教員以外で指導に関わる業務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる業務経験者	
業務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. 保育実践において、実態に応じた子どもの一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義について理解できる。	保育実践において、実態に応じた子どもの一人一人の心身の発達や学びを把握することができている。	保育実践において、実態に応じた子どもの一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義について十分に理解できている。	保育実践において、実態に応じた子どもの一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義について理解できている。	保育実践において、実態に応じた子どもの一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義についての理解をしようと努力している。	保育実践において、実態に応じた子どもの一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義についての理解しようとしている。
知識・理解	2. 子どもの体験や学びの過程において、子どもを理解する上での基本的な考え方を理解できる。	子どもの体験や学びの過程において、子どもを理解する上での基本的な考え方を十分に理解でき、発展することができる。	子どもの体験や学びの過程において、子どもを理解する上での基本的な考え方を十分に理解できている。	子どもの体験や学びの過程において、子どもを理解する上での基本的な考え方を理解できている。	子どもの体験や学びの過程において、子どもを理解する上での基本的な考え方を理解しようと努力している。	子どもの体験や学びの過程において、子どもを理解する上での基本的な考え方を理解しようとしている。
知識・理解	3. 子どもを理解するための具体的な方法を理解できる。	子どもを理解するための具体的な方法を十分に理解でき、発展することができる。	子どもを理解するための具体的な方法を十分に理解できている。	子どもを理解するための具体的な方法を理解できている。	子どもを理解するための具体的な方法を理解しようと努力している。	子どもを理解するための具体的な方法を理解しようとしている。
知識・理解	4. 子どもの理解に基づく保育上の援助や態度の基本について理解できる。	子どもの理解に基づく保育上の援助や態度の基本について十分に理解でき、発展することができる。	子どもの理解に基づく保育上の援助や態度の基本について十分に理解できている。	子どもの理解に基づく保育上の援助や態度の基本について理解できている。	子どもの理解に基づく保育上の援助や態度の基本について理解しようと努力している。	子どもの理解に基づく保育上の援助や態度の基本について理解しようとしている。
態度	1. 授業内容を理解し、課題に即した積極的な態度や、取り組みについて評価する。	保育現場で役立たせるために、授業内容や意義を十分に理解し、積極的に授業に参加することができる。	保育現場で役立たせるために、授業内容や意義を理解し、授業に参加できている。	授業には参加するが、発表や課題について取り組みが消極的である。	授業内容の理解や、発表などへの参加が不十分である。	授業の欠席や、課題の未提出がある。

科目名	子どもの理解と援助 2クラス			授業番号	CN211B	サブタイトル			
教員	土師 穂子								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	保育実践において実態に応じた子どもの一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義についてや、子どもを理解するための具体的な方法、子どもの理解に基づく保育上の援助や態度の基本について理解できるよう解説する。								
到達目標	1, 保育実践において、実態に応じた子どもの一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義について理解できる。 2, 子どもの体験や学びの過程において、子どもを理解する上での基本的な考え方を理解できる。 3, 子どもを理解するための具体的な方法を理解できる。 4, 子どもの理解に基づく保育上の援助や態度の基本について理解できる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈態度〉の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
回	概要						担当		
第1回	保育における子どもの理解								
第2回	子どもに対するかかわりと共感的理解								
第3回	子どもの生活や遊び								
第4回	保育の人的環境としての保育者と子どもの発達								
第5回	子ども相互のかかわりと関係づくり								
第6回	集団における経験と育ち								
第7回	発達による懸念やつまづき								
第8回	保育の環境の理解と構成								
第9回	環境の変化や移行								
第10回	子ども理解のための観察・記録と省察・評価								
第11回	子ども理解のための職員間の対話								
第12回	子ども理解のための保護者との情報共有								
第13回	発達の課題に応じた援助とかかわり								
第14回	特別な配慮を要する子どもの理解と援助								
第15回	発達の連続性と就学への支援								
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢/態度	30	意欲的な受講態度、発表・討議への参加、予・復習の状況によって評価する。						
	レポート	50	授業内容を理解し、課題に即して(計画・考察など)取り組んでいるかを評価する。 また、課題やレポートについてはコメントを記入して返却。または、課題提出後の授業で全体的な傾向についてコメントをする。						
	定期試験	20	最終的な理解度を評価する。						
	その他								

評価の方法：自由記載	
受講の心得	常に自分自身の見方や援助の方法を問いつながら、子ども理解に努めること。
授業外学習	予・復習を行い、週当たり2時間以上学習すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載

その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. 保育実践において、実態に応じた子どもの一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義について理解できる。	保育実践において、実態に応じた子どもの一人一人の心身の発達や学びを把握することができている。	保育実践において、実態に応じた子どもの一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義について十分に理解できている。	保育実践において、実態に応じた子どもの一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義について理解できている。	保育実践において、実態に応じた子どもの一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義についての理解をしようと努力している。	保育実践において、実態に応じた子どもの一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義についての理解しようとしている。
知識・理解	2. 子どもの体験や学びの過程において、子どもを理解する上での基本的な考え方を理解できる。	子どもの体験や学びの過程において、子どもを理解する上での基本的な考え方を十分に理解でき、発展することができる。	子どもの体験や学びの過程において、子どもを理解する上での基本的な考え方を十分に理解できている。	子どもの体験や学びの過程において、子どもを理解する上での基本的な考え方を理解できている。	子どもの体験や学びの過程において、子どもを理解する上での基本的な考え方を理解しようと努力している。	子どもの体験や学びの過程において、子どもを理解する上での基本的な考え方を理解しようとしている。
知識・理解	3. 子どもを理解するための具体的な方法を理解できる。	子どもを理解するための具体的な方法を十分に理解でき、発展することができる。	子どもを理解するための具体的な方法を十分に理解できている。	子どもを理解するための具体的な方法を理解できている。	子どもを理解するための具体的な方法を理解しようと努力している。	子どもを理解するための具体的な方法を理解しようとしている。
知識・理解	4. 子どもの理解に基づく保育上の援助や態度の基本について理解できる。	子どもの理解に基づく保育上の援助や態度の基本について十分に理解でき、発展することができる。	子どもの理解に基づく保育上の援助や態度の基本について十分に理解できている。	子どもの理解に基づく保育上の援助や態度の基本について理解できている。	子どもの理解に基づく保育上の援助や態度の基本について理解しようと努力している。	子どもの理解に基づく保育上の援助や態度の基本について理解しようとしている。
態度	1. 授業内容を理解し、課題に即した積極的な態度や、取り組みについて評価する。	保育現場で役立つために、授業内容や意義を十分に理解し、積極的に授業に参加することができる。	保育現場で役立つために、授業内容や意義を理解し、授業に参加できている。	授業には参加するが、発表や課題について取り組みが消極的である。	授業内容の理解や、発表などへの参加が不十分である。	授業の欠席や、課題の未提出がある。

科目名	幼児理解の理論と方法			授業番号	CN212	サブタイトル	
教員	園田 祥子						
単位数	2単位	開講年次	3年	開講期	前期	授業形態	講義
						必修・選択	選択
授業概要	この授業では、特に乳幼児期における子ども達の発達支援に必要な理論および技法について、発達心理学および臨床心理学の観点から解説する。						
到達目標	乳幼児期の子ども達の発達支援に必要な知識および技能を身につける。 なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力のうち、<知識・理解>の習得に貢献する。						
授業計画 備考							
回	概要					担当	
第1回	保育における「子ども理解」は子どもが見ている世界を共に見て、子どもの側からその「意味」を探る、保育者の子どもを理解する「まなざし」の意味や意義を学ぶ。						
第2回	子どもを取り巻く環境の理解 子どもたちの身を置く周囲の環境との関係の中で、子どもの姿や育ちをとらえていく視点について学ぶ。						
第3回	子ども理解における発達の視点 乳幼児期の発達段階に沿った仲間入りやいざこざ、言葉での伝え合いや協同的な活動について学ぶ。						
第4回	保育カウンセリング(キダーカウンセリング) 2021年、学校教育法施行規則が改定され、幼稚園にスクールカウンセラーが配置できるようになり、保育現場におけるカウンセラーの役割とは。						
第5回	子ども理解における保育者の姿勢とカウンセリングマインド 保育者が子どもの気持ちに共感し温かき寄り添うことで、子どもは自分の世界を広げていくことができる。						
第6回	保育における観察と記録の実践 保育の観察や記録においては、正確さや具体性に加え、子どもの気持ちや育ちを読み取ることも必要となる。						
第7回	保育カンファレンス 子どもの姿や自分自身の関わりについて自分以外の他者と語り合うことで、新しい視点や手掛かりを得られる。						
第8回	中間のまとめ 第1回～第7回の内容を振り返り、理解を確認する。						
第9回	保育における個と集団の関係の理解と援助 1人の子どもが「みんな」と関わっていきながら、どのように「個」と「集団」が育ちあっているのか、その育ち合いを支える保育のあり方について学ぶ。						
第10回	1人1人の子どもの特別なニーズの理解と援助 多様なニーズをもつ子どもたちにとって、それぞれの育ちを支えていくために必要とされる保育のあり方を探る。						
第11回	発達臨床の現場 子どもの発達を支える現場として、保育所や幼稚園、認定こども園以外にどのような現場があるのかを解説する。						
第12回	発達臨床にかかわる人々 発達臨床の現場ではどのような人々が働いているのか、保育者以外の主な専門職を紹介する。						
第13回	保護者理解と援助の基本 保護者が子育ての喜びを感じられるよう、子育て中の不安や戸惑いに寄り添い支えることも保育者の重要な役割である。						
第14回	「子ども理解」を深めるための保育共同体 子ども理解を深めていくために求められる保育者間の関係構築について探る。						
第15回	期末のまとめ 第9回～第14回の内容を振り返り、理解を確認する。						
授業計画 備考2							
評価の方法							
	種別	割合	評価基準・その他備考				
	授業への取り組みの姿勢/態度						
	レポート						
	小テスト						
	定期試験	100	理解度を評価する。				
	その他						

評価の方法：自由記載	
受講の心得	積極的な受講態度を期待します。
授業外学習	毎回の授業の内容を4時間以上復習しておくこと。復習の成果を第8回および第15回で確認し、不十分な点について再度4時間以上の復習を行うこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
新しい保育講座(3) 子ども理解と援助	高嶋泉子・砂上史子 (編著)	ミネルヴァ書房	9784623085316	2200円
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
よくわかる臨床発達心理学 第4版	麻生 武・浜田寿美男 (編)	ミネルヴァ書房	978-4-623-06326-0	2800円
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. 講義内容を多面的かつ十分に理解し、さまざまな問題とのかかわりの中で得られた知識を活用できる	呈示された知識の理解に基づき、さまざまな問題とのかかわりの中で活用することができる	呈示された知識をほぼ理解し、多少の不十分があっても多面的に理解する努力をした上で活用することができる	理解は十分とは思われず、必要な知識も不足しているもの、活用に向けて努力している	授業内容を十分に理解できているとは思われず、知識の獲得や活用に向けての努力も不足している	講義そのものを理解できておらず、知識が獲得されていないため、活用できない

科目名	教育社会学		授業番号	CN213	サブタイトル				
教員	中田 周作								
単位数	2単位	開講年次	3年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	子どもの発達を、これまで主として、心理学的アプローチにより説明が進められてきたといっても過言ではないだろう。しかし、大きな社会変動と多層的価値観が錯綜する現代社会において、子どもの発達を説明するためには、子どもを取り巻く社会的環境を注視する必要がある。そのため、特に社会化工エージントに焦点をあてて講義する。								
到達目標	子どもの発達を社会的アプローチにより理解できる基礎的素養を習得する。 特に、学校教育に関する社会的事項、学校と地域との連携、学校安全への対応に関する基礎的知識を修得し、子どもに関する問題を自ら分析し、解決に寄与できる能力を身につけることを目標とする。 なお、本科目は、ディプロマポリシーに掲げた「 知識・理解 」<思考・問題解決能力>の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
回	概要					担当			
第1回	子どもの発達に対する研究 社会的アプローチとは								
第2回	教育社会学の研究対象と研究方法 何が学問を規定するのか								
第3回	教育社会学の研究対象としての教育政策 我が国における教育政策の展開と現状								
第4回	教育社会学の研究対象としての諸国の教育事情 国際比較から分かること								
第5回	家族集団と子どもの社会化 家族集団における子どもの社会化の特徴								
第6回	仲間集団と子どもの社会化 仲間集団における子どもの社会化の特徴 遊戯集団と活動集団								
第7回	地域社会と学校教育 地域社会と学校の関係								
第8回	地域社会と子どもの教育 近隣集団と地域集団								
第9回	学校集団の構造と組織 学校とは何か 学校の特徴とは								
第10回	学校集団の社会化機能 学校集団における子どもの社会化の特徴								
第11回	学校の安全に関する現状と課題 学校の安全とは								
第12回	学校の安全と危機管理 学校の危機管理とは								
第13回	子どもの社会化と逸脱行動 逸脱行動とは何か								
第14回	子どもの逸脱行動の現実 逸脱行動と子どもの社会化								
第15回	少年非行 少年非行とは 少年非行をめぐる現状と法令								
授業計画 備考2									
評価の方法									
種別	割合	評価基準・その態備考							
最終試験レポート	70	各自で最終レポートを作成し提出する。							
コメントペーパー	30	講義のとき、毎回、コメントペーパーを提出する。							

評価の方法：自由記載	
受講の心得	1) テキスト及び配付資料を事前に読んでくること。 2) 最終試験レポートの課題を採りながら受講すること。
授業外学修	事前にテキスト及び配付資料を読んでくることを、週当たり4時間以上行うこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
変動社会と子どもの発達	住田正樹・高島秀樹	北樹出版	978-4-7793-0469-9	2100
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	森井明・多賀太・中村高康編著『よわかる教育社会学』ミネルヴァ書房			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の業務経験の有無	無			
担当教員の業務経験				
担当教員以外で指導に関わる業務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる業務経験者				
業務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. 子どもの発達に関する社会学的アプローチが理解できている。	①子どもの発達に関する社会学的研究、②日本の教育政策、③諸外国の教育事情の3点について、自分の言葉で説明することができる。	①子どもの発達に関する社会学的研究、②日本の教育政策、③諸外国の教育事情の3点について、周辺領域の知識とも関連付けて理解できている。	①子どもの発達に関する社会学的研究、②日本の教育政策、③諸外国の教育事情の3点について、概要を理解できている。	①子どもの発達に関する社会学的研究、②日本の教育政策、③諸外国の教育事情の3点について、キーワードを覚えている。	①子どもの発達に関する社会学的研究、②日本の教育政策、③諸外国の教育事情の3点についてのキーワードを覚えていない。
知識・理解	2. 具体的な社会化エージェントと子どもの社会化について理解できている。	家族集団、仲間集団、近隣集団、地域集団、学校集団と子どもの社会化について理解できている。	学校集団を含むいくつかの集団と子どもの社会化について理解できている。	いくつかの集団と子どもの社会化について理解できている。	社会化エージェントと子どもの社会化についてキーワードを覚えている。	社会化エージェントと子どもの社会化に関するキーワードを覚えていない。
知識・理解	3. 学校集団の構造について理解できている。	学校集団の構造と組織、学校集団の社会化機能について理解できている。	学校集団の構造と組織もしくは、学校集団の社会化機能について理解できている。	学校集団の構造と組織、学校集団の社会化機能の概略を理解できている。	学校集団の構造と組織、学校集団の社会化機能のキーワードを覚えている。	学校集団の構造と組織、学校集団の社会化機能のキーワードを覚えていない。
知識・理解	4. 学校の安全について理解できている。	学校の安全に関する現状と危機管理について理解できている。	学校の安全に関する現状もしくは、危機管理について理解できている。	学校の安全に関する現状と危機管理の概略を理解できている。	学校の安全に関する現状と危機管理に関するキーワードを覚えている。	学校の安全に関する現状と危機管理に関するキーワードを覚えていない。
知識・理解	5. 子どもの社会化と逸脱行動について理解できている。	①少年非行に関する社会学的研究、②児童虐待の現状、③不登校とひきこもりの3点について、自分の言葉で説明することができる。	①少年非行に関する社会学的研究、②児童虐待の現状、③不登校とひきこもりの3点のうちいずれかについて、自分の言葉で説明することができる。	①少年非行に関する社会学的研究、②児童虐待の現状、③不登校とひきこもりの3点の概要を理解している。	①少年非行に関する社会学的研究、②児童虐待の現状、③不登校とひきこもりの3点について、キーワードを覚えている。	①少年非行に関する社会学的研究、②児童虐待の現状、③不登校とひきこもりの3点について、キーワードを覚えていない。
思考・問題解決能力	1. 社会集団を通じた子どもの発達について、考察することができる。	社会集団を通じた子どもの発達を考察することにより、自らの実践の質を向上させることができる。	社会集団を通じた子どもの発達について、学修内容に照らして考察することができる。	社会集団を通じた子どもの発達について、自分の経験に基づき語るることができる。	社会集団を通じた子どもの発達について語るることができる。	社会集団を通じた子どもの発達について理解することができない。

2024年度授業概要(シラバス)

科目名	教育相談	授業番号	CN215	サブタイトル	(カウンセリングを含む)
教員	園田 祥子				
単位数	2単位	開講年次	が1キリムにより異なります。	開講期	前期
				授業形態	講義
					必修・選択
					選択
授業概要	この授業では、教育相談についてその理念や基本的な理論を紹介する。				
到達目標	教育相談で扱うさまざまな問題に対し、不適応状態にある子どもやその保護者に教師が対応していく際の考え方や方法について解説し、カウンセリング・マインドを身につける。 なお、本科目はデプロイ・ポリシーに拠る上での内容のうち、＜知識・理解＞の習得に貢献する。				
授業計画 備考					
回	概要				担当
第1回	教育相談とは 教育相談の必要性と意義について理解し、これからの時代の教師に求められる心理的援助の責務について理解を深める。				
第2回	カウンセリングの理論 子どもや保護者の相談対応を行う上で重要となる、カウンセリングの考え方を解説する。				
第3回	カウンセリングの技法 クライアントとのコミュニケーションに有効となる、カウンセリングの基本的な技法を解説する。				
第4回	いじめ・不登校への対応 いじめおよび不登校の現状と構造を理解し、教育相談や支援としてどのようなことができるかを考える力を身につける。				
第5回	学級崩壊・学級経営の問題への対応 学級崩壊の実態と回復ポイントを理解し、学級崩壊にならないための学級経営を考える力を身につける。				
第6回	虐待・いのちの教育への対応 保護者やそれ以外の者によって子どもの命が奪われる事件の現状を知り、必要な対応や支援を考える力を身につける。				
第7回	非行・学校不登校への対応 「問題行動」という言葉が何を指すのか、その概念を正確に非行や学校不登校への理解と対応を考える。				
第8回	中間のまとめ 第1回～第7回までの内容を振り返り、理解を確認する。				
第9回	発達障害への対応 個性性が非常に高い発達障害について、その対応を共生社会に向けたインクルーシブ教育の観点から解説する。				
第10回	心の病への対応 児童期から青年期にみられる心の病気についてその概要を解説し、教師として何ができるかを考える力を身につける。				
第11回	校内・他機関との連携 スクールカウンセラーを始めとする校内のさまざまな立場の職員との連携および他機関との連携について学ぶ。				
第12回	アセスメント：観察・面接 子どもの状態を適切に把握し、支援するアセスメントについて、ここでは行動観察および面接の方法について学ぶ。				
第13回	アセスメント：心理検査 専門機関やスクールカウンセラーなどの連携を踏まえ、心理検査についての概論および留意点を学ぶ。				
第14回	家庭の理解と保護者への支援 今の親が置かれている状況を理解したうえで、ともに子どもを育てていく方法を考える。				
第15回	期末のまとめ 第9回～第14回までの内容を振り返り、理解を確認する。				
授業計画 備考2					
評価の方法					
	種別	割合	評価基準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度				
	レポート				
	小テスト				
	定期試験	100	理解度を評価する。		
	その他				

評価の方法：自由記載	
受講の心得	積極的な受講態度を期待します。
授業外学習	毎回の授業の前に、テキストに基づいて4時間以上予習しておくこと。学習の成果を第8回および第15回で確認し、不十分な点について4時間以上の復習を行うこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
よわかる！教職エッセイ3 教育相談	森田健宏・吉田佐治子(編著)	ミネルヴァ書房	978-4-623-08178-3	2200円

使用テキスト：自由記載

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載

その他

備考

注意事項

担当教員の業務経験の有無

無

担当教員の業務経験

担当教員以外で指導に関わる業務経験者の有無

無

担当教員以外で指導に関わる業務経験者

業務経験をいかした教育内容

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. 講義内容を多面的かつ十分に理解し、さまざまな問題とのかかわりの中で得られた知識を活用できる	呈示された知識の理解に基づき、さまざまな問題とのかかわりの中で活用することができる	呈示された知識をほぼ理解し、多少の不十分があっても多面的に理解する努力をした上で活用することができる	理解は十分とは思われず、必要な知識も不足しているもの、活用に向けて努力している	授業内容を十分に理解できているとは思われず、知識の獲得や活用に向けての努力も不足している	講義そのものを理解できておらず、知識が獲得されていないため、活用できない

科目名	発達心理学		授業番号	CN216	サブタイトル	
教員	園田 祥子					
単位数	1単位	開講年次	がキリムにより異なります。	開講期	後期	授業形態
						演習
						必修・選択
						選択
授業概要	この授業では、生涯発達の視点から人の一生を捉え、特に誕生から乳幼児期にかけての生理的・心理的発達について解説する。					
到達目標	子どもと接する上で必要な行動理解の基礎を身につける。 なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力のうち、<知識・理解>の習得に貢献する。					
授業計画 備考						
回	概要					担当
第1回	発達心理学とは 20世紀の終わりと21世紀にかけて飛躍的に進歩した乳幼児研究で得られた知見を解説する。					
第2回	赤ちゃんはいかに有能か 新生児期の子どもが持っている能力を、知覚や情動の観点から紹介する。					
第3回	人間発達の可塑性 幼少時に経験したネガティブな経験の影響は、どのようにして補償できるのか。					
第4回	母子相互作用の不思議 言葉が使えない乳児でも、生まれたばかりの新生児ですら、母親とコミュニケーションしている。					
第5回	世界認識の始まりと個性の育ち 「物の永続性」の理解はどのように進むのか、他者の反応を参考に行動を決定する「社会的参照」に見られる個性とは。					
第6回	象徴機能の成立と言語発達 頭の中に作られる表象と「ことば」の結びつきはどのように成立していくのか。					
第7回	言語の機能と会話の発達 誰かに伝えるための「ことば」は、頭の中で考える「ことば」の発達。					
第8回	中間のまとめ 第1回～第7回の内容を振り返り、理解を確認する。					
第9回	記憶し想像する心の発達 乳幼児が持つ記憶力の限界と、こどもが思い出すときの特徴。					
第10回	心の理論の成立 自己と他者のそれぞれにある「心」を理解することが、思いやる心の発達につながる。					
第11回	遊びの発達と遊びからの学び 友達とかがけの遊びの世界を楽しむ中で、子どもたちが身につける多くのこと。					
第12回	思考と語りの成立過程 「物語る」ことの機能と、想像する心の発達が創造につながるまで。					
第13回	科学する心の身生え 数を数えること、計算すること、生物学や物理学、論理的思考はどのように発達していくのか。					
第14回	生活世界から学びの世界へ 読み書き、デジタルメディア、英語学習……早期教育に効果はあるのだろうか。					
第15回	期末のまとめ 第9回から第14回の内容を振り返り、理解を確認する。					
授業計画 備考2						
評価の方法						
	種別	割合	評価基準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度					
	レポート					
	小テスト					
	定期試験	100	理解度を評価する。			
	その他					

評価の方法：自由記載	
受講の心得	積極的な受講態度を期待します。
授業外学習	毎回の授業の内容を4時間以上復習しておくこと。復習の成果を第8回および第15回で確認し、不十分な点について再度4時間以上の復習を行うこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
やわらかアカデミズム(わかる)シリーズ よくわかる乳幼児心理学	内田伸子(編)	ミネルヴァ書房	978-4-623-05000-0	2400円
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の实務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点(到達目標に基づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 講義内容を多面的かつ十分に理解し、さまざまな問題とのかかわりの中で得られた知識を活用できる	呈示された知識の理解に基づき、さまざまな問題とのかかわりの中で活用することができる	呈示された知識をほぼ理解し、多少の不十分があっても多面的に理解する努力をした上で活用することができる	理解は十分とは思われず、必要な知識も不足しているもの、活用に向けて努力している	授業内容を十分に理解できているとは思われず、知識の獲得や活用に向けての努力も不足している	講義そのものを理解できておらず、知識が獲得されていないため、活用できない

科目名	教育社会学演習		授業番号	CN314	サブタイトル				
教員	中田 庸作								
単位数	1単位	開講年次	が1年次より異なります。	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	子どもを研究対象とした社会学系統の学術論文を題材とし、社会学の専門用語を確知しながら精読していく。同時に、子ども学としてコンセンサスの得られる研究対象や研究方法、子ども学の役割についても検討する。								
到達目標	子ども学は未だ発展の途上である。子ども学の確立を目指すためには、様々な学問分野からのアプローチが必要である。本演習は、その一助として、社会学系統の学術論文を読むことができるようになることを目標とする。なお、本科目は、ディプロマ・ポリシーに掲げた「学士力のうち<思考・問題解決能力>の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
回	概要					担当			
第1回	教育社会学の研究対象と方法 授業の目的と方法								
第2回	レジュメ発表と質疑応答 (テーマ：子ども社会学の位置付け)								
第3回	レジュメ発表と質疑応答 (テーマ：子どもの遊びとは)								
第4回	レジュメ発表と質疑応答 (テーマ：家庭的アプローチとは)								
第5回	レジュメ発表と質疑応答 (テーマ：民間の子育て支援活動)								
第6回	レジュメ発表と質疑応答 (テーマ：子どもの仲間集団)								
第7回	レジュメ発表と質疑応答 (テーマ：子どもの放課後)								
第8回	レジュメ発表と質疑応答 (テーマ：自然体験活動の意義)								
第9回	レジュメ発表と質疑応答 (テーマ：マンガと子ども)								
第10回	レジュメ発表と質疑応答 (テーマ：子どものイメージ)								
第11回	レジュメ発表と質疑応答 (テーマ：地域社会と子ども)								
第12回	レジュメ発表と質疑応答 (テーマ：家庭と子ども)								
第13回	レジュメ発表と質疑応答 (テーマ：少年非行と子どもの発達)								
第14回	レジュメ発表と質疑応答 (テーマ：学歴社会と受験競争)								
第15回	レジュメ発表と質疑応答 (テーマ：子どもの発達と新しいメディア)								
授業計画 備考2									
評価の方法									
種別	割合	評価基準・その他備考							
作成したレジュメに基づく発表と発表後の修正	70	作成したレジュメ、発表時の内容・態度・姿勢を評価する。 発表時に質問形式でフィードバックする。							
他者の発表時の質問	30	他者の発表時に必ず質問する。							

評価の方法：自由記載	
受講の心得	課題論文を読んでもらうこと。討論に積極的に参加すること。
授業外学修	1. 自分の発表前は、レジュメの作成をすること。 2. 発表後は、発表中に指摘を受けた事項を踏まえて、レジュメを修正し、提出すること。 3. 他者の発表の前に、テキストの該当箇所を読んで、質問を考えておくこと。 以上、週当たり4時間以上取り組むこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
変動社会と子どもの発達	住田正樹・高島秀樹編	北樹出版	978-4-7793-0469-9	2, 100円+税
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
思考・問題解決能力	1. 子ども社会学の観点からの考察と、自らの実践力の向上ができる。	子ども社会学の観点から子どもに関する社会問題を考察することを通して、自らの実践の質を向上させることができる。	子ども社会学の観点から子どもに関する社会問題を考察することができる。	子ども社会学の観点から子どもに関する社会問題について、自分の経験に基づき語るることができる。	子ども社会学の観点から子どもに関する社会問題について語るすることができる。	子ども社会学の観点から子どもに関する社会問題を備忘ることができない。

評価の方法：自由記載	レポートは、予習した内容や資料を写すのではなく、その授業において深まった内容や考えたことを記述するよう努力する。
受講の心得	配布資料及びレポートは、整理してファイルしておくこと。 学生相互による話し合い活動では、積極的に参加し互いに考えを深めること。
授業外学習	1. 予習として、資料や課題に示された教科書の部分を読み、レポートにまとめ提出すること。 2. 使用した教材をきっかけに、関連する教科書教材に関心を広げること。 3. 日常的に読書に親しむこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
小学校国語科授業研究 第五版	田近海一・中村和弘他	教育出版	978-4-316-80465-1	2000円+税

使用テキスト：自由記載

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載

その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	小学校学習指導要領の理解, 教材分析

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. 教材を分析して、特徴的な表現や仕掛け、内容を捉え、その教材の特質を理解している。	・教材を分析して、それぞれの教材について特徴的な表現や仕掛け、内容等を捉え、その教材の特質や指導内容を構造的に理解している。	・教材を分析して、それぞれの教材について特徴的な表現や仕掛け、内容等を捉え、その教材の特質や指導内容を理解している。	・教材を分析して、それぞれの教材について特徴的な表現や仕掛け、内容の大体を捉え、その教材の特質や指導内容を理解している。	・教材を分析して、関心のある教材について特徴的な表現や仕掛け、内容を捉え、その教材の特質を理解している。	・教材を分析することが難しく、特徴的な表現や仕掛け、内容を捉えることが難しく、教材の特質を理解することが難しい。
思考・問題解決能力	1. 教材分析の方法を身に付け、教材の特質を捉えるとともに、指導内容を明らかにしている。	・多様な教材分析の方法を身に付け、それを駆使して教材の特質を捉えるとともに、指導内容を明らかにすることができる。	・教材分析の方法を身に付け、効果的に活用して教材の特質を捉えるとともに、指導内容を明らかにすることができる。	・教材分析の方法を身に付け、それを活用して教材の特質を捉えるとともに、指導内容を明らかにすることができる。	・教材分析の方法が十分に身に付いていないため、教材の特質を捉えることが難しい。	・教材分析の方法が身に付いていないため、教材の特質を捉えることが難しい。

2024年度授業概要(シラバス)

科目名	算数			授業番号	CO202	サブタイトル			
教員	森寺 勝之								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	小学校学習指導要領における算数科の目標及び各領域、各学年の内容、系統性について理解するとともに、具体的な授業場面において、どのように指導するのか、どのように評価するのかについても考えていく。								
到達目標	1) 小学校学習指導要領における算数科の目標及び主な内容について理解する。 2) 算数科の各領域、各学年の学習内容と指導上の留意点について理解する。 3) 算数科の学習評価の考え方を理解する。 4) 算数科の背景となる数字とつながりを理解し、教材研究に活用しようとする。 なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <技能> <態度> の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
回	概要						担当		
第1回	科目を学ぶ意義、算数を学ぶ意味								
第2回	数と計算領域（1）数の概念と表記、自然数								
第3回	数と計算領域（2）数の把握、数の表記								
第4回	数と計算領域（3）たし算、ひき算、かけ算、わり算								
第5回	数と計算領域（4）小数、分数								
第6回	数と計算領域（5）各学年における数の学び								
第7回	図形領域（1）基本的な平面図形、立体図形、垂直や平行の関係								
第8回	図形領域（2）面積、体積								
第9回	測定領域（1）量と測定								
第10回	測定領域（2）量と測定の指導								
第11回	変化と関係領域（1）異種の量の割合								
第12回	変化と関係領域（2）関数の考え								
第13回	データの活用領域（1）統計と確率								
第14回	文章題、問題解決								
第15回	学習評価、数学的活動、数学的な見方・考え方、数学的リテラシー								
授業計画 備考2									
評価の方法									
種別		割合	評価基準・その他備考						
授業への取り組みの姿勢/態度		10	意欲的な学習態度、発表・討議への取り組みの姿勢を評価する。						
レポート		30	「授業からの学び」と「自分の気づき」を評価する。						
小テスト・大テスト		50	前回の授業や主要な内容の理解を評価する。						
定期試験									
その他		10	ノートのとめ方・算数図形作品を評価する。						

評価の方法：自由記載	
受講の心得	授業のはじめに小テストを行うので、前時の復習をして授業に臨むこと。 自分が小学校で経験した算数科の授業を想起しながら、実際に問題を解いたり、教え方を考えたりすること。
授業外学修	1 配付資料や小テスト等を整理して、本時の講義内容をノートにまとめ復習する。 2 発展学習として、授業で興味を持った内容について調べ深める。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
小学校学習指導要領解説 算数編	文部科学省	文部科学省	9784491015507	242円
小学校算数教科書1年～6年		啓林館		

使用テキスト：自由記載

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載

その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の实務経験	教員(教頭を含む)16年、岡山県教育委員会専門的教育職員16年、校長7年
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	公立小学校、教育委員会事務局等での実務経験を生かして、教育現場の実際を反映させた実践的な教育を行う。

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー-学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. 小学校算数の目標及び主な内容について理解する。	小学校算数の目標及び主な内容について十分に理解できている。	小学校算数の目標及び主な内容について概ね理解できている。	小学校算数の目標及び主な内容について普通に理解できている。	小学校算数の目標及び主な内容について理解が不十分。	小学校算数の目標及び主な内容について全く理解できていない。
知識・理解	2. 算数科の各領域、各学年の学習内容と指導上の留意点について理解する。	算数科の各領域、各学年の学習内容と指導上の留意点について十分に理解できている。	算数科の各領域、各学年の学習内容と指導上の留意点について概ね理解できている。	算数科の各領域、各学年の学習内容と指導上の留意点について普通に理解できている。	算数科の各領域、各学年の学習内容と指導上の留意点について理解が不十分。	算数科の各領域、各学年の学習内容と指導上の留意点について全く理解できていない。
知識・理解	3. 算数科の学習評価の考え方を理解する	算数科の学習評価の考え方について十分に理解できている。	算数科の学習評価の考え方について概ね理解できている。	算数科の学習評価の考え方について普通に理解できている。	算数科の学習評価の考え方について理解が不十分。	算数科の学習評価の考え方について全く理解できていない。
技能	1. 算数科の学習評価の分析手法を習得している。	算数科の学習評価の分析手法を十分に理解し、積極的に活用することができる。	算数科の学習評価の分析手法を概ね理解し、活用することができる。	算数科の学習評価の分析手法のいくつかを理解し、活用することができる。	いくつかの算数科の学習評価の分析手法を理解することができたが、やや十分に活用することができない。	いくつかの算数科の学習評価の分析手法を理解することができず、活用もできない。
態度	1. 提出物	レポート、ノートなどの提出物について、授業提示の内容を適切にまとめ、自分で調べるなどして内容が発展的に充足している。あわせて、提出期限内に提出ができる。	レポート、ノートなどの提出物について、授業提示の内容を自分なりにまとめ、工夫して作成することができる。あわせて提出期限内に提出ができる。	レポート、ノートなどの提出物について授業提示した内容が適切にまとめられており、期限内に提出することができる。	レポート、ノートなどの提出物について授業提示した内容が不十分であるが自分なりに工夫して提出することができる。	レポート、ノートなどの提出物について授業提示した内容が不十分である。または、提出されない。

科目名	生活		授業番号	CO203	サブタイトル	(生活科の基本的内容)			
教員	池原 繁延								
単位数	2単位	開講年次	1年次	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	(1)学習指導要領の内容を踏まえながら、他の学生と協力し、積極的に小単元ごとの目標設定・授業の流れ・指導法などの基本を習得するとともに、具体的にイメージしながらそれらを作り上げる。 (2)「児童の気づきの質」を高めるための具体的な内容を学習する。								
到達目標	(1)学習指導要領の内容を踏まえながら、小単元ごとの目標設定・授業の流れ・指導法などの基本を習得することができる。 この内容は、ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち「知識・理解」の習得に貢献する。 (2)「児童の気づきの質」を高めるための具体的な内容を理解することができる。 この内容は、ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち「知識・理解」の習得に貢献する。 (3)学習指導要領の内容を踏まえながら、小単元ごとの目標設定・授業の流れ・指導法等を具体的な授業をイメージしながら作り上げる。 この内容は、ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち「思考・問題解決能力」の習得に貢献する。 (4)他の学生と協力しながら積極的に小単元ごとの目標設定・授業の流れ・指導法等を作り上げる。 この内容は、ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち「態度」の習得に貢献する。								
授業計画 備考									
回	概要						担当		
第1回	第1回 学習指導要領改善のポイント 「教育課程の示し方の改善」[具体的な教育内容の改善・充実]「学習指導改善・充実」や「観察カード」のコメントについて								
第2回	第2回 生活科が目指すこと 「思いや願いの実現に向け学習主体の学び」「生活科における資質・能力の育成とその構造」「教育課程の結節点としての生活科」[小単元における目標設定等]について								
第3回	第3回 生活科の内容1 9項目の内容構成 内容の階層化「学校と生活」について 関連小単元の目標設定等								
第4回	第4回 生活科の内容2 飼育・栽培活動を進めるうえでの具体的な注意点「家庭と生活」について 関連小単元目標設定等								
第5回	第5回 生活科の内容3 安全について「地域と生活」について 関連小単元目標設定等								
第6回	第6回 生活科の内容4 内容構成の具体的な視点「公共物や公共施設の利用」について 関連小単元目標設定等								
第7回	第7回 生活科の内容5 児童の気づきの質を高めるために「季節の変化と生活」について 関連小単元目標設定等								
第8回	第8回 生活科の内容6 比較について「自然や物を使った遊び」について 関連小単元目標設定・大まかな授業の流れ・指導法等 気付きの質を高めるためのポイントについて								
第9回	第9回 生活科の内容7 「動物の飼育・栽培」について 関連小単元目標設定・大まかな授業の流れ・指導法等 気付きの質を高めるためのポイントについて								
第10回	第10回 生活科の内容8 保護者、地域人材の活用について「生活や出来事への伝え合い」について 関連小単元目標設定・大まかな授業の流れ・指導法等 気付きの質を高めるためのポイントについて								
第11回	第11回 生活科の内容9 「自分の成長」について 関連小単元目標設定・大まかな授業の流れ・指導法等 気付きの質を高めるためのポイントについて								
第12回	第12回 評価について 評価について 評価規準 評価基準 評価の手段等 小単元目標設定・大まかな授業の流れ・指導法等 気付きの質を高めるためのポイントについて								
第13回	第13回 指導計画の作成と内容の取扱い 指導計画作成上の配慮事項 小単元目標設定・大まかな授業の流れ・指導法等 気付きの質を高めるためのポイントについて								
第14回	第14回 生活科の授業について 生活科と自然環境 小単元目標設定・詳しい授業の流れ・指導法等								
第15回	第15回 中学生の各教科との接続 基本的な考え方 社会科学との接続 理科との接続 総合的な学習の時間との接続 小単元目標設定・詳しい授業の流れ・指導法等								
授業計画 備考2									
評価の方法									
種別		割合	評価基準・その他備考						
授業への取り組みの姿勢/態度		60	発表内容、意欲的な授業態度						
レポート		40	課題に対する授業内容に沿った具体的な例を挙げたレポートであること。なお、レポート提出後の授業で全体的な傾向についてコメントを行う。						
小テスト									
定期試験									
その他									

評価の方法：自由記載	
受講の心得	小学校で実際に授業ができるよう、より具体的なイメージをもって授業に臨むこと。
授業外学習	(1)身近な自然に親しみ、植物や動物を観察しながら、地域を散歩すること。 (2)身近な生活から、生活科の授業に活かせる教材を発見する取り組みをすること。 (3)予習として、教科書のうち、授業内容に関わる部分を読み、積極的に授業に参加できる準備をすること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
小学校指導要領(平成29年告示)解説 生活科編	文部科学省	株式会社東洋館出版社	9784491034645	
新しい生活 下	田村字ほか84名	東京書籍株式会社	9784487216598	新刊が出る予定

使用テキスト：自由記載	教材用プリント
-------------	---------

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の業務経験の有無	有
担当教員の業務経験	小学校教諭・管理職(35年)
担当教員以外で指導に関わる業務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる業務経験者	
業務経験をいかした教育内容	実際の小学校の授業に生かせるポイントを再考した教育内容

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー-学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	学習指導要領の内容を踏まえながら、小単元ごとの目標設定・授業の流れ・指導法などの基本を習得することができる。	指導要領の内容を十分踏まえて基本を習得できている。	内容を大まかに踏まえて基本を習得できている。	内容を一部踏まえて基本を習得できている。	一部分基本を習得できている。	習得することができない。
知識・理解	「児童の気づきの質」を高めるための具体的内容を理解することができる。	具体的内容が十分理解できている。	全てではないが、多くの具体的内容が理解できている。	具体的内容は多くはないが理解できている。	具体的ではないが一部分理解できている。	理解できない。
思考・問題解決能力	学習指導要領の内容を踏まえながら、小単元ごとの目標設定・授業の流れ・指導法等を具体的な授業をイメージしながら作り上げる。	十分具体的である。	全てではないが、多くの部分が具体的である。	具体的内容は多くはないが、作り上げることができる。	具体的ではないが作り上げることができる。	作り上げることができない
態度	他の学生と協力しながら積極的に小単元ごとの目標設定・授業の流れ・指導法等を作り上げることができる。	他の学生と協力しながら積極的に作り上げることができる。	他の学生と協力しながら多くの単元で積極的に作り上げることができる。	他の学生と協力しながらいくつかの単元で積極的に作り上げることができる。	他の学生と協力しながらいくつかの単元で作り上げることができる。	作り上げることができない。

科目名	音楽		授業番号	CO204	サブタイトル	小学校音楽1～6年			
教員	川崎 泰子								
単位数	2単位	開講年次	別プログラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	小学校音楽科における音楽科教育の意義を理解するとともに、授業を構成するために必要な知識や基礎的な技能等について学ぶ。								
到達目標	小学校音楽科の授業を行うために必要な、基礎的な知識や技能を身に付ける。そのために「鑑賞・歌唱・創作」における基礎的要素を確認し、それらに応用する知識を身につけ、各人の技能に応じた伴奏法の工夫が出来るようになる。 なお、本科目はデパート系に特化した学士力の内容のうち、<知識・理解> <思考・問題解決能力> <技能> <態度>の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
回	概要					担当			
第1回	小学校における音楽科教育の目標と内容 ①「小学校学習指導要領 第2章 音楽」の読み取りと理解 ②小学校音楽科の意義を理解する								
第2回	表現＝歌唱、器楽、創作－ 1年生 ①発声の技法、表現、ソルフェージュ（移動唱法を含む） ②共通教材の教材研究について指導のポイント等の考察・演習 ③小学校1年生共通教材弾き歌いについて理解・習得する								
第3回	表現＝歌唱、器楽、創作－ 2年生 ①発声の技法、表現、ソルフェージュ（移動唱法を含む） ②共通教材の教材研究について指導のポイント等の考察・演習 ③小学校2年生共通教材弾き歌いについて演習し理解を深める								
第4回	表現＝歌唱、器楽、創作－ 3年生 ①発声の技法、表現、ソルフェージュ（移動唱法を含む） ②共通教材の教材研究について指導のポイント等の考察・演習 ③小学校3年生共通教材弾き歌いについて演習し理解を深める ④器楽（ソプラノコーダー）について指導のポイント等の考察・演習								
第5回	「表現」および「共通教材」～歌唱～ 1～3年生までの共通教材歌唱成果発表（弾き歌いを含む）、評価について考察する								
第6回	表現＝歌唱、器楽、創作－ 4年生 ①発声の技法、表現、ソルフェージュ（移動唱法を含む） ②共通教材の教材研究について指導のポイント等の考察・演習 ③小学校4年生共通教材弾き歌いについて演習し理解を深める ④器楽（ソプラノコーダー）について指導のポイント等の考察・演習								
第7回	表現＝歌唱、器楽、創作－ 5年生 ①発声の技法、表現、ソルフェージュ（移動唱法を含む） ②共通教材の教材研究について指導のポイント等の考察・演習 ③小学校5年生共通教材弾き歌いについて演習し理解を深める ④器楽（ソプラノコーダー）について指導のポイント等の考察・演習								
第8回	表現＝歌唱、器楽、創作－ 6年生 ①発声の技法、表現、ソルフェージュ（移動唱法を含む） ②共通教材の教材研究について指導のポイント等の考察・演習 ③小学校5年生共通教材弾き歌いについて演習し理解を深める ④器楽（ソプラノコーダー）について指導のポイント等の考察・演習								
第9回	「表現」および「共通教材」～歌唱～ 3～6年生までの共通教材歌唱成果発表（弾き歌いを含む）、評価について考察する								
第10回	「表現」および「共通教材」～器楽～ ①器楽指導、創作 ②グループに分かれ器楽アンサンブル 楽譜の演奏方法、アンサンブルについて理解する ③グループ器楽アンサンブル発表準備								
第11回	「表現」および「共通教材」～器楽～ ①器楽指導、創作 ②グループに分かれ器楽アンサンブル 楽譜の演奏方法、アンサンブルについて理解する ③グループ器楽アンサンブル発表、評価について考察する								
第12回	「鑑賞」および「共通教材」1, 2, 3年生 ①小学校教育における鑑賞指導の意義と目的を理解 ②指導法のポイント及びICTの活用について ③鑑賞曲について								
第13回	「鑑賞」および「共通教材」4, 5, 6年生 ①小学校教育における鑑賞指導の意義と目的を理解 ②指導法のポイント及びICTの活用について ③鑑賞曲について								
第14回	共通事項 音楽理論の確認 ①「音楽を形づくる要素」とそれらに関わる音符、休符、記号や用語 ②楽譜の読み書きに用いる音楽用語を理解し、音階、移調について理解を深める ③小テスト								
第15回	まとめ「表現」および「共通教材」～歌唱、器楽、創作～ 1～6年生までの共通教材弾き歌い、ソプラノコーダー（課題曲2曲(重唱含む)）成果発表 評価について考察する 筆記試験についての説明								
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢/態度	20	意欲的な学習態度、予習及び復習の状況によって評価する。						
	小テスト	50	各回の主要なポイントの理解を評価する。グループ発表、歌唱成果発表（弾き歌いを含む）などの実技を含む。実技発表の後、次の授業で全体的なコメントをする。						
	定期試験	30	最終的な理解度を評価する。						

評価の方法：自由記載	小テストでは実技も併せて、授業中に行われる実技ポイントを理解しておくこと。
受講の心得	小学校教員への教職意識を持つこと。 授業内で適宜小テスト（実技を含む）を行うので、前時間の復習をして授業に臨むこと。 配布されたプリントや資料を整理しておくこと。
授業外学修	授業で提示される次回の内容について、予習すること。 課題を実施すること。 上記を、適当に4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
小学校音楽科教育法		教育芸術社		

使用テキスト：自由記載

小学校音楽1～6年（教育芸術社）

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載

【楽器の準備】
ソプラノコーダー（ジャーマン式、ドイツ式、GやDと記されている）を使用する為、授業が始まるまでに準備しておくこと。

その他

備考

注意事項

担当教員の業務経験の有無

有

担当教員の業務経験

公立小学校、中学校、私立中学、私立高校講師などの教員歴（20年）、少年少女合唱団主宰【2023年福武教育文化賞受賞】（12年）、数々の学校にて歌唱指導（20年）

担当教員以外で指導に関わる業務経験者の有無

無

担当教員以外で指導に関わる業務経験者

業務経験をいかした教育内容

業務経験を活かし、学校現場の体験（20年）を通して得た知識を伝えると共に、小学校音楽科教育に求められる専門的な知識・技能を深め、学習指導力、実践的な音楽実技指導力の向上に努める。

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. 楽譜を読む力がある	問題なく音符を理解している	積極的に楽譜を理解しようとしている	時間がかかるが理解しようとしている	楽譜を理解しようとする姿勢があまりみられない	理解する姿勢が感じられない
知識・理解	2. 歌唱法が理解できている	小学校歌唱共通教材を通して発声法が理解できている	積極的に発声法を理解しようとする姿勢がみられる	歌唱は苦手ながらも発声法を学ぼうとする姿勢がみられる	発声法を理解しようとする姿勢があまりみられない	歌唱する姿勢が感じられない
知識・理解	3. 楽器の特性を理解している	問題なく楽器の特性を理解している	積極的に楽器の特性を理解しようとしている	楽器の特性を学ぼうとする姿勢がみられる	楽器の特性を理解しようとする姿勢があまりみられない	理解する姿勢が感じられない
技能	1. 積極的に歌唱することができる	小学校歌唱共通教材を通して取う力が備わっている	積極的に歌唱しようとする姿勢がみられる	歌唱しようとする姿勢があり、苦手ながらも参加している	苦手意識が高く、声を出さずのに補助がいる	歌唱する姿勢が感じられない
技能	2. 積極的に弾き奏することができる	小学校歌唱共通教材を通して弾き奏する能力が備わっている	積極的にピアノに触れ、弾き奏する姿勢がみられる	ピアノが苦手ながらもそれを克服するために積極的に練習している	苦手意識が高くピアノに触れる時間が少ない	弾き奏する姿勢がみられない
技能	3. 積極的に器楽演奏に参加することができる	小学校器楽教材を通して楽器を演奏する能力が備わっている	積極的に楽器に触れ、演奏する姿勢がみられる	楽器が苦手ながらもそれを克服するために積極的に練習している	苦手意識が高く楽器に触れる時間が少ない	器楽演奏する姿勢がみられない
態度	1. グループ発表時に積極的に参加できている	積極的にグループで協働して創作ができ、発表することができる	積極的にグループ演習に参加し、協働する姿勢がみられる	グループ演習に参加し、自分の役割分担を責任を持ってできている	グループ演習には参加するものの協働する姿勢がみられない	グループ発表する姿勢がみられない

科目名	図画工作		授業番号	CO205	サブタイトル				
教員	牛島 光太郎								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	この講義では、小学校図画工作科で行われる教科書題材を取り上げながら、「造形的な見方・考え方」について講義する。実際の活動を通して、図画工作科で取り扱う様々な素材や技法に触れ、造形活動における基本的な技術を修得し、「造形的な見方・考え方」を身につけることを目的とする。								
到達目標	<p>(1)「造形的な見方・考え方」を身につけることができる。</p> <p>1)表現及び鑑賞の活動を通して「造形的な見方・考え方」に関して深く理解できる。</p> <p>2)「感性」や「想像力」をもとに思考することができる。</p> <p>3)自分にとって新しいものやことをつくりだすように「発想」や「構想」することができる。</p> <p>(2)表現及び鑑賞の活動を通して、創造的に表現活動ができる。</p> <p>1)基本的な画材や材料や用具の特性を理解することができる。</p> <p>2)基本的な画材や材料や用具を適切に取り扱えることができる。</p> <p>3)題材に対して、「造形的な見方・考え方」を働かせ、表し方などを工夫することができる。</p> <p>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学力の内容のうち、<知識・理解> <思考・問題解決能力> <技能>の修得に貢献する。</p>								
授業計画 備考									
回	概要					担当			
第1回	表現と鑑賞とは 図画工作科の目的と内容								
第2回	図画工作科におけるICT活用 ICTを活用した作品の制作と鑑賞								
第3回	低学年における表現と鑑賞1 造形あそびを通して								
第4回	低学年における表現と鑑賞2 絵にあわす活動を通して								
第5回	低学年における表現と鑑賞3 立体にあわす活動を通して								
第6回	低学年における表現と鑑賞4 工作にあわす活動を通して								
第7回	中学年における表現と鑑賞1 造形あそびを通して								
第8回	中学年における表現と鑑賞2 絵にあわす活動を通して								
第9回	中学年における表現と鑑賞3 立体にあわす活動を通して								
第10回	中学年における表現と鑑賞4 工作にあわす活動を通して								
第11回	高学年における表現と鑑賞1 造形あそびを通して								
第12回	高学年における表現と鑑賞2 絵にあわす活動を通して								
第13回	高学年における表現と鑑賞3 立体にあわす活動を通して								
第14回	高学年における表現と鑑賞4 工作にあわす活動を通して								
第15回	鑑賞と講評 作品の発表・鑑賞と意見交換								
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢/態度	30	意欲的な授業態度、予・復習の状況によって評価する。						
	レポート・課題	70	各回の主要なポイントの理解を提出されたレポートや課題によって評価する。課題提出後の授業で全体的な傾向についてコメントする。						

評価の方法：自由記載	
受講の心得	この講義を通して「造形的な見方・考え方」について探求してほしい。
授業外学修	1 復習として、課題を講すことがある。 2 予習として、資料を配布することがある。 3 発展学修として、授業で紹介された参考文献等を読む。 以上の内容を、適当に4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト：自由記載	適宜、提示する。			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	適宜、提示する。			
その他	はさみ、のり、テープ、色鉛筆、水彩絵具、定規、コンパス、カッター、スクッチブックなど、様々な画材、素材、道具を使用する。詳しい準備物は適宜授業の中で提示する。			
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無				
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. 学習指導要領で示された「造形的な見方・考え方」を理解している	「造形的な見方・考え方」について十分に理解し、図画工作科で育成する資質・能力を具体的に説明することができる	「造形的な見方・考え方」について十分に理解し、図画工作科で育成する資質・能力を説明することができる	「造形的な見方・考え方」について理解し、図画工作科で育成する資質・能力も理解している	「造形的な見方・考え方」について理解しているが、図画工作科で育成する資質・能力の理解は不十分である	「造形的な見方・考え方」や図画工作科で育成する資質・能力を理解していない
思考・問題解決能力	1. 各題材について理解している	各題材における自分なりの問題意識を持ち、表現及び鑑賞活動を通して、その解決方法を検討し、改善したり、児童への指導に活かすことができる	各題材における自分なりの問題意識を持ち、表現及び鑑賞活動を通して、その解決方法を検討し、改善することができる	各題材における自分なりの問題意識を持ち、表現及び鑑賞活動を通して、その解決方法を検討することができる	各題材における自分なりの問題意識を持つが、その解決方法の検討が不十分である	各題材に対して、自分なりの問題意識や改善する視点を持っていない
技能	1. 教育現場で活用できる実践的な技能を身につけている	基本的な画材や材料の特徴や用具の取り扱いの方法を十分に理解し、それらを適切に取り扱い、表したいことを十分に表現することができる	基本的な画材や材料の特徴や用具の取り扱いの方法を十分に理解し、それらを取り扱い、表したいことを十分に表現することができる	基本的な画材や材料の特徴や用具の取り扱いの方法を理解し、それらを取り扱い、表したいことを表現することができる	基本的な画材や材料の特徴や用具の取り扱いの方法は理解しているが、それらの取り扱い方が不十分である	基本的な画材や材料の特徴や用具の取り扱いの方法を理解しておらず、それらの取り扱い方も不十分である

科目名	体育		授業番号	CO206	サブタイトル				
教員	満田 知茂								
単位数	2単位	開講年次	がキレムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	小学校学習指導要領に示されている各種運動領域について、子どもの「教育的系統」に立脚する立場からその内容について追及する。まず、各種運動領域のそれぞれについて、領域の特性と教材の内容についての理解を図る。次に、運動自体の理解とともに、学習者の側によってそれぞれの内容を追求し理解することを企図して授業を行う。								
到達目標	それぞれの教材の技術的特性を理解するとともに、自らも示範することができるようになる。 なお本科目はデュプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち<知識・理解> <技能> の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
回	概要						担当		
第1回	戦後学習指導要領における学習内容の変遷 体育における学習内容の改善点について理解する。								
第2回	ボール運動：ゴール型（バスケットボール）の理解と内容 各学年のゴール型（バスケットボール）の行い方を理解するとともに、投げる、受ける、ドリブルをするといったボール操作とボールを持たないときの動き方を考える。								
第3回	ボール運動：ゴール型（バスケットボール）の動き方とその実践 考えた動き方で実際に動いて、投げる、受ける、ドリブルをするといったボール操作とボールを持たないときのよい動き方を考える。								
第4回	ボール運動：ネット型（バドミントン）の理解と内容 ネット型（バドミントン）の行い方を理解するとともに、用具の正しい操作の仕方と動き方を考える。								
第5回	ボール運動：ネット型（バドミントン）の動き方とその実践 考えた動き方で実際に動いて、どのように動いたら取りやすく、どこを狙えば決まるかを考える。								
第6回	ボール運動：ネット型（ソフトバレーボール）の理解と内容 ネット型（ソフトバレーボール）の行い方を理解するとともに、ボール操作の仕方と位置取りを考える。								
第7回	ボール運動：ネット型（ソフトバレーボール）の動き方とその実践 考えた動き方で実際に動いて、ボール操作の仕方と位置取り・ボールを触らない人の動き方を考える。								
第8回	体づくり運動の理解と内容 体づくりの行い方を理解するとともに、それぞれの構成内容とその動き方を考える。								
第9回	体づくり運動の動き方とその実践 考えた動き方で実際に動いて、どう動いたら楽しさや喜びを味わうことができるかを考える。								
第10回	器械運動：マット運動の理解と内容 マット運動の行い方を理解するとともに、各学年の内容の動き方を考える。								
第11回	器械運動：マット運動の動き方とその実践 考えた動き方で実際に動いて、どう動いたら、それぞれの技ができる楽しさや喜びを味わうことができるかを考える。								
第12回	器械運動：跳び箱運動の理解と内容 跳び箱運動の行い方を理解するとともに、各学年の内容の動き方を考える。								
第13回	器械運動：跳び箱運動の動き方とその実践 考えた動き方で実際に動いて、どう動いたら、それぞれの技ができる楽しさや喜びを味わうことができるかを考える。								
第14回	陸上運動：短距離走の理解と内容 短距離走の行い方を理解するとともに、各学年の内容と手・足の動かし方を考える。								
第15回	陸上運動：短距離走の動作の仕方とその実践 実際に走り、手・足の動きを確認しながら、速く走れるかを考える。								
授業計画 備考2									
評価の方法									
種別		割合	評価基準・その他備考						
授業への取り組みの姿勢/態度		40	意欲的な受講態度、発表や予習・復習の状況によって評価する。 フィードバックは、その場でその場で行う。						
レポート		30	各領域ごとに学んだことを具体的に述べていること。 レポートは、コメントを記入して返却する。						
小テスト		30	全15回の授業を踏まえ、レポートを作成する。 レポートは、コメントを記入して返却する。						
定期試験									
その他									

評価の方法：自由記載	
受講の心得	実技を伴うので、各運動領域に対して積極的に取り組むこと。
授業外学習	-各領域ごとで取り上げる内容をしっかり教材研究をする。 -運動に対する興味関心を高め、運動する習慣づくりを心がける。 以上の内容を、週当たり4時間以上学習すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト：自由記載	特に使用しない。(作成資料を活用)			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の实務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 小学校学習指導要領に示されている各種運動領域の内容と特性について、理解できている。	小学校学習指導要領に示されている各種運動領域の内容と特性について、理解できている。	小学校学習指導要領に示されている各種運動領域の内容と特性について、ほぼ理解できている。	小学校学習指導要領に示されている各種運動領域の内容と特性について、基本的なところは理解できている。	小学校学習指導要領に示されている各種運動領域の内容と特性についての理解が十分ではない。	小学校学習指導要領に示されている各種運動領域の内容と特性について、理解できていない。
技能	1. 運動技能の習得に優れている。	運動技能が優れている。	基本的な運動技能が優れている。	基本的な運動技能が身についている。	基本的な運動技能が十分ではない。	基本的な運動技能が身につけていない。

科目名	基礎音楽 A 2限			授業番号	CO20701	サブタイトル	
教員	廣畑 まゆ美、川崎 泰子、土師 範子、河田 健二、嶋田 泉、織田 典恵、多田 悦子						
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	演習
授業概要	子どもの発達と表現を理解し、音楽に関する基本的な知識や技能をピアノで習得することを目的とする。豊かな感性を表現するピアノ基礎技法を学び、保育現場において使用する童謡、子どもの歌等のレパートリーを広げる。練習することを習慣化することにより、確かな技能習得を目指す。授業は習熟度別に個人指導を行う。						
到達目標	楽曲を構成する基本的な知識を理解し、既成伴奏及び簡易伴奏の演奏ができる。 練習を習慣化し、レパートリーを10曲作ることを目標とする。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉の修得に貢献する。						
授業計画 備考							
回	概要					担当	
第1回	子どもの成長と子どもを取りまく音楽環境について…保育者に必要な音楽の知識・技能とは何か					廣畑 まゆ美 川崎泰子 土師範子 河田健二 嶋田 泉 織田典恵 多田悦子	
第2回	各人の目標とする楽曲を選曲し、ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 1 基本的な楽典の知識を習得する 1					廣畑 まゆ美 川崎泰子 土師範子 河田健二 嶋田 泉 織田典恵 多田悦子	
第3回	各人の目標とする楽曲を選曲し、ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 2 基本的な楽典の知識を習得する 2					廣畑 まゆ美 川崎泰子 土師範子 河田健二 嶋田 泉 織田典恵 多田悦子	
第4回	各人の目標とする楽曲を選曲し、ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 3 基本的な楽典の知識を習得する 3					廣畑 まゆ美 川崎泰子 土師範子 河田健二 嶋田 泉 織田典恵 多田悦子	
第5回	表現法とまとめ 1					廣畑 まゆ美 川崎泰子 土師範子 河田健二 嶋田 泉 織田典恵 多田悦子	
第6回	各人の目標とする楽曲を選曲し、ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 4 基本的な楽典の知識を習得する 4					廣畑 まゆ美 川崎泰子 土師範子 河田健二 嶋田 泉 織田典恵 多田悦子	
第7回	各人の目標とする楽曲を選曲し、ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 5 基本的な楽典の知識を習得する 5					廣畑 まゆ美 川崎泰子 土師範子 河田健二 嶋田 泉 織田典恵 多田悦子	
第8回	表現法とまとめ 2					廣畑 まゆ美 川崎泰子 土師範子 河田健二 嶋田 泉 織田典恵 多田悦子	
第9回	各人の目標とする楽曲を選曲し、ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 6 基本的な楽典の知識を習得する 6					廣畑 まゆ美 川崎泰子 土師範子 河田健二 嶋田 泉 織田典恵 多田悦子	
第10回	各人の目標とする楽曲を選曲し、ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 7 基本的な楽典の知識を習得する7					廣畑 まゆ美 川崎泰子 土師範子 河田健二 嶋田 泉 織田典恵 多田悦子	
第11回	各人の目標とする楽曲を選曲し、ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 8 基本的な楽典の知識を習得する 8					廣畑 まゆ美 川崎泰子 土師範子 河田健二 嶋田 泉 織田典恵 多田悦子	
第12回	表現法とまとめ 3					廣畑 まゆ美 川崎泰子 土師範子 河田健二 嶋田 泉 織田典恵 多田悦子	
第13回	各人の目標とする楽曲を選曲し、ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 9 基本的な楽典の知識を習得する 9					廣畑 まゆ美 川崎泰子 土師範子 河田健二 嶋田 泉 織田典恵 多田悦子	
第14回	各人の目標とする楽曲を選曲し、ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 10 基本的な楽典の知識を習得する 10					廣畑 まゆ美 川崎泰子 土師範子 河田健二 嶋田 泉 織田典恵 多田悦子	
第15回	表現法とまとめ 4 楽典					廣畑 まゆ美 川崎泰子 土師範子 河田健二 嶋田 泉 織田典恵 多田悦子	
授業計画 備考2							
評価の方法							
	種別	割合	評価基準・その他備考				
	授業への取り組みの姿勢/態度	10	意欲的な受講態度、予習及び復習の状況によって評価する。				
	レポート						
	小テスト	90	実技やペーパーテストにより、学習プロセスを含めた練習成果を定期的に評価する。小テスト実践後は、指導教員から講評を行う。				
	定期試験						
	その他						

評価の方法：自由記載	
受講の心得	実技における技術習得のためには毎日の練習が不可欠である。授業で習得した技術が次の授業で表現・発揮できるよう努力すること。指導時、授業担当教員から指導された内容は、次回に改善・工夫できるような適宜メモをとること。
授業外学習	授業で提示される次回の内容について、毎日予習すること。授業で提示された課題を実施すること。授業終了後は、各自、復習を行うこと。上記の内容を、週当たり1時間以上学習すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
いろいろな伴奏で弾ける楽曲ごとの100 (保育実用書シリーズ)	小林美実	チャイルド社	978-4805481868	1600
大人のための音楽ワーク テキスト		ヤマハミュージックエンタテイメントホールディングス	978-4636801552	1100
大人のための音楽ワーク ドリル		ヤマハミュージックエンタテイメントホールディングス	978-4636801552	1100

使用テキスト：自由記載

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の業務経験の有無	有			
担当教員の業務経験	各公立中学校・高等学校、音楽教室での講師(嶋田泉)、公立中学校講師・音楽教室主宰・公民館講座講師(嶋田典恵)、ピアノ教室講師(多田悦子)			
担当教員以外で指導に関わる業務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる業務経験者				
業務経験をいかした教育内容	鑑賞を通して音楽教育や楽器の実技を指導する。(嶋田泉) ピアノ初心者から経験者まで、様々な視点から各人の能力に応じた指導をする。(嶋田典恵) 業務経験をいかし、ピアノ演奏技術やピアノ伴奏を身につける為の指導をする。(多田悦子)			

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 読譜	音符・休符の長さや意味を十分理解し、正確に演奏できる。	音符・休符の長さや意味を理解し、ほぼ正確に演奏できる。	音符・休符の長さや意味をおおむね理解しているが、いくつか演奏に間違いやミスが見られる。	音符・休符の長さや意味は十分ではなく、演奏の間違いやミスが目立つ。	音符・休符の長さや意味をほとんど理解できておらず、演奏が成り立たない。
技能	1. 弾き歌いの実践	楽曲にふさわしいテンポ・伴奏法で、流れをとめることなく演奏することができる。よく響く声で旋律を歌うことができる。	楽曲にふさわしいテンポ・伴奏法で演奏することができる。よく響く声で旋律を歌うことができる。	自分の技能に合わせたテンポ・伴奏法で演奏することができるが、旋律を歌う声がかたたり、時々ミスが生じる。	旋律を歌う声がかたたり、演奏の流れがとまってしまうミスが時々生じる。	旋律を歌う声がかたたり、演奏の流れがとまるミスが多々生じる。
技能	2. 表現	楽譜に書かれた強弱記号や発想記号を十分に理解し、曲全体のイメージを丁寧に構築し、考えたことを演奏に生かすことができる。	楽譜に書かれた強弱記号や発想記号を理解し、曲全体のイメージを構築し、考えたことを演奏に生かすことができる。	楽譜に書かれた強弱記号や発想記号をおおむね理解し、書かれてあることを演奏に生かそうとしている。	楽譜に書かれた強弱記号や発想記号を十分理解できていないが、指摘をすれば意識を向けることができる。	楽譜に書かれた強弱記号や発想記号をほとんど理解できておらず、指摘しても意識することができない。
技能	3. レパートリー数	半期で12曲以上のレパートリーを完成させている。	半期で10曲以上のレパートリーを完成させている。	半期で8曲以上のレパートリーを完成させている。	半期で6曲以上のレパートリーを完成させている。	半期でレパートリーが6曲以下である。
態度	1. 演奏に向かう態度	予習復習を十分に行って授業に参加している。演奏時は、ステージマナーを十分理解し、基本的な礼儀作法をわきまえている。	予習復習を行って授業に参加している。演奏時は、ステージマナーを十分理解し、基本的な礼儀作法をわきまえている。	復習を行って授業に参加している。演奏時、ステージマナーをおおむね理解しているが、いくつか不十分な点が見られる。改善しようとする姿が見られる。	復習を行っているが不十分な状態で授業に参加している。演奏時、ステージマナーをあまり理解しておらず、いくつか不十分な点が見られる。改善しようとする姿が見られる。	復習を行っておらず不十分な状態で授業に参加している。演奏時、ステージマナーをほとんど理解しておらず、不十分な点が多々見られる。改善しようとする姿がない。

科目名	基礎音楽 A 3限			授業番号	CO20702	サブタイトル	
教員	廣畑 まゆ美、川崎 泰子、土師 範子、河田 健二、嶋田 泉、織田 典恵、多田 悦子						
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	演習
授業概要	子どもの発達と表現を理解し、音楽に関する基本的な知識や技能をピアノで習得することを目的とする。豊かな感性を表現するピアノ基礎技法を学び、保育現場において使用する童謡、子どもの歌等のレパートリーを広げる。練習することを習慣化することにより、確実な技能習得を目指す。授業は習熟度別に個人指導を行う。						
到達目標	楽曲を構成する基本的な知識を理解し、既成伴奏及び簡易伴奏の演奏ができる。 練習を習慣化し、レパートリーを10曲作ることを目標とする。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉の修得に貢献する。						
授業計画 備考							
回	概要					担当	
第1回	子どもの成長と子どもを取りまく音楽環境について…保育者に必要な音楽の知識・技能とは何か					廣畑 まゆ美 川崎泰子 土師範子 河田健二 嶋田 泉 織田典恵 多田悦子	
第2回	各人の目標とする楽曲を選曲し、ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 1 基本的な楽典の知識を習得する 1					廣畑 まゆ美 川崎泰子 土師範子 河田健二 嶋田 泉 織田典恵 多田悦子	
第3回	各人の目標とする楽曲を選曲し、ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 2 基本的な楽典の知識を習得する 2					廣畑 まゆ美 川崎泰子 土師範子 河田健二 嶋田 泉 織田典恵 多田悦子	
第4回	各人の目標とする楽曲を選曲し、ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 3 基本的な楽典の知識を習得する 3					廣畑 まゆ美 川崎泰子 土師範子 河田健二 嶋田 泉 織田典恵 多田悦子	
第5回	表現法とまとめ 1					廣畑 まゆ美 川崎泰子 土師範子 河田健二 嶋田 泉 織田典恵 多田悦子	
第6回	各人の目標とする楽曲を選曲し、ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 4 基本的な楽典の知識を習得する 4					廣畑 まゆ美 川崎泰子 土師範子 河田健二 嶋田 泉 織田典恵 多田悦子	
第7回	各人の目標とする楽曲を選曲し、ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 5 基本的な楽典の知識を習得する 5					廣畑 まゆ美 川崎泰子 土師範子 河田健二 嶋田 泉 織田典恵 多田悦子	
第8回	表現法とまとめ 2					廣畑 まゆ美 川崎泰子 土師範子 河田健二 嶋田 泉 織田典恵 多田悦子	
第9回	各人の目標とする楽曲を選曲し、ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 6 基本的な楽典の知識を習得する 6					廣畑 まゆ美 川崎泰子 土師範子 河田健二 嶋田 泉 織田典恵 多田悦子	
第10回	各人の目標とする楽曲を選曲し、ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 7 基本的な楽典の知識を習得する7					廣畑 まゆ美 川崎泰子 土師範子 河田健二 嶋田 泉 織田典恵 多田悦子	
第11回	各人の目標とする楽曲を選曲し、ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 8 基本的な楽典の知識を習得する 8					廣畑 まゆ美 川崎泰子 土師範子 河田健二 嶋田 泉 織田典恵 多田悦子	
第12回	表現法とまとめ 3					廣畑 まゆ美 川崎泰子 土師範子 河田健二 嶋田 泉 織田典恵 多田悦子	
第13回	各人の目標とする楽曲を選曲し、ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 9 基本的な楽典の知識を習得する 9					廣畑 まゆ美 川崎泰子 土師範子 河田健二 嶋田 泉 織田典恵 多田悦子	
第14回	各人の目標とする楽曲を選曲し、ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 10 基本的な楽典の知識を習得する 10					廣畑 まゆ美 川崎泰子 土師範子 河田健二 嶋田 泉 織田典恵 多田悦子	
第15回	表現法とまとめ 4 楽典					廣畑 まゆ美 川崎泰子 土師範子 河田健二 嶋田 泉 織田典恵 多田悦子	
授業計画 備考2							
評価の方法							
	種別	割合	評価基準・その他備考				
	授業への取り組みの姿勢/態度	10	意欲的な受講態度、予習及び復習の状況によって評価する。				
	レポート						
	小テスト	90	実技やペーパーテストにより、学習プロセスを含めた練習成果を定期的に評価する。小テスト実践後は、指導教員から講評を行う。				
	定期試験						
	その他						

評価の方法：自由記載	
受講の心得	実技における技術習得のためには毎日の練習が不可欠である。授業で習得した技術が次の授業で表現・発揮できるよう努力すること。指導時、授業担当教員から指導された内容は、次回に改善・工夫できるような適宜メモをとること。
授業外学習	授業で提示される次回の内容について、毎日予習すること。授業で提示された課題を実施すること。授業終了後は、各自、復習を行うこと。上記の内容を、週当たり1時間以上学習すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
いろいろな伴奏で弾ける連曲ごころの100 (保育実用書シリーズ)	小林美実	チャイルド社	978-4805481868	1600
大人のための音楽ワーク テキスト		ヤマハミュージックエンタテイメントホールディングス	978-4636801552	1100
大人のための音楽ワーク ドリル		ヤマハミュージックエンタテイメントホールディングス	978-4636801552	1100

使用テキスト：自由記載

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の業務経験の有無	有			
担当教員の業務経験	各公立中学校・高等学校、音楽教室での講師(嶋田泉)、公立中学校講師・音楽教室主宰・公民館講座講師(嶋田典恵)、ピアノ教室講師(多田悦子)			
担当教員以外で指導に関わる業務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる業務経験者				
業務経験をいかした教育内容	鑑賞を通して音楽教育や楽器の実技を指導する。(嶋田泉) ピアノ初心者から経験者まで、様々な視点から各人の能力に応じた指導をする。(嶋田典恵) 業務経験をいかし、ピアノ演奏技術やピアノ伴奏を身につける為の指導をする。(多田悦子)			

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 読譜	音符・休符の長さや意味を十分理解し、正確に演奏できる。	音符・休符の長さや意味を理解し、ほぼ正確に演奏できる。	音符・休符の長さや意味をおおむね理解しているが、いくつか演奏に間違いやミスが見られる。	音符・休符の長さや意味は十分ではなく、演奏の間違いやミスが目立つ。	音符・休符の長さや意味をほとんど理解できておらず、演奏が成り立たない。
技能	1. 弾き歌いの実践	楽曲にふさわしいテンポ・伴奏法で、流れをとめることなく演奏することができる。よく響く声で旋律を歌うことができる。	楽曲にふさわしいテンポ・伴奏法で演奏することができる。よく響く声で旋律を歌うことができる。	自分の技能に合わせたテンポ・伴奏法で演奏することができるが、旋律を歌う声がかたたり、時々ミスが生じる。	旋律を歌う声がかたたり、演奏の流れがとまってしまうミスが時々生じる。	旋律を歌う声がかたたり、演奏の流れがとまるミスが多々生じる。
技能	2. 表現	楽譜に書かれた強弱記号や発想記号を十分に理解し、曲全体のイメージを丁寧に構築し、考えたことを演奏に生かすことができる。	楽譜に書かれた強弱記号や発想記号を理解し、曲全体のイメージを構築し、考えたことを演奏に生かすことができる。	楽譜に書かれた強弱記号や発想記号をおおむね理解し、書かれてあることを演奏に生かそうとしている。	楽譜に書かれた強弱記号や発想記号を十分理解できていないが、指摘をすれば意識を向けることができる。	楽譜に書かれた強弱記号や発想記号をほとんど理解できておらず、指摘しても意識することができない。
技能	3. レパートリー数	半期で12曲以上のレパートリーを完成させている。	半期で10曲以上のレパートリーを完成させている。	半期で8曲以上のレパートリーを完成させている。	半期で6曲以上のレパートリーを完成させている。	半期でレパートリーが6曲以下である。
態度	1. 演奏に向かう態度	予習復習を十分に行って授業に参加している。演奏時は、ステージマナーを十分理解し、基本的な礼儀作法をわきまえている。	予習復習を行って授業に参加している。演奏時は、ステージマナーを十分理解し、基本的な礼儀作法をわきまえている。	復習を行って授業に参加している。演奏時、ステージマナーをおおむね理解しているが、いくつか不十分な点が見られる。改善しようとする姿が見られる。	復習を行っているが不十分な状態で授業に参加している。演奏時、ステージマナーをあまり理解しておらず、いくつか不十分な点が見られる。改善しようとする姿が見られる。	復習を行っておらず不十分な状態で授業に参加している。演奏時、ステージマナーをほとんど理解しておらず、不十分な点が多々見られる。改善しようとする姿がない。

科目名	基礎音楽A 4限			授業番号	CO20703	サブタイトル	
教員	廣畑 まゆ美、川崎 泰子、土師 範子、河田 健二、嶋田 泉、織田 典恵、多田 悦子						
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	演習
授業概要	子どもの発達と表現を理解し、音楽に関する基本的な知識や技能をピアノで習得することを目的とする。豊かな感性を表現するピアノ基礎技法を学び、保育現場において使用する童謡、子どもの歌等のレパートリーを広げる。練習することを習慣化することにより、確かな技能習得を目指す。授業は習熟度別に個人指導を行う。						
到達目標	楽曲を構成する基本的な知識を理解し、既成伴奏及び簡易伴奏の演奏ができる。 練習を習慣化し、レパートリーを10曲作ることを目標とする。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉の修得に貢献する。						
授業計画 備考							
回	概要					担当	
第1回	子どもの成長と子どもを取りまく音楽環境について…保育者に必要な音楽の知識・技能とは何か					廣畑 まゆ美 川崎泰子 土師範子 河田健二 嶋田 泉 織田典恵 多田悦子	
第2回	各人の目標とする楽曲を選曲し、ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 1 基本的な楽典の知識を習得する 1					廣畑 まゆ美 川崎泰子 土師範子 河田健二 嶋田 泉 織田典恵 多田悦子	
第3回	各人の目標とする楽曲を選曲し、ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 2 基本的な楽典の知識を習得する 2					廣畑 まゆ美 川崎泰子 土師範子 河田健二 嶋田 泉 織田典恵 多田悦子	
第4回	各人の目標とする楽曲を選曲し、ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 3 基本的な楽典の知識を習得する 3					廣畑 まゆ美 川崎泰子 土師範子 河田健二 嶋田 泉 織田典恵 多田悦子	
第5回	表現法とまとめ 1					廣畑 まゆ美 川崎泰子 土師範子 河田健二 嶋田 泉 織田典恵 多田悦子	
第6回	各人の目標とする楽曲を選曲し、ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 4 基本的な楽典の知識を習得する 4					廣畑 まゆ美 川崎泰子 土師範子 河田健二 嶋田 泉 織田典恵 多田悦子	
第7回	各人の目標とする楽曲を選曲し、ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 5 基本的な楽典の知識を習得する 5					廣畑 まゆ美 川崎泰子 土師範子 河田健二 嶋田 泉 織田典恵 多田悦子	
第8回	表現法とまとめ 2					廣畑 まゆ美 川崎泰子 土師範子 河田健二 嶋田 泉 織田典恵 多田悦子	
第9回	各人の目標とする楽曲を選曲し、ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 6 基本的な楽典の知識を習得する 6					廣畑 まゆ美 川崎泰子 土師範子 河田健二 嶋田 泉 織田典恵 多田悦子	
第10回	各人の目標とする楽曲を選曲し、ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 7 基本的な楽典の知識を習得する7					廣畑 まゆ美 川崎泰子 土師範子 河田健二 嶋田 泉 織田典恵 多田悦子	
第11回	各人の目標とする楽曲を選曲し、ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 8 基本的な楽典の知識を習得する 8					廣畑 まゆ美 川崎泰子 土師範子 河田健二 嶋田 泉 織田典恵 多田悦子	
第12回	表現法とまとめ 3					廣畑 まゆ美 川崎泰子 土師範子 河田健二 嶋田 泉 織田典恵 多田悦子	
第13回	各人の目標とする楽曲を選曲し、ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 9 基本的な楽典の知識を習得する 9					廣畑 まゆ美 川崎泰子 土師範子 河田健二 嶋田 泉 織田典恵 多田悦子	
第14回	各人の目標とする楽曲を選曲し、ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 10 基本的な楽典の知識を習得する 10					廣畑 まゆ美 川崎泰子 土師範子 河田健二 嶋田 泉 織田典恵 多田悦子	
第15回	表現法とまとめ 4 楽典					廣畑 まゆ美 川崎泰子 土師範子 河田健二 嶋田 泉 織田典恵 多田悦子	
授業計画 備考2							
評価の方法							
種別	割合	評価基準・その他備考					
授業への取り組みの姿勢/態度	10	意欲的な受講態度、予習及び復習の状況によって評価する。					
レポート							
小テスト	90	実技やペーパーテストにより、学習プロセスを含めた練習成果を定期的に評価する。小テスト実践後は、指導教員から講評を行う。					
定期試験							
その他							

評価の方法：自由記載	
受講の心得	実技における技術習得のためには毎日の練習が不可欠である。授業で習得した技術が次の授業で表現・発揮できるよう努力すること。指導時、授業担当教員から指導された内容は、次回に改善・工夫できるような適宜メモをとること。
授業外学修	授業で提示される次回の内容について、毎日予習すること。 授業で提示された課題を実施すること。授業終了後は、各自、復習を行うこと。 上記の内容を、週当たり1時間以上学修すること。

書名	著者	出版社	ISBN	備考
いろいろな伴奏で弾ける楽曲ごとの100 (保育実用書シリーズ)	小林美実	チャイルド社	978-4805481868	1600
大人のための音楽ワーク テキスト		ヤマハミュージックエンタテイメントホールディングス	978-4636801552	1100
大人のための音楽ワーク ドリル		ヤマハミュージックエンタテイメントホールディングス	978-4636801552	1100

使用テキスト：自由記載

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の業務経験の有無	有			
担当教員の業務経験	各公立中学校・高等学校、音楽教室での講師(嶋田泉)、公立中学校講師・音楽教室主宰・公民館講座講師(嶋田典恵)、ピアノ教室講師(多田悦子)			
担当教員以外で指導に関わる業務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる業務経験者				
業務経験をいかした教育内容	鑑賞を通して音楽教育や楽器の実技を指導する。(嶋田泉) ピアノ初心者から経験者まで、様々な視点から各人の能力に応じた指導をする。(嶋田典恵) 業務経験をいかし、ピアノ演奏技術やピアノ伴奏を身につける為の指導をする。(多田悦子)			

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 読譜	音符・休符の長さや意味を十分理解し、正確に演奏できる。	音符・休符の長さや意味を理解し、ほぼ正確に演奏できる。	音符・休符の長さや意味をおおむね理解しているが、いくつか演奏に間違いやミスが見られる。	音符・休符の長さや意味は十分ではなく、演奏の間違いやミスが目立つ。	音符・休符の長さや意味をほとんど理解できておらず、演奏が成り立たない。
技能	1. 弾き歌いの実践	楽曲にふさわしいテンポ・伴奏法で、流れをとめることなく演奏することができる。よく響く声で旋律を歌うことができる。	楽曲にふさわしいテンポ・伴奏法で演奏することができる。よく響く声で旋律を歌うことができる。	自分の技能に合わせたテンポ・伴奏法で演奏することができるが、旋律を歌う声がかたたり、時々ミスが生じる。	旋律を歌う声がかたたり、演奏の流れがとまってしまうミスが時々生じる。	旋律を歌う声がかたたり、演奏の流れがとまるミスが多々生じる。
技能	2. 表現	楽譜に書かれた強弱記号や発想記号を十分に理解し、曲全体のイメージを丁寧に構築し、考えたことを演奏に生かすことができる。	楽譜に書かれた強弱記号や発想記号を理解し、曲全体のイメージを構築し、考えたことを演奏に生かすことができる。	楽譜に書かれた強弱記号や発想記号をおおむね理解し、書かれてあることを演奏に生かそうとしている。	楽譜に書かれた強弱記号や発想記号を十分理解できていないが、指摘をすれば意識を向けることができる。	楽譜に書かれた強弱記号や発想記号をほとんど理解できておらず、指摘しても意識することができない。
技能	3. レパートリー数	半期で12曲以上のレパートリーを完成させている。	半期で10曲以上のレパートリーを完成させている。	半期で8曲以上のレパートリーを完成させている。	半期で6曲以上のレパートリーを完成させている。	半期でレパートリーが6曲以下である。
態度	1. 演奏に向かう態度	予習復習を十分に行って授業に参加している。演奏時は、ステージマナーを十分理解し、基本的な礼儀作法をわきまえている。	予習復習を行って授業に参加している。演奏時は、ステージマナーを十分理解し、基本的な礼儀作法をわきまえている。	復習を行って授業に参加している。演奏時、ステージマナーをおおむね理解しているが、いくつか不十分な点が見られる。改善しようとする姿が見られる。	復習を行っているが不十分な状態で授業に参加している。演奏時、ステージマナーをあまり理解しておらず、いくつか不十分な点が見られる。改善しようとする姿が見られる。	復習を行っておらず不十分な状態で授業に参加している。演奏時、ステージマナーをほとんど理解しておらず、不十分な点が多々見られる。改善しようとする姿がない。

科目名	社会		授業番号	CO209	サブタイトル				
教員	山田 暁紗								
単位数	2単位	開講年次	別キリムにより異なります。	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	小学校社会科は、社会生活（私たちの日々の生活）を広い視野からとらえ総合的に理解することをおとし、市民としての責務（公的責務）の基礎を養うことを教科の目標としている。小学校社会科を指導する際、身につけておくべき基礎的な内容（地理・歴史・政治・経済等）を概説する。								
到達目標	小学校社会科を指導する際に必要な基礎的な学力・知識を身に付ける。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、(知識・理解)の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
回	概要				担当				
第1回	小学校社会科の目標と内容								
第2回	小学校社会科の特色と関連専門諸科学								
第3回	地理的分野の基本的事項(1)								
第4回	地理的分野の基本的事項(2)								
第5回	地理的分野の基本的事項(3)								
第6回	地理的分野の演習問題								
第7回	歴史的分野の基本的事項(1)								
第8回	歴史的分野の基本的事項(2)								
第9回	歴史的分野の基本的事項(3)								
第10回	歴史的分野の演習問題								
第11回	公民的分野の基本的事項(1)								
第12回	公民的分野の基本的事項(2)								
第13回	公民的分野の基本的事項(3)								
第14回	公民的分野の演習問題								
第15回	社会認識について								
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢/態度	30	意欲的な授業への参加態度、グループワーク等の参加状況、毎回のミニレポートによって評価する。ミニレポートは次回にコメントをつけて必ず返却する						
	レポート	30	社会科の目標、内容、方法について自分なりに理解し、具体的な事例を挙げながら説明できているかについて評価する。課題やレポートについてはコメントをつけて返却する。レポートにはコメントをつけて返却する。						
	小テスト								
	定期試験	40	最終的な理解度を評価する。						
	その他								

評価の方法：自由記載	
受講の心得	社会科学は社会的現象を教材とする教科である。日常から新聞、ニュース、雑誌、書籍等の情報に留意することが必要である。
授業外学習	<p>1. 予習として、次時の授業内容の教科書を読み、それに関わる情報を新聞、ニュース、雑誌等から集めておく。</p> <p>2. 復習として、課題のレポートを書く。</p> <p>3. 発展学習として、地域で社会科学教育に関連すると思われる活動に参加して、自分の見解を述べられるようにする。</p> <p>以上の内容を、適当に4時間以上学習すること。</p>

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
小学校学習指導要領解説 社会編	文部科学省	東洋館出版社	4491031606	

使用テキスト：自由記載

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載

授業において随時紹介する。

その他

備考

注意事項

担当教員の業務経験の有無

無

担当教員の業務経験

担当教員以外で指導に関わる業務経験者の有無

無

担当教員以外で指導に関わる業務経験者

業務経験をいかした教育内容

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. 学習指導要領の目標・内容・方法を理解した上で、地理的分野の学習の理解ができている。	学習指導要領の目標・内容・方法を理解した上で、地理的分野の学習の理解ができている。	学習指導要領の目標・内容・方法を理解した上で、地理的分野の学習の理解がほぼできている。	学習指導要領の目標・内容・方法を理解した上で、地理的分野の学習の理解が基本できている。	学習指導要領の目標・内容・方法は一部しか理解できていないが、地理的分野の学習の基本が理解できている。	地理的分野の学習の基本がほぼ理解できていない。
知識・理解	2. 学習指導要領の目標・内容・方法を理解した上で、歴史的分野の学習の理解ができている。	学習指導要領の目標・内容・方法を理解した上で、歴史的分野の学習の理解ができている。	学習指導要領の目標・内容・方法を理解した上で、歴史的分野の学習の理解がほぼできている。	学習指導要領の目標・内容・方法を理解した上で、歴史的分野の学習の理解が基本できている。	学習指導要領の目標・内容・方法は一部しか理解できていないが、歴史的分野の学習の基本が理解できている。	歴史的分野の学習の基本がほぼ理解できていない。
知識・理解	3. 学習指導要領の目標・内容・方法を理解した上で、公民的分野の学習の理解ができている。	学習指導要領の目標・内容・方法を理解した上で、公民的分野の学習の理解ができている。	学習指導要領の目標・内容・方法を理解した上で、公民的分野の学習の理解がほぼできている。	学習指導要領の目標・内容・方法を理解した上で、公民的分野の学習の理解が基本できている。	学習指導要領の目標・内容・方法は一部しか理解できていないが、公民的分野の学習の基本が理解できている。	公民的分野の学習の基本がほぼ理解できていない。

科目名	理科	授業番号	CO210	サブタイトル	
教員	佐々木 弘記				
単位数	2単位	開講年次	が1年未満により異なります。	開講期	前期
				授業形態	講義
					必修・選択
授業概要	小学校学習指導要領に示された理科の学習内容について概説するとともに、中学・高校での物理・化学・生物・地学領域の学習内容との関連について学修する。また、小学校理科の授業運営に必要な教材研究の方法について修得する。				
到達目標	小学校学習指導要領に示された理科の学習内容について、関連した物理・化学・生物・地学領域の知識を身に付ける。また、小学校理科の授業運営に必要な教材研究の技術を修得する。なお、本科目は、ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉の修得に貢献する。				
授業計画 備考					
回	概要				担当
第1回	光の反射・屈折 光の反射や屈折の実験を行い、光が水やガラスなどの物質の境界面で反射、屈折するときの規則性を見いだして理解する。				
第2回	凸レンズの働き 凸レンズの働きについての実験を行い、物体の位置と像の向きや大きさとの関係を見いだして理解する。				
第3回	植物の栽培（1） 学校園を整備し、植物の栽培を通して植物の葉、茎、根のつくりについての観察を行い、それらのつくりを理解する。				
第4回	電流と電圧 回路をつくり、回路の電流や電圧を測定する実験を行い、回路の各点を流れる電流や各部に加わる電圧についての規則性を見いだして理解する。				
第5回	電流と電圧と抵抗 金属線に加わる電圧と電流を測定する実験を行い、電圧と電流の関係を見いだして理解するとともに、金属線には電気抵抗があることを理解する。				
第6回	植物の栽培（2） 学校園を整備し、身近な植物の外部形態の観察を行い、その観察記録などを行う。その記録に基づいて、共通点や相違点があることを見いだして、植物の体の基本的なつくりを理解する。また、その共通点や相違点に基づいて植物が分類できることを見いだして理解する。				
第7回	電流とエネルギー 電流によって熱や光などを発生させる実験を行い、熱や光などが取り出せること及び電力の漏れによって発生する熱や光などの量に違いがあることを見いだして理解する。				
第8回	力のつりあい 物体に働く2力、3力についての実験を行い、力がつり合うときの条件を見いだして理解する。				
第9回	仕事とエネルギー 仕事に関する実験を行い、仕事と仕事率について理解する。また、衝突の実験を行い、物体のもつ力学的エネルギーは物体が他の物体になしうる仕事で測れることを理解する。				
第10回	植物の細胞 生物の組織などの観察を行い、生物の体が細胞からできていること及び植物と動物の細胞のつりの特徴を見いだして理解するとともに、観察器具の操作、観察記録の仕方などの技能を身に付ける。				
第11回	植物の体のつくり 植物の葉、茎、根のつくりについての観察を行い、それらのつくりと、光合成、呼吸、蒸散の働きに関する実験の結果とを関連付けて理解する。				
第12回	遺伝のしくみ 交配実験の結果などに基づいて、親の形質が子に伝わるときの規則性を見いだして理解する。				
第13回	酸・アルカリ・塩 酸とアルカリの性質を調べる実験を行い、酸とアルカリのそれぞれの特性が水素イオンと水酸化物イオンによることを知る。また、中和反応の実験を行い、酸とアルカリを混ぜると水と塩が生ずることを理解する。				
第14回	火山岩と深成岩 火山の形、活動の様子及びその噴出物を調べ、それらを地下のマグマの性質と関連付けて理解するとともに、火山岩と深成岩の観察を行い、それらの組織の違いを成因と関連付けて理解する。				
第15回	地震の伝わり方 地震の体験や記録を基に、その揺れの大きさや伝わり方の規則性に気付くとともに、地震の原因を地球内部の動きと関連付けて理解し、地震に伴う土地の変化の様子を理解する。				
授業計画 備考2					
評価の方法					
	種別	割合	評価基準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度	10	意欲的な受講態度、実験・観察に取り組み態度、予習・復習の状況によって評価する。		
	レポート	10	レポートの内容と提出状況によって評価する。レポートについてはコメントを記入して返却する。		
	小テスト	20	各回の主要ポイントの理解を評価する。小テストは採点して返却し、解説する。		
	定期試験	60	最終的な理解度を評価する。		
	その他				

評価の方法：自由記載	
受講の心得	毎回、授業のはじめに小テストを行うので、前時の復習をして授業に臨むこと。また、返却された小テストは、ノートに貼付し、復習すること。配付するプリント・資料などを整理しておくこと。
授業外学習	1 予習として、教科書のうち、授業内容にかかわる部分を読み、疑問点を明らかにする。 2 復習として、課題のレポートを書く。 3 発展学習として、授業で紹介された参考文献を読む。 以上の内容を、適当に4時間以上学習すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
小学校学習指導要領解説 理科編	文部科学省	東洋館出版		111
使用テキスト：自由記載	小学校理科教科書 3～6年、「小学校学習指導要領解説 理科編」文部科学省			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の業務経験の有無	有			
担当教員の業務経験	公立中学校理科教諭(15年)、県教育センター(9年) (佐々木弘記)			
担当教員以外で指導に関わる業務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる業務経験者				
業務経験をいかした教育内容	学校(15年)、教育センター(15年)等での経験を生かして、教育現場の実際を反映させた実践的な教育を行う。			

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. 小学校学習指導要領に示された理科の学習内容について、関連した物理・化学・生物・地学領域の内容を理解できる	小学校学習指導要領に示された理科の学習内容について、関連した物理・化学・生物・地学領域の内容を広範囲かつ詳細に理解している。	小学校学習指導要領に示された理科の学習内容について、関連した物理・化学・生物・地学領域の内容を広範囲に理解している。	小学校学習指導要領に示された理科の学習内容について、関連した物理・化学・生物・地学領域の基礎的な内容を十分に理解している。	小学校学習指導要領に示された理科の学習内容について、関連した物理・化学・生物・地学領域の基礎的な内容を十分に理解していない。	小学校学習指導要領に示された理科の学習内容について、関連した物理・化学・生物・地学領域の基礎的な内容が理解していない。
技能	1. 小学校理科の授業運営に必要な教材研究の技能を身に付ける。	小学校理科の授業運営に必要な教材研究の技能を広範囲かつ詳細に身に付けている。	小学校理科の授業運営に必要な基礎的な教材研究の技能を広範囲に身に付けている。	小学校理科の授業運営に必要な基礎的な教材研究の技能を十分に身に付けている。	小学校理科の授業運営に必要な基礎的な教材研究の技能を十分に付けていない。	小学校理科の授業運営に必要な基礎的な教材研究の技能を身に付けていない。

科目名	家庭	授業番号	CO211	サブタイトル	家族や家庭、衣食住、消費や環境など生活事象の理解
教員	西條 佳子				
単位数	2単位	開講年次	1年次	開講期	前期
授業形態	講義	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	家庭科教育で児童に何を指導し、何を学ばせ、どんな資質・能力を育むのについて、衣食住などに関する実践的・体験的な学習活動を通して明らかにする。また、小学校家庭科を指導するにあたって必要とされる衣食住や家庭生活及び家族、消費生活や環境に関する基礎的・基本的な知識及び技能を養育・実践等を通して身に付ける。				
到達目標	家庭科教育の意義を理解し、家庭生活を中心とした人間の生活を健康で豊かに営むことができる能力と社会の変化に対応できる家庭科力を身に付ける。また、家庭科に関心をもち、字にことばを生活に生かし、自分の生き方や生活改善に役立てる。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学上力の内容のうち、<知識・理解> <思考・問題解決能力> <技能>の修得に貢献する。				
授業計画 備考	最初の授業日に、学年間で定められた授業日と回数を示し、各回のテーマや具体的な内容、教室及び準備物を記載した授業予定表を配付する。				
回	概要			担当	
第1回	小学校家庭科において育成を目指す資質・能力、小学校家庭科の内容構成 小学校家庭科の学習指導要領を読み、目標や内容について理解する。				
第2回	[A家族・家庭生活] 自分の成長と家族・家庭生活、生活時間、家庭生活と仕事、地域の人々との関わり等の指導内容を理解する。				
第3回	[B衣食住の生活]：ねらいと内容構成、基礎知識とボタンの付け方 [B衣食住の生活]のねらいと内容構成を理解する。 [衣食住]の指導内容を理解し、手縫いの基礎知識とボタンの付け方における基礎的・基本的な知識及び技能を習得する。				
第4回	[B衣食住の生活]：生活を豊かにするための製作/フルトを使った小物作り [衣食住]の指導内容である手縫いによる目的に応じた縫い方及び用具の安全な使い方の知識及び技能を習得する。				
第5回	[B衣食住の生活]：緑黄色野菜の調理実験とじゃがいも、ゆて卵のゆで時間による変化。 [衣食住]の指導内容を理解し、「調理の基礎」の指定題材の野菜やじゃがいもゆで卵のゆで時間における基礎的・基本的な知識及び技能を習得する。				
第6回	[B衣食住の生活]：材料に適したゆめ方 [衣食住]の「調理の基礎」の指導内容である材料に適したゆめ方に関する知識及び技能を習得する。				
第7回	[B衣食住の生活]：米飯及びみそ汁の調理 [衣食住]の「調理の基礎」の内容の取扱いを理解し、伝統的な日常食である米飯及びみそ汁の調理、和食の基本となる汁の役割に関する知識及び技能を習得する。				
第8回	[B衣食住の生活]：栄養を考えた食事、1食分の献立作成 [衣食住]の「栄養を考えた食事」の指導内容を理解し、栄養素の種類と働き、食品の栄養的特徴と組み合わせに関する基礎的・基本的な知識を習得する。 献立を構成する要素、1食分の献立作成の方法について理解する。				
第9回	[B衣食住の生活]：衣服の着用と手入れ [衣食住]の指導内容である衣服の主な働きや季節や状況に応じた日常着の快適な着用方、手入れの仕方に関する基礎的・基本的な知識及び技能を習得する。				
第10回	[B衣食住の生活]：[C消費生活・環境]：快適な住まい方、環境に配慮した生活、実験・実習（通風・換気実験） 「住生活」と「環境に配慮した生活」の指導内容を関連付けて理解し、自然の力を活用した季節の変化に合わせた快適な住まい方について考える。 通風・換気についての実験を行う。				
第11回	[C消費生活・環境]：物や金銭の使いと買物 「買物の仕組みや消費者の役割」購入するために必要な情報の収集・整理が適切にできることに関する知識及び技能を習得する。				
第12回	[B衣食住の生活]：子どもの学びを高めるICTの活用 小・中・高等学校家庭科でのICT教育の指導上の配慮事項について理解し、ICTを活用した学習活動は、どのような学習内容に取り入れると効果があがるのか考える。				
第13回	[B衣食住の生活]：生活を豊かにするための布を用いた物の製作(1)（エコバッグ・手提げバッグ等） 布の特徴について理解し、製作計画や製作に関する知識及び技能を習得する。				
第14回	[B衣食住の生活]：生活を豊かにするための布を用いた物の製作(2)（エコバッグ・手提げバッグ等） ミシン縫いの基本やミシンの安全な取り扱い方について知識及び技能を習得する。				
第15回	[B衣食住の生活]：生活を豊かにするための布を用いた物の製作(3)（エコバッグ・手提げバッグ等） ミシン縫いによる生活を豊かにするための布を用いた物の製作についての知識及び技能を習得する。				
授業計画 備考2					

評価の方法		
種別	割合	評価基準・その態備考
授業への取り組みの姿勢/態度	10	授業終了時に当日の講義の要約を記述して提出を求めるコメントシートにより、評価を行う。
レポート	20	授業で学んだ内容を深めることができているかを評価する。 課題やレポートについてはコメントを記入して返却する。また、課題提出後の授業で全体的な傾向についてコメントする。
小テスト		
定期試験	50	最終的な理解度を評価する。
その他	20	以下の製作した作品について評価する。作品についてはコメントを記入して返却する。 基礎知識：5%、フルトの小物：5%、エコバッグ・手提げバッグ等：10%

評価の方法：自由記載	
受講の心得	家庭科は、家庭生活を主な学習対象としている。講義で学んだことを日常生活でも実践するとともに、常に「自分が授業するなら、どの題材を用いて、どのような授業をしたいか」を考えながら受講する。
授業外学習	シラバスで計画的な学習を促すため、授業予定表に、具体的な内容とその内容に該当する小学校家庭科の教科書のページと、中学校家庭科の教科書のページを明記しているため、予習として授業前に読んでおくこと、授業後に復習として該当箇所のページを再度読んで確認すること。この活動を毎回実施すること。以上の内容を、週当たり2時間以上学習すること。

書名	著者	出版社	ISBN	備考
わたしたちの家庭科	著者代表内野紀子他	開隆堂	9784304080647	274円
小学校学習指導要領解説家庭編	文部科学省	豊洋館出版社	9784491023748	103円

使用テキスト：自由記載	「私たちの家庭科」と小学校学習指導要領解説家庭編は絶対必要なテキストである。
-------------	--

書名	著者	出版社	ISBN	備考
新編 新しい技術・家庭 (家庭分野)	佐藤文子・金子佳代子他	東京書籍	9784487122820	646円
平成29年改訂小学校教育課程実践講座 家庭	岡 陽子・鈴木明子編著	ぎょうせい	9784324103104	1944円

参考書：自由記載	中学校の家庭科教科書「新編 新しい技術・家庭 家庭分野」は、受講者全員に購入させる必要はないが、採用試験を受験する人は購入して欲しい。採用試験には、中学校の内容からも出題されているからである。
----------	--

その他	
備考	
注意事項	
担当教員の業務経験の有無	無
担当教員の業務経験	
担当教員以外で指導に関わる業務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる業務経験者	
業務経験をいかした教育内容	

評価の基準 (ディプロマポリシー-学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 家庭科教育の意義と目標を理解している。	家庭科教育の意義と目標を正確に理解し述べるができる。	家庭科教育の意義と目的をほぼ理解し述べるができる。	家庭科教育の意義と目的を大体述べることができる。	家庭科教育の意義と目的を正確に述べることができるが、自分の言葉では表現できない。	家庭科教育の意義と目的をまったく理解できていない。
知識・理解	2. 小学校家庭科を指導するにあたって必要とされる衣食住や家庭生活及び家族、消費生活や環境に関する基礎的・基本的な知識を身につけている。	小学校家庭科を指導するにあたって必要とされる衣食住や家庭生活及び家族、消費生活や環境に関する基礎的・基本的な知識について正確に理解し述べるができる。	小学校家庭科を指導するにあたって必要とされる衣食住や家庭生活及び家族、消費生活や環境に関する基礎的・基本的な知識について正確ではないがほぼ理解し述べるができる。	小学校家庭科を指導するにあたって必要とされる衣食住や家庭生活及び家族、消費生活や環境に関する基礎的・基本的な知識について大体述べることができる。	小学校家庭科を指導するにあたって必要とされる衣食住や家庭生活及び家族、消費生活や環境に関する基礎的・基本的な知識について正確に述べることができるが、自分の言葉では表現できない。	小学校家庭科を指導するにあたって必要とされる衣食住や家庭生活及び家族、消費生活や環境に関する基礎的・基本的な知識についてまったく表現することができない。
思考・問題解決能力	1. 家庭科に関心をもち、学んだことを生活に生かし、自分の生き方や生活改善に役立てることについて考えたり、自分なりに工夫したりしている。	生活について見直し、身近な生活の課題を見付け、その解決を目指して多角的に考察をし工夫している。	生活について見直し、身近な生活の課題を見付け、その解決を目指して考察を加え工夫している。	生活について見直し、身近な生活の課題を見付け、自分の考えを述べることができる。	生活について見直し、身近な生活の課題を見付けることができる。	課題の提出をしていない。
技能	1. 小学校家庭科を指導するにあたって必要とされる衣食住や家庭生活及び家族、消費生活や環境に関する基礎的・基本的な技能を実習・実験等を通して身につけている。	小学校家庭科を指導するにあたって必要とされる衣食住や家庭生活及び家族、消費生活や環境に関する基礎的・基本的な技能を実習・実験等を通して大変よく身につけている。	小学校家庭科を指導するにあたって必要とされる衣食住や家庭生活及び家族、消費生活や環境に関する基礎的・基本的な技能を実習・実験等を通して身につけている。	小学校家庭科を指導するにあたって必要とされる衣食住や家庭生活及び家族、消費生活や環境に関する基礎的・基本的な技能を実習・実験等を通してある程度身につけている。	小学校家庭科を指導するにあたって必要とされる衣食住や家庭生活及び家族、消費生活や環境に関する基礎的・基本的な技能を実習・実験等を通して十分に身につけていない。	小学校家庭科を指導するにあたって必要とされる衣食住や家庭生活及び家族、消費生活や環境に関する基礎的・基本的な技能をまったく身につけていない。
技能	2. 布を用いた生活を豊かにする小物の製作に関する基礎的な技能身につけている。	生活を豊かにする布を用いた作品を正確にきれいに製作できる。	生活を豊かにする布を用いた作品を製作できる。	生活を豊かにする布を用いた作品を大体制作できている。	生活を豊かにする布を用いた作品を十分に製作できていない。	生活を豊かにする布を用いた作品をまったく製作できていない。
態度	1. 授業に意欲的に参加できる	質問など積極的にを行い、疑問を解決し、授業内容を理解した上で、適切なコメントシートを提出している。	授業に前向きに臨む姿勢が見受けられ、授業内容を理解した上で、コメントシートを提出している。	授業に出席し、授業内容を理解した上でコメントシートを提出している。	授業に出席し、コメントシートを提出しているが、理解が十分ではない。	授業に出席しているが、コメントシートの提出をしていない。

2024年度授業概要(シラバス)

科目名	英語			授業番号	CO212	サブタイトル	
教員	西田 寛子						
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	講義
授業概要	本講義の全体目標は、小学校における外国語活動・外国語の授業実践に必要な「英語運用力」と英語に関する「背景的な知識」を身に付けることである。まず、「英語運用力」を身に付けるために、毎回の講義のペアやグループワークで、言語活動を継続的に行う。その中で、授業実践に必要なClassroom English, Teacher Talk等も、授業場面を想定して練習する。また、講義内で行う言語活動については、小学校の授業での応用について考察する。次に、「背景的な知識」については、事前課題でテキストを読み、そのポイントレポートにまとめて、授業中のグループディスカッションで共有・質疑応答をする。そして、指導者による講義を聞き、理解を深める。さらに、小学校の授業への応用についてグループ討議・考察を行う。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ○英語に関する背景的な知識の修得 <ul style="list-style-type: none"> -英語に関する基本的な事柄（発音、語彙、文構造、文法、正書法等）について理解している。 -第二言語習得に関する基本的な事柄を理解している。 -児童文学（絵本、子供向けの歌や詩等）について理解している。 -異文化理解に関する事柄について理解している。 ○授業実践に必要な英語力の向上 <ul style="list-style-type: none"> -授業実践に必要な英語の4技能（聞く力、話す力（やり取り・発表）、読む力、書く力）を身に付けている。 <p>本科目は、ティプトマ・ポリシーに掲げた学力のうち「知識・理解」<技能><態度>の修得に貢献する。</p>						
授業計画 備考							
回	概要					担当	
第1回	<ul style="list-style-type: none"> ○イントロダクション <ul style="list-style-type: none"> -本講義の目的、内容、評価方法等について確認する。 -小学校英語教育の変遷を理解し、その成果と課題を考察する。 ○授業実践に必要な英語運用力の向上 <ul style="list-style-type: none"> -ペアやグループで言語活動をするときに、小学校の授業への応用について考察する。 						
第2回	<ul style="list-style-type: none"> ○英語運用力の向上 <ul style="list-style-type: none"> -授業実践に必要な「聞く力」を身に付けるための言語活動を行う。 -小学校の授業への応用についてグループ討議、考察する。 						
第3回	<ul style="list-style-type: none"> ○英語運用力の向上 <ul style="list-style-type: none"> -授業実践に必要な「話す力」を身に付けるための言語活動を行う。 -小学校の授業への応用についてグループ討議、考察する。 						
第4回	<ul style="list-style-type: none"> ○英語運用力の向上 <ul style="list-style-type: none"> -授業実践に必要な「読む力」を身に付けるための言語活動を行う。 -小学校の授業への応用についてグループ討議、考察する。 						
第5回	<ul style="list-style-type: none"> ○英語運用力の向上 <ul style="list-style-type: none"> -授業実践に必要な「書く力」を身に付けるための言語活動を行う。 -小学校の授業への応用についてグループ討議、考察する。 						
第6回	<ul style="list-style-type: none"> ○英語運用力の向上 <ul style="list-style-type: none"> -授業実践に必要な英語の「4技能」を身に付けるために、「領域統合型の言語活動」を行う。 -小学校の授業への応用についてグループ討議、考察する。 						
第7回	<ul style="list-style-type: none"> ○背景的な知識の修得 <ul style="list-style-type: none"> -英語の「発音」についての基本的な事柄を理解する。 -上記理解に基づき、小学校の授業への応用について討議・考察する。 ○英語運用力の向上 <ul style="list-style-type: none"> -授業実践に必要な「英語運用力」を身に付けるための言語活動を行う。 -これ以降の講義では、「背景的な知識の修得」と主活動とし、「英語運用力の向上」に係る活動は講義のウォームアップとして短時間で扱う。 						
第8回	<ul style="list-style-type: none"> ○背景的な知識の修得 <ul style="list-style-type: none"> -英語の「文構造・文法」についての基本的な事柄を理解する。 -上記理解に基づき、小学校の授業への応用について討議・考察する。 ○英語運用力の向上（ウォームアップとして実施） <ul style="list-style-type: none"> -授業実践に必要な「英語運用力」を身に付けるための言語活動を行う。 						
第9回	<ul style="list-style-type: none"> ○背景的な知識の修得 <ul style="list-style-type: none"> -英語の「語彙」についての基本的な事柄を理解する。 -上記理解に基づき、小学校の授業への応用について討議・考察する。 ○英語運用力の向上（ウォームアップとして実施） <ul style="list-style-type: none"> -授業実践に必要な「英語運用力」を身に付けるための言語活動を行う。 						
第10回	<ul style="list-style-type: none"> ○背景的な知識の修得 <ul style="list-style-type: none"> -英語の「正書法」についての基本的な事柄を理解する。 -上記理解に基づき、小学校の授業への応用について討議・考察する。 ○英語運用力の向上（ウォームアップとして実施） <ul style="list-style-type: none"> -授業実践に必要な「英語運用力」を身に付けるための言語活動を行う。 						
第11回	<ul style="list-style-type: none"> ○背景的な知識の修得 <ul style="list-style-type: none"> -第二言語習得に関する基本的な事柄を理解する。 -上記理解に基づき、小学校の授業への応用について討議・考察する。 ○英語運用力の向上（ウォームアップとして実施） <ul style="list-style-type: none"> -授業実践に必要な「英語運用力」を身に付けるための言語活動を行う。 						
第12回	<ul style="list-style-type: none"> ○背景的な知識の修得 <ul style="list-style-type: none"> -児童文学（絵本）について理解する。 -上記理解に基づき、絵本の選定、ペアで絵本の読み聞かせを行う。 ○英語運用力の向上（ウォームアップとして実施） <ul style="list-style-type: none"> -授業実践に必要な「英語運用力」を身に付けるための言語活動を行う。 						
第13回	<ul style="list-style-type: none"> ○背景的な知識の修得 <ul style="list-style-type: none"> -児童文学（子供向けの歌・詩）について理解する。 -上記理解に基づき、児童向けの歌を歌ったり、詩の朗読を行ったりする。 ○英語力の向上（ウォームアップとして実施） <ul style="list-style-type: none"> -授業実践に必要な「英語運用力」を身に付けるための言語活動を行う。 						
第14回	<ul style="list-style-type: none"> ○背景的な知識の修得 <ul style="list-style-type: none"> -異文化理解に関する基本的な事柄を理解する。 -上記理解に基づき、小学校の授業への応用について討議・考察する。 ○英語運用力の向上（ウォームアップとして実施） <ul style="list-style-type: none"> -授業実践に必要な「英語運用力」を身に付けるための言語活動を行う。 						
第15回	<ul style="list-style-type: none"> ○英語運用力の向上（ウォームアップとして実施） <ul style="list-style-type: none"> -授業実践に必要な「英語運用力」を身に付けるための言語活動を行う。 ○講義全体のまとめ・振り返り <ul style="list-style-type: none"> -講義全体を振り返って振り返し、今後の授業実践への応用について討議・考察する。 						
授業計画 備考2	* R6年度改定						
評価の方法							
種別		割合	評価基準・その他備考				
授業への取り組みの姿勢/態度		40	授業中の言語活動への取組やグループディスカッションでの発表等の意欲・態度ならびに自律的な学びの姿勢（予習・復習の状況）によって評価する。<態度>				
レポート		40	レポートに記述された学びの状況を評価する。<知識・理解> *レポートはコメントを記入して返却する。また、優れたレポートをモデル例として全体に示し、受講者の今後の学びのポイントを解説する。				
その他（英語運用力）		20	授業実践に必要な英語運用力について評価する。<技能>				

評価の方法：自由記載	
受講の心得	<ul style="list-style-type: none"> 授業中のペアやグループでの言語活動に意欲的に取り組むこと。 グループディスカッションでは、積極的に意見を述べたり、質問したりすること。
授業外学習	<ul style="list-style-type: none"> 事前にテキストを必ず読み、そのポイントや自分の意見をレポートにまとめて授業に臨むこと。 英語運用力向上のために、授業前後において、テキストの二次元バーコードで音声や動画を視聴して英語の発音を聞き、繰り返し声に出して練習すること。 テキストによる専門的な知識の修得については、小学校の授業への応用を考えレポートに記述すること。 以上の学習を、週4時間以上行うこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
小学校英語はじめる教科書(改訂版) 外国語科・外国語活動指導者養成のために -コア・カリキュラムに沿って-	小川隆夫・東仁美	mpi	978-4-89643-782-9	2,420円
Here We Go!5	小泉 仁 ほか	光村図書	978-4-8138-0076-7	354円
Here We Go!6	小泉 仁 ほか	光村図書	978-4-8138-0077-4	354円
Let's Tray!1	文部科学省	東京書籍	988-4-487-25870-3	255円
Let's Tray!2	文部科学省	東京書籍	978-4-487-25871-0	255円
小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 外国語活動・外国語編	文部科学省	開隆堂	978-4-304-05168-5	128円+税

使用テキスト：自由記載

・後期の「英語科教育法/児童英語演習Ⅱ」は、上記と同じテキストを使用するので、後期に改めて購入の必要はない。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の实務経験	公立中学校教諭・指導教諭(28年)、公立中高一貫教育校指導教諭(6年)、公立小学校指導教諭(公立中学校指導教諭との兼務：1年)、県教育委員会指導主事(4年)での実務経験を有する。			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	英語科教員・指導主事としての実務経験(38年)を生かし、小学校における外国語活動・外国語の授業実践に必要な英語運用力を育成するとともに、英語に関する背景知識の修得を図る。			

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学力)	評価の観点(到達目標に基づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 英語に関する背景知識の修得	小・中学校の接続も踏まえながら、小学校における外国語活動・外国語科の授業を担当するために必要な背景知識を十分かつ正確に身に付けている。	小・中学校の接続も踏まえながら、小学校における外国語活動・外国語科の授業を担当するために必要な背景知識を十分に身に付けている。	小学校における外国語活動・外国語科の授業を担当するために必要な背景知識を身に付けている。	小学校における外国語活動・外国語科の授業を担当するために必要な背景知識の修得についてやや不十分などがある。	小学校における外国語活動・外国語科の授業を担当するために必要な背景知識が身に付いていない。
技能	1. 授業実践に必要な英語運用力の修得	小学校における外国語活動・外国語科の授業を担当するために必要な実践的な英語運用力を、授業場面を意識しながら十分に付けている。	小学校における外国語活動・外国語科の授業を担当するために必要な実践的な英語運用力を、授業場面を意識しながら身に付けている。	小学校における外国語活動・外国語科の授業を担当するために必要な実践的な英語運用力を身に付けている。	小学校における外国語活動・外国語科の授業を担当するために必要な実践的な英語運用力についてやや不十分などがある。	小学校における外国語活動・外国語科の授業を担当するために必要な実践的な英語運用力が身に付いていない。
態度	1. 授業への貢献度	授業内容や関連する事柄に興味・関心を持ち、自分の考えを自主的に発言し、クラス全体の学びに常に貢献している。	授業内容や関連する事柄に興味・関心を持ち、自分の考えを自主的に発言し、クラス全体の学びに時々貢献している。	指名されれば、自分の考えを発言し、クラス全体の学びに時々貢献している。	指名されれば自分の考えを発言するが、クラス全体の学びに貢献するレベルには達していない。	指名されても自分なりの考えを発言できない。
態度	2. 自律的な学び(予習・復習)	自ら進んで予習・復習の範囲を越えて学習し、必要に応じてその内容を自分の言葉で説明できる。	予習・復習の範囲を学習し、その内容を十分に理解した上で、自分の言葉で説明できる。	予習・復習の範囲を学習し、その内容を十分に理解している。	予習・復習の範囲を学習するが、その内容が不十分である。	予習・復習の範囲の学習ができていない。

科目名	児童英語演習			授業番号	CO226	サブタイトル	
教員	西田 寛子						
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	演習
授業概要	授業実践に必要な英語教育の理論的側面を概観し、その理論の実践面への応用を目指す。そのため、小学校の授業観察・分析や受講生による模擬授業・ディスカッションを通して指導の改善を行う。また、幼児英語教育との接続の観点から、こども園での英語の模擬保育も実施する。将来学校現場において、理論に裏打ちされた実践力を備え、自律的に学び続ける/フレキシブルな教師となる基本を身に付ける。						
到達目標	<p>(全体目標) 小学校英語教育の実態・課題を踏まえて解決策を思考し、実践において解決しようとする態度・能力を身に付ける。</p> <p>(到達目標) ・小学校英語や子どもに関する学修内容について、授業実践に応用する具体策をわかりやすく説明できる。</p> <p>・現状の課題解決に向け、対象児童に適した模擬授業の立案、実践、省察、改善ができる。</p> <p>・授業内容や、関連する事柄に興味・関心をもち、自分の考えを自主的に発言し、クラス全体の学びに貢献できる。</p> <p>なお、本科目はディブイマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜思考・問題解決能力＞＜態度＞の修得に貢献する。</p>						
授業計画 備考							
回	概要					担当	
第1回	・イントロダクション：講座の目標、内容、評価方法を確認する。 ・実践に必要な理論を概観する。(小学校英語教育導入の背景・変遷、外国語活動・外国語科の目標、言語使用を通じた言語活動・音声によるインプット、異校(園)種との連携・接続等)						
第2回	・実践に必要な理論を概観する。(学習指導要領の内容とその具現化に向けて等)						
第3回	・実践に必要な理論を概観する。(目的や場面・状況を明確にした言語活動、学習評価、ALTとのTTTによる指導の在り方等) ・実践に向けての演習をする。(小学校英語の授業体験)						
第4回	・小学校英語の授業(映像資料)を観察・分析する。 ・指導の改善に向けたディスカッションを行い、改善案を考察する。						
第5回	・英語による保育(映像資料)を観察・分析する。 ・指導の改善に向けたディスカッションを行い、改善案を考察する。						
第6回	・学習指導案を作成する。						
第7回	・学習指導案の修正・改善を行う。						
第8回	・模擬授業の準備をする。(教材研究・作成、指導・評価の計画作成、授業練習)①						
第9回	・模擬授業の準備をする。(教材研究・作成、指導・評価の計画作成、授業練習)②						
第10回	・模擬授業・振り返り・指導の改善案作成を行う。①						
第11回	・模擬授業・振り返り・指導の改善案作成を行う。②						
第12回	・学外授業(小学校での授業実践)と省察を行う。						
第13回	・学外授業(こども園での英語保育実践)と省察を行う。						
第14回	・小学校・こども園での指導の省察を行い、指導の改善案を作成する。						
第15回	・講座全体の振り返りとまとめを行い、今後の改善案について討議する。						
授業計画 備考2	<p>* 学外授業については、受け入れ先の日程調整により、実施時期が前後する可能性がある。</p> <p>上記予定が変更になる場合は、Google ClassroomがG-mailで連絡する。</p> <p>* R6年度改定</p>						
評価の方法							
種別		割合	評価基準・その他備考				
授業への取り組みの姿勢/態度		60	授業への真摯度(ディスカッション等)、自律的な学び(予習・復習の状況)、実践的な取組への態度を評価する。＜態度＞				
レポート		40	小学校英語や子どもに関する学修内容についての考察や、指導・評価計画(学習指導案等)・省察の内容を評価する。＜思考・問題解決能力＞ * レポートはコメントを記入して返却するとともに、長いものをクラス全体に紹介する。				

評価の方法：自由記載	
受講の心得	学外授業では、児童・園児に対して思いやりをもって接し、授業参観・授業参加では、教師を目指している学生としての自覚のもと、活動に責任をもつこと。
授業外学修	授業に向けて、指導・評価計画作成や教室英語の練習等の自己研鑽を30時間以上積むこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
Here We Go! 5	小泉 仁 ほか	光村図書	978-4-8138-0076-7	354円
Here We Go! 6	小泉 仁 ほか	光村図書	978-4-8138-0077-4	354円
Let's Try 1	文部科学省	東京書籍	978-4-487-25870-3	255円
Let's Try 2	文部科学省	東京書籍	978-4-487-25871-0	255円
小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 外国語活動・外国語編	文部科学省	開隆堂	978-4-304-05168-5	128円＋税

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
小学校英語はじめる教科書（改訂版）外国語科・外国語活動指導者養成のためにーコア・カリキュラムに沿ってー	小川隆夫・東仁美	mpi	978-4-89643-782-9	2,420円

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の实務経験	公立中学校教諭・指導教諭（28年）、公立中高一貫教育校指導教諭（6年）、公立小学校指導教諭（公立中学校指導教諭との兼務：1年）、県教育委員会指導主事（4年）での実務経験を有する。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	英語科教員・指導主事としての実務経験（38年）を活かし、小学校・乳幼児教育施設の英語教育に関わる指導者に求められる英語運用力ならびに指導実践力を育成する。

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
思考・問題解決能力	1. 小学校英語や子どもに関する学修内容についての考察	小学校英語や子どもに関する学修内容について、授業実践に応用する具体案や、現状における課題の解決策を考察し、自分の言葉でわかりやすく説明できる。	小学校英語や子どもに関する学修内容について、授業実践に応用する具体案を考察し、自分の言葉でわかりやすく説明できる。	小学校英語や子どもに関する学修内容について、自分の言葉でわかりやすく説明できる。	小学校英語や子どもに関する学修内容について説明できる。	小学校英語や子どもに関する学修内容について、説明できない。
思考・問題解決能力	2. 課題解決に向けた指導技能	現状の課題解決に向け、対象児童に適した模擬授業を計画し、十分に実施できる。	現状の課題解決に向け、対象児童に適した模擬授業を計画し、一定程度実施できる。	現状の課題解決に向けて模擬授業を計画し、一定程度実施できる。	現状の課題解決に向けて模擬授業を計画したが、対象児童に適した指導内容になっていない。	現状の課題解決に向けて模擬授業を計画したり、実施したりできない。
態度	1. 授業への貢献度	授業内容や関連する事柄に興味・関心を持ち、自分の考えを自主的に発言し、クラス全体の学びに常に貢献している。	授業内容や関連する事柄に興味・関心を持ち、自分の考えを自主的に発言し、クラス全体の学びに時々貢献している。	指名されれば、自分の考えを発言し、クラス全体の学びに時々貢献している。	指名されれば自分の考えを発言するが、クラス全体の学びに貢献するレベルには達していない。	指名されても自分なりの考えを発言できない。

科目名	基礎音楽B 2期			授業番号	CO30802	サブタイトル	
教員	廣畑 まゆ美、川崎 泰子、土師 範子、河田 健二						
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	演習
必修・選択				必修・選択	必修・選択		
授業概要	子どもの発達と表現を理解し、音楽に関する知識や技能をピアノで習得することを目的とする。豊かな感性を表現するピアノ基礎技法を学び、保育現場において使用する童謡、子どもの歌等のレパートリーを広げる。練習することを習慣化することにより、確実な技能習得を目指す。授業は習熟度別に個人指導を行う。						
到達目標	コード進行の基礎知識を学び、構成伴奏及び簡易伴奏の演奏ができる。練習を習慣化し、レパートリー10曲を目標とする。 なお、本科目はデプロイ前に掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <技能> <態度>の修得に貢献する。						
授業計画 備考							
回	概要					担当	
第1回	子どもの成長と子どもを取りまく音楽について…発展的な学修に向けた準備					廣畑 まゆ美、川崎 泰子、土師 範子、河田 健二	
第2回	各人の目標とする楽曲を選曲し、ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 1 応用的な楽典の知識を習得する 1					廣畑 まゆ美、川崎 泰子、土師 範子、河田 健二	
第3回	各人の目標とする楽曲を選曲し、ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 2 応用的な楽典の知識を習得する 2					廣畑 まゆ美、川崎 泰子、土師 範子、河田 健二	
第4回	各人の目標とする楽曲を選曲し、ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 3 応用的な楽典の知識を習得する 3					廣畑 まゆ美、川崎 泰子、土師 範子、河田 健二	
第5回	表現法とまとめ 1					廣畑 まゆ美、川崎 泰子、土師 範子、河田 健二	
第6回	各人の目標とする楽曲を選曲し、ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 4 応用的な楽典の知識を習得する 4					廣畑 まゆ美、川崎 泰子、土師 範子、河田 健二	
第7回	各人の目標とする楽曲を選曲し、ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 5 応用的な楽典の知識を習得する 5					廣畑 まゆ美、川崎 泰子、土師 範子、河田 健二	
第8回	表現法とまとめ 2					廣畑 まゆ美、川崎 泰子、土師 範子、河田 健二	
第9回	各人の目標とする楽曲を選曲し、ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 6 応用的な楽典の知識を習得する 6					廣畑 まゆ美、川崎 泰子、土師 範子、河田 健二	
第10回	各人の目標とする楽曲を選曲し、ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 7 応用的な楽典の知識を習得する 7					廣畑 まゆ美、川崎 泰子、土師 範子、河田 健二	
第11回	各人の目標とする楽曲を選曲し、ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 8 応用的な楽典の知識を習得する 8					廣畑 まゆ美、川崎 泰子、土師 範子、河田 健二	
第12回	表現法とまとめ 3					廣畑 まゆ美、川崎 泰子、土師 範子、河田 健二	
第13回	各人の目標とする楽曲を選曲し、ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 9 応用的な楽典の知識を習得する 9					廣畑 まゆ美、川崎 泰子、土師 範子、河田 健二	
第14回	各人の目標とする楽曲を選曲し、ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 10 応用的な楽典の知識を習得する 10					廣畑 まゆ美、川崎 泰子、土師 範子、河田 健二	
第15回	表現法とまとめ 4 楽典					廣畑 まゆ美、川崎 泰子、土師 範子、河田 健二	
授業計画 備考2							
評価の方法							
種別	割合	評価基準・その態備考					
授業への取り組みの姿勢/態度	10	意欲的な受講態度、予習及び復習の状況によって評価する。					
レポート							
小テスト	90	実技やペーパーテストにより、学習プロセスを含めた練習成果を定期的に評価する。小テスト実践後は、指導教員から講評を行う。					
定期試験							
その他							

評価の方法：自由記載	
受講の心得	実技における技術習得のためには毎日の練習が不可欠である。授業で習得した技術が次の授業で表現・発揮できるよう努力すること。 担当教員から指導された内容は、次回授業までに工夫・改善できるよう、適宜メモをとること。
授業外学習	授業で提示される次の内容について、予習すること。 授業で提示された課題を実施すること。 授業終了後は、各自復習を行うこと。 上記の内容を、適当に1時間以上学習すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
いろいろな伴奏で弾ける連曲ごどものた100 (保育実用書シリーズ)	小林実実	チャイルド社	978-4805481868	1600
大人のための音楽ワーク テキスト		ヤマハミュージックエンタテイメントホールディングス	978-4636801552	1100
大人のための音楽ワーク ドリル		ヤマハミュージックエンタテイメントホールディングス	978-4636801552	1100

使用テキスト：自由記載

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
続ごどものた200	小林実実	チャイルド社	978-4805400029	1800

参考書：自由記載

その他	
備考	
注意事項	
担当教員の業務経験の有無	無
担当教員の業務経験	
担当教員以外で指導に関わる業務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる業務経験者	
業務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. 楽典の知識	音楽の専門的知識を十分理解し、説明することができる。	音楽の専門的知識を理解し、説明することができる。	音楽の専門的知識をおおむね理解している。	音楽の専門的知識を十分に理解できておらず、間違いつか見られる。	音楽の専門的知識をほとんど理解していない。
思考・問題解決能力	1. 知識の実技への応用	音楽の専門的知識を十分に理解し、譜面を見て自分なりの演奏表現を考えようとして工夫し、実践できる。	音楽の専門的知識を理解し、譜面を見て自分なりの演奏表現を考えようとして工夫し、実践できる。	音楽の専門的知識をおおむね理解し、教員の指示を聞いて、自分なりの演奏表現を工夫し、実践しようとしている。	音楽の専門的知識を十分に理解できていないが、教員の指示を聞き、実践しようとしている。	音楽の専門的知識をほとんど理解できておらず、教員の指示があっても、実践できない。
技能	1. 弾き歌いの実践	楽曲にふさわしいテンポ・伴奏法で、流れをよめることなく演奏することができるとともに、よく響く声で旋律を歌うことができる。	楽曲にふさわしいテンポ・伴奏法で演奏することができるとともに、よく響く声で旋律を歌うことができる。	自分の技能に合わせたテンポ・伴奏法で演奏することができているが、旋律を歌う声がかたたり、時々ミスが生じる。	旋律を歌う声がかたたり、演奏の流れがとまってしまうミスが時々生じる。	旋律を歌う声がかたたり、演奏の流れがとまるとミスが多々生じる。
技能	2. 表現	楽譜に書かれた強弱記号や発想記号を理解し、曲全体のイメージを構築し、考えたことを演奏に生かすことができる。	楽譜に書かれた強弱記号や発想記号を理解し、曲全体のイメージを構築し、考えたことを演奏に生かすことができる。	楽譜に書かれた強弱記号や発想記号をおおむね理解し、書かれてあることを演奏に生かそうとしている。	楽譜に書かれた強弱記号や発想記号を十分に理解できていないが、指摘すれば意識を向けることができる。	楽譜に書かれた強弱記号や発想記号をほとんど理解できておらず、指摘しても意識することができない。
技能	3. 伴奏法	ほとんどの楽曲を本格伴奏で演奏できる。コード楽法を理解し、状況に応じて伴奏をアレンジすることができる。	ほとんどの楽曲を本格伴奏で演奏できる。コード楽法を理解し、使用できる。	自分の技能に合わせた伴奏法で演奏できる。コード楽法は使用できるが、理解が十分ではない。	自分の技能に合わせた伴奏法で演奏するが、十分ではない。	伴奏をつけて演奏できない。
技能	4. レパートリー数	半期で12曲以上のレパートリーを完成させている。	半期で10曲以上のレパートリーを完成させている。	半期で8曲以上のレパートリーを完成させている。	半期で6曲以上のレパートリーを完成させている。	半期でレパートリーが6曲以下である。
態度	1. 演奏に向かう態度	予習復習を十分に行って授業に参加している。演奏時は、ステージマナーを十分理解し、基本的な礼儀作法をわきまえている。	予習復習を行って授業に参加している。演奏時は、ステージマナーを十分理解し、基本的な礼儀作法をわきまえている。	復習を行って授業に参加している。演奏時、ステージマナーをおおむね理解しているが、いくつか不十分な点が見られる。改善しようとする姿が見られる。	復習を行っているが不十分な状態で授業に参加している。演奏時、ステージマナーをおおむね理解しておらず、いくつか不十分な点が見られる。改善しようとする姿が見られる。	復習を行って不十分な状態で授業に参加している。演奏時、ステージマナーをほとんど理解しておらず、不十分な点が多々見られる。改善しようとする姿がない。

科目名	基礎音楽B 3限			授業番号	CO30803	サブタイトル	
教員	廣畑 まゆ美、川崎 泰子、土師 範子、河田 健二						
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	演習
必修・選択				必修・選択	必修・選択		
選択							
授業概要	子どもの発達と表現を理解し、音楽に関する知識や技能をピアノで習得することを目的とする。豊かな感性を表現するピアノ基礎技法を学び、保育現場において使用する童謡、子どもの歌等のレパートリーを広げる。練習することを習慣化することにより、確実な技能習得を目指す。授業は習熟度別に個人指導を行う。						
到達目標	コード進行の基礎知識を学び、構成伴奏及び簡易伴奏の演奏ができる。練習を習慣化し、レパートリー10曲を目標とする。 なお、本科目はデプロイ前に掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。						
授業計画 備考							
回	概要					担当	
第1回	子どもの成長と子どもを取りまく音楽について…発展的な学修に向けた準備					廣畑 まゆ美、川崎 泰子、土師 範子、河田 健二	
第2回	各人の目標とする楽曲を選曲し、ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 1 応用的な楽典の知識を習得する 1					廣畑 まゆ美、川崎 泰子、土師 範子、河田 健二	
第3回	各人の目標とする楽曲を選曲し、ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 2 応用的な楽典の知識を習得する 2					廣畑 まゆ美、川崎 泰子、土師 範子、河田 健二	
第4回	各人の目標とする楽曲を選曲し、ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 3 応用的な楽典の知識を習得する 3					廣畑 まゆ美、川崎 泰子、土師 範子、河田 健二	
第5回	表現法とまとめ 1					廣畑 まゆ美、川崎 泰子、土師 範子、河田 健二	
第6回	各人の目標とする楽曲を選曲し、ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 4 応用的な楽典の知識を習得する 4					廣畑 まゆ美、川崎 泰子、土師 範子、河田 健二	
第7回	各人の目標とする楽曲を選曲し、ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 5 応用的な楽典の知識を習得する 5					廣畑 まゆ美、川崎 泰子、土師 範子、河田 健二	
第8回	表現法とまとめ 2					廣畑 まゆ美、川崎 泰子、土師 範子、河田 健二	
第9回	各人の目標とする楽曲を選曲し、ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 6 応用的な楽典の知識を習得する 6					廣畑 まゆ美、川崎 泰子、土師 範子、河田 健二	
第10回	各人の目標とする楽曲を選曲し、ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 7 応用的な楽典の知識を習得する 7					廣畑 まゆ美、川崎 泰子、土師 範子、河田 健二	
第11回	各人の目標とする楽曲を選曲し、ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 8 応用的な楽典の知識を習得する 8					廣畑 まゆ美、川崎 泰子、土師 範子、河田 健二	
第12回	表現法とまとめ 3					廣畑 まゆ美、川崎 泰子、土師 範子、河田 健二	
第13回	各人の目標とする楽曲を選曲し、ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 9 応用的な楽典の知識を習得する 9					廣畑 まゆ美、川崎 泰子、土師 範子、河田 健二	
第14回	各人の目標とする楽曲を選曲し、ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 10 応用的な楽典の知識を習得する 10					廣畑 まゆ美、川崎 泰子、土師 範子、河田 健二	
第15回	表現法とまとめ 4 楽典					廣畑 まゆ美、川崎 泰子、土師 範子、河田 健二	
授業計画 備考2							
評価の方法							
種別	割合	評価基準・その態備考					
授業への取り組みの姿勢/態度	10	意欲的な受講態度、予習及び復習の状況によって評価する。					
レポート							
小テスト	90	実技やペーパーテストにより、学習プロセスを含めた練習成果を定期的に評価する。小テスト実践後は、指導教員から講評を行う。					
定期試験							
その他							

評価の方法：自由記載	
受講の心得	実技における技術習得のためには毎日の練習が不可欠である。授業で習得した技術が次の授業で表現・発揮できるよう努力すること。 担当教員から指導された内容は、次回授業までに工夫・改善できるよう、適宜メモをとること。
授業外学習	授業で提示される次の内容について、予習すること。 授業で提示された課題を実施すること。 授業終了後は、各自復習を行うこと。 上記の内容を、適当に1時間以上学習すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
いろいろな伴奏で弾ける連曲ごどものた100 (保育実用書シリーズ)	小林実実	チャイルド社	978-4805481868	1600
大人のための音楽ワーク テキスト		ヤマハミュージックエンタテイメントホールディングス	978-4636801552	1100
大人のための音楽ワーク ドリル		ヤマハミュージックエンタテイメントホールディングス	978-4636801552	1100

使用テキスト：自由記載

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
続ごどものた200	小林実実	チャイルド社	978-4805400029	1800

参考書：自由記載

その他	
備考	
注意事項	
担当教員の業務経験の有無	無
担当教員の業務経験	
担当教員以外で指導に関わる業務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる業務経験者	
業務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー-学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. 楽典の知識	音楽の専門的知識を十分理解し、説明することができる。	音楽の専門的知識を理解し、説明することができる。	音楽の専門的知識をおおむね理解している。	音楽の専門的知識を十分に理解できておらず、間違いつか見られる。	音楽の専門的知識をほとんど理解していない。
思考・問題解決能力	1. 知識の実技への応用	音楽の専門的知識を十分に理解し、譜面を見て自分なりの演奏表現を考えようとして工夫し、実践できる。	音楽の専門的知識を理解し、譜面を見て自分なりの演奏表現を考えようとして工夫し、実践できる。	音楽の専門的知識をおおむね理解し、教員の指示を聞いて、自分なりの演奏表現を工夫し、実践しようとしている。	音楽の専門的知識を十分に理解できていないが、教員の指示を聞き、実践しようとしている。	音楽の専門的知識をほとんど理解できておらず、教員の指示があっても、実践できない。
技能	1. 弾き歌いの実践	楽曲にふさわしいテンポ・伴奏法で、流れをよめることなく演奏することができるとともに、よく響く声で旋律を歌うことができる。	楽曲にふさわしいテンポ・伴奏法で演奏することができるとともに、よく響く声で旋律を歌うことができる。	自分の技能に合わせたテンポ・伴奏法で演奏することができているが、旋律を歌う声がかたたり、時々ミスが生じる。	旋律を歌う声がかたたり、演奏の流れがとまってしまうミスが時々生じる。	旋律を歌う声がかたたり、演奏の流れがとまるミスが多々生じる。
技能	2. 表現	楽譜に書かれた強弱記号や発想記号を理解し、曲全体のイメージを構築し、考えたことを演奏に生かすことができる。	楽譜に書かれた強弱記号や発想記号を理解し、曲全体のイメージを構築し、考えたことを演奏に生かすことができる。	楽譜に書かれた強弱記号や発想記号をおおむね理解し、書かれてあることを演奏に生かそうとしている。	楽譜に書かれた強弱記号や発想記号を十分に理解できていないが、指摘すれば意識を向けることができる。	楽譜に書かれた強弱記号や発想記号をほとんど理解できておらず、指摘しても意識することができない。
技能	3. 伴奏法	ほとんどの楽曲を本格伴奏で演奏できる。コード楽法を理解し、状況に応じて伴奏をアレンジすることができる。	ほとんどの楽曲を本格伴奏で演奏できる。コード楽法を理解し、使用できる。	自分の技能に合わせた伴奏法で演奏できる。コード楽法は使用できるが、理解が十分ではない。	自分の技能に合わせた伴奏法で演奏するが、十分ではない。	伴奏をつけて演奏できない。
技能	4. レパートリー数	半期で12曲以上のレパートリーを完成させている。	半期で10曲以上のレパートリーを完成させている。	半期で8曲以上のレパートリーを完成させている。	半期で6曲以上のレパートリーを完成させている。	半期でレパートリーが6曲以下である。
態度	1. 演奏に向かう態度	予習復習を十分に行って授業に参加している。演奏時は、ステージマナーを十分理解し、基本的な礼儀作法をわきまえている。	予習復習を行って授業に参加している。演奏時は、ステージマナーを十分理解し、基本的な礼儀作法をわきまえている。	復習を行って授業に参加している。演奏時、ステージマナーをおおむね理解しているが、いくつか不十分な点が見られる。改善しようとする姿が見られる。	復習を行っているが不十分な状態で授業に参加している。演奏時、ステージマナーをあまり理解しておらず、いくつか不十分な点が見られる。改善しようとする姿が見られる。	復習を行って不十分な状態で授業に参加している。演奏時、ステージマナーをほとんど理解しておらず、不十分な点が多々見られる。改善しようとする姿がない。

科目名	国語科教育法		授業番号	CO313	サブタイトル				
教員	太田 憲孝								
単位数	2単位	開講年次	が1キヨウムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	教科書に記載されている「読むこと」「書くこと」「話すこと・聞くこと」等の教材分析を具体的に、それぞれの教材の特質及び指導内容を理解するとともに、それをもとに学習指導案を作成し、模擬授業をするという一連の経験を通して、授業力の基礎を身に付ける。								
到達目標	教科書に記載されている「読むこと」「書くこと」「話すこと・聞くこと」等の教材を具体的に分析し、理解した教材の特質及び指導内容をもとに学習指導案を作成することができるようにする。このことにより、教材を分析する力、単元構想力や単位時間の学習指導案を作成する力を身に付ける。さらに、模擬授業を通して、学習過程に沿って授業を展開する力や学習者に対応する力等の基礎を身に付けることができるようにする。								
授業計画 備考									
回	概要					担当			
第1回	授業を支える要素 「授業を支える3要素について知り、授業を構成する教師、教材、子どもの関係を理解する。」								
第2回	基本的な学習過程 「基本的な学習過程について知り、学習過程を構成する導入、展開、終末の役割やつながりを理解する。」								
第3回	学びの深まりと教師の支援 「授業記録を分析し、児童の学びの深まりと教師の支援との関係を理解する。」								
第4回	説明的文章の教材研究（1） 「教科書に掲載されている説明的文章について教材分析を行い、教材の特質について理解する。」								
第5回	説明的文章の教材研究（2） 「模擬授業を行う段階の文章を分析し、指導内容及び本時の学習の流れを構想する。」								
第6回	説明的文章の模擬授業 「実際に模擬授業を行い、学習過程や教師の支援等について授業の基本を理解する。」								
第7回	「話すこと・聞くこと」の教材研究（1） 「教科書に掲載されているインタビュー教材について教材分析を行い、教材の特質について理解する。」								
第8回	「話すこと・聞くこと」の教材研究（2） 「模擬授業を行う学習場面について分析し、指導内容及び本時の学習の流れを構想する。」								
第9回	「話すこと・聞くこと」の模擬授業 「実際に模擬授業を行い、学習過程や教師の支援等について授業の基本を理解する。」								
第10回	物語の教材研究（1） 「教科書に掲載されている物語について教材分析を行い、教材の特質について理解する。」								
第11回	物語の教材研究（2） 「模擬授業を行う学習場面について分析し、指導内容及び本時の学習の流れを構想する。」								
第12回	物語の模擬授業 「実際に模擬授業を行い、学習過程や教師の支援等について授業の基本を理解する。」								
第13回	「言葉の特徴」の教材研究（1） 「教科書に掲載されている「漢字の組み立て」について教材分析を行い、教材の特質について理解する。」								
第14回	「言葉の特徴」の教材研究（2） 「模擬授業を行う学習場面について分析し、指導内容及び本時の学習の流れ等について構想する。」								
第15回	「漢字の組み立て」の模擬授業 「実際に模擬授業を行い、学習過程や教師の支援等について授業の基本を理解する。」								
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢/態度	30	学習課題の提出、模擬授業への積極的な参加・協力等を評価する。						
	レポート	30	授業ごとの学習内容の定着度を評価する。提出されたレポートにコメントを記載して返却し、理解の深まりを確認できるようにする。						
	小テスト								
	定期試験	40	最終的な学習内容の定着度を評価する						
	その他								

評価の方法：自由記載	グループによる教材分析や授業構想、模擬授業等に積極的に参加する姿勢を評価する。これが、授業力及び教師力の向上と深く関係する。
受講の心得	グループの学生と協力して、教材分析、授業の構想、授業準備、模擬授業に積極的に取り組むこと。 教材を繰り返し読み込み、教材の特質を理解するように努めること。 模擬授業を1回は行うこと。
授業外学習	1. 事前に配布された資料や指定された教材などしっかり読み込み、授業に臨むこと。 2. 予習課題は、資料もしっかり読み込み、丁寧に仕上げ必ず提出すること。 3. 模擬授業のホールサルや準備に積極的に参加すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の業務経験の有無	有			
担当教員の業務経験				
担当教員以外で指導に関わる業務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる業務経験者				
業務経験をいかした教育内容	教材研究、学習指導案の作成、模擬授業の実施			

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分レベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. 教材研究の方法を理解している。	・学習指導要領の指導事項を踏まえ、教材の特性や教材を分析する方法を深く理解している。	・教材の特性や教材を分析する方法を深く理解している。	・教材の特性や教材を分析する方法を理解している。	・教材の特性理解が弱く、教材分析の方法理解も乏しい。	・教材の特性理解及び教材分析の方法理解も不十分である。
知識・理解	2. 学習指導案の書き方を理解している。	・単元及び本時案の構想、学習過程の意味、学習活動と教師の支援の関係等を踏まえた学習指導案の書き方を十分理解している。	・学習過程の意味を深く理解し、学習活動と教師の支援の関係に留意した学習指導案の書き方を十分理解している。	・学習過程の意味を理解し、学習活動と教師の支援の関係に留意した学習指導案の書き方を理解している。	・学習過程の意味、学習活動と教師の支援の関係等の理解が不十分であり、学習指導案の作成に課題がある。	・学習指導案作成に関係する様々な要素の理解が不十分であり、学習指導案を作成する段階に至っていない。
知識・理解	3. 授業の進め方を理解している。	・作成した学習指導案の流れに沿って、発問や補助教材、学習形態等を工夫し、児童の立場に立った効果的な授業の進め方を十分理解している。	・作成した学習指導案の流れに沿って、発問や補助教材、学習形態等を工夫し、児童の立場に立った授業の進め方を理解している。	・作成した学習指導案の流れに沿って、発問や補助教材、学習形態等を工夫して位置づけた授業の進め方を理解している。	・作成した学習指導案の流れに沿って、発問や補助教材、学習形態等を工夫して位置づけた授業の進め方が、教材研究や支援の工夫に自分らしい追究の姿勢が見られない。	・学習指導案の作成と授業の進め方理解につながるが、教材研究や支援の工夫に自分らしい追究の姿勢が見られない。
思考・問題解決能力	1. 発問や補助資料を工夫して学習指導案を作成し、模擬授業に取り組んでいる。	・深い教材研究をもとに、発問や補助教材等を工夫して学習指導案を作成し、課題意識を持って模擬授業に取り組んでいる。	・深い教材研究をもとに、発問や補助教材等を工夫して学習指導案を作成し、自分の考えを持って模擬授業に取り組んでいる。	・教材研究をもとに、発問や補助教材、学習形態等を工夫した学習指導案を作成し、時間配分に留意しながら模擬授業に取り組んでいる。	・時間配分に留意し模擬授業に取り組んでいるが、教材研究や支援の工夫に自分らしい追究の姿勢が見られない。	・学習指導案の作成、模擬授業への取り組みに、自分らしい追究の姿勢が見られない。
思考・問題解決能力	2. 学習過程の意味を理解し、模擬授業の展開を工夫している。	・学習活動や教師の支援を適切に工夫し、分かり易く、深まりのある模擬授業を展開している。	・学習活動や教師の支援を工夫し、分かり易く、深まりのある模擬授業を展開している。	・学習活動や教師の支援を工夫し、分かり易い模擬授業を展開している。	・教師の支援に工夫が乏しく、学習者にとって学習の流れが捉えにくい状況で模擬授業を展開している。	・学習指導案への記述を十分理解していないまま模擬授業を展開している。
技能	1. 教材の特性を見抜き、学習者の立場に立った学習指導案（単元構想及び本時案）を作成している。	・中心教材を深く分析するとともに、学習指導要領も参照し、単元及び本時の目標を明確にした学習者の立場に立った学習指導案を作成している。	・中心教材を分析するとともに、学習指導要領も参照し、単元及び本時の目標が明確な、学習者にとって分かり易い学習指導案を作成している。	・中心教材を分析するとともに、学習指導要領も参照し、本時の目標が明確な、学習者にとって分かり易い学習指導案を作成している。	・中心教材の分析が弱く、学習活動と教師の支援の関係等が不明確なまま学習指導案を作成している。	・中心教材の分析が弱く、学習過程の意味も理解されないまま、学習指導案を作成している。
技能	2. 学習者のめあて解決の流れに沿って、適切に教師の支援を工夫し、模擬授業を展開している。	・学習者のめあて解決の流れを十分に捉え、適切に支援を工夫しながら、模擬授業を展開している。	・学習者のめあて解決の流れを十分に捉え、支援を工夫しながら、模擬授業を展開している。	・学習者のめあて解決の流れを捉え、支援を工夫しながら、模擬授業を展開している。	・学習者のめあて解決の流れに対する意識が弱いまま、学習指導案に沿って模擬授業を展開している。	・学習者のめあて解決の流れを意識することなく、学習指導案に沿って模擬授業を展開している。
態度	1. 教材分析→授業実践→授業反省というサイクルを意識し、教材分析力及び基礎的授業力の向上を図ろうとする。	・教材分析→授業実践→授業反省というサイクルを十分意識し、積極的に教材分析力及び基礎的授業力の向上に努めている。	・教材分析→授業実践→授業反省というサイクルを大切に、教材分析力及び基礎的授業力の向上に努めている。	・教材分析→授業実践→授業反省というサイクルをもとに、教材分析力及び基礎的授業力の向上に努めている。	・模擬授業について省察する力が乏しく、基礎的授業力及び教材分析力の向上が達成されにくい。	・模擬授業の工夫、模擬授業について省察する力が乏しく、基礎的授業力の向上が達成されにくい。

2024年度授業概要(シラバス)

科目名	社会科教育法		授業番号	CO314	サブタイトル	
教員	山田 暁紗					
単位数	2単位	開講年次	初年次	開講期	前期	授業形態
		別プログラムにより異なります。				講義
必修・選択	必修					
選択						
授業概要	小学校社会科は、社会生活（私たちの日々の生活）を広い視野からとらえ総合的に理解することをおとし、市民としての資質（公民的資質）の基礎を養うことを教科の目標としている。小学校学習指導要領に規定されている社会科教育の目標・内容や指導法及び学習指導案の作成について、模擬授業をおして基礎的な理解を深め、指導技術を身につけさせる。					
到達目標	小学校社会科の目標・内容・指導法及び学習指導案の作成について理解し、授業展開に関する基礎的な知識と技能を身に付ける。 なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、(知識・理解)の修得に貢献する。					
授業計画 備考						
回	概要			担当		
第1回	小学校社会科の意義と役割					
第2回	小学校社会科の目標と内容（小学校学習指導要領 社会）					
第3回	第3学年及び第4学年の目標と内容（地域の社会的事象）					
第4回	第5学年の目標と内容（我が国の産業や国土）					
第5回	第6学年の目標と内容（我が国の歴史、政治、国際理解）					
第6回	問題解決的な学習過程					
第7回	社会科の評価の観点と評価規準					
第8回	小学校社会科学習指導案の作成					
第9回	社会科の多様な学習活動					
第10回	模擬授業					
第11回	模擬授業					
第12回	模擬授業					
第13回	模擬授業					
第14回	模擬授業					
第15回	社会科学習指導法の課題とまとめ					
授業計画 備考2						
評価の方法						
種別	割合	評価基準・その他備考				
授業への取り組みの姿勢/態度	20	意欲的な授業への参加態度、グループワーク等の参加状況等を毎回のミニレポートで評価する。ミニレポートは毎回コメントをつけて返却する				
レポート	30	社会科教育に関わる理論を理解できているか、それを科学的な根拠に基づき評価する。レポートについてはコメントをつけて返却する。				
小テスト						
定期試験	50	最終的な理解度を評価する。				
その他						

評価の方法：自由記載	
受講の心得	「なぜ社会科を学ぶのか」「なぜ学校教育に社会科が必要か」という問いをもって毎時間の授業に臨むこと
授業外学習	1. 予習として、課題に必ず取り組むこと。(各自が取り組んだ課題をもとにグループワークを行う) 2. 復習として、課題のしゅを置く。 3. 発展学習として、社会科授業の指導案を読んだり自分で指導案を作成したりすることが望ましい。 以上の内容を、適当に4時間以上学習すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
小学校学習指導要領解説 社会編	文部科学省	東洋館出版社	4491031606	
小学社会3, 4年上		日本文教出版		
小学社会5年上		日本文教出版		
小学社会6年上		日本文教出版		

使用テキスト：自由記載

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー-学力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. 学習指導要領の目標・内容・方法を理解できている。	学習指導要領の目標・内容・方法を理解できている。	学習指導要領の目標・内容・方法をほぼ理解できている。	学習指導要領の目標・内容・方法の基本的な内容を理解できている。	学習指導要領の目標・内容・方法を一部しか理解できていない。	学習指導要領の目標・内容・方法をほぼ理解できていない。
知識・理解	2. 指導案を作成するための知識を身につけている。	指導案を作成するための知識を身につけている。	指導案を作成するための知識をほぼ身につけている。	指導案を作成するための知識を簡単に身につけている。	指導案を作成するための知識を一部しか身につけられていない。	指導案を作成するための知識をほぼ身につけていない。

2024年度授業概要(シラバス)

科目名	算数科教育法		授業番号	CO315	サブタイトル				
教員	森寺 勝之								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	算数科の学習指導に関して小学校教員として必要な基礎的な能力を育成するために、小学校算数科の目標や指導内容、教材研究や指導計画、学習評価・学習指導法等について実践的に学習していく。								
到達目標	1) 算数科の指導方法や目標、内容、評価等に関する基礎的な事項を理解する。 2) 算数科の教材研究や学習指導案の作成等について知り、授業実践に活かすこととする。 3) 算数科に関する現場の実態及び学習指導案についての考えを深める。 なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学上力の内容のうち、<知識・理解> <思考・問題解決能力> <技能>の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
回	概要					担当			
第1回	算数教育の意義、目標、内容、略案の書き方								
第2回	算数指導の心構え、教材研究、模擬授業（1）								
第3回	準備物、時間の使い方、机間指導、効果的な発問、模擬授業（2）								
第4回	板書の仕方、発表、習熟、模擬授業（3）								
第5回	学習指導案の書き方、模擬授業（4）								
第6回	ノート指導、家庭学習、模擬授業（5）								
第7回	指導と評価の一体化、模擬授業（6）								
第8回	授業改革の二大論点について、模擬授業（7）								
第9回	教材・教員の準備と作成、ICTの活用、模擬授業（8）								
第10回	数学的活動、数学的な見方・考え方、模擬授業（9）								
第11回	授業実践力・授業評価力、授業を支える基礎技術、模擬授業（10）								
第12回	授業改革の二大論点についての授業と協議（1）								
第13回	授業改革の二大論点についての授業と協議（2）								
第14回	授業改革の二大論点についての授業と協議（3）								
第15回	授業改革の二大論点についての授業と協議（4）								
授業計画 備考2									
評価の方法									
種別	割合	評価基準・その他備考							
授業への取り組みの姿勢/態度	20	意欲的な受講態度によって評価する。							
レポート	10	「授業からの学び」と「自分の気づき」を評価する。							
小テスト	20	主要なポイントの理解を評価する。							
定期試験									
その他	50	模擬授業とグループ提案、協議のパフォーマンスを評価する。							

評価の方法：自由記載	
受講の心得	小学校の教員として、子どもたちに算数科の学習を仕組むときに、どのようにことに留意しなければならないかについて具体的に理解し実践する意志をもって授業に臨むこと。
授業外学習	1 配布資料や小テストを整理して、本時の講義内容をノートにまとめて復習する。 2 教材研究等、模擬授業の準備を積極的に行うこと。また、他学生の模擬授業の単元についても教科書を確認する等の学習を行うこと。 3 「7つの提案」についてグループで読み込み、検討・議論し、提案できるように協力して取り組むこと。 以上の内容を、適当に4時間以上学習すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
小学校学習指導要領解説 算数編	文部科学省			
小学校算数教科書1年～6年		啓林館		

使用テキスト：自由記載 小学校学習指導要領解説 算数編、小学校算数教科書1年～6年は、ともに、「算数」で使用したものである。下巻等、所有していない教科書のみ購入すること。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の業務経験の有無	有
担当教員の業務経験	教員(教頭を含む)16年、岡山県教育委員会専門的教育職員16年、校長7年
担当教員以外で指導に関わる業務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる業務経験者	
業務経験をいかした教育内容	学校現場や教育委員会事務局等での業務経験を生かして、教育現場の実際を反映させた実践的な教育を行う。

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー-学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 指導方法や目標、内容、評価等に関する基礎的事項を理解する	指導方法や目標、内容、評価等に関する基礎的事項をよく理解している。	指導方法や目標、内容、評価等に関する基礎的事項を概ね理解している。	指導方法や目標、内容、評価等に関する基礎的事項を普通に理解している。	指導方法や目標、内容、評価等に関する基礎的事項の理解がやや不十分である。	指導方法や目標、内容、評価等に関する基礎的事項を全く理解していない。
思考・問題解決能力	1. 個々の児童の特性を踏まえ、その特性に応じた指導法を考え実践することができる。	個々の児童の特性を踏まえ、その特性に応じた指導法を考え積極的に実践することができる。	個々の児童の特性を踏まえ、その特性に応じた指導法を考え説明することができる。	個々の児童の特性を踏まえ、その特性に応じた指導法を考えることはできるが、自分から進んで実践する態度は見受けられない。	個々の児童の特性を踏まえ、その特性に応じた指導法を考えることはやや不十分であり、自分から進んで実践する態度は見受けられない。	個々の児童の特性を踏まえ、その特性に応じた指導法を考えることは全くできない。また、自分から進んで実践する態度も見受けられない。
技能	1. 算数科の教材研究や学習指導案の作成等についての技法を理解している。	算数科の教材研究や学習指導案の作成等についての技法をよく理解している。	算数科の教材研究や学習指導案の作成等についての技法を概ね理解している。	算数科の教材研究や学習指導案の作成等についての技法を普通に理解している。	算数科の教材研究や学習指導案の作成等についての技法の理解がやや不十分である。	算数科の教材研究や学習指導案の作成等についての技法を全く理解していない。

科目名	理科教育法		授業番号	CO316	サブタイトル	
教員	佐々木 弘記					
単位数	2単位	開講年次	がキリムにより異なります。	開講期	後期	授業形態
						講義
						必修・選択
						選択
授業概要	小学校学習指導要領に示された目標を分析し、育成すべき資質・能力について概括する。また、理科の学習内容について教科書に沿って説明する。いくつかの単元を探り上げて、観察・実験の方法を習得し、教材研究の技能を身に付ける。その上で、学習指導要領の作成に役立ち、観察・実験を取り入れた模擬授業を行う。					
到達目標	小学校学習指導要領に示された理科の目標及び、理科教育において育成を目指す資質・能力について理解する。また、学習指導要領に示された理科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。本科目は、ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。					
授業計画 備考						
回	概要					担当
第1回	小学校理科の目標 学習指導要領改訂の趣旨を踏まえた理科の目標の示し方について理解する。					
第2回	小学校理科の内容 理科で育成する三つの資質・能力の柱に応じた理科の内容の配列について理解する。					
第3回	理科で育成する資質・能力 学習指導要領改訂の方針に示された三つの資質・能力の柱について理解する。					
第4回	理科の学習理論 理科の学習指導に影響を与えた行動主義、認知主義、構成主義の各学習理論について理解する。					
第5回	理科の学習指導法 各学年の発達段階に応じた学習内容の配列やそれに応じた学習指導法について理解する。					
第6回	問題解決能力の育成 各学年に応じた理科の問題解決の能力が各学年の目標や内容にどのように位置づけられているか理解する。					
第7回	理科教科書での題材の配列 学習指導要領の各学年の内容に示された項目と、理科教科書の各単元の対応について理解する。					
第8回	教材研究の仕方 理科教科書に掲載されている教材について分かりやすい指導のための方法を習得する。					
第9回	学習指導要領の作成 国立教育政策研究所や岡山県教育センターから出された学習指導要領の書き方の様式に沿って学習指導要領を記述する技能を習得する。					
第10回	物質・エネルギーにかかわる教材研究 理科教科書に掲載されている物質・エネルギーにかかわる教材について分かりやすい指導の方法を習得する。					
第11回	生命・地球にかかわる教材研究 理科教科書に掲載されている生命・地球にかかわる教材について分かりやすい指導の方法を習得する。					
第12回	模擬授業 1 作成した学習指導要領で取り上げた単元の教材研究を行い、模擬授業を実施することを通して授業実践の技能を身に付ける。また、自己評価、相互評価を通して授業を振り返る。					
第13回	模擬授業 2 作成した学習指導要領で取り上げた単元の教材研究を行い、模擬授業を実施することを通して授業実践の技能を身に付ける。また、自己評価、相互評価を通して授業を振り返る。					
第14回	模擬授業 3 作成した学習指導要領で取り上げた単元の教材研究を行い、模擬授業を実施することを通して授業実践の技能を身に付ける。また、自己評価、相互評価を通して授業を振り返る。					
第15回	模擬授業 4 作成した学習指導要領で取り上げた単元の教材研究を行い、模擬授業を実施することを通して授業実践の技能を身に付ける。また、自己評価、相互評価を通して授業を振り返る。					
授業計画 備考2						
評価の方法						
	種別	割合	評価基準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度	10	意欲的な受講態度、模擬授業、実験・観察に取り組む態度、学習・復習の状況によって評価する。			
	レポート	10	レポートの内容と提出状況によって評価する。レポートについてはコメントを記入して返却する			
	小テスト	20	各回の主要なポイントの理解を評価する。小テストは採点して返却し、解説する。			
	定期試験	60	最終的な理解度を評価する。			
	その他					

評価の方法：自由記載	
受講の心得	毎回、授業のはじめに小テストを行うので、前時の復習をして授業に臨むこと。また、返却された小テストは、ノートに貼付し、復習すること。配付するプリント・資料などを整理しておくこと。
授業外学習	1 予習として、教科書のうち、授業内容にかかわる部分を読み、疑問点を明らかにする。 2 復習として、課題のレポートを書く。 3 発展学習として、授業で紹介された参考文献を読む。 以上の内容を、週当たり4時間以上学習すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
小学校学習指導要領解説 理科編	文部科学省	東洋館出版		111

使用テキスト：自由記載

小学校理科教科書 3～6年、「小学校学習指導要領解説 理科編」文部科学省

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載

その他

備考

注意事項

担当教員の業務経験の有無

有

担当教員の業務経験

公立中学校理科教諭（15年）、県教育センター（9年）（佐々木弘記）

担当教員以外で指導に関わる業務経験者の有無

無

担当教員以外で指導に関わる業務経験者

業務経験をいかした教育内容

学校(15年)、教育センター(15年)等での経験を生かして、教育現場の実際を反映させた実践的な教育を行う。

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー「学力」)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. 小学校学習指導要領に示された理科の目標及び、理科教育において育成を目指す資質・能力について理解できる。	小学校学習指導要領に示された理科の目標及び、理科教育において育成を目指す資質・能力について広範かつ詳細に理解している。	小学校学習指導要領に示された理科の目標及び、理科教育において育成を目指す資質・能力について広範に理解している。	小学校学習指導要領に示された理科の目標及び、理科教育において育成を目指す資質・能力について基礎的な内容を十分理解している。	小学校学習指導要領に示された理科の目標及び、理科教育において育成を目指す資質・能力について基礎的な内容を十分に理解していない。	小学校学習指導要領に示された理科の目標及び、理科教育において育成を目指す資質・能力について基礎的な内容を理解していない。
知識・理解	2. 学習指導要領に示された理科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解できる。	学習指導要領に示された理科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて広範かつ詳細に理解している。	学習指導要領に示された理科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて広範に理解している。	学習指導要領に示された理科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて基礎的な内容を十分理解している。	学習指導要領に示された理科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて基礎的な内容を十分に理解していない。	学習指導要領に示された理科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて基礎的な内容を理解していない。
技能	1. 様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。	様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を広範かつ詳細に身に付けている。	様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を広範に身に付けている。	様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う基礎的な方法を十分身に付けている。	様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う基礎的な方法を十分に付けていない。	様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う基礎的な方法を身に付けていない。

科目名	生活科教育法		授業番号	CO317	サブタイトル	(学習指導要領を大切にした指導案の作成)				
教員	池原 繁延									
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択	
授業概要	(1)学習指導要領の内容を踏まえながら、生活科の教科書に沿って、単元ごとに授業の具体的な内容・事例を検討し、指導案が作成できるようにする。									
到達目標	<p>(1)指導要領解説生活科編を参考に生活科の内容について理解を深めることができるとともに、資質能力の育成についても理解を深めることができる。さらに単元ごとに具体的な指導のポイントを把握することができる。</p> <p>この内容は、ライブでポスターに掲げた学力の内容のちく知識・理解の習得に貢献する。</p> <p>(2)生活科の教科書に沿って単元ごとに具体的な授業内容をイメージすることができる。内容を理解し具体的にイメージしたうえで各単元の目標を立てることができる。そして、授業についてイメージし目標にそって具体的な指導案を作成することができる。</p> <p>この内容は、デブロマ・ポスターに掲げた学力の内容のちく思考・問題解決能力の習得に貢献する。</p> <p>(3)上記の内容を踏まえ生活科の教科書に沿って具体的な授業についてイメージした他の学生と協働しながら積極的に単元目標の設定や具体的な指導案の作成を行うことができる。</p> <p>この内容は、デブロマ・ポスターに掲げた学力の内容のちく態度に貢献する。</p>									
授業計画 備考										
回	概要						担当			
第1回	<p>第1回 学習指導要領 生活科の目標</p> <p>第2章 教科書の目標</p> <p>第1節 教科目標</p> <p>教科目標の構成 教科目標の趣旨 資質・能力の三つの柱としての目標の趣旨</p> <p>観察カードの内容に対するコメントの書き方</p>									
第2回	<p>第2回 学年の目標</p> <p>第2節 学年の目標</p> <p>学年の目標の設定 学年の目標の趣旨</p> <p>単元「きれいにさいね」</p> <p>小単元「たねまごころ」目標設定等</p> <p>生活科の栽培活動について</p>									
第3回	<p>第3回 第3章 生活科の内容</p> <p>第3章 生活科の内容</p> <p>第1節 内容構成の考え方</p> <p>内容構成の具体的な視点</p> <p>内容を構成する具体的な学習活動や学習対象</p> <p>内容の構成要素と階層性</p> <p>小単元「はなのあすもつたえよう」</p> <p>「たねまごころ」目標設定、指導案の検討等</p>									
第4回	<p>第4回 第2節 生活科の内容</p> <p>第2節 生活科の内容</p> <p>生活科の内容 (1) ~ (3) について</p> <p>単元「なつがやてきた」</p> <p>小単元「こいでいでもばやしをさがそう」目標設定、指導案の検討等</p> <p>「評価規準」について</p>									
第5回	<p>第5回 第2節 生活科の内容</p> <p>第2節 生活科の内容</p> <p>生活科の内容 (4) ~ (6)</p> <p>単元「なつがやてきた」</p> <p>小単元「みみゆきでかみであそぼう」</p> <p>「あそびあそぼう」目標設定、指導案の検討等</p>									
第6回	<p>第6回 第2節 生活科の内容</p> <p>第2節 生活科の内容</p> <p>生活科の内容 (7) ~ (9)</p> <p>単元「なつがやてきた」</p> <p>小単元「たのしかったことをたえよう」目標設定、指導案の検討等</p> <p>「夏のあそびの活動、交流活動」について</p>									
第7回	<p>第7回 第2章 指導計画の作成と内容の取扱い</p> <p>第2章 指導計画の作成と内容の取扱い</p> <p>指導計画作成上の配慮事項その1</p> <p>単元「いきものなまよし」</p> <p>小単元「ももをさがそう」目標設定、指導案の検討等</p> <p>「動物飼育」について</p>									
第8回	<p>第8回 第2章 指導計画の作成と内容の取扱い</p> <p>第2章 指導計画の作成と内容の取扱い</p> <p>指導計画作成上の配慮事項その2</p> <p>単元「いきものなまよし」</p> <p>小単元「みみゆきでかみでかみかみしよう」目標設定、指導案の検討等</p> <p>「気づきの質を高めるための板書の構造化」について</p>									
第9回	<p>第9回 第2章 指導計画の作成と内容の取扱い</p> <p>第2章 指導計画の作成と内容の取扱い</p> <p>指導計画作成上の配慮事項その3</p> <p>単元「たのしみあそび」</p> <p>小単元「こいでいでもばやしをさがそう」目標設定、指導案の検討等</p> <p>気づきの質を高めるために</p>									
第10回	<p>第10回 第5章 指導計画の作成と学習指導</p> <p>第5章 指導計画の作成と学習指導</p> <p>第1節 生活科における指導計画と学習指導の基本的な考え方</p> <p>単元「たのしみあそび」</p> <p>小単元「こいでいでもばやしをさがそう」</p> <p>「はつばやめてあそぼう」</p> <p>「いっしょにあそぼう」目標設定、指導案の検討等</p> <p>「比較」について</p>									
第11回	<p>第11回 第5章 指導計画の作成と学習指導</p> <p>第5章 指導計画の作成と学習指導</p> <p>第2節 生活科における年間指導計画の作成</p> <p>単元「じぶんでできるよ」</p> <p>小単元「じぶんのいちにちをみつめよう」</p> <p>「じぶんでできることをしよう」目標設定、指導案の検討等</p> <p>「実態把握、家庭との連携、家庭環境への配慮」について</p>									
第12回	<p>第12回 第5章 指導計画の作成と学習指導</p> <p>第5章 指導計画の作成と学習指導</p> <p>第3節 単元計画の作成</p> <p>「新しい学習指導が期待するもの」について</p>									
第13回	<p>第13回 第5章 指導計画の作成と学習指導</p> <p>第5章 指導計画の作成と学習指導</p> <p>第4節 学習指導の進め方</p> <p>「スタートかじり」について 1</p>									
第14回	<p>第14回 スタートかじり</p> <p>スタートかじり</p> <p>単元「とねとねのあそび」(1 ねんせい)</p> <p>小単元「はつばやめてあそぼう」</p> <p>「みんなとあそぶ(なりたて)」目標設定、指導案検討等</p> <p>「スタートかじり」について 2</p>									
第15回	<p>第15回 生活科のまとめ</p> <p>生活科のまとめ</p> <p>学習内容を振り返るとともに重要なポイントを再度確認する。</p> <p>単元「もうすぐ2ねんせい」</p> <p>小単元「あたらしい1ねんせいをしよう」</p> <p>「しようとしたことをはなしかあそぶ」</p> <p>「1ねんかんをふりかえろう」について目標設定、指導案の検討等</p>									
授業計画 備考2										

評価の方法		
種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢/態度	60	意欲的な授業態度
レポート	40	課題に対する授業内容に沿った具体的な例を挙げたレポートであること。なお、レポート提出後の授業で全体的な傾向についてコメントをする。
小テスト		
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	小学校で実際に授業ができるよう、より具体的なイメージをもって授業を受けること。
授業外学修	(1)身近な自然に親しみ、植物や動物を観察しながら、地域を散歩すること。 (2)身近な生活から、生活科の授業にいかせる教材を発見する取り組みをする。 (3)予習として、教科書のうち、授業内容にかかわる部分を読み、積極的に授業に参加できる準備をすること。

使用テキスト					
書名	著者	出版社	ISBN	備考	
小学校指導要領(平成29年告示)解説 生活科編	文部科学省	株式会社東洋館出版社	9784491034645		
新しい生活 上	田村字ほか84名	東京書籍株式会社	9784487105618	新版が出る予定	
使用テキスト：自由記載	教材用のプリントを用意する				

参考図書					
書名	著者	出版社	ISBN	備考	
参考書：自由記載					
その他					
備考					
注意事項					
担当教員の実務経験の有無	有				
担当教員の実務経験	小学校教諭・管理職(35年)				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者					
実務経験がいかした教育内容	小学校における授業で実際に生かすことができるポイントを押さえた教育内容				

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点(到達目標に基づく評価項目)	ルーブリック				
		A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 指導要領において生活科の内容について理解を深めることができる。	具体的に理解することができる。	理解することができる。	大まかに理解することができる。	いくつかの内容について理解することができる。	理解することができない。
知識・理解	2. 資質能力の育成について理解を深めることができる。	具体的に理解することができる。	理解することができる。	大まかに理解することができる。	少し理解することができる。	理解できない。
知識・理解	3. 単元ごとに具体的な指導のポイントを把握することができる。	具体的な指導のポイントを把握することができる。	指導のポイントを把握することができる。	大まかな指導のポイントを把握することができる。	いくつかの単元で大まかな指導のポイントを把握することができる。	把握することができない。
思考・問題解決能力	1. 生活科の教科書に沿って単元ごとに具体的な授業内容をイメージすることができる。	具体的な授業内容をイメージすることができる。	授業内容をイメージすることができる。	大まかに授業内容をイメージすることができる。	いくつかの単元で大まかに授業内容をイメージすることができる。	イメージすることができない。
思考・問題解決能力	2. 内容を理解し具体的にイメージしたうえで各小単元の目標を立てる。	具体的な目標を立てることができる。	目標を立てることができる。	大まかな目標を立てることができる。	いくつかの単元で大まかな目標を立てることができる。	目標を立てることができない。
思考・問題解決能力	3. 授業についてイメージし目標をもって具体的な指導案を作成することができる。	具体的な指導案を作成することができる。	指導案を作成することができる。	大まかな指導案を作成することができる。	いくつかの単元で大まかな指導案を作成することができる。	指導案を作成することができない。
態度	1. 他の学生と協力しながら積極的に単元目標の設定や具体的な指導案の作成を行うことができる。	他の学生と協力しながら積極的に行うことができる。	他の学生と協力しながら多くの単元で積極的に行うことができる。	他の学生と協力しながらいくつかの単元で積極的に行うことができる。	他の学生と協力しながらいくつかの単元で行うことができる。	行うことができない。

科目名	音楽科教育法		授業番号	CO318	サブタイトル	小学校音楽1～6年			
教員	川崎 泰子								
単位数	2単位	開講年次	1/2/3/4/5/6/7/8/9/10/11/12/13/14/15/16/17/18/19/20/21/22/23/24/25/26/27/28/29/30/31/32/33/34/35/36/37/38/39/40/41/42/43/44/45/46/47/48/49/50/51/52/53/54/55/56/57/58/59/60/61/62/63/64/65/66/67/68/69/70/71/72/73/74/75/76/77/78/79/80/81/82/83/84/85/86/87/88/89/90/91/92/93/94/95/96/97/98/99/100/101/102/103/104/105/106/107/108/109/110/111/112/113/114/115/116/117/118/119/120/121/122/123/124/125/126/127/128/129/130/131/132/133/134/135/136/137/138/139/140/141/142/143/144/145/146/147/148/149/150/151/152/153/154/155/156/157/158/159/160/161/162/163/164/165/166/167/168/169/170/171/172/173/174/175/176/177/178/179/180/181/182/183/184/185/186/187/188/189/190/191/192/193/194/195/196/197/198/199/200/201/202/203/204/205/206/207/208/209/210/211/212/213/214/215/216/217/218/219/220/221/222/223/224/225/226/227/228/229/230/231/232/233/234/235/236/237/238/239/240/241/242/243/244/245/246/247/248/249/250/251/252/253/254/255/256/257/258/259/260/261/262/263/264/265/266/267/268/269/270/271/272/273/274/275/276/277/278/279/280/281/282/283/284/285/286/287/288/289/290/291/292/293/294/295/296/297/298/299/300/301/302/303/304/305/306/307/308/309/310/311/312/313/314/315/316/317/318/319/320/321/322/323/324/325/326/327/328/329/330/331/332/333/334/335/336/337/338/339/340/341/342/343/344/345/346/347/348/349/350/351/352/353/354/355/356/357/358/359/360/361/362/363/364/365/366/367/368/369/370/371/372/373/374/375/376/377/378/379/380/381/382/383/384/385/386/387/388/389/390/391/392/393/394/395/396/397/398/399/400/401/402/403/404/405/406/407/408/409/410/411/412/413/414/415/416/417/418/419/420/421/422/423/424/425/426/427/428/429/430/431/432/433/434/435/436/437/438/439/440/441/442/443/444/445/446/447/448/449/450/451/452/453/454/455/456/457/458/459/460/461/462/463/464/465/466/467/468/469/470/471/472/473/474/475/476/477/478/479/480/481/482/483/484/485/486/487/488/489/490/491/492/493/494/495/496/497/498/499/500/501/502/503/504/505/506/507/508/509/510/511/512/513/514/515/516/517/518/519/520/521/522/523/524/525/526/527/528/529/530/531/532/533/534/535/536/537/538/539/540/541/542/543/544/545/546/547/548/549/550/551/552/553/554/555/556/557/558/559/560/561/562/563/564/565/566/567/568/569/570/571/572/573/574/575/576/577/578/579/580/581/582/583/584/585/586/587/588/589/590/591/592/593/594/595/596/597/598/599/600/601/602/603/604/605/606/607/608/609/610/611/612/613/614/615/616/617/618/619/620/621/622/623/624/625/626/627/628/629/630/631/632/633/634/635/636/637/638/639/640/641/642/643/644/645/646/647/648/649/650/651/652/653/654/655/656/657/658/659/660/661/662/663/664/665/666/667/668/669/670/671/672/673/674/675/676/677/678/679/680/681/682/683/684/685/686/687/688/689/690/691/692/693/694/695/696/697/698/699/700/701/702/703/704/705/706/707/708/709/710/711/712/713/714/715/716/717/718/719/720/721/722/723/724/725/726/727/728/729/730/731/732/733/734/735/736/737/738/739/740/741/742/743/744/745/746/747/748/749/750/751/752/753/754/755/756/757/758/759/760/761/762/763/764/765/766/767/768/769/770/771/772/773/774/775/776/777/778/779/780/781/782/783/784/785/786/787/788/789/790/791/792/793/794/795/796/797/798/799/800/801/802/803/804/805/806/807/808/809/810/811/812/813/814/815/816/817/818/819/820/821/822/823/824/825/826/827/828/829/830/831/832/833/834/835/836/837/838/839/840/841/842/843/844/845/846/847/848/849/850/851/852/853/854/855/856/857/858/859/860/861/862/863/864/865/866/867/868/869/870/871/872/873/874/875/876/877/878/879/880/881/882/883/884/885/886/887/888/889/890/891/892/893/894/895/896/897/898/899/900/901/902/903/904/905/906/907/908/909/910/911/912/913/914/915/916/917/918/919/920/921/922/923/924/925/926/927/928/929/930/931/932/933/934/935/936/937/938/939/940/941/942/943/944/945/946/947/948/949/950/951/952/953/954/955/956/957/958/959/960/961/962/963/964/965/966/967/968/969/970/971/972/973/974/975/976/977/978/979/980/981/982/983/984/985/986/987/988/989/990/991/992/993/994/995/996/997/998/999/1000	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	小学校学習指導要領、小学校における音楽科教育の意義、目的、指導内容について理解を深め、小学校音楽科で育成すべき資質や能力、そのために取り扱う内容、題材の構成(指導計画の作成)、教材の選択と配列及び指導法・評価法について理解する。学習指導案を作成し模擬授業を行う。								
到達目標	<p>小学校学習指導要領の目標を理解した上で、教材研究から指導案・模擬授業への指導の流れを理解する。</p> <p>(1)小学校学習指導要領について説明することができる。</p> <p>(2)1～6学年の系統性を踏まえ、発達段階に応じた教科指導の在り方を検討することができる。</p> <p>(3)小学校音楽科における学習指導上の基本的な留意点及び「表現」「鑑賞」の各活動における基本的な指導方法について理解し、児童に身に付けさせたい基礎的・基本的な知識・技能を確実に修得させるための学習指導案を作成することができる。</p> <p>(4)上記の理解に基づいて作成した学習指導案を模擬授業において実施できる。</p> <p>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。</p>								
授業計画 備考									
回	概要				担当				
第1回	学習指導要領に示された小学校音楽科の目的と目標 歌唱演習の発声、声の出し方などを理解する								
第2回	研究教材と指導法 低学年・中学年の歌唱共通教材の歌唱法 歌唱・弾き歌いについて理解を深め演習する								
第3回	研究教材と指導法 中学年・高学年の歌唱共通教材の歌唱法 歌唱・弾き歌いについて理解を深め演習する								
第4回	「表現」および「共通教材」～歌唱～ 1年生～6年生までの歌唱共通教材において指導する立場での演習(小テストあり) 評価・コメントは演習後個人伝える								
第5回	研究教材と指導法 鑑賞教材の選定と低学年・中学年・高学年の鑑賞曲 鑑賞教材の歴史について理解を深め、鑑賞指導法の考察 ICTを活用した音楽学習の検討								
第6回	リーダーの取り方と指導法 課題協の習得と各曲の指導法に理解を深める リーダーアンサングルの指導法とリーダーアンサングルの教材研究								
第7回	リーダーアンサングルの指導法とリーダーアンサングルの教材研究 グループでの研究発表と考察(小テストあり)								
第8回	音楽科学習指導案作成にあたって留意点 指導案作成の理解を深める グループに分かれ模擬授業の準備								
第9回	模擬授業準備 弾き歌い・楽器演奏・鑑賞教材についてグループでの検討 協働する力を身に付ける。								
第10回	模擬授業の実践とディスカッション：グループⅠ グループに別に分かれ模擬授業を行い指導案作成・弾き歌い・指導法などについて理解を深める								
第11回	模擬授業の実践とディスカッション：グループⅡ グループに別に分かれ模擬授業を行い指導案作成・弾き歌い・指導法などについて理解を深める								
第12回	模擬授業の実践 模擬授業の実践とディスカッション：グループⅢ グループに別に分かれ模擬授業を行い指導案作成・弾き歌い・指導法などについて理解を深める								
第13回	模擬授業の実践とディスカッション：グループⅣ グループに別に分かれ模擬授業を行い指導案作成・弾き歌い・指導法などについて理解を深める								
第14回	模擬授業の実践とディスカッション：グループⅤ グループに別に分かれ模擬授業を行い指導案作成・弾き歌い・指導法などについて理解を深める								
第15回	「表現」および「共通教材」～歌唱～ 今までの演習を活かして弾き歌い実技試験 1年生～6年生までの歌唱共通教材において課題曲と任意の曲を演奏する 評価・コメントは演習後個人伝える 筆記試験のついでの説明								
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢/態度	40	弾き歌い・グループ発表などの実技系の小テスト						
	レポート	10	課題・レポート・指導案の、理解度・定量化、添削後、返却する。						
	模擬授業発表	40	課題の到達度を評価する。実技を含む。						
	定期試験	10	知識の理解度・定量化。						

評価の方法：自由記載	
受講の心得	小学校教員への教職意識を持つこと。 使用教科書の『小学校学習指導要領解説 音楽編』に目を通しておくこと。
授業外学習	授業で提示される次の内容について、予習すること。 授業で提示された課題を実施し、復習すること。 上記の内容を、適当に4時間程度学習すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
小学校学習指導要領平成29年公示解説 音楽編		平成29年6月、文部科学省		
小学校音楽1～6年		教育芸術社		

使用テキスト：自由記載

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
小学校音楽科教育法		教育芸術社		

参考書：自由記載

その他 ソプラノコーダーを持参すること。

備考

注意事項

担当教員の業務経験の有無

有

担当教員の業務経験

公立小学校、中学校、私立中学、私立高校講師などの教員歴（20年）、少年少女合唱団主宰【2023年福武教育文化賞受賞】（12年）、数々の学校にて歌唱指導（20年）

担当教員以外で指導に関わる業務経験者の有無

無

担当教員以外で指導に関わる業務経験者

業務経験を活かした教育内容

業務経験を活かし、学校現場の体験を通して得た知識を伝えと共に、小学校音楽科教育に求められる専門的な知識・技能を深め、学習指導力、実践的な音楽実技指導力の向上に努める。

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー-学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	音楽科学習指導案の基礎的な内容を理解している	音楽科学習指導案の書き方および歌唱共通教材、器楽教材を理解するとともに、表したい音楽表現を授業で展開する技能が身につく。	音楽科学習指導案の書き方および歌唱共通教材、器楽教材をおおむね理解するとともに、表したい音楽表現を授業で展開するために、表したい音楽表現を授業で展開するための技能が身につく。	音楽科学習指導案の書き方および表したい音楽表現を授業で展開するための技能の必要性を理解しているが、歌唱共通教材、器楽教材について半分程度理解していない。	音楽科学習指導案の書き方および歌唱共通教材は半分くらい理解できるものの、表したい音楽表現を授業で展開する技能が身につけていない。	音楽科学習指導案の書き方および歌唱共通教材、器楽教材は半分くらい理解できておらず、表したい音楽表現を授業で展開する技能が身につけていない。
思考・問題解決能力	1. 音楽表現を考えながら模擬授業を行うことができる	音楽表現を考えて表現に対する思いや意図を持ち、授業づくりに必要な事柄について判断し、歌唱指導や器楽演奏指導を模擬授業として実施することができる。	音楽表現を考えて表現に対する思いや意図を持ち、授業づくりに必要な事柄について判断し、歌唱指導や器楽演奏指導を模擬授業としておおむね実施することができる。	音楽表現や授業づくりに必要な事柄について考え、歌唱指導や器楽演奏指導を模擬授業としてつまずきがあるものの実施することができる。	音楽表現や授業づくりに必要な事柄について考えられないもの、歌唱指導や器楽演奏指導を模擬授業として他者の補助を借りながら実施することができる。	音楽表現や授業づくりに必要な事柄について判断することができず、歌唱指導や器楽演奏指導の模擬授業が成立しない。
技能	1. 歌唱表現を行うことができる	楽譜を理解し歌唱表現として申し分ない声で歌えている。	楽譜を理解し歌唱表現として声がかけている。	楽譜を理解し歌唱表現として積極的に声を出そうとしている。	楽譜を理解しているが歌唱表現として積極的に声を出せていない。	楽譜を読み取ることができず歌唱表現として声が出せていない。
思考・問題解決能力	2. 弾き歌いを行うことができる。	楽譜を理解し、ピアノ演奏技法、歌唱表現が申し分ないレベルでできている。	楽譜を理解し、ピアノ演奏技法、歌唱表現ができている。	楽譜を理解し、積極的にピアノ演奏技法、歌唱表現を行おうとしている。	楽譜は理解しているが積極的にピアノ演奏技法、歌唱表現ができていない。	楽譜を読み取ることができずピアノ演奏技法、歌唱表現ができていない。
思考・問題解決能力	3. 楽器演奏を行うことができる	楽器の特性を理解し演奏技法が申し分ないレベルでできている。	楽器の特性を理解し、止まることなく演奏ができている。	楽器の特性を理解し、止まりながらも積極的に演奏ができている。	楽器の特性を理解しているが、積極的に演奏ができている。	楽器の特性を理解しているが、演奏ができない。
態度	1. 模擬授業に積極的に参加できる。	協働して音楽活動をする楽しさを感じながら、様々な音楽に親しむとともに主体的に歌唱指導、器楽演奏指導および模擬授業に参加することができる。	様々な音楽に親しむとともに主体的に歌唱指導、器楽演奏指導および模擬授業に参加することができる。	様々な音楽に親しみながら、歌唱指導、器楽演奏指導および模擬授業に参加することができる。	協働して音楽活動をする楽しさをおもひ感じることができないもの、様々な音楽を聞きながら、歌唱指導、器楽演奏指導および模擬授業に参加しようとする様子が見られる。	協働して音楽活動をする楽しさを感じるなどの親近感がなく、主体的に歌唱指導、器楽演奏指導および模擬授業に参加することができない。

科目名	図画工作科教育法		授業番号	CO319	サブタイトル				
教員	牛島 光太郎								
単位数	2単位	開講年次	が1年次より異なります。	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	この講義では、小学校図画工作科で行われる教科書教材を取り上げながら、「造形的な見方・考え方」を働かせ、生活や社会の中の形や色 など豊かに開ける資質能力を育成する指導のあり方について講義する。								
到達目標	<p>(1)学習指導要領に示された図画工作科の目標や内容を理解できる。</p> <p>1)図画工作科の学習指導要領における目標及び主な内容並びに全体構造を理解できる。</p> <p>2)個別の学習内容について指導上の留意点を理解できる。</p> <p>3)図画工作科における学習評価の考え方を理解できる。</p> <p>(2)基礎的な学習理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行うことができる。</p> <p>1)子どもの認識や思考、学力などの実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解できる。</p> <p>2)指導手順及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができる。</p> <p>3)学習指導要領の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導要領を作成することができる。</p> <p>4)模擬授業の実施と振り返りを通して、授業改善の視点を持つことができる。</p> <p>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉の修得に貢献する。</p>								
授業計画 備考									
回	概要					担当			
第1回	図画工作科の学習指導要領 教科の目標と内容								
第2回	図画工作科の授業構造 図画工作科の活動領域と教科の構造								
第3回	図画工作科における教師の支援 指導上の留意点								
第4回	図画工作科における評価 学習評価の考え方								
第5回	図画工作科における安全指導 題材別の安全指導上の留意点								
第6回	「造形あそび」の授業の組立と支援 教材研究と指導上の留意点								
第7回	「絵にあらわす」の授業の組立と支援 教材研究と指導上の留意点								
第8回	「立体にあらわす」の授業の組立と支援 教材研究と指導上の留意点								
第9回	「工作にあらわす」の授業の組立と支援 教材研究と指導上の留意点								
第10回	「鑑賞」の授業の組立と支援 教材研究と指導上の留意点								
第11回	図画工作科の学習指導案 1 学習指導案の構成の理解								
第12回	図画工作科の学習指導案 2 学習指導案の作成								
第13回	模擬授業の実施と振り返り1 A期とB期の実践と振り返り、意見交換を行う								
第14回	模擬授業の実施と振り返り2 C期とD期の実践と振り返り、意見交換を行う								
第15回	「鑑賞」活動の方法について ICTを活用した「鑑賞」活動の実践と振り返り								
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢/態度	30	意欲的な授業態度、予・復習の状況によって評価する。						
	レポート・課題	60	各回の主要なポイントの理解を提出されたレポートや課題によって評価する。課題提出後の授業で全体的な傾向についてコメントする。						
	その他	10	模擬授業の準備・発表、ディスカッション等への参加状況等により評価する。						

評価の方法：自由記載	
受講の心得	「造形的な見方・考え方」が活きた授業はいかにして実現することができるかについて探求してほしい。
授業外学習	1 復習として、課題を課すことがある。 2 予習として、資料を配布することがある。 3 発展学習として、授業で紹介された参考文献等を読む。 以上の内容を、適当に94時間以上学習すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
小学校学習指導要領解説 図画工作編		日本文教出版		
小学校図画工作科教科書1年～6年		日本文教出版		

参考書：自由記載

適宜、提示する。

その他

はさみ、のり、テープ、色鉛筆、水彩絵具、定規、コンパス、カッター、スクッチブックなど、様々な画材、素材、道具を使用する。詳しい授業の準備物は授業の中で提示する。

備考

注意事項

担当教員の業務経験の有無

無

担当教員以外で指導に関わる業務経験者の有無

無

担当教員以外で指導に関わる業務経験者

無

業務経験をいかした教育内容

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー-学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. 学習指導要領を理解している	学習指導要領に示された図画工作科の全体構造を十分に理解した上で、目標、内容、指導上の留意点、学習評価の考え方について説明することができる	学習指導要領に示された図画工作科の目標、内容、指導上の留意点、学習評価の考え方について理解し、説明することができる	学習指導要領に示された図画工作科の目標、内容、指導上の留意点、学習評価の考え方について理解している	学習指導要領に示された図画工作科の目標、内容は理解できているが、指導上の留意点、学習評価の考え方についての理解が不十分である	学習指導要領に示された図画工作科の目標、内容、指導上の留意点、学習評価の考え方についての理解ができていない
技能	1. 図画工作科の授業を設計し実践することができる	学習指導要領の構成を十分に理解し、具体的な授業を想定した学習指導案を作成し、実践と振り返りを通して、授業を改善することができる	学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した学習指導案を作成し実践し、実践と振り返りを通して、授業改善の視点を持つことができる	学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した学習指導案を作成し実践することができる	学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した学習指導案を作成できるが、実践することが不十分である	学習指導案の構成を理解しておらず、具体的な授業を想定した学習指導案の作成や実践ができない

科目名	体育科教育法			授業番号	CO320	サブタイトル	
教員	満田 知茂						
単位数	2単位	開講年次	3年	開講期	後期	授業形態	講義
							必修・選択
選択							
授業概要	小学校学習指導要領に示されている目標・内容・方法の変遷を踏まえた上で、現代の子どもたちが抱えているからだ・心の問題について体育科が果たすべき役割と責任性について理解する。また、低・中・高学年の学習を見通した単元の系統性を理解し、指導案の作成並びに模擬授業、授業評価・授業を展開するうえでの一連の過程を実践する能力を身に付ける。						
到達目標	体育科における、「目標・内容・方法」について理解するとともに、子ども一人ひとりが意欲的に学ぶことのできる授業展開を計画・立案することができる。なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈態度〉の修得に貢献する。						
授業計画 備考							
回	概要					担当	
第1回	学習指導要領の変遷(総則) 学習指導要領(総則)における改高点について理解する。						
第2回	学習指導要領の変遷(体育科の目標) 学習指導要領(体育科の目標)の改高点について理解する。						
第3回	学習指導要領1・2年生の内容と目標の理解と具体例 学習指導要領1・2年生の内容と目標を理解し、各運動領域の例示を理解できるようにする。						
第4回	学習指導要領3・4年生の内容と目標の理解と具体例 学習指導要領3・4年生の内容と目標を理解し、各運動領域の例示を理解できるようにする。						
第5回	学習指導要領5・6年生の内容と目標の理解と具体例 学習指導要領5・6年生の内容と目標を理解し、各運動領域の例示を理解できるようにする。						
第6回	学習指導要領3～6年生の保健の内容と目標の理解と具体例 学習指導要領3～6年生の保健の内容と目標を理解し、各運動領域の例示を理解できるようにする。						
第7回	体育科の年間計画及び指導案作成について 体育科の年間計画を理解するとともに、指導案の作成について学ぶ。						
第8回	指導案の作成 体育教員の立場に立って、配慮事項も踏まえた指導案を作成する。						
第9回	模擬授業打ち合わせ グループに分かれて、体育教員の立場に立った授業の進め方を話し合う。						
第10回	模擬授業(1) 1・2年生について 体育教員の立場に立って、配慮事項を踏まえて、模擬授業を行う。						
第11回	模擬授業(2) 3・4年生について 体育教員の立場に立って、配慮事項を踏まえて、模擬授業を行う。						
第12回	模擬授業(3) 5・6年生について 体育教員の立場に立って、配慮事項を踏まえて、模擬授業を行う。						
第13回	模擬授業(4) 3～6年生の保健について 体育教員の立場に立って、配慮事項を踏まえて、模擬授業を行う。						
第14回	模擬授業の授業評価・修正 それぞれの模擬授業に対して、意見交換をして評価・修正する。						
第15回	授業評価を加味した指導案の作成 修正したことを踏まえて、指導案を作成する。						
授業計画 備考2							
評価の方法							
種別	割合	評価基準・その他備考					
授業への取り組みの姿勢/態度	20	意欲的な受講態度、発表や予習・復習の状況によって評価する。 フィードバックは、その場で行う。					
レポート	60	指導案の理解・指導要領の理解。 レポートは、コメントを記入して返却する。					
小テスト							
定期試験							
その他	20	模擬授業の教師としての授業態度を評価する。 フィードバックは、模擬授業の後にコメントをする。					

評価の方法：自由記載	
受講の心得	小学校体育科において、教師が運動の知識を有していることはもちろん、からだの仕組みに対する理解を深めていくことも重要である。これらの点を踏まえつつ、将来の子どものからだを育てていくという強い意欲をもって受講すること。
授業外学習	・授業で行われる領域について学習指導要領解説「体育編」を授業前に読んでおくこと。 ・事前に模擬授業で取り上げている内容をしっかりと教材研究する。 以上の内容を、適当に4時間以上学習すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
小学校学習指導要領解説体育編	文部科学省	東洋館出版社		

使用テキスト：自由記載

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載

その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. 小学校学習指導要領に示されている目標・内容・方法を踏まえて、体育科が果たすべき役割と責任性について理解できている。	小学校学習指導要領に示されている目標・内容・方法を踏まえて、体育科が果たすべき役割と責任性について理解できている。	小学校学習指導要領に示されている目標・内容・方法を踏まえて、体育科が果たすべき役割と責任性についてほぼ理解できている。	小学校学習指導要領に示されている目標・内容・方法を踏まえて、体育科が果たすべき役割と責任性について基本的な内容を理解できている。	小学校学習指導要領に示されている目標・内容・方法を踏まえて、体育科が果たすべき役割と責任性についての理解が十分ではない。	小学校学習指導要領に示されている目標・内容・方法を踏まえて、体育科が果たすべき役割と責任性についての理解ができていない。
知識・理解	2. 低・中・高学年の学習を見通した単元の系統性を理解することができる。	低・中・高学年の学習を見通した単元の系統性を理解することができる。	低・中・高学年の学習を見通した単元の系統性をほぼ理解することができる。	低・中・高学年の学習を見通した単元の系統性を簡単に理解できている。	低・中・高学年の学習を見通した単元の系統性の理解が十分ではない。	低・中・高学年の学習を見通した単元の系統性を理解できていない。
知識・理解	3. 指導案を作成するための知識を身につけている。	指導案を作成するための知識を身につけている。	指導案を作成するための知識をほぼ身につけている。	指導案を作成するための簡単な知識を身につけている。	指導案を作成するための知識が十分ではない。	指導案を作成するための知識が身につけていない。
思考・問題解決能力	1. 配慮が必要な子どもに対して考えることができる。	配慮が必要な子どもに対して考えることができる。	配慮が必要な子どもに対して理解することができる。	配慮が必要な子どもに対して情報収集することができる。	配慮が必要な子どもに対しての理解が十分ではない。	配慮が必要な子どもに対して考えることができない。
態度	1. 教師の立場としての振る舞い。	教師の立場としての振る舞いができている。	教師の立場としての振る舞いがほぼできている。	教師の立場としての基本的な振る舞いができている。	教師の立場としての理解が十分ではない。	教師の立場として考えることができていない。

科目名	家庭科教育法			授業番号	CO321	サブタイトル	
教員	西條 佳子						
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	講義
							必修・選択
授業概要	小学校家庭科の授業を通して、「生きる力」や「確かな学力」を育成する強い理念をもって、学習指導要領に求められる「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「主体的に学習に取り組む態度」等、学ぶ意欲を児童に身に付けさせる授業を構想することができるように。授業構想を具体化するために学習指導案を作成して模擬授業を実施し、模擬授業の評価・分析を通して、授業実践力を身に付ける。						
到達目標	小学校家庭科の授業開発を通して、児童に身に付けさせたい基礎的・基本的な知識・技能を確実に修得するためには、どのような学習の工夫が必要かしっかり検討し、効果的な家庭科の授業を模擬授業を通して創造することができる。なお、本科目はデプロイ・ポスターに用いた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。						
授業計画 備考	最初の授業日に、学年定で定められた授業日と回数を示し、各回のテーマや具体的な内容、教室及び準備物を記載した授業予定表を配付する。模擬授業の実施・分析・評価については、模擬授業の実施日が決定した時点で、実施日と授業者の名前を記載したプリントを改めて配付する。						
回	概要			担当			
第1回	学習指導要領家庭編の目標及び内容の取扱い 小学校家庭科において育成を目指す資質・能力、小学校家庭科の内容構成のポイント、目標や内容について理解する。						
第2回	年間指導計画と題材指導計画、学習指導案の内容 2学年期を見通した指導計画作成のポイントと指導案の書き方と指導上の留意点及び評価項目について理解する。						
第3回	作成の家庭科指導案を基に細案を作成 細案を作成し、教師としてどのように指示を出すか、授業の流れをどのようにつくるかを考察する。						
第4回	細案を基に模擬授業を実施1-2 「A 家族・家庭生活」「B 衣食住の生活」(5・6年生)の内容に関する模擬授業を実施し、模擬授業の評価・分析を通して、授業実践力を身に付ける。						
第5回	細案を基に模擬授業を実施3-4 「B 衣食住の生活」「C 消費生活・環境」(5・6年生)の内容に関する模擬授業を実施し、模擬授業の評価・分析を通して、授業実践力を身に付ける。						
第6回	細案を基に模擬授業を実施5-6 「B 衣食住の生活」「C 消費生活・環境」(5・6年生)の内容に関する模擬授業を実施し、模擬授業の評価・分析を通して、授業実践力を身に付ける。						
第7回	細案を基に模擬授業を実施7-8「B 衣食住の生活」「C 消費生活・環境」(5・6年生) 「B 衣食住の生活」「C 消費生活・環境」(5・6年生)に関する模擬授業を実施し、模擬授業の評価・分析を通して、授業実践力を身に付ける。						
第8回	指導案の作成(1) 「A 家族・家庭生活」「B 衣食住の生活」領域の内容(5・6年生)を理解し、教材と指導案を考える。						
第9回	指導案の作成(2) 「B 衣食住の生活」「C 消費生活・環境」領域の内容(5・6年生)を理解し、教材と指導案を考える。						
第10回	模擬授業の実施・分析・評価1-2 「A 家族・家庭生活」「B 衣食住の生活」(5年生)の内容に関する模擬授業を実施し、模擬授業の評価・分析を通して、授業実践力を身に付ける。						
第11回	模擬授業の実施・分析・評価3-4 「B 衣食住の生活」「C 消費生活・環境」(5年生)の内容に関する模擬授業を実施し、模擬授業の評価・分析を通して、授業実践力を身に付ける。						
第12回	模擬授業の実施・分析・評価5-6 「A 家族・家庭生活」「B 衣食住の生活」(6年生)の内容に関する模擬授業を実施し、模擬授業の評価・分析を通して、授業実践力を身に付ける。						
第13回	模擬授業の実施・分析・評価7-8 「B 衣食住の生活」「C 消費生活・環境」(6年生)の内容に関する模擬授業を実施し、模擬授業の評価・分析を通して、授業実践力を身に付ける。						
第14回	模擬授業の実施・分析・評価9-10 「B 衣食住の生活」「C 消費生活・環境」(5・6年生)の内容に関する模擬授業を実施し、模擬授業の評価・分析を通して、授業実践力を身に付ける。						
第15回	模擬授業の総括：模擬授業全体の振り返りと授業改善 模擬授業を振り返り、適切な教材を用いたか、よりよい指導法はなかったのかなどその要因を考察し、授業改善を図る。						
授業計画 備考2							
評価の方法							
	種別	割合	評価基準・その他備考				
	授業への取り組みの姿勢/態度	10	授業終了時に当日の講義の要約を記述して提出を求めるコメントシートにより、評価を行う。				
	レポート	20	作成した指導案、模擬授業の振り返りなどの記述を評価する。				
	小テスト	10	小学校家庭科の主要なポイントの理解を評価する。				
	定期試験	50	最終的な理解度について評価する。				
	その他	10	模擬授業：教師としての授業態度、発問、板書の字、声の大きさ等について評価する。				

評価の方法：自由記載	
受講の心得	教材研究の深さが学習指導案と密接に関連し、更に児童の学習意欲とも深く関係していることを理解する。また、授業開始時に配付する授業予定表に、授業内容に該当する小学校と中学校の教科書のページを明記しているため、授業の事前・事後に必ず目を通して授業に臨む。
授業外学習	<ol style="list-style-type: none"> 事前に、模擬授業で取り上げる内容についてしっかり教材研究をする。 模擬授業についての感想を、授業後に教員発表する。 模擬授業について、学生に迅速で建設的なフィードバックを行い、次の模擬授業に活かす。 模擬授業についての感想を毎時期書かせ、授業者に一言コメントして、良かった所や改善して欲しい所を書いたプリントを渡す。以上の内容を、適当な4時間以上学習すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
わたしたちの家庭科	著者代表内野紀子他	開隆堂	9784304080647	274円
小学校学習指導要領解説家庭編	文部科学省	豊洋館出版社	9784491023748	103円

使用テキスト：自由記載

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
新訂 新しい技術・家庭 (家庭分野)	佐藤文子・金子佳代子他	東京書籍	9784487122820	646円

参考書：自由記載
中学校の家庭科教科書「新編 新しい技術・家庭 家庭分野」は、採用試験を受験する人は購入して欲しい。採用試験には、中学校の内容からも出題されている。

その他
採用試験には、具体的な指導方法を問う問題が出題される。模擬授業には、「自分ならどうするか」と考えながら参加する。小学校家庭科の内容は、全て実践して身に付けておくことが望ましい。

備考	
注意事項	
担当教員の業務経験の有無	無
担当教員の業務経験	
担当教員以外で指導に関わる業務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる業務経験者	
業務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー-学主力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 児童に身につけさせたい基礎的・基本的な知識を理解している。	児童に身につけさせたい基礎的・基本的な知識について、正確に理解し述べるができる。	児童に身につけさせたい基礎的・基本的な知識を身につけて、正確ではないがほぼ理解し述べるができる。	児童に身につけさせたい基礎的・基本的な知識について、大体述べるができる。	児童に身につけさせたい基礎的・基本的な知識について、正確に述べるができないが、自分の言葉では表現できる。	児童に身につけさせたい基礎的・基本的な知識について、全く表現することができない。
思考・問題解決能力	1. 学習指導要領に求められる学習意欲を児童に身につけさせる授業を構想することができる。	課題に対し、論理的整合性を持ち、多角的に考察している。	課題に対し、ほぼ論理的整合性を持った考察を加えている。	課題に対し、自分の考えを述べることができる。	課題に対し、自分の考えを十分に述べることができない。	課題を考察することができていない。
思考・問題解決能力	2. どのような学習の工夫が必要か検討することができる。	課題に対し、論理的整合性を持ち、多角的に検討している。	課題に対し、ほぼ論理的整合性を持った検討をしている。	課題に対し、自分の考えを述べることができる。	課題に対し、自分の考えを十分に述べることができない。	課題を検討することができていない。
思考・問題解決能力	3. 効果的な授業を模擬授業を通して考え創造することができる。	模擬授業を通して課題を見つけ、その解決を目指して論理的整合性を持ち、多角的に考察し工夫している。	模擬授業を通して課題を見つけ、その解決を目指してほぼ論理的整合性を持った考察を加え工夫している。	模擬授業を通して課題を見つけ、その解決を目指して自分の考えを述べることができる。	模擬授業を通して課題を見つけることができるが、自分の考えを述べることができない。	課題を見つけることができていない。
技能	1. 児童に身につけさせたい基礎的・基本的な技能を身につけている。	児童に身につけさせたい基礎的・基本的な技能を大変よく身につけている。	児童に身につけさせたい基礎的・基本的な技能を身につけている。	児童に身につけさせたい基礎的・基本的な技能をある程度身につけている。	児童に身につけさせたい基礎的・基本的な技能を十分に身につけていない。	児童に身につけさせたい基礎的・基本的な技能をまったく身につけていない。
技能	2. 学習指導案を作成できる。	学習指導案を正確に作成できている。	学習指導案をほぼ作成できている。	学習指導案をある程度作成できている。	学習指導案を十分に作成できていない。	学習指導案をまったく作成できていない。
技能	3. 模擬授業を実施できる。	模擬授業を大変よく行うことができる。	模擬授業を行うことができる。	模擬授業をある程度行うことができる。	模擬授業十分に行うことができていない。	模擬授業をまったく行うことができていない。
技能	4. 模擬授業の評価・分析を通して、授業実践力を身につけている。	模擬授業の評価・分析を通して、授業実践力を大変よく身につけている。	模擬授業の評価・分析を通して、授業実践力を身につけている。	模擬授業の評価・分析を通して、授業実践力をある程度身につけている。	模擬授業の評価・分析を通して、授業実践力を十分に身につけていない。	模擬授業の評価・分析を通して、授業実践力をまったく身につけていない。
態度	1. 授業に意欲的に参加できる。	質問など積極的に行い、疑問を解決し、授業内容を理解した上で、適切なコメントシートを提出している。	授業に前向きに臨む姿勢が見受けられ、授業内容を理解した上で、コメントシートを提出している。	授業に出席し、授業内容を理解した上でコメントシートを提出している。	授業に出席し、コメントシートを提出しているが、理解が十分ではない。	授業に出席しているが、コメントシートの提出をしていない。

科目名	英語科教育法	授業番号	CO322	サブタイトル	
教員	西田 寛子				
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期
				授業形態	講義
					必修・選択
授業概要	授業実践に必要な知識・技術を習得するために、事前にテキストを熟読してそのポイントについてまとめ、授業ではそれを指導に生かす具体的な方法についてディスカッションを通して考案する。また、授業づくりに必要な基本的な指導技術を身に付けるために、実際の授業観察や分析を行ったり、指導教員による授業を児童の立場で体験したりする。さらに、教師の立場で模擬授業を行い、省察・指導の改善を行うことにより、理論と実践の往還・統合を図る。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校外国語教育に係る背景知識や主教材、小・中・高等学校の外国語教育における小学校の役割、多様な指導環境について理解する。 ・児童期の第二言語習得の特徴を理解し、模擬授業における指導に生かすことができる。 ・実践に必要な基本的な指導技術と実際の授業づくりに必要な知識・技術を身に付ける 本科目は、ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。				
授業計画 備考					
回	概要			担当	
第1回	<ul style="list-style-type: none"> ・イントロダクション：講座の目標・内容・評価方法を確認する。 ・小学校外国語教育導入の背景・変遷、外国語活動・外国語科、小・中・高等学校の外国語科の目標、内容について理解する。 ・小・中・高等学校の連携と小学校の役割について理解する。 (授業ビデオ視聴とグループディスカッション)				
第2回	<ul style="list-style-type: none"> ・主教材の趣旨、構成、特徴について理解する。 ・(グループディスカッションで互いの気づきを共有する。) ・様々な指導環境に柔軟に対応するため、児童や学校の多様性について、基礎的な事柄を理解する。 				
第3回	<ul style="list-style-type: none"> ・言語使用を通して言語を習得することについて、授業体験を通して理解する。 ・音声によるインプットの内容の規模から理解への進むプロセスを経ることを、授業体験を通して理解する。 ・(上記の理解を踏まえた具体的な指導法について、ディスカッションを通して考案し、模擬授業に生かす。) 				
第4回	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の発達段階を踏まえた音声によるインプットの在り方について理解する。 ・コミュニケーションの目的や場面、状況に応じて意味のあるやり取りを行う重要性について、授業体験を通して理解する。 ・(上記の理解を踏まえた具体的な指導法について、ディスカッションを通して考案し、模擬授業に生かす。) 				
第5回	<ul style="list-style-type: none"> ・受領から発音、音声から文字へ進むプロセスを理解する。 ・国語教育との連携等による言葉の面白さや豊かさへの気づきについて理解する。 ・文字言語との出合わせ方、読む活動・書く活動への向き方について理解する。 ・(上記の理解を踏まえた具体的な指導法について、ディスカッションを通して考案し、模擬授業に生かす。) 				
第6回	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の発話につながるよう、効果的に英語で語りかける。 ・児童の英語での発話を引き出し、児童とのやり取りを進める。 ・(授業場面を設定し、マイクロティーチングで上記の活動を行う。 Classroom English, Small Talk, Teacher Talk の練習をする。) 				
第7回	<ul style="list-style-type: none"> ・ALT/JTE等とのチームティーチングによる指導の在り方について授業体験の中で理解する。 ・(授業場面を設定し、マイクロティーチングで上記の活動を行う。 Classroom English, Small Talk, Teacher Talk の練習をする。) 				
第8回	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT等の効果的な活用方法について理解し、活用法を考案する。また、デジタル教科書を指導に活用する。 ・(上記の理解を踏まえた具体的な指導法について、ディスカッションを通して考案し、模擬授業に生かす。) 				
第9回	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況の評価 (1)フォーモス評価や学習到達目標の活用を含む)について理解する。 ・(上記の理解を踏まえた具体的な指導法について、ディスカッションを通して考案し、模擬授業に生かす。) 				
第10回	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校での授業参観・分析や児童支援を通して、自身の授業構想・教材作成につながる。 				
第11回	<ul style="list-style-type: none"> ・題材選定、教材研究の仕方について理解する。 ・模擬授業に向けて、適切に題材選定、教材研究を行う。 				
第12回	<ul style="list-style-type: none"> ・学習到達目標に基づいた指導計画(年間指導計画、単元計画、学習指導案、短時間学習等の授業時間の設定を含めたカリキュラム・マネジメント等)について理解する。 ・模擬授業に向けた学習指導案を立案する。 				
第13回	<ul style="list-style-type: none"> ・マイクロティーチング①:これまでの授業における知識・理解に基づき、模擬授業、省察、指導の改善を行う。 				
第14回	<ul style="list-style-type: none"> ・マイクロティーチング②:これまでの授業における知識・理解に基づき、模擬授業、省察、指導の改善を行う。 				
第15回	<ul style="list-style-type: none"> ・講座全体のまとめ、省察を行い、今後の指導の改善に向けて協議する。 				
授業計画 備考2	(講座前半の回) ①ウォームアップ: Classroom English, 授業で使えるゲームや歌等のアクティビティ ②事前学習としてテキストを読みポイントをとまとしたレポートを提出し、トピックに沿ったグループディスカッション ③指導教員による解説 * 授業テーマに沿った授業映像の視聴、指導教員による授業の体験を適宜実施 (講座後半の回) ①指導計画の作成(学習指導案の作成等) ②教材研究 ③模擬授業・相互参観(全員) →リフレクション・指導教員によるコメント →授業改善 * R6年度改定				

評価の方法		
種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢/態度	40	-授業中のディスカッション、模擬授業実践・省察・指導の改善における意欲的な態度ならびに自律的な学びの姿勢(予習・復習)を評価する。〈態度〉
レポート	40	-理論と実践の往還を認めながら考えたことの記述内容や、指導計画(学習指導案等)、指導実践の省察を評価する。〈知識・理解〉 * レポートについてはコメントを記入して返却するとともに、良い例はクラス全体で紹介する。
授業実践の技能	20	授業づくり、模擬授業実践における技能を評価する。〈技能〉

評価の方法：自由記載	
受講の心得	<ul style="list-style-type: none"> ・教師になる自覚と意欲をもって参加すること。 ・事前学習を前日に授業を進めるので、学習を必ずすること。また、授業中のディスカッションでは積極的に発言し、知識・理論を踏まえた指導・実践の具体案を提案すること。 ・授業後は、その日のうちに疑問に思ったことをリサーチしたり、模擬授業に必要な英語力の増強や具体的な指導方法の考案・記述を行うこと。
授業外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・事前にテキストを必ず読み、そのポイントや自分の意見をレポートにまとめて授業に臨むこと。 ・指導案・指導案の作成や、模擬授業の練習を行うこと。 ・テキストによる専門的な知識や指導法の知識を模擬授業に生かし、テキストの二次元バーコードで音声や動画を視聴して、英語の発声を繰り返し声に出して練習すること。 以上の学習を、週4時間以上行うこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
小学校英語はじめる教科書(改訂版)外国語科・外国語活動指導者養成のために-コア・カリキュラムに沿って-	小川隆夫・東仁美	mpi	978-4-89643-782-9	2,420円
Here We Go! 5	小泉 仁 ほか	光村図書	978-4-8138-0076-7	354円
Here We Go!6	小泉 仁 ほか	光村図書	978-4-8138-0077-4	354円
Let's Try!1	文部科学省	東京書籍	978-4-487-25870-3	255円
Let's Try!2	文部科学省	東京書籍	978-4-487-25871-0	255円
小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 外国語活動・外国語編	文部科学省	開隆堂	978-4-304-05168-5	128円+税
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の实務経験	公立中学校教諭・指導教諭(28年)、公立中高一貫教育校指導教諭(6年)、公立小学校指導教諭(公立中学校指導教諭との兼務：1年)、県教育委員会指導主事(4年)での実務経験を有する。			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいれた教育内容	英語科教員・指導主事としての実務経験(38年)を生かし、小学校の英語教育に関わる指導者に求められる総合的な英語運用能力に指導実践力を育成する。			

ルーブリック

評価の基準(ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点(到達目標に基づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 小学校外国語教育についての基本的な知識・理解	小学校外国語教育に係る背景知識や主教材、小・中・高等学校の外国語教育における小学校の役割、多様な指導環境について十分理解しており、自分の言葉で分かりやすく説明できる。	小学校外国語教育に係る背景知識や主教材、小・中・高等学校の外国語教育における小学校の役割、多様な指導環境について十分理解している。	小学校外国語教育に係る背景知識や主教材、小・中・高等学校の外国語教育における小学校の役割、多様な指導環境について一定程度理解している。	小学校外国語教育に係る背景知識や主教材、小・中・高等学校の外国語教育における小学校の役割、多様な指導環境についての理解にやや不十分ところがある。	小学校外国語教育に係る背景知識や主教材、小・中・高等学校の外国語教育における小学校の役割、多様な指導環境についての理解が不十分である。
知識・理解	2. 子供の第二言語修得についての知識と活用	児童期の第二言語修得の特徴について十分理解し、指導に生かす具体的な方法について考察して実践できる。	児童期の第二言語修得の特徴について十分理解し、指導に生かす具体的な方法について考察できる。	児童期の第二言語修得の特徴について十分理解している。	児童期の第二言語修得の特徴についての理解にやや不十分ところがある。	児童期の第二言語修得の特徴についての理解が不十分である。
技能	1. 実践に必要な基本的な指導技術の修得	英語での児童への効果的な語りかけや児童とのやりとり、読む・書く活動等への導き方など、実践に必要な基本的な指導技術を十分身に付け、指導に生かすことができる。	英語での児童への効果的な語りかけや児童とのやりとり、読む・書く活動等への導き方など、実践に必要な基本的な指導技術を身に付け、指導に生かすことができる。	英語での児童への効果的な語りかけや児童とのやりとり、読む・書く活動等への導き方など、実践に必要な基本的な指導技術を身に付けている。	英語での児童への効果的な語りかけや児童とのやりとり、読む・書く活動等への導き方など、実践に必要な基本的な指導技術の習得がやや不十分である。	英語での児童への効果的な語りかけや児童とのやりとり、読む・書く活動等への導き方など、実践に必要な基本的な指導技術の習得が不十分である。
知識・理解	2. 授業づくりに必要な知識・技術の修得	実際の授業づくりに必要な知識を十分身に付け、指導計画の作成、模擬授業の実施、省察と指導の改善ができる。	実際の授業づくりに必要な知識を身に付け、指導計画の作成、模擬授業の実施、省察と指導の改善ができる。	実際の授業づくりに必要な知識を身に付け、指導計画の作成、模擬授業の実施ができる。	実際の授業づくりに必要な知識をある程度身に付け、指導計画の作成、模擬授業の実施ができるが、その内容が不十分である。	実際の授業づくりに必要な知識の修得が不十分で、指導計画の作成、模擬授業の実施できない。
態度	1. 授業への貢献度	授業内容や関連する事柄に興味・関心を持ち、自分の考えを自主的に発言し、クラス全体の学びに常に貢献している。	授業内容や関連する事柄に興味・関心を持ち、自分の考えを自主的に発言し、クラス全体の学びに時々貢献している。	指名されれば、自分の考えを発言し、クラス全体の学びに時々貢献している。	指名されれば自分の考えを発言するが、クラス全体の学びに貢献するレベルには達していない。	指名されても自分なりの考えを発言できない。

科目名	道徳教育指導論			授業番号	CO323	サブタイトル	
教員	豊松 恵子						
単位数	2単位	開講年次	3年	開講期	後期	授業形態	講義
授業概要	道徳教育は大きな転換期を迎えた。道徳教育の改善・充実を図るため、小学校は平成30年度、中学校は令和元年度から、特別の教科「道徳(道徳科)」が教科化された。この改訂の内容を踏まえ、道徳教育の意義について全講義を通して明らかにしていく。道徳教育と道徳科の目標や内容・指導について講義する。また、学習指導案作成と模擬授業の演習を通して、指導方法の要点や道徳科の授業について講義し、授業実践力を身に付けることを目的とする。						
到達目標	道徳教育の改訂の要点について理解し、道徳教育の意義について考えることができるようになる。 道徳教育と道徳科の目標・内容・指導について学び、道徳教育指導全般について理解できるようになる。 道徳科の学習指導の在り方や工夫について演習を通して身に付け、授業実践ができるようになる。 なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学上力の内容のうち、<知識・理解> <技能>の修得に貢献する。						
授業計画 備考							
回	概要					担当	
第1回	道徳とは何か 自分と道徳 (1) 道徳教育の歴史 道徳教育の改訂の基本方針・要点 「特別の教科 道徳(道徳科)」への改訂の基本方針・要点(「考え議論する道徳」について理解する。						
第2回	道徳教育と道徳科の関係・つながり 道徳教育の目標 道徳科の目標 学校における道徳教育は道徳科を要して学校の教育活動全体を通じて行うものであるということ、「よよく生きるための基盤となる道徳性」という道徳教育・道徳科の目標について理解する。						
第3回	道徳科の内容 内容項目の概要及び道徳性の発達に応じた指導の要点 (1) 内容項目「善悪の判断、自律、自由と責任」「正義、誠実」等(内容項目1～12)の発表 内容項目ごとに概要や指導の要点をまとめて発表する活動を通して、道徳性を養う手掛かりとなる内容項目について理解する。						
第4回	道徳科の内容 内容項目の概要及び道徳性の発達に応じた指導の要点 (2) 内容項目「公正、公平、社会正義」「勤労、公共の精神」等(内容項目13～22)の発表 内容項目ごとに概要や指導の要点をまとめて発表する活動を通して、道徳性を養う手掛かりとなる内容項目について理解する。						
第5回	道徳科の授業 示範授業に参加し授業を体験することを通して、道徳科学習指導案・一般的な学習指導過程・発問の工夫・板書の工夫など、道徳科の学習指導について理解する。						
第6回	指導計画の作成 指導方法の工夫 道徳科の授業のつくりかた (1) 指導計画作成の意義、道徳科に生かす指導方法の多様な工夫の具体例、学習指導案作成の手順について理解する。						
第7回	道徳科の授業のつくりかた (2) 内容項目の分析・児童の姿・教材分析・ねらい・主題名などについて理解し、学習指導案を作成する。						
第8回	道徳科の授業のつくりかた (3) 学習指導過程の導入・展開前段・展開後段・終末について理解し、学習指導案を作成する。						
第9回	道徳科の評価 道徳性の発達 指導の配慮事項 道徳科における評価の意義や評価の基本的な考え方について理解する。よよく生きるための基盤となる道徳性となる道徳性養成のための指導の配慮事項について理解する。						
第10回	授業実践 模擬授業 (1) 模擬授業の改善 模擬授業を実施したり参観したりすることを通して、授業改善の視点(指導方法の工夫など)について理解する。						
第11回	授業実践 模擬授業 (2) 模擬授業の改善 模擬授業を実施したり参観したりすることを通して、授業改善の視点(多様な学習指導など)について理解する。						
第12回	授業実践 模擬授業 (3) 模擬授業の改善 模擬授業を実施したり参観したりすることを通して、授業改善の視点(教材・教具の活用など)について理解する。						
第13回	授業実践 模擬授業 (4) 模擬授業の改善 模擬授業を実施したり参観したりすることを通して、授業改善の視点(個に応じた指導・教態など)について理解する。						
第14回	教材に求められる内容の観点 教材づくりの演習を通して、教材の開発と活用の創意工夫について、教材に求められる内容の観点について理解する。						
第15回	よよく生きるための基盤となる道徳性の育成 自分と道徳 (2) 全講義内容をKJ法でまとめる活動を通して、道徳教育の意義や道徳教育指導の理解、授業実践力の変容について明らかにする。						
授業計画 備考2							
評価の方法							
	種別	割合	評価基準・その他備考				
	授業への取り組みの姿勢/態度	10	意欲的な受講態度、発表・討議への参加態度によって評価する。				
	レポート	50	各回の講義の主要なポイントをまとめていること・自分の考えを述べていることで評価する。レポートはコメントを記入して返却し、次の講義で記述内容を紹介したり補足説明をしたりして活用する。				
	小テスト						
	定期試験						
	その他	40	模擬授業の学習指導案の内容・工夫や模擬授業実践態度で評価する。模擬授業内容については一人一人にコメントを返す。				

評価の方法：自由記載	
受講の心得	様々な事象や出来事に対して自分の意見や考えをもち、授業実践とつないで考え、真剣に受講する。
授業外学習	1 予習として、「小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」[4年小学どくく 生きる力]のうち、今回の授業内容に関わる部分を読み、課題を把握しておくこと。 2 授業の始めに前回の授業内容に関する小テストを行うので、復習しておくこと。 以上の内容を、週当たり1時間以上学習すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
4年小学どくく 生きる力		日本文教出版株式会社		
使用テキスト：自由記載	小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 平成29年7月 (文部科学省)			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考	令和6年度改訂			
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	公立小学校教諭・教頭・校長、公立幼稚園園長 岡山市教育委員会研修指導員（指導事務嘱託）			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	道徳科の授業実践や教職員研修の講師等のこれまでの経験を、講義内容（道徳科授業の指導の在り方、指導方法の工夫、学習指導案作成、模擬授業改善の視点等）に生かして指導する。			

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. 小学校学習指導要領に示されている目標・内容・方法を踏まえて道徳教育が果たすべき役割について理解できている。	小学校学習指導要領に示されている目標・内容・方法を踏まえて道徳教育が果たすべき役割について理解できている。	小学校学習指導要領に示されている目標・内容・方法を踏まえて道徳教育が果たすべき役割についてほぼ理解できている。	小学校学習指導要領に示されている目標・内容・方法を踏まえて道徳教育が果たすべき役割について基本的な内容を理解できている。	小学校学習指導要領に示されている目標・内容・方法を踏まえて道徳教育が果たすべき役割についての理解が十分ではない。	小学校学習指導要領に示されている目標・内容・方法を踏まえて道徳教育が果たすべき役割について理解できていない。
知識・理解	2. 学校の教育活動全体を通して行う道徳教育及びその要となる道徳科の指導計画や指導方法を理解している。	学校の教育活動全体を通して行う道徳教育及びその要となる道徳科の指導計画や指導方法を理解することができる。	学校の教育活動全体を通して行う道徳教育及びその要となる道徳科の指導計画や指導方法をほぼ理解している。	学校の教育活動全体を通して行う道徳教育及びその要となる道徳科の指導計画や指導方法の基本的なことを理解している。	学校の教育活動全体を通して行う道徳教育及びその要となる道徳科の指導計画や指導方法の理解が十分ではない。	学校の教育活動全体を通して行う道徳教育及びその要となる道徳科の指導計画や指導方法を理解できていない。
知識・理解	3. 指導案を作成するための知識を身に付けている。	指導案を作成するための知識を身に付けている。	指導案を作成するための知識をほぼ身に付けている。	指導案を作成するための基本的な知識を身に付けている。	指導案を作成するための知識が十分ではない。	指導案を作成するための知識を身に付けていない。
技能	1. 教材研究や学習指導案の作成ができる。	教材研究や学習指導案の作成が十分できる。	教材研究や学習指導案の作成がほぼできる。	教材研究や学習指導案の作成が基本的にはできる。	教材研究や学習指導案の作成が十分ではない。	教材研究や学習指導案の作成ができない。
技能	2. 内容項目の発表や模擬授業の実践を通して指導力、授業力を身に付けている。	内容項目の発表や模擬授業の実践を通して指導力、授業力を十分に身に付けている。	内容項目の発表や模擬授業の実践を通して指導力、授業力をほぼ身に付けている。	内容項目の発表や模擬授業の実践を通して基本的な指導力、授業力を身に付けている。	内容項目の発表や模擬授業の実践を通して指導力、授業力が十分身につけていない。	内容項目の発表や模擬授業の実践を通して指導力、授業力を身に付けていない。

科目名	小学校教育研究 I		授業番号	CO328	サブタイトル				
教員	佐々木 弘記、山田 恵子、満田 知茂、牛島 光太郎、太田 憲孝、森寺 勝之								
単位数	1単位	開講年次	3年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	総合教養養成セミナー-I-IIで身につけた学力を基盤として、小学校教員として求められる各教科等の内容に関する教養と実践的指導力を身につけるため、教材の研究や学習指導案の作成等を行う。								
到達目標	教材の研究や学習指導案の作成等を行い、小学校教員に求められる各教科等の内容に関する教養と実践的指導力を身につけることができる。 本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学力の内容のうち、<知識・理解> <技能> の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
回	概要					担当			
第1回	理科教材研究 理科に関する教養と実践的指導力を身につけるため、教材の研究や学習指導案の作成等を行う。					佐々木			
第2回	算数教材研究 (1) 算数に関する教養と実践的指導力を身につけるため、教材の研究や学習指導案の作成等を行う。					森寺			
第3回	算数教材研究 (2) 算数に関する教養と実践的指導力を身につけるため、教材の研究や学習指導案の作成等を行う。					森寺			
第4回	算数教材研究 (3) 算数に関する教養と実践的指導力を身につけるため、教材の研究や学習指導案の作成等を行う。					森寺			
第5回	算数教材研究 (4) 算数に関する教養と実践的指導力を身につけるため、教材の研究や学習指導案の作成等を行う。					森寺			
第6回	国語教材研究 (1) 国語に関する教養と実践的指導力を身につけるため、教材の研究や学習指導案の作成等を行う。					太田			
第7回	国語教材研究 (2) 国語に関する教養と実践的指導力を身につけるため、教材の研究や学習指導案の作成等を行う。					太田			
第8回	国語教材研究 (3) 国語に関する教養と実践的指導力を身につけるため、教材の研究や学習指導案の作成等を行う。					太田			
第9回	国語教材研究 (4) 国語に関する教養と実践的指導力を身につけるため、教材の研究や学習指導案の作成等を行う。					太田			
第10回	英語教材研究 (1) 英語に関する教養と実践的指導力を身につけるため、教材の研究や学習指導案の作成等を行う。					西田			
第11回	英語教材研究 (2) 英語に関する教養と実践的指導力を身につけるため、教材の研究や学習指導案の作成等を行う。					西田			
第12回	英語教材研究 (3) 英語に関する教養と実践的指導力を身につけるため、教材の研究や学習指導案の作成等を行う。					西田			
第13回	図画工作教材研究 図画工作に関する教養と実践的指導力を身につけるため、教材の研究や学習指導案の作成等を行う。					牛島			
第14回	体育教材研究 体育に関する教養と実践的指導力を身につけるため、教材の研究や学習指導案の作成等を行う。					満田			
第15回	プログラミング教育教材研究 プログラミング教育に関する教養と実践的指導力を身につけるため、教材の研究や学習指導案の作成等を行う。					佐々木			
授業計画 備考2									
評価の方法									
種別	割合	評価基準・その他備考							
授業への取り組みの姿勢 / 態度	20	意欲的な受講態度、発表・討議への参加、予・復習の状況によって評価する							
レポート	30	各回の授業で提示される課題について、自分の考えを具体的に述べていること。レポートについてはコメントを記入して返却する。							
小テスト	50	各回の主要なポイントの理解度を評価する。小テストは採点して返却し、解説する。							

評価の方法：自由記載	
受講の心得	予習と復習を必ず行うこと。分からないことは、オフィスアワーの時間を活用して調べておくこと。
授業外学習	1 予習として、授業で配付される資料等を読み、疑問点を明らかにする。 2 復習として、授業で提示された課題のレポートを書く。 3 発展学習として、授業で紹介された参考文献や資料等を読む。 以上の内容を、適当に94時間以上学習すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
教員採用試験対策参考書専門教科小学校全科	東京アカデミー	七賢出版		1800

使用テキスト：自由記載

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載

その他	小学校コースは必ず履修し、確実に単位を修得すること。
-----	----------------------------

備考	
----	--

注意事項	
------	--

担当教員の実務経験の有無	有
--------------	---

担当教員の实務経験	公立中学校教諭(15年)、県教育センター(9年)(佐々木弘記) 公立中学校英語科教諭・指導教諭(28年)、県教育委員会指導主事(4年)、公立中高一貫校指導教諭(6年)、公立小学校指導教諭(公立中学校指導教諭との兼務：1年)(西田真子) 小中高教員16年(教頭を含む)、岡山県教育委員会専門的教育職員16年、校長7年(森寺勝之)
-----------	---

担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
-----------------------	---

担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
--------------------	--

実務経験をいかした教育内容	学校(15年)、教育センター(15年)での現場体験を通して得た知見を学生に伝えることで、実感を伴った理解を促し、学習指導力、生徒指導力などの実践的指導力の向上に努める。(佐々木弘記) 英語科教員・指導主事としての実務経験(38年)を生かし、教育現場の実態を踏まえて、その課題を解決するための実践的な指導を行う。(西田真子) 小中高教員及び校長23年、岡山県教育委員会専門的教育職員16年の実務経験を生かし、より具体的に即戦力になる指導を行う。(森寺勝之)
---------------	---

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点(到達目標に基づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 小学校教員に求められる各教科等の内容に関する教養を身に付けている。	小学校教員に求められる各教科等の内容に関する教養を広範囲かつ詳細に身に付けている。	小学校教員に求められる各教科等の内容に関する教養を広範囲に身に付けている。	小学校教員に求められる各教科等の内容に関する教養を身に付けている。	小学校教員に求められる各教科等の内容に関する教養を十分に身に付けていない。	小学校教員に求められる各教科等の内容に関する教養を身に付けていない。
技能	1. 小学校教員に求められる各教科等の内容に関する実践的指導力を身に付けている。	小学校教員に求められる各教科等の内容に関する実践的指導力を広範囲かつ詳細に身に付けている。	小学校教員に求められる各教科等の内容に関する実践的指導力を広範囲に身に付けている。	小学校教員に求められる各教科等の内容に関する実践的指導力を身に付けている。	小学校教員に求められる各教科等の内容に関する実践的指導力を十分に身に付けていない。	小学校教員に求められる各教科等の内容に関する実践的指導力を身に付けていない。

科目名	小学校教育研究Ⅱ		授業番号	CO329	サブタイトル				
教員	佐々木 弘記、齊藤 佳子、山田 恵子、満田 知次、牛島 光太郎、太田 憲孝、森寺 勝之								
単位数	1単位	開講年次	3年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	小学校教育研究Ⅱで身につけた学士力を基礎にして、小学校教員として求められる各教科等の内容に関する確かな教養と実践的指導力を身につける。								
到達目標	学習指導案の作成や教材研究等を行い、小学校教員に求められる各教科等の内容に関する確かな教養と実践的指導力を身につけることができる。本科目はデプロイメントに拠る学士力の内容のうち、＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
回	概要					担当			
第1回	小学校学習指導要領 理科(1) 小学校学習指導要領理科に示された目標や内容について授業において実践する方法を修得する。					佐々木			
第2回	小学校学習指導要領 理科(2) 小学校学習指導要領理科に示された目標や内容について授業において実践する方法を修得する。					佐々木			
第3回	小学校学習指導要領 国語(1) 小学校学習指導要領国語に示された目標や内容について授業において実践する方法を修得する。					太田			
第4回	小学校学習指導要領 国語(2) 小学校学習指導要領国語に示された目標や内容について授業において実践する方法を修得する。					太田			
第5回	小学校学習指導要領 算数(1) 小学校学習指導要領算数に示された目標や内容について授業において実践する方法を修得する。					森寺			
第6回	小学校学習指導要領 算数(2) 小学校学習指導要領算数に示された目標や内容について授業において実践する方法を修得する。					森寺			
第7回	小学校学習指導要領 体育(1) 小学校学習指導要領体育に示された目標や内容について授業において実践する方法を修得する。					満田			
第8回	小学校学習指導要領 体育(2) 小学校学習指導要領体育に示された目標や内容について授業において実践する方法を修得する。					満田			
第9回	小学校学習指導要領 外国語(1) 小学校学習指導要領外国語に示された目標や内容について授業において実践する方法を修得する。					西田			
第10回	小学校学習指導要領 外国語(2) 小学校学習指導要領外国語に示された目標や内容について授業において実践する方法を修得する。					西田			
第11回	小学校学習指導要領 道徳 小学校学習指導要領道徳に示された目標や内容について授業において実践する方法を修得する。					西田			
第12回	小学校学習指導要領 家庭(1) 小学校学習指導要領家庭に示された目標や内容について授業において実践する方法を修得する。					齊藤			
第13回	小学校学習指導要領 家庭(2) 小学校学習指導要領家庭に示された目標や内容について授業において実践する方法を修得する。					齊藤			
第14回	小学校学習指導要領 図画工作(1) 小学校学習指導要領図画工作に示された目標や内容について授業において実践する方法を修得する。					牛島			
第15回	小学校学習指導要領 図画工作(2) 小学校学習指導要領図画工作に示された目標や内容について授業において実践する方法を修得する。					牛島			
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢/態度	20	意欲的な受講態度、発表・討議への参加、予・復習の状況によって評価する						
	レポート	30	各回の授業で提示される課題について、自分の考えを具体的に述べていること。レポートについてはコメントを記入して返却する。						
	小テスト	50	各回の主要なポイントの理解度を評価する。小テストは採点して返却し、解説する。						
	その他								

評価の方法：自由記載	
受講の心得	予習と復習を必ず行うこと。分からないことは、オフィスアワーの時間を活用して調べておくこと。
授業外学習	1 予習として、授業で配付される資料等を読み、疑問点を明らかにする。 2 復習として、授業で提示された課題のレポートを書く。 3 発展学習として、授業で紹介された参考文献や資料等を読む。 以上の内容を、適当に94時間以上学習すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載

その他	小学校コースは必ず履修し、確実に単位を修得すること。
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の实務経験	公立中学校教諭(15年)、県教育センター(9年)(佐々木弘記) 公立中学校英語科教諭・指導教諭(28年)、県教育委員会指導主事(4年)、公立中高一貫校指導教諭(6年)、公立小学校指導教諭(公立中学校指導教諭との兼務：1年)(西田真子) 小中高教員16年(教諭を含む)、岡山県教育委員会専門的教育職員16年、校長7年(森寺勝之)
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	学校(15年)、教育センター(9年)等の勤務を通して得た知見を学生に伝えることで、実感を伴った理解を促し、学習指導力、生徒指導力などの実践的指導力の向上に努める。(佐々木弘記) 英語科教員・指導主事としての実務経験(38年)を生かし、教育現場の実態を踏まえて、その課題を解決するための実践的な指導を行う。(西田真子) 小中高教員及び校長23年、岡山県教育委員会専門的教育職員16年の実務経験を生かし、より具体的に即戦力になる指導を行う。(森寺勝之)

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点(到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. 小学校教員に求められる各教科等の内容に関する確かな教養を身に付けている。	小学校教員に求められる各教科等の内容に関する確かな教養を広範かつ詳細に身に付けている。	小学校教員に求められる各教科等の内容に関する確かな教養を広範に身に付けている。	小学校教員に求められる各教科等の内容に関する確かな教養を身に付けている。	小学校教員に求められる各教科等の内容に関する確かな教養を十分に身に付けていない。	小学校教員に求められる各教科等の内容に関する確かな教養を身に付けていない。
技能	1. 小学校教員に求められる各教科等の内容に関する確かな実践的指導力を身に付けている。	小学校教員に求められる各教科等の内容に関する確かな実践的指導力を広範かつ詳細に身に付けている。	小学校教員に求められる各教科等の内容に関する確かな実践的指導力を広範に身に付けている。	小学校教員に求められる各教科等の内容に関する確かな実践的指導力を身に付けている。	小学校教員に求められる各教科等の内容に関する確かな実践的指導力を十分に身に付けていない。	小学校教員に求められる各教科等の内容に関する確かな実践的指導力を身に付けていない。

科目名	小学校教育研究Ⅲ			授業番号	CO430	サブタイトル	
教員	満田 知深、山田 恵子、牛島 光太郎、太田 憲孝、森寺 勝之						
単位数	1単位	開講年次	4年	開講期	前期	授業形態	演習
必修・選択	必修・選択		選択				
授業概要	小学校教育研究Ⅱで身につけた学士力を基礎として、小学校教員として求められる教職に関する知識や技能を身につけるための学習をする。						
到達目標	新任教員として求められるレベルの専門的な知識や技能を確実に身につける。 なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉の修得に貢献する。						
授業計画 備考							
回	概要					担当	
第1回	小学校における教科指導（算数1） 算数科教育法での総括をして知識を深める。						
第2回	小学校における教科指導（算数2） 算数科教育法での実践に向けての指導法を理解する。						
第3回	小学校における教科指導（国語1） 国語科教育法での総括をして知識を深める。						
第4回	小学校における教科指導（国語2） 国語科教育法での実践に向けての指導法を理解する。						
第5回	小学校における教科指導（社会1） 社会科教育法での総括をして知識を深める。						
第6回	小学校における教科指導（社会2） 社会科教育法での実践に向けての指導法を理解する。						
第7回	小学校における教科指導（理科1） 理科教育法での総括をして知識を深める。						
第8回	小学校における教科指導（理科2） 理科科教育法での実践に向けての指導法を理解する。						
第9回	小学校における教科指導（音楽） 音楽科教育法での総括をして知識を深め、実践に向けての指導法を理解する。						
第10回	小学校における教育法規 小学校における教育法規に関する知識を深め、実践に向けての指導法を理解する。						
第11回	小学校における教科指導（図画工作） 図画工作科教育法での総括をして知識を深め、実践に向けての指導法を理解する。						
第12回	小学校における危機管理 小学校における危機管理に関する知識を深め、実践に向けての指導法を理解する。						
第13回	小学校における教科指導（家庭） 家庭科教育法での総括をして知識を深め、実践に向けての指導法を理解する。						
第14回	小学校における教科指導（体育） 体育科教育法での総括をして知識を深め、実践に向けての指導法を理解する。						
第15回	小学校における現代の教育問題 小学校における現代の教育問題に関する知識を深め、実践に向けての指導法を理解する。						
授業計画 備考2							
評価の方法							
種別	割合	評価基準・その他備考					
授業への取り組みの姿勢 / 態度	20	意欲的な受講態度、発表・討論への参加、予習・復習の状況によって評価する。 フィードバックは、その時その場で行う。					
レポート	30	各回の終盤で提示される課題について、自分の考えを具体的に述べていること。 レポートは、コメントを記入して返却する。					
小テスト	50	各回の主要なポイントの理解度を評価する。 小テストは、採点をして返却する。					
定期試験							
その他							

評価の方法：自由記載	
受講の心得	予習と復習を必ず行うこと。分からないことは、オフィスアワーの時間を活用して調べておくこと。
授業外学習	1 予習として、授業で配付される資料等を読み、疑問点を明らかにする。 2 復習として、授業で提示された課題のレポートを書く。 3 発展学習として、授業で紹介された参考文献や資料等を読む。 以上の内容を、適当に94時間以上学習すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載

その他	小学校コースは必ず履修し、確実に単位を修得すること。
備考	R4.4.1改訂
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. 小学校教員として求められる専門的な知識を身につけることができる。	小学校教員として求められる専門的な知識を身につけることができる。	小学校教員として求められる専門的な知識を身につけることがほぼできている。	小学校教員として求められる基本的な知識を身につけることができる。	小学校教員として求められる知識を身につけることが十分ではない。	小学校教員として求められる知識を身につけることができない。
技能	1. 小学校教員として求められる教職に関する技能を身につけることができる。	小学校教員として求められる教職に関する技能を身につけることができる。	小学校教員として求められる教職に関する技能を身につけることがほぼできている。	小学校教員として求められる教職に関する基本的な技能を身につけることができる。	小学校教員として求められる教職に関する技能が十分ではない。	小学校教員として求められる教職に関する技能を身につけることができない。

科目名	保育実践研究Ⅰa			授業番号	CO431a	サブタイトル	
教員	伊藤 智里、佐々木 弘紀、青藤 佳子、山田 恵子、園田 祥子、岡崎 三鈴、大田原 晏美						
単位数	1単位	開講年次	4年	開講期	前期	授業形態	演習
必修・選択				必修・選択	選択		
授業概要	必修科目及び選択必修科目の履修状況や保育・教育実習を通しての学び等を踏まえ、保育の本質・目的、子ども理解の在り方、保育の内容・方法、保育の表現技術等、子どもの見方や保育教育現場の現状や課題を実践的に研究する。						
到達目標	1. 保育に関する科目横断的な学習能力を習得する。 2. 保育に関する現代的課題についての現状分析、考察、検討を行う。 なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学上力の内容のうち、<知識・理解> <思考・問題解決能力> <技能> <態度>の修得に貢献する。						
授業計画 備考							
回	概要					担当	
第1回	保育の理念と概念について 保育職に就くにあたって必須となる保育の理念についての知識を再確認し、社会人・保育者として必要な知識と視点について確認する。合わせて、保育に必要な基礎的知識を確認する。					佐々木、伊藤	
第2回	身体表現(1)幼児と身体表現 幼児の発達過程に合わせた身体表現についての知識を再確認しながら、実際に幼児の身体表現活動を追体験する。					大田原	
第3回	身体表現(2)リズム表現 リズムに合わせた身体表現の指導法について確認し、子どもが行うことができるリズム表現を実践する。					大田原	
第4回	身体表現(3)音楽と身体表現 子どもの表現は総合的に行われることを理解し、音楽に合わせた身体表現活動について検討し、実践する。					大田原	
第5回	教育法規 教育基本法、学校教育法、幼稚園教育要領等における教育法規の中にある幼児教育の基本的事項について再確認し、保育者に求められる責務について検討する。合わせて、保育に必要な基礎的知識を確認する。					伊藤、佐々木	
第6回	子どもに関する福祉の制度・施策と法令 保育者として必要な子どもに関する福祉の制度・施策や法令等についての知識の習得を確認する。合わせて、保育に必要な基礎的知識を確認する。					青藤、佐々木	
第7回	子どもの食と栄養 保育者として必要な子どもの食生活や栄養に関する知識の習得を確認し、子どもの発達と食生活の関連について理解を深める。合わせて、保育に必要な基礎的知識を確認する。					青藤、佐々木	
第8回	子どもの感染症と疾病への対応 保育者として必要な子どもの感染症と疾病等への適切な対応についての知識の習得を確認する。合わせて、保育に必要な基礎的知識を確認する。					青藤、佐々木	
第9回	保育者の教養(1) 子どもの保育・教育を行う上で必要となる最低限の知識の習得を確認する。 (1)では、教養的処遇をともなう論理的思考が獲得されているかを確認する。					園田	
第10回	保育者の教養(2) 子どもの保育・教育を行う上で必要となる最低限の知識の習得を確認する。 (2)では、教養的処遇以外の部分でも論理的思考が獲得されているかを確認する。					園田	
第11回	保育の心理学 特に乳幼児期において、実践の場でみられる子どもの行動が、認知発達とどのように結びついているかを理解する。					園田	
第12回	保育実践(1) 乳幼児の発達の特徴の確認と各年齢にふさわしい保育計画と遊びのプログラム開発・実践。 ①では、各年齢の発達や子どもの育ちに適した運動遊びの紹介と指導法の確認を行う。					岡崎	
第13回	保育実践(2) 乳幼児の発達の特徴の確認と各年齢にふさわしい保育計画と遊びのプログラム開発・実践。 ②では、各年齢の発達や子どもの育ちに適したリトミックの紹介と指導法の確認を行う。					岡崎	
第14回	保育実践(3) 乳幼児の発達の特徴の確認と各年齢にふさわしい保育計画と遊びのプログラム開発・実践。 ③では、各年齢の発達や子どもの育ちに適した児童文化財を用いた活動の紹介と指導法の確認を行う。					岡崎	
第15回	保育者として働くことに関する事項 就職後の自己研鑽等、実習では実践できない内容を知識として再確認する。合わせて、保育に必要な基礎的知識を確認する。					伊藤、佐々木	
授業計画 備考2							
評価の方法							
	種別	割合	評価基準・その態備考				
	授業への取り組みの姿勢/態度	10	意欲的な受講態度、発表・討議への参加、予・復習の状況によって評価する。				
	レポート	50	課題に対して適切な内容であること、コメントして返却、または授業内でワード/リンクを行う。				
	小テスト	40	各テストのテーマの理解度を評価する。				

評価の方法：自由記載	
受講の心得	理論と実践をつなげ、4年間の学びがさらに深まるよう、保育教育現場の現状や課題等に問題意識を持って積極的に取り組むこと。
授業外学習	予・復習を行い、疑問点を明らかにして授業に臨むこと。 以上の内容を、適当に1時間以上学習すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト：自由記載	適宜紹介する。			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	適宜紹介する。			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の業務経験の有無	無			
担当教員の業務経験				
担当教員以外で指導に関わる業務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる業務経験者				
業務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー「学力」)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分レベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. 保育に関する科目横断的な知識を習得する。	保育に関する科目の内容を横断的に見て関係性を理解し、生涯学習を鑑みて前職した保育の位置づけについて理解することができる。	保育に関する科目の内容を横断的につなげることを知り、保育の全体像について理解し、小学校との接続に向けた保育の位置づけについて理解することができる。	保育に関する科目の内容を横断的につなげることを知り、保育の全体像について理解することができる。	保育に関する科目の内容を横断的につなげて理解することができる。	保育に関する科目の内容を横断的に観る視点が不十分である。
知識・理解	2. 保育に関する知識を確認する。	今までに習得した保育に関する知識について再確認し保育職に就いたことを想定して具体的・発展的に内容理解を深めることができる。	今までに習得した保育に関する知識について再確認し保育職に就いたことを想定して具体的に内容理解を深めることができる。	今までに習得した保育に関する知識について再確認し保育職に就いたことを想定して内容を理解することができる。	今までに習得した保育に関する知識について再確認し内容を理解することができる。	保育に関する知識の再確認をしたが知識として定着が不十分である。
思考・問題解決能力	1. 保育に関する現代的課題について現状分析、考察、検討を行う。	保育に関する現代的課題について授業提示した内容に加えて、自分で調べ、現状分析、考察を行い、自分なりの解決策を考えることができる。	保育に関する現代的課題について授業提示した内容に加えて、自分で調べ、現状分析、考察を行うことができる。	保育に関する現代的課題について授業提示した内容について調べ、現状分析、考察を行うことができる。	保育に関する現代的課題について授業提示した内容について調べることができる。	保育に関する現代的課題について授業提示した内容についての調査、現状分析が不十分である。
技能	1. 保育現場で活用できる実践的な技能の活用を行う。	今まで習得してきた保育活動の知識を、より実践的な内容に発展させ、年齢に合わせて保育現場で活動することが可能な指導法を確認し実践することができる。	今まで習得してきた保育活動の知識を、より実践的な内容に発展させ、保育現場で活動することが可能な指導法を確認し実践することができる。	今まで習得してきた保育活動の知識をもとに、保育現場で活動することが可能な指導法を確認し実践することができる。	今まで習得してきた保育活動の知識を用いて子どもと活動する事を想定して実践することができる。	子どもと活動することを想定した保育活動実践が不十分である。
態度	1. 主体性を持って、活動することができる。	課外の予習・復習で、発表等の準備を事前に十分に行い、授業に主体性を持って積極的に参加することができる。	課外の予習・復習で発表等の準備を事前に行うことができ、授業に積極的に参加することができる。	発表等の事前準備を行うことができ、授業に積極的に参加することができる。	発表等の準備が不十分であるが、授業には積極的に参加することができる。	発表等の準備が不十分であり授業への参加も消極的である。

科目名	保育実践研究Ⅰβ			授業番号	CO431b	サブタイトル	
教員	伊藤 智里、佐々木 弘紀、青藤 桂子、山田 恵子、園田 祥子、岡崎 三鈴、大田原 晏美						
単位数	1単位	開講年次	4年	開講期	前期	授業形態	演習
必修・選択				必修・選択	選択		
授業概要	必修科目及び選択必修科目の履修状況や保育・教育実習を通しての学び等を踏まえ、保育の本質・目的、子ども理解の在り方、保育の内容・方法、保育の表現技術等、子どもの見方や保育教育現場の現状や課題を実践的に研究する。						
到達目標	1. 保育に関する科目横断的な学習能力を習得する。 2. 保育に関する現代的課題についての現状分析、考察、検討を行う。 なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学上力の内容のうち、<知識・理解> <思考・問題解決能力> <技能> <態度>の修得に貢献する。						
授業計画 備考							
回	概要					担当	
第1回	保育の理念と概念について 保育職に就くにあたって必須となる保育の理念についての知識を再確認し、社会人・保育者として必要な知識と視点について確認する。合わせて、保育に必要な基礎的知識を確認する。					佐々木、伊藤	
第2回	身体表現(1)幼児と身体表現 幼児の発達過程に合わせた身体表現についての知識を再確認しながら、実際に幼児の身体表現活動を追体験する。					大田原	
第3回	身体表現(2)リズム表現 リズムに合わせた身体表現の指導法について確認し、子どもと行うことができるリズム表現を実践する。					大田原	
第4回	身体表現(3)音楽と身体表現 子どもの表現は総合的に行われることを理解し、音楽に合わせた身体表現活動について検討し、実践する。					大田原	
第5回	教育法規 教育基本法、学校教育法、幼稚園教育要領等における教育法規の中にある幼児教育の基本的事項について再確認し、保育者に求められる責務について検討する。合わせて、保育に必要な基礎的知識を確認する。					伊藤、佐々木	
第6回	子どもに関する福祉の制度・施策と法令 保育者として必要な子どもに関する福祉の制度・施策や法令等についての知識の習得を確認する。合わせて、保育に必要な基礎的知識を確認する。					青藤、佐々木	
第7回	子どもの食と栄養 保育者として必要な子どもの食生活や栄養に関する知識の習得を確認し、子どもの発達と食生活の関連について理解を深める。合わせて、保育に必要な基礎的知識を確認する。					青藤、佐々木	
第8回	子どもの感染症と疾病への対応 保育者として必要な子どもの感染症と疾病等への適切な対応についての知識の習得を確認する。合わせて、保育に必要な基礎的知識を確認する。					青藤、佐々木	
第9回	保育者の教養(1) 子どもの保育・教育を行う上で必要となる最低限の知識の習得を確認する。 (1)では、教養的処遇をともなう論理的思考が獲得されているかを確認する。					園田	
第10回	保育者の教養(2) 子どもの保育・教育を行う上で必要となる最低限の知識の習得を確認する。 (2)では、教養的処遇以外の部分でも論理的思考が獲得されているかを確認する。					園田	
第11回	保育の心理学 特に乳幼児期において、実践の場でみられる子どもの行動が、認知発達とどのように結びついているかを理解する。					園田	
第12回	保育実践(1) 乳幼児の発達の特徴の確認と各年齢にふさわしい保育計画と遊びのプログラム開発・実践。 ①では、各年齢の発達や子どもの育ちに適した運動遊びの紹介と指導法の確認を行う。					岡崎	
第13回	保育実践(2) 乳幼児の発達の特徴の確認と各年齢にふさわしい保育計画と遊びのプログラム開発・実践。 ②では、各年齢の発達や子どもの育ちに適したリトミックの紹介と指導法の確認を行う。					岡崎	
第14回	保育実践(3) 乳幼児の発達の特徴の確認と各年齢にふさわしい保育計画と遊びのプログラム開発・実践。 ③では、各年齢の発達や子どもの育ちに適した児童文化財を用いた活動の紹介と指導法の確認を行う。					岡崎	
第15回	保育者として働くことに関する事項 就職後の自己研鑽等、実習では実践できない内容を知識として再確認する。合わせて、保育に必要な基礎的知識を確認する。					伊藤、佐々木	
授業計画 備考2							
評価の方法							
	種別	割合	評価基準・その態備考				
	授業への取り組みの姿勢/態度	10	意欲的な受講態度、発表・討議への参加、予・復習の状況によって評価する。				
	レポート	50	課題に対して適切な内容であること、コメントして返却、または授業内でワード/リンクを行う。				
	小テスト	40	各テストのテーマの理解度を評価する。				

評価の方法：自由記載	
受講の心得	理論と実践をつなげ、4年間の学びがさらに深まるよう、保育教育現場の現状や課題等に問題意識を持って積極的に取り組むこと。
授業外学習	予・復習を行い、疑問点を明らかにして授業に臨むこと。 以上の内容を、適当に1時間以上学習すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト：自由記載	適宜紹介する。			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	適宜紹介する。			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の業務経験の有無	無			
担当教員の業務経験				
担当教員以外で指導に関わる業務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる業務経験者				
業務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分レベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. 保育に関する科目横断的な知識を習得する。	保育に関する科目の内容を横断的に見て関係性を理解し、生涯学習を鑑みて前職した保育の位置づけについて理解することができる。	保育に関する科目の内容を横断的につなげることを知り、保育の全体像について理解し、小学校との接続に向けた保育の位置づけについて理解することができる。	保育に関する科目の内容を横断的につなげることを知り、保育の全体像について理解することができる。	保育に関する科目の内容を横断的につなげて理解することができる。	保育に関する科目の内容を横断的に観る視点が不十分である。
知識・理解	2. 保育に関する知識を確認する。	今までに習得した保育に関する知識について再確認し保育職に就いたことを想定して具体的な・発展的に内容理解を深めることができる。	今までに習得した保育に関する知識について再確認し保育職に就いたことを想定して具体的に内容理解を深めることができる。	今までに習得した保育に関する知識について再確認し保育職に就いたことを想定して内容を理解することができる。	今までに習得した保育に関する知識について再確認し内容を理解することができる。	保育に関する知識の再確認をしたが知識として定着が不十分である。
思考・問題解決能力	1. 保育に関する現代的課題について現状分析、考察、検討を行う。	保育に関する現代的課題について授業提示した内容に加えて、自分で調べ、現状分析、考察を行い、自分なりの解決策を考案することができる。	保育に関する現代的課題について授業提示した内容に加えて、自分で調べ、現状分析、考察を行うことができる。	保育に関する現代的課題について授業提示した内容について調べ、現状分析、考察を行うことができる。	保育に関する現代的課題について授業提示した内容について調べることができる。	保育に関する現代的課題について授業提示した内容についての調査、現状分析が不十分である。
技能	1. 保育現場で活用できる実践的な技能の活用を行う。	今まで習得してきた保育活動の知識を、より実践的な内容に発展させ、年齢に合わせて保育現場で活動することが可能な指導法を確認し実践することができる。	今まで習得してきた保育活動の知識を、より実践的な内容に発展させ、保育現場で活動することが可能な指導法を確認し実践することができる。	今まで習得してきた保育活動の知識をもとに、保育現場で活動することが可能な指導法を確認し実践することができる。	今まで習得してきた保育活動の知識を用いて子どもと活動する事を想定して実践することができる。	子どもと活動することを想定した保育活動実践が不十分である。
態度	1. 主体性を持って、活動することができる。	課外の予習・復習で、発表等の準備を事前に十分に行い、授業に主体性を持って積極的に参加することができる。	課外の予習・復習で発表等の準備を事前に行うことができ、授業に積極的に参加することができる。	発表等の事前準備を行うことができ、授業に積極的に参加することができる。	発表等の準備が不十分であるが、授業には積極的に参加することができる。	発表等の準備が不十分であり授業への参加も消極的である。

科目名	保育実践研究Ⅱa			授業番号	CO432a	サブタイトル	
教員	伊藤 智里、佐々木 弘紀、齊藤 佳子、岡田 祥子、岡崎 三鈴、大田原 優美						
単位数	1単位	開講年次	4年	開講期	後期	授業形態	演習
授業概要	必修科目及び選択必修科目の履修状況や保育・教育実習を通しての学び等を踏まえ、保育者として必要な知識技能を修得したことを確認する。保育実践並びに保育相談、育児相談、園及びクラス運営の在り方、専門機関との連携等について、実践的に研究する。						
到達目標	1, 問題解決のための対応, 判断方法等について学びを深める。 2, 必修科目及び選択必修科目の履修状況を踏まえ、自らの学びを振り返り、保育者として必要な知識・技能を習得したことを確認する。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。						
授業計画 備考							
回	概要					担当	
第1回	造形実技について(1) 保育活動を指導する際に必要な基礎的な描画材の扱い方について再確認し、造形遊びを行う。					伊藤	
第2回	造形実技について(2) 保育現場で使用する、廃材、粘土などを使った立体造形についての知識を確認し、造形遊びを行う。					伊藤	
第3回	子どもと身体表現について 保育実践研究Ⅰで行った身体表現活動を評価・改善し、発展的に身体表現活動を行う。					大田原	
第4回	子どもとわらべ歌について わらべ歌の意義と保育での役割について再確認し、模擬保育を行う。					大田原	
第5回	手遊びについて 手遊びについての知識や実践した内容を再確認し、保育における手遊びについて発展的に実践する。					大田原	
第6回	食育の計画と保育実践 幼児にまつわる現代的課題の一つである食育について、幼児の食への興味や関心を高めるための様々な指導方法を学ぶ。					齊藤	
第7回	幼児のおやつ調理(1)食物アレルギーと調理の衛生管理 幼児のおやつと園での食育活動の展開について、クッキング保育を行う上で必要となる知識・技術を習得する。					齊藤	
第8回	幼児のおやつ調理(2)食物アレルギーと調理の衛生管理 幼児のおやつと園での食育活動の展開について、クッキング保育を行う上で必要となる知識・技術を習得する。					齊藤	
第9回	保育相談について 基本的なカウンセリング技法を用いた演習を行い、保育者として保護者や他の保育者の相談に乗るうえで必要となるカウンセリングマインドを理解する。					岡田	
第10回	外部機関との連携について 実際に自らが将来勤務するであろう地域における福祉施設や行政によるサービスなどを調べ、連携するために知っておくべき基本的知識を確認する。					岡田	
第11回	保育の総合的支援について 保育現場において問題となりやすいことについてモデルケースを用いて検討し、これまで得てきた知識の活用を意図する。					岡田	
第12回	保育実践(1) 乳幼児の発達的特徴の確認と各年齢にふさわしい保育計画と遊びのプログラム開発・実践。 ①では、各年齢の発達や子どもの育ちに選んだ春・夏の行事の紹介と指導法の確認を行う。					岡崎	
第13回	保育実践(2) 乳幼児の発達的特徴の確認と各年齢にふさわしい保育計画と遊びのプログラム開発・実践。 ②では、各年齢の発達や子どもの育ちに選んだ秋・冬の行事の紹介と指導法の確認を行う。					岡崎	
第14回	保育実践(3) 乳幼児の発達的特徴の確認と各年齢にふさわしい保育計画と遊びのプログラム開発・実践。 ③では、各年齢の発達や子どもの育ちに選んだ連年の行事の紹介と指導法の確認を行う。					岡崎	
第15回	資質能力の確認 実習等の学びを踏まえ、保育者として必要な知識技能を習得したことを確認し、保育者になる際の自らの課題について検討する。					佐々木, 伊藤	
授業計画 備考2							
評価の方法							
	種別	割合	評価基準・その態備考				
	授業への取り組みの姿勢/態度	20	意欲的な受講態度、発表・討議への参加、予・復習の状況によって評価する。				
	レポート	50	課題に適切な内容で作成していることについて評価する。コメントを記入して返却、または授業でのフィードバックを行う。				
	小テスト	30	最終的な理解度を評価する。				

評価の方法：自由記載	
受講の心得	理論と実践をつなげ、4年間の学びがさらに深まるよう、保育教育現場の現状や課題等に問題意識を持って積極的に取り組むこと。
授業外学習	1. 予・復習を行い、疑問点を明らかにして授業に臨む。 2. 発表の担当の際には、準備を怠らず分かりやすく報告すること。 以上の内容を、週当たり1時間以上学習すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載

適宜紹介する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載

適宜紹介する。

その他

--

備考

--

注意事項

・幼児のおやつ調理では、材料代として300円程度徴収します。

担当教員の業務経験の有無

無

担当教員の業務経験

--

担当教員以外で指導に関わる業務経験者の有無

無

担当教員以外で指導に関わる業務経験者

--

業務経験をいかした教育内容

--

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. 必修科目及び選択必修科目の履修状況等を踏まえ、自らの学びを振り返り、保育者として必要な知識・技能を習得したことを確認する。	必修科目及び選択必修科目の履修状況等を踏まえ、自らの学びを振り返り、保育者として必要な知識・技能を習得したことを自分なりにまとめ説明することができる。	必修科目及び選択必修科目の履修状況等を踏まえ、自らの学びを振り返り、保育者として必要な知識・技能を習得したことを確認し自分なりにまとめることができる。	必修科目及び選択必修科目の履修状況等を踏まえ、自らの学びを振り返り、保育者として必要な知識・技能を習得したことを確認することができる。	必修科目及び選択必修科目の履修状況等を踏まえ、保育者として必要な知識・技能を習得したことを確認することができる。	必修科目及び選択必修科目の履修状況等を踏まえ、自らの学びを振り返ることが不十分である。
思考・問題解決能力	1. 問題解決のための対応、判断方法について学びを深める。	保育に関する現代的課題について授業提示した内容に加えて、自分で調べ、現状分析を行い、既存の対応、判断方法を元に、自分なりの解決案を考えることができる。	保育に関する現代的課題について授業提示した内容について、自分で調べ、現状分析を行い、既存の対応、判断方法について考察を行うことができる。	保育に関する現代的課題について授業提示した内容について調べ、現状分析を行い、既存の対応、判断方法について理解することができる。	保育に関する現代的課題について授業提示した内容の問題解決の対応について理解する事ができる。	保育に関する現代的課題について授業提示した内容についての対応、判断方法への理解が不十分である。
技能	1. 保育現場で活用できる実践的な技能の活用を行う。	今まで習得してきた保育活動の知識を、より実践的な内容に発展させ、年齢に合わせて保育現場で活動することが可能な状態で実践することができる。	今まで習得してきた保育活動の知識を、より実践的な内容に発展させ、保育現場で活動することが可能な状態で実践することができる。	今まで習得してきた保育活動の知識を、保育現場で活動することが可能な状態で実践することができる。	今まで習得してきた保育活動の知識を用いて子どもと活動する事を想定して実践することができる。	子どもと活動することを想定した保育活動実践が不十分である。
態度	1. 主体性を持って、活動することができる。	課外の予習・復習で、発表等の準備を事前に十分に行い、授業に主体性を持って積極的に参加することができる。	課外の予習・復習で発表等の準備を事前に行うことができ、授業に積極的に参加することができる。	発表等の事前準備を行うことができ、授業に積極的に参加することができる。	発表等の準備が不十分であるが、授業には積極的に参加することができる。	発表等の準備が不十分であり授業への参加も消極的である。

科目名	保育実践研究Ⅱβ			授業番号	CO432b	サブタイトル	
教員	伊藤 智里、佐々木 弘紀、齊藤 佳子、岡田 祥子、岡崎 三鈴、大田原 優美						
単位数	1単位	開講年次	4年	開講期	後期	授業形態	演習
必修・選択	必修・選択		選択				
授業概要	必修科目及び選択必修科目の履修状況や保育・教育実習を通しての学び等を踏まえ、保育者として必要な知識技能を修得したことを確認する。保育実践並びに保育相談、育児相談、園及びクラス運営の在り方、専門機関との連携等について、実践的に研究する。						
到達目標	1, 問題解決のための対応, 判断方法等について学びを深める。 2, 必修科目及び選択科目の履修状況を踏まえ、自らの学びを振り返り、保育者として必要な知識・技能を習得したことを確認する。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。						
授業計画 備考							
回	概要					担当	
第1回	造形実技について(1) 保育活動を指導する際に必要な基礎的な描画材の扱い方について再確認し、造形遊びを行う。					伊藤	
第2回	造形実技について(2) 保育現場で使用する、廃材、粘土などを使った立体造形についての知識を確認し、造形遊びを行う。					伊藤	
第3回	子どもと身体表現について 保育実践研究Ⅰで行った身体表現活動を評価・改善し、発展的に身体表現活動を行う。					大田原	
第4回	子どもとわらべ歌について わらべ歌の意義と保育での役割について再確認し、模擬保育を行う。					大田原	
第5回	手遊びについて 手遊びについての知識や実践した内容を再確認し、保育における手遊びについて発展的に実践する。					大田原	
第6回	食育の計画と保育実践 幼児にまつる現代的課題の一つである食育について、幼児の食への興味や関心を高めるための様々な指導方法を学ぶ。					齊藤	
第7回	幼児のおやつ調理(1)食物アレルギーと調理の衛生管理 幼児のおやつと園での食育活動の展開について、クッキング保育を行う上で必要となる知識・技術を習得する。					齊藤	
第8回	幼児のおやつ調理(2)食物アレルギーと調理の衛生管理 幼児のおやつと園での食育活動の展開について、クッキング保育を行う上で必要となる知識・技術を習得する。					齊藤	
第9回	保育相談について 基本的なカウンセリング技法を用いた演習を行い、保育者として保護者や他の保育者の相談に乗るうえで必要となるカウンセリングマインドを理解する。					岡田	
第10回	外部機関との連携について 実際に自らが将来勤務するであろう地域における福祉施設や行政によるサービスなどを調べ、連携するために知っておくべき基本的知識を確認する。					岡田	
第11回	保育の総合的支援について 保育現場において問題となりやすいことについてモデルケースを用いて検討し、これまで得てきた知識の活用を意図する。					岡田	
第12回	保育実践(1) 乳幼児の発達的特徴の確認と各年齢にふさわしい保育計画と遊びのプログラム開発・実践。 ①では、各年齢の発達や子どもの育ちに選んだ春・夏の行事の紹介と指導法の確認を行う。					岡崎	
第13回	保育実践(2) 乳幼児の発達的特徴の確認と各年齢にふさわしい保育計画と遊びのプログラム開発・実践。 ②では、各年齢の発達や子どもの育ちに選んだ秋・冬の行事の紹介と指導法の確認を行う。					岡崎	
第14回	保育実践(3) 乳幼児の発達的特徴の確認と各年齢にふさわしい保育計画と遊びのプログラム開発・実践。 ③では、各年齢の発達や子どもの育ちに選んだ連年の行事の紹介と指導法の確認を行う。					岡崎	
第15回	資質能力の確認 実習等の学びを踏まえ、保育者として必要な知識技能を習得したことを確認し、保育者になる際の自らの課題について検討する。					佐々木、伊藤	
授業計画 備考2							
評価の方法							
種別	割合	評価基準・その態備考					
授業への取り組みの姿勢/態度	20	意欲的な受講態度、発表・討議への参加、予・復習の状況によって評価する。					
レポート	50	課題に適切な内容で作成していることについて評価する。コメントを記入して返却、または授業でのフィードバックを行う。					
小テスト	30	最終的な理解度を評価する。					

評価の方法：自由記載	
受講の心得	理論と実践をつなげ、4年間の学びがさらに深まるよう、保育教育現場の現状や課題等に問題意識を持って積極的に取り組むこと。
授業外学習	1. 予・復習を行い、疑問点を明らかにして授業に臨む。 2. 発表の担当の際には、準備を怠らず分かりやすく報告すること。 以上の内容を、週当たり1時間以上学習すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載

適宜紹介する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載

適宜紹介する。

その他

--

備考

--

注意事項

・幼児のおやつ調理では、材料代として300円程度徴収します。

担当教員の業務経験の有無

無

担当教員の業務経験

--

担当教員以外で指導に関わる業務経験者の有無

無

担当教員以外で指導に関わる業務経験者

--

業務経験をいかした教育内容

--

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. 必修科目及び選択必修科目の履修状況等を踏まえ、自らの学びを振り返り、保育者として必要な知識・技能を習得したことを確認する。	必修科目及び選択必修科目の履修状況等を踏まえ、自らの学びを振り返り、保育者として必要な知識・技能を習得したことを自分なりにまとめ説明することができる。	必修科目及び選択必修科目の履修状況等を踏まえ、自らの学びを振り返り、保育者として必要な知識・技能を習得したことを確認し自分なりにまとめることができる。	必修科目及び選択必修科目の履修状況等を踏まえ、自らの学びを振り返り、保育者として必要な知識・技能を習得したことを確認することができる。	必修科目及び選択必修科目の履修状況等を踏まえ、保育者として必要な知識・技能を踏まえ、自らの学びを振り返り、保育者として必要な知識・技能を習得したことを確認することができる。	必修科目及び選択必修科目の履修状況等を踏まえ、自らの学びを振り返ることが不十分である。
思考・問題解決能力	1. 問題解決のための対応、判断方法について学びを深める。	保育に関する現代的課題について授業提示した内容に加えて、自分で調べ、現状分析を行い、既存の対応、判断方法を元に、自分なりの解決案を考えることができる。	保育に関する現代的課題について授業提示した内容について、自分で調べ、現状分析を行い、既存の対応、判断方法について考察を行うことができる。	保育に関する現代的課題について授業提示した内容について調べ、現状分析を行い、既存の対応、判断方法について理解することができる。	保育に関する現代的課題について授業提示した内容の問題解決の対応について理解する事ができる。	保育に関する現代的課題について授業提示した内容についての対応、判断方法への理解が不十分である。
技能	1. 保育現場で活用できる実践的な技能の活用を行う。	今まで習得してきた保育活動の知識を、より実践的な内容に発展させ、年齢に合わせて保育現場で活動することが可能な状態で実践することができる。	今まで習得してきた保育活動の知識を、より実践的な内容に発展させ、保育現場で活動することが可能な状態で実践することができる。	今まで習得してきた保育活動の知識を、保育現場で活動することが可能な状態で実践することができる。	今まで習得してきた保育活動の知識を用いて子どもと活動する事を想定して実践することができる。	子どもと活動することを想定した保育活動実践が不十分である。
態度	1. 主体性を持って、活動することができる。	課外の予習・復習で、発表等の準備を事前に十分に行い、授業に主体性を持って積極的に参加することができる。	課外の予習・復習で発表等の準備を事前に行うことができ、授業に積極的に参加することができる。	発表等の事前準備を行うことができ、授業に積極的に参加することができる。	発表等の準備が不十分であるが、授業には積極的に参加することができる。	発表等の準備が不十分であり授業への参加も消極的である。

科目名	小学校教育基礎演習			授業番号	CP126	サブタイトル	
教員	森寺 勝之、山田 恵子、満田 知茂						
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	演習
							必修・選択
選択							
授業概要	小学校教員を養成するための基礎科目として、教職に関する基礎的な理解を深めることを目的とする。						
到達目標	基礎的な小学校教員の職務内容について理解し、自分自身の適性について考える。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈態度〉の修得に貢献する。						
授業計画 備考							
回	概要					担当	
第1回	小学校の教師になるとはどのようなことなのか考える					森寺	
第2回	どんな小学校教師になりたいのか考える					森寺	
第3回	教員免許状はどのように授与されるのかを知る					森寺	
第4回	教員採用試験について 大学探検(生活科・体験活動)活動の準備					森寺	
第5回	大学探検 大学の施設を調査する(生活科・体験活動)					森寺	
第6回	大学探検 報告会					森寺	
第7回	教師と法律について考える					森寺	
第8回	授業ボランティアについて考える(1)					森寺	
第9回	授業ボランティアについて考える(2)					森寺	
第10回	授業ボランティアのまとめ(感想発表)					森寺	
第11回	教師と子どもの関係について考える					森寺	
第12回	教師の仕事について考える					森寺	
第13回	小学校体育体験(低学年「体ほぐしの運動遊び」「多様な動きをつくる運動遊び」、中学年「体ほぐしの運動」及び「多様な動きをつくる運動」)(体験)					満田	
第14回	子どもがつながる・子どもが楽しむ 学級ゲームを体験する (体験活動)					森寺	
第15回	授業のまとめと最終レポートを作成する					森寺	
授業計画 備考2							
評価の方法							
	種別	割合	評価基準・その他備考				
	授業への取り組みの姿勢/態度	50	発表や係など意欲的な受講態度、課題提出の完成度、予習・復習の状況等によって評価する。				
	レポート	50	レポートの記述内容と提出状況または小テストで評価する。				
	定期試験						
	その他						

評価の方法：自由記載	
受講の心得	小学校教員を目指す学生を対象としている授業である。高い意欲を持って受講すること。
授業外学習	1 予習として、事前に配布された資料を読み、疑問点を明らかにする。 2 復習として、授業内容・配布資料をノートにまとめる。 3 発展学習として、授業に関連した参考資料・文献を読み、ノートにまとめる。 以上の内容を、適当に4時間以上学習すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載

その他

備考

注意事項

担当教員の実務経験の有無

有

担当教員の实務経験

教員(教頭を含む)16年・岡山県教育委員会専門的教育職員16年・校長7年

担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無

無

担当教員以外で指導に関わる実務経験者

実務経験をいかした教育内容

学校現場や教育委員会での体験を通して得た実践的な知見を学生に伝えることで、実感を伴った理解を促し、学習指導力、生徒指導力などの実践的指導力の向上に努める。

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 基礎的な小学校教員の職務内容について理解し、自分自身の適性について考えることができる。	基礎的な小学校教員の職務内容および、自分自身の適性について十分に理解している。	基礎的な小学校教員の職務内容および、自分自身の適性について概ね理解している。	基礎的な小学校教員の職務内容および、自分自身の適性について普通に理解している。	基礎的な小学校教員の職務内容および、自分自身の適性について理解がやや不十分である。	基礎的な小学校教員の職務内容および、自分自身の適性について全く理解できていない。
態度	1. 提出物や学習態度	レポート、ノートなどの提出物について、授業提示の内容を適切にまとめ、自分で調べるなどして内容が発展的に充足している。あわせて、提出期限内に提出ができる。	レポート、ノートなどの提出物について、授業提示の内容を自分なりにまとめ、工夫して作成することができる。あわせて提出期限内に提出ができる。	レポート、ノートなどの提出物について授業提示した内容が適切にまとめられており、期限内に提出することができる。	レポート、ノートなどの提出物について授業提示した内容が不十分であるが自分なりに工夫して提出することができる。	レポート、ノートなどの提出物について授業提示した内容が不十分である。または、提出されない。

科目名	教育原理		授業番号	CP201	サブタイトル				
教員	中田 周作								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	講義形式で、教育の基本的な事項について学習していく。 特に、教育とは何かという根源的な問いと、教育行政や学校教育制度といった、児童・生徒の立場からは察し得ない事象に重点を置いて講義する。								
到達目標	現代社会における教育問題は、極めて複雑な様相を呈している。歴史的に蓄積された社会構造的な問題もあるだろうし、教育の目指すべき方向を再構築しなければならない問題もあるだろう。本講義では、こうした社会状況を踏まえつつ、これらの問題解決の一助となるよう、今一度、教育という問いの根源に立ち戻ることを目的とする。そのため、将来、教育に関わる者が、最低限、知っておかなければならない教育学に関する基礎的な事項について学習する。なお、本科目は、ディプロマポリシーに掲げた学士力のうち「知識・理解」＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
回	概要				担当				
第1回	現代の教育をめぐる諸問題 「正しい」教育の在り方をめぐる考察								
第2回	教育とは何か 教育の定義・人徳と教育								
第3回	教育の思想 西洋にみる教育の思想と実践								
第4回	教育の思想 幼児教育の思想と実践								
第5回	学校教育と学力、家庭 学校教育における学力と家庭の関係								
第6回	教員の養成とは 養成、採用、研修								
第7回	子どもの日常生活 学校、放課後、家庭における教育								
第8回	家庭と社会による教育 江戸期以前								
第9回	公教育とは 制度の成立とその思想								
第10回	学制とは 明治期の学校教育制度の成立と展開								
第11回	学校教育制度の成立と展開 明治期から大正期								
第12回	学校教育制度の成立と展開 昭和期から現在								
第13回	教育に関する主な法律 教育基本法、学校教育法、教育公務員特例法など								
第14回	教育に関する法令 教育職員免許法、地方教育行政の組織及び運営に関する法律、地方公務員法、いじめ防止対策推進法など								
第15回	現代社会における教育課題 生涯学習社会、令和の日本型学校教育								
授業計画 備考2									
評価の方法									
種別	割合	評価基準・その態備考							
最終試験	70	通常のペーパーテスト。基礎的な事項の学修達成を確認する。							
コメントペーパー	30	基本的には、毎回、提出する。 理解の状況の確認を行う。 提出物については、次回の授業の冒頭で共有し、コメントする。							

評価の方法：自由記載	適試の評価は試験のみとする。
受講の心得	テキストを事前に読んでおくこと。基本的な事項は暗記すること。
授業外学修	週当たり4時間以上。テキストを読むこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
コンパス 教育原理	古賀一博ほか編著	建栄社	978-4-7679-5130-0	2090
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	『教育六法』（どの出版社のものでも良い）			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の業務経験の有無	無			
担当教員の業務経験				
担当教員以外で指導に関わる業務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる業務経験者				
業務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー「学士力」)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. 教育の思想を理解できている。	①西洋の教育思想、②日本の教育思想、③幼児や児童に関する思想や実践の3点について、自分の言葉で説明することができる。	①西洋の教育思想、②日本の教育思想、③幼児や児童に関する思想や実践の3点について、周辺領域の知識とも関連付けて理解できている。	①西洋の教育思想、②日本の教育思想、③幼児や児童に関する思想や実践の3点について、概要を理解できている。	①西洋の教育思想、②日本の教育思想、③幼児や児童に関する思想や実践の3点について、キーワードを覚えている。	①西洋の教育思想、②日本の教育思想、③幼児や児童に関する思想や実践の3点についてのキーワードを覚えていない。
知識・理解	2. 教育の歴史を理解できている。	教育の歴史に係る重要事項について、その展開と社会的背景について理解している。	教育の歴史に係る重要事項の展開について理解している。	教育の歴史に係る重要事項について理解している。	教育の歴史に係るキーワードを覚えている。	教育の歴史に係るキーワードを覚えていない。
知識・理解	3. 学校教育の制度について理解できている。	学校教育の制度について、その展開の歴史と根拠となる法令を理解している。	学校教育の制度について、その展開の歴史、もしくは根拠となる法令を理解している。	学校教育の制度に関する重要事項について理解している。	学校教育の制度に関するキーワードを覚えている。	学校教育の制度に関するキーワードを覚えていない。
知識・理解	4. 教育に関する法令について理解できている。	教育に関する主要な法令と条文を多数、覚えているとともに、その条文がどのように解釈されているのかを理解している。	教育に関する主要な法令と条文を多数、覚えている。	教育に関する主要な法令と条文をいくつか覚えている。	教育に関する主要な法令の名称を覚えている。	教育に関する主要な法令の名称を覚えていない。
思考・問題解決能力	1. 身近な教育問題について考察することができる。	身近な教育問題を考察することを通して、自らの実践の質を向上させることができる。	身近な教育問題について学修内容に照らしながら考察することができる。	身近な教育問題について、自分の経験に基づき語るすることができる。	身近な教育問題について語るができる。	身近な教育問題を補足することができない。

科目名	教育史		授業番号	CP202	サブタイトル	
教員	梶井 一規					
単位数	2単位	開講年次	がレキラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態
						講義
						必修・選択
						選択
授業概要	本科目は、教職に関する科目のうち「教育の基礎理論に関する科目」の「教育に関する歴史及び思想」に関する事項を含むものである。現代の教育（目的、制度、内容および方法）へと続く歴史の過程と変化について、主に講義形式により教授する。基本的に前半は西洋の教育史、後半は日本の教育史とその西洋との影響関係について考察する。					
到達目標	以下の3つを到達目標とする。1.教育の歴史についての基本的な事項に関する知識を獲得する。2.獲得した知識をもとに教育の歴史に関する事象を説明する。3.獲得した知識をもとに現代の教育の課題について考察する。 なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。					
授業計画 備考						
回	概要					担当
第1回	教育への歴史的視点 授業の目的、概要、計画などを理解する。					
第2回	歴史のなかの教育 人間形成としての教育の意味について理解する。					
第3回	歴史のなかの学校 コモンズと教科書の歴史的意義について理解する。					
第4回	歴史のなかの子ども ルソー「子ども」の発見について理解する。					
第5回	教育対象としての子ども ヘルバートと教授学の成立について理解する。					
第6回	子どもを理解し、教育する ペスタロッチーとフレーベルの思想と実践について理解する。					
第7回	社会・経験・子ども デュイの教育理論を考察し、その示唆するところを理解する。					
第8回	教育の発達と動向と回顧 課題の探求と発表を行う。中間レポートを作成する。					
第9回	教育の方法の変化（1） 19世紀における教育の変化として、個別型から一斉型に移行したことの意味と課題について理解する。					
第10回	教育の方法の変化（2） 20世紀における教育の方法の変化として、教師中心と子ども中心の相克があったことについて理解する。					
第11回	教育の内容の変化 19-20世紀における教育の内容の変化として、全般主義と実用主義の相克があったことについて理解する。					
第12回	教育改革の歴史と課題（1） 戦前から戦後への教育の変化として、教育における権利と義務の関係について理解する。					
第13回	教育改革の歴史と課題（2） 戦後の教育改革におけるジレンマとして、教育における平等と自由の関係の問題があることを理解する。					
第14回	教員養成の歴史と課題 戦後の教育改革の到達のひととして、専門職としての教員のおかたについて理解する。					
第15回	まとめ 教育の過去と現在について、自分の教育経験をもふまえて振り返る。期末レポートを作成し、発表する。					
授業計画 備考2						
評価の方法						
	種別	割合	評価基準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度	40	意欲的な授業態度、発表・協議への参加、コメントシートにより評価する。			
	レポート（中間レポート）	30	主要点の理解度を評価する。 教育の思想家や実践者の特色と意義を考察できる。 課題提出後の授業で全体的な傾向についてコメントする。			
	小テスト					
	定期試験（期末レポート）	30	最終的な理解度を評価する。 教育の歴史について総合的な理解を得ることができる。 課題発表を行う授業（最終回）で全体的な傾向についてコメントする。			
	その他					

評価の方法：自由記載	
受講の心得	適宜、コメントシート（感想、意見、関心など）を使い、授業を進める。自ら学ぶ姿勢を保持し、授業に臨んでほしい。
授業外学修	予習として、授業内容にかかわる人物や事項を調べる。 復習として、授業で配布したプリントを読み直す。 発展学修として、授業で紹介される参考文献を読む。 以上の内容を、週あたり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト：自由記載	必要に応じ、授業でプリント資料を配布する。 なお、参考書を下記に示すので、読んで関心を広げることが推奨する。			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	1.尾上雅徳他編『新・教職課程演習』教育史（第2巻）、協同出版、2022年。 2.田中卓也他編『資料とアクティブラーニングで学ぶ初等・幼児教育』明文書林、2022年。 3.尾上雅徳他編『西洋教育史』ミネルヴァ書房、2018年。 4.梶井一純『映画のなかの字ひのコント』成蹊新聞社、2014年。			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の学修経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー「学士力」)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 西洋における教育の歴史について理解している。	学修した内容について、正確に理解し、述べることができる。	学修した内容について、ほぼ理解し、述べることができる。	学修した内容について、大体述べることができる。	学修した内容について、正確に述べることができないが、自分の言葉で表現できる。	学修した内容について、まったく表現できない。
知識・理解	2. 日本における教育の歴史について理解している。	学修した内容について、正確に理解し、述べることができる。	学修した内容について、ほぼ理解し、述べることができる。	学修した内容について、大体述べることができる。	学修した内容について、正確に述べることができないが、自分の言葉で表現できる。	学修した内容について、まったく表現できない。
知識・理解	3. 教育の歴史における西洋と日本の関係について理解している。	学修した内容について、正確に理解し、述べることができる。	学修した内容について、ほぼ理解し、述べることができる。	学修した内容について、大体述べることができる。	学修した内容について、正確に述べることができないが、自分の言葉で表現できる。	学修した内容について、まったく表現できない。
思考・問題解決能力	1. 現在の教育の状況や問題について、歴史の視点をもつて、その背景や原因を考察することができる。	課題に対し、論理的整合性をもち、多角的に考察している。	課題に対し、ほぼ論理的整合性をもちた考察を加えている。	課題に対し、自分の考えを述べることができる。	課題に対する結果を述べることができる。	課題を作成したが、指示事項にそっていない。
態度	1. レポートの発表・質問を積極的に行うことができる。	発表・質問を積極的に行い、疑問を解決し、講義内容を理解したうえで、適切なレポートやコメントシートを提出している。	発表・質問に前向きに臨む姿勢が見受けられ、講義内容を理解したうえで、レポートやコメントシートを提出している。	発表・質問に参加し、講義内容を理解したうえで、レポートやコメントシートを提出している。	発表・質問に参加し、レポートやコメントシートを提出しているが、理解が十分ではない。	発表・質問に参加しているが、レポートやコメントシートを提出していない。

科目名	教育方法学			授業番号	CP203	サブタイトル	
教員	住野 好久						
単位数	2単位	開講年次	3年	開講期	前期	授業形態	講義
						必修・選択	選択
授業概要	子どもたちに求められる資質・能力を育むために必要な教育の方法、技術を教授するとともに、情報機器及び教材の活用について教授する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちに求められる資質・能力を育むために必要な教育の方法を理解する。 教育の目的に照し指導技術を理解し、身につける。 情報機器を活用した効果的な授業や教材活用に関する基礎的な能力を身につける。 なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学上力の内容のうち、「知識・理解」(技能)の修得に貢献する。						
授業計画 備考							
回	概要					担当	
第1回	教育の方法(1) これまで受けてきた教育の方法 これまで受けてきた教育はどのような教育方法であったかを振り返る。					住野	
第2回	教育の方法(2) 教育的な教育の方法とは 教育的に教育するための方法とはどのようなものかを考える。					住野	
第3回	教育の方法(3) 教育方法の歴史(1)ソクラテス 古代から教育の方法は工夫されてきた。ソクラテスが編み出した「産婆術」とはどのような教育方法か?					住野	
第4回	教育の方法(4) 教育方法の歴史(2)ヘルバルト 近代を代表するヘルバルトによる「4段階教授法」とその弟子たちが編み出した「5段階教授法」を学ぶ。					住野	
第5回	教育の方法(5) 教育方法の歴史(3)デューイ 戦後日本の教育方法に大きな影響を及ぼしたデューイの「問題解決学習」を学ぶ。					住野	
第6回	教育の方法(6) 今求められている教育方法 今、求められている教育方法を「学習指導要領」等から学ぶ。					住野	
第7回	情報機器及び教材の活用(1) プログラム学習からICT活用授業へ 1960年代後半に登場した、コンピュータを活用した教育方法の出発点となった「プログラム学習」から今日のICT活用授業活用授業までの変遷を学ぶ。					住野	
第8回	情報機器及び教材の活用(2) ICT活用授業と個別最適な学び・協働的な学び 中央教育審議会が提唱した「個別最適な学び」「協働的な学び」の実現に対してICTの活用が有効であることを学ぶ。					住野	
第9回	教育の技術 (1) 相互主体的な授業のための技術 (1) 今求められる相互主体的な授業を実践するためのポイントを理解する。					住野	
第10回	教育の技術 (2) 相互主体的な授業のための技術 (2) 今求められる相互主体的な授業を実践するための教育内容の設定の仕方について理解する。					住野	
第11回	教育の技術 (3) 相互主体的な授業のための技術 (3) 今求められる相互主体的な授業を実践するための教材開発の仕方について理解する。					住野	
第12回	教育の技術 (4) 相互主体的な授業のための技術 (4) 今求められる相互主体的な授業を実践するための教授行為の工夫の仕方について理解する。					住野	
第13回	教育の技術(5) 指導プランの作成(1) これまで学習してきたことを踏まえて指導プランを作成する。					住野	
第14回	教育の技術(6) 指導プランの作成(2) これまで学習してきたことを踏まえて指導プランを作成する。					住野	
第15回	教育の技術(7) 指導プランの作成(3) これまで学習してきたことを踏まえて作成した指導プランを発表する。					住野	
授業計画 備考2							
評価の方法							
	種別	割合	評価基準・その態備考				
	授業への取り組みの姿勢/態度						
	レポート	30	本科目で学習したことを理解し、論理的に叙述すること				
	小テスト	40	各回の授業に提示される課題について、自分の考えを具体的に述べていること。				
	定期試験						
	指導プラン	30	授業で作成する指導プランの面白さ、精密さ、妥当性				

評価の方法：自由記載	
受講の心得	授業の最後に小テストを行うので、授業内容をしっかりと理解しようとし、不明な点は遠慮なく質問をすること。配付するプリント・資料などはファイルにし、整理しておくこと。
授業外学習	1 予習として、配付している資料をあらかじめ読み、疑問点を明らかにする。 2 復習として、課題のレポートを書く。 3 発展学習として、授業で紹介された参考文献を読む。 以上の内容を、週あたり4時間以上学習すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	授業の中でプリントを配布する。
-------------	-----------------

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	適宜、授業の中で紹介する。
----------	---------------

その他	
備考	

注意事項	
------	--

担当教員の実務経験の有無	無
--------------	---

担当教員の業務経験	
-----------	--

担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
-----------------------	---

担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
--------------------	--

実務経験をいかした教育内容	
---------------	--

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. 子どもたちに求められる資質・能力を育むために必要な教育の方法を理解する。	歴史的な教育方法の発展を理解した上で今日求められる教育方法を説明できる。	歴史的な教育方法の発展を理解した上で今日求められる教育方法を理解している。	歴史的な教育方法の発展も視野に入れて今日求められる教育方法を理解している。	歴史的な教育方法の発展は理解していないが、今日求められる教育方法は理解している。	歴史的な教育方法の発展も今日求められる教育方法も理解していない。
知識・理解	2. 教育の目的に適した指導技術を理解する。	教育の目的に適した指導技術を深く理解している。	教育の目的に適した指導技術を理解している。	教育の目的に適した指導技術の基本を理解している。	教育の目的に適した指導技術をだいたい理解している。	教育の目的に適した指導技術を理解していない。
技能	1. 情報機器を活用した効果的な授業や教材活用に関する基礎的な能力を身につける。	情報機器を活用した効果的な授業や教材活用に関する基礎的な能力を十分身につけている。	情報機器を活用した効果的な授業や教材活用に関する基礎的な能力をだいたい身につけている。	情報機器を活用した効果的な授業や教材活用に関する基礎的な能力を少し身につけている。	情報機器を活用した効果的な授業や教材活用に関する基礎的な能力を身につけようとしている。	情報機器を活用した効果的な授業や教材活用に関する基礎的な能力を身につけていない。

科目名	保育者論			授業番号	CP204	サブタイトル	
教員	岡崎 三鈴						
単位数	2単位	開講年次	3年	開講期	後期	授業形態	講義
							必修・選択
授業概要	保育者は日々の保育実践に関し、主体的目づつ同僚と対話的に深い学びをしつつ自らの資質向上に努めなければならない。このことを踏まえ、保育者の基本的な資質と役割について学び、自らの専門性を向上させる意欲の涵養を目指す学習をする。特に保育の本質、保育者になる意義といった学び続ける保育者としての事項を学習する。						
到達目標	保育所保育指針・幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領は学習指導要領に記されている学習内容に比べ抽象的目づつ理解である。すなわち、保育者は、この法令を踏まえ教育・保育課程の作成と日々の保育を工夫し、自らよりいっよ実践のために学び続ける意欲と資質向上を目指す意思の基盤を培うことを目的とする。保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の内容を踏まえ、日々の保育を子どものために工夫することができる実践を探る力と、それを実践できる保育者としての資質・能力を向上させることができる。なお本科目は、ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力のうち<知識・理解><思考・問題解決能力>に貢献する。						
授業計画 備考							
回	概要					担当	
第1回	保育者になるということは 事例を基にグループワークを行い、考えを深め理解すること。						
第2回	保育の本質 「保育の本質とは何か」、保育者の子ども観・保育観について理解する。						
第3回	保育者の子ども観（対象：0歳～3歳未満） 「保育所における子どもとの関わり」、「幼保連携型認定こども園における子どもと保育者」について理解する。						
第4回	保育者の子ども観（対象：3歳以上～就学前） 「幼稚園における子どもとの関わり」について理解する。						
第5回	豊かな環境をつくる保育者 「環境と保育」、「子どもの生活を支える環境」、「豊かな環境をつくるために」について理解する。						
第6回	保育の展開と評価 「全体的な計画に基づく保育の展開」、「保育記録と自己評価」、「保育カンファレンス」について理解する。						
第7回	保育の展開と評価 「教育課程の役割と編成」等について理解する。						
第8回	保育者の協働 「求められる保護者支援」「保護者との協働の実践」、「専門職間の連携・協働」について理解する。						
第9回	小学校と連携する保育者 「幼稚園・保育所等から小学校への授業とは」、「子どもの交流活動」について理解する。						
第10回	小学校との連携 「連携の様々な形」、「見守る大人たちのつながり」について理解する。						
第11回	専門職、他の機関との連携 「他の機関・専門職との連携」について理解する。						
第12回	保育者のキャリア形成と生涯発達 「幼稚園における保育者」、「保育所における保育者」、「幼保連携型認定こども園における保育者」、「児童福祉施設における保育者」について理解する。						
第13回	法令で定められた保育者の責務 法令で定められた、免許状・資格・職責等、保育者のあり方に関することについて理解すること。						
第14回	歴史から学ぶ保育者の在り方 「保育者の誕生から平成における保育制度や保育者像等」について理解すること。						
第15回	子育て環境と保育者の役割 「少子化と保育」、「地域の子育て家庭と保育」及び「家庭・地域との連携、支援」について理解すること。						
授業計画 備考2	事前学習・意見発表・グループ討議などを取り入れて、学生自身の保育観の自覚を促していく方法をとる。						
評価の方法							
	種別	割合	評価基準・その態備考				
	授業への取り組みの姿勢/態度	20	意欲的な学習態度、発表・討議への参加、予・復習の状況によって評価する。				
	レポート	30	授業で提示される課題について、授業内容に関連させ自分の考えを具体的に述べているかを評価し、コメントを記入して返却する。				
	小テスト						
	定期試験	50	本科目の総合的な理解度を評価する。				
	その他						

評価の方法：自由記載	提出物（レポートを含む）30%、授業への取組20%、試験50%
受講の心得	講義の前に本日のテーマを学習しておくこと。 保育者としての自分の在り方を探求するために、自分の考えを発表し他の意見を吸収するなど積極的な受講態度を望む。
授業外学習	テキスト以外の各テーマに関連した情報を収集すること。 授業時には自分の考えや他者の考えを踏まえて発表したり、討議したりする。 できるだけ幼児と触れ合う経験を積み重ね、社会における保育の課題や保育者の責務について自主的に調べること。 以上の内容を週あたり2時間以上学習すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
シードブック改訂「保育者論」	櫻田二三子・大沼良子・増田時枝	建邦社	978-4-7679-3295	2000円＋税

使用テキスト：自由記載

シードブック改訂「保育者論」櫻田二三子・大沼良子・増田時枝 編著，建邦社

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	保育所保育指針解説書・幼稚園教育要領解説 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説、「新しい保育講座 2 保育者論」他適宜紹介する。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー「学士力」)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. 保育所指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領を踏まえ、教育・保育過程の作成と日々の保育を工夫し、自らよりよい実践のために学び続ける意欲と質向上をめざす意思の基礎を培う。	自己課題について他者の意見も受け入れ、協働からの学びを積極的に活かし、自己の人間性と専門性の向上を図っている。	自分の課題を認識し、その課題改善に向けて努力すべきことを的確に実践できる。	授業で得た保育に関する知識と現代における保育の問題に関連づけて考察し、自分の考えが言える。	実習での自分の課題を大学の授業でつなげ、疑問点について考察ができる。	保育に関する情報や問題に関して基本的な知識を得る努力をし、疑問点について考察できるように努力している。
思考・問題解決能力	1. 保育所指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領を踏まえ、日々の保育を子どものために工夫することのできる実践を探る力と、それを実践できる保育者としての資質・能力を向上させる。	保育の場で生じる様々な問題を的確に解決するための計画を立案できる。	保育に関する問題について基本知識をもち、課題解決を図るための情報を取り入れ、自らスキルアップのための意欲がある。	保育について探求心をもち、問題解決に向けて、理解を深めている。	保育について問題解決に向けて、自分なりに理解をしようと取り組んでいる。	保育に対する情報や問題に関して基本的な知識を得たり、疑問点について考察できるよう努力している。
態度	1. 事前学習・意見発表・グループ討議などを取り入れ、意欲的な学習態度を評価する。	保育者としての自分のあり方を探求するために、自分の考えを発表し他者の意見を吸収したり社会における保育の課題や質向上について学んだりするなど、意欲的に参加する。	保育者としての自分のあり方を探求するために、自分の考えを発表し他者の意見を吸収するなど、積極的に参加する。	授業時には、自分の考えや他者の考えを踏まえて発表したり課題に取り組んだりする。	授業時には、自分の考えや他者の考えを踏まえて発表したりする。	授業時には、自分の考えや他者の考えを踏まえて発表したりすることが消極的である。

科目名	教育心理学			授業番号	CP205	サブタイトル	
教員	園田 祥子						
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	講義
						必修・選択	選択
授業概要	教育心理学とは、学び手としての子どもを心理学の視点から理解し、支援するための科学である。この授業では、子どもの学びに適切な支援という視点から、教育に関する心理学的知見を広く扱う。						
到達目標	実際に教育現場に立つ際、児童・生徒の理解を助けるために必要となる、心理学的な視点の基礎を、講義を通して身につけることを目指す。 なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力のうち、<知識・理解>の習得に貢献する。						
授業計画 備考							
回	概要					担当	
第1回	教育心理学とは 教育心理学とはどのような学問で、教職のための何について学ぶのかを理解する。						
第2回	心身の発達① 乳幼児期の発達 乳幼児期の心身の発達の姿と、発達を支援する教師や保育者のかかわりについて理解する。						
第3回	心身の発達② 児童期・青年期の発達 児童期・青年期の発達の特徴やその個人差、またその背景にあるものを理解し、教師としてかかわることの意味を考える。						
第4回	学びのメカニズム① 学習と知識獲得 心理学で言う「学習」の意味を理解したうえで、どのようなときに学習が生じるのかを考える。						
第5回	学びのメカニズム② 認知情報処理と記憶 人脳の心の働きを情報処理になぞらえて捉える認知心理学の視点から、学校における学びを考える。						
第6回	学びのメカニズム③ 動機づけと学習 学びにおいて重要な役割を果たす動機づけの理論や機能、また動機づけの高め方について考える。						
第7回	認知発達と学習支援 知識獲得のプロセスを踏まえ、子どもの学びに効果的な学習指導や授業づくりを考える。						
第8回	中間のまとめ 第1回～第7回の内容を振り返り、理解を確認する。						
第9回	学級集団と学習支援 学級をはなめとする子どもたちの集団の特徴や人間関係がどのように学習効果に影響するかを理解する。						
第10回	個性や個人差と学習支援 性格や認知特性に関する理論を踏まえて子どもの個性や個人差の捉え方を理解し、学びとの関係を考える。						
第11回	教育評価 教育評価の理論と方法について、また子どもの学力や知能について、考え方や測定方法を理解する。						
第12回	特別な支援と教育心理学① 障害の基本的理解 発達障害の特性のある子どもに対する適切な理解と、それに基づいた配慮のあり方について理解する。						
第13回	特別な支援と教育心理学② 障害児への教育的支援 発達障害の特性のある子どもの苦手なものの把握と、適切な手立ての実践について理解する。						
第14回	学校教育を取り巻く諸問題 個々の子どもに起る学びや適応などについて、第13回までとは異なる視点から取り上げ、紹介する。						
第15回	期末のまとめ 第9回～第14回の内容を振り返り、理解を確認する。						
授業計画 備考2							
評価の方法							
	種別	割合	評価基準・その他備考				
	授業への取り組みの姿勢/態度						
	レポート						
	小テスト						
	定期試験	100	理解度を評価する。				
	その他						

評価の方法：自由記載	
受講の心得	積極的な受講態度を期待します。
授業外学習	毎回の授業の前にテキストを読み、4時間以上予習しておくこと。学習の成果を第8回および第15回で確認し、不十分な点について4時間以上の復習を行うこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
よわかる！教職エッセイ2 教育心理学	田川宗二（編著）	ミネルヴァ書房	978-4-623-08177-6	2200円

使用テキスト：自由記載

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載

その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. 講義内容を多面的かつ十分に理解し、さまざまな問題とのかかわりの中で得られた知識を活用できる	呈示された知識の理解に基づき、さまざまな問題とのかかわりの中で活用することができる	呈示された知識をほぼ理解し、多少の不十分があっても多面的に理解する努力をした上で活用することができる	理解は十分とは思われず、必要な知識も不足しているもの、活用に向けて努力している	授業内容を十分に理解できているとは思われず、知識の獲得や活用に向けての努力も不足している	講義そのものを理解できておらず、知識が獲得されていないため、活用できない

科目名	教育・保育課程理論		授業番号	CP206	サブタイトル	
教員	佐々木 弘記、岡崎 三鈴					
単位数	2単位	開講年次	がキキヨムにより異なります。	開講期	後期	授業形態
						講義
						必修・選択
						選択
授業概要	第1～7回においては、幼児期の子どもの発達段階に沿った保育・教育課程の在り方について、基本的理念や具体的展開にふれながら講義する。第8～15回においては、小学校期における学習指導とがキキヨムについて、歴史的展開をたどりながら教育的意義について講義する。					
到達目標	・幼児期の教育と教育課程についての基本的理念を理解するとともにそれに基づき年間の指導計画や指導案等について具体的事例を通して理解している。<知識・理解> ・児童期における教育課程の歴史的展開や教育的意義について、その概要と特徴を説明することができる。<知識・理解> なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士上士の内容のうち、<知識・理解>の修得に貢献する。					
授業計画 備考						
回	概要					担当
第1回	教育・保育について 「保育の基本原理」、「数種および教育を一体的に行うこと」について理解する。					(岡崎)
第2回	教育課程とは 「教育課程の役割」、「教育課程編成のときに押さえるべき基本」、「教育課程編成で留意しておきたいこと」について理解する。					(岡崎)
第3回	保育におけるがキキヨム 「教育課程の役割」、「教育課程編成のときに押さえるべき基本」、「教育課程編成で留意しておきたいこと」について理解する。					(岡崎)
第4回	保育における記録 「教育課程の役割」、「教育課程編成のときに押さえるべき基本」、「教育課程編成で留意しておきたいこと」について理解する。					(岡崎)
第5回	保育における省察 「保育の省察」、「保育評価の意義」、「保育の評価と反省」について理解する。					(岡崎)
第6回	保育カンファレンス 「保育カンファレンス」、「保育のファシリテーション」、「働きやすい職場にするために」について理解する。					(岡崎)
第7回	保育におけるがキキヨム・マネジメント 「何が何を指すか」、「がキキヨム・マネジメントのPDCAサイクル」について理解する。					(岡崎)
第8回	学習指導とがキキヨム(1) 伝達観と助成観 学習指導要領に示された三つの資質・能力の柱について、学習指導の様式である伝達観と助成観の観点から分析し、理解する。					(佐々木)
第9回	学習指導とがキキヨム(2) 形式陶冶と実質陶冶 学習指導要領に示された三つの資質・能力の柱について、学習指導の様式である形式陶冶と実質陶冶の観点から分析し、理解する。					(佐々木)
第10回	学習指導とがキキヨム(3) 経験主義と系統主義 学習指導要領に示された三つの資質・能力の柱について、学習指導の様式である経験主義と系統主義の観点から分析し、理解する。					(佐々木)
第11回	教育課程の変遷(1) 戦後の学習指導要領の変遷について、当時の学校教育の状況や歴史事象と対応させながらその特質を理解する。					(佐々木)
第12回	教育課程の変遷(1) 平成以降の学習指導要領の変遷について、当時の学校教育の状況や歴史事象と対応させながらその特質を理解する。					(佐々木)
第13回	がキキヨムを支える学習指導法 戦後の学習指導要領の特質に応じた学習指導法の変遷について、「主体的・対話的で深い学び」との対応させながらその特質を理解する。					(佐々木)
第14回	学習評価からがキキヨム評価へ 学校の特色に応じたがキキヨム評価方法(パフォーマンス評価、ポートフォリオ評価等)について習得する。					(佐々木)
第15回	小学校におけるがキキヨム・マネジメント 特色あるがキキヨム作りのための地域との連携の仕方について理解する。					(佐々木)
授業計画 備考2						
評価の方法						
	種別	割合	評価基準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度	10	意欲的な受講態度、発表・討議への参加、予・復習の状況によって評価する。			
	レポート	10	各回の終盤で提示される課題について、自分の考えを具体的に述べていること。レポートについてはコメントを記入して返却する。			
	小テスト	20	各回の主要なポイントの理解度を評価する。小テストは採点して返却し解説する。			
	定期試験	60	最終的な理解度を評価する。			
	その他					

評価の方法：自由記載	
受講の心得	第1～7回においては、毎回復習として授業時に提示したレポートに取り組み、次の授業時に提出すること。レポートについては、コメントを記入して返却する。 第8～15回においては、授業のはじめに小テストを行うので、前回の復習をして授業に臨むこと。また、返却された小テストは、ノートに貼付し、復習をすること。配付するプリント・資料などを整理しておくこと。
授業外学修	1 予習として、教科書のうち、授業内容にかかわる部分を読み、疑問点を明らかにする。 2 復習として、授業で提示された課題のレポートを書く。 3 発展学習として、授業で紹介された参考文献や資料等を読む。 以上の内容を、適当に94時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
小学校学習指導要領解説 総則編	文部科学省			
幼稚園教育要領解説	文部科学省			
保育所保育指針	厚生労働省			
使用テキスト：自由記載	「小学校学習指導要領解説 総則編」文部科学省 「保育所保育指針・解説」厚生労働省 「幼稚園教育要領・解説」文部科学省			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	毎回、授業ノートを回収するので、ルーズリーフのノートを用意すること。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	公立中学校理科教諭（15年）、県教育センター（9年）（佐々木弘記）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかけた教育内容	学校（15年）、教育センター（9年）等での経験を生かして、教育・保育現場の実態を反映させた実践的な教育を行う。

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 幼児期の教育と教育課程についての基本的理念を理解するとともにそれに基づく年間の指導計画や指導案等について具体的事例を通して理解している。	幼児期の教育と教育課程についての基本的理念を理解するとともにそれに基づく年間の指導計画や指導案等について具体的事例を通して広範かつ詳細に理解している。	幼児期の教育と教育課程についての基本的理念を理解するとともにそれに基づく年間の指導計画や指導案等について具体的事例を通して広範に理解している。	幼児期の教育と教育課程についての基本的理念を理解するとともにそれに基づく年間の指導計画や指導案等について具体的事例を通して基礎的な内容を十分に理解している。	幼児期の教育と教育課程についての基本的理念を理解するとともにそれに基づく年間の指導計画や指導案等について具体的事例を通して基礎的な内容を十分に理解していない。	幼児期の教育と教育課程についての基本的理念を理解するとともにそれに基づく年間の指導計画や指導案等について具体的事例を通して基礎的な内容を理解していない。
知識・理解	2. 児童期における教育課程の歴史的展開や教育的意義について、その概要と特質を説明することができる	児童期における教育課程の歴史的展開や教育的意義について、その概要と特質を広範かつ詳細に説明できている。	児童期における教育課程の歴史的展開や教育的意義について、その概要と特質を広範に説明できている。	児童期における教育課程の歴史的展開や教育的意義について、その概要と特質の基礎的な内容を十分に説明できている。	児童期における教育課程の歴史的展開や教育的意義について、その概要と特質の基礎的な内容を十分に説明できていない。	児童期における教育課程の歴史的展開や教育的意義について、その概要と特質の基礎的な内容を説明できていない。

科目名	保育内容総論 1クラス		授業番号	CP207A	サブタイトル				
教員	岡崎 三鈴								
単位数	1単位	開講年次	がキヨムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	乳幼児の発達と保育内容の目標を関連付け、5領域のわらわら及び内容を理解するとともに、保育の全体的な構造を理解するとともに小学校以降の教育との関連について理解する。また、指導計画について理解し、園生活全体を通して総合的な指導を行うことを理解し、幼児の姿と関連付けて考えることができる。								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの発達と保育の目標と関連付けつつ、保育内容を理解するとともに、保育の全体的な構造を理解する。 2. 保育内容の歴史の変遷について学び、保育内容について理解する。 3. 保育の基本を踏まえた保育内容の展開と5歳児後半から小学校の幼稚園との連続性について、具体的な保育実践と関連付けて理解する。 4. 保育の多様な展開について具体的に学ぶ。なおこの科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決〉の習得に貢献する。なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。 								
授業計画 備考	各回のテーマについての基本的事項の理解を深める。さらに、保育内容と保育の構造について総合的に学びとともにその具体的な内容についてワークシート等の利用により、グループ討議を実施する。								
回	概要					担当			
第1回	保育の基本及び保育内容（5領域）の理解 「保育の基本」、「保育の目的・目標及び内容」について理解する。								
第2回	保育の全体構造と保育内容（5領域）の関連 「養護に関する保育の内容」、「教育に関する保育の内容」を理解する。								
第3回	保育内容の歴史の変遷 「戦前の保育の内容」、「戦後の保育の内容」及び「現行の保育の内容」について理解する。								
第4回	子どもの発達の特徴と保育内容（5領域）—乳幼児保育、満1歳以上3歳未満児— 各年齢に応じた「子どもの発達の特徴」、「発達過程に応じた保育」について理解する。								
第5回	子どもの発達の特徴と保育内容（5領域）—3歳以上児、異年齢— 各年齢に応じた「子どもの発達の特徴」、「発達過程に応じた保育」について理解する。								
第6回	個と集団の発達と保育内容（5領域） 「個の発達と保育内容」、「集団の発達と保育内容」及び「個と集団の発達を踏まえた保育内容」について理解する。								
第7回	保育における観察と記録 「観察の観点と方法」、「記録の観点と方法」について理解する。								
第8回	養護と教育が一体的に展開する保育の在り方 「養護と教育」、「3歳未満児における養護と教育が一体的に展開する保育」、「3歳以上児における養護と教育が一体的に展開する保育」について理解する。								
第9回	環境を通して行う保育の在り方 「子どもにとっての身近な環境環境を通じた保育の大切さ」、「保育の内容としての環境、環境の種類」及び「計画的な環境構成」について理解する。								
第10回	生活や遊びによる総合的な保育の在り方（5領域の関連） 「子どもにとっての本来の遊び活動」、「わらわら総合的に達成されること」について理解する。								
第11回	遊びや発達の連続性に考慮した保育の在り方 「生活の連続性」、「発達と学びの連続性」及び「体験の多様性・関連性」について理解する。								
第12回	家庭、地域との連携をふまえた保育—長時間保育含む— 「保護者との連携」、「保育所・幼稚園・認定こども園と地域とその社会資源との連携」及び「長時間保育における職員間の連携」について理解する。								
第13回	小学校との連携をふまえた保育の在り方 「乳幼児期の保育・教育と児童期以降の教育の違い」、「小学校等との相互理解」について理解する。								
第14回	特別な支援を必要とする子どもの保育の在り方 「特別な配慮を要する子どもの保育の基本」、「家庭との連携」及び「専門機関との連携」について理解する。								
第15回	多文化共生の保育 「国籍や文化の違い」、「性差や個人差」、「共生の保育」について理解する。								
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その態備考						
	授業への取り組みの姿勢/態度	20	事前学習、テキストの理解、意見交換などに積極的に取り組めたかを評価する。						
	レポート	30	自主的にワークシートを提出したかを評価し、コメントを記入して返却する。						
	小テスト								
	定期試験	50	振り返りシートを中心に総合的な理解度を評価する。						
	その他								

評価の方法：自由記載	期末試験・レポート（80%），受講態度（20%）により総合的に評価する。
受講の心得	発表やグループ討議など，主体的に参加すること。そのための予習，復習を欠かさないこと。
授業外学習	事前学習をして授業に臨む。 授業後は必ず振り返りシートを記入する。 以上の内容を週あたり2時間以上学習すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
改定新版マンガとアニメ・ラーニングで学ぶ保育内容総論	関 仁志 編著	保育出版社	987-4-909378-60-6	2270円＋税
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無				
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. 子どもの発達と保育内容の目標を関連づけたうえで、保育内容を理解するとともに保育の全体的な構造を理解する。	保育内容論について、子どもの生活・遊びの中で総合的にとらえる視点をもつことができる。	多様な領域からの見解を深く理解できる。	多様な領域からの見解を一定程度理解できる。	多様な領域からの見解をあまり理解できていない。	多様な領域からの見解を理解できていない。
知識・理解	2. 保育内容の歴史の変遷について学び、保育内容について理解する。	現代社会の諸問題について積極的に取り組んでいる。	現代社会の諸問題について一定の程度取り組んでいる。	現代社会の諸問題について一定の程度取り組んでいる。	現代社会の諸問題について積極的に取り組めない。	現代社会の諸問題についてまったく取り組めていない。
思考・問題解決能力	1. 保育の基本を踏まえた保育内容の展開と5歳児後半から小学校のカリキュラムの接続について、具体的な保育実践と関連付けて理解する。	保育者の役割と指導など、保育者の専門性を理解する。	適切で明確な問題を設定して積極的に取り組んでいる。	適切で明確な問題を設定して取り組んでいる。	ある程度、明確で適切な問題を設定している。	ある程度、明確で適切な問題を設定しているが、適切な問題であるといえない。
態度	1. 事前学習、テキストの理解、意見交換ができる。	予習復習をして授業に臨み、発表やグループ討議など、主体的に参加する。	事前学習、テキストの理解、意見交換など、積極的に取り組む。	テキストの理解、意見交換など、積極的に取り組む。	発表やグループ討議など、自分の意見を述べる。	発表やグループ討議などには、参加するが消極的である。

科目名	保育内容総論 2クラス		授業番号	CP207B	サブタイトル				
教員	岡崎 三鈴								
単位数	1単位	開講年次	がキヨムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	乳幼児の発達と保育内容の目標を関連付け、5領域のわらわら及び内容を理解するとともに、保育の全体的な構造を理解するとともに小学校以降の教育との関連について理解する。また、指導計画について理解し、園生活全体を通して総合的な指導を行うことを理解し、幼児の姿と関連付けて考えることができる。								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの発達と保育の目標と関連付けつつ、保育内容を理解するとともに、保育の全体的な構造を理解する。 2. 保育内容の歴史の変遷について学び、保育内容について理解する。 3. 保育の基本を踏まえた保育内容の展開と5歳児後半から小学校の幼稚園との連続性について、具体的な保育実践と関連付けて理解する。 4. 保育の多様な展開について具体的に学ぶ。なおこの科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決〉の習得に貢献する。なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。 								
授業計画 備考	各回のテーマについての基本的事項の理解を深める。さらに、保育内容と保育の構造について総合的に学び、その具体的な内容についてワークシート等の利用により、グループ討議を実施する。								
回	概要					担当			
第1回	保育の基本及び保育内容（5領域）の理解 「保育の基本」、「保育の目的・目標及び内容」について理解する。								
第2回	保育の全体構造と保育内容（5領域）の関連 「養護に関する保育の内容」、「教育に関する保育の内容」を理解する。								
第3回	保育内容の歴史の変遷 「戦前の保育の内容」、「戦後の保育の内容」及び「現行の保育の内容」について理解する。								
第4回	子どもの発達の特性と保育内容（5領域）－乳幼児保育、満1歳以上3歳未満児－ 各年齢に応じた「子どもの発達の特性」、「発達過程に応じた保育」について理解する。								
第5回	子どもの発達の特性と保育内容（5領域）－3歳以上児、異年齢－ 各年齢に応じた「子どもの発達の特性」、「発達過程に応じた保育」について理解する。								
第6回	個と集団の発達と保育内容（5領域） 「個の発達と保育内容」、「集団の発達と保育内容」及び「個と集団の発達を踏まえた保育内容」について理解する。								
第7回	保育における観察と記録 「観察の観点と方法」、「記録の観点と方法」について理解する。								
第8回	養護と教育が一体的に展開する保育の在り方 「養護と教育」、「3歳未満児における養護と教育が一体的に展開する保育」、「3歳以上児における養護と教育が一体的に展開する保育」について理解する。								
第9回	環境を通して行う保育の在り方 「子どもにとっての身近な環境環境を通じた保育の大切さ」、「保育の内容としての環境、環境の種類」及び「計画的な環境構成」について理解する。								
第10回	生活や遊びによる総合的な保育の在り方（5領域の関連） 「子どもにとっての本来の遊び活動」、「わらわら総合的に達成されること」について理解する。								
第11回	遊びや発達の連続性に考慮した保育の在り方 「生活の連続性」、「発達と学びの連続性」及び「体験の多様性・関連性」について理解する。								
第12回	家庭、地域との連携をふまえた保育－長時間保育含む－ 「保護者との連携」、「保育所・幼稚園・認定こども園と地域との連携」及び「長時間保育における職員間の連携」について理解する。								
第13回	小学校との連携をふまえた保育の在り方 「乳幼児期の保育・教育と児童期以降の教育の違い」、「小学校等との相互理解」について理解する。								
第14回	特別な支援を必要とする子どもの保育の在り方 「特別な配慮を要する子どもの保育の基本」、「家庭との連携」及び「専門機関との連携」について理解する。								
第15回	多文化共生の保育 「国籍や文化の違い」、「性差や個人差」、「共生の保育」について理解する。								
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その態備考						
	授業への取り組みの姿勢/態度	20	事前学習、テキストの理解、意見交換などに積極的に取り組めたかを評価する。						
	レポート	30	自主的にワークシートを提出したかを評価し、コメントを記入して返却する。						
	小テスト								
	定期試験	50	振り返りシートを中心に総合的な理解度を評価する。						
	その他								

評価の方法：自由記載	期末試験・レポート（80%）、受講態度（20%）により総合的に評価する。
受講の心得	発表やグループ討議など、主体的に参加すること。そのための予習、復習を欠かさないこと。
授業外学習	事前学習をして授業に臨む。 授業後は必ず振り返りシートを記入する。 以上の内容を週あたり2時間以上学習すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
改定新版マンガとアニメ・ラーニングで学ぶ保育内容総論	関 仁志 編著	保育出版社	987-4-909378-60-6	2270円＋税
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無				
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. 子どもの発達と保育内容の目標を関連づけたうえで、保育内容を理解するとともに保育の全体的な構造を理解する。	保育内容論について、子どもの生活・遊びの中で総合的にとらえる視点をもつことができる。	多様な領域からの見解を深く理解できる。	多様な領域からの見解を一定程度理解できる。	多様な領域からの見解をあまり理解できていない。	多様な領域からの見解を理解できていない。
知識・理解	2. 保育内容の歴史の変遷について学び、保育内容について理解する。	現代社会の諸問題について積極的に取り組んでいる。	現代社会の諸問題について一定の程度取り組んでいる。	現代社会の諸問題について一定の程度取り組んでいる。	現代社会の諸問題について積極的に取り組めない。	現代社会の諸問題についてまったく取り組めていない。
思考・問題解決能力	1. 保育の基本を踏まえた保育内容の展開と5歳児後半から小学校のカリキュラムの接続について、具体的な保育実践と関連付けて理解する。	保育者の役割と指導など、保育者の専門性を理解する。	適切で明確な問題を設定して積極的に取り組んでいる。	適切で明確な問題を設定して取り組んでいる。	ある程度、明確で適切な問題を設定している。	ある程度、明確で適切な問題を設定しているが、適切な問題であるといえない。
態度	1. 事前学習、テキストの理解、意見交換ができる。	予習復習をして授業に臨み、発表やグループ討議など、主体的に参加する。	事前学習、テキストの理解、意見交換など、積極的に取り組む。	テキストの理解、意見交換など、積極的に取り組む。	発表やグループ討議など、自分の意見を述べる。	発表やグループ討議などには、参加するが消極的である。

科目名	特別支援教育		授業番号	CP208	サブタイトル				
教員	中 典子								
単位数	2単位	開講年次	が1年未満により異なります。	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	講義形式で、特別支援教育の基本的なことについて学習していく。特に、特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒の理解、教育課程、支援の方法を学ぶ中で、学校と関係機関との連携のあり方について講義する。								
到達目標	保育者・教員は通常学級において特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒が学習に参加する中で将来の自立に向けて支援していく必要がある。本講義では、幼児や児童生徒の生活のしづさを理解し、特別な配慮を必要とする教育に対する学校と関係機関との連携のあり方を考えるために必要な知識や支援の方法を理解することを目的とする。 なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
回	概要						担当		
第1回	特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒の障害の特性 特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒の障害の特性について理解する。								
第2回	特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒の心身の発達 特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒一人一人の心身の発達に関するアセスメントの方法を理解する。								
第3回	特別支援教育に関する制度の理念や仕組み 障害者総合支援法、発達障害者総合支援法、障害者の権利に関する条約の内容を理解する。								
第4回	特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒の学習や生活 授業をするうえで必要とされる配慮を理解する。								
第5回	特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒の教育課程 特別支援教育における教育課程について理解する。								
第6回	発達障害をはじめとする障害のある子どもへの合理的配慮 合理的配慮について理解する。								
第7回	「進級指導」と「自立活動」の教育課程上の位置づけ 特別支援教育における指導技術について理解する。								
第8回	「個別指導計画」と「個別教育支援計画」の意義と方法 「個別指導計画」と「個別教育支援計画」を実際に記載し、その意義と方法を理解する。								
第9回	学校と家庭との連携のあり方 個別の教育支援計画を作り、暮らしにおいて必要な社会資源を理解する。								
第10回	学校と地域の関係機関との連携のあり方 学校をとりまく社会資源についての情報を収集し、連携の方法を理解する。								
第11回	多文化の幼児や児童生徒に対する学習や生活 多文化の幼児や児童生徒が置かれている状況を理解する。								
第12回	多文化の幼児や児童生徒支援に対する学校と家庭と地域の関係機関との連携のあり方 多文化の幼児や児童生徒支援に対する学校と家庭と地域の関係機関との連携のあり方を理解する。								
第13回	異国により特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒の学習や生活のしづさ 子どもの異国対策について理解する。								
第14回	異国により特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒への教育保障 学習環境を整えるための支援について理解する。								
第15回	多文化や異国問題により特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒の学習支援 幼児や児童生徒に対して学習保障をするためにどのような対応が必要か理解する。								
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢/態度	10	意欲的な受講態度、発表への参加、予・復習の状況によって評価する						
	授業ごとに示す課題	90	毎回の授業で示す課題に対して具体的に述べていること。 課題についてはコメントを記入して返却する。						

評価の方法：自由記載	
受講の心得	授業内容の理解を深めるため、授業開始前までにテキストを読んでおくこと。
授業外学修	授業開始前までに、テキストの内容を読んでおくこと。(1時間) 授業後に示す課題を次の授業開始前までに仕上げしておくこと。(2時間) 授業で学んだ内容を振り返り、必要と考えることをノートにまとめておくこと。(1時間)

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
特別支援教育と障害児の保育・福祉 切れ目や隙のない支援と配慮	立花直樹他編	ミネルヴァ書房	978-4-623-09570-4	定価 2800 + 税
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	必要に応じて紹介する。			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の業務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	無			
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. 幼児や児童生徒の生活のしづらさを理解し、特別な配慮を必要とする教育に対する学校と関係機関との連携のあり方を考えるために必要なことが理解できる	幼児や児童生徒の生活のしづらさを理解し、特別な配慮を必要とする教育に対する学校と関係機関との連携のあり方を考えるために必要なことが理解できる	特別な配慮を必要とする教育に対する学校と関係機関との連携のあり方を考えるために必要なことが理解できる	特別な配慮を必要とする教育に対する学校と関係機関との連携のあり方が理解できる	特別な配慮を必要とする教育に対する学校と関係機関との連携のあり方の理解が十分でない	特別な配慮を必要とする教育に対する学校と関係機関との連携のあり方が理解できない
思考・問題解決能力	1. 幼児や児童生徒の生活のしづらさを理解し、特別な配慮を必要とする教育に対する学校と関係機関との連携のあり方を考えるために必要な支援の方法を考えることができる	幼児や児童生徒の生活のしづらさを理解し、特別な配慮を必要とする教育に対する学校と関係機関との連携のあり方を考えるために必要な支援の方法を考えることができる	特別な配慮を必要とする教育に対する学校と関係機関との連携のあり方を考えるために必要な支援の方法を考えることができる	特別な配慮を必要とする教育に対する学校と関係機関との連携のあり方を考えるために必要な支援の基礎を考えることができる	特別な配慮を必要とする教育に対する学校と関係機関との連携のあり方を考えるために必要な支援の方法を考えることが十分でない	特別な配慮を必要とする教育に対する学校と関係機関との連携のあり方を考えるために必要な支援の方法を考えることができない

科目名	教職概論		授業番号	CP209	サブタイトル				
教員	太田 憲孝								
単位数	2単位	開講年次	1/2/3/4/5/6/7/8/9/10/11/12/13/14/15/16/17/18/19/20/21/22/23/24/25/26/27/28/29/30/31/32/33/34/35/36/37/38/39/40/41/42/43/44/45/46/47/48/49/50/51/52/53/54/55/56/57/58/59/60/61/62/63/64/65/66/67/68/69/70/71/72/73/74/75/76/77/78/79/80/81/82/83/84/85/86/87/88/89/90/91/92/93/94/95/96/97/98/99/100/101/102/103/104/105/106/107/108/109/110/111/112/113/114/115/116/117/118/119/120/121/122/123/124/125/126/127/128/129/130/131/132/133/134/135/136/137/138/139/140/141/142/143/144/145/146/147/148/149/150/151/152/153/154/155/156/157/158/159/160/161/162/163/164/165/166/167/168/169/170/171/172/173/174/175/176/177/178/179/180/181/182/183/184/185/186/187/188/189/190/191/192/193/194/195/196/197/198/199/200/201/202/203/204/205/206/207/208/209/210/211/212/213/214/215/216/217/218/219/220/221/222/223/224/225/226/227/228/229/230/231/232/233/234/235/236/237/238/239/240/241/242/243/244/245/246/247/248/249/250/251/252/253/254/255/256/257/258/259/260/261/262/263/264/265/266/267/268/269/270/271/272/273/274/275/276/277/278/279/280/281/282/283/284/285/286/287/288/289/290/291/292/293/294/295/296/297/298/299/300/301/302/303/304/305/306/307/308/309/310/311/312/313/314/315/316/317/318/319/320/321/322/323/324/325/326/327/328/329/330/331/332/333/334/335/336/337/338/339/340/341/342/343/344/345/346/347/348/349/350/351/352/353/354/355/356/357/358/359/360/361/362/363/364/365/366/367/368/369/370/371/372/373/374/375/376/377/378/379/380/381/382/383/384/385/386/387/388/389/390/391/392/393/394/395/396/397/398/399/400/401/402/403/404/405/406/407/408/409/410/411/412/413/414/415/416/417/418/419/420/421/422/423/424/425/426/427/428/429/430/431/432/433/434/435/436/437/438/439/440/441/442/443/444/445/446/447/448/449/450/451/452/453/454/455/456/457/458/459/460/461/462/463/464/465/466/467/468/469/470/471/472/473/474/475/476/477/478/479/480/481/482/483/484/485/486/487/488/489/490/491/492/493/494/495/496/497/498/499/500/501/502/503/504/505/506/507/508/509/510/511/512/513/514/515/516/517/518/519/520/521/522/523/524/525/526/527/528/529/530/531/532/533/534/535/536/537/538/539/540/541/542/543/544/545/546/547/548/549/550/551/552/553/554/555/556/557/558/559/560/561/562/563/564/565/566/567/568/569/570/571/572/573/574/575/576/577/578/579/580/581/582/583/584/585/586/587/588/589/590/591/592/593/594/595/596/597/598/599/600/601/602/603/604/605/606/607/608/609/610/611/612/613/614/615/616/617/618/619/620/621/622/623/624/625/626/627/628/629/630/631/632/633/634/635/636/637/638/639/640/641/642/643/644/645/646/647/648/649/650/651/652/653/654/655/656/657/658/659/660/661/662/663/664/665/666/667/668/669/670/671/672/673/674/675/676/677/678/679/680/681/682/683/684/685/686/687/688/689/690/691/692/693/694/695/696/697/698/699/700/701/702/703/704/705/706/707/708/709/710/711/712/713/714/715/716/717/718/719/720/721/722/723/724/725/726/727/728/729/730/731/732/733/734/735/736/737/738/739/740/741/742/743/744/745/746/747/748/749/750/751/752/753/754/755/756/757/758/759/760/761/762/763/764/765/766/767/768/769/770/771/772/773/774/775/776/777/778/779/780/781/782/783/784/785/786/787/788/789/790/791/792/793/794/795/796/797/798/799/800/801/802/803/804/805/806/807/808/809/810/811/812/813/814/815/816/817/818/819/820/821/822/823/824/825/826/827/828/829/830/831/832/833/834/835/836/837/838/839/840/841/842/843/844/845/846/847/848/849/850/851/852/853/854/855/856/857/858/859/860/861/862/863/864/865/866/867/868/869/870/871/872/873/874/875/876/877/878/879/880/881/882/883/884/885/886/887/888/889/890/891/892/893/894/895/896/897/898/899/900/901/902/903/904/905/906/907/908/909/910/911/912/913/914/915/916/917/918/919/920/921/922/923/924/925/926/927/928/929/930/931/932/933/934/935/936/937/938/939/940/941/942/943/944/945/946/947/948/949/950/951/952/953/954/955/956/957/958/959/960/961/962/963/964/965/966/967/968/969/970/971/972/973/974/975/976/977/978/979/980/981/982/983/984/985/986/987/988/989/990/991/992/993/994/995/996/997/998/999/1000	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	教職概論は、子どもの生活と学校、教師の仕事、教師に求められる資質・能力等について、使用するテキスト及び関係する資料をもとに理解する。教職を目指す学生が、職業論（教職の全体像をつかむとともに、教職に関する基礎的な知識）を身に付け、教職に対する意欲を喚起し、専門職としての基礎を身に付ける。								
到達目標	子どもの生活と学校、教師の仕事、教師に求められる資質・能力等の視点から、教職に対する理解を深めるとともに、教師としての使命や責任を知り、教職に対する自らの意欲や適性を見つめ直すことを到達目標とする。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、「知識・理解」(態度)の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
回	概要				担当				
第1回	本科目を学ぶ目的 「教師に対する保護者の意識を取り上げた配布資料を読み、教師の道を志すための構えを持つ。」								
第2回	最近の子どもの生活 「使用テキストの中の関係する頁や配布資料を読み、最近の子どもの生活の現状や問題点、課題解決の取り組みについて考えをもつ。」								
第3回	学校の中での子ども（1） 「使用テキストの中の関係する頁や配布資料を読み、しじめの現状や問題点、防止の取り組みについて考えをもつ。」								
第4回	学校の中での子ども（2） 「しじめの出現と学級集団のあり方に関係する資料を読み、しじめの出現傾向と防止の方法について考えをもつ。」								
第5回	学習指導の役割と方法 「使用テキストの中の関係する頁や配布資料を読み、学習指導とレディス、家庭の文化資本等との関係について考えをもつ。」								
第6回	学習指導と指導過程 「使用テキストの中の関係する頁や配布資料を読み、目標設定や学習過程に働く様々な内発的動機付けについて考えをもつ。」								
第7回	学習指導と学習形態 「使用するテキストの中の関係する頁や配布資料を読み、一斉学習や小集団学習等の適用の仕方について考えをもつ。」								
第8回	生徒指導の意義や目的、機能 「使用テキストの中の関係する頁や配布資料を読み、生徒指導の教育的意義や様々な教育活動における機能等について考えをもつ。」								
第9回	生徒指導の方法 「使用テキストの中の関係する頁や配布資料を読み、児童生徒理解の重要性、集団指導・個別指導を有効に機能させる3つのモデルについて考えをもつ。」								
第10回	キャリア教育の目的と内容 「使用テキストの中の関係する頁や配布資料を読み、キャリア教育の目的や今までに経験した具体的な取り組みについて考えをもつ。」								
第11回	教育相談の目的と方法 「使用テキストの中の関係する頁や配布資料を読み、教育相談の意義や目的、実際に教育相談を行うときの配慮について考えをもつ。」								
第12回	学級経営の内容と方法 「使用テキストの中の関係する頁や配布資料を読み、学級経営の概念や学級経営のあり方について考えをもつ。」								
第13回	学級経営と特別活動 「使用テキストの中の関係する頁や配布資料を読み、小学校特別活動の目的や内容を理解するとともに、よりよい学級づくりについて考えをもつ。」								
第14回	教師に求められる資質・能力 「使用テキストの中の関係する頁や配布資料を読み、子ども向き合う教師の姿や教師に求められる資質・能力について考えをもつ。」								
第15回	学び続ける教師 「使用テキストの中の関係する頁や配布資料を読み、教育の本質を求め続ける教師の生き方について考えをもつ。」								
授業計画 備考2									
評価の方法									
種別		割合	評価基準・その態備考						
授業への取り組みの姿勢/態度		20	意欲的な学習態度や予習に対する取り組みを評価する						
レポート		30	授業毎の学習内容の理解を評価する。提出されたレポートはコメントを付けて返却し、学びの深まりを理解できるようにする。						
小テスト									
定期試験		50	最終的な理解度を評価する。						
その他									

評価の方法：自由記載	
受講の心得	テキストを読んだり、グループで話し合ったりすることを通して、教職や教師のあり方等について考えを深めること。
授業外字修	1. 予習として、使用テキストの授業内容にかかわる部分を読み、課題をレポートにまとめる。 2. 教育に関するニュースに関心をもち、自分の考えや感想を話すことができるようにする。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
新版（改訂二版）教職入門教師への道	藤本典裕	図書文化	978-4-8100-9720-7	1980円
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	授業において随時紹介する。			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の实務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. 最近の子どもの生活や学習の状況、教師の仕事、教師に求められる資質・能力等について理解している。	・最近の子どもの生活や学習の状況、教師の仕事、教師に求められる資質・能力等について、教師の立場に立って深く理解している。	・最近の子どもの生活や学習の状況、教師の仕事、教師に求められる資質・能力等について、深く理解している。	・最近の子どもの生活や学習の状況、教師の仕事、教師に求められる資質・能力等について理解している。	・最近の子どもの生活や学習の状況、教師の仕事、教師に求められる資質・能力についての理解がやや不十分である。	・最近の子どもの生活や学習の状況、教師の仕事、教師に求められる資質・能力の理解が不十分である。
態度	1. 教職に関する基礎的な知識・理解をもとに、教職に対する自らの志や適性を見つめ直そうとしている。	・教職に関する基礎的な知識・理解をもとに、教職に対する志や適性を見つめ直し、自らの進路を総合的に熟考し判断しようとしている。	・教職に関する基礎的な知識・理解をもとに、教職に対する志や適性を見つめ直し、自らの進路を総合的に判断しようとしている。	・教職に関する基礎的な知識・理解をもとに、教職に対する志や適性を見つめ直し、自らの進路を判断しようとしている。	・教職に対する基礎的な知識・理解をもとに、教職に対する志や適性を見つめ直すことがやや不十分であり、進路の判断に迷いがある。	・教職に対する基礎的な知識・理解が不十分であり、教職に対する自らの志や適性を見つめ直すことが難しい。

科目名	特別活動・総合的な学習の時間の指導法			授業番号	CP210	サブタイトル	
教員	佐々木 弘記						
単位数	2単位	開講年次	3年	開講期	前期	授業形態	講義
						必修・選択	選択
授業概要	特別活動及び総合的な学習の時間の教育的意義、目標、内容、学習過程、指導計画、家庭・地域等との連携、評価について演習を通して講義する。						
到達目標	特別活動及び総合的な学習の時間の教育的意義、目標、内容、学習過程、指導計画、家庭・地域等との連携、評価について理解することができるようになる。 なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力のうち、「知識・理解」の修得に貢献する。						
授業計画 備考							
回	概要					担当	
第1回	教育課程としての特別活動の領域 教育課程における特別活動の内容である学級活動、児童会活動、クラブ活動、学校行事の位置づけについて理解する。						
第2回	特別活動の目標と内容 学習指導要領に示された3つの資質・能力の柱と特別活動の目標と内容の関連について理解する。						
第3回	特別活動の特質と教育的意義 特別活動を構成する学級活動、児童会活動、クラブ活動、学校行事それぞれの特質と教育上の意義について理解する。						
第4回	特別活動と各教科等との関連 各教科や総合的な学習の時間と特別活動で育成する資質・能力の関連について理解する。						
第5回	学級活動の目標と内容 学習指導要領に示された学級活動の目標や内容の特質を理解し、指導する方法を習得する。						
第6回	学級活動の指導計画と指導過程 国立教育政策研究所や岡山県教育センターから示された様式に沿って学習指導案を作成する方法を習得する。						
第7回	学級活動の模擬授業 作成した学習指導案に基づいて教材研究を行い、模擬授業を実施することを通して実践的指導力を身に付ける。また、自己評価及び相互評価を通して実践を振り返る。						
第8回	児童会活動、クラブ活動、学校行事の目標と内容、家庭・地域等との連携 学習指導要領の児童会活動、クラブ活動、学校行事の目標と内容に示された活動の特質について理解する。						
第9回	特別活動における評価 特別活動において設定した目標に応じた評価方法（パフォーマンス評価やポートフォリオ評価等）について理解する。						
第10回	総合的な学習の時間の意義と教育課程における役割 総合的な学習の時間の歴史的変遷と教育的意義について理解する。						
第11回	総合的な学習の時間の目標と内容 学習指導要領に示された総合的な学習の時間の目標と内容の特質について理解する。						
第12回	総合的な学習の時間と各教科等との関連 各教科や特別活動と総合的な学習の時間の関連について理解する。						
第13回	総合的な学習の時間の学習過程 総合的な学習の時間の探究の過程に応じた学習指導法を習得する。						
第14回	総合的な学習の時間の単元計画と年間指導計画 各学校の特質に応じた総合的な学習の時間の目標の設定方法について取得すると共に、単元計画や年間指導計画の立て方について理解する。						
第15回	総合的な学習の時間における評価 各学校において設定した総合的な学習の時間の活動の特質に応じた評価の方法を習得する。						
授業計画 備考2							
評価の方法							
	種別	割合	評価基準・その他備考				
	授業への取り組みの姿勢/態度	10	意欲的な受講態度、発表・討議への参加、予・復習の状況によって評価する。				
	レポート	10	学習指導案作成の適切さを評価する。レポートについてはコメントを記入して返却する。				
	小テスト	20	各回の主要なポイントの理解を評価する。小テストは採点して返却し解説する。				
	定期試験	60	最終的な理解度を評価する。				
	その他						

評価の方法：自由記載	
受講の心得	<ol style="list-style-type: none"> 事前・事後にテキストや参考文献を読むこと。 学習したことや自分の考えなどをまとめ、振り返りシートを書くこと。 発表や討議に積極的に取り組むこと。 配付する資料を整理しておくこと。
授業外学習	<ol style="list-style-type: none"> 予習として、テキストのうち、授業内容にかかわる部分を読み、疑問点を明らかにする。 復習として、テキストやノート、資料を読む。 発展学習として、授業で紹介された参考文献を読む。 以上の内容を、適当に94時間以上学習すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
小学校学習指導要領解説特別活動編	文部科学省	東洋館出版	978-4-491-03469-0	141円+税
小学校学習指導要領解説総合的な学習の時間	文部科学省	東洋館出版	978-4-491-03468-3	126円+税

使用テキスト：自由記載

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
	文部科学省	東洋館出版	978-4-491-03468-3	126円+税

参考書：自由記載

授業において随時紹介する。

その他

備考

注意事項

担当教員の業務経験の有無

有

担当教員の業務経験

公立中学校理科教諭(15年)、県教育センター(9年)(佐々木弘記)

担当教員以外で指導に関わる業務経験者の有無

無

担当教員以外で指導に関わる業務経験者

業務経験をいかけた教育内容

学校(15年)、教育センター(9年)等での経験を生かして、教育現場の実態を反映させた実践的な教育を行う。(佐々木)

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー-学士力)	評価の観点(到達目標に基づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 学習指導要領に示された総合的な学習の時間及び特別活動の目標や内容について理解できる。	学習指導要領に示された総合的な学習の時間及び特別活動の目標や内容について広範かつ詳細に理解している。	学習指導要領に示された総合的な学習の時間及び特別活動の目標や内容について広範に理解している。	学習指導要領に示された総合的な学習の時間及び特別活動の目標や内容について基礎的事項を十分に理解している。	学習指導要領に示された総合的な学習の時間及び特別活動の目標や内容について基礎的事項を十分に理解していない。	学習指導要領に示された総合的な学習の時間及び特別活動の目標や内容について基礎的事項を理解していない。
思考・問題解決能力	1. 小学校の教師として、総合的な学習の時間及び特別活動(学級活動や学校行事等)における諸問題に対応できる問題解決力を身に付ける。	小学校の教師として、総合的な学習の時間及び特別活動(学級活動や学校行事等)における諸問題に対応できる問題解決力を広範かつ詳細に身に付けている。	小学校の教師として、総合的な学習の時間及び特別活動(学級活動や学校行事等)における諸問題に対応できる問題解決力を広範に身に付けている。	小学校の教師として、総合的な学習の時間及び特別活動(学級活動や学校行事等)における諸問題に対応できる基礎的な問題解決力を十分に付けている。	小学校の教師として、総合的な学習の時間及び特別活動(学級活動や学校行事等)における諸問題に対応できる基礎的な問題解決力を十分に付けていない。	小学校の教師として、総合的な学習の時間及び特別活動(学級活動や学校行事等)における諸問題に対応できる基礎的な問題解決力を身に付けていない。

科目名	生徒指導・進路指導の理論と方法			授業番号	CP211	サブタイトル	
教員	住野 好久						
単位数	2単位	開講年次	3年	開講期	後期	授業形態	講義
						必修・選択	選択
授業概要	生徒指導・進路指導の意義及び教育課程における位置づけを『生徒指導提要』等を用いて学習するとともに、他の教職員や関係機関と連携しながら集団的・個別的な生徒指導・進路指導を組織的に進めていくために必要な知識・技能を具体的な実践事例を通して学習する。						
到達目標	生徒指導・進路指導の意義及び教育課程における位置づけを理解するとともに、他の教職員や関係機関と連携しながら集団的・個別的な生徒指導・進路指導を、組織的に進めていくために必要な知識・技能や素養を身に付ける。 なお、本科目はデプロイ・ポスターに掲げた学上力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉の修得に貢献する。						
授業計画 備考							
回	概要					担当	
第1回	生徒指導の意義と課題 『生徒指導』とはどのような指導のことかを、自らの体験を踏まえて考える。						
第2回	生徒指導の定義 『生徒指導提要』による生徒指導の定義づけを学ぶ。「進路指導」[キャリア教育]との関係性も学ぶ。						
第3回	生徒指導の実践上の視点 生徒指導実践の4つの視点について学ぶ。						
第4回	生徒指導の構造 『生徒指導提要』が提案する生徒指導の「2軸3類4層構造」を理解する。						
第5回	生徒指導の方法(1) 生徒指導の基本的な方法である「子ども理解」の方法について学ぶ。						
第6回	生徒指導の方法(2) 生徒指導の基本的な方法である「集団指導」「個別指導」について学ぶ。						
第7回	生徒指導の基盤 生徒指導の基盤となる「教職員集団の同僚性」「生徒指導マネジメント」「家庭や地域の参画」を学ぶ。						
第8回	生徒指導と教育課程(1) 生徒指導と教科指導との関係について理解する。						
第9回	生徒指導と教育課程(2) 生徒指導と道徳教育・総合的な学習の時間との関係について理解する。						
第10回	生徒指導と教育課程(3) 生徒指導と特別活動との関係について理解する。						
第11回	チーム学校による生徒指導体制 生徒指導に取り組み体制、関係機関との連携・協働等について学ぶ。						
第12回	個別の課題に対する生徒指導(1)いじめ いじめ問題の現状といじめに関する生徒指導の重層的支援構造を学ぶ。						
第13回	個別の課題に対する生徒指導(2)暴力行為 暴力問題の現状と暴力行為に関する生徒指導の重層的支援構造を学ぶ。						
第14回	個別の課題に対する生徒指導(3)不登校 不登校問題の現状と不登校に関する生徒指導の重層的支援構造を学ぶ。						
第15回	生徒指導と進路指導を連した子どもの「生き方指導」 生徒指導は進路指導と結びつき、進路指導は生徒指導と結びつくことで、子どもの生き方影響を及ぼす効果的なものになることを学ぶ。						
授業計画 備考2							
評価の方法							
	種別	割合	評価基準・その態備考				
	授業への取り組みの姿勢/態度						
	レポート	50	生徒指導を正しく理解し、生徒指導の内容・方法について適切に論述する。				
	確認テスト	50	毎回の授業の最後に、授業内容に関する小テストを行う。				
	定期試験						
	その他						

評価の方法：自由記載	
受講の心得	1) 事前・事後にテキストや参考資料を読むこと。 2) 発表や討論に積極的に取り組むこと。 3) 配付する資料を整理しておくこと。
授業外学修	1 予習として、テキストのうち、授業内容にかかわる部分を読み、疑問点を明らかにする。 2 復習として、課題のレポートを書く。 3 発展学修として、授業で紹介された参考文献を読む。 以上の内容を、適当に4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
生徒指導提要～令和4年12月～	文部科学省	東洋館出版社	9784491051758	990円
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	授業において随時紹介する。			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. 生徒指導・進路指導の意義を理解する。	生徒指導・進路指導の意義・目的・構造・組織等を説明できる。	生徒指導・進路指導の意義・目的・構造・組織等を理解している。	生徒指導・進路指導の意義・目的・構造・組織等をだいたい理解している。	生徒指導・進路指導の意義や目的は理解している。	生徒指導・進路指導の意義や目的を理解していない。
知識・理解	2. 生徒指導・進路指導の教育課程における位置づけを理解する。	生徒指導・進路指導の教育課程の全領域における位置づけを説明できる。	生徒指導・進路指導の教育課程の全領域における位置づけをだいたい説明できる。	生徒指導・進路指導の教育課程における位置づけを部分的に説明できる。	生徒指導・進路指導の教育課程における位置づけを部分的に理解している。	生徒指導・進路指導の教育課程における位置づけを理解していない。
知識・理解	3. 他の教職員や関係機関と連携することの重要性を理解する。	他の教職員や関係機関とどのように連携すべきかについて説明できる。	他の教職員や関係機関と連携することの重要性を説明できる。	他の教職員や関係機関と連携することの重要性を理解している。	他の教職員や関係機関と連携することの重要性を十分理解していない。	他の教職員や関係機関と連携することの重要性を全く理解していない。
技能	1. 集団的・個別的な生徒指導・進路指導の技能を身につける。	集団的・個別的な生徒指導・進路指導の技能を状況に応じて実践できる。	集団的・個別的な生徒指導・進路指導の基本技能について実践できる。	集団的・個別的な生徒指導・進路指導のいくつかの技能を実践できる。	集団的・個別的な生徒指導・進路指導の技能を理解している。	集団的・個別的な生徒指導・進路指導の技能を理解していない。
技能	2. 生徒指導を組織的に進めていく技能を身につける。	組織的な生徒指導に求められる技能を実践できる。	組織的な生徒指導に求められる技能のいくつかを実践できる。	組織的な生徒指導に求められる技能を理解している。	組織的な生徒指導に求められる技能のいくつかを理解している。	組織的な生徒指導に求められる技能を理解していない。

科目名	子どもと健康 1クラス			授業番号	CP212A	サブタイトル	
教員	岡崎 三鈴						
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	演習
授業概要	本科目は、保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づき、領域「健康」の意図する目標、ねらい及び内容についての理解を深め、保育における「健康」（安全）教育の位置づけを明確にする。また、遊びや生活を通しての幼児の健康な姿や、家庭と園との生活の流れの中で幼児にとっての健康な生活リズムについて、幼児の発達の特徴や健康に関わる指導の観点を明確にし、保育者としてどのような健康観をもち、子どもたちに接するべきかを考え、実践力ある保育者への意識の向上を図ることを目的とする講義をする。						
到達目標	下記のポイントを本科目の到達目標に設定する。なお本科目はディプロマポリシーに掲げた<知識・理解>・<思考・問題解決能力>の修得に貢献する。 1. 乳幼児期の基本的な発達特性を理解して発表できる。 2. 子どもの健康と生活の関連性を理解できる。 3. 子どもの健康を促進させる保育の基本的観点を整理し、発表できる。						
授業計画 備考							
回	概要					担当	
第1回	「健康」とは何か 保育内容「健康」の授業概要、健康の定義について理解する。						
第2回	子どもの「健やかな心と身体」を支えているもの(1)乳幼児期の発達と心の安定 乳幼児期の身体発達の基礎、発育・発達を促進させる環境、情緒・パーソナリティの発達について理解する。						
第3回	子どもの「健やかな心と身体」を支えているもの(2)生活リズム 基本的な生活習慣の概念、形成について理解する。						
第4回	子どもの「健やかな心と身体」を支えているもの(3) 安全と食を飲む力 幼児のけがや事故の現状把握と安全教育・安全管理について理解する。						
第5回	領域「健康」の指導計画の立案 幼児の発達に合わせた指導計画の作成について理解する。						
第6回	領域「健康」の環境構成の具体とその留意点について 具体例についてグループで検討し理解を深める。						
第7回	領域「健康」における保育者の役割について 場面に応じた関わり方の検討をグループで行い理解を深める。						
第8回	領域「健康」と保育の実践(1)子どもが安心感をもつための保育の工夫 実際の場面から子どもが安心感をもつための保育者の関わりを理解する。						
第9回	領域「健康」と保育の実践(2)子どもが進んで戸外で遊ぶ保育の工夫 実際の場面から戸外遊びの環境構成と保育者の関わりを模擬保育を通して理解する。						
第10回	領域「健康」と保育の実践(3)子どもが自分たちで生活の場を整えていく工夫 実際の場面から基本的な生活習慣の自立における保育者の関わりについて理解する。						
第11回	領域「健康」と保育の実践(4)子どもの食への関心と危険や安全への関心 実際の場面から病気やアレルギー対応について理解する。						
第12回	食育活動による健康指導 食に関わる法規の理解と実践について理解する。						
第13回	特別に支援が必要な子どもの健康指導 特別に支援が必要な子どもの健康指導の原則の理解、実践の具体例を理解する。						
第14回	事故防止と安全管理 園生活における安全管理と事故の防止について理解する。						
第15回	領域「健康」の計画と評価 指導計画の概要と実際、保育の評価について理解する。						
授業計画 備考2							
評価の方法							
	種別	割合	評価基準・その他備考				
	授業への取り組みの姿勢/態度	30	授業への積極的な態度や取組について評価する。				
	レポート	20	レポートのテーマに応じた内容や構成について評価し、コメントを記入して返却する。				
	小テスト						
	定期試験	50	領域「健康」に関する知識・理解について評価する。				
	その他						

評価の方法：自由記載	
受講の心得	保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の領域「健康」について熟読しておく。日常生活の中で「健康とはどのような状態か」「幼児期にはくむべき健康とは」ということについて自ら意識して考えたり、実際に子どもに接する機会を意図的にもち、子ども理解を深めたりしていく。そして、理解した内容を授業だけでなく今後の実習と結びつけていく。
授業外学習	1. 毎授業の単元について事前に教科書で範囲を熟読すること。 2. 授業後に、講義内容の整理しておくこと。 3. 興味を持った部分を更に自分自身で調べること。 以上の内容を適当に94時間以上学習すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
コンパクト版 保育内容シリーズ健康	谷田貝公彦・高橋弥生	株式会社 一藝社	978-4-86359-150-9	2000円+税
使用テキスト：自由記載	コンパクト版 保育内容シリーズ健康			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	『保育所保育指針解説』厚生労働省 発行所 プレーベル館 『幼稚園教育要領解説』文部科学省 発行所 プレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府 発行所 プレーベル館			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. 乳幼児期の基本的な発達特性を理解して発表できる。	乳幼児の実態に合わせ、的確に配慮しながら説明できる。	ねらいと内容を理解し、個々の乳幼児の実態に合わせて計画を述べる。	ねらいと内容を理解し、個々の乳幼児の実態を工夫し関係づける。	ねらいと内容を理解し、個々の乳幼児の実態を関係づける。	援助・指導の基本的な知識について理解している。
知識・理解	2. 子どもの健康と生活の関連性を理解できる。	乳幼児の主体性を伸ばし、ねらいを達成しするための効果的な展開ができる。	乳幼児の主体性を伸ばすための臨機応変な展開ができる。	個々の乳幼児の実態に合わせて援助や指導の工夫ができる。	個々の実態に合わせて援助・指導ができる。	理解はしているが、援助や指導に努力している。
思考・問題解決能力	1. 子どもの健康を促進させる保育の基本的視点を整理し、発表できる。	課題の探求・解決というプロセスを達成する能力を身につけている。	課題の探求から解決に向けた能力が身につけている。	課題の探求から解決に向けた能力がある程度身につけている。	課題の探求から解決に向けた能力が必ずしも身につけていない。	課題の探求から解決に向けた能力が全く身につけていない。
態度	1. 授業への積極的な態度や取組について評価する。	現場で役立たせるために、それぞれの視点から健康を考えることができ、積極的に授業に参加する。	現場で役立たせるために、それぞれの視点から健康を考えることができ、授業に参加する。	授業には参加するが、発表、討論、活動に消極的である。	授業を振り返り理解したことや反省点など、表現が乏しい。	受講態度や欠席、未提出があり、授業への意欲が見られない。

2024年度授業概要(シラバス)

科目名	子どもと健康 2クラス			授業番号	CP212B	サブタイトル	
教員	岡崎 三鈴						
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	演習
						必修・選択	選択
授業概要	<p>本科目は、保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づき、領域「健康」の意図する目標、ねらい及び内容についての理解を深め、保育における「健康」（安全）教育の位置づけを明確にする。また、遊びや生活を通しての幼児の健康な姿や、家庭と園との生活の流れの中で幼児にとっての健康な生活リズムについて、幼児の発達の特徴や健康に関わる指導の観点を明確にし、保育者としてどのような健康観をもち、子どもたちに接するべきかを考え、実践力ある保育者への意識の向上を図ることを目的とする講義をする。</p>						
到達目標	<p>下記のポイントを本科目の到達目標に設定する。なお本科目はディプロマポリシーに掲げた<知識・理解>・<思考・問題解決能力>の修得に貢献する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 乳幼児期の基本的な発達特性を理解して発表できる。 2. 子どもの健康と生活の関連性を理解できる。 3. 子どもの健康を促進させる保育の基本的観点を整理し、発表できる。 						
授業計画 備考							
回	概要						担当
第1回	「健康」とは何か 保育内容「健康」の授業概要、健康の定義について理解する。						
第2回	子どもの「健やかな心と身体」を支えているもの(1)乳幼児期の発達と心の安定 乳幼児期の身体発達の基礎、発育・発達を促進させる環境、情緒・パーソナリティの発達について理解する。						
第3回	子どもの「健やかな心と身体」を支えているもの(2)生活リズム 基本的な生活習慣の概念、形成について理解する。						
第4回	子どもの「健やかな心と身体」を支えているもの(3)安全と食を飲む力 幼児のけがや事故の現状把握と安全教育・安全管理について理解する。						
第5回	領域「健康」の指導計画の立案 幼児の発達に合わせた指導計画の作成について理解する。						
第6回	領域「健康」の環境構成の具体とその留意点について 具体例についてグループで検討し理解を深める。						
第7回	領域「健康」における保育者の役割について 場面に応じた関わり方の検討をグループで行い理解を深める。						
第8回	領域「健康」と保育の実践(1)子どもが安心感をもつための保育の工夫 実際の場面から子どもが安心感をもつための保育者の関わりを理解する。						
第9回	領域「健康」と保育の実践(2)子どもが進んで戸外で遊ぶ保育の工夫 実際の場面から戸外遊びの環境構成と保育者の関わりを模擬保育を通して理解する。						
第10回	領域「健康」と保育の実践(3)子どもが自分たちで生活の場を整えていく工夫 実際の場面から基本的な生活習慣の自立における保育者の関わりについて理解する。						
第11回	領域「健康」と保育の実践(4)子どもの食への関心と危険や安全への関心 実際の場面から病気やアレルギー対応について理解する。						
第12回	食育活動による健康指導 食に関わる法規の理解と実践について理解する。						
第13回	特別に支援が必要な子どもの健康指導 特別に支援が必要な子どもの健康指導の原則の理解、実践の具体例を理解する。						
第14回	事故防止と安全管理 園生活における安全管理と事故の防止について理解する。						
第15回	領域「健康」の計画と評価 指導計画の概要と実際、保育の評価について理解する。						
授業計画 備考2							
評価の方法							
	種別	割合	評価基準・その他備考				
	授業への取り組みの姿勢/態度	30	授業への積極的な態度や取組について評価する。				
	レポート	20	レポートのテーマに応じた内容や構成について評価し、コメントを記入して返却する。				
	小テスト						
	定期試験	50	領域「健康」に関する知識・理解について評価する。				
	その他						

評価の方法：自由記載	
受講の心得	保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の領域「健康」について熟読しておく。日常生活の中で「健康とはどのような状態か」「幼児期にはくむべき健康とは」ということについて自ら意識して考えたり、実際に子どもに接する機会を意図的にもち、子ども理解を深めたりしていく。そして、理解した内容を授業だけでなく今後の実習と結びつけていく。
授業外学習	1. 毎授業の単元について事前に教科書で範囲を熟読すること。 2. 授業後に、講義内容の整理しておくこと。 3. 興味を持った部分を更に自分自身で調べること。 以上の内容を適当に94時間以上学習すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
コンパクト版 保育内容シリーズ健康	谷田貝公章・高橋弥生	株式会社 一藝社	978-4-86359-150-9	2000円+税
使用テキスト：自由記載	コンパクト版 保育内容シリーズ健康			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	『保育所保育指針解説』厚生労働省 発行所 プレーベル館 『幼稚園教育要領解説』文部科学省 発行所 プレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府 発行所 プレーベル館			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. 乳幼児期の基本的な発達特性を理解して発表できる。	乳幼児の実態に合わせ、的確に配慮しながら説明できる。	ねらいと内容を理解し、個々の乳幼児の実態に合わせて計画を述べる。	ねらいと内容を理解し、個々の乳幼児の実態を工夫し関係づける。	ねらいと内容を理解し、個々の乳幼児の実態を関係づける。	援助・指導の基本的な知識について理解している。
知識・理解	2. 子どもの健康と生活の関連性を理解できる。	乳幼児の主体性を伸ばし、ねらいを達成しするための効果的な展開ができる。	乳幼児の主体性を伸ばすための臨機応変な展開ができる。	個々の乳幼児の実態に合わせて援助や指導の工夫ができる。	個々の実態に合わせて援助・指導ができる。	理解はしているが、援助や指導に努力している。
思考・問題解決能力	1. 子どもの健康を促進させる保育の基本的視点を整理し、発表できる。	課題の探求・解決というプロセスを達成する能力を身につけている。	課題の探求から解決に向けた能力が身につけている。	課題の探求から解決に向けた能力がある程度身につけている。	課題の探求から解決に向けた能力が必ずしも身につけていない。	課題の探求から解決に向けた能力が全く身につけていない。
態度	1. 授業への積極的な態度や取組について評価する。	現場で役立たせるために、それぞれの視点から健康を考えることができ、積極的に授業に参加する。	現場で役立たせるために、それぞれの視点から健康を考えることができ、授業に参加する。	授業には参加するが、発表、討論、活動に消極的である。	授業を振り返り理解したことや反省点など、表現が乏しい。	受講態度や欠席、未提出があり、授業への意欲が見られない。

科目名	子ども人間関係 1クラス	授業番号	CP214A	サブタイトル	
教員	廣畑 まゆ美				
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	前期
				授業形態	演習
					必修・選択
					選択
授業概要	<p>保育内容「人間関係」は、人とかわる力を養う観点から示されている。 この授業では、保育所保育指針等に示された「人間関係」のねらい及び内容について理解し、子どもを取り囲む様々な人間関係を考察するとともに、保育者自身の役割や援助の在り方を実践的に学ぶ。</p>				
到達目標	<p>子どもが人とかわる力を身に付けていく過程をたらし、「人とかわる力の基礎」を理解する。 保育者・教育者に求められる幅広い知識と、保育・教育に関する専門的知識を習得していく。 保育者・教育者として、子どものよきモデルとなることができるよう、明るく前向きで誠実な態度を身につける。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。</p>				
授業計画 備考					
回	概要			担当	
第1回	「人間関係」のねらいと内容…幼児期に求められる人間関係について理解する				
第2回	「人間関係」の変遷…子どもを取り巻く人的環境の変化				
第3回	子どもの人間関係の発達課題（1）…愛着関係の形成、情緒の形成、自我の発達				
第4回	子どもの人間関係の発達課題（2）…いざこざを通した育ち、いざこざに対する保育者の援助				
第5回	子どもの人間関係の発達課題（3）…道徳性と規範意識の芽生え				
第6回	幼児期の生活や遊びの中での人と関わる力…子どもの姿を個と集団の関係から読み解く				
第7回	遊びの発達と人間関係				
第8回	保育者に求められる援助の視点				
第9回	子どもの協同性を育む保育者の援助…「遊んでばかりは人間になる」を視察、グループワーク				
第10回	人間関係を結ぶ保育のあり方…遊びでつなぐ友だち作り				
第11回	保育場面での気になる子どものかわり…気になる子の人間関係と保育者の援助				
第12回	子どもの人間関係をめぐる現代的課題				
第13回	子ども理解；子ども理解の視点、グループワーク				
第14回	親の思いと家庭との関わり…保護者との信頼関係、子育て支援の今後の課題				
第15回	定期試験に向けて；これまでの講義の振り返り、試験のポイント解説、質疑応答				
授業計画 備考2					
評価の方法					
	種別	割合	評価基準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度	20	授業への取組の積極性、発表、予習・復習の状況などによって評価する。		
	レポート	30	テーマに沿って具体的に述べられているかを評価する。レポートはコメントをつけて返却する。		
	小テスト				
	定期試験	50	最終的な理解度を評価する。		
	その他				

評価の方法：自由記載	
受講の心得	「しつかと話を聞く」「自分の考えを話す」「記録の整理」を大切にして保育者としての基礎を体得してほしい。 また、演習ではグループワーク等をおこなう。積極的に取り組み、意見交換等から知見を広げてほしい。
授業外学修	復習を欠かさないこと。授業後は授業内容の整理を行い、ノートにまとめておく。配付したプリントは順番にファイリングすること。 授業では、人とかわかる「遊び」の計画を行う。事前の準備や事後の省察を行い、丁寧に記録すること。 このことについて、1時間以上の授業外学修をすること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
保育内容「人間関係」第2版	浜名浩 編	株式会社みらい	9784960154455	2100円＋税
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の業務経験の有無	無			
担当教員の業務経験				
担当教員以外で指導に関わる業務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる業務経験者				
業務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. 子どもが人とかわかる力を身につけていく過程の理解	子どもが人とかわかる力を身につけていく過程を十分理解できている。得た知識を様々な場面で生かすことができる。	子どもが人とかわかる力を身につけていく過程を十分理解できている。	子どもが人とかわかる力を身につけていく過程をおおむね理解することができる。	子どもが人とかわかる力を身につけていく過程があることを知り、理解しようとしている。	子どもが人とかわかる力を身につけていく過程について理解できていない。
知識・理解	2. 保育者・教育者に求められる幅広い教養と知識の習熟	一人一人を生かした集団形成のために必要な専門知識を十分理解できている。得た知識を様々な場面で応用できる。	一人一人を生かした集団形成のために必要な専門知識をおおむね理解できている。	一人一人を生かした集団形成のために必要な専門知識をおおむね理解することができる。	一人一人を生かした集団形成のために必要な専門知識を知り、理解しようとしている。	一人一人を生かした集団形成のために必要な専門知識について理解できていない。
思考・問題解決能力	1. 事例検討	学んだ基礎的な知識を柔軟に活用しながら、子どもを取り囲む物的環境、人的環境、場の環境を踏まえた援助を検討することができる。	学んだ基礎的な知識を活用しながら、子どもを取り囲む物的環境、人的環境、場の環境を踏まえた援助を検討することができる。	学んだ基礎的な知識を活用しながら、子どもを取り囲む物的環境、人的環境、場の環境を踏まえた援助を自分なりに検討することができる。	子どもを取り囲む物的環境、人的環境、場の環境を踏まえた援助を自分なりに検討することができるが、学んだ知識との関連に気づくことができない。	学んだ知識を活用できず、事例においても自分なりの検討ができない。
技能	1. 保育の構想	学んだ知識をもとに個別的・集団的に子どもを把握し、それぞれの能力が存分に発揮できる具体的な保育の構想や方法を計画・実践することができる。	学んだ知識をもとに個別的・集団的に子どもを把握し、それぞれの能力が存分に発揮できる具体的な保育の構想や方法を計画・実践しようとしている。	学んだ知識をもとに個別的・集団的に子どもを把握しようとし、具体的な保育の構想や方法を計画・実践しようとしている。	子どもを把握しようとし、具体的な保育の構想や方法を計画しようとしているが実践面においては不十分である。	具体的な保育構想ができておらず、実践もできていない。
態度	1. 授業への参加	グループディスカッション、グループ活動、個人活動などに積極的に取り組む様子が現れ、学んだ知識や他者の意見をよく聴いて、自分なりに意見を構築することができる。	グループディスカッション、グループ活動、個人活動などに積極的に取り組む様子が現れ、学んだ知識や他者の意見をよく聴いて、自分なりに意見を構築することができる。	グループディスカッション、グループ活動、個人活動などに積極的に取り組む様子が現れ、自分なりに意見を構築することができる。	グループディスカッション、グループ活動、個人活動などに積極的に取り組む過程で、自分なりに意見を構築しようとしている。	グループディスカッション、グループ活動、個人活動などに積極的に参加しておらず、自分の意見を持つことができていない。

科目名	子ども人間関係 2クラス			授業番号	CP214B	サブタイトル	
教員	廣畑 まゆ美						
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	演習
						必修・選択	選択
授業概要	<p>保育内容「人間関係」は、人とかわる力を養う観点から示されている。 この授業では、保育所保育指針等に示された「人間関係」のねらい及び内容について理解し、子どもを取り囲む様々な人間関係を考察するとともに、保育者自身の役割や援助の在り方を実践的に学ぶ。</p>						
到達目標	<p>子どもが人とかわる力を身に付けていく過程をたらし、「人とかわる力の基礎」を理解する。 保育者・教育者に求められる幅広い知識と、保育・教育に関する専門的知識を習得していく。 保育者・教育者として、子どものよきモデルとなることができるよう、明るく前向きで誠実な態度を身につける。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。</p>						
授業計画 備考							
回	概要					担当	
第1回	「人間関係」のねらいと内容…幼児期に求められる人間関係について理解する						
第2回	「人間関係」の変遷…子どもを取り巻く人的環境の変化						
第3回	子どもの人間関係の発達課題(1)…愛着関係の形成、情緒の形成、自我の発達						
第4回	子どもの人間関係の発達課題(2)…いざこざを通した育ち、いざこざに対する保育者の援助						
第5回	子どもの人間関係の発達課題(3)…道徳性と規範意識の芽生え						
第6回	幼児期の生活や遊びの中での人と関わる力…子どもの姿を個と集団の関係から読み解く						
第7回	遊びの発達と人間関係						
第8回	保育者に求められる援助の視点						
第9回	子どもの協同性を育む保育者の援助…「遊んでばかりは人間になる」を視察、グループワーク						
第10回	人間関係を結ぶ保育のあり方…遊びでつなぐ友だち作り						
第11回	保育場面での気になる子どものかわり…気になる子の人間関係と保育者の援助						
第12回	子どもの人間関係をめぐる現代的課題						
第13回	子ども理解；子ども理解の視点、グループワーク						
第14回	親の思いと家庭との関わり…保護者との信頼関係、子育て支援の今後の課題						
第15回	定期試験に向けて；これまでの講義の振り返り、試験のポイント解説、質疑応答						
授業計画 備考2							
評価の方法							
	種別	割合	評価基準・その他備考				
	授業への取り組みの姿勢/態度	20	授業への取組の積極性、発表、予習・復習の状況などによって評価する。				
	レポート	30	テーマに沿って具体的に述べられているかを評価する。レポートはコメントをつけて返却する。				
	小テスト						
	定期試験	50	最終的な理解度を評価する。				
	その他						

評価の方法：自由記載	
受講の心得	「しつかと話を聞く」「自分の考えを話す」「記録の整理」を大切にして保育者としての基礎を体得してほしい。 また、演習ではグループワーク等をおこなう。積極的に取り組み、意見交換等から知見を広げてほしい。
授業外学修	復習を欠かさないこと。授業後は授業内容の整理を行い、ノートにまとめておく。配付したプリントは順番にファイリングすること。 授業では、人とかわかる「遊び」の計画を行う。事前の準備や事後の省察を行い、丁寧に記録すること。 このことについて、1時間以上の授業外学修をすること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
保育内容「人間関係」第2版	浜名浩 編	株式会社みらい	9784960154455	2100円+税
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の業務経験の有無	無			
担当教員の業務経験				
担当教員以外で指導に関わる業務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる業務経験者				
業務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. 子どもが人とかわかる力を身につけていく過程の理解	子どもが人とかわかる力を身につけていく過程を十分理解できている。得た知識を様々な場面で生かすことができる。	子どもが人とかわかる力を身につけていく過程を十分理解できている。	子どもが人とかわかる力を身につけていく過程をおおむね理解することができる。	子どもが人とかわかる力を身につけていく過程があることを知り、理解しようとしている。	子どもが人とかわかる力を身につけていく過程について理解できていない。
知識・理解	2. 保育者・教育者に求められる幅広い教養と知識の習熟	一人一人を生かした集団形成のために必要な専門知識を十分理解できている。得た知識を様々な場面で応用できる。	一人一人を生かした集団形成のために必要な専門知識をおおむね理解できている。	一人一人を生かした集団形成のために必要な専門知識をおおむね理解することができる。	一人一人を生かした集団形成のために必要な専門知識を知り、理解しようとしている。	一人一人を生かした集団形成のために必要な専門知識について理解できていない。
思考・問題解決能力	1. 事例検討	学んだ基礎的な知識を柔軟に活用しながら、子どもを取り囲む物的環境、人的環境、場の環境を踏まえた援助を検討することができる。	学んだ基礎的な知識を活用しながら、子どもを取り囲む物的環境、人的環境、場の環境を踏まえた援助を検討することができる。	学んだ基礎的な知識を活用しながら、子どもを取り囲む物的環境、人的環境、場の環境を踏まえた援助を自分なりに検討することができる。	子どもを取り囲む物的環境、人的環境、場の環境を踏まえた援助を自分なりに検討することができるが、学んだ知識との関連に気づくことができない。	学んだ知識を活用できず、事例においても自分なりの検討ができない。
技能	1. 保育の構想	学んだ知識をもとに個別的・集団的に子どもを把握し、それぞれの能力が存分に発揮できる具体的な保育の構想や方法を計画・実践することができる。	学んだ知識をもとに個別的・集団的に子どもを把握し、それぞれの能力が存分に発揮できる具体的な保育の構想や方法を計画・実践しようとしている。	学んだ知識をもとに個別的・集団的に子どもを把握しようとし、具体的な保育の構想や方法を計画・実践しようとしている。	子どもを把握しようとし、具体的な保育の構想や方法を計画しようとしているが実践面においては不十分である。	具体的な保育構想ができておらず、実践もできていない。
態度	1. 授業への参加	グループディスカッション、グループ活動、個人活動などに積極的に取り組む様子が現れ、学んだ知識や他者の意見をよく聴いて、自分なりに意見を構築することができる。	グループディスカッション、グループ活動、個人活動などに積極的に取り組む様子が現れ、学んだ知識や他者の意見をよく聴いて、自分なりに意見を構築することができる。	グループディスカッション、グループ活動、個人活動などに積極的に取り組む様子が現れ、自分なりに意見を構築することができる。	グループディスカッション、グループ活動、個人活動などに積極的に取り組む過程で、自分なりに意見を構築しようとしている。	グループディスカッション、グループ活動、個人活動などに積極的に参加しておらず、自分の意見を持つことができていない。

科目名	子ども環境 1クラス	授業番号	CP216A	サブタイトル						
教員	西條 佳子									
単位数	1単位	開講年次	1/2/3/4/5/6/7/8/9/10/11/12/13/14/15/16/17/18/19/20/21/22/23/24/25/26/27/28/29/30/31/32/33/34/35/36/37/38/39/40/41/42/43/44/45/46/47/48/49/50/51/52/53/54/55/56/57/58/59/60/61/62/63/64/65/66/67/68/69/70/71/72/73/74/75/76/77/78/79/80/81/82/83/84/85/86/87/88/89/90/91/92/93/94/95/96/97/98/99/100	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択	
授業概要	領域「環境」の指導に必要となる保育内容に関する基礎的な知識・技能について講義する。特に領域「環境」の指導の基盤となる、幼児を取り巻く環境とその現代的課題、幼児と身近な環境との関わり方の発達等について説明する。また保育内容について体験的に理解するために、具体的な活動を行い指導のための基礎力を養成する。									
到達目標	下記の観点で本科目の到達目標を設定する。 1. 「環境」の関わりについて、自分の言葉で語るができる。 2. 環境の内容について、多様な視点で語るができる。 3. 環境に関わるいろいろな活動を体験しながら、指導のための基礎力を身に付ける。 4. 子どもが好奇心や探求心をもって活動に熱中するための指導のポイントを体験的に会得する。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学力の内容のうち、＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞の修得に貢献する。									
授業計画 備考	(1)領域「環境」についての保育内容、(2)自然を観察する時の基礎力として「理科ソング」、(3)実際の体験としての「工作」「実技」の3項目を授業で行う。									
回	概要							担当		
第1回	幼児教育・保育の基本と「環境」、幼児を取り巻く環境、幼児教育で育みたい資質・能力・理科ソング「草花」・工作など「手裏剣」環境を通して行う教育・保育の重要性、幼児を取り巻く環境、幼児教育において育みたい資質・能力について理解する。									
第2回	領域「環境」のねらいと内容、幼児期の終わりに育ってほしい姿（10の姿）・理科ソング「七草」・工作など「紙飛行機」幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の満3歳以上の子どもと満1歳以上満3歳未満の子どもの領域「環境」のねらいと内容及び幼児期の終わりに育ってほしい姿（10の姿）を理解する。									
第3回	領域「環境」の内容の取扱い・理科ソング「野菜の歌」・工作など「花」幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の満3歳以上と満1歳以上満3歳未満の子どもの領域「環境」の内容の取扱いを理解する。									
第4回	領域「環境」における乳児保育のねらい及び内容・理科ソング「セシの歌」・工作など「紙テープコマ」幼保連携型認定こども園教育・保育要領の乳児期の保育及び保育所保育指針の乳児保育に関する精神的発達に対する視点「身近なものとの関わり感性が育つ」について理解する。									
第5回	植物との関わり・理科ソング「甲虫の歌」・工作など「紙飛行機」身近な植物と遊べる草花や木の葉、草花や野菜の栽培及び保育者の援助について理解する。									
第6回	植物探検と標本（押し葉）づくり・理科ソング「むしまじり動物」・数珠「クロカス」「ヒヤシンス」草花、葉ちまきや木の葉等の自然物を使用した遊びについて理解する。標本づくりの観察を体験的に学ぶ。									
第7回	自然・季節とのかかわり、自然現象、季節をどう楽しむか・理科ソング「空の雲」各季節の特徴となる動植物・自然現象や季節を感じる保育の実践について理解する。									
第8回	生き物（小動物・昆虫）との関わり・理科ソング（復習）・工作「押し葉絵」乳幼児の身近な生き物に関心をもつて関わっていくこと、飼育の意義や目的を理解する。									
第9回	物（素材・道具）との関わり・理科ソング（復習）・工作「秋の自然物を使って(1)」乳幼児の身近な物や道具とのかかわりの意義と実践について理解する。身近な物（素材・道具）や自然物を使用した製作をする。									
第10回	数珠や図形との関わり・理科ソング（復習）・工作「秋の自然物を使って(2)」乳幼児の日常の園環境を通して数珠や図形に親しんでいく保育の実践を理解する。身近な物（素材・道具）や自然物を使用した製作をする。									
第11回	標本や文字との関わり・理科ソング（復習）・実技「お手玉」乳幼児の日常の園環境を通して標本や文字に親しんでいく保育の実践を理解する。お手玉など伝統的な遊びを体験する。									
第12回	文化や伝統、行事などに親しむ・理科ソング（復習）・実技「けん玉」日本の文化や伝統・行事や園生活における行事の意義や活動について理解する。けん玉など伝統的な遊びを体験する。									
第13回	園と地域社会・施設との関わり・実技「あやとり」地域社会における園の存在意義及び園・家庭・地域社会との連携・交流について理解する。幼児の生活と身近な施設との関わりについて理解する。あやとりなど伝統的な遊びを体験する。									
第14回	情報との関わり、幼児教育・保育におけるICT機器の活用・理科ソング（復習）・工作「部分(1)」近年の幼児を取り巻く情報環境と幼児教育・保育におけるICT等の情報機器の活用について理解する。部分など伝承行事への理解とそれらにまつる製作をする。									
第15回	他の領域や小学校教育とのつながり、領域「環境」全体のまとめ・理科ソング（復習）・工作「部分(2)」保幼小の連携・接続の必要性及び小1プロブレム、アローチかじり、スタートかじり、小学校低学年の学校生活や生活の具体的な内容との関連について理解する。部分など伝承行事への理解とそれらにまつる製作を行う。									
授業計画 備考2	(1)テキスト (2)ノート (3)ハサミ (4)セロテープ (5)色マシク (6)授業時間に指示した物									

評価の方法		
種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢/態度	15	授業終了時に当日の講義の要約を記述して提出を求めるコメントシートにより、評価を行う。
レポート	20	授業で学んだ内容を深めることができたか、要点を押さえているか、自分の考えを記述しているかを評価する。
植物標本、工作物	15	自然物の収集や工作物の出来ばいについて総合的に評価する。
定期試験	50	最終的な理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	課題やレポートについてはコメントを記入して返却する。また提出後の授業で全体的な傾向についてコメントをする。
受講の心得	事前学習としてテキストの該当範囲をあらかじめ読んでおく。 領域「環境」の内容を楽しく体験しながら、子どもの興味・関心、主体性について考えてもらいたい。
授業外学習	・事前に授業の内容をテキストで学習しておく。 ・授業後に講義内容の整理や課題取り組む。 ・身近な動植物を意図的に探し、子どもがどのような反応をするか、遊びに使えるかなどを考える。 ・身近な動植物で子どもが喜びそうな物を探し工作などをする。 ・季節の変化に注意し言葉で表現する。 ・地域の伝統・文化を探り体験してみる。 以上の内容を、週当たり4時間以上学習すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
新訂 事例で学ぶ保育内容 領域 環境	無藤雅 監修	朝文書林	978-4-89347-258-8	本体2200円+税
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 (シブロマボクサー・字士力)	評価の観点 (到達目標に基づき評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分にレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. 領域「環境」のねらいと内容を理解している。	領域「環境」のねらいと内容を正確に理解し説明できる。	領域「環境」のねらいと内容を正確ではないがほぼ理解し説明できる。	領域「環境」のねらいと内容について、概ね述べることができる。	領域「環境」のねらいと内容について、正確に説明できないが、自分の言葉では表現できる。	領域「環境」のねらいと内容について、まったく表現することができない。
知識・理解	2. 幼児を取り巻く環境と、幼児の発達にわたる意義を理解している。	幼児を取り巻く環境と、幼児の発達にわたる意義を正確に理解し説明できる。	幼児を取り巻く環境と、幼児の発達にわたる意義を正確ではないがほぼ理解し説明できる。	幼児を取り巻く環境と、幼児の発達にわたる意義について、概ね説明できる。	幼児を取り巻く環境と、幼児の発達にわたる意義について、正確には説明できないが、自分の言葉では表現できる。	幼児を取り巻く環境と、幼児の発達にわたる意義について、まったく表現することができない。
知識・理解	3. 乳幼児の物理的、数量・図形、生物・自然との関わり等の事象に対する興味・関心、理解の発達を理解している。	乳幼児の物理的、数量・図形、生物・自然との関わり等の事象に対する興味・関心、理解の発達を正確に理解し説明できる。	乳幼児の物理的、数量・図形、生物・自然との関わり等の事象に対する興味・関心、理解の発達を正確ではないがほぼ理解し説明できる。	乳幼児の物理的、数量・図形、生物・自然との関わり等の事象に対する興味・関心、理解の発達について、概ね説明できる。	乳幼児の物理的、数量・図形、生物・自然との関わり等の事象に対する興味・関心、理解の発達について、正確には説明できないが、自分の言葉では表現できる。	乳幼児の物理的、数量・図形、生物・自然との関わり等の事象に対する興味・関心、理解の発達について、まったく表現することができない。
知識・理解	4. 乳幼児を取り巻く(標識・文字等の)環境と、それらへの興味・関心、それらとの関わり方を理解している。	乳幼児を取り巻く(標識・文字等の)環境と、それらへの興味・関心、それらとの関わり方を正確に理解し説明できる。	乳幼児を取り巻く(標識・文字等の)環境と、それらへの興味・関心、それらとの関わり方を正確ではないがほぼ理解し説明できる。	乳幼児を取り巻く(標識・文字等の)環境と、それらへの興味・関心、それらとの関わり方について、概ね説明できる。	乳幼児を取り巻く(標識・文字等の)環境と、それらへの興味・関心、それらとの関わり方について、正確には説明できないが、自分の言葉では表現できる。	乳幼児を取り巻く(標識・文字等の)環境と、それらへの興味・関心、それらとの関わり方について、まったく表現することができない。
知識・理解	5. 乳幼児の生活に関係の深い情報・施設と、それらへの興味・関心、それらとの関わり方について理解している。	乳幼児の生活に関係の深い情報・施設と、それらへの興味・関心、それらとの関わり方について正確に理解し説明できる。	乳幼児の生活に関係の深い情報・施設と、それらへの興味・関心、それらとの関わり方について正確ではないがほぼ理解し説明できる。	乳幼児の生活に関係の深い情報・施設と、それらへの興味・関心、それらとの関わり方について、概ね説明できる。	乳幼児の生活に関係の深い情報・施設と、それらへの興味・関心、それらとの関わり方について、正確には説明できないが、自分の言葉では表現できる。	乳幼児の生活に関係の深い情報・施設と、それらへの興味・関心、それらとの関わり方について、まったく表現することができない。
思考・問題解決能力	1. 「環境」の内容について多様な視点から考えられることができる。	課題に対し、多様な視点から考察し、他者にわかりやすく述べることができる。	課題に対し、多様な視点から考察を加えている。	課題に対し、自分の考えを概ね述べることができる。	課題に対する自分の考えを十分に述べることができる。	課題の提出をしていない。
思考・問題解決能力	2. 「環境」に関わるいろいろな活動を体験しながら、指導のための基礎力を身に付けている。	「環境」に関わるいろいろな活動を体験しながら、指導のための基礎力を大変よく身に付けている。	「環境」に関わるいろいろな活動を体験しながら、指導のための基礎力を身に付けている。	「環境」に関わるいろいろな活動を体験しながら、指導のための基礎力を概ね身に付けている。	「環境」に関わるいろいろな活動を体験しているが、指導のための基礎力を十分に身に付けていない。	「環境」に関わるいろいろな活動を体験していない。
思考・問題解決能力	3. 子どもが好奇心や探求心をもって活動に熱中するための指導のポイントを経験的に会得できている。	子どもが好奇心や探求心をもって活動に熱中するための指導のポイントを明確かつ十分に体験的に会得できている。	子どもが好奇心や探求心をもって活動に熱中するための指導のポイントを経験的に会得できている。	子どもが好奇心や探求心をもって活動に熱中するための指導のポイントをある程度体験的に会得できている。	子どもが好奇心や探求心をもって活動に熱中するための指導のポイントを経験的に十分に会得できている。	子どもが好奇心や探求心をもって活動に熱中するための指導を体験していない。
技能	1. 植物標本を作成できる。	植物標本を大変よく作成できる。	植物標本を作成できている。	植物標本をある程度作成できている。	植物標本を作成したが、提出をしていない。	植物標本を作成していない。
技能	2. 工作物を作成できる。	工作物が大変よく作成できている。	工作物を作成できている。	工作物がある程度作成できている。	工作物を作成したが、提出をしていない。	工作物を作成していない。
態度	1. 授業に意欲的に参加できる。	質問など積極的に行い、疑問を解決し、授業内容を理解した上で、適切なコメントシートを提出している。	授業に前向きに臨む姿勢が見受けられ、授業内容を理解した上で、コメントシートを提出している。	授業に出席し、授業内容を理解した上でコメントシートを提出している。	授業に出席し、コメントシートを提出しているが、理解が十分ではない。	授業に出席しているが、コメントシートの提出をしていない。

科目名	子ども環境 2クラス	授業番号	CP216B	サブタイトル					
教員	西條 佳子								
単位数	1単位	開講年次	1/2/3/4/5/6/7/8/9/10/11/12/13/14/15/16/17/18/19/20/21/22/23/24/25/26/27/28/29/30/31/32/33/34/35/36/37/38/39/40/41/42/43/44/45/46/47/48/49/50/51/52/53/54/55/56/57/58/59/60/61/62/63/64/65/66/67/68/69/70/71/72/73/74/75/76/77/78/79/80/81/82/83/84/85/86/87/88/89/90/91/92/93/94/95/96/97/98/99/100/101/102/103/104/105/106/107/108/109/110/111/112/113/114/115/116/117/118/119/120/121/122/123/124/125/126/127/128/129/130/131/132/133/134/135/136/137/138/139/140/141/142/143/144/145/146/147/148/149/150/151/152/153/154/155/156/157/158/159/160/161/162/163/164/165/166/167/168/169/170/171/172/173/174/175/176/177/178/179/180/181/182/183/184/185/186/187/188/189/190/191/192/193/194/195/196/197/198/199/200/201/202/203/204/205/206/207/208/209/210/211/212/213/214/215/216/217/218/219/220/221/222/223/224/225/226/227/228/229/230/231/232/233/234/235/236/237/238/239/240/241/242/243/244/245/246/247/248/249/250/251/252/253/254/255/256/257/258/259/260/261/262/263/264/265/266/267/268/269/270/271/272/273/274/275/276/277/278/279/280/281/282/283/284/285/286/287/288/289/290/291/292/293/294/295/296/297/298/299/300/301/302/303/304/305/306/307/308/309/310/311/312/313/314/315/316/317/318/319/320/321/322/323/324/325/326/327/328/329/330/331/332/333/334/335/336/337/338/339/340/341/342/343/344/345/346/347/348/349/350/351/352/353/354/355/356/357/358/359/360/361/362/363/364/365/366/367/368/369/370/371/372/373/374/375/376/377/378/379/380/381/382/383/384/385/386/387/388/389/390/391/392/393/394/395/396/397/398/399/400/401/402/403/404/405/406/407/408/409/410/411/412/413/414/415/416/417/418/419/420/421/422/423/424/425/426/427/428/429/430/431/432/433/434/435/436/437/438/439/440/441/442/443/444/445/446/447/448/449/450/451/452/453/454/455/456/457/458/459/460/461/462/463/464/465/466/467/468/469/470/471/472/473/474/475/476/477/478/479/480/481/482/483/484/485/486/487/488/489/490/491/492/493/494/495/496/497/498/499/500/501/502/503/504/505/506/507/508/509/510/511/512/513/514/515/516/517/518/519/520/521/522/523/524/525/526/527/528/529/530/531/532/533/534/535/536/537/538/539/540/541/542/543/544/545/546/547/548/549/550/551/552/553/554/555/556/557/558/559/560/561/562/563/564/565/566/567/568/569/570/571/572/573/574/575/576/577/578/579/580/581/582/583/584/585/586/587/588/589/590/591/592/593/594/595/596/597/598/599/600/601/602/603/604/605/606/607/608/609/610/611/612/613/614/615/616/617/618/619/620/621/622/623/624/625/626/627/628/629/630/631/632/633/634/635/636/637/638/639/640/641/642/643/644/645/646/647/648/649/650/651/652/653/654/655/656/657/658/659/660/661/662/663/664/665/666/667/668/669/670/671/672/673/674/675/676/677/678/679/680/681/682/683/684/685/686/687/688/689/690/691/692/693/694/695/696/697/698/699/700/701/702/703/704/705/706/707/708/709/710/711/712/713/714/715/716/717/718/719/720/721/722/723/724/725/726/727/728/729/730/731/732/733/734/735/736/737/738/739/740/741/742/743/744/745/746/747/748/749/750/751/752/753/754/755/756/757/758/759/760/761/762/763/764/765/766/767/768/769/770/771/772/773/774/775/776/777/778/779/780/781/782/783/784/785/786/787/788/789/790/791/792/793/794/795/796/797/798/799/800/801/802/803/804/805/806/807/808/809/810/811/812/813/814/815/816/817/818/819/820/821/822/823/824/825/826/827/828/829/830/831/832/833/834/835/836/837/838/839/840/841/842/843/844/845/846/847/848/849/850/851/852/853/854/855/856/857/858/859/860/861/862/863/864/865/866/867/868/869/870/871/872/873/874/875/876/877/878/879/880/881/882/883/884/885/886/887/888/889/890/891/892/893/894/895/896/897/898/899/900/901/902/903/904/905/906/907/908/909/910/911/912/913/914/915/916/917/918/919/920/921/922/923/924/925/926/927/928/929/930/931/932/933/934/935/936/937/938/939/940/941/942/943/944/945/946/947/948/949/950/951/952/953/954/955/956/957/958/959/960/961/962/963/964/965/966/967/968/969/970/971/972/973/974/975/976/977/978/979/980/981/982/983/984/985/986/987/988/989/990/991/992/993/994/995/996/997/998/999/1000	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	領域「環境」の指導に必要となる保育内容に関する基礎的な知識・技能について講義する。特に領域「環境」の指導の基盤となる、幼児を取り巻く環境とその現代的課題、幼児と身近な環境との関わり方の発達等について説明する。また保育内容について体験的に理解するために、具体的な活動を行い指導のための基礎力を養成する。								
到達目標	下記の観点で本科目の到達目標を設定する。 1. 「環境」のわが国について、自分の言葉で語るができる。 2. 環境の内容について、多様な視点から述べるができる。 3. 環境に関するいろいろな活動を体験しながら、指導のための基礎力を身に付ける。 4. 子どもが好奇心や探求心をもって活動に熱中するための指導のポイントを体験的に会得する。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学力上の内容のうち、＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考	(1)領域「環境」についての保育内容、(2)自然を観察する時の基礎力として「理科ソング」、(3)実際の体験としての「工作」「実技」の3項目を授業で行う。								
回	概要			担当					
第1回	幼児教育・保育の基本と「環境」、幼児を取り巻く環境、幼児教育で育みたい資質・能力・理科ソング「草花」・工作など「手裏剣」環境を通して行う教育・保育の重要性、幼児を取り巻く環境、幼児教育において育みたい資質・能力について理解する。								
第2回	領域「環境」のわが国と内容、幼児期の終わりに育ってほしい姿（10の姿）・理科ソング「七草」・工作など「紙飛行機」幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の満3歳以上の子どもと満1歳以上満3歳未満の子どもの領域「環境」のわが国と内容及び幼児期の終わりに育ってほしい姿（10の姿）を理解する。								
第3回	領域「環境」の内容の取扱い・理科ソング「野菜の歌」・工作など「花」幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の満3歳以上と満1歳以上満3歳未満の子どもの領域「環境」の内容の取扱いを理解する。								
第4回	領域「環境」における乳児保育のわが国と内容・理科ソング「セシの歌」・工作など「紙テープコマ」幼保連携型認定こども園教育・保育要領の乳児期の乳児の保育及び保育所保育指針の乳児保育に関する視点「身近なものとの関わり」が育つについて理解する。								
第5回	植物との関わり・理科ソング「甲虫の歌」・工作など「紙飛行機」身近な植物と遊べる草花や木の葉、草花や野菜の栽培及び保育者の援助について理解する。								
第6回	植物探検と標本（押し葉）づくり・理科ソング「むしまじり動物」・数指「クロカス」「ヒヤシンス」草花、葉や木の葉等の自然物を使用した遊びについて理解する。標本づくりの花の水栽培を体験的に学ぶ。								
第7回	自然・季節とのかかわり、自然現象、季節をどう楽しむか・理科ソング「空の雲」各季節の特徴となる動植物・自然現象や季節を感じる保育の実践について理解する。								
第8回	生き物（小動物・昆虫）との関わり・理科ソング（復習）・工作「押し葉絵」乳幼児の身近な生き物に関心をもつて関わっていくこと、飼育の意義や目的を理解する。								
第9回	物（素材・道具）との関わり・理科ソング（復習）・工作「秋の自然物を使って(1)」乳幼児の身近な物や道具とのかかわりの意義と実践について理解する。身近な物（素材・道具）や自然物を使用した製作をする。								
第10回	数量や図形との関わり・理科ソング（復習）・工作「秋の自然物を使って(2)」乳幼児の日常の園環境を通して数量や図形に親しんでいく保育の実践を理解する。身近な物（素材・道具）や自然物を使用した製作をする。								
第11回	標識や文字との関わり・理科ソング（復習）・実技「お手玉」乳幼児の日常の園環境を通して標識や文字に親しんでいく保育の実践を理解する。お手玉など伝統的な遊びを体験する。								
第12回	文化や伝統、行事などに親しむ・理科ソング（復習）・実技「けん玉」日本の文化や伝統・行事や園生活における行事の意義や活動について理解する。けん玉など伝統的な遊びを体験する。								
第13回	園と地域社会・施設との関わり・実技「あやとり」地域社会における園の存在意義及び園・家庭・地域社会との連携・交流について理解する。幼児の生活と身近な施設との関わりについて理解する。あやとりなど伝統的な遊びを体験する。								
第14回	情報との関わり、幼児教育・保育におけるICT機器の活用・理科ソング（復習）・工作「部分(1)」近年の幼児を取り巻く情報環境と幼児教育・保育におけるICT等の情報機器の活用について理解する。部分など伝承行事への理解とそれらにまつる製作をする。								
第15回	他の領域や小学校教育とのつながり、領域「環境」全体のまとめ・理科ソング（復習）・工作「部分(2)」保幼小の連携・接続の必要性及び小1プロブレム、アローチかじり、スタートかじり、小学校低学年の学校生活や生活の具体的な内容との関連について理解する。部分など伝承行事への理解とそれらにまつる製作を行う。								
授業計画 備考2	(1)テキスト (2)ノート (3)ハサミ (4)セロテープ (5)色マシク (6)授業時間に指示した物								

評価の方法		
種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢/態度	15	授業終了時に当日の講義の要約を記述して提出を求めるコメントシートにより、評価を行う。
レポート	20	授業で学んだ内容を深めることができたか、要点を押さえているか、自分の考えを記述しているかを評価する。
植物標本、工作物	15	自然物の収集や工作物の出来ばいについて総合的に評価する。
定期試験	50	最終的な理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	課題やレポートについてはコメントを記入して返却する。また提出後の授業で全体的な傾向についてコメントをする。
受講の心得	事前学習としてテキストの該当範囲をあらかじめ読んでおく。 領域「環境」の内容を楽しく体験しながら、子どもの興味・関心、主体性について考えてもらいたい。
授業外学習	・事前に授業の内容をテキストで学習しておく。 ・授業後に講義内容の整理や課題取り組む。 ・身近な動植物を意図的に探し、子どもがどのような反応をするか、遊びに使えるかなどを考える。 ・身近な動植物で子どもが喜びそうな物を探し工作などをしてみる。 ・季節の変化に注意し言葉で表現する。 ・地域の伝統・文化を探り体験してみる。 以上の内容を、週当たり4時間以上学習すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
新訂 事例で学ぶ保育内容 領域 環境	無藤雅 監修	朝文書林	978-4-89347-258-8	本体2200円+税
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 (シブローマポスター・字士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分レベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. 領域「環境」のねらいと内容を理解している。	領域「環境」のねらいと内容を正確に理解し説明できる。	領域「環境」のねらいと内容を正確ではないがほぼ理解し説明できる。	領域「環境」のねらいと内容について、概ね述べることができる。	領域「環境」のねらいと内容について、正確に説明できないが、自分の言葉では表現できる。	領域「環境」のねらいと内容について、まったく表現することができない。
知識・理解	2. 幼児を取り巻く環境と、幼児の発達にわたる意義を理解している。	幼児を取り巻く環境と、幼児の発達にわたる意義を正確に理解し説明できる。	幼児を取り巻く環境と、幼児の発達にわたる意義を正確ではないがほぼ理解し説明できる。	幼児を取り巻く環境と、幼児の発達にわたる意義について、概ね説明できる。	幼児を取り巻く環境と、幼児の発達にわたる意義について、正確には説明できないが、自分の言葉では表現できる。	幼児を取り巻く環境と、幼児の発達にわたる意義について、まったく表現することができない。
知識・理解	3. 乳幼児の物理的、数量・図形、生物・自然との関わり事象に対する興味・関心、理解の発達を理解している。	乳幼児の物理的、数量・図形、生物・自然との関わり事象に対する興味・関心、理解の発達を正確に理解し説明できる。	乳幼児の物理的、数量・図形、生物・自然との関わり事象に対する興味・関心、理解の発達を正確ではないがほぼ理解し説明できる。	乳幼児の物理的、数量・図形、生物・自然との関わり事象に対する興味・関心、理解の発達について、概ね説明できる。	乳幼児の物理的、数量・図形、生物・自然との関わり事象に対する興味・関心、理解の発達について、正確には説明できないが、自分の言葉では表現できる。	乳幼児の物理的、数量・図形、生物・自然との関わり事象に対する興味・関心、理解の発達について、まったく表現することができない。
知識・理解	4. 乳幼児を取り巻く標識・文字等の環境と、それらへの興味・関心、それらとの関わり方を理解している。	乳幼児を取り巻く標識・文字等の環境と、それらへの興味・関心、それらとの関わり方を正確に理解し説明できる。	乳幼児を取り巻く標識・文字等の環境と、それらへの興味・関心、それらとの関わり方を正確ではないがほぼ理解し説明できる。	乳幼児を取り巻く標識・文字等の環境と、それらへの興味・関心、それらとの関わり方について、概ね説明できる。	乳幼児を取り巻く標識・文字等の環境と、それらへの興味・関心、それらとの関わり方について、正確には説明できないが、自分の言葉では表現できる。	乳幼児を取り巻く標識・文字等の環境と、それらへの興味・関心、それらとの関わり方について、まったく表現することができない。
知識・理解	5. 乳幼児の生活に関係の深い情報・施設と、それらへの興味・関心、それらとの関わり方について理解している。	乳幼児の生活に関係の深い情報・施設と、それらへの興味・関心、それらとの関わり方について正確に理解し説明できる。	乳幼児の生活に関係の深い情報・施設と、それらへの興味・関心、それらとの関わり方について正確ではないがほぼ理解し説明できる。	乳幼児の生活に関係の深い情報・施設と、それらへの興味・関心、それらとの関わり方について、概ね説明できる。	乳幼児の生活に関係の深い情報・施設と、それらへの興味・関心、それらとの関わり方について、正確には説明できないが、自分の言葉では表現できる。	乳幼児の生活に関係の深い情報・施設と、それらへの興味・関心、それらとの関わり方について、まったく表現することができない。
思考・問題解決能力	1. 「環境」の内容について多様な視点から考えることができる。	課題に対し、多様な視点から考察し、他者にわかりやすく述べることができる。	課題に対し、多様な視点から考察を加えている。	課題に対し、自分の考えを概ね述べることができる。	課題に対する自分の考えを十分に述べることができる。	課題の提出をしていない。
思考・問題解決能力	2. 「環境」に関わるいろいろな活動を体験しながら、指導のための基礎力を身に付けている。	「環境」に関わるいろいろな活動を体験しながら、指導のための基礎力を大変よく身に付けている。	「環境」に関わるいろいろな活動を体験しながら、指導のための基礎力を身に付けている。	「環境」に関わるいろいろな活動を体験しながら、指導のための基礎力を概ね身に付けている。	「環境」に関わるいろいろな活動を体験しているが、指導のための基礎力を十分に身に付けていない。	「環境」に関わるいろいろな活動を体験していない。
思考・問題解決能力	3. 子どもが好奇心や探求心をもって活動に熱中するための指導のポイントを経験的に会得できている。	子どもが好奇心や探求心をもって活動に熱中するための指導のポイントを明確かつ十分に体験的に会得できている。	子どもが好奇心や探求心をもって活動に熱中するための指導のポイントを経験的に会得できている。	子どもが好奇心や探求心をもって活動に熱中するための指導のポイントをある程度体験的に会得できている。	子どもが好奇心や探求心をもって活動に熱中するための指導のポイントを体験的に十分に会得できない。	子どもが好奇心や探求心をもって活動に熱中するための指導を体験していない。
技能	1. 植物標本を作成できる。	植物標本を大変よく作成できる。	植物標本を作成できている。	植物標本をある程度作成できている。	植物標本を作成したが、提出をしていない。	植物標本を作成していない。
技能	2. 工作物を作成できる。	工作物が大変よく作成できている。	工作物を作成できている。	工作物がある程度作成できている。	工作物を作成したが、提出をしていない。	工作物を作成していない。
態度	1. 授業に意欲的に参加できる。	質問など積極的に行い、疑問を解決し、授業内容を理解した上で、適切なコメントシートを提出している。	授業に前向きに臨む姿勢が見受けられ、授業内容を理解した上で、コメントシートを提出している。	授業に出席し、授業内容を理解した上でコメントシートを提出している。	授業に出席し、コメントシートを提出しているが、理解が十分ではない。	授業に出席しているが、コメントシートの提出をしていない。

科目名	子ども言葉 1クラス			授業番号	CP218A	サブタイトル	
教員	伊藤 智里						
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	演習
必修・選択							必修・選択
選択							
授業概要	発達とともに子どもの「言葉」の世界の拡がりに関し、テキストから詳しく学び、理解を深める。また、言葉を通して、豊かな表現力の育ちを支えるための具体的な保育実践のあり方について学ぶ。						
到達目標	<p>保育内容 領域「言葉」について理解する。幼児が豊かな言葉や表現を身に付け、想像する楽しさを広げるために必要な専門的事項に関する知識を身に付ける。</p> <p>人間とつとて話し言葉や書き言葉の意義と機能について説明できる。</p> <p>言葉遊びなどの言葉の感覚を豊かにする実践について、基礎的な知識を身に付ける。</p> <p>児童文化財について基礎的知識を身に付け、実践することができる。</p> <p>これらは、ディプロマ・ポリシーに挙げた学力の内、<知識・理解> <技能> <態度>の習得に貢献する。</p>						
授業計画 備考							
回	概要					担当	
第1回	保育と保育内容領域「言葉」-人間と言葉- 言葉とは何かについて考え、「話し言葉」「書き言葉」の主な機能について理解する						
第2回	乳幼児期の言葉の獲得 子どもは言葉を獲得する力があることを理解し、乳幼児が言葉の仕組みを理解する過程を概観する。						
第3回	乳幼児の発達と言葉 母語である日本語の特徴を理解し、乳幼児が言葉を獲得する手がかりとなる点について知る。						
第4回	言葉の豊かさ-言葉遊び- 日本語の楽しさ、豊かさ、楽しさを感じ、子どもに伝えたい日本語を言葉遊びで体感する						
第5回	児童文化財-お話し- 系話の特徴を知り、保育に取り入れる際の配慮について理解する						
第6回	児童文化財-お話し- 系話の模擬保育を行い、評価する						
第7回	児童文化財-紙芝居- 紙芝居の歴史、特徴、演じ方の知識を習得し、実際に紙芝居を使って確認する						
第8回	児童文化財-紙芝居- 紙芝居の特徴を生かし、演じ方を工夫しながら模擬保育を行い、評価する						
第9回	児童文化財-ペープサート- ペープサートの特徴を知り、言葉を育てる視点からわらわらいを設定してペープサートを作成する						
第10回	児童文化財-ペープサート- 制作したペープサートを用いた模擬保育を行い、評価する						
第11回	児童文化財-パネルシアター- パネルシアターの特徴を理解し、言葉を育てる視点からわらわらいを設定して指導できるように工夫して制作する						
第12回	児童文化財-パネルシアター- 制作したパネルシアターを用いた模擬保育を行い、評価する						
第13回	児童文化財-文字あそび- かるたの歴史、特徴を理解し、文字を育てる視点で工夫してかるたを作成する						
第14回	児童文化財-かるた- 周囲の人と関わりながら遊ぶことを意識して制作したかるた遊びを実践する						
第15回	児童文化財-絵本と子ども- 絵本の歴史、特徴、保育での取り入れ方について理解を深め、読み聞かせ実践を行う						
授業計画 備考2							

評価の方法		
種別	割合	評価基準・その態備考
授業への取り組みの姿勢/態度	20	授業への積極的な取組（体験、発表など）の状況によって評価する。
定期試験	50	最終的な理解度について評価する。
制作物	30	児童文化財の制作物について、保育で使用するものとして適切か評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	授業は自ら学ぶ姿勢でのびのびと、保育者・教育者として子どものよきモデルとなることができるよう前向きで誠実な態度でのびのび。
授業外学習	テキスト及び参考書の授業内容にかかわる部分を学習して、課題を把握し、授業に出席する。授業後は振り返りをし、記録の整理をする。様々な児童文化財による実践・演習などの授業前後の準備・振り返りをする。このことについて、1時間以上の学習をすること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
保育学生のための「幼児と言葉」[言葉指導法]	梶見理昭久/小倉道子	ミネルヴァ書房	978-4-623-09251-2	2400 + 税
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」			
その他				
備考	令和4年度改訂			
注意事項				
担当教員の業務経験の有無	無			
担当教員の業務経験				
担当教員以外で指導に関わる業務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる業務経験者				
業務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー-学力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. 保育内容領域(言葉)の理解	保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の保育内容「言葉」についての知識を修得し、養護及び教育がそれぞれ関連性を持つことを理解することができる。さらに、育てたい資質・能力、他領域との関係、保幼小接続と合わせて理解することができる。	保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の保育内容「言葉」についての知識を修得でき、養護及び教育がそれぞれ関連性を持つことを理解することができる。さらに、幼児期に育てたい資質・能力の繋がりと合わせて理解することができる。	保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の保育内容「言葉」についての知識を修得でき、養護及び教育がそれぞれ関連性を持つことを理解することができる。	保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領のいずれかの保育内容「言葉」について、ねらい及び内容を知識として習得できる。	保育内容「言葉」について必要な知識を修得することが不十分である。
知識・理解	2. 子どもが言葉を獲得するまでの発達過程の理解	子どもの発達過程について知識を修得し、発達にあわせた環境、言葉を獲得することに焦点を当てた保育活動を発展的に考えることができる。	子どもの発達過程について知識を修得し、言葉を獲得することに焦点を当てた保育活動について具体的に考えることができる。	子どもの発達過程について知識を修得し、言葉を獲得することに焦点を当てた保育活動について考えることができる。	言葉の獲得に関する子どもの発達過程を理解し、保育活動について知識を修得することができる。	言葉の獲得に関する子どもの発達過程について理解が不十分である。
知識・理解	3. 児童文化財の基礎的知識	それぞれの児童文化財の特徴をよく理解し、自分でさらに調べるなどして児童文化財の種類や、年齢や場面に合わせた使い方、保育に取り入れる工夫について知識を深めることができる。	それぞれの児童文化財の特徴をよく理解し、自分でさらに調べるなどして児童文化財の種類や、年齢や場面に合わせた使い方、保育に取り入れる工夫について知識を深めることができる。	それぞれの児童文化財の特徴をよく理解し、自分でさらに調べるなどして児童文化財の種類や、年齢や場面に合わせた使い方、保育に取り入れる工夫について知識を習得することができる。	それぞれの児童文化財の特徴を理解し、児童文化財の種類や、年齢や場面に合わせた使い方、保育に取り入れることについて知識を習得することができる。	児童文化財の特徴、使い方の理解が不十分である。
技能	1. 言葉を育てる児童文化財の制作	授業提示された基礎的な制作方法だけでなく、自分で調べ工夫して、言葉を育てる視点から子どもを使うことを想定して対象年齢を自分なりに設定して丁寧に作るができる。	授業提示された基礎的な制作方法だけでなく、自分で調べ工夫して、言葉を育てる視点から子どもを使うことを大まかに想定して丁寧に作るができる。	授業提示された基礎的な制作方法を理解し、留意点を制作に反映することができ、言葉育てる視点から子どもを使うことを想定して丁寧に作るができる。	授業提示された基礎的な児童文化財の制作方法を理解しているが、子ども実際に使うことができる程度の丁寧さが不足している。	授業提示された基礎的な児童文化財の制作方法の理解が不十分であり、留意点を製作に反映していない。
技能	2. 言葉を育てる児童文化財の活動実践	学習したすべての児童文化財で、子どもとの活動を想定した、年齢、場面、ねらいに適切な保育活動となるよう、言葉を豊かにする配慮を考へて実践することができる。	8割以上の児童文化財で、子どもとの活動を想定した、年齢、場面、ねらいに適切な保育活動となるよう、言葉を豊かにする配慮を考へて実践することができる。	6割以上の児童文化財で、子どもとの活動を想定した、年齢、場面、ねらいに適切な保育活動となるよう、言葉を豊かにする配慮を考へて実践することができる。	子どもとの活動を想定した、年齢、場面に適切な児童文化財を選択し、実践することができる。	子どもとの活動を想定した、年齢、場面に適切な児童文化財を選択し、実践することが不十分である。
態度	1. グループ活動の取り組み	他人の話を聞き、自分なりの意見を伝え、積極的に話し合いや実践に参加することで、建設的にグループ活動に関わることができる。	他人の話を聞き、自分なりの意見を伝え、建設的にグループ活動に関わることができる。	他人の話を聞き、自分なりの意見を伝え、グループ活動に関わることができる。	自分の意見は言えないが、他人の話を聞き、グループ活動に関わることができる。	グループ活動への参加ができておらず、個人活動となっている。
態度	2. 提出物準備や事前の内容学習など、自己学習をすることができる。	課外で予習復習を十分にすることができ、提出物の体裁を適切に整え、発展的な内容を取り入れて制作することができ、期限内に提出することができる。	課外で予習復習を十分にすることができ、提出物の体裁を適切に整え、自分なりに工夫して制作することができ、期限内に提出することができる。	課外での予習復習をすることができ、提出物の体裁を整え、期限内に提出することができる。	課外での予習復習が不十分であるが、提出物をまとめ、期限内に提出することができる。	提出ができない。

科目名	子ども言葉 2クラス			授業番号	CP218B	サブタイトル	
教員	伊藤 智里						
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	演習
授業概要	発達とともに子どもの「言葉」の世界の拡がりに関し、テキストから詳しく学び、理解を深める。また、言葉を通して、豊かな表現力の育ちを支えるための具体的な保育実践のあり方について学ぶ。						
到達目標	<p>保育内容 領域「言葉」について理解する。幼児が豊かな言葉や表現を身に付け、想像する楽しさを広げるために必要な専門的事項に関する知識を身に付ける。人間とよって話し言葉や書き言葉の意義と機能について説明できる。</p> <p>言葉遊びなどの言葉の感覚を豊かにする実践について、基礎的な知識を身に付ける。</p> <p>児童文化財について基礎的知識を身に付け、実践することができる。</p> <p>これらは、ディプロマ・ポリシーに挙げた学力の内、<知識・理解> <技能> <態度>の習得に貢献する。</p>						
授業計画 備考							
回	概要					担当	
第1回	保育と保育内容領域「言葉」-人間と言葉- 言葉とは何かについて考え、「話し言葉」「書き言葉」の主な機能について理解する						
第2回	乳幼児期の言葉の獲得 子どもは言葉を獲得する力があることを理解し、乳幼児が言葉の仕組みを理解する過程を概観する。						
第3回	乳幼児の発達と言葉 母語である日本語の特徴を理解し、乳幼児が言葉を獲得する手がかりとなる点について知る。						
第4回	言葉の豊かさ-言葉遊び- 日本語の楽しさ、豊かさ、楽しさを感じ、子どもに伝えたい日本語を言葉遊びで体感する						
第5回	児童文化財-お話し- 系話の特徴を知り、保育に取り入れる際の配慮について理解する						
第6回	児童文化財-お話し- 系話の模擬保育を行い、評価する						
第7回	児童文化財-紙芝居- 紙芝居の歴史、特徴、演じ方の知識を習得し、実際に紙芝居を使って確認する						
第8回	児童文化財-紙芝居- 紙芝居の特徴を生かし、演じ方を工夫しながら模擬保育を行い、評価する						
第9回	児童文化財-ペープサート- ペープサートの特徴を知り、言葉を育てる視点からわらわらいを設定してペープサートを作成する						
第10回	児童文化財-ペープサート- 制作したペープサートを用いた模擬保育を行い、評価する						
第11回	児童文化財-パネルシアター- パネルシアターの特徴を理解し、言葉を育てる視点からわらわらいを設定して指導できるように工夫して制作する						
第12回	児童文化財-パネルシアター- 制作したパネルシアターを用いた模擬保育を行い、評価する						
第13回	児童文化財-文字あそび- かるたの歴史、特徴を理解し、文字を育てる視点で工夫してかるたを作成する						
第14回	児童文化財-かるた- 周囲の人と関わりながら遊ぶことを意識して制作したかるた遊びを実践する						
第15回	児童文化財-絵本と子ども- 絵本の歴史、特徴、保育での取り入れ方について理解を深め、読み聞かせ実践を行う						
授業計画 備考2							

評価の方法		
種別	割合	評価基準・その態備考
授業への取り組みの姿勢/態度	20	授業への積極的な取組（体験、発表など）の状況によって評価する。
定期試験	50	最終的な理解度について評価する。
制作物	30	児童文化財の制作物について、保育で使用するものとして適切か評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	授業は自ら学ぶ姿勢でのびとに、保育者・教育者として子どものよきモデルとなることのできるよう前向きで誠実な態度でのびと。
授業外学修	テキスト及び参考書の授業内容にかかわる部分を学習して、課題を把握し、授業に出席する。授業後は振り返りし、記録の整理をする。様々な児童文化財による実践・演習などの授業前後の準備・振り返りをする。このことについて、1時間以上の学修をすること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
保育学生のための「幼児と言葉」[言葉指導法]	梶見理昭久/小倉道子	ミネルヴァ書房	978-4-623-09251-2	2400 + 税
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」			
その他				
備考	令和4年度改訂			
注意事項				
担当教員の業務経験の有無	無			
担当教員の業務経験				
担当教員以外で指導に関わる業務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる業務経験者				
業務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. 保育内容領域(言葉)の理解	保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の保育内容「言葉」についての知識を修得し、養護及び教育がそれぞれ関連性を持つことを理解することができる。さらに、育てたい資質・能力、他領域との関係、保幼小接続と合わせて理解することができる。	保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の保育内容「言葉」についての知識を修得でき、養護及び教育がそれぞれ関連性を持つことを理解することができる。さらに、幼児期に育てたい資質・能力の繋がりと合わせて理解することができる。	保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の保育内容「言葉」についての知識を修得でき、養護及び教育がそれぞれ関連性を持つことを理解することができる。	保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の保育内容「言葉」についての知識を修得でき、養護及び教育がそれぞれ関連性を持つことを理解することができる。	保育内容「言葉」について必要な知識を修得することが不十分である。
知識・理解	2. 子どもが言葉を獲得するまでの発達過程の理解	子どもの発達過程について知識を修得し、発達にあわせた環境、言葉を獲得することに焦点を当てた保育活動を発展的に考えることができる。	子どもの発達過程について知識を修得し、言葉を獲得することに焦点を当てた保育活動について具体的に考えることができる。	子どもの発達過程について知識を修得し、言葉を獲得することに焦点を当てた保育活動について考えることができる。	言葉の獲得に関する子どもの発達過程を理解し、保育活動について知識を修得することができる。	言葉の獲得に関する子どもの発達過程について理解が不十分である。
知識・理解	3. 児童文化財の基礎的知識	それぞれの児童文化財の特徴をよく理解し、自分でさらに調べるなどして児童文化財の種類や、年齢や場面に合わせた使い方、保育に取り入れる工夫について知識を深めることができる。	それぞれの児童文化財の特徴をよく理解し、自分でさらに調べるなどして児童文化財の種類や、年齢や場面に合わせた使い方、保育に取り入れる工夫について知識を深めることができる。	それぞれの児童文化財の特徴をよく理解し、自分でさらに調べるなどして児童文化財の種類や、年齢や場面に合わせた使い方、保育に取り入れる工夫について知識を深めることができる。	それぞれの児童文化財の特徴を理解し、児童文化財の種類や、年齢や場面に合わせた使い方、保育に取り入れることについて知識を習得することができる。	児童文化財の特徴、使い方の理解が不十分である。
技能	1. 言葉を育てる児童文化財の制作	授業提示された基礎的な制作方法だけでなく、自分で調べ工夫して、言葉を育てる視点から子どもを使うことを想定して対象年齢を自分なりに設定して丁寧に作るができる。	授業提示された基礎的な制作方法だけでなく、自分で調べ工夫して、言葉を育てる視点から子どもを使うことを大まかに想定して丁寧に作るができる。	授業提示された基礎的な制作方法を理解し、留意点を制作に反映することができ、言葉から子どもを使うことを想定して丁寧に作るができる。	授業提示された基礎的な児童文化財の制作方法を理解しているが、子ども実際に使うことができる程度の丁寧さが不足している。	授業提示された基礎的な児童文化財の制作方法を理解が不十分であり、留意点を製作に反映していない。
技能	2. 言葉を育てる児童文化財の活動実践	学修したすべての児童文化財で、子どもとの活動を想定した、年齢、場面、ねらいに適切な保育活動となるよう、言葉を豊かにする配慮を考へて実践することができる。	8割以上の児童文化財で、子どもとの活動を想定した、年齢、場面、ねらいに適切な保育活動となるよう、言葉を豊かにする配慮を考へて実践することができる。	6割以上の児童文化財で、子どもとの活動を想定した、年齢、場面、ねらいに適切な保育活動となるよう、言葉を豊かにする配慮を考へて実践することができる。	子どもとの活動を想定した、年齢、場面に適切な児童文化財を選択し、実践することができる。	子どもとの活動を想定した、年齢、場面に適切な児童文化財を選択し、実践することが不十分である。
態度	1. グループ活動の取り組み	他人の話聞き、自分なりの意見を伝え、積極的に話し合いや実践に参加することで、建設的にグループ活動に関わることができる。	他人の話聞き、自分なりの意見を伝え、建設的にグループ活動に関わることができる。	他人の話聞き、自分なりの意見を伝え、グループ活動に関わることができる。	自分の意見は言えないが、他人の話聞き、グループ活動に関わることができる。	グループ活動への参加ができておらず、個人活動となっている。
態度	2. 提出物準備や事前の内容学習など、自己学習をすることができる。	課外で予習復習を十分にすることができ、提出物の体裁を適切に整え、発展的な内容を取り入れて制作することができ、期限内に提出することができる。	課外で予習復習を十分にすることができ、提出物の体裁を適切に整え、自分なりに工夫して制作することができ、期限内に提出することができる。	課外での予習復習をすることができ、提出物の体裁を整え、期限内に提出することができる。	課外での予習復習が不十分であるが、提出物をまとめ、期限内に提出することができる。	提出ができない。

2024年度授業概要(シラバス)

科目名	子ども表現 1クラス		授業番号	CP220A	サブタイトル				
教員	牛島 光太郎、土師 純子、織田 典恵								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	「感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにすること」が領域「表現」の目指すものである。領域「表現」に関する、幼児の表現の姿やその発達及びそれを促す要因、幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現あそびや環境の構成などについて実践的に学ぶ。								
到達目標	<p>(1)幼児の表現の姿や、その発達について理解できる。</p> <p>1)幼児の遊びや生活における領域「表現」の位置づけについて説明できる。</p> <p>2)幼児の発達段階を理解した上で、表現を生産する過程について理解できる。</p> <p>3)幼児の素朴な表現を見出し、受け止め、共感することができる。</p> <p>(2)身体・造形・音楽表現などの様々な表現の基礎的な技能を学ぶことを通し、幼児の表現活動を支援することができる。</p> <p>1)様々な表現を感じる・みる・きく・楽しむことを通してイメージを豊かにすることができる。</p> <p>2)身の周りのものを身体で触覚で捉え、素材の特性を活かした表現ができる。</p> <p>3)表現することの楽しさを実感するとともに、楽しさを生み出す要因について分析することができる。</p> <p>4)協働して表現することを通して、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。</p> <p>5)様々な表現の基礎的な技能を生かし、幼児の表現活動に展開させることができる。</p> <p>なお、本講義はディプロマ・ポリシーの「知識・理解」<技能>の修得に貢献する。</p>								
授業計画 備考	令和6年度改訂								
回	概要					担当			
第1回	領域「表現」のねらいと内容 伝える・受け止める行為を通じた表現の生成過程と発達との関連性について					土師純子			
第2回	「表現」と身体 生活と動きの結びつきについて					織田典恵			
第3回	「表現」と音楽 自然の音を感じ楽器で表現する					土師純子			
第4回	「表現」と色・形 様々な素材の特性を活かした表現					牛島光太郎			
第5回	「表現」と身体 言葉と動きの工夫について					織田典恵			
第6回	「表現」と音楽 身近な音を楽器で表現する					土師純子			
第7回	「表現」と色・形 身近な自然との関わりを活かした表現					牛島光太郎			
第8回	「表現」と身体 音と動きの楽しみについて					織田典恵			
第9回	「表現」と音楽 リズム遊びを展開する					土師純子			
第10回	「表現」と色・形 様々な細画材を活用した表現					牛島光太郎			
第11回	幼児表現の特徴 みて、感じて、よみとる方法について					織田典恵			
第12回	「表現」と身体 イメージと動きの味わいについて					織田典恵			
第13回	「表現」と音楽 楽器を使ったアンサンブル					土師純子			
第14回	「表現」と色・形 言葉や物語との関わりを活かした表現					牛島光太郎			
第15回	ICTの活用方法 保育現場におけるICT活用事例の紹介と実践					牛島光太郎			
授業計画 備考2									
評価の方法									
種別		割合	評価基準・その他備考						
授業への取り組みの姿勢/態度		10	意欲的な授業態度、予・復習の状況等によって評価する。						
レポート/課題		50	各回の主要なポイントの理解を提出されたレポートや課題によって評価する。課題提出後の授業で全体的な傾向についてコメントする。						
小テスト		20	身体・造形・音楽表現の各領域のポイントの理解を評価する。						
その他		20	毎授業後に提出するコメントページによって評価する。						

評価の方法：自由記載	
受講の心得	「感性や創造性を豊かにする」とはどのようなことなのかについて探求してほしい。
授業外学修	1 復習として、課題を課すことがある。 2 予習として、資料を配布することがある。 3 発展学修として、授業で紹介された参考文献等を読む。 以上の内容を、適当に1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載

幼稚園教育要領, 保育所保育指針, 保幼連携型認定こども園教育・保育要領

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載

適宜提示する。

その他

備考

注意事項

担当教員の業務経験の有無

有

担当教員の業務経験

音楽教室主宰(16年)・NPO法人日本こども教育センターリミック認定講師(10年)(織田典恵)

担当教員以外で指導に関わる業務経験者の有無

無

担当教員以外で指導に関わる業務経験者

業務経験をいかした教育内容

幼児におけるリミックソング等の経験より、子どもの表現活動の指導としての在り方及び指導方法を修得させる(織田典恵)

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー「学士力」)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. 領域「表現」について理解している。	幼児の表現と発達との関連性を十分に理解し、領域「表現」のねらいと内容を理解し、説明することができる。	幼児の表現と発達との関連性を理解し、領域「表現」のねらいと内容を理解している。	領域「表現」のねらいと内容を理解している。	領域「表現」のねらいは理解できているが、内容についての理解が不十分である。	領域「表現」のねらいと内容を理解していない。
知識・理解	2. 乳幼児期の音楽表現・造形表現・身体表現の特性について理解している。	領域「表現」における音楽表現・造形表現・身体表現の特性と乳幼児が表現を生成する過程について十分に理解し、説明することができる。	領域「表現」における音楽表現・造形表現・身体表現の特性と乳幼児が表現を生成する過程について十分に理解している。	領域「表現」における音楽表現・造形表現・身体表現の特性を理解している。	領域「表現」における音楽表現・造形表現・身体表現の特性の理解が不十分である。	領域「表現」における音楽表現・造形表現・身体表現の特性を理解していない。
技能	1. 基礎的な表現の技能を修得している。	音楽表現・造形表現・身体表現の実践を通して、基礎的な表現の技能を十分に修得し、幼児の表現活動を支援することができる。	音楽表現・造形表現・身体表現の実践を通して、基礎的な表現の技能を修得し、幼児の表現活動を支援することができる。	音楽表現・造形表現・身体表現の実践を通して、基礎的な表現の技能を修得している。	音楽表現・造形表現・身体表現の実践を通して、基礎的な表現の技能の修得が不十分である。	音楽表現・造形表現・身体表現の実践を通して、基礎的な表現の技能を修得できていない。

2024年度授業概要(シラバス)

科目名	子ども表現 2クラス		授業番号	CP220B	サブタイトル				
教員	牛島 光太郎、土師 純子、織田 典恵								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	「感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにすることが領域「表現」の目指すものである。領域「表現」に関する、幼児の表現の姿やその発達及びそれを促す要因、幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現あそびや環境の構成などについて実践的に学ぶ。								
到達目標	<p>(1)幼児の表現の姿や、その発達について理解できる。</p> <p>1)幼児の遊びや生活における領域「表現」の位置づけについて説明できる。</p> <p>2)幼児の発達段階を理解した上で、表現を生産する過程について理解できる。</p> <p>3)幼児の素朴な表現を見出し、受け止め、共感することができる。</p> <p>(2)身体・造形・音楽表現などの様々な表現の基礎的な技能を学ぶことを通し、幼児の表現活動を支援することができる。</p> <p>1)様々な表現を感じる・みる・きく・楽しむことを通してイメージを豊かにすることができる。</p> <p>2)身の周りのものを身体で触覚で捉え、素材の特性を活かした表現ができる。</p> <p>3) 表現することの楽しさを体験するとともに、楽しさを生み出す要因について分析することができる。</p> <p>4) 協働して表現することを通して、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげることができる。</p> <p>5) 様々な表現の基礎的な技能を生かし、幼児の表現活動に関与することができる。</p> <p>なお、本講義はディプロマ・ポリシーの「知識・理解」<技能>の修得に貢献する。</p>								
授業計画 備考	令和6年度改訂								
回	概要					担当			
第1回	領域「表現」のねらいと内容 伝える・受け止める行為を通じた表現の生成過程と発達との関連性について					土師純子			
第2回	「表現」と身体 生活と動きの気づきについて					織田典恵			
第3回	「表現」と音楽 自然の音を感じ楽器で表現する					土師純子			
第4回	「表現」と色・形 様々な素材の特性を活かした表現					牛島光太郎			
第5回	「表現」と身体 言葉と動きの工夫について					織田典恵			
第6回	「表現」と音楽 身近な音を楽器で表現する					土師純子			
第7回	「表現」と色・形 身近な自然との関わりを活かした表現					牛島光太郎			
第8回	「表現」と身体 音と動きの楽しみについて					織田典恵			
第9回	「表現」と音楽 リズム遊びを展開する					土師純子			
第10回	「表現」と色・形 様々な細画材を活用した表現					牛島光太郎			
第11回	幼児表現の特徴 みて、感じて、よみとる方法について					織田典恵			
第12回	「表現」と身体 イメージと動きの味わいについて					織田典恵			
第13回	「表現」と音楽 楽器を使ったアンサンブル					土師純子			
第14回	「表現」と色・形 言葉や物語との関わりを活かした表現					牛島光太郎			
第15回	ICTの活用方法 保育現場におけるICT活用事例の紹介と実践					牛島光太郎			
授業計画 備考2									
評価の方法									
種別		割合	評価基準・その他備考						
授業への取り組みの姿勢/態度		10	意欲的な授業態度、予・復習の状況等によって評価する。						
レポート/課題		50	各回の主要なポイントの理解を提出されたレポートや課題によって評価する。課題提出後の授業で全体的な傾向についてコメントする。						
小テスト		20	身体・造形・音楽表現の各領域のポイントの理解を評価する。						
その他		20	毎授業後に提出するコメントページによって評価する。						

評価の方法：自由記載	
受講の心得	「感性や創造性を豊かにする」とはどのようなことなのかについて探求してほしい。
授業外学修	1 復習として、課題を課すことがある。 2 予習として、資料を配布することがある。 3 発展学修として、授業で紹介された参考文献等を読む。 以上の内容を、適当に1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載

幼稚園教育要領, 保育所保育指針, 保幼連携型認定こども園教育・保育要領

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載

適宜提示する。

その他

備考

注意事項

担当教員の業務経験の有無

有

担当教員の業務経験

音楽教室主宰(16年)・NPO法人日本こども教育センターリミック認定講師(10年)(織田典恵)

担当教員以外で指導に関わる業務経験者の有無

無

担当教員以外で指導に関わる業務経験者

業務経験をいかした教育内容

幼児におけるリミックソング等の経験より、子どもの表現活動の指導としての在り方及び指導方法を修得させる(織田典恵)

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー「学士力」)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. 領域「表現」について理解している。	幼児の表現と発達との関連性を十分に理解し、領域「表現」のねらいと内容を理解し、説明することができる。	幼児の表現と発達との関連性を理解し、領域「表現」のねらいと内容を理解している。	領域「表現」のねらいと内容を理解している。	領域「表現」のねらいは理解できているが、内容についての理解が不十分である。	領域「表現」のねらいと内容を理解していない。
知識・理解	2. 乳幼児期の音楽表現・造形表現・身体表現の特性について理解している。	領域「表現」における音楽表現・造形表現・身体表現の特性と乳幼児が表現を生成する過程について十分に理解し、説明することができる。	領域「表現」における音楽表現・造形表現・身体表現の特性と乳幼児が表現を生成する過程について十分に理解している。	領域「表現」における音楽表現・造形表現・身体表現の特性を理解している。	領域「表現」における音楽表現・造形表現・身体表現の特性の理解が不十分である。	領域「表現」における音楽表現・造形表現・身体表現の特性を理解していない。
技能	1. 基礎的な表現の技能を修得している。	音楽表現・造形表現・身体表現の実践を通して、基礎的な表現の技能を十分に修得し、幼児の表現活動を支援することができる。	音楽表現・造形表現・身体表現の実践を通して、基礎的な表現の技能を修得し、幼児の表現活動を支援することができる。	音楽表現・造形表現・身体表現の実践を通して、基礎的な表現の技能を修得している。	音楽表現・造形表現・身体表現の実践を通して、基礎的な表現の技能の修得が不十分である。	音楽表現・造形表現・身体表現の実践を通して、基礎的な表現の技能を修得できていない。

科目名	子ども音楽		授業番号	CP222	サブタイトル	
教員	川崎 泰子、河田 健二、土師 範子					
単位数	1単位	開講年次	1/2	開講期	前期	授業形態
						演習
						必修・選択
						選択
授業概要	幼児にとって音を通じた遊びは本来、楽しく有意義なものである。その中で、拍動的な活動は身体的、知的な発達を促進させ、無拍動的な活動は叙情的な活動を助長する。そこで楽器遊び、描写的な音楽作りを体験しながら、保育の実践者としての表現法と指導法を探っていく。また弾き歌いを習得することで保育・教育現場での活用方法を学修する。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの発達を理解し、発達に応じた音楽表現に必要な理論及び音楽的技法を修得する。 弾き歌いの必要な知識を習得し、現場で実践できる技能を身につける。 なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士上の内容のうち、＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。					
授業計画 備考						
回	概要					担当
第1回	授業説明、発声指導、音楽理論の基礎 授業の説明、楽器の基礎知識を確認する。発声の基礎を習得する。					川崎泰子 河田 健二 土師 範子
第2回	弾き歌い・楽典の復習(1) 任意の曲の弾き歌い(発声・ピアノ演奏)個別レッスン 音楽理論演習					川崎泰子 河田 健二 土師 範子
第3回	弾き歌い・楽典の復習(2) 任意の曲の弾き歌い(発声・ピアノ演奏)個別レッスン 音楽理論演習					川崎泰子 河田 健二 土師 範子
第4回	弾き歌い・楽典の復習(3) 任意の曲の弾き歌い(発声・ピアノ演奏)個別レッスン 音楽理論演習					川崎泰子 河田 健二 土師 範子
第5回	弾き歌い・楽典の復習(4) 任意の曲の弾き歌い(発声・ピアノ演奏)個別レッスン 音楽理論演習					川崎泰子 河田 健二 土師 範子
第6回	弾き歌い・楽典の復習(5) 任意の曲の弾き歌い(発声・ピアノ演奏)個別レッスン 音楽理論演習					川崎泰子 河田 健二 土師 範子
第7回	弾き歌い・楽典の復習(6) 任意の曲の弾き歌い(発声・ピアノ演奏)個別レッスン 音楽理論演習					川崎泰子 河田 健二 土師 範子
第8回	小テスト これまで学習した弾き歌い曲の試験を行う					川崎泰子 河田 健二 土師 範子
第9回	グループに分かれて演習(1) 楽器①、楽器②、合唱 に分かれそれぞれの特性を理解する					川崎泰子 河田 健二 土師 範子
第10回	グループに分かれて演習(2) 楽器①、楽器②、合唱 に分かれそれぞれの特性を理解する					川崎泰子 河田 健二 土師 範子
第11回	グループに分かれて演習(3) 楽器①、楽器②、合唱 に分かれそれぞれの特性を理解する					川崎泰子 河田 健二 土師 範子
第12回	グループに分かれて演習(4) 楽器①、楽器②、合唱 に分かれそれぞれの特性を理解する					川崎泰子 河田 健二 土師 範子
第13回	グループに分かれて演習(5) 楽器①、楽器②、合唱 に分かれそれぞれの特性を理解する					川崎泰子 河田 健二 土師 範子
第14回	グループに分かれて演習(6) 楽器①、楽器②、合唱 に分かれそれぞれの特性を理解する					川崎泰子 河田 健二 土師 範子
第15回	楽器①、楽器②、合唱 に分かれそれぞれの特性を理解し、練習の成果を発表する 終り次第、それぞれのグループに対して好評を行う					川崎泰子 河田 健二 土師 範子
授業計画 備考2						
評価の方法						
	種別	割合	評価基準・その態備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度	30	弾き歌いなどの課題への取り組み。			
	音楽理論課題解答提出	30	添削後、返却する。			
	小テスト(弾き歌い/グループ発表)	40	弾き歌いはそれぞれの課題をクリアしている。グループ発表では協働してそれぞれのグループの目標を達成できている。			

評価の方法：自由記載	【受講の心得】 授業で習得した理論や技術が次の授業で表出・発揮できるよう、努力してください。
受講の心得	保育実践者を意識しながら自らが表現することを主眼に置かれ、積極的であること。
授業外学習	授業で提示される次の内容について、予習すること。 授業で提示された課題を実施し、復習すること。 上記の内容を、適当に1時間程度学習すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト：自由記載	こどものうた100 (小林実美編著, チャイルド本社) 大人のための音楽ワークブック (ヤマハ出版)			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	授業中に適宜資料を配布する。			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の業務経験の有無	有			
担当教員の業務経験	公立小学校, 中学校, 私立中学, 私立高校講師などの教員歴 (20年)・少年少女合唱団主宰【2023年福武教育文化賞受賞】(12年)、数々の学校にて歌唱指導 (20年) 川崎幸子			
担当教員以外で指導に関わる業務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる業務経験者				
業務経験をいかした教育内容	業務経験を活かし、学校現場の体験を通して得た知識を伝えと共に、専門的な知識・技能を深め、学習指導力、実践的な音楽実践指導力の向上に努める。			

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学土力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. 楽譜を読む力がある	問題なく音符を理解している	積極的に楽譜を理解しようとしている	時間はかかるが理解しようとしている	楽譜を理解しようとする姿勢があまりみられない	理解する姿勢が感じられない
知識・理解	2. 歌唱法が理解できている	小学校歌唱共通教材を通して発声法が理解できている	積極的に発声法を理解しようとする姿勢がみられる	歌唱は苦手ながらも発声法を学ぼうとする姿勢がみられる	発声法を理解しようとする姿勢があまりみられない	歌唱する姿勢が感じられない
知識・理解	3. 楽器の特性を理解している	問題なく楽器の特性を理解している	積極的に楽器の特性を理解しようとしている	楽器の特性を学ぼうとする姿勢がみられる	楽器の特性を理解しようとする姿勢があまりみられない	理解する姿勢が感じられない
知識・理解	4. 楽典の内容を理解している	質問するなど楽典の問題に積極的に取り組んでいる	楽典の問題に時間はかかるが積極的に問題を解こうとする姿勢がみられる	時間はかかるが理解しようとしている	苦手ながらも楽典の問題に取り組もうとしている	理解する姿勢が感じられない
技能	1. 歌唱	歌う力が備わっている	積極的に歌唱しようとする姿勢がみられる	歌唱しようとする姿勢があり、苦手ながらも参加している	苦手意識が高く、声を出すのに補助がいる	歌唱する姿勢が感じられない
技能	2. 弾き歌い	教育現場で必要なパートが弾き歌いでできている	積極的にピアノに触れ、弾き歌いする姿勢がみられる	ピアノが苦手ながらもそれを克服するために積極的に練習している	苦手意識が高くピアノに触れる時間が少ない	弾き歌いする姿勢がみられない
技能	3. 楽器演奏	楽器を演奏する能力が備わっている	積極的に楽器に触れ、演奏する姿勢がみられる	楽器が苦手ながらもそれを克服するために積極的に練習している	苦手意識が高く楽器に触れる時間が少ない	楽器演奏する姿勢がみられない
態度	1. グループ発表時に積極的に参加できている	積極的にグループで協働して創作ができ、発表することができる	積極的にグループ演習に参加し、協働する姿勢がみられる	グループ演習に参加し、自分の役割分担を責任を持ってできている	グループ演習には参加するものの協働する姿勢がみられない	グループ発表する姿勢がみられない

科目名	子ども造形 1クラス		授業番号	CP224A	サブタイトル	
教員	伊藤 智里、牛島 光太郎					
単位数	1単位	開講年次	がキリウムにより異なります。	開講期	前期	授業形態
						演習
						必修・選択
						選択
授業概要	この講義では、幼児の「表現とその発達」について理解するとともに、幼児の感性や創造性を豊かにする専門的事項について身につけることを目的とする。					
到達目標	<p>(1)幼児の表現の姿や、その発達について理解する。</p> <p>1-1)子どもの遊びや生活における領域「表現」の位置づけについて説明できる。</p> <p>1-2)子どもの素朴な表現を見出し、受け止め、共感することができる。</p> <p>(2)造形表現の基礎的な知識・技能を学ぶことを通じて、幼児の表現を支えるための感性を豊かにする。</p> <p>2-1)様々な表現を感じる・みる・聴く・楽しむことを通じてイメージを豊かにすることができる。</p> <p>2-2)身の周りのものを触覚感覚で捉え、素材の特性を活かした表現ができる。</p> <p>2-3)協働して表現することを通して、他者の表現を受け止め、共感し、より豊かな表現につなげることができる。</p> <p>2-4)様々な表現の基礎的な知識・技能を活かし、子どもの表現活動を展開させることができる。</p> <p>なお、本科目はタブレットでポスターに掲げた学習力の内訳のうち、<知識・理解> <思考・問題解決能力> <技能>の修得に貢献する。</p>					
授業計画 備考						
回	概要			担当		
第1回	「表現」に出会うー乳・幼児の造形が気づかせてくれる10のことー乳幼児の表現とはどのようなものかについて理解する。			伊藤		
第2回	表現活動におけるICTの活用ー造形の視点からICT活用について知るーコミュニケーションについての理解、新聞を使った造形遊びを体験する。			伊藤		
第3回	表現活動と子どもの発達ー乳児の発達と造形あそびー0,1,2歳の発達過程を理解し、手の感覚で味わう造形遊びを体験する。			伊藤		
第4回	生活での出会いとイメージー幼児の発達と造形遊びー3,4,5歳の発達過程と造形遊びの関係、描画の発達段階について理解する。			伊藤		
第5回	素材との出会いー紙を知るー画用紙、折り紙、和紙など様々な紙の特徴を理解する。			伊藤		
第6回	描画材との出会い1ークレパスを使った造形遊びークレパスの特徴を生かした造形活動を体験する。			伊藤		
第7回	描画材との出会い2ー輪の具を使った造形遊びードクピング、デカルコマニーなど輪の具を使った技法遊びを体験する。			伊藤		
第8回	描画材との出会い3ー様々な描画材を使った造形遊びー水性ペン、色鉛筆、絵の具、クレパスなどそれぞれの特徴を生かした造形遊びを体験する。			伊藤		
第9回	道具との出会いーはさみとのりを使ってー子どもと一緒にはさみとのりを使う際の配慮を理解する。			伊藤		
第10回	シンボルの出会いーいろいろな形をつくり出すー身近なもので行うスタンプ遊びを体験する。			伊藤		
第11回	物語との出会いー伝統と造形遊びー行事と結びついた造形遊びを体験する。			伊藤		
第12回	見立てて遊ぶーSGDの視点で考える、廃材を使った造形遊びー身近な廃材で遊ぶことができることを理解し、工夫して子どもにあった遊びを作り出す。			伊藤		
第13回	総合的な表現 1ー壁面装飾企画ー壁面装飾の保育での役割を理解し、製作物の企画を行う。			伊藤		
第14回	総合的な表現 2ー壁面装飾制作ー今までに習得した知識を使って、壁面装飾を制作する。			伊藤		
第15回	表現活動の振り返りー表現することと鑑賞することー子どもが表現すること、他者の表現に感じるこの意味を理解する。			牛島		
授業計画 備考2						
評価の方法						
種別	割合	評価基準・その他備考				
授業への取り組みの姿勢/態度	10	意欲的な授業態度、予・復習の状況によって評価する。				
レポート	20	ポイントの理解を記述内容によって評価する。コメントをつけてスケッチブック返却時に一緒に返却する。				
小テスト	20	知識の理解により評価する。授業内で全体的に解説する。				
その他	50	制作するスケッチブックの内容により評価する。採点后、コメントをつけて返却する。				

評価の方法：自由記載	
受講の心得	「感性や創造性を豊かにする」とはどういうことなのかについて、実際にやってみるなかで探求してほしい。 図工・造形ゼミは、毎時開講すること。
授業外学習	1. 予習として、資料を配布することがある。 2. 復習として、課題を課すことがある。 3. 授業内で完成しなかった造形遊び、技法について課外で行うこと。 以上の内容を、適当に1時間以上学習することが望ましい。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト：自由記載	適宜、提示する。			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	適宜、提示する。			
その他	造形遊びで体験してきた作品は、指定のスケッチブックに整理して提出する。 はさみ、のり、水彩絵の具、筆洗、筆、クレパス、色鉛筆、定規、テープなどの描画材や道具を使用する。 詳しい授業の準備物は、授業の中で提示する。準備物が多いため、忘れ物がないよう注意して受講すること。			
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー土力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分レベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. 幼児の表現の視点から捉えた発達について理解する。	幼児の認知的発達、手指を中心とした発達過程について理解し、発達過程に応じたような表現方法を用いるがについて根拠ある推測、考察ができる。	幼児の認知的発達、手指を中心とした発達過程について理解し、過程に応じたような表現方法を用いるがについて説明することができる。	幼児の認知的発達、手指を中心とした発達過程について理解し、発達過程に応じた適切な表現方法があることを理解し、部分的に説明することができる。	幼児の認知的発達、手指を中心とした発達過程について理解し、幼児の表現方法があることを理解することができる。	幼児の認知的発達、手指を中心とした発達過程について理解し、適切な表現方法があることへの理解が不十分である。
知識・理解	2. 子どもの遊びや生活における領域「表現」の位置づけについて説明できる。	領域「表現」のねらい及び内容を乳児の3つの視点から就学前まで通して理解し、子どもの遊びや生活における表現の位置づけを十分に説明することができる。	領域「表現」のねらい及び内容を乳児の3つの視点から就学前まで通して理解し、子どもの遊びや生活における表現の位置づけを説明することができる。	領域「表現」のねらい及び内容を乳児の3つの視点から就学前まで通して理解し、子どもの遊びや生活における表現の位置づけについて考えることができる。	領域「表現」のねらい及び内容を乳児の3つの視点から就学前まで通して理解することができる。	領域「表現」のねらい及び内容を乳児の3つの視点から就学前まで通した理解が不十分である。
思考・問題解決能力	1. 子どもの造形遊びに対する適切な環境構成を設定することができる。	子どもと活動することを想定して、年齢に合わせて適切に必要な環境構成を設定することができる。	子どもと活動することを想定して、特定の年齢に合わせて適切に必要な環境構成を設定することができる。	学生視点で活動にあわせて各活動に必要な環境構成を設定することができ、子どもと活動する際に改善する点を考えることができる。	学生視点で活動にあわせて活動に必要な環境構成を設定することができる。	活動に必要な環境構成の設定が不十分である。
技能	1. 造形表現の基礎的な技能を身に付ける。	モダンテクニックを中心に、造形表現の基礎的な技能を身に付けることができ、子どもと活動、鑑賞するための造形表現活動を調べたり考えたりして展開することができる。	モダンテクニックを中心に、造形表現の基礎的な技能を身に付けることができ、子どもと活動、鑑賞するための造形表現活動を調べたり展開することができる。	モダンテクニックを中心に、造形表現の基礎的な技能を身に付けることができ、子どもと活動、鑑賞するために授業で提示した造形表現活動を展開することができる。	モダンテクニックを中心に、造形表現の基礎的な技能を身に付けることができる。	造形表現の基礎的な技能の修得が不十分である。
技能	2. 素材の活用方法を知り、使えるようになる。	紙など、子どもの造形表現活動に使用される素材の特徴や加工方法を知り、活動にあわせて子どもの興味関心を高めるような素材の活用方法を考えることができる。	紙など、子どもの造形表現活動に使用される素材の特徴や加工方法を知り、子どもの興味関心を高めるような素材の活用方法を考えることができる。	紙など、子どもの造形表現活動に使用される素材の特徴や加工方法を知り、素材の活用方法を考えることができる。	紙など、子どもの造形表現活動に使用される素材の特徴や加工方法を知ることができる。	紙など、子どもの造形表現活動に使用される素材の特徴や加工方法の知識習得について不十分である。
態度	1. 積極的に造形活動を行う。	授業で行う造形活動について、工夫をして自分なりの表現をすることに積極的に取り組み、事後に自分で他の展開方法についても実践してみることができる。	授業で行う造形活動について、工夫をして自分なりの表現をすることに積極的に取り組み、事後に自分で他の展開方法について調べることができる。	授業で行う造形活動について、工夫をして自分なりの表現をすることに積極的に取り組むことができる。	授業で行う造形活動について、積極的に取り組むことができる。	授業で行う造形活動の取り組みが消極的である。
態度	2. 提出物準備や事前の内容学習など、自己学習をすることができる。	課外で予習復習を十分にすることができ、提出物の体裁を適切に整え、発展的な内容を取り入れて制作することができ、期限内に提出することができる。	課外で予習復習を十分にすることができ、提出物の体裁を適切に整え、自分なりに工夫して制作することができ、期限内に提出することができる。	課外での予習復習をすることができ、提出物の体裁を整え、期限内に提出することができる。	課外での予習復習が不十分であるが、提出物をまとめ、期限内に提出することができる。	提出ができない。

科目名	子ども造形 2クラス		授業番号	CP224B	サブタイトル				
教員	伊藤 智里、牛島 光太郎								
単位数	1単位	開講年次	がキリウムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	この講義では、幼児の「表現とその発達」について理解するとともに、幼児の感性や創造性を豊かにする専門的事項について身につけることを目的とする。								
到達目標	<p>(1)幼児の表現の姿や、その発達について理解する。</p> <p>1-1)子どもの遊びや生活における領域「表現」の位置づけについて説明できる。</p> <p>1-2)子どもの素朴な表現を見出し、受け止め、共感することができる。</p> <p>(2)造形表現の基礎的な知識・技能を学ぶことを通して、幼児の表現を支えるための感性を豊かにする。</p> <p>2-1)様々な表現を感じる・みる・聴く・楽しむを通してイメージを豊かにすることができる。</p> <p>2-2)身の周りのものを触覚感覚で捉え、素材の特性を活かした表現ができる。</p> <p>2-3)協働して表現することを通して、他者の表現を受け止め、共感し、より豊かな表現につなげることができる。</p> <p>2-4)様々な表現の基礎的な知識・技能を活かし、子どもの表現活動を展開させることができる。</p> <p>なお、本科目はタブレットでボイスに拠った学習力の内訳のうち、<知識・理解> <思考・問題解決能力> <技能>の修得に貢献する。</p>								
授業計画 備考									
回	概要					担当			
第1回	「表現」に出会うー乳・幼児の造形が気づかせてくれる10のことー乳幼児の表現とはどのようなものかについて理解する。					伊藤			
第2回	表現活動におけるICTの活用ー造形の視点からICT活用について知るーコミュニケーションについての理解、新聞を使った造形遊びを体験する。					伊藤			
第3回	表現活動と子どもの発達ー乳児の発達と造形あそびー0,1,2歳の発達過程を理解し、手の感覚で味わう造形遊びを体験する。					伊藤			
第4回	生活での出会いとイメージー幼児の発達と造形遊びー3,4,5歳の発達過程と造形遊びの関係、描画の発達段階について理解する。					伊藤			
第5回	素材との出会いー紙を知るー画用紙、折り紙、和紙など様々な紙の特徴を理解する。					伊藤			
第6回	描画材との出会い1ークレパスを使った造形遊びークレパスの特徴を生かした造形活動を体験する。					伊藤			
第7回	描画材との出会い2ー輪の具を使った造形遊びードクピング、デカルコマニーなど輪の具を使った技法遊びを体験する。					伊藤			
第8回	描画材との出会い3ー様々な描画材を使った造形遊びー水性ペン、色鉛筆、絵の具、クレパスなどそれぞれの特徴を生かした造形遊びを体験する。					伊藤			
第9回	道具との出会いーはさみとのりを使ってー子どもと一緒にはさみとのりを使う際の配慮を理解する。					伊藤			
第10回	シンボルの出会いーいろいろな形をつくり出すー身近なもので行うスタンプ遊びを体験する。					伊藤			
第11回	物語との出会いー伝統と造形遊びー行事と結びついた造形遊びを体験する。					伊藤			
第12回	見立てて遊ぶーSGDの視点で考える、廃材を使った造形遊びー身近な廃材で遊ぶことができることを理解し、工夫して子どもにあった遊びを作り出す。					伊藤			
第13回	総合的な表現 1ー壁面装飾企画ー壁面装飾の保育での役割を理解し、製作物の企画を行う。					伊藤			
第14回	総合的な表現 2ー壁面装飾制作ー今までに習得した知識を使って、壁面装飾を制作する。					伊藤			
第15回	表現活動の振り返りー表現することと鑑賞することー子どもが表現すること、他者の表現に感れることの意味を理解する。					牛島			
授業計画 備考2									
評価の方法									
種別		割合	評価基準・その他備考						
授業への取り組みの姿勢/態度		10	意欲的な授業態度、予・復習の状況によって評価する。						
レポート		20	ポイントの理解を記述内容によって評価する。コメントをつけてスクETCHブック返却時に一緒に返却する。						
小テスト		20	知識の理解により評価する。授業内で全体的に解説する。						
その他		50	制作するスクETCHブックの内容により評価する。採点后、コメントをつけて返却する。						

評価の方法：自由記載	
受講の心得	「感性や創造性を豊かにする」とはどういうことなのかについて、実際にやってみるなかで探求してほしい。 図工・造形ゼミは、毎時開講すること。
授業外学習	1. 予習として、資料を配布することがある。 2. 復習として、課題を課すことがある。 3. 授業内で完成しなかった造形遊び、技法について課外で行うこと。 以上の内容を、適当に1時間以上学習することが望ましい。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト：自由記載	適宜、提示する。			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	適宜、提示する。			
その他	造形遊びで体験してきた作品は、指定のスケッチブックに整理して提出する。 はさみ、のり、水彩絵の具、筆洗、筆、クレパス、色鉛筆、定規、テープなどの描画材や道具を使用する。 詳しい授業の準備物は、授業の中で提示する。準備物が多いため、忘れ物がないよう注意して受講すること。			
備考				
注意事項				
担当教員の業務経験の有無	無			
担当教員の業務経験				
担当教員以外で指導に関わる業務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる業務経験者				
業務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー土力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分レベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. 幼児の表現の視点から捉えた発達について理解する。	幼児の認知的発達、手指を中心とした発達過程について理解し、発達過程に応じたような表現方法を用いるがについて根拠ある推測、考察ができる。	幼児の認知的発達、手指を中心とした発達過程について理解し、過程に応じたような表現方法を用いるがについて説明することができる。	幼児の認知的発達、手指を中心とした発達過程について理解し、発達過程に応じた適切な表現方法があることを理解し、部分的に説明することができる。	幼児の認知的発達、手指を中心とした発達過程について理解し、幼児の表現方法があることを理解することができる。	幼児の認知的発達、手指を中心とした発達過程について理解し、適切な表現方法があることへの理解が不十分である。
知識・理解	2. 子どもの遊びや生活における領域「表現」の位置づけについて説明できる。	領域「表現」のねらい及び内容を乳児の3つの視点から就学前まで通して理解し、子どもの遊びや生活における表現の位置づけを十分に説明することができる。	領域「表現」のねらい及び内容を乳児の3つの視点から就学前まで通して理解し、子どもの遊びや生活における表現の位置づけを説明することができる。	領域「表現」のねらい及び内容を乳児の3つの視点から就学前まで通して理解し、子どもの遊びや生活における表現の位置づけについて考えることができる。	領域「表現」のねらい及び内容を乳児の3つの視点から就学前まで通して理解することができる。	領域「表現」のねらい及び内容を乳児の3つの視点から就学前まで通した理解が不十分である。
思考・問題解決能力	1. 子どもの造形遊びに対する適切な環境構成を設定することができる。	子どもと活動することを想定して、年齢に合わせて適切に必要な環境構成を設定することができる。	子どもと活動することを想定して、特定の年齢に合わせて適切に必要な環境構成を設定することができる。	学生視点で活動にあわせて各活動に必要な環境構成を設定することができる。子どもと活動する際に改善する点を考えることができる。	学生視点で活動にあわせて活動に必要な環境構成を設定することができる。	活動に必要な環境構成の設定が不十分である。
技能	1. 造形表現の基礎的な技能を身に付ける。	モダンテクニックを中心に、造形表現の基礎的な技能を身に付けることができ、子どもと活動、鑑賞するための造形表現活動を調べたり考えたりして展開することができる。	モダンテクニックを中心に、造形表現の基礎的な技能を身に付けることができ、子どもと活動、鑑賞するための造形表現活動を調べたり展開することができる。	モダンテクニックを中心に、造形表現の基礎的な技能を身に付けることができ、子どもと活動、鑑賞するために授業で提示した造形表現活動を展開することができる。	モダンテクニックを中心に、造形表現の基礎的な技能を身に付けることができる。	造形表現の基礎的な技能の修得が不十分である。
技能	2. 素材の活用方法を知り、使えるようになる。	紙など、子どもの造形表現活動に使用される素材の特徴や加工方法を知り、活動にあわせて子どもの興味関心を高めるような素材の活用方法を考えることができる。	紙など、子どもの造形表現活動に使用される素材の特徴や加工方法を知り、子どもの興味関心を高めるような素材の活用方法を考えることができる。	紙など、子どもの造形表現活動に使用される素材の特徴や加工方法を知り、素材の活用方法を考えることができる。	紙など、子どもの造形表現活動に使用される素材の特徴や加工方法を知ることができる。	紙など、子どもの造形表現活動に使用される素材の特徴や加工方法の知識習得について不十分である。
態度	1. 積極的に造形活動を行う。	授業で行う造形活動について、工夫をして自分なりの表現をすることに積極的に取り組み、事後に自分で他の展開方法についても実践してみることができる。	授業で行う造形活動について、工夫をして自分なりの表現をすることに積極的に取り組み、事後に自分で他の展開方法について調べることができる。	授業で行う造形活動について、工夫をして自分なりの表現をすることに積極的に取り組むことができる。	授業で行う造形活動について、積極的に取り組むことができる。	授業で行う造形活動の取り組みが消極的である。
態度	2. 提出物準備や事前の内容学習など、自己学習をすることができる。	課外で予習復習を十分にすることができ、提出物の体裁を適切に整え、発展的な内容を取り入れて制作することができ、期限内に提出することができる。	課外で予習復習を十分にすることができ、提出物の体裁を適切に整え、自分なりに工夫して制作することができ、期限内に提出することができる。	課外での予習復習をすることができ、提出物の体裁を整え、期限内に提出することができる。	課外での予習復習が不十分であるが、提出物をまとめ、期限内に提出することができる。	提出ができない。

科目名	ICT活用の理論と実践		授業番号	CP225	サブタイトル	未来の教室「ICTを活用した学習の進化」				
教員	岸 誠一									
単位数	1単位	開講年次	3年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択	
授業概要	<p>本講義では、情報通信技術の意義と基礎的な理論を学ぶとともに、GIGAスクール構想における令和の日本型学校教育を展開するために必要となる社会的背景や学習指導要領との関連について、具体的な活用事例や演習等を通して学習する。すなわち教育現場におけるICT（情報通信技術）の活用について、その「背景や歴史」「これを活用して育成しようとする資質・能力」、現状および今後の方向性について学習する。授業における児童や教員によるICT活用のほか、授業の準備、学習評価に関する活用、校務の情報化における活用について解説する。</p> <p>また、情報社会を生き抜くための資質・能力である情報活用能力(情報モラルを含む)について、その構成要素および具体的な指導法、教育課程上の位置付けについて体系的に学習する。</p>									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・情報通信技術の活用の意義と理論を理解する。 ・情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方について理解する。 ・児童及び生徒に情報活用能力(情報モラルを含む)を育成するための基礎的な指導法を身に付ける。 ・教育メディアの特性を理解し、教育や保育の現場に応じて、有効なメディアを選択し、活用できる技能を修得する。 <p>なお、本科目は、ディプロマ・ポリシーに掲げた学士方の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉>〈技能〉の修得に貢献する。</p>									
授業計画 備考										
回	概要					担当				
第1回	<p>ガイダンス、現代社会におけるICTの役割</p> <p>高度情報化社会を生き抜く子どもたちにどのような教育が必要であるか?子どもたちの未来の教室がどのようなものであるか?ICTを活用した学習の進化について学習する。そして、この授業は、ICTの効果的な活用の経験を通して「自分が受けたいと思える理想的な授業」を「自分でデザインしていく」授業であり、そういう態度で授業に臨むことを各自理解する。</p>									
第2回	<p>教育方法の基礎的理論と歴史</p> <p>教育方法の歴史について以下の2つの視点で学習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・変遷する教育、授業の様式（「資質指導致から子ども中心のアクティブラーニングへ」） ・授業の歴史（コムツの「世界図録」からデジタル教科書まで） ・個別学習やグループ学習の理論と方法 									
第3回	<p>教育方法に関わる4つの学習理論（行動・認知・構成・社会的構成主義）と授業設計</p> <p>それぞれの学習理論を確立した代表的な人物と実践事例について解説し、各学習理論の長所・課題等について考察する。この授業終了後ミニレポートを提出する。</p>									
第4回	<p>教育メディアと著作権</p> <p>様々な学校での著作権の事例をO/A形式で考えながら学習する。特にSNS等で発信する際起こり得るような事例を挙げ、著作権の問題を自分の起こり得る問題として認識する。</p>									
第5回	<p>対話的な学びを深めるICTの活用</p> <p>新学習指導要領における「主体的・対話的で深い学び(アクティブラーニング)」の在り方と、その実現に必要な教師の役割について学ぶ。</p>									
第6回	<p>個別最適な学びを支えるICTの活用</p> <p>これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力とは何かを検討した上で、主体的・対話的で深い学びを実現するための教育方法を考える。また、個別最適な学びと協働的な学びの実現などICT活用についての意義と在り方について検討する。</p>									
第7回	<p>遠隔授業・遠隔学習と学びの保障</p> <p>遠隔・オンライン教育の意義や関連するシステムについて学ぶ。学習履歴などの教育データを、指導や学習評価に活用することや校務処理と教育情報セキュリティの重要性について学ぶ。</p>									
第8回	<p>特別支援・幼児教育におけるICT活用</p> <p>特別の支援を必要とする園児・児童・生徒に対する話法や板書の仕方などの技術を学びと共に、ICT活用の意義と活用に向けた当たりの留意点を考える。</p>									
第9回	<p>校務の情報化とICT環境の整備</p> <p>統合型校務支援システムを含む情報通信技術を効果的に活用した校務の推進について学ぶ。</p>									
第10回	<p>情報モラル・情報セキュリティ教育について</p> <p>インターネットの基本構造と、ソーシャルメディアが個人の生活や社会に与える影響を探る。また、SNS等オンラインコミュニティの形成とその文化的意味について学習する。後半の講義では、学校現場における情報モラルの指導をどうするか事例をもとに各自考える。自分で模擬授業をするための授業設計を行い、指導案を作成する。</p>									
第11回	<p>プログラミング教育がめざすこと</p> <p>子ども用プログラミング学習「スクラッチ」体験等を通して、プログラミングを取り入れた教科学習について理解する。また、本学で開発したプログラミング教材「おしゃべりなCAT」も体験する。</p>									
第12回	<p>学校の「外」でのICTの活用(学びの場としての美術館)</p> <p>「大原美術館の見学」という授業の設計を行う。その際授業にICTの活用として盛り込む以下のポイントについて考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見学前の事前指導でICTをどう活用するか ・見学中に児童やタブレット端末を各自持っているという想定で、美術館の絵の説明や、児童の絵での情報の共有等どう活用するか ・見学したあとの事後指導でICTを活用するか <p>そして、実際に児童になりきって大原美術館を見学し、自分が設計した授業について反省する。</p>									
第13回	<p>児童生徒によるICT活用</p> <p>学習場面に促しICTを効果的に活用した指導事例(デジタル教材の作成・利用を含む)から、基礎的な指導方法を学ぶ。また、各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間(以下「各教科等」という。)において、横断的に育成する情報活用能力(情報モラルを含む。)についてもその指導技術・指導法を理解する。</p>									
第14回	<p>教育メディアを活用した模擬授業とその評価</p> <p>模擬授業のための教育メディア教材作成およびICT活用のための指導案(「ICT活用レシピ」)作成について学習し、次の時間に行うICTを活用した模擬授業の企画を行い、ICT活用レシピを作成する。</p>									
第15回	<p>教育メディアを活用した模擬授業とその評価</p> <p>前回計画した「ICT活用レシピ」より模擬授業を行う。その模擬授業演習において、「情報機器を効果的に活用する場面が見られたかどうか」について学生の相互評価を実施する。</p>									
授業計画 備考2										
評価の方法										
	種別	割合	評価基準・その他備考							
	授業への取り組みの姿勢/態度	20	意欲的な受講態度、発表・討議への参加、予習・復習の状況によって評価する。							
	ミニレポート	30	随時それぞれの受講内容に応じて、ミニレポートの課題を数回出し、授業内容の理解の程度を評価する。レポートについてはコメントを記入して返却する。							
	模擬授業	20	模擬授業演習において、情報機器を効果的に活用する場面が見られたかどうか評価する。評価内容については模擬授業終了後、口頭でコメントする。							
	最終レポート	30	この授業の総括として、授業内容の総合的な理解度を評価するために最終レポートを提出する。レポートの具体的な様式・評価項目については授業内で説明する。最終レポートについては、コメントを記入して返却する。							

評価の方法：自由記載	(1) 履修者は、授業の進行に応じて出題するレポートに取り組みます。(30%) (2) 毎時間の発言や取り組み姿勢なども成績評価に加味する。(20%) (3) 期末に全員に課す最終レポート (30%) と、模擬授業 (20%) を踏まえて総合的に評価する。
受講の心得	本授業では、講義および視聴覚資料による解説・事例紹介と、学生自身が各種ICT機器、環境を活用し、体験的に学習する機会を設けることを基本とする。毎回出席し、課題をきちんと提出すること。分からないことは、質問すること。
授業外学習	1. 授業ごとに紹介する参考資料や、eラーニング教材(学習用の動画教材)を次回授業までに熟読したり、しっかり視聴したりして、予学習をしておくこと。 2. P.Cの操作技術等を身につけるため、随時復習をすること。 3. 模擬授業のための学習指導案および最終レポートを作成すること。 1および2の内容については適当に4時間以上学習すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	堀田忠、佐藤和紀(編著) (2021) ICT活用の理論と実践: DX時代の教師をめざして, 北大路書房 ロード対応2 (著) 鈴木亮明 (訳) (2007) インスタレーションデザインの原理, 北大路書房 堀田忠、佐藤和紀 (2019) 教職課程コアがキライな対応 情報社会を支える教師になるための教育の方法と技術, 三省堂 堀田忠 (編著) (2019) 教育の方法と技術: 主体的・対話的で深い学びをつくるインスタレーションデザイン, 北大路書房			
その他	パソコンを大切に使用すること。			
備考				
注意事項				
担当教員の業務経験の有無	有			
担当教員の業務経験	公立小学校長(8年)、公立幼稚園長(3年※小学校長と兼務)、公立小学校教諭(13年)、岡山県生涯学習センター(岡山県視聴覚ライブラリー担当3年)、岡山県情報教育センター(6年)での業務経験を有する。			
担当教員以外で指導に関わる業務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる業務経験者				
業務経験をいかした教育内容	ICT教育の推進に学校長(幼稚園長)のリーダーシップは欠かせない。自分の校長(園長)時代の具体的な経験をもとにそれについて解説している。また、教諭時代、授業の中でICTの活用をした経験や、生涯学習センターで各学校のメディア教育担当の教員に対して行った研修および情報教育センターにおいて幼・小・中・高の教員対象に「授業における情報通信技術」の活用について行った研修の経験など、様々な内容について指導してきた経験を基に、「学校現場」を想定した具体的な活用事例を紹介しながら教員志望の学生に必要な思考力・実践力が身に付けられるような授業を展開している。			

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー-学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. 教育現場におけるICT活用の意義や理論について理解する	教育現場におけるICT活用の意義や理論について十分に理解している。	教育現場におけるICT活用の意義や理論について概ね理解している。	教育現場におけるICT活用の意義や理論について最低限理解している。	教育現場におけるICT活用の意義や理論についてやや理解が不十分。	教育現場におけるICT活用の意義や理論について全く理解していない。
知識・理解	2. ICTを活用した学習指導や校務の実践と今後の在り方について理解する	ICTを活用した学習指導や校務の実践と今後の在り方について十分に理解している。	ICTを活用した学習指導や校務の実践と今後の在り方について概ね理解している。	ICTを活用した学習指導や校務の実践と今後の在り方について普通に理解している。	ICTを活用した学習指導や校務の実践と今後の在り方について理解がやや不十分。	ICTを活用した学習指導や校務の実践と今後の在り方について全く理解していない。
知識・理解	3. 情報活用能力(情報モラルを含む)について、各教科等の特性に応じた指導事例を理解し、基礎的な指導法を身に付けている。	情報活用能力(情報モラルを含む)について、各教科等の特性に応じた指導事例や基礎的な指導法を十分に理解している。	情報活用能力(情報モラルを含む)について、各教科等の特性に応じた指導事例や基礎的な指導法を概ね理解している。	情報活用能力(情報モラルを含む)について、各教科等の特性に応じた指導事例や基礎的な指導法を普通に理解している。	情報活用能力(情報モラルを含む)について、各教科等の特性に応じた指導事例や基礎的な指導法について理解が不十分である。	情報活用能力(情報モラルを含む)について、各教科等の特性に応じた指導事例や基礎的な指導法について全く理解していない。
思考・問題解決能力	1. 情報活用能力を育成する意義および育成方法を身に付けている。	情報活用能力を育成する意義および育成方法について課題を複数見つけ、調査し、自分なりの解決策を考え提案することができる。	情報活用能力を育成する意義および育成方法について課題を見つけ、調べ、自分なりの解決策を考えることができる。	情報活用能力を育成する意義および育成方法について提示された多数ある課題について調べ、自分なりの解決策を考えることができる。	情報活用能力を育成する意義および育成方法について多数ある課題のいくつかについて解決策とされていることを調べ、それについて意見を言うことができる。	情報活用能力を育成する意義および育成方法について多数ある課題のいくつかについて考えることが不十分である。
技能	1. ICTを活用した授業のための教材制作ができる	授業提示された基礎的な制作方法だけでなく、自分で調べ工夫して、子どもを使うことを想定して対象年齢を自分なりに設定して丁寧に作ることができる。	授業提示された基礎的な制作方法だけでなく、自分で調べ工夫して、子どもを使うことを想定して丁寧に作ることができる。	授業提示された基礎的な制作方法を理解し、留意点を制作に反映することができる。そして子どもを使うことを想定して丁寧に作ることができる。	授業提示された基礎的なICT活用の教材制作方法を理解しているが、子どもと実際に使うことができる程度の丁寧さが不足している。	授業提示された基礎的なICT活用の教材制作方法を理解が不十分であり、留意点を制作に反映していない。
技能	2. 児童・生徒に情報活用能力(情報モラルを含む)を育成するための基礎的な指導技術を身に付けている。	情報活用能力(情報モラルを含む)を育成するために、自ら意欲的に子どもたちが授業に取り組む方法を多様な視点で考え、実際に積極的に試行しようとする。	情報活用能力(情報モラルを含む)を育成するために、自ら意欲的に子どもたちが授業に取り組む方法を考えることができるが、試行はしない。	情報活用能力(情報モラルを含む)を育成するために、自ら意欲的に子どもたちが授業に取り組む方法について少しは考えることができる。	情報活用能力(情報モラルを含む)を育成するために、自ら意欲的に子どもたちが授業に取り組む方法についてあまり考えない。	情報活用能力(情報モラルを含む)について、各教科等の特性に応じた指導事例や基礎的な指導法について全く考えない。
態度	1. 提出物	製作物、レポートなどの提出物について授業提示以外に自分で調べるなど内容が発展的に充足している。	製作物、レポートなどの提出物について授業提示以外に自分で調べるなど工夫して表現されている。	製作物、レポートなどの提出物について授業提示した内容が適切に表現されている。	製作物、レポートなどの提出物について、授業提示した内容が不十分であるが部分的に理解して表現されている。	製作物、レポートなどの提出物について授業提示した内容が不十分である。

科目名	メディア教育演習		授業番号	CP2254	サブタイトル	未来の教室「ICTを活用した学習の進化」			
教員	岸 誠一								
単位数	1単位	開講年次	1/2年次	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	<p>本講義では、情報通信技術の意義と基礎的な理論を学ぶとともに、GIGAスクール構想における令和の日本型学校教育を展開するために必要となる社会的背景や学習指導要領との関連について、具体的な活用事例や演習等を通して学習する。すなわち教育現場におけるICT（情報通信技術）の活用について、その「背景や歴史」「これを活用して育成しようとする資質・能力」、現状および今後の方向性について学習する。授業における児童や教員によるICT活用のほか、授業の準備、学習評価に関する活用、校務の情報化における活用について解説する。</p> <p>また、情報社会を生き抜くための資質・能力である情報活用能力(情報モラルを含む)について、その構成要素および具体的な指導法、教育課程上の位置付けについて体系的に学習する。</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・情報通信技術の活用の意義と理論を理解する。 ・情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方について理解する。 ・児童及び生徒に情報活用能力(情報モラルを含む)を育成するための基礎的な指導法を身に付ける。 ・教育メディアの特性を理解し、教育や保育の現場に応じて、有効なメディアを選択し、活用できる技能を修得する。 <p>なお、本科目は、ディプロマ・ポリシーに掲げた学士方の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉>〈技能〉の修得に貢献する。</p>								
授業計画 備考									
回	概要					担当			
第1回	<p>ガイダンス、現代社会におけるICTの役割</p> <p>高度情報化社会を生き抜く子どもたちにどのような教育が必要であるか?子どもたちの未来の教室がどのようなものであるか?ICTを活用した学習の進化について学習する。そして、この授業は、ICTの効果的な活用の経験を通して「自分が受けたと思う理想的授業」を「自分でデザインしていく」授業であり、そういう態度で授業に臨むことを各自理解する。</p>								
第2回	<p>教育方法の基礎的理論と歴史</p> <p>教育方法の歴史について以下の3つの視点で学習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・変遷する教育、授業の様式（一斉指導から子ども中心のアクティブラーニングへ） ・授業の歴史（コムツの「世界図説」からデジタル教科書まで） ・個別学習やグループ学習の理論と方法 								
第3回	<p>教育方法に関わる4つの学習理論（行動・認知・構成・社会的構成主義）と授業設計</p> <p>それぞれの学習理論を確立した代表的な人物と実践事例について解説し、各学習理論の長所・課題等について考察する。この授業終了後ミニレポートを提出する。</p>								
第4回	<p>教育メディアと著作権</p> <p>様々な学校の著作権の事例をO/A形式で考えながら学習する。特にSNS等で発信する際起こり得る事例を挙げ、著作権の問題を自分の起こり得る問題として認識する。</p>								
第5回	<p>対話的な学びを深めるICTの活用</p> <p>新学習指導要領における「主体的・対話的で深い学び(アクティブラーニング)」の在り方と、その実現に必要な教師の役割について学ぶ。</p>								
第6回	<p>個別最適な学びを支えるICTの活用</p> <p>こけらの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力とは何かを検討した上で、主体的・対話的で深い学びを実現するための教育方法を考える。また、個別最適な学びと協働的な学びの実現などICT活用についての意義と在り方について検討する。</p>								
第7回	<p>遠隔授業・遠隔学習と学びの保障</p> <p>遠隔・オンライン教育の意義や関連するシステムについて学ぶ。学習履歴などの教育データを、指導や学習評価に活用することや校務処理と教育情報セキュリティの重要性について学ぶ。</p>								
第8回	<p>特別支援・幼児教育におけるICT活用</p> <p>特別の支援を必要とする園児・児童・生徒に対する話法や板書の仕方などの技術を学びと共に、ICT活用の意義と活用に向けた留意点を考える。</p>								
第9回	<p>校務の情報化とICT環境の整備</p> <p>統合型校務支援システムを含む情報通信技術を効果的に活用した校務の推進について学ぶ。</p>								
第10回	<p>情報モラル・情報セキュリティ教育について</p> <p>インターネットの基本構造と、ソーシャルメディアが個人の生活や社会に与える影響を探る。また、SNS等オンラインコミュニティの形成とその文化的意味について学習する。後半の講義では、学校現場における情報モラルの指導をどうするか事例をもとに各自考える。自分で模擬授業をするための授業設計を行い、指導案を作成する。</p>								
第11回	<p>プログラミング教育がめざすこと</p> <p>子ども用プログラミング学習「スクラッチ」体験等を通して、プログラミングを取り入れた教科学習について理解する。また、本学で開発したプログラミング教材「おしゃべりなCAT」も体験する。</p>								
第12回	<p>学校の「外」でのICTの活用(学びの場としての美術館)</p> <p>「大原美術館の見学」という授業の設計を行う。その際授業にICTの活用として盛り込む以下のポイントについて考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見学前の事前指導でICTをどう活用するか ・見学中に児童やタブレット端末を各自持っているという想定で、美術館の絵の説明や、児童の絵での情報の共有等どう活用するか ・見学したあとの事後指導でICTを活用するか <p>そして、実際に児童になりきって大原美術館を見学し、自分が設計した授業について反省する。</p>								
第13回	<p>児童生徒によるICT活用</p> <p>学習場面に促しICTを効果的に活用した指導事例(デジタル教材の作成・利用を含む)から、基礎的な指導方法を学ぶ。また、各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間(以下「各教科等」という。)において、横断的に育成する情報活用能力(情報モラルを含む。)についてもその指導技術・指導法を理解する。</p>								
第14回	<p>教育メディアを活用した模擬授業とその評価</p> <p>模擬授業のための教育メディア教材作成およびICT活用のための指導案(「ICT活用レシピ」)作成について学習し、次の時間に行うICTを活用した模擬授業の企画を行い、ICT活用レシピを作成する。</p>								
第15回	<p>教育メディアを活用した模擬授業とその評価</p> <p>前回計画した「ICT活用レシピ」より模擬授業を行う。その模擬授業演習において、「情報機器を効果的に活用する場面が見られたかどうか」について学生の相互評価を実施する。</p>								
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢/態度	20	意欲的な受講態度、発表・討議への参加、予習・復習の状況によって評価する。						
	ミニレポート	30	随時それぞれの受講内容に応じて、ミニレポートの課題を数回出し、授業内容の理解の程度を評価する。レポートについてはコメントを記入して返却する。						
	模擬授業	20	模擬授業演習において、情報機器を効果的に活用する場面が見られたかどうか評価する。評価内容については模擬授業終了後、口頭でコメントする。						
	最終レポート	30	この授業の総括として、授業内容の総合的な理解度を評価するために最終レポートを提出する。レポートの具体的な様式・評価項目については授業内で説明する。最終レポートについては、コメントを記入して返却する。						

評価の方法：自由記載	(1) 履修者は、授業の進行に応じて出題するレポートに取り組んでもらう。(30%) (2) 毎時間の発言や取り組み姿勢なども成績評価に加味する。(20%) (3) 期末に全員に課す最終レポート (30%) と、模擬授業 (20%) を踏まえて総合的に評価する。
受講の心得	本授業では、講義および視聴覚資料による解説・事例紹介と、学生自身が各種ICT機器、環境を活用し、体験的に学習する機会を設けることを基本とする。毎回出席し、課題をきちんと提出すること。分からないことは、質問すること。
授業外学習	1. 授業ごとに紹介する参考資料や、eラーニング教材(学習用の動画教材)を次回授業までに熟読したり、しっかり視聴したりして、よく予習しておくこと。 2. P.Cの操作技術等を身につけるため、随時復習すること。 3. 模擬授業のための学習指導案および最終レポートを作成すること。 1および2の内容については適当に4時間以上学習すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	堀田忠、佐藤和紀(編著) (2021) ICT活用の理論と実践: DX時代の教師をめざして, 北大路書房 ロバートカニハシ(著) 鈴木亮明(訳) (2007) インスタンスショナルデザインの原理, 北大路書房 堀田忠、佐藤和紀 (2019) 教職課程コアプログラム対応 情報社会を支える教師になるための教育の方法と技術, 三省堂 堀田忠(編著) (2019) 教育の方法と技術: 主体的・対話的で深い学びをつくるインスタンスショナルデザイン, 北大路書房			
その他	パソコンを大切に使用すること。			
備考				
注意事項				
担当教員の業務経験の有無	有			
担当教員の業務経験	公立小学校長(8年)、公立幼稚園長(3年※小学校長と兼務)、公立小学校教諭(13年)、岡山県生涯学習センター(岡山県視聴覚ライブラリー担当3年)、岡山県情報教育センター(6年)での業務経験を有する。			
担当教員以外で指導に関わる業務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる業務経験者				
業務経験をいかした教育内容	ICT教育の推進に学校長(幼稚園長)のリーダーシップは欠かせない。自分の校長(園長)時代の具体的な経験をもとにそれについて解説していく。また、教諭時代、授業の中でICTの活用した経験や、生涯学習センターで各学校のメディア教育担当の教員に対して行った研修および情報教育センターにおいて幼・小・中・高の教員対象に「授業における情報通信技術」の活用について行った研修の経験など、様々な内容について指導してきた経験を生かして、「学校現場」を想定した具体的な活用事例を紹介しながら教員志望の学生に必要な思考力・実践力が身に付けられるような授業を展開していく。			

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー-学士力)	評価の観点(到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. 教育現場におけるICT活用の意義や理論について理解する	教育現場におけるICT活用の意義や理論について十分に理解している。	教育現場におけるICT活用の意義や理論について概ね理解している。	教育現場におけるICT活用の意義や理論について最低限理解している。	教育現場におけるICT活用の意義や理論についてやや理解が不十分。	教育現場におけるICT活用の意義や理論について全く理解していない。
知識・理解	2. ICTを活用した学習指導や校務の実際と今後の在り方について理解する	ICTを活用した学習指導や校務の実際と今後の在り方について十分に理解している。	ICTを活用した学習指導や校務の実際と今後の在り方について概ね理解している。	ICTを活用した学習指導や校務の実際と今後の在り方について普通に理解している。	ICTを活用した学習指導や校務の実際と今後の在り方について理解がやや不十分。	ICTを活用した学習指導や校務の実際と今後の在り方について全く理解していない。
知識・理解	3. 情報活用能力(情報モラルを含む)について、各教科等の特性に応じた指導事例を理解し、基礎的な指導法を身に付けている。	情報活用能力(情報モラルを含む)について、各教科等の特性に応じた指導事例や基礎的な指導法を十分に理解している。	情報活用能力(情報モラルを含む)について、各教科等の特性に応じた指導事例や基礎的な指導法を概ね理解している。	情報活用能力(情報モラルを含む)について、各教科等の特性に応じた指導事例や基礎的な指導法を普通に理解している。	情報活用能力(情報モラルを含む)について、各教科等の特性に応じた指導事例や基礎的な指導法について理解が不十分である。	情報活用能力(情報モラルを含む)について、各教科等の特性に応じた指導事例や基礎的な指導法について全く理解していない。
思考・問題解決能力	1. 情報活用能力を育成する意義および育成方法を身に付けている。	情報活用能力を育成する意義および育成方法について課題を複数見つけ、調査し、自分なりの解決策を考え提案することができる。	情報活用能力を育成する意義および育成方法について課題を見つけ、調べ、自分なりの解決策を考えることができる。	情報活用能力を育成する意義および育成方法について提示された多数ある課題について調べ、自分なりの解決策を考えることができる。	情報活用能力を育成する意義および育成方法について多数ある課題のいくつかについて解決策とされていることを調べ、それについて意見を言うことができる。	情報活用能力を育成する意義および育成方法について多数ある課題のいくつかについて考えることが不十分である。
技能	1. ICTを活用した授業のための教材制作ができる	授業提示された基礎的な制作方法だけでなく、自分で調べ工夫して、子どもを使うことを想定して対象年齢を自分なりに設定して丁寧に作る事ができる。	授業提示された基礎的な制作方法だけでなく、自分で調べ工夫して、子どもを使うことをうまく想定して丁寧に作る事ができる。	授業提示された基礎的な制作方法を理解し、留意点を制作に反映することができる。そして子どもを使うことを想定して丁寧に作る事ができる。	授業提示された基礎的なICT活用の教材制作方法を理解しているが、子どもと実際に使うことができる程度の丁寧さが不足している。	授業提示された基礎的なICT活用の教材制作方法を理解が不十分であり、留意点を制作に反映していない。
技能	2. 児童・生徒に情報活用能力(情報モラルを含む)を育成するための基礎的な指導技術を身に付けている。	情報活用能力(情報モラルを含む)を育成するために、自ら意欲的に子どもたちが授業に取り組む方法を多様な視点で考え、実際に積極的に試行しようとする。	情報活用能力(情報モラルを含む)を育成するために、自ら意欲的に子どもたちが授業に取り組む方法を考えることができるが、試行はしない。	情報活用能力(情報モラルを含む)を育成するために、自ら意欲的に子どもたちが授業に取り組む方法について少しは考えることができる。	情報活用能力(情報モラルを含む)を育成するために、自ら意欲的に子どもたちが授業に取り組む方法についてあまり考えない。	情報活用能力(情報モラルを含む)について、各教科等の特性に応じた指導事例や基礎的な指導法について全く考えない。
態度	1. 提出物	製作物、レポートなどの提出物について授業提示以外に自分で調べるなどして内容が発展的に充足している。	製作物、レポートなどの提出物について授業提示以外に自分で調べるなど工夫して表現されている。	製作物、レポートなどの提出物について授業提示した内容が適切に表現されている。	製作物、レポートなどの提出物について、授業提示した内容が不十分であるが部分的に理解して表現されている。	製作物、レポートなどの提出物について授業提示した内容が不十分である。

科目名	小学校教育基礎研究			授業番号	CP227	サブタイトル	
教員	森寺 勝之、山田 恵子、満田 知次						
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	演習
							必修・選択
選択							
授業概要	小学校教員を養成するための基礎科目として、教職に関する基礎的な理解を深めることで、教師になりにという気持ちを確かなものにする。						
到達目標	基礎的な小学校教員の職務内容について現場体験を通して理解し、教師を目指す思いを高める。 なお、本科目はデプロイ前シラーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈態度〉の修得に貢献する。						
授業計画 備考							
回	概要					担当	
第1回	小学校の教師になるために必要なことを考える					森寺	
第2回	小学校で働く人（教職員）について理解する					森寺	
第3回	特別活動について理解する					森寺	
第4回	絵画鑑賞ワークショップを体験する(1)					森寺	
第5回	絵画鑑賞ワークショップを体験する(1)					森寺	
第6回	遠足・宿泊的行事について考える					森寺	
第7回	遠足・宿泊的行事の実践(1)					森寺	
第8回	遠足・宿泊的行事の実践(2)					森寺	
第9回	遠足・宿泊的行事の実践(3)					森寺	
第10回	小学校の体育の時間(ラジオ体操、マット、跳び箱、バスケボール等)を体験する					満田	
第11回	小学校教員の方々の話を聞く					森寺	
第12回	授業におけるICT活用について考える(1)					森寺	
第13回	授業におけるICT活用について考える(2)					森寺	
第14回	SDGsと南極観測について考える					森寺	
第15回	教員採用試験の問題に挑戦する。(回画工作等)					森寺	
授業計画 備考2							
評価の方法							
種別	割合	評価基準・その態備考					
授業への取り組みの姿勢/態度	50	意欲的な受講態度、活動や討議への積極的な取り組みの状況によって評価する。					
レポート	50	レポートの内容と提出状況を評価する。					
小テスト							
定期試験							
その他							

評価の方法：自由記載	
受講の心得	小学校教員を目指す学生を対象としている授業である。高い意欲を持って受講すること。
授業外学修	1. 授業ごとに配付したり、紹介したりする参考資料等をよく読み込み、次時の予習とする。 2. 授業内容について興味をもった事柄について、自ら深く調べることで復習とする。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載

その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	公立小学校教諭・教頭・校長，教育委員会事務局（姫野優幸）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	学校現場での現場体験を通して得た実践的な知見を学生に伝えることで，実感を伴った理解を促し，学習指導力，生徒指導力などの実践的指導力の向上に努める。

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. 基礎的な小学校教員の職務内容について現場体験を通して理解する。	基礎的な小学校教員の職務内容について現場体験を通して十分に理解している。	基礎的な小学校教員の職務内容について現場体験を通して概ね理解している。	基礎的な小学校教員の職務内容について現場体験を通して普通に理解している。	基礎的な小学校教員の職務内容について現場体験を通して理解がやや不十分である。	基礎的な小学校教員の職務内容について現場体験を通して全く理解できていない。
態度	1. 提出物	レポート、ノートなどの提出物について、授業提示の内容を適切にまとめ、自分で調べるなどして内容が発展的に充足している。あわせて、提出期限内に提出ができる。	レポート、ノートなどの提出物について、授業提示の内容を自分なりにまとめ、工夫して作成することができる。あわせて提出期限内に提出ができる。	レポート、ノートなどの提出物について授業提示した内容が適切にまとめられており、期限内に提出することができる。	レポート、ノートなどの提出物について授業提示した内容が不十分であるが自分なりに工夫して提出することができる。	レポート、ノートなどの提出物について授業提示した内容が不十分である。または、提出されない。
態度	1. 現場体験における児童への関わり方	児童に非常に積極的に関わろうとする。	児童に進んで関わろうとする。	児童に普通に関わろうとする	児童の関わり方がやや消極的である。	児童に全く関わろうとしない。

科目名	子ども健康指導法			授業番号	CP313	サブタイトル	
教員	岡崎 三鈴						
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義
						必修・選択	選択
授業概要	演習形式で、領域「健康」に関する具体的な指導法や指導計画について学習する。 また、遊びに関わるだけでなく、安全教育、食育、小学校との接続を踏まえた指導について考えていく。						
到達目標	幼児期の身体に関する問題は、多様化、複雑化している。保育所・幼稚園・認定こども園における幼児期の領域健康に関する具体的な指導内容について、方法とその具体的内容について理解することを目的とする。 子ども健康の内容を踏まえ、ねらい及び内容に沿った指導方法と指導内容について学習する。また、実践における評価について学習する。 なお、本科目は、デュロマポリシーに掲げた学士力のうち<知識・理解><思考・問題解決能力><技能>の修得に貢献する。なお、本科目はデュロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解><思考・問題解決能力><技能>の修得に貢献する。						
授業計画 備考							
回	概要					担当	
第1回	領域「健康」のねらい及び内容の基本的な理解 「幼稚園教育解説」「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」を基に領域「健康」のねらい及び内容を理解する。						
第2回	領域「健康」のねらい及び内容を踏まえた指導法の留意点 内容の取り扱いに対応した事例を用いて指導法の留意点を理解する。						
第3回	領域「健康」の具体的指導場面（基本的な生活習慣）の指導と幼児理解（ICT） ICTを用いて児童文化財を使った基本的な生活習慣の指導法の紹介を行い、その実践におけるポイントを理解する。						
第4回	領域「健康」の具体的指導場面（集団遊び）の指導と幼児理解（ICT） ICTを用いて発達に合った集団遊びの紹介を行い、その遊びにおける指導法を理解する。						
第5回	領域「健康」の具体的指導場面（ルールのある遊び）の指導と幼児理解 発達に応じたルールのある遊びの紹介を行い、指導法及びその遊びにおける幼児について理解する。						
第6回	領域「健康」の具体的指導場面（身体を動かして遊ぶ遊び）の指導と幼児理解 発達に応じた身体を動かして遊ぶ遊びの紹介を行い、指導法及びその遊びにおける幼児について理解する。						
第7回	領域「健康」の具体的指導場面（身体ふれあい遊び）の指導と幼児理解 発達に応じた身体ふれあい遊びの紹介を行い、指導法及びその遊びにおける幼児について理解する。						
第8回	領域「健康」の具体的指導場面（用具を使用した遊び）の指導と幼児理解 発達に応じた用具を用いた遊びの紹介を行い、指導法及びその遊びにおける幼児について理解する。						
第9回	領域「健康」に関する安全指導と保健指導 幼児のけがや事故の現状及び安全管理と安全教育の必要性について理解する。						
第10回	食育に関する指導（3歳未満児を対象として） 発達に応じた環境構成と援助について理解する。						
第11回	食育に関する指導（3歳以上児を対象として） 日々の生活で「食」を楽しむと思えるような環境構成や連携について理解する。						
第12回	乳幼児の病気とアレルギーに対する指導 乳幼児の病気やアレルギーに関する専門用語の理解と対処法について理解する。						
第13回	特別な支援の必要な幼児における領域「健康」の指導 発達障害の理解と具体的な指導方法とそれを活かした教材作りのポイントを理解する。						
第14回	小学校を見通した領域「健康」における指導 領域「健康」と小学校教育のつながりについて理解する。						
第15回	領域「健康」における指導計画の作成と評価 指導計画の基本的な作成方法と保育のPDCAサイクルを理解する。						
授業計画 備考2							
評価の方法							
	種別	割合	評価基準・その他備考				
	授業への取り組みの姿勢/態度	20	授業への積極的な態度や取組について評価する。				
	レポート	30	講義内容の適切な把握状況の評価し、コメントして返却する。				
	小テスト						
	定期試験	50	領域「健康」の指導法に関する知識・理解について評価する。				
	その他						

評価の方法：自由記載	
受講の心得	<ul style="list-style-type: none"> -乳幼児の健康に関する課題や問題について興味関心をもつこと。 -保育における領域「健康」を踏まえた指導内容と指導方法について考えること。
授業外学修	<ol style="list-style-type: none"> 1. 毎回、授業に使用するテキストを読み、授業内容の概要を理解すること。 2. 受講後は自身のノートの記載事項を1週間以上かけて整理し、分からないところを明確にしておくこと。 以上の内容を合わせて週4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
新時代の保育双書保育内容健康【第2版】	春日見章	株式会社みらい		2100円
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無				
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 領域「健康」のねらいや内容について具体的な指導内容について理解する。	領域「健康」のねらいと内容を設定し、個々の乳幼児やクラス全体の実態に合わせ、配慮ができる。	領域「健康」のねらいや内容を設定し、指導内容について理解した計画が立てられる。	領域「健康」のねらいや内容について指導内容について理解している。	領域「健康」のねらいや内容について指導内容について理解しようと努力している。	領域「健康」のねらいや内容について指導内容について理解しようとしていない。
思考・問題解決能力	1. 子どもと健康を踏まえ、指導方法と指導内容について学修する。	効果的に援助・指導できる保育指導計画を作成・評価することができる。	発達を見通して、保育計画を立て、実践して自分で省察・評価できる。	発達を見通して、保育計画を立て、連携して自分で省察・評価できる。	発達を見通して、保育計画を立て、指導を受けながら評価することができる。	保育計画の意義と立て方、評価について理解していない。
技能	1. 実践における保育の環境のあり方についての知識を習得する。	幼児のけがや疾病への対応策、安全を確保するために留意すべき保育の環境のあり方について理解を深めている。	幼児のけがや疾病への対応策、安全を確保するために留意すべき保育の環境のあり方について理解している。	幼児のけがや疾病への対応策、安全を確保するために留意すべき保育の環境のあり方について興味関心をもって取り組んでいる。	幼児のけがや疾病への対応策、安全を確保するために留意すべき保育の環境のあり方について興味関心をもっている。	基本的な対応や知識について理解はしている。
態度	1. 乳幼児の健康に関する課題や問題について興味関心をもって参加する。	実践に役立たせるために、それぞれの視点から健康を考えることができ、積極的に授業に参加する。	現場で役立たせるために、それぞれの視点から健康に興味関心をもって授業に参加している。	興味や関心をもって授業には参加するが、発表、討論、活動にやや消極的である。	授業を振り返り理解したことや反省点など、表現が乏しい。	受講態度や欠席、未提出があり、授業への意欲が見られない。

科目名	子ども人間関係指導法		授業番号	CP315	サブタイトル	
教員	廣畑 まゆ美					
単位数	2単位	開講年次	が1キヨラムにより異なります。	開講期	後期	授業形態
						講義
						必修・選択
						選択
授業概要	本科目は、幼稚園教育要領に基づき、領域「人間関係」の意図する目標、ねらい及び内容についての理解を深め、子どもが人とかわる力」を身に付けていくための保育者の援助・指導あり方および保育者の位置づけを明確にする。					
到達目標	幼稚園教育において育み深い資質・能力を理解し、幼稚園教育要領に示された当該領域のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深めるとともに、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。					
授業計画 備考						
回	概要					担当
第1回	領域「人間関係」は(1)・・・領域成立の変遷					
第2回	領域「人間関係」は(2)・・・子どもを取り巻く人的環境の変化					
第3回	人とのかわりから見る乳幼児期の発達(1)・・・愛着形成・感情の分化・自我の育ち					
第4回	人とのかわりから見る乳幼児期の発達(2)・・・他者意識の形成					
第5回	遊びの中の人とのかわりの育ち(1)・・・遊びとは何か					
第6回	遊びの中の人とのかわりの育ち(2)・・・遊びの中で生じるべきことについて					
第7回	人とのかわりを支える「保育者の役割」(1)・・・就学前教育における教育課程の考えかた					
第8回	人とのかわりを支える「保育者の役割」(2)・・・指導計画の作成における留意点					
第9回	人とのかわりを支える「保育者の役割」(3)・・・指導計画実践における留意点					
第10回	人とのかわりで「ちょっと気になる子ども」(1)・・・事例分析から出発する子ども理解					
第11回	人とのかわりで「ちょっと気になる子ども」(2)・・・子どもを「みる」視点を考察する					
第12回	人とのかわりを支え広げる実践(1)・・・子どもと子どもをつなぐために					
第13回	人とのかわりを支え広げる実践(2)・・・子どもとその保護者に対する援助について					
第14回	領域「人間関係」における今日の課題(1)・・・多文化保育について					
第15回	領域「人間関係」における今日の課題(2)・・・社会情動的スキルとその育成について					
授業計画 備考2						
評価の方法						
	種別	割合	評価基準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度	20	授業に対する積極性、予習・復習への取り組みなどにより評価する。			
	レポート	30	テーマに沿って根拠とともに具体的に述べられているかを評価する。採点後は全体に向けてフィードバックを行う。			
	小テスト					
	定期試験	50	最終的な理解度を評価する。			
	その他					

評価の方法：自由記載	
受講の心得	
授業外学修	テキストの授業内容にかかわる予習をして授業に出席する。 授業終了後は、授業中に記録した内容をノートにまとめるなどして復習する。 このことについて、4時間以上の学修をすること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
人間関係の指導法 改訂第2版 (保育・幼児教育シリーズ)	若月芳浩・岩田恵子編著	玉川大学出版部	4472405644	2400+税
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. 教育課程の理解	就学前教育における教育課程を十分理解し、正しく説明でき、計画作成にも十分生かすことができる。	就学前教育における教育課程を理解し、ほぼ正しく説明でき、計画作成にも反映させようとしている。	就学前教育における教育課程を理解し、自分なりに応用しようとしている。	就学前教育における教育課程をおおむね理解している。	就学前教育における教育課程をほとんど理解していない。
知識・理解	2. 幼児の人間関係構築における発達の基本知識	子どもが人間関係を構築していく過程を十分理解でき、知識を様々な場面で応用できる。	子どもが人間関係を構築していく過程を十分理解できている。	子どもが人間関係を構築していく過程をおおむね理解できている。	子どもが人間関係を構築していく過程があることを知り、理解しようとしている。	子どもが人間関係を構築していく過程についてほとんど理解できていない。
思考・問題解決能力	1. 専門領域と関連させて事例の理解を深める力	学んだ基礎的な知識を十分活用しながら、子どもに対する保育者の援助を具体的に検討し、自分の意見として説明できる。	学んだ基礎的な知識を活用しながら、子どもに対する保育者の援助を具体的に検討し、自分の意見を説明できる。	学んだ基礎的な知識をいくつか用いて、子どもに対する保育者の援助を検討し、自分の意見をまとめることができる。	学んだ基礎的な知識を十分に活用できていないが、子どもに対する保育者の援助を、自分なりに意見としてまとめることができる。	学んだ基礎的な知識を活用できず、子どもに対する保育者の援助を、考えとしてまとめることができない。
技能	1. 保育を構想する方法	子どもの人間関係の育ちを十分理解し、教育課程と関連させながら、具体的な計画を作成し、イメージ通りの模擬実践ができる。	子どもの人間関係の育ちを理解し、教育課程と関連させようしながら計画を作成し、模擬実践ができる。	子どもの人間関係の育ちを理解し、自分なりの計画を作成し、模擬実践ができる。	子どもの人間関係の育ちをあまり理解できず、自分なりの計画を作成しているものの不十分である。	子どもの人間関係の育ちをほとんど理解できず、計画することができない。
態度	1. 授業準備	グループディスカッション、グループ活動、個人活動などに積極的に取り組む様子が現れ、学んだ知識を引用したり、他者の意見をよく聴いて論理的な自分の意見を構築することができる。	グループディスカッション、グループ活動、個人活動などに積極的に取り組む様子が現れ、学んだ知識を引用したり、他者の意見をよく聴いて、自分なりに意見を構築することができる。	グループディスカッション、グループ活動、個人活動などに積極的に取り組む様子が現れ、自分なりに意見を構築することができる。	グループディスカッション、グループ活動、個人活動などに取り組む過程で、自分なりに意見を構築しようとしている。	グループディスカッション、グループ活動、個人活動などに対し消極的で、自分の意見をのべることができない。

科目名	子ども環境指導法		授業番号	CP317	サブタイトル				
教員	西條 佳子								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	幼児は身近な環境や自然に好奇心や探求心をもって関わり、発見を楽しんだり考えたり、生活に取り入れる。本授業では、幼児を取り巻く環境についての専門的事項を踏まえ、保育者としての指導に必要な基礎的な知識と技能について講義する。また事例を取り上げ、幼児の発達に即した興味・関心、遊びへの展開を踏まえた環境構成の仕方と保育者の指導上の留意点を理解し、その環境で幼児がどのような活動をするか領域「環境」に関わる具体的な保育場面を想定した保育の構想、指導方法について説明する。								
到達目標	・領域「環境」のねらいと内容についてポイントを押さえて解説することができる。 ・領域「環境」の内容を具体的な事例を使いながら、幼児の活動をイメージすることができる。 ・幼児に考えさせたり、工夫させたりするポイントを明確に指摘することができる。 ・対象物の特性や使用する道具の使い方の基礎知識を身につけ、どのように指導すればよいかを説明することができる。 ・領域「環境」の活動の楽しさを体験し、幼児にどのように接すればよいかを話すことができる。 ・具体的な指導計画を作成することができる なお、本科目はデザイン・ポスターに關した学上土力の内容のうち、＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考	【1】領域「環境」の基礎知識の整理 (1)幼児を取り巻く環境 (2)ねらいと内容 (3)園の環境 (4)幼児の発達と環境 【2】実際に体験する活動 【3】工夫したり、調べる活動 【4】考える活動 【5】指導計画を作成する								
回	概要						担当		
第1回	・幼児教育・保育の基本と環境 ・幼児を取り巻く環境 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された環境を通しての教育・保育の捉え方、遊びを通しての学び、幼児教育の終わりに育ててほしい姿（10の姿）を理解する。								
第2回	・領域「環境」のねらい、内容及び内容の取扱い ・自然とふれあい感動する：春の生活と遊び（体験する活動） 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された領域「環境」のねらい、内容及び内容の取扱いを全体構造を理解する。 自然の特性や種類を理解し、幼児と自然との関わりの実践について学ぶ。散歩、春の花探検、フィールドビンゴを体験的な活動として行う。								
第3回	・子どもの発達と領域「環境」・園の環境 ・保育の過程と保育計画 幼児期にふさわしい環境と環境構成の実態について学ぶ。園内で行われる幼児の遊びの事例から、領域「環境」のねらい、内容の展開の実態、保育計画について理解する。								
第4回	・植物との関わり（体験する活動）（調べる）（考える） 幼児と植物との関わり、有毒な植物、花や野菜の植物栽培について理解する。保育の実態として野菜（カイワレダイコン、ハツカダイコン等）の栽培計画を立案する。								
第5回	・物事の法則性に気づく ・植物の栽培（体験する活動）（調べる）（考える） 乳幼児期の認知的発達の特徴と発達、幼児期の思考・科学的概念の発達を理解する。 植物にふれる保育の実態として野菜（カイワレダイコン、ハツカダイコン等）の栽培活動を行う。								
第6回	・季節感を味わう ・植物栽培の省察（体験する活動）（調べる）（考える） 乳幼児の夏の生活と遊びについてしゃぼん玉遊びなど具体的な活動から体験的に学ぶ。 植物にふれる保育の実態として野菜（カイワレダイコン、ハツカダイコン等）の栽培活動を行い、実践の振り返りをする。								
第7回	・自然を取り入れて遊ぶ（体験する活動）（調べる）（考える） 自然に親しみ、季節を生かす保育に関して乳幼児の秋・冬の生活と遊びを中心に理解する。								
第8回	・生き物との関わり ・生命の営みに触れる ・タンゴムシ探しと飼育（体験する活動）（調べる）（考える） 乳幼児の生物との関わり、学校園における動物飼育が果たす役割を理解し、具体的な活動として簡単な飼育を体験する。タンゴムシの飼育計画を立案する。								
第9回	・身のまわりの物に愛着をもつ（体験する活動）（調べる）（考える） 乳幼児の物や道具と出会い関わる姿からその意味と学びの姿を捉え、園に整えられている物や道具の乳幼児の発達に必要な経験を得るための保育者の意図を理解する。 具体的な活動としてタンゴムシの飼育を体験する。								
第10回	・科学を体験する ・泥だんご、色水遊び（体験する活動）（調べる）（考える） 乳幼児の思考・科学的概念の発達、自然との関わりを対象に対する興味・関心、理解の発達について理解する。 タンゴムシの飼育活動を行い、実践の振り返りをする。								
第11回	・数値・図形に親しむ（体験する活動）（調べる）（考える） 園生活や遊びの中で、数値・図形への関心・感覚を豊かにする活動を考える。 図形にふれる活動並びに保育の場における文化や伝統、行事などに親しめる活動として七夕飾りを作る。								
第12回	・標識や文字の必要性を育む（体験する活動）（調べる）（考える） 園生活や活動、遊びの中で標識・文字にふれる活動を考える。								
第13回	・園外の活動 ・身近な情報や施設を生かし、生活を豊かにする ・ITC活用方法（体験する活動）（調べる）（考える） 園生活や遊びの中で情報にふれる活動を考える。乳幼児の生活に關係の深い施設とそれに關する具体的な活動を考える。 幼児の体験との関連性を考慮した情報機器及び教材の活用方法を理解し、保育構想への活用について考える。								
第14回	・指導計画をつくる(1) ・指導形態とカリキュラム ・指導計画作成手順 指導案の構造を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成する。								
第15回	・指導計画をつくる(2) 模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を生身に付ける。								
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組み姿勢/態度	20	授業終了時に当日の講義の要約を記述して提出を求めコメントシートにより、評価を行う。						
	レポート	30	・授業で学んだ内容を深めることができたかを評価する。 ・タンゴムシ飼育、カイワレダイコン等の栽培は観察日記の記述内容を評価する。 ・指導計画（指導案）の記述内容を評価する。						
	小テスト								
	定期試験	50	最終的な理解度を評価する。						
	その他								

評価の方法：自由記載	<ul style="list-style-type: none"> 授業ごとに自分で感じたこと、工夫したこと、考えたことについてのレポートを作成して提出する。 課題やレポートについてはコメントを記入して返却する。また提出後の授業で全体的な傾向についてコメントをする。 基礎概念の理解度についての試験を実施する。
受講の心得	<ul style="list-style-type: none"> 事前学習としてテキストの該当範囲をあらかじめ読んでおく。 授業後に講義内容の整理や課題に取り組む。 日常的に現場を巡回し、子どもの視点で美しいものや興味を引きそうなものを探し、ノートに記録する。 身近なものを使い、子どもが喜びそうな工作を考える。 以上の内容を、週当たり4時間以上学習すること。
授業外学習	<ul style="list-style-type: none"> 事前に授業の内容をテキストで予習しておく。 授業後に講義内容の整理や課題に取り組む。 日常的に現場を巡回し、子どもの視点で美しいものや興味を引きそうなものを探し、ノートに記録する。 身近なものを使い、子どもが喜びそうな工作を考える。 以上の内容を、週当たり4時間以上学習すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
実践例から学びを深める 保育内容・領域 環境指導法	小堀 絵子 編著	わかば社	9784907270339	1760円(本体1600+税)
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の業務経験の有無	無			
担当教員の業務経験				
担当教員以外で指導に関わる業務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる業務経験者				
業務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. 領域「環境」のねらいと内容について理解している。	領域「環境」のねらいと内容を正確に理解し、わかりやすくポイントを押さえて解説することができる。	領域「環境」のねらいと内容を正確ではないがほぼ理解し、ポイントを押さえて解説することができる。	領域「環境」のねらいと内容を概ね理解し、ある程度ポイントを押さえて解説することができる。	領域「環境」のねらいと内容について、正確に解説できないが、自分の言葉では表現できる。	領域「環境」のねらいと内容について、まったく表現することができない。
知識・理解	2. 領域「環境」の内容を具体的な事物を使いながら、子どもの活動をイメージすることができる。	領域「環境」の内容を具体的な事物を使いながら、子どもの活動を大変よくイメージすることができる。	領域「環境」の内容を具体的な事物を使いながら、子どもの活動をイメージすることができる。	領域「環境」の内容を具体的な事物を使いながら、子どもの活動のある程度イメージすることができる。	領域「環境」の内容を具体的な事物を使いながら、子どもの活動を十分にイメージすることができない。	領域「環境」の内容を具体的な事物を使いながら、子どもの活動をまったくイメージすることができない。
思考・問題解決能力	1. 領域「環境」の特性に応じた現代的課題や保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。	領域「環境」の特性に応じた現代的課題や保育実践の動向を調べ、保育構想の向上について多角的に考察している。	領域「環境」の特性に応じた現代的課題や保育実践の動向を調べ、保育構想の向上について考察している。	領域「環境」の特性に応じた現代的課題や保育実践の動向を調べ、自分の考えを述べるができる。	領域「環境」の特性に応じた現代的課題や保育実践の動向を調べることができるが、自分の考えを述べることができない。	領域「環境」の特性に応じた現代的課題や保育実践の動向を調べることができていない。
技能	1. 具体的な保育を想定した指導計画を作成できる	具体的な保育を想定した指導計画を正確に作成できている。	具体的な保育を想定した指導計画をほぼ作成できている。	指導計画のある程度作成することができている。	指導計画を十分に作成することができていない。	指導計画を提出していない。
技能	2. 動植物の飼育・栽培に関する活動ができる	課題に対し、写真を貼付する等の工夫を身につけて観察結果と考察を述べるができる。	課題に対し、観察結果と考察を述べることができる。	課題に対し、観察結果と考察のある程度述べるができる。	課題に対し、観察結果と考察を十分に述べることができていない。	課題を提出していない。
態度	1. 授業に意欲的に参加できる	質問など積極的に行い、疑問を解決し、授業内容を理解した上で、適切なコメントシートを提出している。	授業に前向きに臨む姿勢が見受けられ、授業内容を理解した上で、コメントシートを提出している。	授業に出席し、授業内容を理解した上でコメントシートを提出している。	授業に出席し、コメントシートを提出しているが、理解が十分ではない。	授業に出席しているが、コメントシートの提出をしていない。

科目名	子ども言葉指導法	授業番号	CP319	サブタイトル	
教員	伊藤 智里				
単位数	2単位	開講年次	が1年よりも異なります。	開講期	前期
授業形態	講義	必修・選択	必修・選択	選択	
授業概要	模擬保育・事例などを基に、体験したり、協議したりして領域「言葉」の視点から、幼児を理解したり、環境構成、指導上の留意点及び、保育の構想などを理解する。				
到達目標	授業の到達目標及びテーマ ・幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における幼稚園教育の基本、領域「言葉」のねらい及び内容並びに全体構成を理解している。 ・領域「言葉」のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。 ・指導案の構造を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。 ・模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている。 なお、本科目はディプロマ・ポリシーに於いた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。				
授業計画 備考					
回	概要			担当	
第1回	保育内容領域「言葉」指導法について 幼児教育の基本を踏まえ、保育内容領域「言葉」のねらい及び内容について理解する				
第2回	子どもの発達と言葉（1） 乳児期の言葉の発達について理解する				
第3回	子どもの発達と言葉（2） 幼児期の言葉の発達について理解する				
第4回	前言語期のコミュニケーションと保育 言葉を話す前の乳児の発達に関わり方について理解する				
第5回	言葉を育てる保育活動を考える 遊びを通して幼児教育実践のための、環境構成、保育者の援助、幼児理解について考えながら日誌・指導案を作成することを理解する				
第6回	児童文化財の活用1 パネルシアターを活用した保育活動を例とした指導案作成について				
第7回	児童文化財の活用2 パネルシアターを活用した保育活動の指導案をもとにした模擬保育について				
第8回	児童文化財の活用3 模擬保育の評価・改善を行い、幼児理解と指導の援助、評価について理解する				
第9回	言葉を育てる児童文化財 様々な児童文化財について知り、領域「言葉」の視点から保育教材としての価値を理解する				
第10回	話し言葉の機能と発達 「話す」ということを理解し、話す力を育てる遊びの視点を持つ				
第11回	書き言葉の発達と保育 文字の読み書きの発達過程を理解し、書き言葉を育てる環境構成を考える				
第12回	配慮を必要とする子どもへの支援について 言語障害の基礎的知識を習得し、必要な支援や配慮について考える				
第13回	多文化共生時代における子どもの支援 外国にルーツのある子どもの現状理解と、その支援について考える				
第14回	幼児期の終わりに育ってほしい姿と領域「言葉」 「遊びを通しての総合的な指導」と領域「言葉」の在り方について理解する				
第15回	保幼小接続と領域「言葉」 領域「言葉」の視点から保育・幼児教育と小学校との円滑な接続について理解する。				
授業計画 備考2					
評価の方法					
種別	割合	評価基準・その他備考			
授業への取り組みの姿勢/態度	10	授業への積極的な取組、発表などによる評価			
レポート	20	提出物が課題・テーマに沿って具体的に述べられたり、整理されていたりすること、課題提出後の授業で全体的な傾向や内容の補足等についてコメントする。			
定期試験	70	最終的な理解度を評価する			

評価の方法：自由記載	
受講の心得	授業は自ら学ぶ姿勢でのびとびとに、具体的な指導を想定して保育を構想する方法を身に付けることによる主体的に受講する。
授業外学習	1. 予習としてテキストを読み、疑問点等を自分なりに整理する。 2. 復習として授業の内容をまとめ、課題を作成する。 3. 発展学習として、言葉育てる子どもの遊びについて文献等で調べる。 以上の内容を、適当に4時間以上学習すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト：自由記載	テキストは、漢語「子ども言葉」で使われた保育学生のための「幼児と言葉」「言葉指導法」(馬見理明久/小倉信子編著、ミネルヴァ書店、ISBN：798-4-623-09251-2)を使用する。「子ども言葉」の未受講者は、準備すること。			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	「保育所保育指針解説」「幼稚園教育要領解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」を適宜使用する。			
その他				
備考	令和4年度改訂			
注意事項				
担当教員の業務経験の有無	無			
担当教員の業務経験				
担当教員以外で指導に関わる業務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる業務経験者				
業務経験をいかけた教育内容				

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分にレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. 保育内容領域「言葉」の理解	保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の保育内容「言葉」についての知識を修得し、養護及び教育がそれぞれ関連性を持つことを理解することができる。さらに、育てたい資質・能力、他領域との関係、保幼小接続と合わせて理解することができる。	保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の保育内容「言葉」についての知識を修得でき、養護及び教育がそれぞれ関連性を持つことを理解することができる。さらに、幼児期に育てたい資質・能力の繋がりと合わせて理解することができる。	保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の保育内容「言葉」についての知識を修得でき、養護及び教育がそれぞれ関連性を持つことを理解することができる。	保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の保育内容「言葉」について、ねらい及び内容を知識として習得できる。	保育内容「言葉」について必要な知識を修得することが不十分である。
知識・理解	2. 言葉の獲得に関する子どもの発達過程の理解	保育所保育指針における3つの視点、1歳以上3歳未満児および3歳以上児の領域「言葉」を通して子どもの発達過程を考え、子どもに対する理解を深め、児童文化財の使用および発達にあわせた環境も含めて保育内容を検討することができる。	保育所保育指針における3つの視点、1歳以上3歳未満児および3歳以上児の領域「言葉」を通して子どもの発達過程に関する知識を修得し、言葉を獲得するために必要な援助と児童文化財を用いた保育について考えることができる。	保育所保育指針における3つの視点、1歳以上3歳未満児および3歳以上児の領域「言葉」を通して子どもの発達過程に関する知識を修得し、言葉を獲得するために必要な援助について理解することができる。	保育所保育指針における3つの視点、1歳以上3歳未満児および3歳以上児の領域「言葉」を通して、子どもが言葉の獲得する発達過程について理解することができる。	言葉の獲得に関する子どもの発達過程について理解が不十分である。
知識・理解	3. 指導計画に関する知識及び理解	言葉に関する指導計画を全体計画から日案まで通して計画する必要性を理解し、年齢に応じた日案を計画するための教材や児童文化財等の活用と工夫、計画、実践、記録、省察、評価、改善の一連の保育の過程について十分理解することができる。	言葉に関する指導計画を月案から見通して計画するための教材や児童文化財等の活用、計画、実践、記録、省察、評価、改善の一連の保育の過程について理解することができる。	言葉に関する日案を計画する必要性を理解し、年齢に応じた日案を計画するための教材や児童文化財等の活用、計画、実践、記録、省察、評価、改善の一連の保育の過程についておおよそ理解することができる。	言葉に関する日案を計画する必要性を理解し、活動に基づいた日案を計画することや、計画、実践、記録、省察、評価、改善の一連の保育の過程について理解することができる。	言葉に関する日案を計画することについて理解、計画作成が不十分である。
思考・問題解決能力	1. 子どもの発達過程に合わせた活動を考える。	同一の児童文化財を用いた活動において場面や年齢に応じた活動を考え、展開した遊びを考え、遊びの中で、子どもが体験していることを想定することができ、保育者の配慮すべき事項を十分検討することができる。	同一の児童文化財を用いた活動において場変化した変化を付けて考えることができる。その児童文化財が複数ある、遊びの中で、子どもが体験していることを想定することができ、保育者の配慮すべき事項について検討することができる。	複数の児童文化財において年齢に応じた活動を考えることができる。遊びの中で、子どもが体験していることを想定することができ、保育者の配慮すべき事項について検討することができる。	特定の児童文化財において年齢、場面を設定して活動を考えることができる。遊びの中で、子どもが体験していることを想定することができ、保育者の配慮すべき事項について検討することができる。	保育活動において年齢、児童文化財の特性を考える視点が不十分であり、子どもが体験していることへの想定や保育者の配慮すべき事項についての検討ができていない。
思考・問題解決能力	2. 具体的な保育場面を想定した指導計画を作成する。	子どもの発達過程に即して具体的な保育場面を想定しながら指導計画を立案することができる。その計画の評価・改善について、年齢、事前準備、環境構成などを意識して適切なねらいと配慮の整合性の取れた改善案を考えることができる。	子どもの発達過程に即して具体的な保育場面を想定しながら指導計画を立案することができる。立案した計画の評価・改善について、ねらい、内容、年齢、準備、環境構成、時間、配慮などの問題点を意識して改善案を考えることができる。	子どもの発達過程に即して具体的な保育場面を想定しながら指導計画を立案することができる。立案した計画の評価・改善について、子どもの発達過程を意図した適切なねらいと配慮を再考して改善点を見つけることができる。	具体的な保育場面を想定しながら指導計画を立案することができ、立案した計画について実践することが難しい点を見つけることができる。	計画した内容を振り返る力が不十分である。
思考・問題解決能力	3. 言葉の獲得に関する思考力	言葉の獲得に関する諸問題について主体的な視点で問題点を明らかにし、自分なりの意見や考えを持ち、表現することができる。	言葉の獲得に関する諸問題について主体的な視点でとらえ、自分の考えを持つことができる。	言葉の獲得に関する諸問題について理解し、自分なりの意見や考えを持つことができる。	言葉の獲得に関する諸問題について理解し、授業で提示した一般的な意見や考えを知る。	言葉の獲得に関する諸問題について一般的な情報を知る努力が不十分である。
技能	1. 言葉の獲得を中心とした指導案作成	幼児教育・保育の基本、領域「言葉」のねらい及び内容をふまえ、言葉の獲得を意図し年齢に応じたねらい、内容、配慮等、必要な情報を全て揃えた指導案を作成することができる。幼児が体験し身に覚えやすい内容と指導上の留意点の関係を理解し、整合性を取ることができる。	幼児教育・保育の基本、領域「言葉」のねらい及び内容をふまえ、言葉の獲得を意図し年齢に応じたねらい、内容、配慮等、必要な情報を全て揃えた指導案を作成することができる。幼児が体験し身に覚えやすい内容と指導上の留意点の関係を理解することができる。	幼児教育・保育の基本、領域「言葉」のねらい及び内容をふまえ、言葉の獲得を意図し年齢に応じたねらい、内容、配慮等、必要な情報を全て揃えた指導案を作成することができる。	環境構成、時間、配慮など活動に必要な情報が不足しているが幼児教育・保育の基本、領域「言葉」のねらい及び内容をふまえ、一連の活動の最初から最後まで通して指導案を作成することができる。	指導案の内容が全体的に希薄で実践するために不十分である。
技能	2. 児童文化財指導の実践	それぞれの児童文化財の特性を十分に理解し、必要な準備や配慮を行って実践することができる。また、年齢に応じた声掛け等、実際の保育を十分に想定することができる。	それぞれの児童文化財の特性を十分に理解し、必要な準備や配慮を行って実践することができる。また、年齢に応じた声掛け等、実際の保育を十分に想定することができる。	それぞれの児童文化財の特性を十分に理解し、必要な準備や配慮を行って実践することができる。	それぞれの児童文化財の特性を理解し、必要な準備や配慮を行って実践することができる。	児童文化財を使用した実践の準備が不十分である。
技能	3. レポート作成技術	レポート、指導案などの提出物について、授業提示以外に自分で調べるなどして内容が発展的に充足している。	レポート、指導案などの提出物について、授業提示以外に自分で調べるなど工夫して表現されている。	レポート、指導案などの提出物について授業提示した内容が適切に表現されている。	レポート、指導案などの提出物について授業提示した内容が不十分であるが部分的に理解して表現されている。	レポート、指導案などの提出物について授業提示した内容が不十分である。
態度	1. グループ活動の主体的な参加	他人の話を聞き、自分なりの意見を伝え、積極的に話し合いや実践に参加することで、建設的にグループ活動に関わることができる。	他人の話を聞き、自分なりの意見を伝え、建設的にグループ活動に関わることができる。	他人の話を聞き、自分なりの意見を伝え、グループ活動に関わることができる。	自分の意見は言えないが、他人の話を聞き、グループ活動に関わることができる。	グループ活動への参加ができず、個人活動となっている。

科目名	子どもと表現指導法		授業番号	CP321	サブタイトル				
教員	牛島 光太郎、土師 範子、織田 典恵								
単位数	2単位	開講年次	が1年次より異なります。	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	幼児教育において育みたい資質・能力や領域「表現」のわらひ及び内容について、関連する領域に触れながら講義する。その上で、幼児の発達段階に即して、深い学びが実現するよう、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法や環境の設定などについて説明する。								
到達目標	<p>(1)幼児教育の基本を踏まえ、領域「表現」のわらひ及び内容を理解できる。</p> <p>1)幼児教育の基本、各領域のわらひ及び内容を並記し全体構造を理解している。</p> <p>2)領域「表現」のわらひ及び内容を踏まえ、幼児が経験し身につけていく内容と指導上の留意点を理解している。</p> <p>3)幼児教育における評価の考え方を理解している。</p> <p>4)領域「表現」に関わる幼児が経験し身につけていく内容の関連性及び小学校の教科とのつながりを理解している。</p> <p>(2)幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「表現」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身につけている。</p> <p>1)幼児の心情、認識、思考及び動きなどを視野に入れた保育の構想の重要性を理解している。</p> <p>2)領域「表現」の特性及び幼児の体験との関連を考慮した情報集約及び教材の活用方法を理解し、保育構想に活用することができる。</p> <p>3)指導案の構造を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。</p> <p>4)模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身につけている。</p> <p>5)領域「表現」の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組みができる。</p> <p>なお、本科目はデイズロム・ポリシーに掲げた学土力の内容のうち、<知識・理解> <思考・問題解決能力> <技能>の修得に貢献する。</p>								
授業計画 備考	令和6年度改訂								
回	概要				担当				
第1回	領域「表現」のわらひ及び内容 幼稚園教育要領・保育所保育指針をもとに				土師範子				
第2回	「表現」の具体的な内容（2歳児未満） 幼児の発達段階を踏まえた指導上の留意点（形、色、手触り）				牛島光太郎				
第3回	「表現」の具体的な内容（2歳児未満） 幼児の発達段階を踏まえた指導上の留意点（音）				土師範子				
第4回	「表現」の具体的な内容（2歳児未満） 幼児の発達段階を踏まえた指導上の留意点（動き）				織田典恵				
第5回	「表現」の具体的な内容（3歳児～6歳児） 幼児の発達段階を踏まえた指導上の留意点（形、色、手触り） 指導案の作成（造形表現）				牛島光太郎				
第6回	「表現」の具体的な内容（3歳児～6歳児） 幼児の発達段階を踏まえた指導上の留意点（音）				土師範子				
第7回	「表現」の具体的な内容（3歳児～6歳児） 幼児の発達段階を踏まえた指導上の留意点（動き）				織田典恵				
第8回	具体的な指導場面について 保育構想と造形表現				牛島光太郎				
第9回	具体的な指導場面について 保育構想と音楽表現				土師範子				
第10回	具体的な指導場面について 保育構想と身体表現				織田典恵				
第11回	指導案の構造について 指導案の作成（音楽表現）				織田典恵				
第12回	模擬保育（形、色、手触り） 振り返りグループ討議				牛島光太郎				
第13回	模擬保育（音楽表現） 振り返りグループ討議				土師範子				
第14回	模擬保育（身体表現） 振り返りグループ討議				織田典恵				
第15回	発達段階に応じたICTの活用について 小学校との関連				牛島光太郎				
授業計画 備考2									
評価の方法	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢/態度	10	意欲的な授業態度、予・復習の状況によって評価する。						
	レポート・課題	50	各回の主要なポイントの理解を提出されたレポートや課題によって評価する。課題提出後の授業で全体的な傾向についてコメントする。						
	その他	20	模擬保育の準備・発表、ディスカッション等への参加状況等により評価する。						
	その他	20	毎授業後に提出するコメントペーパーによって評価する。						

評価の方法：自由記載	
受講の心得	「感性や創造性を豊かにする」とはどのようなことなのかについて探求してほしい。
授業外学習	1 復習として、課題を課すことがある。 2 予習として、資料を配布することがある。 3 発展学習として、授業で紹介された参考文献等を読む。 以上の内容を、適当に4時間以上学習すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載

幼稚園教育要領, 保育所保育指針, 保幼連携型認定こども園教育・保育要領

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載

適宜提示する。

その他

備考

注意事項

担当教員の業務経験の有無

有

担当教員の業務経験

音楽教室主宰(16年)・NPO法人日本こども教育センター・ミック認定講師(10年)(織田典恵)

担当教員以外で指導に関わる業務経験者の有無

無

担当教員以外で指導に関わる業務経験者

業務経験をいかした教育内容

幼児におけるトミックレッスン等の経験より、子どもの表現活動の指導としての在り方及び指導方法を修得させる(織田典恵)

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. 領域「表現」に関わる内容(音楽・造形・身体)の指導上の留意点を理解し、指導案を作成することができる	幼児の発達や学びの過程と表現の関連性を十分に理解した上で、具体的な指導場面を想定し指導案を作成し、指導上の留意点を説明することができる	幼児の発達や学びの過程と表現の関連性を理解した上で、具体的な指導場面を想定し指導案を作成し、保育を構想し、指導上の留意点を理解している	幼児の発達や学びの過程と表現の関連性を理解した上で、具体的な指導場面を想定し指導案を作成することができる	幼児の発達や学びの過程と表現の関連性を理解しているが、具体的な指導場面を想定し指導案を作成することが不十分である	幼児の発達や学びの過程と表現の関連性を理解できておらず、具体的な指導場面を想定し指導案を作成することができない
思考・問題解決能力	1. 実施した模擬保育を保育者としての視点に加えて、子ども役等の視点からも振り返り、課題を見つけ、保育内容や環境を改善することができる	実施した模擬保育を保育者としての視点に加えて、子ども役等の視点からも振り返り、個別の課題を見つけ、保育内容や環境を十分に改善することができる	実施した模擬保育を保育者としての視点に加えて、子ども役等の視点からも振り返り、保育内容や環境を改善することができる	実施した模擬保育を保育者としての視点に加えて、子ども役等の視点からも振り返り、保育内容や環境を改善する視点を持つことができる	実施した模擬保育に対して、保育内容や環境についての省察が不十分である	実施した模擬保育に対して、課題を発見したり改善する視点を持っていない
技能	1. 適切な環境を整え模擬保育を実践することができる	音楽表現・造形表現・身体表現活動中の様々な状況を具体的に想定し、十分な環境設定ができ、幼児の表現意欲を引き出すための適切な援助や表現活動を促す活動ができる	音楽表現・造形表現・身体表現活動中の様々な状況を想定し、環境設定ができ、幼児の表現意欲を引き出すための適切な援助ができる	音楽表現・造形表現・身体表現活動中の様々な状況を想定し、環境設定ができ、幼児の表現意欲を引き出すための援助ができる	音楽表現・造形表現・身体表現活動中の様々な状況を想定した環境設定はできるが、幼児の表現意欲を引き出すための援助が不十分である	音楽表現・造形表現・身体表現活動中の様々な状況を想定した環境設定ができず、幼児の表現意欲を引き出すための援助をすることができない

科目名	子ども音楽研究			授業番号	CP323	サブタイトル			
教員	土師 穂子								
単位数	1単位	開講年次	3年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	「基礎音楽A・B」で培った技能・経験をもとに、保育やの現場で要求される「表現」と「弾き歌い」の技術と知識を系統的に学習する。また、表現活動に係る教材の活用と具体的な展開を理解する。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・保育の内容を理解し、子どもの遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を習得する。 ・身体表現、音楽表現、の表現活動に関する知識や技術を習得する。 ・表現活動に係る教材等の活用及び作成と、具体的展開のための技術を習得する。なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。 								
授業計画 備考									
回	概要					担当			
第1回	子どもの成長と身体表現								
第2回	子どもの成長と音楽→遊びをとおして								
第3回	表現活動と身体表現～音・音色・音楽								
第4回	子どもの歌とピアノリズム 1								
第5回	子どもの歌とピアノリズム 2								
第6回	ピアノによる簡易伴奏の作り方								
第7回	弾き歌いの表現法 1								
第8回	弾き歌いの表現法 2								
第9回	音楽表現 ～歌謡 1								
第10回	音楽表現 ～歌謡 2								
第11回	音楽表現 ～器楽 1								
第12回	音楽表現 ～器楽 2								
第13回	音楽表現 ～弾き歌い 1								
第14回	音楽表現 ～弾き歌い 2								
第15回	表現法のまとめと考察								
授業計画 備考2									
評価の方法									
種別		割合	評価基準・その態備考						
授業への取り組みの姿勢/態度		30	受講態度、姿勢、発表。						
レポート		30	課題・レポートの、理解度・定着度。添削後、返却する。						
小テスト		20	授業内の筆記・実技等の小テスト						
定期試験		20	理解度、定着度。						

評価の方法：自由記載	【受講の心得】 授業で習得した理論や技術が次の授業で表出・発揮できるよう、努力してください。
受講の心得	毎回の授業で授業される課題への取り組みが肝要。音楽の理論を理解し、毎日課題を演習することで、子どもと関わるために必要な音楽技法と進歩します。保育実践者を意識しながら自ら表現することを主眼に置いた、積極的であること。
授業外学習	授業で提示される次の内容について、予習すること。 授業で提示された課題を復習し、復習すること。 上記の内容を、週当たり2時間程度学習すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト：自由記載	大人のための音楽ワークテキスト」及び「ドリル」, 『続こどもの歌200』, 『楽しみながらからだを動かす1～5歳のかんたんソング』			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	授業の中で、その都度紹介します。			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の業務経験の有無	無			
担当教員の業務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. 保育の内容を理解し、子どもの遊びを豊かに展開するために必要な知識を習得できる。	保育の内容を十分に理解し、子どもの遊びを豊かにするために必要な知識を十分に習得し、発展することができる。	保育の内容を十分に理解し、子どもの遊びを豊かにするために必要な知識を十分に習得している。	保育の内容を理解し、子どもの遊びを豊かにするために必要な知識を習得している。	保育の内容を理解しようと努力し、知識を習得しようと努力している。	保育の内容を理解しようとし、知識を習得しようとしている。
知識・理解	2. 身体表現、音楽表現、の表現活動に関する知識を習得できる。	身体・音楽表現活動に関する知識を十分に習得し、発展することができる。	身体・音楽表現活動に関する知識を十分に習得している。	身体・音楽表現活動に関する知識を習得している。	身体・音楽表現活動に関する知識を習得しようと努力している。	身体・音楽表現活動に関する知識を習得しようとしている。
思考・問題解決能力	1. 表現活動に係る教材等の活用及び作成することができる。	子どもの姿や、保育現場での取り組みを想定することができ、表現活動に係る教材等の活用及び作成を十分にすることができる。	表現活動に係る教材等の活用及び作成を十分にすることができる。	表現活動に係る教材等の活用及び作成をすることができる。	表現活動に係る教材等の活用及び作成をしようと努力している。	表現活動に係る教材等の活用及び作成をしようとしている。
技能	1. 保育の内容を理解し、子どもの遊びを豊かに展開するために必要な技術を習得することができる。	保育の内容を理解し、子どもの遊びを豊かにするために必要な技術を十分に習得し、発展することができる。	保育の内容を理解し、子どもの遊びを豊かにするために必要な技術を十分に習得している。	保育の内容を理解し、子どもの遊びを豊かにするために必要な技術を習得している。	保育の内容を理解し、子どもの遊びを豊かにするために必要な技術を習得しようと努力している。	保育の内容を理解し、子どもの遊びを豊かにするために必要な技術を習得しようとしている。
技能	2. 身体表現、音楽表現、の表現活動に関する技術を習得できる。	身体・音楽表現活動に関する技術を十分に習得し、発展させることができる。	身体・音楽表現活動に関する技術を十分に習得している。	身体・音楽表現活動に関する技術を習得している。	身体・音楽表現活動に関する技術を習得しようと努力している。	身体・音楽表現活動に関する技術を習得しようとしている。
技能	3. 表現活動に係る教材等の活用及び作成することができる。具体的展開のための技術を習得できる。	子どもの姿や、保育現場での取り組みを想定することができ、表現活動に係る教材等の活用及び作成を十分にすることができ、具体的展開のための技術を十分に習得している。	表現活動に係る教材等の活用及び作成を十分にすることができ、具体的展開のための技術を十分に習得している。	表現活動に係る教材等の活用及び作成を十分にすることができ、具体的展開のための技術を習得している。	表現活動に係る教材等の活用及び作成をしようと努力している。	表現活動に係る教材等の活用及び作成を十分にすることができ、具体的展開のための技術を習得しようとしている。
態度	1. 授業の積極的な態度や意欲を、発表への取り組みなどを評価する。	自己課題を明確にし、授業内容が定着するように取り組むことができる。積極的に発表やグループ活動を行い、課題に十分取り組むことができる。	授業内容が定着するように取り組むことができる。積極的に発表やグループ活動を行い、課題に十分取り組むことができる。	授業内容が定着するように取り組むことができる。発表やグループ活動を行い、課題に取り組むことができる。	授業内容が定着するよう努力している。発表やグループ活動に消極的である。	課題の未提出がある。発表やグループ活動へ参加していない。

科目名	教育実習研究 A 1クラス			授業番号	CP329A	サブタイトル	
教員	西條 佳子、岡崎 三鈴						
単位数	1単位	開講年次	3年	開講期	後期	授業形態	実習
必修・選択							必修・選択
選択							
授業概要	本科目では、教育実習（幼稚園実習）への自己課題を明確にし、教育実習の意義、実習計画と事前準備、心構え、指導案立案、実習日誌の書き方などを学び実習に備える。また、大学で学んだ様々な実践的知識及び技能を応用し、現場の実践と結びつけて考察し、実践へつなげる力を身に付ける。						
到達目標	下記の諸点を本科目の到達目標に設定する。なお本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた<知識・理解><思考・問題解決能力><技能>の修得に貢献する。 1. 幼稚園教育の実態の場に入ることによって、責任ある立場で子どもに接する者としての在り方を学ぶ。 2. 実習のために必要で有効な知識・技能を学び、それを生かして実習できるような準備をする。 3. 実習の学習課題を明確にする。 4. 実習の体験を踏まえて、将来への希望と今後の学習への意欲を高める。						
授業計画 備考							
回	概要					担当	
第1回	教育実習の計画と準備 ・事前説明（実習園オリエントেশ）について理解し、学生個人票（下書き）を作成する。・実習園への通勤方法の確認（学割の手続き）をする。						
第2回	実習日誌の書き方(1)、実習の目的と意義、目標、実習の心得 教育実習に参加し学ぶが抱く心構えと心構えについて理解する。実習園からの調査票を確認する。						
第3回	教育実習の実態、指導計画（案）の書き方(1) 幼稚園生活の流れと教師の役割、実習生の活動、指導計画（案）作成の手順と内容について確認する。 学生個人票（高書）を作成する。						
第4回	教材研究、指導計画（案）の書き方(2) 絵本を見る活動、自ら読んだ遊び、製作遊び、造形遊び、運動遊び、発園・帰園、弁当（給食）等、部分実習（部分指導）の指導案の立て方について確認し、指導案を作成する。						
第5回	教育実習の進め方、実習の自己課題作成 観察・参加・部分・全日実習についての詳細を理解する。実習へ向けての自己課題を明確にする。						
第6回	実習日誌の書き方(2) 実習の自己課題を実習日誌に記入する。 教育実習計画、実習園の概要、園庭・園舎を平面図を記入する。						
第7回	附属園見学前説明、実習に係る提出書類 見学記録の書き方、監約書清書、提出書類（休園届、遅刻・早退・欠勤届等）、実習における異常気象時の対応、お礼状の書き方を確認する。						
第8回	特別支援教育 特別な配慮を必要とする幼児「気になる子ども」への指導について理解する。						
第9回	幼稚園における教師の役割（援助と環境構成） 現場における保育の実態を見学し、こも園での子どもたちの様子や保育教師の生活の一端を知り、教職についての意義を知る。						
第10回	幼稚園の役割（学級経営・園生健全発育） 保育の場における保育教師と幼児のかかわり方及び1日の生活の流れを中心に見学し、幼児教育の目的や総合的な指導について学ぶとともに、具体的な保育教師の指導を観察し、幼児教育の特徴を探る。 実習日誌の見学記録を記入する。						
第11回	教育実習の振り返り(1)、お礼状の作成 振り返りのワークシートに取り組み、自己評価を行い、改善の手掛かりをつかむ。 実習中のエピソードや学んだこと、感動したことを整理する。						
第12回	教育実習の振り返り(2)、お礼状の作成 実習終了後、10日以内を目安に実習園へお礼の手紙を書く。						
第13回	教育実習のまとめ(1) 各自が体験した実習内容をもちにグループワーク討議に取り組み、分かりやすく説明する力、他者の体験を聞き取る力や共感する力を身に付けるとともに、様々な園の実態を知り、実習の学びを深める。						
第14回	教育実習のまとめ(2) 教育実習について振り返り、学んだことをグループごとにまとめ、発表準備を行う。						
第15回	教育実習のまとめ(3) 3～5歳クラスの遊びの特徴と教師の役割 教育実習について振り返り、学んだことをグループごとにまとめて報告会で発表する。						
授業計画 備考2							

評価の方法		種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢/態度			30	授業で説明する実習の目的、意義について説明できる。また、実習に向けて健康管理と心構えをする。
レポート			70	事前及び事前指導時における実習生の学習の内容や程度に関する下記の諸点について評価する。 ・実習前に事前学習する授業内容について事前学習ページに記載する。 ・幼児の具体的な姿をイメージしながら部分指導の指導案を作成する。 ・附属園を訪ねて実態の保育場面を観察・記録し、整理することで、理論で理解したことを確認する。 ・実習後には自己課題についてレポートを作成するとともに担当年齢の特徴や遊びの内容についてまとめる。 ・実習における幼児の姿や活動、環境構成、教師の援助の事例について分析・考察し、グループ討議を行い、その結果についてまとめ報告会で発表する。 課題やレポートについてはコメントを記入して返却する。また、課題提出後の授業で全体的な傾向についてコメントをする。
小テスト				
定期試験				
その他				

評価の方法：自由記載	
受講の心得	日常生活の中で「人を育てる」職業に就くことを意識し、人間として必要な態度・習慣（挨拶・着衣の状況、食生活、生活リズム等）を考えて生活する。また、人間として生まれながらに持つ「五感」を働かせ、生活の中で様々な事柄を感じて過ごし、幼稚園教諭としての感覚を研ぎ澄ますよう努力する。
授業外学習	1. 授業で事前学習する内容（実習の目的、意義、実習の内容）について事前学習ページに記載する。 2. 実習に必要な教材準備を行う。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
必修 幼稚園教育実習	監修・著：森本真紀子、編著：小野順子	ふくろう出版	978-4-861-86-880-1	本体値：2,100円+税
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
必修 幼稚園教育実習	監修・著 森本真紀子	ふくろう出版	978-4-86186-880-1	
参考書：自由記載	『幼稚園教育要領解説』文部科学省 プレーベル館			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. 実習の目的、意義について理解している。	実習の目的、意義について、正確に理解し、述べることができる。	実習の目的、意義について、正確ではないがほぼ理解し述べるができる。	実習の目的、意義について、概ね述べるができる。	実習の目的、意義について、正確に述べるができないが、自分の言葉で表現できる。	実習の目的、意義について、まったく表現することができない。
知識・理解	2. 事前学習ページをまとめることができる。	事前学習ページをしっかりとまとめることができる。	事前学習ページをまとめることができる。	事前学習ページを概ねまとめることができる。	事前学習ページを十分にまとめることができる。	事前学習ページをまったくまとめることができない。
知識・理解	3. 実習日誌の書き方を理解している。	実習日誌の書き方を大変よく理解できている。	実習日誌の書き方を理解できている。	実習日誌の書き方を概ね理解できている。	実習日誌の書き方を十分に理解できていない。	実習日誌の書き方をまったく理解できていない。
思考・問題解決能力	1. 実習に向けて自己課題を明確にできている。	実習に向けて自己課題をきわめて明確にした上で適切に記述できる。	実習に向けて自己課題を明確にした上で記述できる。	実習に向けて自己課題を概ね明確にした上で記述できている。	実習に向けて自己課題を十分に明確にできていない上に、十分に記述できていない。	実習に向けて自己課題をまったく明確にできていない。
思考・問題解決能力	2. 自己課題の達成度についてまとめることができる。	自己課題の達成度について大変よくまとめることができる。	自己課題の達成度についてまとめることができる。	自己課題の達成度について概ねまとめることができる。	自己課題の達成度について十分にまとめることができていない。	自己課題の達成度についてまったくまとめることができていない。
思考・問題解決能力	3. 担当年齢児の特徴や生活と遊びの内容について考えることができる。	担当年齢児の特徴や生活と遊びの内容について多角的に考察をしている。	担当年齢児の特徴や生活と遊びの内容について考察している。	担当年齢児の特徴や生活と遊びの内容について概ね考えている。	担当年齢児の特徴や生活と遊びの内容について十分に考えられていない。	担当年齢児の特徴や生活と遊びの内容についてまったく考えていない。
技能	1. 指導計画を作成できる。	指導計画を正確に作成できる。	指導計画を作成できる。	指導計画を概ね作成できる。	指導計画を十分に作成できない。	指導計画をまったく作成できない。
技能	2. 学んだ知識を現場で実践できるよう準備ができている。	学修した知識を現場で実践できるようしっかりと準備ができている。	学修した知識を現場で実践できるよう準備ができている。	学修した知識を現場で実践できるよう概ね準備ができている。	学修した知識を現場で実践できるよう十分に準備ができていない。	学修した知識を現場で実践できるようまったく準備ができていない。
技能	3. 学んだ技術を現場で実践できるよう準備ができている。	学修した技術を現場で実践できるようしっかりと準備ができている。	学修した技術を現場で実践できるよう準備ができている。	学修した技術を現場で実践できるよう概ね準備ができている。	学修した技術を現場で実践できるよう十分に準備ができていない。	学修した技術を現場で実践できるようまったく準備ができていない。
態度	1. 授業に意欲的に参加できる。	質問など積極的に問い、疑問を解決し、授業内容を理解した上で、適切に課題を提出している。	授業に前向きに臨む姿勢が見受けられ、授業内容を理解した上で、課題を提出している。	授業に出席し、授業内容を理解した上で課題を提出している。	授業に出席し、課題を提出しているが、理解が十分ではない。	授業に出席しているが、課題の提出をしていない。

科目名	教育実習研究A 2クラス			授業番号	CP329B	サブタイトル	
教員	西條 佳子、岡崎 三鈴						
単位数	1単位	開講年次	3年	開講期	後期	授業形態	実習
必修・選択	必修			選択			
授業概要	本科目では、教育実習（幼稚園実習）への自己課題を明確にし、教育実習の意義、実習計画と事前準備、心構え、指導案立案、実習日誌の書き方などを学び実習に備える。また、大学で学んだ様々な実践的知識及び技能を応用し、現場の実践と結びつけて考察し、実践へつなげる力を身に付ける。						
到達目標	下記の諸点を本科目の到達目標に設定する。なお本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた<知識・理解><思考・問題解決能力><技能>の修得に貢献する。 1. 幼稚園教育の実態の場に入ることによって、責任ある立場で子どもに接する者としての在り方を学ぶ。 2. 実習のために必要で有効な知識・技能を学び、それを生かして実習できるよう準備する。 3. 実習の学習課題を明確にする。 4. 実習の体験を踏まえて、将来への希望と今後の学習への意欲を高める。						
授業計画 備考							
回	概要					担当	
第1回	教育実習の計画と準備 ・事前説明（実習園オリエンテーション）について理解し、学生個人票（下書き）を作成する。・実習園への通勤方法の確認（学割の手続き）をする。						
第2回	実習日誌の書き方(1)、実習の目的と意義、目標、実習の心得 教育実習に参加し学ぶが抱えている態度と心構えについて理解する。実習園からの調査票を確認する。						
第3回	教育実習の実態、指導計画（案）の書き方(1) 幼稚園生活の流れと教師の役割、実習生の活動、指導計画（案）作成の手順と内容について確認する。 学生個人票（高書）を作成する。						
第4回	教材研究、指導計画（案）の書き方(2) 絵本を見る活動、自ら読んだ遊び、製作遊び、造形遊び、運動遊び、発園・帰園、弁当（給食）等、部分実習（部分指導）の指導案の立て方について確認し、指導案を作成する。						
第5回	教育実習の進め方、実習の自己課題作成 観察・参加・部分・全日実習についての詳細を理解する。実習へ向けての自己課題を明確にする。						
第6回	実習日誌の書き方(2) 実習の自己課題を実習日誌に記入する。 教育実習計画、実習園の概要、園庭・園舎を平面図を記入する。						
第7回	附属園見学前説明、実習に係る提出書類 見学記録の書き方、監約書清書、提出書類（休園届、遅刻・早退・欠勤届等）、実習における異常気象時の対応、お礼状の書き方を確認する。						
第8回	特別支援教育 特別な配慮を必要とする幼児「気になる子ども」への指導について理解する。						
第9回	幼稚園における教師の役割（援助と環境構成） 現場における保育の実態を見学し、こも園での子どもたちの様子や保育教師の生活の一端を知り、教職についての意義を知る。						
第10回	幼稚園の役割（学級経営・園生健全発育） 保育の場における保育教諭と幼児のかかわり方及び1日の生活の流れを中心に見学し、幼児教育の目的や総合的な指導について学ぶとともに、具体的な保育教諭の指導を観察し、幼児教育の特徴を探る。 実習日誌の見学記録を記入する。						
第11回	教育実習の振り返り(1)、お礼状の作成 振り返りのワークシートに取り組み、自己評価を行い、改善の手掛かりをつかむ。 実習中のエピソードや学んだこと、感動したことを整理する。						
第12回	教育実習の振り返り(2)、お礼状の作成 実習終了後、10日以内を目安に実習園へお礼の手紙を書く。						
第13回	教育実習のまとめ(1) 各自が体験した実習内容をともにグループワーク討議に取り組み、分かりやすく説明する力、他者の体験を聞き取る力や共感する力を身に付けるとともに、様々な園の実態を知り、実習の学びを深める。						
第14回	教育実習のまとめ(2) 教育実習について振り返り、学んだことをグループごとにまとめ、発表準備を行う。						
第15回	教育実習のまとめ(3) 3～5歳クラスの遊びの特徴と教師の役割 教育実習について振り返り、学んだことをグループごとにまとめて報告会で発表する。						
授業計画 備考2							
評価の方法							
	種別	割合	評価基準・その他備考				
授業への取り組みの姿勢/態度		30	授業で説明する実習の目的、意義について説明できる。また、実習に向けて健康管理と心構えをする。				
レポート		70	事前及び事前指導時における実習生の学習の内容や程度に関する下記の諸点について評価する。 ・実習前に事前学習する授業内容について事前学習ページに記載する。 ・幼児の具体的な姿をイメージしながら部分指導の指導案を作成する。 ・附属園を訪ねて実態の保育場面を観察・記録し、整理することで、理論で理解したことを確認する。 ・実習後には自己課題についてレポートを作成するとともに担当年齢の特徴や遊びの内容についてまとめる。 ・実習における幼児の姿や活動、環境構成、教師の援助の事例について分析・考察し、グループ討議を行い、その結果についてまとめ報告会で発表する。 課題やレポートについてはコメントを記入して返却する。また、課題提出後の授業で全体的な傾向についてコメントをする。				
小テスト							
定期試験							
その他							

評価の方法：自由記載	
受講の心得	日常生活の中で「人を育てる」職業に就くことを意識し、人間として必要な態度・習慣（挨拶・着衣の状況、食生活、生活リズム等）を考えて生活する。また、人間として生まれながらに持つ「五感」を働かせ、生活の中で様々な事柄を感じて過ごし、幼稚園教諭としての感覚を研ぎ澄ますよう努力する。
授業外学習	1. 授業で事前学習する内容（実習の目的、意義、実習の内容）について事前学習ページに記載する。 2. 実習に必要な教材準備を行う。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
必修 幼稚園教育実習	監修・著：森本真紀子、編著：小野順子	ふくろう出版	978-4-861-86-880-1	本体値：2,100円+税
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
必修 幼稚園教育実習	監修・著 森本真紀子	ふくろう出版	978-4-86186-880-1	
参考書：自由記載	『幼稚園教育要領解説』文部科学省 プレーベル館			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. 実習の目的、意義について理解している。	実習の目的、意義について、正確に理解し、述べることができる。	実習の目的、意義について、正確ではないがほぼ理解し述べるができる。	実習の目的、意義について、概ね述べるができる。	実習の目的、意義について、正確に述べるができないが、自分の言葉で表現できる。	実習の目的、意義について、まったく表現することができない。
知識・理解	2. 事前学習ページをまとめることができる。	事前学習ページをしっかりとまとめることができる。	事前学習ページをまとめることができる。	事前学習ページを概ねまとめることができる。	事前学習ページを十分にまとめることができる。	事前学習ページをまったくまとめることができない。
知識・理解	3. 実習日誌の書き方を理解している。	実習日誌の書き方を大変よく理解できている。	実習日誌の書き方を理解できている。	実習日誌の書き方を概ね理解できている。	実習日誌の書き方を十分に理解できていない。	実習日誌の書き方をまったく理解できていない。
思考・問題解決能力	1. 実習に向けて自己課題を明確にできている。	実習に向けて自己課題をきわめて明確にした上で適切に記述できる。	実習に向けて自己課題を明確にした上で記述できる。	実習に向けて自己課題を概ね明確にした上で記述できている。	実習に向けて自己課題を十分に明確にできていない上に、十分に記述できていない。	実習に向けて自己課題をまったく明確にできていない。
思考・問題解決能力	2. 自己課題の達成度についてまとめることができる。	自己課題の達成度について大変よくまとめることができる。	自己課題の達成度についてまとめることができる。	自己課題の達成度について概ねまとめることができる。	自己課題の達成度について十分にまとめることができていない。	自己課題の達成度についてまったくまとめることができていない。
思考・問題解決能力	3. 担当年齢児の特徴や生活と遊びの内容について考えることができる。	担当年齢児の特徴や生活と遊びの内容について多角的に考察をしている。	担当年齢児の特徴や生活と遊びの内容について考察している。	担当年齢児の特徴や生活と遊びの内容について概ね考えている。	担当年齢児の特徴や生活と遊びの内容について十分に考えられていない。	担当年齢児の特徴や生活と遊びの内容についてまったく考えていない。
技能	1. 指導計画を作成できる。	指導計画を正確に作成できる。	指導計画を作成できる。	指導計画を概ね作成できる。	指導計画を十分に作成できない。	指導計画をまったく作成できない。
技能	2. 学んだ知識を現場で実践できるよう準備ができている。	学修した知識を現場で実践できるようしっかりと準備ができている。	学修した知識を現場で実践できるよう準備ができている。	学修した知識を現場で実践できるよう概ね準備ができている。	学修した知識を現場で実践できるよう十分に準備ができていない。	学修した知識を現場で実践できるようまったく準備ができていない。
技能	3. 学んだ技術を現場で実践できるよう準備ができている。	学修した技術を現場で実践できるようしっかりと準備ができている。	学修した技術を現場で実践できるよう準備ができている。	学修した技術を現場で実践できるよう概ね準備ができている。	学修した技術を現場で実践できるよう十分に準備ができていない。	学修した技術を現場で実践できるようまったく準備ができていない。
態度	1. 授業に意欲的に参加できる。	質問など積極的に問い、疑問を解決し、授業内容を理解した上で、適切に課題を提出している。	授業に前向きに臨む姿勢が見受けられ、授業内容を理解した上で、課題を提出している。	授業に出席し、授業内容を理解した上で課題を提出している。	授業に出席し、課題を提出しているが、理解が十分ではない。	授業に出席しているが、課題の提出をしていない。

科目名	教育実習研究B			授業番号	CP331	サブタイトル	
教員	森寺 勝之、山田 恵子、満田 知次、太田 恵孝						
単位数	1単位	開講年次	3年	開講期	後期	授業形態	実習
							必修・選択
選択							
授業概要	小学校教育実習における中心的な内容である授業の「設計-実施-評価」のサイクルの中で、授業設計にかかわる学習指導案を作成できるようにすることを目標とする。そのための基礎的・基本的事項として、教育実習の意義と目的、計画と準備、心構え、実習記録簿の作成の仕方についての理解を図る。また、教材研究や児童理解に基づいた種々な学習指導案の立案を繰り返すとともに、立案した学習指導案を基に模擬授業を実施する。						
到達目標	学習指導案や板書計画等を作成し、模擬授業を適切に行うことができる。なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉の修得に貢献する。						
授業計画 備考							
回	概要					担当	
第1回	教育実習の意義と目的 制度的側面					森寺	
第2回	「教師の資質」とは何か					森寺	
第3回	「教職専門性」の基礎とは何か					森寺	
第4回	学習指導案の作成と授業展開の技術I					太田、森寺	
第5回	学習指導案の作成と授業展開の技術II					太田、森寺	
第6回	学習指導案の作成と授業展開の技術III					太田	
第7回	「教職専門性」の総合的な向上I					森寺	
第8回	「教職専門性」の総合的な向上II					森寺	
第9回	「教職専門性」の総合的な向上III					森寺	
第10回	学校現場における喫緊の課題					森寺	
第11回	学校と子どもたちの実態と実習の課題					太田	
第12回	教育実習に向けての抱負・決意					太田	
第13回	実習後の成果と課題（ふりかえり） 実習後の礼状の書き方					満田	
第14回	小学校教育実習発表会の準備					満田	
第15回	小学校教育実習発表会					満田、森寺	
授業計画 備考2							
評価の方法							
	種別	割合	評価基準・その他備考				
	授業への取り組みの姿勢/態度	30	意欲的な態度・模擬授業の準備・実習の準備の状況によって評価する。				
	レポート	40	教材研究、学習指導案づくりの記載内容・到達度、模擬授業等によって評価する。				
	その他	30	教育実習日誌への記入・整理等によって評価する。				

評価の方法：自由記載	
受講の心得	小学校教師を志望する強い気持ちで授業に参加すること
授業外学習	1 予習として、授業で配付される資料を読み、疑問点を明らかにする。 2 復習として、授業で提示された課題のレポートを書く。 3 発展学習として、授業で紹介された参考文献や資料等を読む。 以上の内容を、適当に4時間以上学習すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載

小学校教育実習日誌

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載

その他	4月当初から実習前までの期間に、補講を行う。一人一人が力を付けて自信をもって実習に臨めるようにする。
-----	--

備考

R4.1改訂

注意事項

--

担当教員の実務経験の有無

有

担当教員の職務経験

小学校、中学校(数学)、高等学校(数学)教員、教頭、校長、岡山県教育委員会事務局専門的教育職員(森寺勝之)

担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無

無

担当教員以外で指導に関わる実務経験者

--

実務経験をいかした教育内容

学校、教育委員会事務局等での経験を生かして、教育現場の実際を反映させた実践的な教育を行う。

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. 小学校教育実習の事前指導として、小学校教員の基本的な職務内容や児童との関わり等について基本的なことを理解する。	小学校教育実習の事前指導として、小学校教員の基本的な職務内容や児童との関わり等について十分に理解している。	小学校教育実習の事前指導として、小学校教員の基本的な職務内容や児童との関わり等について概ね理解している。	小学校教育実習の事前指導として、小学校教員の基本的な職務内容や児童との関わり等について最低限理解している。	小学校教育実習の事前指導として、小学校教員の基本的な職務内容や児童との関わり等についてやや理解が不十分。	小学校教育実習の事前指導として、小学校教員の基本的な職務内容や児童との関わり等について全く理解していない。
技能	1. 学習指導案や板書計画等を作成し、模擬授業を適切に行うことができる	学習指導案や板書計画等を作成し、模擬授業を適切に行うことが大変良くてできる。	学習指導案や板書計画等を作成し、模擬授業を適切に行うことができる。	学習指導案や板書計画等を作成し、模擬授業を適切に行うことが普通に行うことができる。	学習指導案や板書計画等を作成し、模擬授業を適切に行うことがあまりできない。	学習指導案や板書計画等を作成し、模擬授業を適切に行うことが全くできない。

2024年度授業概要(シラバス)

科目名	保育・教職実践演習(幼・小)			授業番号	CP428	サブタイトル	(幼・小)		
教員	西條 佳子・岸 誠一・満田 知茂・伊藤 智里・太田 憲孝・森寺 勝之・岡崎 三鈴・土師 暢子								
単位数	2単位	開講年次	4年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	4年間における個々の科目の履修ならに各種の実習において修得した専門的な知識・技能を基礎として、教員としての使命感や責任感、教育的愛情等を持って、教育活動の具体的場面で生きて働く知への総合・統合を図る。この過程でのグループ討議の中での対人的なコミュニケーション能力の向上と同僚性の涵養を図っていき、また、履修カルテを参照し、個別に補充指導を行う。								
到達目標	保育士、幼稚園教諭、小学校教諭のいずれにも共通して、 (1)子どもを理解する力、(2)保育(授業)をデザインする力、(3)保育(授業)を実践する力、(4)保育(授業)を省察する力の4点を身につけることができる。								
授業計画 備考									
回	概要						担当		
第1回	オリエンテーション:「教職実践演習」の目的と授業内容。 「保育者・教師への歩みと足跡」各自、保育者・教師を目指してきた思いや、履修カルテをもとにこれまでの学校生活の振り返りをワークシートにまとめる。						西條		
第2回	グループワーク:「保育者・教師への歩みと足跡」について、合同グループで発表し、話し合い、自分自身の思いや覚悟を確かめる。						太田・満田・土師		
第3回	グループワーク:「子どもの理解の方法と実際」保育者として、教師として、子どもを理解することについて改めて考え、保育の事例、幼稚園の事例、小学校での事例について、合同グループで話し合い、自分自身の対応について考える。						太田・満田・土師		
第4回	グループワーク:「問題行動の理解と対応」子どもの問題行動に関して、保育の事例、幼稚園の事例、小学校での事例について、合同グループで話し合い、自分自身の対応について考える。						太田・満田・土師		
第5回	ロールプレイング:「保護者対応」保護者から苦情電話がかかってきたとの想定で、それぞれの立場でロールプレイングを行い、保護者の思いを共感的に受け止め、問題を整理し、誠実な態度で対応することについて考える。						太田・満田・土師		
第6回	模擬保育・模擬授業(1) これまでの学修で身に付いているはずの「保育者・教師としての力」を確認するために、模擬保育・模擬授業を行い、保育実践・教育実践を通して学び合う。						森寺・岡崎・伊藤		
第7回	模擬保育・模擬授業(2) これまでの学修で身に付いているはずの「保育者・教師としての力」を確認するために、模擬保育・模擬授業を行い、保育実践・教育実践を通して学び合う。						森寺・岡崎・伊藤		
第8回	模擬保育・模擬授業(3) これまでの学修で身に付いているはずの「保育者・教師としての力」を確認するために、模擬保育・模擬授業を行い、保育実践・教育実践を通して学び合う。						森寺・岡崎・伊藤		
第9回	グループワーク:「幼児期の接続」幼児期の相違点、幼児期の接続の在り方、課題、接続期のカリキュラム、接続期の実践の工夫などについて、合同グループで話し合い、保育者・教師として必要な支援について考える。						岡崎・満田・伊藤		
第10回	グループワーク:喫緊の課題(1) 保育・教育の現代的課題を見出し、調べ、報告し、討論する						森寺・西條・土師		
第11回	グループワーク:喫緊の課題(2) 保育・教育の現代的課題を見出し、調べ、報告し、討論する						森寺・西條・土師		
第12回	グループワーク:喫緊の課題(3) 保育・教育の現代的課題を見出し、調べ、報告し、討論する。						森寺・西條・土師		
第13回	「これからの情報教育～保育士・幼稚園教諭・小学校教諭に向けて」 情報教育、ICT教育・プログラミング教育について、今後、保育士、幼稚園教諭、小学校教諭が主体となって取り組んでいかなければならない事項について考える。						岸		
第14回	ロールプレイング:「初めて子どもに出会う日」 初めて子どもたちに出会う日という想定で、子どもと保護者を前に、それぞれの立場でロールプレイングを行い、学級の担当者また、学級担任としての思いをどのように伝えるかについて考え、気持ちを新たにす。						岡崎・満田・伊藤		
第15回	「私のめざす保育者・教師像と今の自分、これからの自分」 私のめざす保育者・教師像について、教員の講話を聴講し、最終レポートに向けて、自分の夢や決意を図める。						子ども園園長(西條)・森寺		
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢/態度	30	免許取得者としての意識をもった意欲的な受講態度であるか否かを評価する。						
	レポート	30	毎回の授業内容レポートの適切な把握状況について、コメントして返却する。						
	小テスト								
	定期試験								
	その他	40	模擬保育・模擬授業等の実践力の達成状況を評価する。						

評価の方法：自由記載	グループ討論、実技指導、補充指導などの結果を踏まえ、教員及び保育者として最小限必要な資質能力が身に付いていることを確認し、単位認定を行う。
受講の心得	全講義への出席を基本とする。やむを得ず欠席の場合は、その状況・内容を必ず連絡すること。四月から社会人として勤務することを念頭に、向上心を持って授業に臨むこと。
授業外学習	1 予習として、事前に配布された資料を読み、自分の考えを書きまとめておく。 2 復習として、授業内容を通して学んだことを振り返って書きまとめ、提出する。 3 発展学習として、授業に関連した参考資料や書籍を読み、記録に残す。 以上の内容を、週当たり4時間以上学習すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト：自由記載	随時、必要な資料を配付する。			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	公立小学校長(8年)、公立幼稚園長(3年※小学校長と兼務)、公立小学校教諭(13年)、岡山県生涯学習センター(3年)、岡山県情報教育センター(6年)での実務経験を有する。(岸誠一) 教員16年・岡山県教育委員会専門的教職員16年・校長7年(森寺勝之) 小中学校教員31年・岐阜県教育委員会文部教務5年(太田泰幸)			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	公立小学校長(8年)、公立幼稚園長(3年)、小学校教諭(13年)、生涯学習センター(3年)、県情報教育センター(6年)等での経験を生かして、教育現場の実際を反映させた実践的な教育を行う。(岸誠一) 教育委員会や学校現場での体験を通して得た実践的な知見を学生に伝えることで、実感を伴った理解を促し、学習意欲、生徒指導力などの実践的指導力の向上に努める。(森寺勝之)			

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点(到達目標に基づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 子どもについて理解している。	保育者・教師に必要な子どもに関する基礎的な知識について、正確に理解し説明できる。	保育者・教師に必要な子どもに関する基礎的な知識について、正確ではないがほぼ理解し説明できる。	保育者・教師に必要な子どもに関する基礎的な知識について、大体述べることができる。	保育者・教師に必要な子どもに関する基礎的な知識について、正確に説明できないが、自分の言葉では表現できる。	保育者・教師に必要な子どもに関する基礎的な知識について、まったく表現することができない。
知識・理解	2. 保育・授業を想定した保育・教育内容に関する基礎的な知識を習得している。	保育・授業を想定した保育・教育内容に関する基礎的な知識について、正確に理解し説明できる。	保育・授業を想定した保育・教育内容に関する基礎的な知識について、正確ではないがほぼ理解し説明できる。	保育者・教師に必要な子どもに関する基礎的な知識について、大体述べることができる。	保育者・教師に必要な子どもに関する基礎的な知識について、正確に説明できないが、自分の言葉では表現できる。	保育者・教師に必要な子どもに関する基礎的な知識について、まったく表現することができない。
知識・理解	3. 教職に求められる教養を身に付けている。	教職の意義、教育の理念・教育史・思想の理解、学校教育の社会的・制度的・経営的理解に必要な基礎理論について、正確に理解し、説明できる。	教職の意義、教育の理念・教育史・思想の理解、学校教育の社会的・制度的・経営的理解に必要な基礎理論について、ほぼ理解し、説明できる。	教職の意義、教育の理念・教育史・思想の理解、学校教育の社会的・制度的・経営的理解に必要な基礎理論について、大体述べることができる。	教職の意義、教育の理念・教育史・思想の理解、学校教育の社会的・制度的・経営的理解に必要な基礎理論について、正確に説明できないが、自分の言葉では表現できる。	教職の意義、教育の理念・教育史・思想の理解、学校教育の社会的・制度的・経営的理解に必要な基礎理論について、まったく表現することができない。
思考・問題解決能力	1. これまでの学習(履修カルテ)を振り返り、各自の課題を明確にし、その解決策について考えることができる。	自分の到達点と課題を的確に自覚し、課題を克服するための自己研鑽に努めている。	自分の到達点と課題を的確に自覚し、課題を克服するための努力をしている。	自分の到達点と課題を自覚し、課題を克服するための努力を始めている。	自分の到達点と課題を自覚している。	履修カルテに記入している。
思考・問題解決能力	2. 保育・授業のデザイン・実施・省察の実践的な問題解決過程において探究を進めていくことができる。	自己の課題を的確に認識し、その解決に向けて、学びつづける姿勢を持ち、自己研鑽に努めている。自分の資質・能力を活かすような、優れた創造力を発揮している。	自己の課題を認識し、その解決に向けて、努力をしている。	自己の課題を認識し、その解決に向けて、努力を始めている。	自己の課題は認識できている。	自己の課題を十分に認識できていない。
思考・問題解決能力	3. 保育・教育時事問題についてに関心を持ち、意見を持つことができる。	保育・学校教育に関する新たな課題について関心を持ち、正確に理解し意見を持ち、それを説明できる。	保育・学校教育に関する新たな課題について関心を持ち、正確ではないがほぼ理解し意見を持ち、それを説明できる。	保育・学校教育に関する新たな課題について関心を持ち、自分の意見を持ち、大体述べることができる。	保育・学校教育に関する新たな課題について関心を持ち、正確に説明できないが、自分なりに意見を持つことができる。	保育・学校教育に関する新たな課題について関心を持ち、意見を持つことができない。
技能	1. 保育・授業の実践的・実務的な技能を身に付けている。	子どもの特徴を把握し、それに対応できる様々な指導上の工夫を行って、すべての子どもに効果的な学びを促すような魅力的な保育・授業を実践することができる。	子どもの特徴を把握し、それに対応できる様々な指導法を用いて、多くの子どもが学べるような保育・授業を実践することができる。	基本的な指導技術を使って、筋の通った1時間の保育・授業を実践することができる。	様々な人に対して、自分の思いや意見を、わかりやすく伝えることができる。	身近な人に対して、自分の思いや意見を伝えることができる。
技能	2. 保育者・教師に必要な不可欠な子ども、同僚教師などとの適切なコミュニケーション能力、つまり人間関係構築力が身に付いている。	自分の好き嫌いや得手不得手などの性格等をよく自覚し、客観的、計画的、かつ積極的にコミュニケーション能力を発揮し、人と関わることができる。	自分の好き嫌いや得手不得手などの性格等をよく自覚し、客観的、計画的、かつ積極的にコミュニケーション能力を発揮し、人と関わる努力をしている。	自分の好き嫌いや得手不得手などの性格等をよく自覚し、客観的、計画的、かつ積極的にコミュニケーション能力を発揮し、人と関わる努力を始めている。	自分の好き嫌いや得手不得手などの性格等をよく自覚している。	自分の好き嫌いや得手不得手などの性格等を分析しようとしている。
態度	1. 授業に意欲的に参加できる。	質問など積極的にを行い、疑問を解決し、授業内容を理解した上で、適切なコメントシートを提出している。	授業に前向きに臨む姿勢が見受けられ、授業内容を理解した上で、コメントシートを提出している。	授業に出席し、授業内容を理解した上でコメントシートを提出している。	授業に出席し、コメントシートを提出しているが、理解が十分ではない。	授業に出席しているが、コメントシートの提出をしていない。

科目名	教育実習 A	授業番号	CP430	サブタイトル	
教員	西條 佳子、岡崎 三鈴				
単位数	4単位	開講年次	3年	開講期	後期
				授業形態	実習
					必修・選択
選択					
授業概要	幼稚園での幼児の主体的な活動を基本とし、幼児がよりよい方向へ向かい発達していくことを援助する実習を体験し、幼児と心と心を合わせ、幼児の興味・関心・要求などを汲み取りながら「援助」の意味を体験・体験を通して学び、「自らの意志で学ぶこと」の重要性に気づく力を身に付ける。また、観察実習・参加実習・部分実習・責任実習で幼児の観察記録と指導案を詳細に記述することができ、実践における教師の役割と環境構成の重要性に気づける感性を養う。				
到達目標	下記の諸点を本科目の到達目標に設定する。本科目はデプロマ・ポリシーの<技能><態度>の修得に貢献する。 1. 幼稚園教育の実態の場を体験し、責任ある立場で子どもと共に生活する体験を得る。 2. これまで学んだ知識・技術を生かして実習することにより、今後の学習課題を明確にする。 3. 教員としての将来に希望をもち、その職務への自覚を深め、自己を陶冶する。				
授業計画 備考					
授業計画 自由記載	<p>第1週 観察実習</p> <p>(1) 実習園について理解する。 教育の基本方針、学級の人員構成・担当教諭の学級経営、環境（物的：敷地、建物の構造、配置及び施設設備・人的：職員構成、勤務形態等）を把握する。</p> <p>(2) 観察の仕方を学ぶ。</p> <p>第2～3週 参加実習</p> <p>(1) 幼児の発達の概要を知る。 (2) 幼稚園教育の一日の流れを把握する。 (3) 基本的な生活習慣の援助や遊びの指導について学び、担当教諭の補助をする。</p> <p>第3～4週 指導実習（部分実習・責任実習）</p> <p>(1) 3歳児から5歳児の各年齢の保育形態を理解する。 (2) 幼児の実態と指導計画に準じた環境の構成をする。 (3) 様々な環境にかかわって遊ぶ幼児の姿と教師の援助を予想して指導案を立てる。 (4) 指導上の技術を生活の指導・遊びの指導の両面から学ぶ。 (5) 指導の反省と評価の方法について学ぶ。 (6) 幼児の安全への配慮について理解する。（安全指導） (7) 保護者とのコミュニケーションの方法について学び、家庭・地域社会との連携について理解する。</p>				
授業計画 備考2					
評価の方法					
	種別	割合	評価基準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度	70	実習園からの評価（評価表の内容）を基準にする。4週間の教育実習における次の8項目の評価により成績をつける。意欲、責任感、研究的態度、協調性、指導計画、指導技術、事務処理、総合評価。		
	レポート	30	実習日誌の内容、指導案立案（指導案の作成・実施・評価）の資料を基に評価する。		
	小テスト				
	定期試験				
	その他				

評価の方法：自由記載	教育実習における実習園の評価表、実習日誌、指導案立案、指導実習の準備や成果などを総合的に判断し、実習園での評価点60点以上の者に単位を認定する。
受講の心得	現場での実践に積極的に臨み、自己課題-目標を達成できるよう取り組む。また、今後、社会人として役立つこととして、何を大切にすべきか、互いに協同し合うこととはどのようなことを学ぶ。
授業外学習	1. 幼児の活動と教師の配慮の関係性と実習生としての自分の活動を日誌に記入する。 2. その日の実習のねらいについて一日を振り返り、実習日誌に記入する。 3. 指導案等の実習指導計画を作成し、指導にあたっての教材研究をする。 以上の内容を、毎日2時間以上学習すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	『幼稚園教育要領解説』文部科学省 プレーベル館			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	有			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	幼稚園及び認定こども園等の実習指導者			
実務経験をいかした教育内容	学生が幼稚園教諭の職務を体験し必要な知識及び技能を習得できるように、実際の幼児との生活の中で指導を行う。			

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー-学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
技能	1. 指導計画を作成できる。	指導計画を大変よく作成できている。	指導計画を作成できている。	指導計画を概ね作成できている。	指導計画をほぼ作成できていない。	指導計画をまったく作成できていない。
技能	2. 指導技術を身につけている。	指導技術を大変よく身につけている。	指導技術を身につけている。	指導技術を概ね身につけている。	指導技術をほとんど身につけていない。	指導技術をまったく身につけていない。
技能	3. 事務処理ができる。	事務処理が大変よくできている。	事務処理ができている。	事務処理が概ねできている。	事務処理がほぼできていない。	事務処理がまったくできていない。
態度	1. 実習において意欲がみられる。	実習においてひととき意欲がみられる。	実習において意欲がみられる。	実習において概ね意欲がみられる。	実習において十分な意欲がみられない。	実習においてまったく意欲がみられない。

2024年度授業概要(シラバス)

科目名	教育実習 B	授業番号	CP432	サブタイトル	
教員	森寺 勝之、山田 恵子、満田 知次、太田 恵孝				
単位数	4単位	開講年次	3年	開講期	後期
				授業形態	実習
					必修・選択
					選択
授業概要	大学の授業で学んだ理論や身に付けた知識や技能を基にして、実践的指導力（学習指導力「生徒指導力」「マネジメント力」）を身に付ける。実際に児童の前で授業を展開し、実践を評価・分析することを通して、改善点を見付け、工夫・改善していく。つまりP D C Aサイクルを教育実習の中で繰り返しながら、小学校教師としての実践的指導力を総合的に高めていく。4週間の教育実習の中で、第1週には、観察実習、第2.3週には、授業実践実習、第4週には一日経営実習を行う。また、4週間を貫く教育実習課題を個々に設定し、課題意識を明確にして教育実習に取り組む。				
到達目標	<p>1 「学習指導力」として、学習指導書の作成や教材・教員の工夫の仕方、分かりやすい授業のために指導技術などを修得する。</p> <p>2 「生徒指導力」として、授業規律や生活規律の徹底を図るための指導方法、児童の人間関係づくりの構築方法を修得する。</p> <p>3 「マネジメント力」として、学級担任になったことを想定して、学級経営の計画を立て、学習活動の組織の仕方を取得する。</p> <p>なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学上士の内容のうち、＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞ ＜態度＞ の修得に貢献する。</p>				
授業計画 備考					
授業計画 自由記載	<p>第1週 観察実習 一部学級での授業観察を通して次のことを中心に観察する。 (1)指導案と実際の授業との対応。 (2)「教師-児童」の相互作用の実際。 (3)学級経営の具体的な取り組み。</p> <p>第2～3週 授業実践実習 授業の「設計-展開-評価-(改善)」を各教科等の授業実践を通して実習する。 <各段階で求められると想定する技術> 設計：指導案を書く技術 展開：児童に学習内容を理解させる技術 評価：授業を観察・記録する技術 ・第3週目に研究授業を実施する。</p> <p>第4週 一日経営実習 ・一日学級担任として、学級経営を中心に授業（2時間）を実施する。</p>				
授業計画 備考2					
評価の方法					
	種別	割合	評価基準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度				
	レポート				
	小テスト				
	定期試験				
	その他	100	教育実習校での評価（80%）、教育実習日誌（20%）		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	小学校教師を志望する強い気持ちで教育実習に参加すること
授業外学習	1 予習として、実習校で配付される資料を読み、疑問点を明らかにする。 2 授業を実施する際に、十分な教材研究を行い、指導計画を立てる。 3 授業後には、授業実践を振り返る。 以上の内容を、適当に1時間以上学習すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト：自由記載	小学校教育実習日誌			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	教員(教頭を含む)16年、校長7年、岡山県教育委員会専門的教育職員16年			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	有			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	山田恵子、満田知茂、太田恵孝			
実務経験をいかした教育内容	学校、教育委員会事務局等での経験を生かして、教育現場の実際を反映させた実践的な教育を行う。			

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー「学力」)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
思考・問題解決能力	1. より良い教育実習になるよう、教材研究や模擬授業等を通して検討し考え、相互評価ができる。	より良い教育実習になるよう、教材研究や模擬授業等を通して検討し考え、相互評価が十分にできる。	より良い教育実習になるよう、教材研究や模擬授業等を通して検討し考え、相互評価がおおむねできる。	より良い教育実習になるよう、教材研究や模擬授業等を通して検討し考え、相互評価が不十分である。	より良い教育実習になるよう、教材研究や模擬授業等を通して検討し考え、相互評価ができない。	より良い教育実習になるよう、教材研究や模擬授業等を通して検討し考え、相互評価できないようになる。
技能	1. 学習指導案や板書計画等を作成し、授業実践を適切に行うことができる。	学習指導案や板書計画等を作成し、授業実践を適切に行うことが大変良くなる。	学習指導案や板書計画等を作成し、授業実践を適切に行うことができる。	学習指導案や板書計画等を作成し、授業実践を適切に行うことが普通である。	学習指導案や板書計画等を作成し、授業実践を適切に行うことがあまりできない。	学習指導案や板書計画等を作成し、授業実践を適切に行うことが全くできない。
態度	1. 小学校教育実習において、小学校教員の基本的な職務等について実践しようとする態度が見られる。	小学校教育実習において、小学校教員の基本的な職務について十分に実践しようとする態度が見られる。	小学校教育実習において、小学校教員の基本的な職務について実践しようとする態度がおおむね見える。	小学校教育実習において、小学校教員の基本的な職務について実践しようとする態度が最低限。	小学校教育実習において、小学校教員の基本的な職務についてやや実践しようとする態度が不十分。	小学校教育実習において、小学校教員の基本的な職務について全く実践しようとする態度がない。

科目名	社会福祉		授業番号	CQ201	サブタイトル				
教員	中 典子								
単位数	2単位	開講年次	が1キヨラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	社会福祉の歴史をふまえながら、保育士資格に必要な社会福祉の制度・支援方法について学習する。								
到達目標	利用者主体の制度に改められていく社会福祉の動向を学び、利用者本位の支援とは何かについて理解を深める。 なお、本科目は、ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力のうち<知識・理解>、<思考・問題解決能力>の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
回	概要					担当			
第1回	社会福祉とは 人権尊重と社会正義を理解する。								
第2回	欧米における社会福祉のあゆみ イギリス、アメリカの社会福祉の変遷を理解する。								
第3回	日本における社会福祉のあゆみ 日本における社会福祉の変遷を理解する。								
第4回	社会福祉の法律 社会福祉法を理解する。								
第5回	社会福祉の行政 社会福祉で用いられる財源について理解する。								
第6回	社会福祉の実施体制 社会福祉の仕組みを理解する。								
第7回	社会福祉の担い手 社会福祉関連の専門職の職種を理解する。								
第8回	社会福祉における相談援助 対人援助において求められる姿勢を理解する。								
第9回	利用者の保護に関わる仕組み 利用者の人権を守るための取り組みを理解する。								
第10回	公的扶助 生活保護法を理解する。								
第11回	子ども家庭福祉 児童福祉法を理解する。								
第12回	母子父子寡婦福祉 母子及び父子並びに寡婦福祉法を理解する。								
第13回	高齢者福祉 介護保険法を理解する。								
第14回	障害者福祉 障害者総合支援法を理解する。								
第15回	社会福祉の課題 利用者本位の支援とは何かを理解する。								
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その態備考						
	授業への取り組みの姿勢/態度	10	意欲的な受講態度、予習・復習によって評価する。						
	ワーク	90	各回の主要なポイントの理解を評価する。 ワークで毎回の授業内容の復習ができていくこと。 ワークについては、授業終了後に学びの度合いを発表によって確認するとともに7回目と15回目に提出することを求め、コメントを記入して返却する。						

評価の方法：自由記載	
受講の心得	授業内容の理解を深めるため、授業開始前までにテキストの内容を読んでおくこと。
授業外学修	授業開始前までに、テキストの内容を読んでおくこと。(1時間) 授業後に示す課題を次の授業開始前までに仕上げしておくこと。(2時間) 授業で学んだ内容を振り返り、必要と考えることをノートにまとめておくこと。(1時間)

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
保育士・看護師・介護福祉士が学ぶ社会福祉	小宅理沙他	現代図書	978-4-434-26582-2	2,500+税
NIE社会福祉演習	松井圭三他	大学教育出版	978-4-86692-247-8	2,400+税

使用テキスト：自由記載

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載

必要に応じて紹介する。

その他

備考

注意事項

担当教員の業務経験の有無

無

担当教員の業務経験

担当教員以外で指導に関わる業務経験者の有無

無

担当教員以外で指導に関わる業務経験者

業務経験をいかした教育内容

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー-学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. 利用者主体の制度に改められていく社会福祉の動向を理解できる	利用者主体の制度に改められていく社会福祉の動向を理解できる	利用者主体の制度について理解できる	利用者主体の社会福祉の動向を理解できる	利用者主体の社会福祉の動向の理解が十分でない	利用者主体の社会福祉の動向が理解できていない
思考・問題解決能力	1. 利用者本位の支援とは何かについて考えることができる	利用者本位の支援のあり方について考えることができる	利用者本位の支援について理解することができる	利用者本位の支援について情報収集することができる	利用者本位の支援についての理解が十分でない	利用者本位の支援について考えることができていない

科目名	子ども家庭支援論			授業番号	CQ202	サブタイトル	
教員	中 典子						
単位数	2単位	開講年次	3年	開講期	前期	授業形態	講義
						必修・選択	選択
授業概要	事例を通して人間が生活するうえで直面する課題に焦点をあてて支援する方法を学び、保育現場における子ども家庭支援の意義を明らかにする。						
到達目標	子ども家庭支援の意義と目的を理解し、支援の方法と内容、専門職倫理について理解を深める。 なお、本科目はデプロイ・ポスターに掲げた学士上の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。						
授業計画 備考							
回	概要					担当	
第1回	子ども家庭支援の意義 子ども家庭支援に力を入れなければならない理由を理解する。						
第2回	子ども家庭支援の目的と機能 子ども家庭支援の目的と機能を学び、現代的課題を理解する。						
第3回	保育の専門性を生かした子ども家庭支援とその意義 保育者としての子ども・保護者への支援姿勢や技術を学び、子ども家庭支援の意義を理解する。						
第4回	保育者に求められる基本的態度 保育者と保護者が子どもの育ちを共有する意義と留意点を理解する。						
第5回	保護者とのコミュニケーションのとり方 保護者が子育てを自ら実践するための支援を理解する。						
第6回	保育者に求められる基本的態度 受容的関わり、自己決定の尊重、秘密保持について理解する。						
第7回	多様な家庭の状況に応じた支援 アセスメントの重要性について理解する。						
第8回	子育て家庭をとりまく社会資源 地域にある様々な社会資源の機能と運営について理解する。						
第9回	事例研究1 保育所等を利用する子どもの家庭への支援のあり方を理解する。						
第10回	事例研究2 地域の子育て家庭への支援のあり方を理解する。						
第11回	事例研究3 要保護児童及びその家庭に対する支援のあり方を理解する。						
第12回	事例研究4 低所得世帯の児童や家庭に対する支援のあり方を理解する。						
第13回	事例研究5 障がい、医療的ケア等の特別な配慮を要する児童や保護者に対する支援のあり方を理解する。						
第14回	事例研究6 アレルギー、外国籍等により、特別な配慮を要する児童や保護者に対する支援のあり方を理解する。						
第15回	事例研究7 いじめの現状と子どもや家庭に対する支援のあり方を理解する。						
授業計画 備考2							
評価の方法							
	種別	割合	評価基準・その他備考				
	授業への取り組みの姿勢/態度	10	意欲的な受講態度、発表への参加、予・復習の状況によって評価する。				
	ワーク	90	各回の主要なポイントの理解を評価する。 子ども家庭支援論ワークで毎回の授業内容の復習ができていくこと。 ワークについては、授業終了後に学びの度合いを発表によって確認するとともに7回目と15回目に提出することを求め、コメントを記入して返却する。				

評価の方法：自由記載	
受講の心得	授業内容の理解を深めるため、授業開始前までにワークの内容を読んでおくこと。
授業外学習	授業開始前までに、ワークブックの内容を読んでおくこと。(1時間) 授業後に示すワークブックの課題を次回の授業開始前までに仕上げしておくこと。(2時間) 授業で学んだ内容を振り返り、必要と考えることをノートにまとめておくこと。(1時間)

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
子ども保護者に寄り添う「子ども家庭支援論」	立花直樹・安田誠人監修	泉洋書房	978-4-7710-3604-8	2,000+税
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	必要に応じて紹介する。			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. 子ども家庭支援の意義と目的が理解できる	子ども家庭支援の意義と目的が理解できる	子ども家庭支援の目的が理解できる	子ども家庭支援の基礎が理解できる	子ども家庭支援の意義と目的の理解が十分でない	子ども家庭支援の意義と目的の理解ができない
思考・問題解決能力	1. 支援の方法と内容、専門職倫理について考えることができる	支援の方法と内容、専門職倫理について考えることができる	専門職倫理について考えることができる	専門職倫理について把握している	専門職倫理についての把握が十分でない	専門職倫理について理解できない

科目名	子育て支援 1クラス			授業番号	CQ203A	サブタイトル	
教員	中 典子						
単位数	1単位	開講年次	3年	開講期	後期	授業形態	演習
						必修・選択	選択
授業概要	子ども家庭支援論で学んだ内容をもとに事例研究を行い、保育現場において必要な相談支援について明らかにする。						
到達目標	相談支援の方法についてロールプレイなどを行い、身につける。 なお、本科目は、ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力のうち<技能> <態度>の修得に貢献する。						
授業計画 備考							
回	概要					担当	
第1回	保育者が行う子育て支援 保育者の特性や保育者の専門性を基礎としながら展開される子育て支援の基本的な考え方を理解する。						
第2回	保護者との相互理解と信頼関係の形成 相互理解と信頼関係を形成するためのポイントを理解する。						
第3回	保護者や家庭の抱えるニーズへの気づきと理解 保護者や家庭の抱えるニーズへの気づきと理解する視点が持てるようになる。						
第4回	子ども・保護者が多様な他者と関わる機会や場の提供 保護者同士をつなぐための技術について理解する。						
第5回	子どもと保護者に対する状況把握 保育相談支援を行うために必要な情報収集や情報活用の方法を理解する。						
第6回	支援計画と環境構成 子育て支援計画の立て方とそれに基づき環境構成の方法を理解する。						
第7回	地域における社会資源の活用 子育て支援をする際に連携することが考えられる社会資源について理解する。						
第8回	子育て支援における職員連携の方法 職員間の連携の重要性を理解する。						
第9回	社会資源の活用と他機関・多職種との連携・協働 地域にある多様な社会資源の活用と他機関・多職種との連携・協働の方法を理解する。						
第10回	事例研究1 保育所における支援を理解する。						
第11回	事例研究2 地域の子育て家庭に対する支援を理解する。						
第12回	事例研究3 障がいのある子どもとその家庭に対する支援を理解する。						
第13回	事例研究4 特別な配慮を要する子どもとその家庭に対する支援を理解する。						
第14回	事例研究5 子ども虐待の予防と対応を理解する。						
第15回	事例研究6 養育児童とその家庭に対する支援を理解する。						
授業計画 備考2							
評価の方法							
	種別	割合	評価基準・その態備考				
	授業への取り組みの姿勢/態度	10	受講中の議論により評価する。講義ごとに、自分が理解したことを整理できているか、疑問点を解決することができているか、それを表現できているか、他者の意見に対して批判的に議論ができているか、という点で評価する。				
	ワーク	90	子ども家庭支援論ワークで毎回の授業内容の復習ができていること、ワークについては、授業終了後に学びの度合いを確認するとともに授業7回目15回目に提出することを求め、コメントを記入して返却する。				

評価の方法：自由記載	
受講の心得	授業中に提示した課題を期日までに提出するように心がけること。
授業外学習	授業開始前までに、テキストの内容を読んでおくこと。(1時間) 授業後に示す課題を次回の授業開始前までに仕上げておくこと。(1時間) 授業で学んだ内容を振り返り、必要と考えることをノートにまとめておくこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
子ども保護者に寄り添った子育て支援」	立花直樹・安田誠人監修	泉洋書房	978-4-7710-3605-5	2,000+税

使用テキスト：自由記載

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載

必要に応じて紹介する。

その他

備考

注意事項

担当教員の実務経験の有無

無

担当教員の実務経験

担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無

無

担当教員以外で指導に関わる実務経験者

実務経験をいかした教育内容

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
技能	1. 相談支援の方法についてロールプレイなどを行い、身につける。	相談支援の方法についてロールプレイなどを行い、身につけることができる。	相談支援の方法についてロールプレイに参加することができる。	相談支援の方法についてロールプレイを通して支援方法が習得できる。	相談支援の方法についてのロールプレイへの参加が十分でないため技能習得が不十分である。	相談支援の方法についてのロールプレイへの参加が十分でないため技能が習得できない。
態度	1. 子ども本位の支援を考えた子育て支援の在り方が理解できる。	法制度に基づく子ども本位の支援を考えた子育て支援の在り方が理解できる。	子ども本位の支援を考えた子育て支援の在り方が理解できる。	子ども本位の支援を考えた子育て支援の在り方の基礎が理解できる。	子ども本位の支援を考えた子育て支援の在り方の理解が十分でない。	子ども本位の支援を考えた子育て支援の在り方が理解できない。

科目名	子育て支援 2クラス			授業番号	CQ203B	サブタイトル	
教員	中 典子						
単位数	1単位	開講年次	3年	開講期	後期	授業形態	演習
						必修・選択	選択
授業概要	子ども家庭支援論で学んだ内容をもとに事例研究を行い、保育現場において必要な相談支援について明らかにする。						
到達目標	相談支援の方法についてロールプレイなどを行い、身につける。 なお、本科目は、ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力のうち<技能> <態度>の修得に貢献する。						
授業計画 備考							
回	概要					担当	
第1回	保育者が行う子育て支援 保育者の特性や保育者の専門性を基礎としながら展開される子育て支援の基本的な考え方を理解する。						
第2回	保護者との相互理解と信頼関係の形成 相互理解と信頼関係を形成するためのポイントを理解する。						
第3回	保護者や家庭の抱えるニーズへの気づきと理解 保護者や家庭の抱えるニーズへの気づきと理解する視点が持てるようになる。						
第4回	子ども・保護者が多様な他者と関わる機会や場の提供 保護者同士をつなぐための技術について理解する。						
第5回	子どもと保護者に対する状況把握 保育相談支援を行うために必要な情報収集や情報活用の方法を理解する。						
第6回	支援計画と環境構成 子育て支援計画の立て方とそれに基づき環境構成の方法を理解する。						
第7回	地域における社会資源の活用 子育て支援をする際に連携することが考えられる社会資源について理解する。						
第8回	子育て支援における職員連携の方法 職員間の連携の重要性を理解する。						
第9回	社会資源の活用と他機関・多職種との連携・協働 地域にある多様な社会資源の活用と他機関・多職種との連携・協働の方法を理解する。						
第10回	事例研究1 保育所における支援を理解する。						
第11回	事例研究2 地域の子育て家庭に対する支援を理解する。						
第12回	事例研究3 障がいのある子どもとその家庭に対する支援を理解する。						
第13回	事例研究4 特別な配慮を要する子どもとその家庭に対する支援を理解する。						
第14回	事例研究5 子ども虐待の予防と対応を理解する。						
第15回	事例研究6 養育児童とその家庭に対する支援を理解する。						
授業計画 備考2							
評価の方法							
	種別	割合	評価基準・その態備考				
	授業への取り組みの姿勢 / 態度	10	受講中の議論により評価する。講義ごとに、自分が理解したことを整理できているか、疑問点を解決することができているか、それを表現できているか、他者の意見に対して批判的に議論ができているか、という点で評価する。				
	ワーク	90	子ども家庭支援論ワークで毎回の授業内容の復習ができていること、ワークについては、授業終了後に学びの度合いを確認するとともに授業7回目15回目に提出することを求め、コメントを記入して返却する。				

評価の方法：自由記載	
受講の心得	授業中に提示した課題を期日までに提出するように心がけること。
授業外学習	授業開始前までに、テキストの内容を読んでおくこと。(1時間) 授業後に示す課題を次の授業開始前までに仕上げしておくこと。(1時間) 授業で学んだ内容を振り返り、必要と考えることをノートにまとめておくこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
子ども保護者に寄り添った子育て支援	立花直樹・安田誠人監修	泉洋書房	978-4-7710-3605-5	2,000+税
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	必要に応じて紹介する。			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学土力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
技能	1. 相談支援の方法についてロールプレイなどを行い、身につける。	相談支援の方法についてロールプレイなどを行い、身につけることができる。	相談支援の方法についてロールプレイに参加することができる。	相談支援の方法についてロールプレイを通して支援方法が習得できる。	相談支援の方法についてのロールプレイへの参加が十分でないため技能習得が不十分である。	相談支援の方法についてのロールプレイへの参加が十分でないため技能が習得できない。
態度	1. 子ども本位の支援を考えた子育て支援の在り方が理解できる。	法制度に基づく子ども本位の支援を考えた子育て支援の在り方が理解できる。	子ども本位の支援を考えた子育て支援の在り方が理解できる。	子ども本位の支援を考えた子育て支援の在り方の基礎が理解できる。	子ども本位の支援を考えた子育て支援の在り方の理解が十分でない。	子ども本位の支援を考えた子育て支援の在り方が理解できない。

科目名	子ども家庭福祉		授業番号	CQ204	サブタイトル	
教員	中 典子					
単位数	2単位	開講年次	が1年より異なります。	開講期	後期	授業形態
授業概要	子どもを発達する生活者として理解し、子どものニーズや権利を知り、その充足のために子どもと環境との関係を望ましいものに整えていくに当たり、必要なことを学ぶ。子どもの福祉の意味と目的、子どもを理解する視点、子どもの成長と発達、子どもの福祉の歴史、少子・高齢社会の子どもの福祉課題、社会的義務と自立支援、子ども家庭福祉にかかわる公私の組織と施策（母子保健、保育施設、健全育成、障がい児対策、母子福祉対策、子育て支援等）、子ども家庭福祉を担う人々、専門職と機関・施設の役割、相談支援活動、地域支援活動等について多面的に学習する。					
到達目標	子ども家庭福祉の制度と実態について理解できるようになる。 なお、本科目は、ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力のうち<知識・理解>、<思考・問題解決能力>の修得に貢献する。					
授業計画 備考						
回	概要			担当		
第1回	子ども家庭福祉の理念と概念 子どもにとっての最善の利益とは何かについて理解する。					
第2回	子どもの人権擁護と現代における子ども家庭福祉の課題 子どもの育ちを支援するために必要なことを理解する。					
第3回	子ども家庭福祉の沿革 日本及び海外の子ども家庭福祉の歴史を理解する。					
第4回	児童福祉法にいちづけられる施設や機関・財政 児童福祉法の内容を理解する。					
第5回	児童福祉法以外の子ども家庭福祉に関連する法律 子ども子育て支援法、子どもの貧困対策の推進に関する法律、児童虐待の防止等に関する法律について理解する。					
第6回	子ども家庭福祉の専門性 子育て家庭が求める支援を把握し、専門性の向上に向けて必要なことを理解する。					
第7回	地域の子ども・子育て支援の対策 地域子ども・子育て支援事業を理解する。					
第8回	養育環境に問題のある子どもとその家庭への対策 子ども保護者に必要な支援を理解する。					
第9回	障がいのある子どもとその家庭への対策 障がい福祉サービスの種類を理解する。					
第10回	ひとり親家庭の子どもとその家庭への対策 ひとり親家庭に対する支援の種類を理解する。					
第11回	貧困家庭の子どもとその家庭への対策 子どもが安定した暮らしをするために保護者に求められることを理解する。					
第12回	外国籍の子どもとその家庭への対策 子どもが安定した暮らしをするために保護者に求められることを理解する。					
第13回	子ども虐待・DV(ドメスティックバイオレンス)防止への対策 子どもへの虐待やDVが起こったときどのような支援機関があるかを理解する。					
第14回	非行問題・情緒障がいのある子どもとその家庭への対策 少年法と児童福祉法での対応の違いを理解する。					
第15回	子ども家庭福祉専門職の在り方 子ども家庭福祉専門職の基本的要件、子ども家庭福祉に携わる専門職の職種を理解する。 児童福祉施設・機関の専門職の職務と資格、専門職に求められる資格を理解する。					
授業計画 備考2						
評価の方法						
種別	割合	評価基準・その態備考				
授業への取り組みの姿勢/態度	10	意欲的な受講態度、予習・復習によって評価する。				
小テスト	90	各回の主要なポイントの理解を評価する。				

評価の方法：自由記載	
受講の心得	毎回の授業に備えて予習を行っておくこと。
授業外学修	授業開始前までに、テキストの内容を読んでおくこと。(1時間) 授業後に示す課題を次の授業開始前までに仕上げしておくこと。(2時間) 授業で学んだ内容を振り返り、必要と考えることをノートにまとめておくこと。(1時間)

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
第4版 子ども家庭福祉論	小崎恭弘他編	晃洋書房	978-4-7710-3608-4	2,400+税
保育福祉小六法 2024年版	保育福祉小六法編集委員会編	みらい		

使用テキスト：自由記載	
-------------	--

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	必要に応じて紹介する。
----------	-------------

その他	
-----	--

備考	
----	--

注意事項	
------	--

担当教員の実務経験の有無	無
--------------	---

担当教員の実務経験	
-----------	--

担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
-----------------------	---

担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
--------------------	--

実務経験をいかした教育内容	
---------------	--

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー-学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. 子ども家庭福祉の制度について理解できる	子ども家庭福祉の制度について理解できる	児童福祉法について理解できる	児童福祉法の主な内容について理解できる	児童福祉法についての理解が十分でない	子ども家庭福祉の制度が理解できない
思考・問題解決能力	1. 子ども家庭福祉の実際について考えることができる	子ども家庭福祉の実際について考えることができる	子ども家庭福祉について考えることができる	児童福祉法に基づく支援について考えることができる	子ども家庭福祉の実際について考えることが十分でない	子ども家庭福祉の実際についてイメージできない

科目名	保育原理		授業番号	CQ205	サブタイトル				
教員	伊藤 智里								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	保育の基本と歴史の変遷の理解を目指した講義および保育の現状と課題の検討から、保育における基本的概念の修得を図る。								
到達目標	1. 保育の歴史を踏まえて、乳幼児と保育の意義について理解する。 2. 乳幼児の発達を踏まえて子ども理解と保育の基本を学び、子どもと向き合う自分の在り方を養う。 3. 家庭・地域社会・保育施設の三者による総合的な乳幼児教育・保育の在り方について理解する。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力のうち、〈知識・理解〉〈態度〉の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
回	概要					担当			
第1回	保育とは何か、を考える 「保育」という言葉の意味と法律における保育の意義について理解する。								
第2回	現代社会と保育の関係性 少子化、核家族化が進行する現代社会の状況と保育について理解する。								
第3回	保育の制度的位置づけ 保育に関する法令および制度を概観して理解する。								
第4回	保育の特性を理解する 子どもの最善の利益を考慮する保育について理解する。								
第5回	環境を通して行う保育 保育・幼児教育の基本である環境を通して行う保育の意味を理解する。								
第6回	子どもの発達と保育方法 子どもの発達過程に即した保育の重要性について理解する。								
第7回	保育所保育指針の理解 保育所保育指針の第1章を中心に概観し、内容を理解する。								
第8回	幼稚園教育要領の理解 幼稚園教育要領の第1章を中心に概観し、内容を理解する。								
第9回	幼保連携型認定こども園教育・保育要領の理解 幼保連携型認定こども園教育・保育要領の第1章、3章、4章を中心に概観し、内容を理解する。								
第10回	保育の計画と実践 施設と教育（乳児における3つの視点、1歳以上3歳未満児及び3歳以上児の保育内容5領域）の関連性と保育計画について理解する。								
第11回	保育実践の振り返り カリキュラムマネジメントについて理解する。								
第12回	諸外国における保育の思想・保育施設の歴史 主に西洋の保育・幼児教育の歴史と代表的な人物および施設について理解する。								
第13回	日本における保育の思想・保育施設の歴史 日本の保育・幼児教育の歴史と代表的な人物、施設、法令の変遷について理解する。								
第14回	保育の現状と課題 近年の子育て支援制度の変遷と保育の課題について理解する。								
第15回	幼児期に育てたい資質・能力と保育の未来 アブローチがキエラムとスタートがキエラム、モデルになり得る現在の世界の保育について理解する。								
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢/態度	10	授業への積極的な参加、予習復習の状況によって評価する。						
	定期試験	90	授業全体を通じた理解を評価する。						

評価の方法：自由記載	
受講の心得	保育の基礎知識の理解に努めること、授業に主体的に参加すること。内容が多岐にわたるため、予習、復習を欠かさないこと。
授業外学習	1. 授業前にテキストを読み、内容を概観すること。 2. 授業後にテキスト、参考書などを読み、講義内容を理解できるようにすること。 3. 発展的に授業で紹介された参考資料等を読む。 以上の内容を、適当に4時間以上学習すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
シードブック三訂 保育原理	大沼良子・櫻沢良彦編著	建栄社	978-4-7679-5066-2	2090
幼稚園教育要領解説	文部科学省	ブルーベル館	9784577814475	240
保育所保育指針解説	厚生労働省	ブルーベル館	9784577814482	320
幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説	内閣府・文部科学省・厚生労働省	ブルーベル館	9784577814499	350
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の業務経験の有無	無			
担当教員以外の業務経験の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる業務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる業務経験者				
業務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマ制)シラ(学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 保育の基本原理の理解	保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領や保育の意義、目的、方法、保育計画、実践について十分理解し、自ら調べ知識を深めている。	保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領や保育の意義、目的、方法、保育計画、実践について概ね理解している。	保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領や保育の意義、目的、方法、保育計画、実践について概ね理解している。	保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領や保育の目的、方法、保育計画、実践について部分的に理解している。	保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領や保育の目的、方法、保育計画、実践について授業の内容の理解が不十分である。
知識・理解	2. 現代社会と保育に関する理解	子どもの最善の利益と保育について、子どもをとりまく社会の現状と課題、子育て支援に関する法規や制度について十分理解し、保育の社会的役割と責任について、自ら調べ知識を深めている。	子どもの最善の利益と保育について、子どもをとりまく社会の現状と課題、子育て支援に関する法規や制度について概ね理解している。	子どもの最善の利益と保育について、子どもをとりまく社会の現状と課題、子育て支援に関する法規や制度について授業で提示した内容を理解している。	子どもの最善の利益と保育について、社会の現状と課題、子育て支援に関する法規や制度について授業で提示した内容を部分的に理解している。	子どもの最善の利益と保育について、社会の現状と課題、子育て支援に関する法規や制度について授業で提示した内容の理解が不十分である。
知識・理解	3. 保育思想、保育施設の歴史の理解	国内、海外の保育思想、保育施設の歴史、保育に関わる主要人物等について授業で示した内容を理解し、さらに自分で調べて知識を深め広げることができる。	国内、海外の保育思想、保育施設の歴史、保育に関わる主要人物等について授業で示した内容を理解し、さらに自分で調べてみる。	国内、海外の保育思想、保育施設の歴史、保育に関わる主要人物等について授業で示した内容を理解することができる。	国内、海外の保育思想、保育施設の歴史、保育に関わる主要人物等について授業で示した内容を部分的に理解することができる。	国内、海外の保育思想、保育施設の歴史、保育に関わる主要人物等について授業で示した内容の理解が不十分である。
態度	1. 予習復習など自己学習ができる	課外に予習、復習の時間を取り、授業を真摯に受講し、ノートなどに授業提示の内容を十分にまとめ、自分で調べるなどして内容が発展的に充足している。	課外に予習、復習の時間を取り、授業を真摯に受講し、ノートなどに授業提示の内容を適切にまとめ、自分で調べるなどして内容が発展的に充足している。	課外に予習、復習の時間を取り、授業を真摯に受講し、ノートなどに授業提示の内容を適切にまとめ、自分で調べるなどして内容が充足している。	授業を真摯に受講し、ノートなどに授業提示の内容を適切にまとめることができる。	授業提示の内容を自分なりにまとめる学習が不十分である。

科目名	社会的養護 I			授業番号	CQ206	サブタイトル	
教員	中 典子						
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	講義
							必修・選択
選択							
授業概要	社会的養護の意味と目的、子どもの権利擁護と社会的養護との関連、社会的養護の制度と実施体系（制度と法体系、仕組みと実施体系、家庭的養護、施設養護等）、社会的養護の歴史、施設養護の基本原理と実際、社会的養護の現状と課題（施設等の運営管理、倫理の確立、施設内虐待の防止対策、社会的養護と地域福祉の関係等）、社会的養護の専門職について講義する。						
到達目標	社会的養護の原理や内容について学び、自ら説明できるようになることを目的とする。また、子どもを社会的存在として理解し、養育していくうえで必要な知識と技術、価値観や倫理観について理解できるようになる。なお、本科目は、ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち「知識・理解」の修得に貢献する。						
授業計画 備考							
回	概要			担当			
第1回	社会的養護の理念と概念 社会的養護が目指すものについて理解する。						
第2回	社会的養護の歴史の変遷 日本と海外における社会的養護の変遷について理解する。						
第3回	子どもの人権擁護と社会的養護 子どもの最善の利益について理解する。						
第4回	社会的養護の基本原則 自立に向けた支援のあり方について理解する。						
第5回	社会的養護における保育士等の倫理と責務 施設保育士としての専門性を理解する。						
第6回	社会的養護の制度と法体系 児童福祉法を理解する。						
第7回	社会的養護のしくみと実施体系 社会的養護を利用するまでの手続きを理解する。						
第8回	社会的養護とファミリーソーシャルワーク 親子関係の尊重のあり方について理解する。						
第9回	社会的養護の対象と支援のあり方 社会的養護の対象となる子ども生活環境について理解し、支援のあり方を理解する。						
第10回	家庭養護と施設養護 家庭養護と施設養護におけるケアについて理解する。						
第11回	社会的養護にかかわる専門職 社会的養護の施設で働く専門職について理解する。						
第12回	社会的養護における援助の展開 自立支援計画の立て方を理解する。						
第13回	施設等の運営管理の現状と課題 児童福祉施設設備及び運営基準における社会的養護に関する運営管理の内容を理解する。						
第14回	被措置児童等の虐待防止の現状と課題 虐待を受けた子どもに対するケアについて理解する。						
第15回	社会的養護と地域福祉の現状と課題 他の機関と連携ができるようにするために、地域における社会資源について理解する。						
授業計画 備考2							
評価の方法							
種別	割合	評価基準・その態様					
授業への取り組みの姿勢/態度	10	授業中に学習内容を踏まえた積極的な質問、あるいは、既存の意見を踏まえた上での自分の考えをしっかりと述べるができるかについて評価する。					
小テスト	90	課題に対して、適切な理解ができているかを評価する。課題については、コメントを記入して返却する。学習内容を習得していないと判断した場合には、再提出を課す。					
その他							

評価の方法：自由記載	
受講の心得	毎回の授業において、ノートを取り、学びを深めようと意欲的に取り組むこと。また、分からないことは積極的に質問すること。
授業外学習	授業開始前までに、テキストの内容を読んでおくこと。(1時間) 授業後に示す課題を次の授業開始前までに仕上げしておくこと。(2時間) 授業で学んだ内容を振り返り、必要と考えることをノートにまとめておくこと。(1時間)

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
社会的養護ⅠⅡ	小宅理沙監修	翔震社	978-4-434-30257-2	2,780+税
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	必要に応じて提示する。			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点(到達目標に基づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 社会的養護の原理や内容について学び、自ら説明できる	社会的養護の原理や内容について学び、自ら説明できる	社会的養護の原理や内容について理解できる	社会的養護の原理や内容の基礎について理解できる	社会的養護の原理や内容の基礎についての理解が十分でない	社会的養護の原理や内容の基礎が理解できない
知識・理解	2. 子どもを社会的存在として理解し、養育していくうえで必要な知識と技術、価値観や倫理観について理解できる	子どもを社会的存在として理解し、養育していくうえで必要な知識と技術、価値観や倫理観について理解できる	子どもを養育していくうえで必要な知識と技術、価値観や倫理観について理解できる	子どもを養育していくうえで必要な知識と技術、価値観や倫理観についての基礎が理解できる	子どもを養育していくうえで必要な知識と技術、価値観や倫理観についての理解が十分でない	子どもを養育していくうえで必要な知識と技術、価値観や倫理観についての理解ができない

科目名	子どもの保健			授業番号	CQ208	サブタイトル			
教員	藤原 敬恵								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	子どもの健全な発育を支援するために必要な基礎的知識が修得できるように、子どもの発育・発達と保健について講義する。さらに、さまざまな状況の子どもに適切な対応ができるように、子どもの病気の特徴や主な症状とその対応について講義する。								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの健康増進を回る保健活動の意義が理解できる。 2. 子どもの発育・発達と保健について理解できる。 3. 子どもの健康状態とその把握の方法について理解できる。 4. 子どもの病気の特徴と適切な対応について理解できる。 なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈態度〉の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
回	概要					担当			
第1回	子どもの健康と保健								
第2回	地域における保健活動								
第3回	子どもの発育・発達と保健 (1) 身体発育と運動機能の発達								
第4回	子どもの発育・発達と保健 (2) 生理機能の発達								
第5回	子どもの健康状態の観察と体調不良時による症状の把握								
第6回	子どもの病気の特徴と対応 (1) 感染症								
第7回	感染症の予防								
第8回	子どもの病気の特徴と対応 (2) 救急疾患								
第9回	子どもの病気の特徴と対応 (3) 先天性疾患								
第10回	子どもの病気の特徴と対応 (4) アレルギー疾患								
第11回	子どもの病気の特徴と対応 (5) 慢性疾患①								
第12回	子どもの病気の特徴と対応 (5) 慢性疾患②								
第13回	子育て支援								
第14回	子どもの健康診断								
第15回	まとめ (知識の確認)								
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢/態度	20	意欲的に授業に取り組んでいるか、予習復習、意見発表、課題提出で評価する						
	レポート								
	小テスト								
	定期試験	80	本科目の理解度を確認する						
	その他								

評価の方法：自由記載	
受講の心得	講義形式の授業形態が中心になります。幅広く専門的な知識を修得しなければならないため、既習の知識と合わせて復習を行い、主体的に講義に参加してください。
授業外学修	1.予習として、教科書のうち、授業内容にかかわる部分を読み、疑問点を明らかにする。 2.復習として、授業プリントや教科書を読みながら、理解を深める。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
子どもの保健テキスト	小林業由記 編著	診断と治療社	978-4-7878-2531-5	本体2200円+税
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他	授業の進行役により授業内容を変更することがある。			
備考	令和6年度改訂			
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の实務経験	看護師(16年)としての実務経験の中で小児病棟勤務(13年)・看護専門学校専任教員として小児看護学担当(21年)の実務経験を有する			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	小児病棟勤務(13年)での看護の経験と看護専門学校(21年)での講義および実習指導の経験から、保育現場に必要な基礎的知識を教授する。また、子どもに起こりやすい症状とその対応について、具体的にわかりやすく教授する。			

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学土力)	評価の観点(到達目標に基づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 子どもの健康増進を回る保健活動の意義についての理解	母子保健に関する統計や実際の保健活動について正しい知識をもち、保育者としての保健活動の意義を理解している。その上で現状の問題点と課題を具体的に述べることができる。	母子保健に関する統計や実際の保健活動について正しい知識をもち、保育者としての保健活動の意義を理解している。また、現状の問題点と課題を大まかに述べることができる。	母子保健に関する統計や実際の保健活動の知識を持ち、保育者としての保健活動の意義を理解している。	母子保健に関する統計や実際の保健活動の知識はあるが、保育者としての保健活動の意義の理解が十分ではない。	母子保健に関する統計や実際の保健活動の知識がなく、保育者としての保健活動の意義の理解ができていない。
知識・理解	2. 子どもの発育・発達と保健についての理解	各月齢・年齢の発育・発達についてすべて正確な知識がある。また発達に応じた生活習慣について理解している。	各月齢・年齢の発育・発達について正確な知識がある。また発達に応じた生活習慣について理解している。	各月齢・年齢の発育・発達について知識がある。また発達に応じた生活習慣についてほぼ理解している。	各月齢・年齢の発育・発達について知識が十分ではない。	各月齢・年齢の発育・発達について知識がない。
知識・理解	3. 子どもの健康状態とその把握の方法についての理解	子どもの健康状態の把握の方法について正確な知識がある。また、体調不良時にみられる症状とその対処方法について実践できるレベルまで理解している。	子どもの健康状態の把握の方法について正確な知識がある。また、体調不良時にみられる主な症状とその対処方法について理解している。	子どもの健康状態の把握の方法について知識がある。また、体調不良時にみられる主な症状とその対処方法についてはほぼ理解している。	子どもの健康状態の把握の方法について知識が十分ではない。また、体調不良時にみられる主な症状とその対処方法の理解が乏しい。	子どもの健康状態とその把握の方法について知識がない。また体調不良時の症状と対処方法を理解していない。
知識・理解	4. 子どもの病気の特徴と適切な対応についての理解	子ども特有の病気の特徴についてすべて正確な知識がある。また、適切な対応について正確に理解している。	子ども特有の病気の特徴について正確な知識がある。また、適切な対応について理解している。	子ども特有の病気の特徴について知識がある。また、適切な対応についてはほぼ理解している。	子ども特有の病気の特徴についての知識が十分ではない。また、適切な対応についての理解が乏しい。	子ども特有の病気の特徴と適切な対応について理解していない。
態度	1. 授業への取り組みの姿勢	予習・復習を行い、講義に集中して参加している。また、テーマに沿った内容で正当な意見を積極的に述べることができ、課題にも真摯に取り組むことができる。	復習を行い、講義に集中して参加している。また、テーマに沿った内容で意見や感想を述べることができ、課題にも取り組むことができる。	講義に集中して参加している。また、テーマに対し自分なりの意見や感想を述べることができ、課題にも取り組むことができる。	講義に集中していない時間がある。また、求められたら自分なりの感想を述べることができ、課題への取り組みも適切でない。	講義に集中していない。求められても感想を述べることができず、課題にも取り組めていない。

科目名	子どもの食と栄養 I クラス		授業番号	CQ210A	サブタイトル				
教員	児玉 彩, 高坂 由理								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	子どもの健やかな発育・発達に食生活が重要であることは言うまでもないが、子どもたちを取り巻く食環境には子どもたちの健やかな発育・発達に影響を及ぼすことが多く存在する。子どもの食と栄養 I では、栄養の基本的な知識とともに、子どもの発育・発達と食生活の関連について講義する。また、家庭や保育所等で推進が求められている食育についても説明する。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養の基本的な内容を理解し、保育場面に活用できる。 ・小児の発育・発達や健康に栄養摂取が大きく関連していることが理解できる。 ・発育・発達に起こる特性や栄養摂取の重要性を理解し、保育場面に活用できる。 ・小児期における食育の重要性が理解できる。 ・健康的な小児の発育発達を促すための食事について考えることができる。 なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈態度〉の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
回	概要					担当			
第1回	子どもの心身の健康と食生活								
第2回	子どもの食生活の現状と課題								
第3回	栄養の基本的概念、栄養に関する基本的知識 (1) 炭水化物								
第4回	栄養に関する基本的知識 (2) 脂質								
第5回	栄養に関する基本的知識 (3) たんぱく質								
第6回	栄養に関する基本的知識 (4) ミネラル、ビタミン、水								
第7回	食べ物の消化と吸収 (1) 食べ物の消化過程								
第8回	食べ物の消化と吸収 (2) 栄養素の吸収と未消化物の排泄								
第9回	妊娠期と授乳期の食生活								
第10回	乳児期・幼児期の発育・発達と食生活								
第11回	学童期・思春期の発育・発達と食生活								
第12回	生涯発達と食生活								
第13回	食育の基本と内容								
第14回	特別な配慮を要する子どもの食と栄養								
第15回	アレルギー疾患をもつ子どもの食と栄養								
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢/態度	15	授業終了時に当日の講義の要約を記述して提出を求めるコメントシートにより、評価を行う。						
	レポート	15	授業で学んだ内容を深めることができたかを評価する。						
	小テスト	10	主要なポイントの理解を評価する。						
	定期試験	60	最終的な理解度を評価する。						
	その他								

評価の方法：自由記載	
受講の心得	事前学習としてテキストの該当範囲をあらかじめ読んでおくこと。
授業外学習	<ul style="list-style-type: none"> 事前に授業の内容をテキストで予習しておく。 授業後に、講義内容の整理や確認問題へ取り組み、興味を持った部分をさらに自分自身で調べる。 自分自身の食生活に関心を持ち、講義で学んだことを各自の食生活で実践する。 以上の内容を、適当に4時間以上学習すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
子どもの食と栄養	太田百合子, 堤おはる	羊土社	978-4-7581-0911-6	2,400円
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	必要に応じて講義中指示する。			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の業務経験の有無	無			
担当教員の業務経験				
担当教員以外で指導に関わる業務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる業務経験者				
業務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. 栄養の基本的な内容を理解している。	学修した栄養に関する知識について、正確に理解し述べることができる。	学修した栄養に関する知識について、正確ではないがほぼ理解し述べることができる。	学修した栄養に関する知識について、大体述べることができる。	学修した栄養に関する知識について、正確に述べることができないが、自分の言葉では表現できる。	学修した栄養に関する知識について、全く表現することができない。
知識・理解	2. 健康的な小児の発育発達と栄養摂取の関連を理解している。	学修した健康的な小児の発育発達と栄養摂取の関連について、正確に述べることができる。	学修した健康的な小児の発育発達と栄養摂取の関連について、正確ではないがほぼ理解し述べることができる。	学修した健康的な小児の発育発達と栄養摂取の関連について、大体述べることができる。	学修した健康的な小児の発育発達と栄養摂取の関連について、正確に述べることができないが、自分の言葉では表現できる。	学修した健康的な小児の発育発達と栄養摂取の関連について、全く表現することができない。
知識・理解	3. 小児期における食育の重要性を理解している。	小児期における食育の重要性について、完璧に述べることができる。	小児期における食育の重要性について、完璧ではないがほぼ理解し述べることができる。	小児期における食育の重要性について、ほぼ述べることができる。	小児期における食育の重要性について、正確に述べることができないが、自分の言葉では表現できる。	小児期における食育の重要性について、全く表現することができない。
思考・問題解決能力	1. 健康的な小児の発育発達を促すための食事について考えることができる。	課題に対し、論理的整合性を持ち、多角的に考察をしている。	課題に対し、ほぼ論理的整合性を持った考察を加えている。	課題に対し、自分の考えを述べることができる。	課題に対する結果を述べることができる。	課題を作成したが指示事項に沿っていない。
態度	1. 演習に積極的に参加できる。	質問など積極的にを行い、疑問を解決し、演習内容を理解した上で、適切なコメントシートを提出している。	演習に前向きに臨む姿勢が見受けられ、演習内容を理解した上で、コメントシートを提出している。	演習に出席し、演習の内容を理解した上でコメントシートを提出している。	演習に出席し、コメントシートを提出しているが、理解が十分ではない。	演習に出席しているが、コメントシートの提出をしていない。

科目名	子どもの食と栄養 I 2クラス		授業番号	CQ210B	サブタイトル				
教員	児玉 彩, 高坂 由理								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	子どもの健やかな発育・発達に食生活が重要であることは言うまでもないが、子どもたちを取り巻く食環境には子どもたちの健やかな発育・発達に影響を及ぼすことが多く存在する。子どもの食と栄養 I では、栄養の基本的な知識とともに、子どもの発育・発達と食生活の関連について講義する。また、家庭や保育所等で推進が求められている食育についても説明する。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養の基本的な内容を理解し、保育場面に活用できる。 ・小児の発育・発達や健康に栄養摂取が大きく関連していることが理解できる。 ・発育・発達に起こる特性や栄養摂取の重要性を理解し、保育場面に活用できる。 ・小児期における食育の重要性が理解できる。 ・健康的な小児の発育発達を促すための食事について考えることができる。 なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈態度〉の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
回	概要					担当			
第1回	子どもの心身の健康と食生活								
第2回	子どもの食生活の現状と課題								
第3回	栄養の基本的概念、栄養に関する基本的知識 (1) 炭水化物								
第4回	栄養に関する基本的知識 (2) 脂質								
第5回	栄養に関する基本的知識 (3) たんぱく質								
第6回	栄養に関する基本的知識 (4) ミネラル、ビタミン、水								
第7回	食べ物の消化と吸収 (1) 食べ物の消化過程								
第8回	食べ物の消化と吸収 (2) 栄養素の吸収と未消化物の排泄								
第9回	妊産婦と授乳期の食生活								
第10回	乳児期・幼児期の発育・発達と食生活								
第11回	学童期・思春期の発育・発達と食生活								
第12回	生涯発達と食生活								
第13回	食育の基本と内容								
第14回	特別な配慮を要する子どもの食と栄養								
第15回	アレルギー疾患をもつ子どもの食と栄養								
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢/態度	15	授業終了時に当日の講義の要約を記述して提出を求めるコメントシートにより、評価を行う。						
	レポート	15	授業で学んだ内容を深めることができたかを評価する。						
	小テスト	10	主要なポイントの理解を評価する。						
	定期試験	60	最終的な理解度を評価する。						
	その他								

評価の方法：自由記載	
受講の心得	事前学習としてテキストの該当範囲をあらかじめ読んでおくこと。
授業外学習	<ul style="list-style-type: none"> 事前に授業の内容をテキストで予習しておく。 授業後に、講義内容の整理や確認問題へ取り組み、興味を持った部分をさらに自分自身で調べる。 自分自身の食生活に関心を持ち、講義で学んだことを各自の食生活で実践する。 以上の内容を、週当たり4時間以上学習すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
子どもの食と栄養	太田百合子, 堤おはる	羊土社	978-4-7581-0911-6	2,400円
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	必要に応じて講義中指示する。			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の業務経験の有無	無			
担当教員の業務経験				
担当教員以外で指導に関わる業務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる業務経験者				
業務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. 栄養の基本的な内容を理解している。	学修した栄養に関する知識について、正確に理解し述べることができる。	学修した栄養に関する知識について、正確ではないがほぼ理解し述べるができる。	学修した栄養に関する知識について、大体述べることができる。	学修した栄養に関する知識について、正確に述べることができないが、自分の言葉では表現できる。	学修した栄養に関する知識について、全く表現することができない。
知識・理解	2. 健康的な小児の発育発達と栄養摂取の関連を理解している。	学修した健康的な小児の発育発達と栄養摂取の関連について、正確に述べることができる。	学修した健康的な小児の発育発達と栄養摂取の関連について、正確ではないがほぼ理解し述べることができる。	学修した健康的な小児の発育発達と栄養摂取の関連について、大体述べることができる。	学修した健康的な小児の発育発達と栄養摂取の関連について、正確に述べることができないが、自分の言葉では表現できる。	学修した健康的な小児の発育発達と栄養摂取の関連について、全く表現することができない。
知識・理解	3. 小児期における食育の重要性を理解している。	小児期における食育の重要性について、完璧に述べることができる。	小児期における食育の重要性について、完璧ではないがほぼ理解し述べることができる。	小児期における食育の重要性について、ほぼ述べることができる。	小児期における食育の重要性について、正確に述べることができないが、自分の言葉では表現できる。	小児期における食育の重要性について、全く表現することができない。
思考・問題解決能力	1. 健康的な小児の発育発達を促すための食事について考えることができる。	課題に対し、論理的整合性を持ち、多角的に考察をしている。	課題に対し、ほぼ論理的整合性を持った考察を加えている。	課題に対し、自分の考えを述べることができる。	課題に対する結果を述べることができる。	課題を作成したが指示事項に沿っていない。
態度	1. 演習に積極的に参加できる。	質問など積極的にを行い、疑問を解決し、演習内容を理解した上で、適切なコメントシートを提出している。	演習に前向きに臨む姿勢が見受けられ、演習内容を理解した上で、コメントシートを提出している。	演習に出席し、演習の内容を理解した上でコメントシートを提出している。	演習に出席し、コメントシートを提出しているが、理解が十分ではない。	演習に出席しているが、コメントシートの提出をしていない。

科目名	障害児保育1クラス			授業番号	CQ214A	サブタイトル	
教員	佐藤 伸隆						
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	演習
必修・選択							必修・選択
選択							
授業概要	障害者権利条約や児童権利条約によって、障害児保育の重要性は益々高まっている。本講義は、何よりもまずインクルーシブ保育に連なる障害児保育の理念を押さえた上で、「障害児の生活」について理解し、個々の保育場面に応じた支援・配慮の技術を修得する。さらに、障害のある子どもに対する個別支援（指導）計画や関係機関・地域社会との連携、ひいては家庭（保護者）支援等に至る、障害児保育の全体像を学修する。						
到達目標	1. 障害児保育の今日的な理念や意義、視点を学び、それを説明することができる。 2. 障害の特性や心身の発達等に応じた支援、合理的配慮の基礎を修得して、実践に向けた第一歩を踏みはじめることができる。 3. 個別支援（指導）計画や家庭（保護者）支援、関係機関との連携・協働の方法を知り、その流れを展開することができる。 なお、本科目はデビロブポリシーに掲げた「学士力」の内容のうち、＜知識・理解＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。						
授業計画 備考							
回	概要						担当
第1回	障害児保育を支える理念 ⇒障害の概念とその歴史的変遷を理解する。／障害者権利条約・児童の権利に関する条約とそこから連なる今日の障害児保育の理念について、ICFモデル・インクルーシブ保育等をキーワードに理解する。						
第2回	視覚障害・聴覚障害のある子どもの理解と支援 ⇒身体障害の全体像を理解する。／視覚障害の定義と種類、障害特性を理解する。／気づきのポイントを理解する。／視覚障害のある子どもに対する支援の基本を押さえた上で、保育時の援助、配慮を修得する。						
第3回	音声言語障害・場面緘黙のある子どもの理解と支援 ⇒音声言語障害・場面緘黙の定義と種類、障害特性を理解する。／気づきのポイントを押さえる。／音声言語障害や場面緘黙のある子どもに対する支援の基本を押さえた上で、保育時の援助、配慮を修得する。						
第4回	肢体不自由・重症心身障害のある子どもと医療的ケアが必要な子どもの理解と支援 ⇒肢体不自由・重症心身障害・医療的ケアの定義と種類、障害特性を理解する。／気づきのポイントを押さえる。／肢体不自由・重症心身障害のある子ども、医療的ケアが必要な子どもに対する支援の基本を押さえた上で、保育時の援助、配慮を修得する。／病児保育を理解する。						
第5回	知的障害のある子どもの理解と支援 ⇒知的障害の定義と種類、障害特性を理解する。／気づきのポイントを押さえる。／知的障害のある子どもに対する支援の基本を押さえた上で、保育時の援助、配慮を修得する。						
第6回	発達障害（自閉スペクトラム症）のある子どもの理解と支援 ⇒発達障害の全体像を理解する。／自閉スペクトラム症の定義と種類、障害特性を理解する。／気づきのポイントを押さえる。／自閉スペクトラム症のある子どもに対する支援の基本を押さえた上で、保育時の援助、配慮を修得する。						
第7回	発達障害（注意欠陥（ADHD）多動性障害・学習障害など）のある子どもの理解と支援 ⇒注意欠陥（ADHD）多動性障害・学習障害の定義と種類、障害特性を理解する。／感覚過敏・鈍麻を理解する。／気づきのポイントを押さえる。／注意欠陥（ADHD）多動性障害・学習障害・感覚過敏や鈍麻のある子どもに対する支援の基本を押さえた上で、保育時の援助、配慮を修得する。						
第8回	特に配慮が必要な子ども、家族の理解と支援 ⇒てんかん発作や発作時の対応方法を理解する。／高次脳機能障害を理解する。／気分障害（うつ・躁うつ等）を理解する。／行動障害・強度行動障害を理解する。／ストレス関連障害、統合失調症その他の精神障害を理解する。／しつけや「気になる子」気になる保護者「気になる家庭」について理解する。／二次障害を理解する。 ※施設保育や保護者（理解）支援を念頭におき、乳幼児の他、広く児童や保護者等（成人）に生じる障害、疾病を理解する。						
第9回	子ども同士の関わり、育ち合いと子どもをみる視点 ⇒子ども同士の関わりと育ち合い、媒介者としての保育者の役割を理解する。／子どもたちの伝え方と関わり方、アセスメント方法を修得する。						
第10回	個別支援（指導）計画の作成、職員間の連携・協働 ⇒計画的な保育の必要性を理解する。／個別支援（指導）計画の意義と関係性を理解する。／記録と評価の必要性、ポイントを理解する。／職員間の連携・協働の必要性を理解した上で、カンファレンスの方法を修得する。						
第11回	保護者や家族に対する理解と支援 ⇒保護者・家族の障害受容と保育者の役割を理解する。／保護者・家族連携の意義と方法を修得する。／保護者同士の交流や交流の必要性と保育所、保育者の役割を理解する。						
第12回	障害児支援の制度理解と地域における連携・協働 ⇒障害者権利条約・障害者基本法を踏まえ、今日の障害児福祉サービス（福祉）の考え方を理解する。／障害者総合支援法・児童福祉法における障害児支援サービスの概要を理解する。／障害のある子どもの支援機関（窓口）・団体を把握する。／障害のある子どもの支援時における地域連携のしくみと方法を理解する。						
第13回	小学校との連携、就学支援 ⇒障害のある子どもなどの修学の流れを理解する。／障害のある子どもなどが学ぶ（学校等）と学習の概要を理解する。／就学支援における保育所、保育者の役割を理解する。						
第14回	配慮が必要な子どもの保育に関わる現状と課題 ⇒障害の早期発見・早期支援の必要性を理解する。／障害活動・児童発達支援について理解する。／障害のある子どもの支援技術を理解する。／インクルーシブ保育の実現に向けての展望を理解する。						
第15回	事例検討 ⇒障害児保育における実践事例を通して、シミュレーショントレーニングを行う。／保育者として障害のある子どもや支援を必要とする子どもに保育を行うことの意義を総括する。						
授業計画 備考2							
評価の方法							
	種別	割合	評価基準・その他備考				
	授業への取り組み姿勢/態度	20	意欲的な授業態度、予習・復習の取り組み状況を評価する。				
	演習への取り組み姿勢/態度	20	ワークへの取り組み姿勢や発表内容を授業理解度、目標達成度を基準に評価する。				
	定期試験	60	授業全体の理解度、目標達成度を筆記試験で評価する。				

評価の方法：自由記載	(フィードバック) ○レポート等については、授業中にコメントする。個別の質問等については授業時間の前後に申し出ること。 ○定期試験等についてフィードバックが必要な場合は、担当教員のメールアドレスに個別に申し出ること。 ※授業時間外は学内にはない。
受講の心得	○この授業では、まずしようがいを知ることから始める。そして、障害のある子どもや保護者の「暮らし」を理解し、その育ちを支えることの意味へと深めていきたいと思う。 ○まずは障害や障害のある子ども、保護者の生活に関心をもつこと。そして、もしも自分自身に障害があったら？ 障害のある子どもに必要な配慮は？ 障害のない子どもやその保護者に伝えるべきことは？ クラス全体ではどのような配慮や工夫が必要か？などの視点をもち授業に臨むこと。
授業外学修	(予習)※90分/週 ○授業内容に該当する教科書の節を読み込み、基本的なことを理解する。授業中、任意に説明を求められることがある。 また、不明点や疑問点をまとめ、質問できるように準備をして授業に臨むこと。 ⇒授業は教科書を一通り読んでおくことを前提に行う。 (復習)※120分/週 (1)毎回の授業内容を自分なりにまとめ直す(どのような授業内容だったのか、自分の言葉で整理する)。 (2)事前学修(予習)内容と授業の内容を振り返り、「理解できたこと」「理解しづらかったこと」「新たな疑問点」を明らかにする。 (3)分からなかったこと「新たな疑問点」を、参考書籍や図書館の雑誌、インターネット等で調べ、自分自身で明らかにする。 ⇒自身で調べても不明な場合、真偽を確認したい場合は、オフィスアワーを活用して担当教員に質問すること。 (発表)※30分/週 ○授業中に関心をもったことやさらに知りたいことを書籍、インターネット等で調べ、学びを深める。 ※学修方法が分からない場合や参考図書を知りたい場合は、翌週の授業前後に質問すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
障害児保育演習ブック	松本峰雄編	ミネルヴァ書房	9784623090686	2640

使用テキスト：自由記載

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
障害と子どもたちの生きるかたち	浜田寿美男著	岩波現代文庫	978-4-00-603179-4	880
障害児保育キーワード100	小川英彦編	福村出版	9784571121319	2200
よく分かる障害児保育第2版	尾崎康子・小林真・水内豊和・阿部美穂子	ミネルヴァ書房	9784623081240	2750
よくわかるインクルーシブ保育	尾崎康子・阿部美穂子・水内豊和	ミネルヴァ書房	9784623087341	2750
わが子は発達障害 心に響く33編の子育て物語	内山登紀夫・明石洋子・高山恵子	ミネルヴァ書房	9784623070077	2200

参考書：自由記載

その他

備考 令和5年度改訂

注意事項

担当教員の業務経験の有無 有

担当教員の業務経験 障害児者やその家族への相談支援、合理的配慮の提供支援(5年)。障害者虐待・障害者差別対応(2年)。障害児者の権利擁護支援、障害理解の普及啓発、障害児支援・保護者支援の助言・指導等(15年)。

担当教員以外で指導に関わる業務経験の有無 無

担当教員以外で指導に関わる業務経験者

業務経験をいかした教育内容 障害児者やその家族に対する相談支援、合理的配慮の経験等を生かして、障害児保育の基礎を養う。

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー-学士力)	評価の観点(到達目標に基づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分レベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 障害児保育の今日的な理念や意義、視点を学び、それを説明することができる。	障害児保育の今日的な理念、意義、視点を、根拠立てて説明することができる。	障害児保育の今日的な理念、意義、視点を、自分の言葉で一通り説明することができる。	障害児保育の今日的な理念、意義、視点を、教員の説明通りに一通り説明することができる。	障害児保育の今日的な理念、意義、視点を、自分の言葉で一通り説明することができる。	障害児保育の今日的な理念、意義、視点を、教員の説明通りに一通り説明することができる。
知識・理解	2. 障害の特性や心身の発達等に応じた支援、合理的配慮の基礎を修得して、実践に向けた第一歩を進みはじめることができる。	障害の特性や発達に応じた支援、配慮方法を、根拠立てて説明することができる。	障害の特性や発達に応じた支援、配慮方法を、自分の言葉で一通り説明することができる。	障害の特性や発達に応じた支援、配慮方法を、教員の説明通りに一通り説明することができる。	障害の特性や発達に応じた支援、配慮方法を、自分の言葉で一通り説明することができる。	障害の特性や発達に応じた支援、配慮方法を、教員の説明通りに一通り説明することができる。
知識・理解	3. 個別支援(指導)計画や家庭(保護者)支援、関係機関との連携・協働の方法を知り、その流れを展開することができる。	個別支援(指導)計画や家庭(保護者)支援、関係機関との連携・協働の方法の展開を、根拠立てて説明することができる。	個別支援(指導)計画や家庭(保護者)支援、関係機関との連携・協働の方法の展開を、自分の言葉で一通り説明することができる。	個別支援(指導)計画や家庭(保護者)支援、関係機関との連携・協働の方法の展開を、教員の説明通りに一通り説明することができる。	個別支援(指導)計画や家庭(保護者)支援、関係機関との連携・協働の方法の展開を、自分の言葉で一通り説明することができる。	個別支援(指導)計画や家庭(保護者)支援、関係機関との連携・協働の方法の展開を、教員の説明通りに一通り説明することができる。
技能	1. 障害児保育の今日的な理念や意義、視点を学び、それを説明することができる。	障害児保育の今日的な理念、意義、視点を、障害のある子どもやその保護者を、個別にとらえることができる。	障害児保育の今日的な理念、意義、視点を、障害のある子どもやその保護者を、個別にとらえることができる。	障害児保育の今日的な理念、意義、視点を、障害のある子どもやその保護者を、個別にとらえることができる。	障害児保育の今日的な理念、意義、視点を、障害のある子どもやその保護者を、個別にとらえることができる。	障害児保育の今日的な理念、意義、視点を、障害のある子どもやその保護者を、個別にとらえることができる。
技能	2. 障害の特性や心身の発達等に応じた支援、合理的配慮の基礎を修得して、実践に向けた第一歩を進みはじめることができる。	障害の特性や発達に応じた支援、配慮方法を、根拠立てて行うことができる。	障害の特性や発達に応じた支援、配慮方法を、自分の言葉で一通り行うことができる。	障害の特性や発達に応じた支援、配慮方法を、教員の説明通りに一通り行うことができる。	障害の特性や発達に応じた支援、配慮方法を、自分の言葉で一通り行うことができる。	障害の特性や発達に応じた支援、配慮方法を、教員の説明通りに一通り行うことができる。
技能	3. 個別支援(指導)計画や家庭(保護者)支援、関係機関との連携・協働の方法を知り、その流れを展開することができる。	個別支援(指導)計画や家庭(保護者)支援、関係機関との連携・協働の方法を、その流れを根拠立てて展開することができる。	個別支援(指導)計画や家庭(保護者)支援、関係機関との連携・協働の方法を、自分なりに展開することができる。	個別支援(指導)計画や家庭(保護者)支援、関係機関との連携・協働の方法を、教員の説明通りに展開することができる。	個別支援(指導)計画や家庭(保護者)支援、関係機関との連携・協働の方法を、自分の言葉で一通り説明することができる。	個別支援(指導)計画や家庭(保護者)支援、関係機関との連携・協働の方法を、自分の言葉で一通り説明することができる。
態度	1. 障害児保育の今日的な理念や意義、視点を学び、それを説明することができる。	児童の権利条約・障害者権利条約に則り、障害のある子どもに対する今日的な支援者の価値を、根拠立てて説明することができる。	児童の権利条約・障害者権利条約に則り、障害のある子どもに対する今日的な支援者の価値を、自分の言葉で一通り説明することができる。	児童の権利条約・障害者権利条約に則り、障害のある子どもに対する今日的な支援者の価値を、教員の説明通りに一通り説明することができる。	児童の権利条約・障害者権利条約に則り、障害のある子どもに対する今日的な支援者の価値を、自分の言葉で一通り説明することができる。	児童の権利条約・障害者権利条約に則り、障害のある子どもに対する今日的な支援者の価値を、教員の説明通りに一通り説明することができる。

科目名	障害児保育 2クラス			授業番号	CQ214B	サブタイトル	
教員	佐藤 伸隆						
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	演習
必修・選択	必修・選択				選択		
授業概要	障害者権利条約や児童権利条約によって、障害児保育の重要性は益々高まっている。本講義は、何よりもまずインクルーシブ保育に連なる障害児保育の理念を押さえた上で、「障害児の生活」について理解し、個々の保育場面に応じた支援・配慮の技術を修得する。さらに、障害のある子どもに対する個別支援（指導）計画や関係機関・地域社会との連携、ひいては家庭（保護者）支援等に至る、障害児保育の全体像を学ぶ。						
到達目標	1. 障害児保育の今日的な理念や意義、視点を学び、それを説明することができる。 2. 障害の特性や心身の発達等に応じた支援、合理的配慮の基礎を修得して、実践に向けた第一歩を踏み始めることができる。 3. 個別支援（指導）計画や家庭(保護者)支援、関係機関との連携・協働の方法を知り、その流れを展開することができる。 なお、本科目はデビロブポリシーに掲げた「学士力」の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。						
授業計画 備考							
回	概要					担当	
第1回	障害児保育を支える理念 ⇒障害の概念とその歴史的変遷を理解する。／障害者権利条約・児童の権利に関する条約とそこから連なる今日の障害児保育の理念について、I C Fモデル・インクルーシブ保育等をキーワードに理解する。						
第2回	視覚障害・聴覚障害のある子どもの理解と支援 ⇒身体障害の全体像を理解する。／視覚障害の定義と種類、障害特性を理解する。／気づきのポイントを理解する。／視覚障害のある子どもに対する支援の基本を押さえた上で、保育時の援助、配慮を修得する。						
第3回	音声言語障害・場面緘黙のある子どもの理解と支援 ⇒音声言語障害・場面緘黙の定義と種類、障害特性を理解する。／気づきのポイントを押さえる。／音声言語障害や場面緘黙のある子どもに対する支援の基本を押さえた上で、保育時の援助、配慮を修得する。						
第4回	肢体不自由・重症心身障害のある子どもと医療的ケアが必要な子どもの理解と支援 ⇒肢体不自由・重症心身障害・医療的ケアの定義と種類、障害特性を理解する。／気づきのポイントを押さえる。／肢体不自由・重症心身障害のある子ども、医療的ケアが必要な子どもに対する支援の基本を押さえた上で、保育時の援助、配慮を修得する。／病児保育を理解する。						
第5回	知的障害のある子どもの理解と支援 ⇒知的障害の定義と種類、障害特性を理解する。／気づきのポイントを押さえる。／知的障害のある子どもに対する支援の基本を押さえた上で、保育時の援助、配慮を修得する。						
第6回	発達障害（自閉スペクトラム症）のある子どもの理解と支援 ⇒発達障害の全体像を理解する。／自閉スペクトラム症の定義と種類、障害特性を理解する。／気づきのポイントを押さえる。／自閉スペクトラム症のある子どもに対する支援の基本を押さえた上で、保育時の援助、配慮を修得する。						
第7回	発達障害（注意欠陥（ADHD）多動性障害・学習障害など）のある子どもの理解と支援 ⇒注意欠陥（ADHD）多動性障害・学習障害の定義と種類、障害特性を理解する。／感覚過敏・鈍麻を理解する。／気づきのポイントを押さえる。／注意欠陥（ADHD）多動性障害・学習障害・感覚過敏や鈍麻のある子どもに対する支援の基本を押さえた上で、保育時の援助、配慮を修得する。						
第8回	特に配慮が必要な子ども、家族の理解と支援 ⇒てんかん発作や発作時の対応方法を理解する。／高次脳機能障害を理解する。／気分障害（うつ・躁うつ等）を理解する。／行動障害・強度行動障害を理解する。／ストレス関連障害、統合失調症その他の精神障害を理解する。／しつけや「気になる子」気になる保護者「気になる家庭」について理解する。／二次障害を理解する。 ※施設保育や保護者（理解）支援を念頭におき、乳幼児の他、広く児童や保護者等（成人）に生じる障害、疾病を理解する。						
第9回	子ども同士の関わり、育ち合いと子どもをみる視点 ⇒子ども同士の関わりと育ち合い、媒介者としての保育者の役割を理解する。／子どもたちの伝え方と関わり方、アセスメント方法を修得する。						
第10回	個別支援（指導）計画の作成、職員間の連携・協働 ⇒計画的な保育の必要性を理解する。／個別支援（指導）計画の意義と関係性を理解する。／記録と評価の必要性、ポイントを理解する。／職員間の連携・協働の必要性を理解した上で、カンファレンスの方法を修得する。						
第11回	保護者や家族に対する理解と支援 ⇒保護者・家族の障害受容と保育者の役割を理解する。／保護者・家族連携の意義と方法を修得する。／保護者同士の交流や交流合いの必要性と保育所、保育者の役割を理解する。						
第12回	障害児支援の制度理解と地域における連携・協働 ⇒障害者権利条約・障害者基本法を踏まえ、今日の障害児福祉サービスの方針を理解する。／障害者総合支援法・児童福祉法における障害児支援サービスの概要を理解する。／障害のある子どもの支援機関（窓口）・団体を把握する。／障害のある子どもの支援時における地域連携のしくみと方法を理解する。						
第13回	小学校との連携、就学支援 ⇒障害のある子どもなどの修学の流れを理解する。／障害のある子どもなどが学ぶ（学校等）と学習の概要を理解する。／就学支援における保育所、保育者の役割を理解する。						
第14回	配慮が必要な子どもの保育に関わる現状と課題 ⇒障害の早期発見・早期支援の必要性を理解する。／療育活動・児童発達支援について理解する。／障害のある子どもの支援技術を理解する。／インクルーシブ保育の実現に向けての展望を理解する。						
第15回	事例検討 ⇒障害児保育における実践事例を通して、シミュレーショントレーニングを行う。／保育者として障害のある子どもや支援を必要とする子どもに保育を行うことの意義を総括する。						
授業計画 備考2							
評価の方法							
	種別	割合	評価基準・その他備考				
	授業への取り組み姿勢/態度	20	意欲的な授業態度、予習・復習の取り組み状況を評価する。				
	演習への取り組み姿勢/態度	20	ワークへの取り組み姿勢や発表内容を授業理解度、目標達成度を基準に評価する。				
	定期試験	60	授業全体の理解度、目標達成度を筆記試験で評価する。				

評価の方法：自由記載	(フィードバック) ○レポート等については、授業中にコメントする。個別の質問等については授業時間の前後に申し出ること。 ○定期試験等についてフィードバックが必要な場合は、担当教員のメールアドレスに個別に申し出ること。 ※授業時間外は学内にはないため。
受講の心得	○この授業では、まずしようがいを知ることから始める。そして、障害のある子どもや保護者の「暮らし」を理解し、その育ちを支えることの意味へと深めていきたいと思う。 ○まずは障害や障害のある子ども、保護者の生活に関心をもつこと。そして、もしも自分自身に障害があったら？ 障害のある子どもに必要な配慮は？ 障害のない子どもやその保護者に伝えるべきことは？ クラス全体ではどのような配慮や工夫が必要か？などの視点をもち授業に臨むこと。
授業外学修	(予習)※90分/週 ○授業内容に該当する教科書の節を読み込み、基本的なことを理解する。授業中、任意に説明を求められることがある。 また、不明点や疑問点をまとめ、質問できるように準備をして授業に臨むこと。 ⇒授業は教科書を一通り読むことを前提に行う。 (復習)※120分/週 (1)毎回の授業内容を自分なりにまとめ直す(どのような授業内容だったのか、自分の言葉で整理する)。 (2)事前学修(予習)内容と授業の内容を振り返り、「理解できたこと」「理解しづらかったこと」「新たな疑問点」を明らかにする。 (3)分からなかったこと「新たな疑問点」を、参考書籍や図書館の雑誌、インターネット等で調べ、自分自身で明らかにする。 ⇒自分で調べても不明な場合、真偽を確認したい場合は、オフィスアワーを活用して担当教員に質問すること。 (発表)※30分/週 ○授業中に関心をもったことやさらに知りたいことを書籍、インターネット等で調べ、学びを深める。 ※学修方法が分からない場合や参考図書を知りたい場合は、翌週の授業前後に質問すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
障害児保育演習ブック	松本峰雄編	ミネルヴァ書房	9784623090686	2640

使用テキスト：自由記載

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
障害と子どもたちの生きるかたち	浜田寿美男著	岩波現代文庫	978-4-00-603179-4	880
障害児保育キーワード100	小川英彦編	福村出版	9784571121319	2200
よく分かる障害児保育第2版	塚崎康子・小林真・水内豊和・阿部美穂子	ミネルヴァ書房	9784623081240	2750
よくわかるインクルーシブ保育	塚崎康子・阿部美穂子・水内豊和	ミネルヴァ書房	9784623087341	2750
わが子は発達障害 心に響く33編の子育て物語	内山登紀夫・明石洋子・高山恵子	ミネルヴァ書房	9784623070077	2200

参考書：自由記載

その他

備考 令和5年度改訂

注意事項

担当教員の業務経験の有無 有

担当教員の業務経験 障害児者やその家族への相談支援、合理的配慮の提供支援(5年)。障害者虐待・障害者差別対応(2年)。障害児者の権利擁護支援、障害理解の普及啓発、障害児支援・保護者支援の助言・指導等(15年)。

担当教員以外で指導に関わる業務経験の有無 無

担当教員以外で指導に関わる業務経験者

業務経験をいかした教育内容 障害児者やその家族に対する相談支援、合理的配慮の経験等を生かして、障害児保育の基礎を養う。

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー-学士力)	評価の観点(到達目標に基づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分レベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 障害児保育の今日的な理念や意義、視点を学び、それを説明することができる。	障害児保育の今日的な理念、意義、視点を、根拠立てて説明することができる。	障害児保育の今日的な理念、意義、視点を、自分の言葉で一通り説明することができる。	障害児保育の今日的な理念、意義、視点を、教員の説明通りに一通り説明することができる。	障害児保育の今日的な理念、意義、視点を、自分の言葉で一通り説明することができる。	障害児保育の今日的な理念、意義、視点を、教員の説明通りに一通り説明することができる。
知識・理解	2. 障害の特性や心身の発達等に応じた支援、合理的配慮の基礎を修得して、実践に向けた第一歩を進みはじめることができる。	障害の特性や発達に応じた支援、配慮方法を、根拠立てて説明することができる。	障害の特性や発達に応じた支援、配慮方法を、自分の言葉で一通り説明することができる。	障害の特性や発達に応じた支援、配慮方法を、教員の説明通りに一通り説明することができる。	障害の特性や発達に応じた支援、配慮方法を、自分の言葉で一通り説明することができる。	障害の特性や発達に応じた支援、配慮方法を、教員の説明通りに一通り説明することができる。
知識・理解	3. 個別支援(指導)計画や家庭(保護者)支援、関係機関との連携・協働の方法を知り、その流れを展開することができる。	個別支援(指導)計画や家庭(保護者)支援、関係機関との連携・協働の方法を、根拠立てて説明することができる。	個別支援(指導)計画や家庭(保護者)支援、関係機関との連携・協働の方法を、自分なりに説明することができる。	個別支援(指導)計画や家庭(保護者)支援、関係機関との連携・協働の方法を、教員の説明通りに説明することができる。	個別支援(指導)計画や家庭(保護者)支援、関係機関との連携・協働の方法を、一部のみ説明できる。	個別支援(指導)計画や家庭(保護者)支援、関係機関との連携・協働の方法をほとんど説明できない。
技能	1. 障害児保育の今日的な理念や意義、視点を学び、それを説明することができる。	障害児保育の今日的な理念、意義、視点を、障害のある子どもやその保護者を、個別にとらえることができる。	障害児保育の今日的な理念、意義、視点を、障害のある子どもやその保護者を、包括的にとらえることができる。	障害児保育の今日的な理念、意義、視点を、障害のある子どもやその保護者をイメージでとらえることができる。	障害児保育の今日的な理念、意義、視点を、障害のある子どもやその保護者をとらえることができる。	障害児保育の今日的な理念、意義、視点を、障害のある子どもやその保護者をとらえることがほとんどできない。
技能	2. 障害の特性や心身の発達等に応じた支援、合理的配慮の基礎を修得して、実践に向けた第一歩を進みはじめることができる。	障害の特性や発達に応じた支援、配慮方法を、根拠立てて行うことができる。	障害の特性や発達に応じた支援、配慮方法を、自分なりに一通り行うことができる。	障害の特性や発達に応じた支援、配慮方法を、教員の説明通りに一通り行うことができる。	障害の特性や発達に応じた支援、配慮方法を、自分なりに一通り行うことができる。	障害の特性や発達に応じた支援、配慮方法を、教員の説明通りに一通り行うことができない。
技能	3. 個別支援(指導)計画や家庭(保護者)支援、関係機関との連携・協働の方法を知り、その流れを展開することができる。	個別支援(指導)計画や家庭(保護者)支援、関係機関との連携・協働の方法を、その流れを根拠立てて展開することができる。	個別支援(指導)計画や家庭(保護者)支援、関係機関との連携・協働の方法を、自分なりに展開することができる。	個別支援(指導)計画や家庭(保護者)支援、関係機関との連携・協働の方法を、教員の説明通りに展開することができる。	個別支援(指導)計画や家庭(保護者)支援、関係機関との連携・協働の方法を、展開できるときと、できないときがある。	個別支援(指導)計画や家庭(保護者)支援、関係機関との連携・協働の方法をほとんど展開できない。
態度	1. 障害児保育の今日的な理念や意義、視点を学び、それを説明することができる。	児童の権利条約・障害者権利条約に則り、障害のある子どもに対する今日的な支援者の価値を、根拠立てて説明することができる。	児童の権利条約・障害者権利条約に則り、障害のある子どもに対する今日的な支援者の価値を、自分の言葉で一通り説明することができる。	児童の権利条約・障害者権利条約に則り、障害のある子どもに対する今日的な支援者の価値を、教員の説明通りに一通り説明することができる。	児童の権利条約・障害者権利条約に則り、障害のある子どもに対する今日的な支援者の価値の一部を説明することができる。	児童の権利条約・障害者権利条約に則り、障害のある子どもに対する今日的な支援者の価値をほとんど説明することができない。

科目名	地域福祉論			授業番号	CQ215	サブタイトル	
教員	佐藤 伸隆						
単位数	2単位	開講年次	4年	開講期	前期	授業形態	講義
必修・選択							選択
授業概要	保育を含む今日の社会福祉は「地域福祉の推進」を目的として実施されている。本授業では、地域福祉の今日的意義と理念を理解するとともに、受講する学生諸氏が将来、放課後児童クラブの支援員や保育所をはじめとする児童福祉施設の保育者として活動するために必要な知識、技術を講義する。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 子ども家庭福祉における地域福祉の今日的意義と理念を説明することができる。 地域連携・協働を実現するため、地域の社会資源を調べ、それをまとめることができる。 子ども家庭福祉の専門職をめざすものとして、地域援助技術（コミュニケーション）を活用し、子ども家庭に関する地域（生活）課題を解決、緩和することができる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学上上の内容のうち、＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。						
授業計画 備考							
回	概要						担当
第1回	今日の地域社会とその課題 ⇒「地域」「地域社会」の意味を理解する。／地域社会の機能を理解する。／地域関係の崩壊と地域社会の機能喪失によって構造的に生じている「地域課題」を理解する。						
第2回	地域福祉の推進(1) ⇒地域福祉の概念と歴史的展開を理解する。／社会福祉法における「地域福祉の推進」の意義と理念を理解する。						
第3回	地域福祉の推進(2) ⇒「地域共生社会」の実現、「地域包括ケアシステム」の構築の意味と住民を主体とした地域福祉推進の関係を考察する。／今日における地域福祉の機能と役割を理解する。						
第4回	地域福祉に関する法令 ⇒社会福祉法における地域福祉の詳細を理解する。／保育所保育指針等と地域・地域社会の関係性を理解する。／放課後児童クラブ運営指針と地域・地域社会の関係性を理解する。／障害（児）関係法令と地域・地域社会の関係性を理解する。						
第5回	ボランティア活動と福祉教育 ⇒ボランティア活動の歴史と阪神淡路大震災「ボランティア元年」を理解する。／今日のボランティア活動の特徴を整理する。／福祉教育の意義と現状を理解する。						
第6回	地域課題を探る ⇒子ども家庭に関する地域（生活）課題を探る。／地域（生活）課題の特徴、傾向を明らかにする。						
第7回	地域福祉の推進機関・団体（社会福祉協議会） ⇒社会福祉協議会の歴史と今日的意義を理解する。／社会福祉協議会の活動原則、機能を理解する。／現在の社会福祉協議会の体制を理解する。／社会福祉協議会の活動と放課後児童クラブ、保育所等の関係性を理解する。						
第8回	地域福祉の推進機関・団体（国・都道府県・市町村と関係団体） ⇒地域福祉に関する国の機関の機能を理解する。／地域福祉に関する都道府県・政令指定都市の機関を理解する。／地域福祉に関する市町村の機関を理解する。／要保児童対策地域協議会・障害者自立支援協議会の役割を理解する。						
第9回	地域福祉の推進機関・団体（民生委員児童委員・福祉委員） ⇒民生委員児童委員の歴史を語る。／民生委員児童委員の役割を理解する。／主任児童委員の役割と活動を理解する。／福祉委員の役割と活動を理解する。／民生委員児童委員・福祉委員の活動と放課後児童クラブ・保育所等の関係性を理解する。						
第10回	地域福祉の推進機関・団体（NPO法人・自治会・中間支援団体・民間企業） ⇒特定非営利活動（NPO）法人の機能と活動を理解する。／自治会（町内会）の機能と活動を理解する。／ボランティアセンター・市民活動支援センターの機能と活動を理解する。／民間企業におけるCSRの現状を理解し、可能性を検討する。						
第11回	地域福祉を推進する専門職 ⇒コミュニケーションの役割と専門性を理解する。／地域支援コーディネーターの役割と専門性を理解する。／ボランティアコーディネーターの役割と専門性を理解する。						
第12回	地域福祉援助技術（コミュニケーション） ⇒コミュニケーションからコミュニケーション・コミュニティ・ソーシャルワークに至る歴史的展開と、それぞれの意義、機能を理解する。／コミュニケーションの展開方法を理解する。						
第13回	地域福祉演習(1) ⇒第6回で抽出、整理した地域（生活）課題の解決方法を検討する。						
第14回	地域福祉演習(2) ⇒演習事例に基づき、「きび町」の地域課題の解決方法を検討する。						
第15回	地域福祉演習(3) ⇒演習事例に基づき、放課後児童クラブ、保育所等における地域（生活）課題を解決する。／放課後児童クラブの支援員、保育所をはじめとする児童福祉施設の保育者等として地域福祉を推進する意味を総括する。						
授業計画 備考2							

評価の方法		
種別	割合	評価基準・その態備考
授業への取り組みの姿勢/態度	20	意欲的な受講態度、予習・復習の取り組み状況の評価する。
課題への取り組みの状況/態度	20	ワーク課題に対する発表態度やその内容を授業理解度、目標達成度を基準に評価する。
定期試験	60	授業全体の理解度、目標達成度を筆記試験で評価する。

評価の方法：自由記載	(フィードバック) ○レポート等については、授業中にコメントする。個別の質問等については授業時間の前後に申し出る。 ○定期試験等についてはフィードバックが必要な場合は、担当教員のメールアドレスに個別に申し出る。 ※授業時間外は学内にはない。
受講の心得	学生の皆さんにとって「地域社会」との関わりは急速、分かつづいものかも知れない。本科目の受講を機に地域を豊かに「地域（社会）」とは何か？「地域社会」にはどのような働きがあるか？を探求してほしい。そして、地域社会が子どもや保護者の生活にどのような影響を与え得るか、放課後児童支援員・保育者等として地域社会にどう関わり、協働していくかを考察してほしい。なによりも、地域福祉論の現場は「地域（社会）」にある。
授業外学修	(予習)※90分/週 ○授業内容に関する部分を参考図書、図書館の雑誌、インターネット等で調べ、自分の関心事と疑問点を明らかにする。 (復習)※120分/週 (1)毎回の授業内容を自分なりにまとめ直す（どのような授業内容だったのか、自分の言葉で整理する）。 (2)事前学修（予習）内容と授業の内容を組み合わせ、「理解できたこと」「理解しづらかったこと」「新たな疑問点」に整理する。 (3)分からなかったこと「新たな疑問点」を、参考書籍や図書館の雑誌、インターネット等で調べ、自分自身で明らかにする。 ⇒自分自身で調べても不明な場合、真偽を確認したい場合は、次の授業で担当教員に質問すること。 (発展)※30分/週 ○授業中に関心をもったことやさらに知りたいことを書籍、インターネット等で調べ、字びを深めること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
新版 よわかる地域福祉	上野谷加代子・松瀬充文・永田祐編	フレーベル館	9784623085927	2640
地域福祉援助をつかむ	岩間伸之・原正樹	有斐閣	9784641177147	2310
保育をひらく「コーディネーター」の視点	まちの保育園「こども園」/東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策センター	フレーベル館	9.78457781502197E+25	1980
「地域に信頼される保育園」になるための調査「～保育園と地域とのかわり状況を把握する～調査報告書	東京都社会福祉協議会保育部調査研究委員会	東京都社会福祉協議会	9784863532793	770

参考書：自由記載

その他

備考 令和5年度改訂

注意事項

担当教員の業務経験の有無 有

担当教員の業務経験 社会福祉協議会の職員として地域福祉推進に従事（15年）・NPO法人の役員として地域福祉推進に関わる（5年）・団体を主宰して地域（福祉）創生とコミュニティソーシャルワークを進めている（13年）。

担当教員以外で指導に関わる業務経験者の有無 無

担当教員以外で指導に関わる業務経験者

業務経験もいかなる教育内容 これまで、さまざまな形で地域福祉推進に関わり続けてきた経験を生かし、受講する学生諸氏が将来、放課後児童クラブの支援員や保育所をはじめとする児童福祉施設での現場に出ることを前提に、具体的、実践的な授業を提供する。

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学土力)	評価の観点 (到達目標に基づき評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 子ども家庭福祉における地域福祉の今日的意義と理念を説明することができる。	地域福祉の今日的意義、理念を、根拠立てて説明することができる。	地域福祉の今日的意義、理念を、自分の言葉で一通り説明することができる。	地域福祉の今日的意義、理念を、教員の説明通りに一通り説明することができる。	地域福祉の今日的意義、理念の一部を説明することができる。	地域福祉の今日的意義、理念を、ほとんど説明できない。
知識・理解	2. 地域連携・協働を実現するため、地域の社会資源を調べ、それをまとめることができる。	地域の社会資源を調べ、まとめる方法を合理的に説明することができる。	地域の社会資源を自分自身で調べ、まとめる方法を自分なりに説明することができる。	地域の社会資源を調べ、まとめる方法を教員の説明通りに説明することができる。	地域の社会資源を調べ、まとめる方法を、一部のみ説明することができる。	地域の社会資源を調べ、まとめる方法をほとんど説明できない。
知識・理解	3. 子ども家庭福祉の専門職として、地域援助技術（コミュニティワーク）を活用し、子ども家庭に関わる地域（生活）課題を解決、緩和することができる。	子ども家庭に関わる地域（生活）課題の解決、緩和方法を、根拠立てて説明することができる。	子ども家庭に関わる地域（生活）課題の解決、緩和方法を、自分なりに説明することができる。	子ども家庭に関わる地域（生活）課題の解決、緩和方法を、教員の説明通りに説明することができる。	子ども家庭に関わる地域（生活）課題の解決、緩和方法を、一部のみ説明することができる。	子ども家庭に関わる地域（生活）課題の解決、緩和方法を、ほとんど説明できない。
思考・問題解決能力	1. 子ども家庭福祉における地域福祉の今日的意義と理念を説明することができる。	地域福祉の今日的意義と理念を、実際の地域社会を例に、根拠立てて考察することができる。	地域福祉の今日的意義と理念を、実際の地域社会を例に、自分なりに考察することができる。	地域福祉の今日的意義と理念を、実際の地域社会を例に、グループで考察することができる。	地域福祉の今日的意義と理念を、実際の地域社会を例に考察することができるが、できないときがある。	地域福祉の今日的意義と理念を、実際の地域社会を例に考察することがほとんどできない。
思考・問題解決能力	2. 地域連携・協働を実現するため、地域の社会資源を調べ、それをまとめることができる。	地域の社会資源の活用、創造方法を考察し、合理的にまとめることができる。	地域の社会資源の活用、創造方法を考察し、自分なりにまとめることができる。	地域の社会資源の活用、創造方法をグループで考察し、まとめることができる。	地域の社会資源の活用、創造方法を考察し、まとめることができるが、できないときがある。	地域の社会資源の活用、創造方法を考察し、まとめることがほとんどできない。
思考・問題解決能力	3. 子ども家庭福祉の専門職として、地域援助技術（コミュニティワーク）を活用し、子ども家庭に関わる地域（生活）課題を解決、緩和することができる。	子ども家庭に関わる生活（地域）課題を、根拠立てて考察することができる。	子ども家庭に関わる生活（地域）課題を、自分なりに考察することができる。	子ども家庭に関わる生活（地域）課題を、グループで考察することができる。	子ども家庭に関わる生活（地域）課題を、考察することができるが、できないときがある。	子ども家庭に関わる生活（地域）課題を、考察することがほとんどできない。
技能	1. 子ども家庭福祉における地域福祉の今日的意義と理念を説明することができる。	地域福祉の今日的意義、理念、視点をもって、地域社会や地域住民、地域（生活）課題を個別にとらえることができる。	地域福祉の今日的意義、理念、視点をもって、地域社会や地域住民、地域（生活）課題を包括的にとらえることができる。	地域福祉の今日的意義、理念、視点をもって、地域社会や地域住民、地域（生活）課題をイメージでとらえることができる。	地域福祉の今日的意義、理念、視点をもって、地域社会や地域住民、地域（生活）課題を考察することができるが、できないときがある。	地域福祉の今日的意義、理念、視点をもって、地域社会や地域住民、地域（生活）課題を、とらえることがほとんどできない。
技能	2. 地域連携・協働を実現するため、地域の社会資源を調べ、それをまとめることができる。	地域の社会資源の活用、創造方法を自分自身で調べ、合理的にまとめることができる。	地域の社会資源の活用、創造方法を自分自身で調べ、自分なりにまとめることができる。	地域の社会資源の活用、創造方法を自分自身で調べ、グループでまとめることができる。	地域の社会資源の活用、創造方法を調べ、まとめることができるが、できないときがある。	地域の社会資源の活用、創造方法を調べ、まとめることがほとんどできない。
技能	3. 子ども家庭福祉の専門職として、地域援助技術（コミュニティワーク）を活用し、子ども家庭に関わる地域（生活）課題を解決、緩和することができる。	子ども家庭に関わる生活（地域）課題を、根拠立てて解決・緩和することができる。	子ども家庭に関わる生活（地域）課題を、自分なりに解決・緩和することができる。	子ども家庭に関わる生活（地域）課題を、教員や友人からの助言を得て解決・緩和することができる。	子ども家庭に関わる生活（地域）課題を、解決・緩和することができるが、できないときがある。	子ども家庭に関わる生活（地域）課題を解決・緩和することがほとんどできない。
態度	1. 子ども家庭福祉における地域福祉の今日的意義と理念を説明することができる。	児童の権利条約に則り、子ども家庭福祉における地域福祉実践者としての価値を、根拠立てて説明することができる。	児童の権利条約に則り、子ども家庭福祉における地域福祉実践者としての価値を、自分の言葉で一通りの説明することができる。	児童の権利条約に則り、子ども家庭福祉における地域福祉実践者としての価値を、教員の説明通りに一通り説明することができる。	児童の権利条約に則り、子ども家庭福祉における地域福祉実践者としての価値の一部を説明することができる。	児童の権利条約に則り、子ども家庭福祉における地域福祉実践者としての価値を、ほとんど説明できない。

2024年度授業概要(シラバス)

科目名	保育計画Ⅰ 1クラス		授業番号	CQ216A	サブタイトル				
教員	岡崎 三鈴								
単位数	1単位	開講年次	がカリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	幼稚園、保育所、認定こども園等がどのような計画に基づいて保育を行っているのかについて、その意義や必要性を説明する。乳幼児の発達的特徴や各年齢にふさわしいカリキュラムについて検討する。さらに、理論的な知識をもとに、実践的な保育技術についての具体的な手法を知り、実践発表を通してスキルを身につけられるよう、保育の計画との関係性を明らかにする。								
到達目標	<p>1. 乳幼児の発達的特徴を理解し、各年齢にふさわしいカリキュラムを立案できる。</p> <p>2. 保育内容の充実と質の向上に資する保育の計画と実践的な方法について身につけられる。</p> <p>3. 乳幼児にふさわしい生活や遊びの時間を構築し、具体的な遊びや生活習慣について理解できる。</p> <p>なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学上力の内容のうち、(知識・理解)(技能)(態度)の修得に貢献する。</p>								
授業計画 備考									
回	概要						担当		
第1回	保育における計画の意義 「保育において計画を立てる意義」、及び「保育の計画の種類と意識化すべき点」を理解する。								
第2回	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の概要 3つのタイプの保育の場、それぞれの機能等について理解する。								
第3回	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の性格と位置づけ 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領で指導計画の編成に関わる点について、どのように示されているかを確認し理解する。								
第4回	指導計画の全体構造について 「保育の計画の種類」、及び「指導計画作成の手続き」や「指導計画作成の前に保育者が理解すべきこと」について理解する。								
第5回	部分指導案の考え方と作成(1) 「短期指導計画の種類」、「短期指導計画の作成原理」について理解する。								
第6回	部分指導案の考え方と作成(2) 「短期指導計画作成におけるねらいの設定」及び「短期指導計画における内容の設定」について理解する。								
第7回	乳児の指導計画作成事例と展開 「0歳児の在籍児童と発達の概要」、「1・2歳児の在籍児童と発達の概要」及び「1・2歳児の指導計画作成の基本的な考え方」について理解する。								
第8回	乳児の指導計画作成事例と作成 「乳児の指導計画作成事例」に基づき、乳児の指導計画の作成を行う。								
第9回	乳児の指導計画作成事例と作成 「1・2歳児の指導計画作成事例」に基づき、1・2歳児の指導計画の作成を行う。								
第10回	幼児の指導計画作成事例と展開と幼児の指導計画作成事例と作成(1) 「幼児の指導計画作成の基本的な考え方」について理解する。 「3歳児の指導計画作成事例」に基づき、3歳児の指導計画の作成を行う。								
第11回	幼児の指導計画作成事例と作成(2) 「4歳児の指導計画作成事例」に基づき、4歳児の指導計画の作成を行う。								
第12回	幼児の指導計画作成事例と作成(3) 「5歳児の指導計画作成事例」に基づき、5歳児の指導計画の作成を行う。								
第13回	長期指導計画の作成 「長期指導計画の種類」、「長期指導計画作成の視点と原理」について理解する。								
第14回	小学校との接続について 小学校との接続を意図した指導計画や小学校におけるスタートカリキュラムについて理解する。								
第15回	まとめ小テスト まとめと内容の理解度を高めるための小テストを行う。								
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その態様						
	授業への取り組みの姿勢/態度	20	意欲的な受講態度、発表・討議への参加、予・復習の状況によって評価する。						
	レポート	30	乳幼児の発達的特徴や、各年齢に応じた保育計画を理解し、幅広い視野で考えられること。提出する指導案・レポートについてはコメントを記入して返却する。						
	小テスト	50	保育計画に関わる知識・理解について評価する。						
	定期試験								
	その他								

評価の方法：自由記載	
受講の心得	子ども理解に努め、柔軟な発想で遊びのレパートリーを増やせるように心がけ、練習を怠らないこと。 指導案を作成する練習を積極的に行うこと。
授業外学習	1. 次回授業まで、毎回授業終了時に出す課題を行い、練習すること。 2. 指導案作成の課題については、実際にシミュレーションし、様々な角度から突き詰めて検討すること。 以上の内容を、適当に2時間以上学習すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
『幼保連携型認定こども園教育・保育要領 幼稚園教育要領 保育所保育指針』	内閣府・文部科学省・厚生労働省	チャイルド本社	9784905402283	本体500円＋税
保育の計画と評価	ト田真一郎	ミネルヴァ書房	9784623079650	本体2500円＋税
使用テキスト：自由記載	『幼稚園教育要領解説』文部科学省 フレーベル館 『保育所保育指針解説』厚生労働省 フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府 フレーベル館			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	適宜紹介する。			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の業務経験の有無				
担当教員の業務経験				
担当教員以外で指導に関わる業務経験者の有無				
担当教員以外で指導に関わる業務経験者				
業務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学土力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 乳幼児の発達的特徴を理解し、各年齢にふさわしいカリキュラムを立案できる。	保育所指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の内容について深く理解しており、実践と保育を関連させ、説明できる。	保育所指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の内容について深く理解しており、実践と保育を関連させている。	保育所指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の内容について基本的な知識を修得して、自分の保育観をもっている。	保育所指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の内容について基本的な知識を修得している。	保育所指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の内容について理解している。
思考・問題解決能力	1. 乳幼児にふさわしい生活や遊びの時間を構造化し、具体的な遊びや生活習慣について理解できる。	乳幼児の発達や遊びについて年齢に応じた指導計画を理解して様々な角度から検討している。	乳幼児の発達や遊びについて年齢に応じた指導計画を理解して幅広い視野で行う。	乳幼児の発達や遊びについて年齢に応じた指導計画を理解して課題に取り組む。	乳幼児の発達や遊びについて年齢に応じた指導計画を理解している。	乳幼児の発達や遊びについて年齢に応じた指導計画の基本的事項については理解している。
技能	1. 保育内容の充実と質の向上に資する保育の計画と実践的な方法について身に付けられる。	子ども理解に努め、柔軟な発想で遊びのレパートリーを増やせるように心掛け、また、指導案作成について積極的に行う。	子ども理解に努め、遊びのレパートリーを増やせるようにしたり指導案作成について取り組んだりする。	子ども理解に努め、遊びについて年齢に応じた指導計画を理解して指導案に取り組む。	子ども理解に努め、指導案作成に取り組む。	指導案作成はできるが、指導内容に十分な理解できていない。
態度	1. 意欲的な受講態度、発表・討議・模擬保育への参加、予習復習をする。	積極的な発表や討議、指導案作成、教材研究など、自ら学ぶ姿勢で意欲的に参加する。	グループで協力し発言や発表、指導案作成、教材研究など、積極的に行う。	グループで協力し発言や発表、指導案作成、教材研究などに取り組む。	グループ内で発言や発表、指導案作成、教材づくりなどに参加する。	グループ内での話し合い、指導案作成、教材作りなどに参加するが、消極的である。

2024年度授業概要(シラバス)

科目名	保育計画Ⅰ 2クラス		授業番号	CQ216B	サブタイトル				
教員	岡崎 三鈴								
単位数	1単位	開講年次	がカリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	幼稚園、保育所、認定こども園等がどのような計画に基づいて保育を行っているのかについて、その意義や必要性を説明する。乳幼児の発達的特徴や各年齢にふさわしいカリキュラムについて検討する。さらに、理論的な知識をもとに、実践的な保育技術についての具体的な手法を知り、実践発表を通してスキルを身につけられるよう、保育の計画との関係性を明らかにする。								
到達目標	<p>1. 乳幼児の発達的特徴を理解し、各年齢にふさわしいカリキュラムを立案できる。</p> <p>2. 保育内容の充実と質の向上に資する保育の計画と実践的な方法について身につけられる。</p> <p>3. 乳幼児にふさわしい生活や遊びの時間を構築し、具体的な遊びや生活習慣について理解できる。</p> <p>なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学上力の内容のうち、(知識・理解)(技能)(態度)の修得に貢献する。</p>								
授業計画 備考									
回	概要						担当		
第1回	保育における計画の意義 「保育において計画を立てる意義」、及び「保育の計画の種類と意識化すべき点」を理解する。								
第2回	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の概要 3つのタイプの保育の場、それぞれの機能等について理解する。								
第3回	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の性格と位置づけ 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領で指導計画の編成に関わることについて、どのように示されているかを確認し理解する。								
第4回	指導計画の全体構造について 「保育の計画の種類」、及び「指導計画作成の手続き」や「指導計画作成の前に保育者が理解すべきこと」について理解する。								
第5回	部分指導案の考え方と作成(1) 「短期指導計画の種類」、「短期指導計画の作成原理」について理解する。								
第6回	部分指導案の考え方と作成(2) 「短期指導計画作成におけるねらいの設定」及び「短期指導計画における内容の設定」について理解する。								
第7回	乳児の指導計画作成事例と展開 「0歳児の在籍児童と発達の概要」、「1・2歳児の在籍児童と発達の概要」及び「1・2歳児の指導計画作成の基本的な考え方」について理解する。								
第8回	乳児の指導計画作成事例と作成 「乳児の指導計画作成事例」に基づき、乳児の指導計画の作成を行う。								
第9回	乳児の指導計画作成事例と作成 「1・2歳児の指導計画作成事例」に基づき、1・2歳児の指導計画の作成を行う。								
第10回	幼児の指導計画作成事例と展開と幼児の指導計画作成事例と作成(1) 「幼児の指導計画作成の基本的な考え方」について理解する。 「3歳児の指導計画作成事例」に基づき、3歳児の指導計画の作成を行う。								
第11回	幼児の指導計画作成事例と作成(2) 「4歳児の指導計画作成事例」に基づき、4歳児の指導計画の作成を行う。								
第12回	幼児の指導計画作成事例と作成(3) 「5歳児の指導計画作成事例」に基づき、5歳児の指導計画の作成を行う。								
第13回	長期指導計画の作成 「長期指導計画の種類」、「長期指導計画作成の視点と原理」について理解する。								
第14回	小学校との接続について 小学校との接続を意図した指導計画や小学校におけるスタートカリキュラムについて理解する。								
第15回	まとめ小テスト まとめと内容の理解度を高めるための小テストを行う。								
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢/態度	20	意欲的な受講態度、発表・討議への参加、予・復習の状況によって評価する。						
	レポート	30	乳幼児の発達的特徴や、各年齢に応じた保育計画を理解し、幅広い視野で考えられること。提出する指導案・レポートについてはコメントを記入して返却する。						
	小テスト	50	保育計画に関わる知識・理解について評価する。						
	定期試験								
	その他								

評価の方法：自由記載	
受講の心得	子ども理解に努め、柔軟な発想で遊びのレパートリーを増やせるように心がけ、練習を怠らないこと。 指導案を作成する練習を積極的に行うこと。
授業外学習	1. 次回授業まで、毎回授業終了時に出す課題を行い、練習すること。 2. 指導案作成の課題については、実際にシミュレーションし、様々な角度から突き詰めて検討すること。 以上の内容を、適当に2時間以上学習すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
『幼保連携型認定こども園教育・保育要領 幼稚園教育要領 保育所保育指針』	内閣府・文部科学省・厚生労働省	チャイルド本社	9784905402283	本体500円＋税
保育の計画と評価	ト田真一郎	ミネルヴァ書房	9784623079650	本体2500円＋税
使用テキスト：自由記載	『幼稚園教育要領解説』文部科学省 フレーベル館 『保育所保育指針解説』厚生労働省 フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府 フレーベル館			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	適宜紹介する。			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の業務経験の有無				
担当教員の業務経験				
担当教員以外で指導に関わる業務経験者の有無				
担当教員以外で指導に関わる業務経験者				
業務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学土力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 乳幼児の発達的特徴を理解し、各年齢にふさわしいカリキュラムを立案できる。	保育所指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の内容について深く理解しており、実践と保育を関連させ、説明できる。	保育所指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の内容について深く理解しており、実践と保育を関連させている。	保育所指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の内容について基本的な知識を修得して、自分の保育観をもってしている。	保育所指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の内容について基本的な知識を修得している。	保育所指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の内容について理解している。
思考・問題解決能力	1. 乳幼児にふさわしい生活や遊びの時間を構造化し、具体的な遊びや生活習慣について理解できる。	乳幼児の発達や遊びについて年齢に応じた指導計画を理解して様々な角度から検討している。	乳幼児の発達や遊びについて年齢に応じた指導計画を理解して幅広い視野で行う。	乳幼児の発達や遊びについて年齢に応じた指導計画を理解して課題に取り組む。	乳幼児の発達や遊びについて年齢に応じた指導計画を理解している。	乳幼児の発達や遊びについて年齢に応じた指導計画の基本的事項については理解している。
技能	1. 保育内容の充実と質の向上に資する保育の計画と実践的な方法について身に付けられる。	子ども理解に努め、柔軟な発想で遊びのレパートリーを増やせるように心掛け、また、指導案作成について積極的に行う。	子ども理解に努め、遊びのレパートリーを増やせるようにしたり指導案作成について取り組んだりする。	子ども理解に努め、遊びについて年齢に応じた指導計画を理解して指導案に取り組む。	子ども理解に努め、指導案作成に取り組む。	指導案作成はできるが、指導内容に十分な理解できていない。
態度	1. 意欲的な受講態度、発表・討議・模擬保育への参加、予習復習をする。	積極的な発表や討議、指導案作成、教材研究など、自ら学ぶ姿勢で意欲的に参加する。	グループで協力し発言や発表、指導案作成、教材研究など、積極的に行う。	グループで協力し発言や発表、指導案作成、教材研究などに取り組む。	グループ内で発言や発表、指導案作成、教材づくりなどに参加する。	グループ内での話し合い、指導案作成、教材作りなどに参加するが、消極的である。

科目名	児童保育論		授業番号	CQ229	サブタイトル	
教員	中田 周作、伊藤 留里					
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態
						講義
						必修・選択
						選択
授業概要	現代の日本社会における子育て支援に関する重要な問題のうちの一つは、子育て家庭の保護者の就労支援である。これを果たすためには、保育所や放課後児童クラブ（児童保育）などの充実が必須である。しかしながら、これまで政策面からも学術的観点からも児童保育は等閑視されてきた。そこで児童保育に関する現状や政策、指導員の役割、児童保育の運営について講義する。					
到達目標	本講義では、まず、児童保育の現状と役割を理解することを目標とする（第1～10回）。次に、児童保育の運営の実態と地域社会との関わりについて理解することを目標とする（第11～15回）。なお、本科目は、ディプロマポリシーに掲げた「学士力のうち<知識・理解>の修得に貢献する。					
授業計画 備考						
回	概要					担当
第1回	児童保育と指導員の資格 放課後児童指導員資格と放課後児童支援員認定資格研修					中田周作
第2回	現代社会における子どもを取り巻く社会状況 子どもが育つ社会環境の現状					中田周作
第3回	子どもたちの放課後の実態 子どもたちの生活時間					中田周作
第4回	児童保育の現状 児童保育と放課後児童健全育成事業は、どのように異なるのか					中田周作
第5回	児童保育の役割 子どもが育つ環境とは 放課後児童支援員の役割 育成支援とは					中田周作
第6回	児童保育に関する法令 児童福祉法 放課後児童健全育成事業の役割と運営に関する基準 放課後児童クラブ運営指針					中田周作
第7回	児童保育に関する制度 放課後児童クラブの運営主体					中田周作
第8回	児童保育の歴史 児童保育から放課後児童健全育成事業へ					中田周作
第9回	指導員の職務と倫理1 放課後児童クラブの社会的責任と職場倫理					中田周作
第10回	指導員の職務と倫理2 需要及び苦情への対応 事業内意向向上への取り組み					中田周作
第11回	児童保育の運営方式 行政の役割と放課後児童クラブの運営主体					中田周作・伊藤留里
第12回	指導員の連携と研修 職員体制					中田周作・伊藤留里
第13回	児童保育と保護者との関わり 保護者との連携					中田周作・伊藤留里
第14回	児童保育と地域との関わり 学校・保育所・幼稚園等との連携 地域・関係機関との連携 学校、児童館を活用して実施する放課後児童クラブ。					中田周作・伊藤留里
第15回	児童保育と子育て支援 子ども家庭福祉のなかの放課後児童クラブ					中田周作・伊藤留里
授業計画 備考2						
評価の方法						
	種別	割合	評価基準・その他備考			
レポート		100	レポート作成の途次に適宜、アドバイスをする。			

評価の方法：自由記載	
受講の心得	児童期の子どもの放課後はどのような実態にあるのか。 他の講義なども参考にしながら、考察を深めること。
授業外学修	本講義は集中講義である。 そのため、集中講義が始まる前までに「放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準」と「放課後児童クラブ運営指針」を読んでおくこと。 事前の総学修時間は、30時間以上とする。 集中講義終了後の復習総学修時間も、30時間以上とする。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
改訂版 放課後児童クラブ運営指針解説書	厚生労働省編	フレーベル館	978-4-577-60017-7	440

使用テキスト：自由記載

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載

その他	
-----	--

備考	
----	--

注意事項	
------	--

担当教員の実務経験の有無	無
--------------	---

担当教員の実務経験	
-----------	--

担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
-----------------------	---

担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
--------------------	--

実務経験をいかした教育内容	
---------------	--

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. 学童保育の制度について理解できている。	学童保育の制度について、その展開の歴史と根拠となる法令を理解している。	学童保育の制度について、その展開の歴史、もしくは根拠となる法令を理解している。	学童保育の制度に関する重要事項について理解している。	学童保育の制度に関するキーワードを覚えていない。	学童保育の制度に関するキーワードを覚えていない。
知識・理解	2. 学童保育に関する法令について理解できている。	学童保育に関する主要な法令と条文を多数、覚えているとともに、その条文がどのように解釈されているのかを理解している。	学童保育に関する主要な法令と条文を多数、覚えている。	学童保育に関する主要な法令と条文をいくつか覚えている。	学童保育に関する主要な法令の名称を覚えていない。	学童保育に関する主要な法令の名称を覚えていない。

科目名	児童保育方法論		授業番号	CQ230	サブタイトル				
教員	住野 好久								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	児童保育方法として、「実践の構造」「実践の内容」「実践の方法」「実践の実際」について学習する。これらについて理論的な枠組みに加えて、実際のエピソードも適宜紹介しながら授業を進めていく。講義を中心としながら、随時グループワーク等も織り交ぜながら取り組んでいく。								
到達目標	児童保育実践の構造、内容、方法を理解するとともに、これらについて実際に活用することができる。 なお、本科目はデプロイポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
回	概要					担当			
第1回	児童保育実践の構造(1)―児童保育の目的 「児童保育」は、何のために、何を目標として支援するのかを学ぶ。								
第2回	児童保育実践の構造(2)―児童保育(育成支援)の要素 児童保育実践を構成する3つの要素「養護」「ケア」「教育」について学ぶ。								
第3回	児童保育実践の内容(1)―「運営指針」における育成支援の内容 「放課後児童クラブ運営指針」は児童保育では何をすることを求めているのかを学ぶ。								
第4回	児童保育実践の内容(2)―「運営指針」における育成支援に含まれる内容 「放課後児童クラブ運営指針」が求めている児童保育における育成支援に含まれる内容を学ぶ。								
第5回	児童保育実践の内容(3)―児童保育と保護者連携 「放課後児童クラブ運営指針」が求めている児童保育と保護者連携について学ぶ。								
第6回	児童保育の対象である児童期の子ども(1)―児童期の発達の特徴 児童保育の対象である児童期の子どもの発達の発達的特徴について学ぶ。								
第7回	児童保育の対象である児童期の子ども(2)―小学校低学年の発達の特徴と児童保育 小学校低学年の子どもの発達の発達的特徴を学んだ上で、低学年の児童保育実践について学ぶ。								
第8回	児童保育の対象である児童期の子ども(3)―小学校中学年の発達の特徴と児童保育 小学校中学年の子どもの発達の発達的特徴を学んだ上で、中学年の児童保育実践について学ぶ。								
第9回	児童保育の対象である児童期の子ども(4)―小学校高学年の発達の特徴と児童保育 小学校高学年の子どもの発達の発達的特徴を学んだ上で、高学年の児童保育実践について学ぶ。								
第10回	児童保育の対象である児童期の子ども(5)―異年齢集団における児童保育実践 様々な発達段階の子どもたちが一緒に遊び、生活する過程を支援する方法を学ぶ。								
第11回	「遊びを通じた児童保育実践(1)―子どもにとっての「遊び」 子どもの発達における「遊び」の意義、及び、子どもの「遊び」権利について学ぶ。								
第12回	「遊びを通じた児童保育実践(2)―子どもの遊びと児童保育の環境づくり 子どもの自主的な遊びを引出し、豊かにする児童保育の環境づくりを学ぶ。								
第13回	「遊びを通じた児童保育実践(3)―子どもの遊びへの支援の方法 子どもの遊びへの指導員の関わり方について、実践事例を通して考える。								
第14回	健康管理・安全対策・緊急時対応(1)―健康管理・安全対策 子どもたちの生命と健康を守る児童保育について学ぶ。								
第15回	健康管理・安全対策・緊急時対応(2)―緊急時対応 児童保育における緊急時の対応について学ぶ。								
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢/態度								
	レポート	50	最後に提出するレポートに、学修した内容を的確にまとめられているとともに、自身の見解や経験についても記述できていること						
	確認テスト	50	授業で学習したことを理解し、課題に対して適切に回答すること						
	定期試験								
	その他								

評価の方法：自由記載	
受講の心得	学童保育実践を理解するということは、学童保育指導員を目指すだけでなく、保育士や小学校教員を目指す方にとっても大いに役立つものである。教職教養を広げるためにも受講してほしい。
授業外学修	テキストを熟読すること。 学童保育に関する情報を、新聞・テレビ・インターネット等を通じて収集すること。 以上の内容を、適当に4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
改訂版 放課後児童クラブ運営指針解説書	厚生労働省	フレーベル館	457760017X	
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. 学童保育実践の構造、内容、方法を理解する。	法令に基づき、実践をふまえて、学童保育実践の構造、内容、方法を説明できる。	法令に基づいて、学童保育実践の構造、内容、方法を説明できる。	学童保育実践の構造、内容、方法を十分理解している。	学童保育実践の構造、内容、方法をだいたい理解している。	学童保育実践の構造、内容、方法を全く理解していない。
思考・問題解決能力	1. 学童保育実践を構想できる。	学童保育の目的・目標と子どもの状況をふまえた学童保育実践をどのように構想すればよいか考えられる。	子どもの状況をふまえた学童保育実践をどのように構想すればよいか考えられる。	学童保育実践をどのように構想すればよいか十分考えられる。	学童保育実践をどのように構想すればよいかおおよそ考えられる。	学童保育実践を全く構想できない。

科目名	社会的養護Ⅱ 1クラス			授業番号	CQ307A	サブタイトル	
教員	青木 幹生						
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	演習
必修・選択	必修・選択						
選択	選択						
授業概要	社会的養護を必要とする子どもたちの実態を伝えるとともに、現在抱えている課題について明らかにする。また、子どもの権利保障の立場に立った実践の具体も伝え、実践に役立つ講義をする。						
到達目標	社会的養護を必要とする子ども達が入所している（あるいは利用している）施設において、日常的に展開されている子どもの生活と職員との支援方法について学び、自ら説明できるようになることを目的とする。また、子どもの心身の成長や発達を保障し、支援するために必要な知識や技術を習得し、児童観や施設養護観について理解できるようにする。なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち「思考・問題解決能力」の修得に貢献する。						
授業計画 備考							
回	概要					担当	
第1回	導入：子どもの権利擁護						
第2回	社会的養護における子どもの理解						
第3回	社会的養護の内容(1) 日常生活支援						
第4回	社会的養護の内容(2) 心理的支援						
第5回	社会的養護の内容(3) 自立支援						
第6回	施設養護の生活特性および実態(1) 乳児院等						
第7回	施設養護の生活特性および実態(2) 障害児施設等						
第8回	家庭養護の生活特性および実態						
第9回	アセスメントと個別支援計画の作成						
第10回	記録および自己評価						
第11回	社会的養護における保育の専門性にかかわる知識・技術とその実践						
第12回	社会的養護にかかわる相談援助の知識・技術とその実践						
第13回	社会的養護におけるソーシャルワーク（知識・技術とその応用）						
第14回	社会的養護における家庭支援						
第15回	まとめ：今後の社会的養護の課題と展望						
授業計画 備考2							
評価の方法							
種別	割合	評価基準・その態備考					
授業への取り組みの姿勢 / 態度	30	授業中に学習内容を踏まえた積極的な質問、あるいは、既存の意見を踏まえた上での自分の考えをしっかりと述べるができるかについて評価する。					
レポート	30	課題に対して適切な理解を得ているかについて評価する。					
小テスト							
定期試験	40	最終的な理解度を評価する。					
その他							

評価の方法：自由記載	
受講の心得	<ul style="list-style-type: none"> 毎回の授業においてしっかりとノートを取り、目的を持って意欲的に取り組むこと。 グループワークでは、積極的に自分の意見を述べること。また、他学生の意見について肯定的、あるいは否定的な考え方をもち、根拠ある説明をすること。
授業外学習	授業中に取った内容を見直し、復習すること。その際、必ず教科書と再度照らし合わせ、足りない文言などを書き足すこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
よびそい支える社会的養護II	中山正雄(監修), 浦田雅夫(編著)	教育情報出版	978-4-909378-07-1	1, 810円+税
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
社会的養護I-II	小宅理沙(監修), 中典子, 湖谷光人, 今井慶宗(編著)	翔雲社	978-4-434-26701-7	2, 780円+税
参考書：自由記載	明日の子供たち (冬冬冬) ぶどうの木 (冬冬冬) 図解で学ぶ保育 社会的養護I, II (明文書林)			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の实務経験	児童養護施設職員(20年) ・主任児童指導員, 基幹的職員, 里親支援専門相談員, 自立支援担当職員, 社会的養育支援室 室長, 児童養護施設 学園長, 児童家庭支援センター及び児童養護施設 統括施設長			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	児童福祉施設等での実務経験(20年)を生かし、現場での支援に近い形で解説を行っていく。			

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー-土力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. 社会的養護の概要を理解している。	社会的養護の概要に関する知識について、正確に理解し述べる事ができる。	社会的養護の概要に関する知識について、ほぼ正確に理解し述べる事ができる。	社会的養護の概要に関する知識について、大體理解し述べる事ができる。	社会的養護の概要に関する知識について、十分な理解が出来ていない。	社会的養護の概要に関する知識について、全く理解できていない。
知識・理解	2. 社会的養護の支援内容を理解している。	社会的養護の支援内容について、正確に理解し述べる事ができる。	社会的養護の支援内容について、ほぼ正確に理解し述べる事ができる。	社会的養護の支援内容について、大體理解し述べる事ができる。	社会的養護の支援内容について、十分な理解が出来ていない。	社会的養護の支援内容について、全く理解できていない。
技能	1. 子どもの権利保障に基づいた支援を展開することができる。	子どもの権利保障に基づいた支援について、正確に展開することができる。	子どもの権利保障に基づいた支援について、ほぼ正確に展開することができる。	子どもの権利保障に基づいた支援について、大體展開することができる。	子どもの権利保障に基づいた支援について、十分に展開することができない。	子どもの権利保障に基づいた支援について、全く展開することができない。
態度	1. 演習に積極的に参加し、学習内容をアウトプットすることができる。	演習内容を、正確にアウトプットできる。	演習内容を、ほぼ正確にアウトプットできる。	演習内容を、大體にアウトプットできる。	演習内容を、十分にアウトプットすることができない。	演習内容を、全くアウトプットすることができない。

科目名	社会的養護Ⅱ 2クラス			授業番号	CQ307B	サブタイトル	
教員	青木 幹生						
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	演習
						必修・選択	選択
授業概要	社会的養護を必要とする子どもたちの実態を伝えるとともに、現在抱えている課題について明らかにする。また、子どもの権利保障の立場に立った実践の具体も伝え、実践に役立つ講義をする。						
到達目標	社会的養護を必要とする子ども達が入所している（あるいは利用している）施設において、日常的に展開されている子どもの生活と職員との支援方法について学び、自ら説明できるようになることを目的とする。また、子どもの心身の成長や発達を保障し、支援するために必要な知識や技術を習得し、児童観や施設養護観について理解できるようにする。なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち「思考・問題解決能力」の修得に貢献する。						
授業計画 備考							
回	概要					担当	
第1回	導入：子どもの権利擁護						
第2回	社会的養護における子どもの理解						
第3回	社会的養護の内容(1) 日常生活支援						
第4回	社会的養護の内容(2) 心理的支援						
第5回	社会的養護の内容(3) 自立支援						
第6回	施設養護の生活特性および実態(1) 乳児院等						
第7回	施設養護の生活特性および実態(2) 障害児施設等						
第8回	家庭養護の生活特性および実態						
第9回	アセスメントと個別支援計画の作成						
第10回	記録および自己評価						
第11回	社会的養護における保育の専門性にかかわる知識・技術とその実践						
第12回	社会的養護にかかわる相談援助の知識・技術とその実践						
第13回	社会的養護におけるソーシャルワーク（知識・技術とその応用）						
第14回	社会的養護における家庭支援						
第15回	まとめ：今後の社会的養護の課題と展望						
授業計画 備考2							
評価の方法							
	種別	割合	評価基準・その態備考				
	授業への取り組みの姿勢/態度	30	授業中に学習内容を踏まえた積極的な質問、あるいは、既存の意見を踏まえた上での自分の考えをしっかりと述べるができるかについて評価する。				
	レポート	30	課題に対して適切な理解を得ているかについて評価する。				
	小テスト						
	定期試験	40	最終的な理解度を評価する。				
	その他						

評価の方法：自由記載	
受講の心得	<ul style="list-style-type: none"> 毎回の授業においてしっかりとノートを取り、目的を持って意欲的に取り組むこと。 グループワークでは、積極的に自分の意見を述べること。また、他学生の意見について肯定的、あるいは否定的な考え方をもち、根拠ある説明をすること。
授業外学習	授業中に取った内容を見直し、復習すること。その際、必ず教科書と再度照らし合わせ、足りない文言などを書き足すこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
よびそい支える社会的養護II	中山正雄(監修)、浦田雅夫(編著)	教育情報出版	978-4-909378-07-1	1, 810円+税
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
社会的養護I-II	小宅理沙(監修)、中典子、湖谷光人、今井慶宗(編著)	翔雲社	978-4-434-26701-7	2, 780円+税
参考書：自由記載	明日の子供たち (冬冬冬) ぶどうの木 (冬冬冬) 図解で学ぶ保育 社会的養護I, II (明文書林)			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の实務経験	児童養護施設職員(20年) ・主任児童指導員、基幹的職員、里親支援専門相談員、自立支援担当職員、社会的養育支援室 室長、児童養護施設 学園長、児童家庭支援センター及び児童養護施設 統括施設長			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	児童福祉施設等での実務経験(20年)を生かし、現場での支援に近い形で解説を行っていく。			

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー-土力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. 社会的養護の概要を理解している。	社会的養護の概要に関する知識について、正確に理解し述べる事ができる。	社会的養護の概要に関する知識について、ほぼ正確に理解し述べる事ができる。	社会的養護の概要に関する知識について、大體理解し述べる事ができる。	社会的養護の概要に関する知識について、十分な理解が出来ていない。	社会的養護の概要に関する知識について、全く理解できていない。
知識・理解	2. 社会的養護の支援内容を理解している。	社会的養護の支援内容について、正確に理解し述べる事ができる。	社会的養護の支援内容について、ほぼ正確に理解し述べる事ができる。	社会的養護の支援内容について、大體理解し述べる事ができる。	社会的養護の支援内容について、十分な理解が出来ていない。	社会的養護の支援内容について、全く理解できていない。
技能	1. 子どもの権利保障に基づいた支援を展開することができる。	子どもの権利保障に基づいた支援について、正確に展開することができる。	子どもの権利保障に基づいた支援について、ほぼ正確に展開することができる。	子どもの権利保障に基づいた支援について、大體展開することができる。	子どもの権利保障に基づいた支援について、十分に展開することができない。	子どもの権利保障に基づいた支援について、全く展開することができない。
態度	1. 演習に積極的に参加し、学習内容をアウトプットすることができる。	演習内容を、正確にアウトプットできる。	演習内容を、ほぼ正確にアウトプットできる。	演習内容を、大體にアウトプットできる。	演習内容を、十分にアウトプットすることができない。	演習内容を、全くアウトプットすることができない。

科目名	子どもの健康と安全 1クラス			授業番号	CQ309A	サブタイトル	
教員	梶谷 優之						
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	演習
必修・選択							必修・選択
選択							
授業概要	子どもの健康増進及び心身の発達を促す保健活動や環境を考へられるようにする。緊急時の対応や事故防止、安全管理について具体的に学べるように、できる限り体験的に学習するよう計画している。						
到達目標	1. 子どもに関わる全ての実践の場において、子どもの発達段階にあわせた環境構成・援助ができるようになることとし、基礎的な技術を身につけることができる。 2. 関連するガイドラインや近年のデータを踏まえ、衛生管理・感染症対策・事故防止・安全対策・災害対策について、具体的に理解できる。 3. 子どもの健康及び安全管理に関わる組織的取組や、保健活動の計画及び評価策について、具体的に理解できる。 なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学上力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉の修得に貢献する。						
授業計画 備考							
回	概要					担当	
第1回	保健的な観点を踏まえた保育の在り方について…子どもの健康と安全管理						
第2回	子どもの事故とその予防						
第3回	子どもの健康と発育(1)→成長発達の一一般原則、形態的発達						
第4回	子どもの健康と発育(2)→運動・精神・生理機能の発達、発育評価						
第5回	子どもの健康と子育てに必要な養護・しつけについて…年齢・発達にあわせた安全教育の重要性						
第6回	日常に必要な養護…特に3歳未満児について						
第7回	子どもの体調不良や傷害発生時の対応と応急処置について						
第8回	子どもに多い病状・病気とその対処および予防 その1 感染症について						
第9回	子どもに多い病状・病気とその対処および予防 その2 感染症予防について						
第10回	子どもに多い病状・病気とその対処および予防 その3 急性・慢性疾患、アレルギー性疾患とその対処						
第11回	乳幼児の救急蘇生法に関する理解と実践						
第12回	個別的な配慮を必要とする子どもと家族へのかかわり方						
第13回	子どもの健康と安全管理する実施体制について…児童虐待の予防と対処						
第14回	保育における保健計画の考え方…計画と実践						
第15回	災害時における保育者の対応について…子どもの心のケア、地域とのかかわり、日常の備え						
授業計画 備考2							
評価の方法							
種別	割合	評価基準・その他備考					
授業への取り組みの姿勢/態度	30	意欲的な授業態度を評価する。					
レポート	20	学修したことを活かしながら、テーマに沿って、自分の意見を論理的に説明できているかを評価する。レポートはコメントを入れて返却する。					
小テスト	10	各回の主要なポイントが十分に理解できているかを評価する。採点后、返却する。					
定期試験	40	最終的な理解度を評価する。					
その他							

評価の方法：自由記載	
受講の心得	グループ毎に行われる演習では、お互いに評価し合っって技術を向上させること。 活動が伴う際は、動きやすい服装・身だしなみで出席すること。 授業終了後、各自で学修内容をノートにまとめて復習しておくこと。
授業外学修	1. 予習として、教科書の授業内容に関わる部分を読み、疑問点を明らかにして授業に臨むこと。 2. 学修したことを復習し、記録をノートにまとめること。関連内容を主体的に探し、学修を深掘りすること。 以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
子どもの健康と安全	大西文子	中山書店	978-4-521-74777-4	2, 200+税
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
病気がみえるvol.6 免疫・感染症・感染症	医療情報科学研究所	メディックメディア	978-4-89632-720-5	3, 500+税
参考書：自由記載	ことば家庭療育「保育所における感染症対策ガイドライン」 ことば家庭療育「教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン」 厚生労働省「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」（2019年改訂版）等			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の業務経験の有無	無			
担当教員の業務経験				
担当教員以外で指導に関わる業務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる業務経験者				
業務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	発達発達的基本的な内容を理解している。	学習した発達発達に関する知識について、正確に理解し述べることができる。	学習した発達発達に関する知識について、正確ではないがほぼ理解し述べることができる。	学習した発達発達に関する知識について、大體述べることができる。	学習した発達発達に関する知識について、正確に述べることができないが、自分の言葉では表現できる。	学習した発達発達に関する知識について、全く表現することができない。
知識・理解	病気や怪我、災害に対する理解	学習した病気や怪我、災害に関する知識について、正確に理解し述べることができる。	学習した病気や怪我、災害に関する知識について、正確ではないがほぼ理解し述べることができる。	学習した病気や怪我、災害に関する知識について、大體述べることができる。	学習した病気や怪我、災害に関する知識について、正確に理解し述べることができないが、自分の言葉では表現できる。	学習した病気や怪我、災害に関する知識について、全く表現することができない。
思考・問題解決能力	子どもの健康や安全に対する課題を見つけ、その解決方法を考えることができる。	課題に対し、論理的整合性を持ち、多角的に考察している。	課題に対し、ほぼ論理的整合性を持った考察を加えている。	課題に対し、自分の考えを述べることができる。	課題に対する結果を述べることができる。	課題を作成したが指示事項に沿っていない。
技能	病気や怪我、災害に対する具体的な対処法の技術習得	それぞれの課題に対する全ての対処法を導出し、それらの技術を正確に実施することができる。	それぞれの課題に対するほとんどの対処法を導出し、それらの技術を実施することができる。	それぞれの課題に対する大體の対処法を抽出し、それらの技術をほとんど実施することができる。	それぞれの課題に対する対処法を十分に抽出できないが、抽出できた技術をほとんど実施することができる。	それぞれの課題に対する対処法を全く抽出できず、技術も実施することができない。

科目名	子どもの健康と安全 2クラス			授業番号	CQ309B	サブタイトル	
教員	梶谷 優之						
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	演習
必修・選択							必修・選択
選択							
授業概要	子どもの健康増進及び心身の発育・発達を促す保健活動や環境を考えられるようにする。緊急時の対応や事故防止、安全管理について具体的に学べるように、できる限り体験的に学習するよう計画している。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 子どもに関わる全ての実践の場において、子どもの発達段階にあわせた環境構成・援助ができるようになることとし、基礎的な技術を身につけることができる。 関連するガイドラインや近年のデータを踏まえ、衛生管理・感染症対策・事故防止・安全対策・災害対策について、具体的に理解できる。 子どもの健康及び安全管理に関わる組織的取組や、保健活動の計画及び評価策について、具体的に理解できる。 なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学上力の内容のうち、<知識・理解> <思考・問題解決能力> <技能> の修得に貢献する。						
授業計画 備考							
回	概要					担当	
第1回	保健的な観点を踏まえた保育の在り方について…子どもの健康と安全管理						
第2回	子どもの事故とその予防						
第3回	子どもの健康と発育(1)→成長発達の一一般原則、形態的発達						
第4回	子どもの健康と発育(2)→運動・精神・生理機能の発達、発育評価						
第5回	子どもの健康と子育てに必要な養護・しつけについて…年齢・発達にあわせた安全教育の重要性						
第6回	日常に必要な養護…特に3歳未満児について						
第7回	子どもの体調不良や傷害発生時の対応と応急処置について						
第8回	子どもに多い病状・病気とその対処および予防 その1 感染症について						
第9回	子どもに多い病状・病気とその対処および予防 その2 感染症予防について						
第10回	子どもに多い病状・病気とその対処および予防 その3 急性・慢性疾患、アレルギー性疾患とその対処						
第11回	乳幼児の救急蘇生法に関する理解と実践						
第12回	個別的な配慮を必要とする子どもと家族へのかかわり方						
第13回	子どもの健康と安全管理する実施体制について…児童虐待の予防と対処						
第14回	保育における保健計画の考え方…計画と実践						
第15回	災害時における保育者の対応について…子どもの心のケア、地域とのかかわり、日常の備え						
授業計画 備考2							
評価の方法							
種別	割合	評価基準・その他備考					
授業への取り組みの姿勢/態度	30	意欲的な授業態度を評価する。					
レポート	20	学修したことを活かしながら、テーマに沿って、自分の意見を論理的に説明できているかを評価する。レポートはコメントを入れて返却する。					
小テスト	10	各回の主要なポイントが十分に理解できているかを評価する。採点后、返却する。					
定期試験	40	最終的な理解度を評価する。					
その他							

評価の方法：自由記載	
受講の心得	グループ毎に行われる演習では、お互いに評価し合って技術を向上させること。 活動が伴う際は、動きやすい服装・身だしなみで出席すること。 授業終了後、各自で学修内容をノートにまとめて復習しておくこと。
授業外学修	1. 予習として、教科書の授業内容に関わる部分を読み、疑問点を明らかにして授業に臨むこと。 2. 学修したことを復習し、記録をノートにまとめること。関連内容を主体的に探し、学修を深掘りすること。 以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
子どもの健康と安全	大西文子	中山書店	978-4-521-74777-4	2, 200+税
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
病気がみえるvol.6 免疫・感染症・感染症	医療情報科学研究所	メディックメディア	978-4-89632-720-5	3, 500+税
参考書：自由記載	ことば家庭療育「保育所における感染症対策ガイドライン」 ことば家庭療育「教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン」 厚生労働省「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」（2019年改訂版）等			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の業務経験の有無	無			
担当教員の業務経験				
担当教員以外で指導に関わる業務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる業務経験者				
業務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	発達発達的基本的な内容を理解している。	学習した発達発達に関する知識について、正確に理解し述べることができる。	学習した発達発達に関する知識について、正確ではないがほぼ理解し述べるができる。	学習した発達発達に関する知識について、大體述べるができる。	学習した発達発達に関する知識について、正確に述べるができないが、自分の言葉では表現できる。	学習した発達発達に関する知識について、全く表現することができない。
知識・理解	病気や怪我、災害に対する理解	学習した病気や怪我、災害に関する知識について、正確に理解し述べるができる。	学習した病気や怪我、災害に関する知識について、正確ではないがほぼ理解し述べることができる。	学習した病気や怪我、災害に関する知識について、大體述べるができる。	学習した病気や怪我、災害に関する知識について、正確に理解し述べるができないが、自分の言葉では表現できる。	学習した病気や怪我、災害に関する知識について、全く表現することができない。
思考・問題解決能力	子どもの健康や安全に対する課題を見つけ、その解決方法を考えることができる。	課題に対し、論理的整合性を持ち、多角的に考察している。	課題に対し、ほぼ論理的整合性を持った考察を加えている。	課題に対し、自分の考えを述べるができる。	課題に対する結果を述べるができる。	課題を作成したが指示事項に沿っていない。
技能	病気や怪我、災害に対する具体的な対処法の技術習得	それぞれの課題に対する全ての対処法導出し、それらの技術を正確に実施することができる。	それぞれの課題に対するほとんどの対処法導出し、それらの技術を実施することができる。	それぞれの課題に対する大體の対処法を抽出し、それらの技術をほとんど実施することができる。	それぞれの課題に対する対処法を十分に抽出できないが、抽出できた技術をほとんど実施することができる。	それぞれの課題に対する対処法を全く抽出できず、技術も実施することができない。

科目名	子どもの食と栄養Ⅱ 1クラス(隔週)			授業番号	CQ311A	サブタイトル	
教員	下田 福恵						
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	演習
必修・選択							必修・選択
選択							
授業概要	乳幼児期は、心と体の健やかな成長・発育に重要な時期である。前期に習得した栄養の基礎をもとに実習、演習を通して小児の各時期に応じた栄養の実態を学ぶ。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・保育士として必要な「健康と栄養」に関する基礎知識を理解し、保育場面に活用できる。 ・小児の成長発育が栄養摂取と大きく関連していることが理解できる。 ・月齢、年齢に応じた特性や栄養摂取の重要性を理解し、調乳、離乳食、幼児食、おやつなどの調理ができる。 ・食事(バランスガイド)を理解し、食生活を見直し、適切な食生活に向けて努力できる。 なお、本科目はディプロマショーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解>の修得に貢献する。						
授業計画 備考							
回	概要					担当	
第1回	栄養の定義と実践方法 前期に学んだ栄養素の振り返りと実生活での活用方法を考える。 調理の基本（おやつ調理） 幼児にふさわしいおやつ基礎を学ぶ。						
第2回	栄養の定義と実践方法 前期に学んだ栄養素の振り返りと実生活での活用方法を考える。 調理の基本（おやつ調理） 幼児にふさわしいおやつ基礎を学ぶ。						
第3回	献立作成と食生活の評価 栄養(バランス)の整った食事の実態を食事(バランス)ガイド、食育SATを利用し説明できるようにする。 食事(バランス)ガイドに関するレポート提出。						
第4回	献立作成と食生活の評価 栄養(バランス)の整った食事の実態を食事(バランス)ガイド、食育SATを利用し説明できるようにする。 食事(バランス)ガイドに関するレポート提出。						
第5回	乳児期の栄養について 乳汁栄養（母乳、育児用ミルク）について理解する。 離乳期までの口腔内発達を理解し、確認する。 調乳と市販離乳食の試食						
第6回	乳児期の栄養について 乳汁栄養（母乳、育児用ミルク）について理解する。 離乳期までの口腔内発達を理解し、確認する。 調乳と市販離乳食の試食						
第7回	離乳期の栄養について 離乳食の必要性、適切な形態、栄養、介助を発達段階に応じて理解する。 離乳食の調理と試食						
第8回	離乳期の栄養について 離乳食の必要性、適切な形態、栄養、介助を発達段階に応じて理解する。 離乳食の調理と試食						
第9回	幼児の栄養、食生活について理解する。 保育現場で発生する食に関する事故と予防について考える。 幼児食の調理と試食						
第10回	幼児の栄養、食生活について理解する。 保育現場で発生する食に関する事故と予防について考える。 幼児食の調理と試食						
第11回	食品表示を理解し適切な選択が出来るようになる。 保育所給食、お弁当について理解する。 非常時の食について理解し、非常食の実習試食を行う。 幼児にふさわしいお弁当を作成、レポート提出。						
第12回	食品表示を理解し適切な選択が出来るようになる。 保育所給食、お弁当について理解する。 非常時の食について理解し、非常食の実習試食を行う。 幼児にふさわしいお弁当を作成、レポート提出。						
第13回	保育所における食育について 食育基本法、食育推進基本計画を理解する。 食物アレルギーについて 機序、アレルギー、注意点を理解し予防方法を考える。 アレルギーに対応したおやつ調理と試食						
第14回	保育所における食育について 食育基本法、食育推進基本計画を理解する。 食物アレルギーについて 機序、アレルギー、注意点を理解し予防方法を考える。 アレルギーに対応したおやつ調理と試食						
第15回	後期の内容の振り返り。 小テスト。						
授業計画 備考2							
評価の方法							
	種別	割合	評価基準・その他備考				
	レポート	50	講義内容を正しく理解し、必要項目が全て記載されている事、自分の意見、課題等が書かれている事の評価する。コメントを記入して返却する。				
	小テスト	50	重点項目について確認する。				

評価の方法：自由記載	
受講の心得	保育士という専門性の高い職業を目指す学生としての意識を持ち、英語・演習に積極的に参加し、レポートは一つの書類と考え丁寧に書き提出すること。
授業外学習	指定回のレポートを作成すること。 離乳食、幼児食は学ぶ内容が多岐に渡るためテキスト、参考資料を読み込み丁寧に復習をすること。 授業のレポート及び課題、次の授業範囲の予習を週当たり4時間以上行うこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
子どもの食と栄養	太田百合子他	羊土社	9784762458415	2640
使用テキスト：自由記載	『子どもの食と栄養』、羊土社（子どもの食と栄養1で使ったものと同じ）			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の業務経験の有無	有			
担当教員の業務経験	専門学校講師（30年）			
担当教員以外で指導に関わる業務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる業務経験者				
業務経験をいかした教育内容	学生が保育士として必要な食の知識、調理技術が保育の現場で実践できるよう各項目に組み入れる。また乳幼児の保護者の視点からも考える力を身に付ける。			

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学土力)	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. 保育士として必要な「健康と栄養」に関する基礎知識を理解し、保育場面に活用できる。	学修した健康と栄養に関する知識について、正確に理解し述べるができる。	学修した健康と栄養に関する知識について、正確ではないがほぼ理解し述べるができる。	学修した健康と栄養に関する知識について、大体述べるができる。	学修した健康と栄養に関する知識について正確に述べることはできないが、自分の言葉では表現できる。	学修した健康と栄養に関する知識について全く表現することができない。
知識・理解	2. 小児の成長発育が栄養摂取と大きく関連していることが理解できる。	学修した健康的な小児の成長発育と栄養摂取の関連について、正確に理解し述べるができる。	学修した健康的な小児の成長発育と栄養摂取の関連について、正確ではないがほぼ理解し述べるができる。	学修した健康的な小児の成長発育と栄養摂取の関連について、大体述べるができる。	学修した健康的な小児の成長発育と栄養摂取の関連について正確に述べることはできないが、自分の言葉では表現できる。	学修した健康的な小児の成長発育と栄養摂取の関連について、全く表現することができない。
知識・理解	3. 月齢、年齢に応じた特性や栄養摂取の重要性を理解し、調乳、離乳食、幼児食、おやつなどの調理ができる。	小児の特性や栄養摂取の重要性と実際の食形態について、正確に理解しており、適切に表現し課題を提出している。	小児の特性や栄養摂取の重要性と実際の食形態について、正確ではないがほぼ理解しており、適切に表現し課題を提出している。	小児の特性や栄養摂取の重要性と実際の食形態について、ほぼ理解しており適切な表現が不十分ではあるが課題を提出している。	小児の特性や栄養摂取の重要性と実際の食形態について、理解、適切な表現がいずれも不十分であり課題を提出していない。	小児の特性や栄養摂取の重要性と実際の食形態について、理解、適切な表現がいずれも不十分であり課題を提出している。
知識・理解	4. 食事バランスガイドを理解し、食生活を見直し、適切な食生活に向けて努力できる。	食事バランスガイドについて正確に理解しており、適切に表現し課題を提出している。	食事バランスガイドについて正確ではないがほぼ理解しており、適切に表現し課題を提出している。	食事バランスガイドについてほぼ理解しており、適切な表現が不十分ではあるが課題を提出している。	食事バランスガイドについて理解、適切な表現がいずれも不十分であり課題を提出している。	食事バランスガイドについて理解、適切な表現がいずれも不十分であり課題を提出していない。

科目名	子どもの食と栄養Ⅱ 2クラス(隔週)			授業番号	CQ311B	サブタイトル	
教員	下田 福恵						
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	演習
必修・選択							必修・選択
選択							
授業概要	乳幼児期は、心と体の健やかな成長・発育に重要な時期である。前期に習得した栄養の基礎をもとに実習、演習を通して小児の各時期に応じた栄養の実践を学ぶ。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・保育士として必要な「健康と栄養」に関する基礎知識を理解し、保育場面に活用できる。 ・小児の成長発育が栄養摂取と大きく関連していることが理解できる。 ・月齢、年齢に応じた特性や栄養摂取の重要性を理解し、調乳、離乳食、幼児食、おやつなどの調理ができる。 ・食事(バランスガイド)を理解し、食生活を見直し、適切な食生活に向けて努力できる。 なお、本科目はディプロマショーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解>の修得に貢献する。						
授業計画 備考							
回	概要					担当	
第1回	栄養の定義と実践方法 前期に学んだ栄養素の振り返りと実生活での活用方法を考える。 調理の基本（おやつ調理） 幼児にふさわしいおやつ基礎を学ぶ。						
第2回	栄養の定義と実践方法 前期に学んだ栄養素の振り返りと実生活での活用方法を考える。 調理の基本（おやつ調理） 幼児にふさわしいおやつ基礎を学ぶ。						
第3回	献立作成と食生活の評価 栄養(バランス)の整った食事の実際を食事(バランス)ガイド、食育SATを利用して説明できるようにする。 食事(バランス)ガイドに関するレポート提出。						
第4回	献立作成と食生活の評価 栄養(バランス)の整った食事の実際を食事(バランス)ガイド、食育SATを利用して説明できるようにする。 食事(バランス)ガイドに関するレポート提出。						
第5回	乳児期の栄養について 乳汁栄養（母乳、育児用ミルク）について理解する。 離乳期までの口腔内発達を理解し、確認する。 調乳と市販離乳食の試食						
第6回	乳児期の栄養について 乳汁栄養（母乳、育児用ミルク）について理解する。 離乳期までの口腔内発達を理解し、確認する。 調乳と市販離乳食の試食						
第7回	離乳期の栄養について 離乳食の必要性、適切な形態、栄養、介助を発達段階に応じて理解する。 離乳食の調理と試食						
第8回	離乳期の栄養について 離乳食の必要性、適切な形態、栄養、介助を発達段階に応じて理解する。 離乳食の調理と試食						
第9回	幼児の栄養、食生活について理解する。 保育現場で発生する食に関する事故と予防について考える。 幼児食の調理と試食						
第10回	幼児の栄養、食生活について理解する。 保育現場で発生する食に関する事故と予防について考える。 幼児食の調理と試食						
第11回	食品表示を理解し適切な選択が出来るようになる。 保育所給食、お弁当について理解する。 非常時の食について理解し、非常食の実習試食を行う。 幼児にふさわしいお弁当を作成、レポート提出。						
第12回	食品表示を理解し適切な選択が出来るようになる。 保育所給食、お弁当について理解する。 非常時の食について理解し、非常食の実習試食を行う。 幼児にふさわしいお弁当を作成、レポート提出。						
第13回	保育所における食育について 食育基本法、食育推進基本計画を理解する。 食物アレルギーについて 機序、アレルギー、注意点を理解し予防方法を考える。 アレルギーに対応したおやつ調理と試食						
第14回	保育所における食育について 食育基本法、食育推進基本計画を理解する。 食物アレルギーについて 機序、アレルギー、注意点を理解し予防方法を考える。 アレルギーに対応したおやつ調理と試食						
第15回	後期の内容の振り返り。 小テスト。						
授業計画 備考2							
評価の方法							
	種別	割合	評価基準・その他備考				
	レポート	50	講義内容を正しく理解し、必要項目が全て記載されている事、自分の意見、課題等が書かれている事の評価する。コメントを記入して返却する。				
	小テスト	50	重点項目について確認する。				

評価の方法：自由記載	
受講の心得	保育士という専門性の高い職業を目指す学生としての意識を持ち、英語・演習に積極的に参加し、レポートは一つの書類と考え丁寧に書き提出すること。
授業外学習	指定回のレポートを作成すること。 離乳食、幼児食は学ぶ内容が多岐に渡るためテキスト、参考資料を読み込み丁寧に復習をすること。 授業のレポート及び課題、次の授業範囲の予習を適当に4時間以上行うこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
子どもの食と栄養	太田百合子他	羊土社	9784762458415	2640
使用テキスト：自由記載	『子どもの食と栄養』、羊土社（子どもの食と栄養1で使ったものと同じ）			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の業務経験の有無	有			
担当教員の業務経験	専門学校講師（30年）			
担当教員以外で指導に関わる業務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる業務経験者				
業務経験をいかした教育内容	学生が保育士として必要な食の知識、調理技術が保育の現場で実践できるよう各項目に組み入れる。また乳幼児の保護者の視点からも考える力を身に付ける。			

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学土力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. 保育士として必要な「健康と栄養」に関する基礎知識を理解し、保育場面に活用できる。	学修した健康と栄養に関する知識について、正確に理解し述べることができる。	学修した健康と栄養に関する知識について、正確ではないがほぼ理解し述べることができる。	学修した健康と栄養に関する知識について、大体述べることができる。	学修した健康と栄養に関する知識について正確に述べることができないが、自分の言葉では表現できる。	学修した健康と栄養に関する知識について全く表現することができない。
知識・理解	2. 小児の成長発育が栄養摂取と大きく関連していることが理解できる。	学修した健康的な小児の成長発育と栄養摂取の関連について、正確に理解し述べることができる。	学修した健康的な小児の成長発育と栄養摂取の関連について、正確ではないがほぼ理解し述べることができる。	学修した健康的な小児の成長発育と栄養摂取の関連について、大体述べることができる。	学修した健康的な小児の成長発育と栄養摂取の関連について正確に述べることができないが、自分の言葉では表現できる。	学修した健康的な小児の成長発育と栄養摂取の関連について、全く表現することができない。
知識・理解	3. 月齢、年齢に応じた特性や栄養摂取の重要性を理解し、調乳、離乳食、幼児食、おやつなどの調理ができる。	小児の特性や栄養摂取の重要性と実際の食形態について、正確に理解しており、適切に表現し課題を提出している。	小児の特性や栄養摂取の重要性と実際の食形態について、正確ではないがほぼ理解しており、適切に表現し課題を提出している。	小児の特性や栄養摂取の重要性と実際の食形態について、ほぼ理解しており適切な表現が不十分ではあるが課題を提出している。	小児の特性や栄養摂取の重要性と実際の食形態について、理解、適切な表現がいずれも不十分であり課題を提出していない。	小児の特性や栄養摂取の重要性と実際の食形態について、理解、適切な表現がいずれも不十分であり課題を提出している。
知識・理解	4. 食事バランスガイドを理解し、食生活を見直し、適切な食生活に向けて努力できる。	食事バランスガイドについて正確に理解しており、適切に表現し課題を提出している。	食事バランスガイドについて正確ではないがほぼ理解しており、適切に表現し課題を提出している。	食事バランスガイドについてほぼ理解しており、適切な表現が不十分ではあるが課題を提出している。	食事バランスガイドについて理解、適切な表現がいずれも不十分であり課題を提出している。	食事バランスガイドについて理解、適切な表現がいずれも不十分であり課題を提出していない。

科目名	保育計画Ⅱ 1クラス		授業番号	CQ317A	サブタイトル				
教員	岡崎 三鈴								
単位数	1単位	開講年次	1/2	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	指導計画の作成の在り方や評価の基礎的理論を説明する。また、基本的な理論を理解した上で、各グループで作成した指導案に沿って模擬保育を実施する。その模擬保育を通して具体的な指導方法を身につけ、「その遊びによって何が育つのか」「ねらいに対する保育者の関わりや配慮、援助」を分析しながら子どもの発達にふさわしい遊びを検討し、提案できるように解説する。								
到達目標	1. 指導計画の作成について具体的に理解できる。 2. 子どもの発達過程や特徴の理解を基に、子どもの育ちも見通した質の高い指導計画を立案できる。 3. 計画、実践、省察・評価、改善の過程において、その全体構造をとらえ、実践できる。 なお、本科目はアイプロマポリシーに掲げた学上力の内容のうち、＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
回	概要					担当			
第1回	指導計画の作成の手続き 「指導計画の作成の基本的な手続き」,「指導計画作成の前に保育者が理解すべきこと」について理解する。								
第2回	保育所・認定こども園等の全体的な計画の作成の基本原則と方法 「全体的な計画とは」,「全体的な内容と編成の原則」,「編成の実際」について理解する。								
第3回	長期・短期指導計画の作成について 「長期指導計画とは」,「長期指導計画の作成原理」,「年間・期・月の指導計画作成原理」について理解する。								
第4回	乳児の指導計画の作成と展開 「乳児の指導計画の作成の基本的な考え方」,「乳児の指導計画作成事例」について理解する。								
第5回	幼児の指導計画の作成と展開 「幼児の指導計画の作成の基本的な考え方」,「幼児の指導計画作成事例」について理解する。								
第6回	異年齢保育を意図した指導計画と展開 「異年齢保育の意義」,「異年齢保育の指導計画の作成の基本的な考え方」,「異年齢保育の指導計画作成事例」について理解する。								
第7回	保育の省察及び記録とカンファレンス 「保育評価の意義」,「保育の評価と反省」,「保育カンファレンス」について理解する。								
第8回	指導案の作成 (グループワーク) 「絵本の活動についての指導案作成事例の紹介と模擬保育」,「絵本の活動についての指導案作成」を行う。								
第9回	作成した指導案に基づいた模擬保育・反省と評価 グループごとに絵本の活動についての指導案に基づいた模擬保育を行う。								
第10回	指導案の作成 (グループワーク) 「0・1・2歳児の活動についての指導案作成事例の紹介と模擬保育」,「0・1・2歳児の活動についての指導案作成」を行う。								
第11回	作成した指導案に基づいた模擬保育・反省と評価 グループごとに0・1・2歳児の活動についての指導案に基づいた模擬保育を行う。								
第12回	指導案の作成 (グループワーク) 「3・4・5歳児の活動についての指導案作成事例の紹介と模擬保育」,「3・4・5歳児の活動についての指導案作成」を行う。								
第13回	作成した指導案に基づいた模擬保育・反省と評価 グループごとに3・4・5歳児の活動についての指導案に基づいた模擬保育を行う。								
第14回	異年齢保育の指導案作成 「異年齢保育の活動についての指導案作成事例の紹介と模擬保育」,「異年齢保育の活動についての指導案作成」を行う。								
第15回	模擬保育及び全体を通しての評価と改善 指導案作成と模擬保育についてのまとめを行う。								
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢/態度	20	意欲的な受講態度、発表・討議・模擬保育への参加、予・復習の状況によって評価する。						
	レポート	30	提出する指導案複数と模擬保育についてのレポートの内容を評価する。指導案、レポートについてはコメントを記入して返却する。						
	小テスト								
	定期試験	50	保育計画に関する知識・理解について評価する。						
	その他								

評価の方法：自由記載	
受講の心得	グループ内で協力し、積極的に発言や発表を行い、自ら学ぶ姿勢で臨むこと。 指導案を作成する練習を積極的に行うこと。 模擬保育の準備、練習を怠らないこと。
授業外学習	1. 指導案作成の課題については、実際にシミュレーションし、様々な角度から突き詰めて検討すること。 2. 模擬保育については、グループ内で協力し合い、準備・練習を怠らないこと。 以上の内容を、適当に2時間以上学習すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
保育の計画と評価	ト田真一郎	ミネルヴァ書房	9784623079650	本体2500 + 税
使用テキスト：自由記載	『幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼稚園教育要領、保育所保育指針』チャイルド本社 『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 『保育所保育指針解説』フレーベル館			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	『遊びの指導』幼少年教育研究所 同文書院 その他、適宜紹介する。			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無				
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. 指導計画の作成について具体的に理解できる。	園の方針と園の乳幼児の実態に合わせて、全体的な計画を作成・改善するなど、保育を実践するためのカリキュラムを理解し実践できる。	園の方針と園の乳幼児の実態に合わせて、全体的な計画を作成・改善するなど、カリキュラムを実践できる。	全体的な計画を作成するための基本的な知識を修得しており、全体的な計画に合わせて自分の保育を計画・実践し、見直すことができる。	園の全体的な計画について理解することができ、それらに合わせて自分の保育を計画・実践し、見直すことができる。	全体的な計画について基本的な知識とP D C Aサイクル及びカリキュラムマネジメントについて理解している。
思考・問題解決能力	1. 子どもの発達過程や特徴の理解を基にして、子どもの育ちを見通した質の高い指導計画の立案ができる。	5領域のねらいと内容を設定し、個々の乳幼児やクラス全体の実態に合わせて、的確に配慮しながら援助・指導ができ、乳幼児の主体性を伸ばし、ねらいを達成するための効果的な展開ができる。	5領域のねらいと内容を理解し、個々の乳幼児やクラス全体の実態に合わせて、指導計画を立て、乳幼児の主体性を伸ばすための臨機応変な展開ができる。	5領域に関するのねらいと内容を理解し、個々の乳幼児やクラス全体の実態に合わせて、援助・指導の工夫ができています。	5領域に関するのねらいと内容を理解し、個々の乳幼児やクラス全体の実態に合わせて、援助・指導の工夫ができる。	5領域に関する援助・指導の基本的な知識について理解している。
技能	1. 計画、実践、省察・評価、改善の過程について、その全体構造を伝え、実践できる。	乳幼児の実態に合わせて、全体的な計画を作成・実践・評価・改善するなど、保育を実践するためのカリキュラムを理解し実践できる。	乳幼児の実態に合わせて、全体的な計画を作成・実践・評価・改善するなど、カリキュラムを実践できる。	全体的な計画を作成するための基本的な知識を修得しており、全体的な計画に合わせて自分の保育を計画・実践し、見直すことができる。	全体的な計画について理解することができ、それらに合わせて自分の保育を計画・実践し、見直すことができる。	全体的な計画について基本的な知識とカリキュラムマネジメントについて理解している。
態度	1. 意欲的な受講態度、発表・討議・模擬保育への参加をする。	積極的な発表や討議、指導案作成、模擬保育など、自ら学ぶ姿勢で意欲的に参加する。	グループで協力し発言や発表、指導案作成、模擬保育など、積極的に参加する。	グループで協力し発言や発表、指導案作成、模擬保育などに取り組む。	グループ内で発言や発表、指導案作成、模擬保育などに参加する。	グループ内での話し合い、指導案作成、模擬保育などに参加する。

科目名	保育計画Ⅱ 2クラス		授業番号	CQ317B	サブタイトル				
教員	岡崎 三鈴								
単位数	1単位	開講年次	1/2	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	指導計画の作成の在り方や評価の基礎的理論を説明する。また、基本的な理論を理解した上で、各グループで作成した指導案に沿って模擬保育を実施する。その模擬保育を通して具体的な指導方法を身につけ、「その遊びによって何が育つのか」「ねらいに対する保育者の関わりや配慮、援助」を分析しながら子どもの発達にふさわしい遊びを検討し、提案できるよう解説する。								
到達目標	1. 指導計画の作成について具体的に理解できる。 2. 子どもの発達過程や特徴の理解を基に、子どもの育ちも見通した質の高い指導計画を立案できる。 3. 計画、実践、省察・評価、改善の過程において、その全体構造をたえず、実践できる。 なお、本科目はアイプロマポリシーに掲げた学上力の内容のうち、＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
回	概要					担当			
第1回	指導計画の作成の手続き 「指導計画の作成の基本的な手続き」,「指導計画作成の前に保育者が理解すべきこと」について理解する。								
第2回	保育所・認定こども園等の全体的な計画の作成の基本原理と方法 「全体的な計画とは」,「全体的な内容と編成の原則」,「編成の実際」について理解する。								
第3回	長期・短期指導計画の作成について 「長期指導計画とは」,「長期指導計画の作成原理」,「年間・期・月の指導計画作成原理」について理解する。								
第4回	乳児の指導計画の作成と展開 「乳児の指導計画の作成の基本的な考え方」,「乳児の指導計画作成事例」について理解する。								
第5回	幼児の指導計画の作成と展開 「幼児の指導計画の作成の基本的な考え方」,「幼児の指導計画作成事例」について理解する。								
第6回	異年齢保育を意図した指導計画と展開 「異年齢保育の意義」,「異年齢保育の指導計画の作成の基本的な考え方」,「異年齢保育の指導計画作成事例」について理解する。								
第7回	保育の省察及び記録とカンファレンス 「保育評価の意義」,「保育の評価と反省」,「保育カンファレンス」について理解する。								
第8回	指導案の作成（グループワーク） 「絵本の活動についての指導案作成事例の紹介と模擬保育」,「絵本の活動についての指導案作成」を行う。								
第9回	作成した指導案に基づいた模擬保育・反省と評価 グループごとに絵本の活動についての指導案に基づいた模擬保育を行う。								
第10回	指導案の作成（グループワーク） 「0・1・2歳児の活動についての指導案作成事例の紹介と模擬保育」,「0・1・2歳児の活動についての指導案作成」を行う。								
第11回	作成した指導案に基づいた模擬保育・反省と評価 グループごとに0・1・2歳児の活動についての指導案に基づいた模擬保育を行う。								
第12回	指導案の作成（グループワーク） 「3・4・5歳児の活動についての指導案作成事例の紹介と模擬保育」,「3・4・5歳児の活動についての指導案作成」を行う。								
第13回	作成した指導案に基づいた模擬保育・反省と評価 グループごとに3・4・5歳児の活動についての指導案に基づいた模擬保育を行う。								
第14回	異年齢保育の指導案作成 「異年齢保育の活動についての指導案作成事例の紹介と模擬保育」,「異年齢保育の活動についての指導案作成」を行う。								
第15回	模擬保育及び全体を通しての評価と改善 指導案作成と模擬保育についてのまとめを行う。								
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢/態度	20	意欲的な受講態度、発表・討議・模擬保育への参加、予・復習の状況によって評価する。						
	レポート	30	提出する指導案複数と模擬保育についてのレポートの内容を評価する。指導案、レポートについてはコメントを記入して返却する。						
	小テスト								
	定期試験	50	保育計画に関する知識・理解について評価する。						
	その他								

評価の方法：自由記載	
受講の心得	グループ内で協力し、積極的に発言や発表を行い、自ら学ぶ姿勢で臨むこと。 指導案を作成する練習を積極的に行うこと。 模擬保育の準備、練習を怠らないこと。
授業外学習	1. 指導案作成の課題については、実際にシミュレーションし、様々な角度から突き詰めて検討すること。 2. 模擬保育については、グループ内で協力し合い、準備・練習を怠らないこと。 以上の内容を、適当に2時間以上学習すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
保育の計画と評価	ト田真一郎	ミネルヴァ書房	9784623079650	本体2500 + 税
使用テキスト：自由記載	『幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼稚園教育要領、保育所保育指針』チャイルド本社 『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 『保育所保育指針解説』フレーベル館			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	『遊びの指導』幼少年教育研究所 同文書院 その他、適宜紹介する。			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無				
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. 指導計画の作成について具体的に理解できる。	園の方針と園の乳幼児の実態に合わせて、全体的な計画を作成・改善するなど、保育を実践するためのカリキュラムを理解し実践できる。	園の方針と園の乳幼児の実態に合わせて、全体的な計画を作成・改善するなど、カリキュラムを実践できる。	全体的な計画を作成するための基本的な知識を修得しており、全体的な計画に合わせて自分の保育を計画・実践し、見直すことができる。	園の全体的な計画について理解することができ、それらに合わせて自分の保育を計画・実践し、見直すことができる。	全体的な計画について基本的な知識とP D C Aサイクル及びカリキュラムマネジメントについて理解している。
思考・問題解決能力	1. 子どもの発達過程や特徴の理解を基にして、子どもの育ちを見通した質の高い指導計画の立案ができる。	5領域のねらいと内容を設定し、個々の乳幼児やクラス全体の実態に合わせて、的確に配慮しながら援助・指導ができ、乳幼児の主体性を伸ばし、ねらいを達成するための効果的な展開ができる。	5領域のねらいと内容を理解し、個々の乳幼児やクラス全体の実態に合わせて、指導計画を立て、乳幼児の主体性を伸ばすための臨機応変な展開ができる。	5領域に関するのねらいと内容を理解し、個々の乳幼児やクラス全体の実態に合わせて、援助・指導の工夫ができています。	5領域に関するのねらいと内容を理解し、個々の乳幼児やクラス全体の実態に合わせて、援助・指導の工夫ができる。	5領域に関する援助・指導の基本的な知識について理解している。
技能	1. 計画、実践、省察・評価、改善の過程について、その全体構造を伝え、実践できる。	乳幼児の実態に合わせて、全体的な計画を作成・実践・評価・改善するなど、保育を実践するためのカリキュラムを理解し実践できる。	乳幼児の実態に合わせて、全体的な計画を作成・実践・評価・改善するなど、カリキュラムを実践できる。	全体的な計画を作成するための基本的な知識を修得しており、全体的な計画に合わせて自分の保育を計画・実践し、見直すことができる。	全体的な計画について理解することができ、それらに合わせて自分の保育を計画・実践し、見直すことができる。	全体的な計画について基本的な知識とカリキュラムマネジメントについて理解している。
態度	1. 意欲的な受講態度、発表・討議・模擬保育への参加をする。	積極的な発表や討議、指導案作成、模擬保育など、自ら学ぶ姿勢で意欲的に参加する。	グループで協力し発言や発表、指導案作成、模擬保育など、積極的に参加する。	グループで協力し発言や発表、指導案作成、模擬保育などに取り組む。	グループ内で発言や発表、指導案作成、模擬保育などに参加する。	グループ内での話し合い、指導案作成、模擬保育などに参加する。

科目名	保育実習研究Ⅰ 1クラス		授業番号	CQ320A	サブタイトル				
教員	廣畑 まゆ美、土師 範子								
単位数	2単位	開講年次	が1年次より異なります。	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・保育実習において必要な理論とスキルを講義を通して詳しく学ぶ。 ・実習日誌や指導案の実践的演習を通して、保育の計画・観察・記録および自己評価の方法を理解する。 ・保育士の業務内容や職業倫理について詳しく学ぶ。 								
到達目標	保育実習の意義・目的を理解し、実践において必要となる知識・技能を身に付ける。 実習の内容を理解し、自らの課題を明確にする。 実習終了後には反省会を実施し、総括・自己評価をもとにして、新たな学習目標を明確にする。なお、この科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学力の内容のうちの<思考・問題解決能力><技能><態度>の習得に貢献する。								
授業計画 備考									
回	概要				担当				
第1回	保育実習の意義と目的の理解				廣畑 まゆ美 土師 範子				
第2回	保育実習の概要について ・実習日誌、指導案、提出物について ・実習先での実践内容について ・実習に向けた課題の持ち方について				廣畑 まゆ美 土師 範子				
第3回	保育所の役割と機能の理解 ・保育所の生活と一日の流れの理解 ・保育所保育指針の理解と保育の展開				廣畑 まゆ美 土師 範子				
第4回	保育内容・保育環境の検討 ・保育の計画に基づく保育内容とは何か ・指導計画作成について ・保育実践における留意点の確認				廣畑 まゆ美 土師 範子				
第5回	実習園事前訪問の意義・目的の理解				廣畑 まゆ美 土師 範子				
第6回	保育士の倫理観、プライバシーの保護と守秘義務について				廣畑 まゆ美 土師 範子				
第7回	年齢・発達に応じた指導案作成における留意点の確認と作成 留意点のある子どもの指導について				廣畑 まゆ美 土師 範子				
第8回	実習における観察、記録及び評価の仕方について				廣畑 まゆ美 土師 範子				
第9回	模擬保育実践				廣畑 まゆ美 土師 範子				
第10回	実習生の心構えについて 子どもの人権と最善の利益の考慮				廣畑 まゆ美 土師 範子				
第11回	実習事後 ・自己評価 ・自己課題の明確化				廣畑 まゆ美 土師 範子				
第12回	実習後学びのグループワーク①				廣畑 まゆ美 土師 範子				
第13回	実習後学びのグループワーク②				廣畑 まゆ美 土師 範子				
第14回	実習総括・成果報告発表会①				廣畑 まゆ美 土師 範子				
第15回	実習総括・成果報告発表会②				廣畑 まゆ美 土師 範子				
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢/態度	30	・1回1回の授業の中で、主体的に学びに臨んでいる姿を評価する。 ・実習の内容を理解し、自らの課題を明確にできたかを評価する。						
	課題・レポート	50	・科目、指定様式を守って提出できているかを評価する。 ・学内授業・実習での気づきから問いを立て、問いに対する具体的な思考ができているかを評価する。						
	その他	20	実習後報告会において、グループで共同して学びを深め、新たな課題や学習目標などの気づきを説得力を持って説明できているかを評価する。						

評価の方法：自由記載	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度、および実習の事前準備や事後の課題、報告会での成果を総合的に評価し、評価点が60点以上の者に単位を認定する。 授業の理解度や主体的な学習姿勢を把握するため、自己評価コメントシートを適宜記入してもらう。 提出された課題やレポートはコメントつけて返却する。
受講の心得	<ul style="list-style-type: none"> 毎回実習に関する重要な課題に取り組むので、欠席しないよう心がけること。 実際に子どもたちと関わることを意識し、真剣に授業に取り組むこと。 乳幼児の遊びやその指導に関連した情報の収集を常に心がけること。 守秘義務他保育士等の倫理規定を十分理解し遵守すること。
授業外学習	<p>実習準備・事前訪問は、授業外の時間を確保して取り組むことになる。また実習生としての振る舞いや礼儀作法は一朝一夕で身につくものではなく、継続的な努力が必要である。</p> <p>各自時間管理を徹底し、学修時間確保に努めること。</p> <p>また発展学習として授業で示された参考書や、各自実習先から指示された学習内容に主体的に取り組み、適当なり1時間以上学習すること。</p>

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載 岡山県保育士養成協議会『保育所実習の手引き』実習上の心得(初回授業で配布する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載 『保育所保育指針解説書』厚生労働省、フレーベル館
『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府 文部科学省 厚生労働省、フレーベル館
その他、適宜紹介する。

その他

備考

注意事項

担当教員の実務経験の有無 無

担当教員の実務経験

担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 無

担当教員以外で指導に関わる実務経験者

実務経験をいかした教育内容

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー「学力」)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分にレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
思考・問題解決能力	1. 保育事例検討	得た知識と事例を関連付けて捉え、他者の意見も踏まえながら、自分なりの考えを述べる事ができる。	得た知識と事例を関連付け、他者の意見も踏まえながら、自分なりの考えを述べようとする努力している。	事例を見て思考し、自分なりに考えようとしている。	事例を見て、考えを述べているものの、熟考されておらず非論理的である。	事例に対して具体的なイメージが生まれず、自分なりの意見を述べる事ができない。
思考・問題解決能力	2. 自己課題設定	学んだことを生かし、現場実践に向けた自己課題を具体的に構築することができる。	学んだことを生かし、現場実践での自己課題を具体的に構築しようとしている。	現場実践での自己課題を具体的に構築しようとしている。	現場実践での自己課題を具体的に構築しようとしているが、課題がまとまらない。	課題が思いつかず、課題が設定できない。
技能	1. 保育内容の計画	子どもの姿を個と集団の視点からとらえ、ねらいと内容を関連付けて計画し、指導案の様式に沿って誤字脱字なく丁寧に記載することができる。	子どもの姿を個と集団の視点からとらえて、ねらいと内容を考えようとする工夫している。指導案の様式に沿って、誤字脱字はほとんどない。	子どもの姿を個と集団の視点からとらえているものの、ねらいと内容に再考の余地がある。指導案の様式に沿って書かれているが、援助や環境構成などにも再考の余地がある。	子どもの姿を十分にとらえられておらず、ねらいと内容が一致していない。指導案の様式が示す意味を十分理解しておらず、誤字脱字なども目立つ。	指導案の様式それぞれの項目が持つ意味を理解できておらず、ほとんど書くことができない。
態度	1. 実習に向けた準備	実習の意義・目的を理解し、課題に対して主体的・意欲的に取り組んでいる。実習生としての心構えや態度を常に意識し、遅刻・欠席することなく授業に臨んでいる。	実習の意義・目的を理解しようとし、取り組んでいる。実習生としての心構えや態度を認識し、無断の遅刻・欠席することなく授業に臨んでいる。	実習の意義・目的を理解しようとし、取り組んでいるものではない。実習生としての心構えや態度を認識しているが課題が残る。無断の遅刻・欠席することなく授業に臨んでいる。	実習の意義・目的が理解できておらず意欲的な取り組みがみられない。実習生としての心構えや態度に対する意識が乏しく、実践面でも課題が残る。無断の遅刻・欠席はすることなく授業に臨んでいる。	実習の意義・目的が理解できておらず、全く意欲的な取り組みが見られない。実習生としての心構えや態度に対する理解も実践も不十分で、無断の遅刻・欠席がある。
態度	2. 事後の保育観と意欲	現場の指導者からのアドバイスを受けて、保育者の援助のあり方を多角的に考察でき、子どもに対する分析が以前より深くなっている。	現場の指導者からのアドバイスを受けて、保育者の援助のあり方について自分なりの意見をもつことができ、子どもに対する分析が以前より少し深くなっている。	現場の指導者からアドバイスを受けて、保育者の援助のあり方について自分なりの意見をもつことができる。	現場の指導者からアドバイスを受けたことを十分に理解できておらず、保育者の援助のあり方について意見をもつことができていない。	現場の指導者からのアドバイスを受けても、事前と事後での変化が見られず、自分なりの意見を持つこともできていない。

科目名	保育実習研究Ⅰ 2クラス		授業番号	CQ320B	サブタイトル	
教員	廣畑 まゆ美、土師 範子					
単位数	2単位	開講年次	が1キヨラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・保育実習において必要な理論とスキルを講義を通して詳しく学ぶ。 ・実習日誌や指導案の実践的演習を通して、保育の計画・観察・記録および自己評価の方法を理解する。 ・保育士の業務内容や職業倫理について詳しく学ぶ。 					
到達目標	保育実習の意義・目的を理解し、実践において必要となる知識・技能を身に付ける。 実習の内容を理解し、自らの課題を明確にする。 実習終了後には反省会を実施し、総括・自己評価をもとにして、新たな学習目標を明確にする。なお、この科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうちの<思考・問題解決能力><技能><態度>の習得に貢献する。					
授業計画 備考						
回	概要					担当
第1回	保育実習の意義と目的の理解					廣畑 まゆ美 土師 範子
第2回	保育実習の概要について ・実習日誌、指導案、提出物について ・実習先での実践内容について ・実習に向けた課題の持ち方について					廣畑 まゆ美 土師 範子
第3回	保育所の役割と機能の理解 ・保育所の生活と一日の流れの理解 ・保育所保育指針の理解と保育の展開					廣畑 まゆ美 土師 範子
第4回	保育内容・保育環境の検討 ・保育の計画に基づく保育内容とは何か ・指導計画作成について ・保育実践における留意点の確認					廣畑 まゆ美 土師 範子
第5回	実習園事前訪問の意義・目的の理解					廣畑 まゆ美 土師 範子
第6回	保育士の倫理観、プライバシーの保護と守秘義務について					廣畑 まゆ美 土師 範子
第7回	年齢・発達に応じた指導案作成における留意点の確認と作成 留意のある子どもの指導について					廣畑 まゆ美 土師 範子
第8回	実習における観察、記録及び評価の仕方について					廣畑 まゆ美 土師 範子
第9回	模擬保育実践					廣畑 まゆ美 土師 範子
第10回	実習生の心構えについて 子どもの人権と最善の利益の考慮					廣畑 まゆ美 土師 範子
第11回	実習事後 ・自己評価 ・自己課題の明確化					廣畑 まゆ美 土師 範子
第12回	実習後学びのグループワーク①					廣畑 まゆ美 土師 範子
第13回	実習後学びのグループワーク②					廣畑 まゆ美 土師 範子
第14回	実習総括・成果報告発表会①					廣畑 まゆ美 土師 範子
第15回	実習総括・成果報告発表会②					廣畑 まゆ美 土師 範子
授業計画 備考2						
評価の方法						
	種別	割合	評価基準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度	30	・1回1回の授業の中で、主体的に学びに臨んでいる姿を評価する。 ・実習の内容を理解し、自らの課題を明確にできたかを評価する。			
	課題・レポート	50	・科目、指定様式を守って提出できているかを評価する。 ・学内授業・実習での気づきから問いを立て、問いに対する具体的な思考ができているかを評価する。			
	その他	20	実習後報告会において、グループで共同して学びを深め、新たな課題や学習目標などの気づきを説得力を持って説明できているかを評価する。			

評価の方法：自由記載	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度、および実習の事前準備や事後の課題、報告会での成果を総合的に評価し、評価点が60点以上の者に単位を認定する。 授業の理解度や主体的な学習姿勢を把握するため、自己評価コメントシートを適宜記入してもらう。 提出された課題やレポートはコメントつけて返却する。
受講の心得	<ul style="list-style-type: none"> 毎回実習に関する重要な課題に取り組むので、欠席しないよう心がけること。 実際に子どもたちと関わることを意識し、真剣に授業に取り組むこと。 乳幼児の遊びやその指導に関連した情報の収集を常に心がけること。 守秘義務他保育士等の倫理規定を十分理解し遵守すること。
授業外学習	<p>実習準備・事前訪問は、授業外の時間を確保して取り組むことになる。また実習生としての振る舞いや礼儀作法は一朝一夕で身につくものではなく、継続的な努力が必要である。</p> <p>各自時間管理を徹底し、学修時間を確保に努めること。</p> <p>また発展学習として授業で示された参考書や、各自実習先から指示された学習内容に主体的に取り組み、適当なり1時間以上学習すること。</p>

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載 岡山県保育士養成協議会『保育所実習の手引き』実習上の心得(初回授業で配布する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	『保育所保育指針解説書』厚生労働省、フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府 文部科学省 厚生労働省、フレーベル館 その他、適宜紹介する。			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー「学力」)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分にレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
思考・問題解決能力	1. 保育事例検討	得た知識と事例を関連付けて捉え、他者の意見も踏まえながら、自分なりの考えを述べることができる。	得た知識と事例を関連付け、他者の意見も踏まえながら、自分なりの考えを述べようとする努力している。	事例を見て思考し、自分なりに考えようとしている。	事例を見て、考えを述べているものの、熟考されておらず非論理的である。	事例に対して具体的なイメージが生まれず、自分なりの意見を述べることができない。
思考・問題解決能力	2. 自己課題設定	学んだことを生かし、現場実践に向けた自己課題を具体的に構築することができる。	学んだことを生かし、現場実践での自己課題を具体的に構築しようとしている。	現場実践での自己課題を具体的に構築しようとしている。	現場実践での自己課題を具体的に構築しようとしているが、課題がまとまていない。	課題が思いつかず、課題が設定できない。
技能	1. 保育内容の計画	子どもの姿を個と集団の視点からとらえ、ねらいと内容を関連付けて計画し、指導案の様式に沿って誤字脱字なく丁寧に記載することができる。	子どもの姿を個と集団の視点からとらえて、ねらいと内容を考えようとする工夫している。指導案の様式に沿って、誤字脱字はほとんどない。	子どもの姿を個と集団の視点からとらえているものの、ねらいと内容に再考の余地がある。指導案の様式に沿って書かれているが、援助や環境構成などにも再考の余地がある。	子どもの姿を十分にとらえられておらず、ねらいと内容が一致していない。指導案の様式が示す意味を十分理解しておらず、誤字脱字なども目立つ。	指導案の様式それぞれの項目が持つ意味を理解できておらず、ほとんど書くことができない。
態度	1. 実習に向けた準備	実習の意義・目的を理解し、課題に対して主体的・意欲的に取り組んでいる。実習生としての心構えや態度を常に意識し、遅刻・欠席することなく授業に臨んでいる。	実習の意義・目的を理解しようとし、取り組んでいる。実習生としての心構えや態度を意識し、無断の遅刻・欠席することなく授業に臨んでいる。	実習の意義・目的を理解しようとし、取り組んでいるものではない。実習生としての心構えや態度を感懐しているが課題が残る。無断の遅刻・欠席することなく授業に臨んでいる。	実習の意義・目的が理解できておらず意欲的な取り組みがみられない。実習生としての心構えや態度に対する意識が乏しく、実践面でも課題が残る。無断の遅刻・欠席はすることなく授業に臨んでいる。	実習の意義・目的が理解できておらず、全く意欲的な取り組みが見られない。実習生としての心構えや態度に対する理解も実践も不十分で、無断の遅刻・欠席がある。
態度	2. 事後の保育観と意欲	現地の指導者からのアドバイスを受けて、保育者の援助のあり方を多角的に考察でき、子どもに対する分析が以前より深くなっている。	現地の指導者からのアドバイスを受けて、保育者の援助のあり方について自分なりの意見をもつことができ、子どもに対する分析が以前より少し深くなっている。	現地の指導者からアドバイスを受けて、保育者の援助のあり方について自分なりの意見をもつことができる。	現地の指導者からアドバイスを受けたことを十分に理解できておらず、保育者の援助のあり方について意見をもつことができていない。	現地の指導者からのアドバイスを受けても、事前と事後での変化が見られず、自分なりの意見を持つこともできていない。

科目名	施設実習研究 1クラス			授業番号	CQ322A	サブタイトル	
教員	中 典子・牛島 光太郎						
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	演習
授業概要	児童福祉施設や障がい者支援施設での実習を望ましいものにするために、本授業では施設実習の意義と目的・実習記録のとり方など、実習指導を受けるための心得について理解する。また、実習終了後には、実習の課題と反省についてまとめ、自己の振り返りをするために研究発表を行い、施設実習で何を学び、どのような技術を身に付けたかについて明らかにする。						
到達目標	施設で暮らしている子どもや障害児・者について、その社会的な背景やその人自身の特性について学び、自ら説明できるようになることを目的とする。また、施設において実習指導を受ける際に学びたいことについて理解できるようになる。なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち「思考・問題解決能力」の修得に貢献する。						
授業計画 備考							
回	概要					担当	
第1回	施設実習の意義と目的を学ぶ。 実習施設の役割・機能について理解する。					担当 中 牛島	
第2回	対象となる利用児(者)について理解する。 運営状況について理解する。					担当 中	
第3回	人権について学ぶ。 施設保育士の職務内容について把握する。					担当 中	
第4回	職員間の役割分担やチームワークを学び、施設保育士としての資質を理解する。					担当 中	
第5回	外部講師による講義 施設の一日の流れを理解する。利用児(者)への支援の方法を理解する。					担当 中	
第6回	施設実習で学びたいことを考える。 実習先での支援について理解する。					担当 中	
第7回	実習期間中の学習計画表を作成する。					担当 中	
第8回	実習日誌の書き方について理解する。(ディレクタープログラムの書き方、利用児・者との関わりについての記載方法)					担当 中	
第9回	個人情報保護法について理解する。 施設実習指導を受ける上での留意点を把握する。(実習生としての学びの姿勢について)					担当 中	
第10回	実習日誌の書き方について理解する。(本日の実習課題と取り組みのポイント、本日の実習課題を通して考えたことについての記載方法)					担当 中	
第11回	事後指導1 施設実習で学んだことをグループで振り返り、施設保育士の役割を理解する。					担当 中 牛島	
第12回	事後指導2 施設実習で学んだことをグループで報告書にまとめ、施設保育士の役割を理解する。					担当 中 牛島	
第13回	事後指導3 施設実習報告会の準備をする。(実習中に深く考えさせられたことについての振り返り)					担当 中	
第14回	事後指導4 報告会 (児童系の施設) 施設での実際の支援を理解する。					担当 中	
第15回	事後指導5 報告会 (障害児・者系の施設) 施設での実際の支援を理解する。					担当 中	
授業計画 備考2							
評価の方法							
	種別	割合	評価基準・その態備考				
	授業への取り組みの姿勢/態度	20	授業中に学習内容を踏まえた積極的な質問、あるいは、既存の意見を踏まえた上での自分の考えをしっかりと述べるができるかについて評価する。				
	レポート	50	実習終了後、現場で学んだことを振り返り、事例を踏まえて具体的に述べられているかについて評価する。				
	小テスト						
	定期試験						
	その他	30	事前学習に積極的に取り組んだかどうかについて、評価する。実習日誌は、コメントを記入して返却する。学習内容が不十分だと判断した場合には、再提出を課す。				

評価の方法：自由記載	
受講の心得	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回提示される課題を丁寧に作成すること。 ・授業中は、一言一句聞き逃さないような心構えをもち、真剣な態度で臨むこと。
授業外学修	授業中に取ったノートや配付したプリントを見直し、復習すること。その際、必ず実習の手引きと再度照らし合わせ、足りない文言などを書き足すこと。(約1時間)

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
保育福祉小六法				
使用テキスト：自由記載	使用するテキストは、『施設実習日誌』『施設実習の手引』（作成：岡山県保育士養成協議会）である。第1回目の授業にて配付する。			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	必要に応じて紹介する。			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー「学力」)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
思考・問題解決能力	1. 施設で暮らしている子どもや障害児・者について、その社会的な背景やその人自身の特性について学び、自ら説明できるようになる。	施設で暮らしている子どもや障害児・者について、その社会的な背景やその人自身の特性について学び、自ら説明できるようになる。	施設で暮らしている子どもや障害児・者について、その社会的な背景やその人自身の特性について理解できる。	施設で暮らしている子どもや障害児・者について理解できる。	施設で暮らしている子どもや障害児・者についての理解が十分でない。	施設で暮らしている子どもや障害児・者についての理解できない。
思考・問題解決能力	2. 施設において実習指導を受ける際に学びたいことについて理解できる。	施設において実習指導を受ける際に学びたいことについて理解できる。	施設において実習指導について理解できる。	施設において実習指導の意義について理解できる。	施設において実習指導についての理解が十分でない。	施設において実習指導についての理解ができない。

科目名	施設実習研究 2クラス			授業番号	CQ322B	サブタイトル	
教員	中 典子・牛島 光太郎						
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	演習
授業概要	児童福祉施設や障がい者支援施設での実習を望ましいものにするために、本授業では施設実習の意義と目的・実習記録のとり方など、実習指導を受けるための心得について理解する。また、実習終了後には、実習の課題と反省についてまとめ、自己の振り返りをするために研究発表を行い、施設実習で何を学び、どのような技術を身に付けたかについて明らかにする。						
到達目標	施設で暮らしている子どもや障害児・者について、その社会的な背景やその人自身の特性について学び、自ら説明できるようになることを目的とする。また、施設において実習指導を受ける際に行いたいことについて理解できるようになる。なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち「思考・問題解決能力」の修得に貢献する。						
授業計画 備考							
回	概要					担当	
第1回	施設実習の意義と目的を学ぶ。 実習施設の役割・機能について理解する。					担当 中 牛島	
第2回	対象となる利用児(者)について理解する。 運営状況について理解する。					担当 中	
第3回	人権について学ぶ。 施設保育士の職務内容について把握する。					担当 中	
第4回	職員間の役割分担やチームワークを学び、施設保育士としての資質を理解する。					担当 中	
第5回	外部講師による講義 施設の一日の流れを理解する。利用児(者)への支援の方法を理解する。					担当 中	
第6回	施設実習で学びたいことを考える。 実習先での支援について理解する。					担当 中	
第7回	実習期間中の学習計画表を作成する。					担当 中	
第8回	実習日誌の書き方について理解する。(ディループログラムの書き方、利用児・者との関わりについての記載方法)					担当 中	
第9回	個人情報保護法について理解する。 施設実習指導を受ける上での留意点を把握する。(実習生としての学びの姿勢について)					担当 中	
第10回	実習日誌の書き方について理解する。(本日の実習課題と取り組みのポイント、本日の実習課題を通して考えたことについての記載方法)					担当 中	
第11回	事後指導1 施設実習で学んだことをグループで振り返り、施設保育士の役割を理解する。					担当 中 牛島	
第12回	事後指導2 施設実習で学んだことをグループで報告書にまとめ、施設保育士の役割を理解する。					担当 中 牛島	
第13回	事後指導3 施設実習報告会の準備をする。(実習中に深く考えさせられたことについての振り返り)					担当 中	
第14回	事後指導4 報告会 (児童系の施設) 施設での実際の支援を理解する。					担当 中	
第15回	事後指導5 報告会 (障害児・者系の施設) 施設での実際の支援を理解する。					担当 中	
授業計画 備考2							
評価の方法							
	種別	割合	評価基準・その態備考				
	授業への取り組みの姿勢/態度	20	授業中に学習内容を踏まえた積極的な質問、あるいは、既存の意見を踏まえた上での自分の考えをしっかりと述べるができるかについて評価する。				
	レポート	50	実習終了後、現場で学んだことを振り返り、事例を踏まえて具体的に述べられているかについて評価する。				
	小テスト						
	定期試験						
	その他	30	事前学習に積極的に取り組んだかどうかについて、評価する。実習日誌は、コメントを記入して返却する。学習内容が不十分だと判断した場合には、再提出を課す。				

評価の方法：自由記載	
受講の心得	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回提示される課題を丁寧に作成すること。 ・授業中は、一言一句聞き逃さないような心構えをもち、真剣な態度で臨むこと。
授業外学修	授業中に取ったノートや配付したプリントを見直し、復習すること。その際、必ず実習の手引きと再度照らし合わせ、足りない文言などを書き足すこと。(約1時間)

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
保育福祉小六法				
使用テキスト：自由記載	使用するテキストは、『施設実習日誌』『施設実習の手引』（作成：岡山県保育士養成協議会）である。第1回目の授業にて配付する。			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	必要に応じて紹介する。			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
思考・問題解決能力	1. 施設で暮らしている子どもや障害児・者について、その社会的な背景やその人自身の特性について学び、自ら説明できるようになる。	施設で暮らしている子どもや障害児・者について、その社会的な背景やその人自身の特性について学び、自ら説明できるようになる。	施設で暮らしている子どもや障害児・者について、その社会的な背景やその人自身の特性について理解できる。	施設で暮らしている子どもや障害児・者について理解できる。	施設で暮らしている子どもや障害児・者についての理解が十分でない。	施設で暮らしている子どもや障害児・者についての理解できない。
思考・問題解決能力	2. 施設において実習指導を受ける際に学びたいことについて理解できる。	施設において実習指導を受ける際に学びたいことについて理解できる。	施設において実習指導について理解できる。	施設において実習指導の意義について理解できる。	施設において実習指導についての理解が十分でない。	施設において実習指導についての理解ができない。

科目名	保育実習研究Ⅱ			授業番号	CQ324	サブタイトル	
教員	中田 陽作						
単位数	1単位	開講年次	が1キヨラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	演習
						必修・選択	選択
授業概要	児童福祉施設の職種は、大変に多い。そこで、保育所以外の様々な児童福祉施設について改めて講義し、自らの実習先の特徴が確認できるように説明する。また、実習に必要な技能について指導を行う。						
到達目標	保育所以外の児童福祉施設における実習(保育実習III)では、総合的な保育の実践力を身につけるために、学習科目の関連について学び、保育の全体計画、観察、記録、自己評価の方法、職業倫理、保育士の専門性について理解できるようになる。なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち「思考・問題解決能力」の修得に貢献する。						
授業計画 備考							
回	概要					担当	
第1回	保育実習の意義と目的						
第2回	保育実習に対する心構え						
第3回	保育実習の計画と準備						
第4回	実習へ向けての自己課題作成						
第5回	実習先への事前訪問						
第6回	乳幼児期の支援						
第7回	児童期の支援						
第8回	中学生・高校生の支援						
第9回	子育て家庭の支援						
第10回	実習日誌の書き方1 日誌と記録の意義						
第11回	実習日誌の書き方2 児童の観察のポイント						
第12回	実習日誌の書き方3 実習の計画と考察						
第13回	保育実習のまとめ1 乳状の書き方と振り返りシート作成						
第14回	保育実習のまとめ2 グループワークにおける振り返り						
第15回	保育実習のまとめ3 実習報告会の実施						
授業計画 備考2							
評価の方法							
	種別	割合	評価基準・その他備考				
	授業への取り組みの姿勢/態度	20	授業中に学習内容を踏まえた積極的な質問、あるいは、既存の意見を踏まえた上での自分の考えをしっかりと述べるができるかについて評価する。				
	レポート	50	実習終了後、現場で学んだことを振り返り、事例を踏まえて具体的に述べられているかについて評価する。				
	小テスト						
	定期試験						
	その他	30	実習日誌については、コメントを記入して返却する。学習内容を習得していないと判断した場合には、再提出を課す。				

評価の方法：自由記載	
受講の心得	実習に関わる重要な授業なので、毎回意欲的に取り組むこと。わからないことがあれば、その都度、積極的に質問すること。また、実習後は自らを振り返り、学び得たことを次に活かせるようにしつかりまとめること。
授業外学修	授業中に取ったノートや配布したプリントを見直し、復習すること。その際、必ず実習日誌の説明部分と再度照らし合わせ、足りない文言などを書き足すこと。(約1時間)

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト：自由記載	なし(プリントを配付する)			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	必要に応じて紹介する。			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー「学力」)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
思考・問題解決能力	1. 保育事例検討	得た知識と事例を関連付けて捉え、他者の意見も踏まえながら、自分なりの考えを述べる事ができている。	得た知識と事例を関連付け、他者の意見も踏まえながら自分なりの考えを述べようとしている。	事例を見て思考し、自分なりに考えようとしている。	事例を見て、考えを述べているものの、熟考されおらず非論理的である。	事例に対して具体的なイメージが出来ず、自分なりの意見を述べる事が全然できない。
思考・問題解決能力	2. 自己課題設定	学んだことを生かし、現場実践に向けた自己課題を具体的に構築することができる。	学んだことを生かし、現場実践での自己課題を具体的に構築しようとしている。	現場実践での自己課題を具体的に構築しようとしている。	現場実践での自己課題を具体的に構築しようとしているが、課題がまとまていない。	課題が思いつかず、課題が設定できない。

科目名	学童保育実習研究		授業番号	CQ333	サブタイトル				
教員	中田 周作、伊藤 智里								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	この授業では、学童保育実習を履修するために必要な事前・事後指導を行う。 事前指導では、実習において必要とされる基礎的技術および実習にあたっての心得を指導する。 事後指導では、実習内容を省察し、今後の実践力向上に活かすことができるようにする。								
到達目標	学童保育実習を有意義なものにするための学修を行う。 また、放課後児童クラブ運営指針に則った育成支援を理解する。 なお、本科目は、ディプロマ・ポリシーに掲げた「学力力のうち＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
回	概要					担当			
第1回	放課後児童指導員養成課程における実習の位置づけ					中田周作, 伊藤智里			
第2回	「放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準」と「放課後児童クラブ運営指針」					中田周作			
第3回	放課後児童クラブ運営指針の概要					中田周作			
第4回	放課後児童クラブにおける育成支援の内容					中田周作			
第5回	特別講座（1）実習先の概要と実習日誌の書き方					中田周作, 伊藤智里			
第6回	特別講座（2）実習先の概要と実習全般にわたる注意事項					中田周作, 伊藤智里			
第7回	実習の心得と実習に係る書類作成等の確認					中田周作			
第8回	指導案と実践記録（1）					中田周作			
第9回	指導案と実践記録（2）					中田周作			
第10回	お礼状及び実習報告書の作成					中田周作			
第11回	実習報告書の作成					中田周作			
第12回	実習報告書の作成					中田周作			
第13回	実習の報告					中田周作, 伊藤智里			
第14回	実習の報告					中田周作, 伊藤智里			
第15回	実習のまとめと資格制度の確認					中田周作, 伊藤智里			
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢/態度	50	授業中に作成する書類やレポート						
	レポート								
	小テスト								
	定期試験								
	その他	50	実習報告書						

評価の方法：自由記載	
受講の心得	原則として、学童保育論と学童保育方法論の両方を履修済である者のみ履修できる。
授業外学修	実習の事前事後指導については、週当たり1時間以上の予習復習を行うこと。 授業外学修の内容については、毎回異なるので、授業の時に指示する。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載

その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 運営指針が理解できている。	関係法令と関連付けて運営指針が理解できている。	運営指針が理解できている。	運営指針が規定する育成支援について理解できている。	育成支援について、あまり理解できていない。	育成支援が理解できていない。
知識・理解	2. 実習生に求められる一般的な資質・能力	実習生として、ふさわしい態度で実習に臨み、反省や助言に基づいて実践を改善することの重要性を理解している。	実習生として、ふさわしい態度で実習に臨み、反省や助言に基づいて実践を改善することの必要性を理解している。	実習生として、ふさわしい態度で実習に臨むことの重要性を理解している。	実習生として、子どもと積極的にかかわることの大切さが理解できていない。	子どもと関わる心構えができていない。
思考・問題解決能力	1. 子どもの発達の特徴や発達過程を理解している。	子どもの発達の特徴や発達過程を理解したうえで、自らの育成支援を計画することができる。	子どもの発達の特徴や発達過程を理解したうえで、自らの育成支援を指導案に反映することができる。	子どもの発達の特徴や発達過程を理解したうえで、子どもと関わるができる。	子どもの発達の特徴や発達過程を理解した、子どもと関わりができていない。	子どもの発達の特徴や発達過程を理解していない。
技能	1.実習日誌、指導案について	毎日の実習の様子を実習日誌にまとめることができる。運営指針に基づいた、指導案を作成することができる。指導や助言に基づいて、実習日誌、指導案の改善ができる。	毎日の実習の様子を実習日誌にまとめることができる。運営指針に基づいた、指導案を作成することができる。	実習日誌、指導案が、一通りできている。	実習日誌、指導案が十分に書けていない。	実習日誌、指導案が書けていない。

科目名	保育所実習 I		授業番号	CQ418	サブタイトル				
教員	廣畑 まゆ美、土師 範子								
単位数	2単位	開講年次	別々(シラバスにより異なります)	開講期	前期	授業形態	実習	必修・選択	選択
授業概要	保育所の役割や機能、保育士の業務内容や職業倫理について実践を通して具体的に学ぶ。これまでの学修を基礎に、乳幼児に対する望ましい援助の仕方について学ぶ。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> -保育内容・機能等を実践現場での体験を通して理解する。 -観察したり、子どものかかわりに参加したりすることで、子どもに対する理解を深める。 -保育士等の職務内容及び役割、また園の職員とのチームワークなど体験的に把握する。 なおこの科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力のうち<技能>の習得に貢献する。								
授業計画 備考									
授業計画 自由記載	1) 保育所の役割と機能の理解 (1)園庭の沿革と保育の基本方針を知る。 (2)乳幼児、保護者、保育士等のかかわりや、保育者の具体的な支援について知る。 (3)物的環境(敷地、建物の構造、配置及び施設・設備)を把握する。 (4)人的環境(職員構成、勤務形態等)を把握する。 2) 観察・参加実習の実施 (1)観察・参加の仕方を学ぶ。 (2)乳幼児、保護者に対する理解を深める。 (3)保育の目的の流れを把握する。 (4)基本的な生活習慣の自立を援助する。 (5)遊びなどの指導について学び、担当者の補助をする。 (6)実習園の保育課程と指導計画を理解する。								
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢/態度	80	実習園での評価と実習記録・実習保育計画を総合的に評価する。						
	レポート	20	実習ノートの記述状況、指導を受けたことへの改善や、反省内容の記述状況を評価する。						

評価の方法：自由記載	保育実習における実習園の評価票、実習日誌、指導計画の準備や成果等を総合的に評価し、評価点が60点以上の者に単位を認定する。
受講の心得	実習園では、乳幼児に対して自ら積極的に関わること。 失敗を恐れず、チャレンジ精神をもって臨むこと。 分からないことは、その都度、謙虚な態度で保育士等に直接質問すること。 指導者に指摘された場合は、指摘内容をよく理解したうえで、改善に向けて努めること。
授業外学習	実習前にボランティアなどで乳幼児とのふれあい体験をしておくことを勧める。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト：自由記載	岡山県保育士養成協議会『保育所実習の手引き』『実習上の心得』 ※初回授業で配付する。			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
技能	1. 保育所の役割と機能の理解	実習生として必要な知識を十分理解し、実践に生かすことができている。	実習生として必要な知識を理解し、実践に生かすことができている。	実習生として必要な知識を理解し、実践に生かそうとしている。	実習生として必要な知識を十分に理解できていないが、実践に生かそうとしている。	実習生として必要な知識を十分に理解できておらず、実践につなげることができない。
技能	2. 子ども理解	子どもと主体的に関わって感じたこと・考えたことを丁寧にまとめ、そこから考察したことを踏まえて自身の実践や指導計画に十分生かすことができている。	子どもと主体的に関わって感じたこと・考えたことを丁寧にまとめ、そこから考察したことを踏まえて自身の実践に生かすことができている。	子どもと関わって感じたことを自分なりにまとめ、そこから考察したことを踏まえて自身の実践に生かそうとしている。	子どもとあまり関わる事ができていないが、その中で見つけたことを自分なりにまとめ、自身の実践に生かそうとしている。	子どもと十分に関わっておらず、自分なりの考えが構築されていないため、実践につなげることができない。
態度	1. 実習の参加状況	実習指導者と意欲的にコミュニケーションを取り、実習日誌に学修したことを丁寧にまとめ、日々の実践に十分に生かすことができている。	実習指導者と意欲的にコミュニケーションを取り、実習日誌に学修したことを丁寧にまとめ、日々の実践に生かすことができている。	実習指導者とコミュニケーションを取り、実習日誌に学修したことをまとめ、日々の実践に生かそうとしている。	実習指導者とあまりコミュニケーションを取ることができず、実習日誌に十分な省察がみられないものの、経験したことを日々の実践に生かそうとしている。	実習指導者と十分なコミュニケーションを取ることができず、実習日誌に十分な省察がみられない。

科目名	保育所実習Ⅱ		授業番号	CQ419	サブタイトル				
教員	廣畑 まゆ美、土師 範子								
単位数	2単位	開講年次	が1年次より異なります。	開講期	前期	授業形態	実習	必修・選択	選択
授業概要	部分実習や責任実習を通して、保育の計画・観察・記録及び自己評価を実践的に理解する。 乳幼児に対する理解を深め、担当する子どもの実態と照らし合わせながら具体的に指導を計画する。 実習全体を通して、保育士の業務内容や職業倫理について学ぶ。								
到達目標	実習を通して、乳幼児の発育・発達状況に応じた具体的な援助の仕方を学ぶ。 保育計画及び指導計画の体系と作成の方法を理解するとともに、記録に基づいた省察や自己評価の方法を理解する。 保育記録や保護者とのコミュニケーションなどを通して家庭・地域社会との連携を意識し、保育士としての意識を高める。 なお、この科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち<技能> <態度>の習得に貢献する。								
授業計画 備考	実習生自らが立案した指導計画を用いて保育実践を行う。部分実習や責任実習に取り組み、実践的なスキルを身に付ける。								
授業計画 自由記載	(1)保育全般に参加し、保育技術を習得する。 (2)乳幼児の発達や個人差について理解し、適切な対応方法を学ぶ。 (3)指導計画を立案し、実践する。 (4)子どもの家庭とのコミュニケーションの方法について具体的に学ぶ。 (5)地域社会に対する理解を深め、連携の方法について具体的に学ぶ。 (6)子どもの最善の利益の具体化について学びを深める。 (7)保育士としての職業倫理を理解する。 (8)保育士に求められる資質・能力・技術に照らし合わせて、自己の課題を明確にする。								
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢/態度	80	実習園での評価と実習記録・実習計画を総合的に評価する。						
	レポート	20	実習ノートの記述や、指導を受けた内容の改善状況、自分自身の反省・工夫・改善などを評価する。						

評価の方法：自由記載	保育実習における実習園の評価表、実習日誌、指導案の準備や成果等を総合的に評価し、評価点が60点以上の者に単位を認定する。
受講の心得	<ul style="list-style-type: none"> ・実習園では、乳幼児に対して自ら積極的に関わること。 ・失敗を恐れず、チャレンジ精神をもって臨むこと。 ・分からないことは、その都度、謙虚な態度で保育士等に直接質問すること。 ・指導者に指摘されたことは、指摘内容を十分理解し、改善に努めること。
授業外学修	実習前にボランティアなどで乳幼児とふれあう体験をしておくことを勧める。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載

岡山県保育士養成協議会『保育所実習の手引き』実習上の心得』

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載

その他	
-----	--

備考	
----	--

注意事項	
------	--

担当教員の実務経験の有無	無
--------------	---

担当教員の実務経験	
-----------	--

担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
-----------------------	---

担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
--------------------	--

実務経験をいかした教育内容	
---------------	--

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー「学力」)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
技能	1. 保育計画及び指導計画	保育施設の全体的な計画を十分把握したうえで、担当する子どもの実態を的確に捉えた指導計画を作成し、子どもの意欲的な活動を支える実践を展開することができる。また実施後は十分な省察ができ、改善点を主体的に次へ生かそうとする。	保育施設の全体的な計画を把握したうえで、担当する子どもの実態を捉えた指導計画を作成し、子どもの意欲的な活動を支える実践を展開することができる。また実施後は省察を行い、改善点を次に生かそうとする。	保育施設の全体的な計画をおおむね把握し、担当する子どもの実態を捉えようとした指導計画を作成しているが十分ではない。子どもが楽しめる活動を展開することができる。また実施後は省察を行い、指摘された改善点を次に生かそうとする。	保育施設の全体的な計画をあまり把握できておらず、担当する子どもの実態を捉えきれない指導計画を作成していたり、作成できないこともある。実施後は省察を行い、指摘された改善点を次に生かそうとする。	保育施設の全体的な計画を全然把握できておらず、担当する子どもの実態を捉えきれない指導計画を作成していたり、作成できないこともある。実践後の省察も十分ではなく、指摘された改善点を理解することも難しい。
技能	2. 発達に応じた援助	発達段階や個人差を十分に理解し、担当する子どもの実態に応じた援助を工夫し、実践できる。	発達段階や個人差を理解し、担当する子どもの実態に応じた援助を工夫し、実践できる。	発達段階や個人差を理解し、担当する子どもの実態に応じた援助を工夫し、実践しようとしている。	発達段階や個人差に対する理解が十分ではないものの、担当する子どもの実態に応じた援助を工夫しようとしている。	発達段階や個人差に対する理解が十分ではなく、子どもの実態に応じて援助を工夫しない。
態度	1. 実習の参加状況	実習指導者と意欲的にコミュニケーションを取り、実習日誌に学修したことを丁寧にまとめ、日々の実践や指導計画の作成に十分に生かすことができる。	実習指導者と意欲的にコミュニケーションを取り、実習日誌に学修したことを丁寧にまとめ、日々の実践や指導計画の作成に生かすことができる。	実習指導者とコミュニケーションを取り、実習日誌に学修したことをまとめ、日々の実践や指導計画の作成に生かそうとしている。	実習指導者とあまりコミュニケーションを取ることができず、実習日誌に十分な省察がみられないものの、経験したことを日々の実践や指導計画の作成に生かそうとしている。	実習指導者と十分なコミュニケーションを取ることができず、実習日誌に十分な省察がみられない。

科目名	施設実習	授業番号	CQ421	サブタイトル	
教員	中 典子・牛島 光太郎				
単位数	2単位	開講年次	が1キヨラムにより異なります。	開講期	前期
授業形態	実習	必修・選択	必修	選択	
授業概要	児童福祉施設及び障がい者支援施設で実習指導を受けることにより、その種別による目的や機能を認識し、利用児(者)の生活状況を理解し、保育士がどのような立場にあることが望ましいかを明らかにする。				
到達目標	児童福祉施設及び障がい者支援施設について学んだ理論が実際の現場でいかに応用されているのかを知り、自ら実践できるようになることを目的とする。また、利用児(者)にとって望ましい支援のあり方を理解できるようになる。なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち<技能><態度>の修得に貢献する。				
授業計画 備考	児童福祉施設・障がい者支援施設において10日間の泊まり込み及び通いで実習指導を受け、下記のことを学ぶ。				
授業計画 自由記載	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習施設における一日の流れを体験によって理解する。 2. 施設における支援方針が生活の中でどのように展開されているのかを知り、参加する。 3. 支援のための計画を理解する。 4. 職員の利用児(者)へのかわり方に基づいて、実際に利用児(者)と関わる。 5. 職員の利用児(者)へのかわり方を通して彼らの思いを理解する。 6. 生活支援の一部を担当し、支援のための技術を習得する。 7. 利用児(者)の最善の利益に関する配慮を学ぶ。 8. 保育士としての職業倫理を理解する。 9. 安全及び疾病予防への配慮について理解する。 10. 職員間の役割分担とチームワークについて理解する。 11. 記録や保護者とのコミュニケーションなどを通して家庭や地域社会を理解する。 12. 利用児(者)の生活の安定をもたらす専門職としての真摯を習得する。 				
授業計画 備考2					
評価の方法	種別	割合	評価基準・その他備考		
授業への取り組みの姿勢/態度					
レポート		30	日誌に実習で学んだことについて具体的に記載されていること、また、学びが日々ステップアップしていることについて評価する。実習日誌については、コメントを記入して返却する。巡回訪問記録にもとじて実習態度を評価する。		
小テスト					
定期試験					
その他		70	実習先施設から返却された評価表に基づいて、評価する。		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	「施設実習研究」で学んだ事をしっかりと復習しておくこと。学ぼうとする姿勢で臨み、利用児・者と積極的に関わること。また、分からないことは、速やかに、かつ謙虚な態度で施設職員に直接質問すること。
授業外学習	毎日、実習終了後は日誌を丁寧に記入すること。下書きはレポート用紙(別紙)に記載し、その都度見直し、実践の振り返りに役立てること。また、新たに分からないことを発見した場合には、施設職員にわかりやすいように日誌に記載しておくこと。(約4時間)

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト：自由記載	使用するテキストは、『施設実習日誌』『施設実習の手引』(作成：岡山県保育士養成協議会)である。第1回目の「施設実習研究」の授業にて配付する。			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	必要に応じて紹介する。			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	有			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	社会福祉関連施設の保育士			
実務経験をいかした教育内容	利用者への対応方法について実践を通して理解するように働きかける。			

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
技能	1. 施設の生活と一日の流れの理解	見守りや示唆により十分に達成できた	見守りや示唆により達成できた	具体的な助言・指導により達成できた	具体的に助言・指導してもあまり達成できなかった	具体的に助言・指導しても全く達成できなかった
技能	2. 利用児(者)の特性やニーズの理解	見守りや示唆により十分に達成できた	見守りや示唆により達成できた	具体的な助言・指導により達成できた	具体的に助言・指導してもあまり達成できなかった	具体的に助言・指導しても全く達成できなかった
技能	3. 利用児(者)の特性やニーズに応じた支援やかかわり	見守りや示唆により十分に達成できた	見守りや示唆により達成できた	具体的な助言・指導により達成できた	具体的に助言・指導してもあまり達成できなかった	具体的に助言・指導しても全く達成できなかった
技能	4. 生活環境整備や安全への配慮	見守りや示唆により十分に達成できた	見守りや示唆により達成できた	具体的な助言・指導により達成できた	具体的に助言・指導してもあまり達成できなかった	具体的に助言・指導しても全く達成できなかった
技能	5. 利用児(者)との人間関係形成	見守りや示唆により十分に達成できた	見守りや示唆により達成できた	具体的な助言・指導により達成できた	具体的に助言・指導してもあまり達成できなかった	具体的に助言・指導しても全く達成できなかった
技能	6. 職員との関係形成	見守りや示唆により十分に達成できた	見守りや示唆により達成できた	具体的な助言・指導により達成できた	具体的に助言・指導してもあまり達成できなかった	具体的に助言・指導しても全く達成できなかった
技能	7. 職員の役割や連携の理解	見守りや示唆により十分に達成できた	見守りや示唆により達成できた	具体的な助言・指導により達成できた	具体的に助言・指導してもあまり達成できなかった	具体的に助言・指導しても全く達成できなかった
態度	1. 客観的な観察に基づく実習記録と省察	見守りや示唆により十分に達成できた	見守りや示唆により達成できた	具体的な助言・指導により達成できた	具体的に助言・指導してもあまり達成できなかった	具体的に助言・指導しても全く達成できなかった
態度	2. 具体的な課題設定と実践	見守りや示唆により十分に達成できた	見守りや示唆により達成できた	具体的な助言・指導により達成できた	具体的に助言・指導してもあまり達成できなかった	具体的に助言・指導しても全く達成できなかった
態度	3. 実習生としてのマナーやモラル	見守りや示唆により十分に達成できた	見守りや示唆により達成できた	具体的な助言・指導により達成できた	具体的に助言・指導してもあまり達成できなかった	具体的に助言・指導しても全く達成できなかった

2024年度授業概要(シラバス)

科目名	保育実習Ⅱ		授業番号	CQ423	サブタイトル	
教員	中田 周作					
単位数	2単位	開講年次	が1年より異なります。	開講期	前期	授業形態
						実習
						必修・選択
						選択
授業概要	福祉施設での実習指導を受けることにより、その種別による目的や機能を認識し、その全体系を明らかにする。そして、専門職としての保育士の職務意識を高め、全般的な技術に習熟するための実習を行う。					
到達目標	本実習の目的は、次の4つである。(1)個々の利用者・者に対する援助計画・日常的支援・専門的支援を理解できるようになる。(2)日常的支援の重点を理解し、指導者の助言をもとに援助計画を立案できるようになる。(3)担当者の指導のもとに利用者・者の援助実践を行い、養護技術の具体を知り、自ら実践できるようになる。(4)個々の利用者・者の異なるニーズに対応するサポートシステムを知り、自ら実践できるようになる。なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学力のうちの「技能・<態度>」の修得に貢献する。					
授業計画 備考	基本的な実習を終えた後、次の段階の処遇活動への参加として計画的援助活動の実施、関わる処遇部門の拡大などもう一段上の実習課題をもつこと。					
授業計画 自由記載	<ol style="list-style-type: none"> 1) 援助計画の理解 <ul style="list-style-type: none"> ・利用者・者の発達段階や年齢に対して配慮する。 ・個々の利用者・者の持つ問題に対応する援助計画、日常的支援、専門的支援を理解する。 2) 援助プログラムの立案 <ul style="list-style-type: none"> ・日常的支援の時間配分や生活、教育、訓練、治療、矯正などの重点のおき方から援助プログラムへの生かし方を理解する。 ・施設の援助計画と実習指導担当者の方針を理解し、その助言を受けて立案する。 3) 援助プログラムによる援助実践 <ul style="list-style-type: none"> ・利用者・者の心身の状況によって臨機応変に対応する。 ・実習指導担当者の助言、実習場面の立ち会い、事後の評価等を受ける。 4) 保育士の態度と技術の習得 <ul style="list-style-type: none"> ・受容と共感という人間的触れ合いの中で信頼関係を体得する。 ・必要な援助を機能的に行っている保育士の態度や技術を学ぶ。 ・援助計画の中にとどまらずに利用者・者の参加を進めようとしているかを学ぶ。 5) 多様性と共通性の理解 <ul style="list-style-type: none"> ・個々の異なるニーズに対応するサービスあるいはサポートシステムを具体的に学習する。 ・種別ごとの特徴と共通する課題が存在することを、施設で実践することで学習する。 					
授業計画 備考2						
評価の方法	種別	割合	評価基準・その他備考			
授業への取り組みの姿勢/態度						
レポート		20	実習で学んだことについて具体的に記載されていること、また、学びが日々ステップアップしていることについて評価する。実習日誌については、コメントを記入して返却する。			
小テスト						
定期試験						
その他		80	実習先施設から返却された評価票に基づいて、評価する。			

評価の方法：自由記載	
受講の心得	「保育実習研究Ⅱ」で学んだ事を復習しておくこと。学びつと姿勢で臨み、利用者・者と積極的に関わること。また、分からないことは、速やかに、かつ謙虚な態度で施設職員に直接質問すること。
授業外学習	・毎日、実習終了後は日誌を丁寧に記入すること。下書きはレポート用紙(別紙)に記載し、その都度見直ししたり、実践の振り返りに役立てること。また、新たに分からないことを発見した場合には、施設職員にわかりやすいように日誌に記載しておくこと。(約4時間)

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載

・必要に応じて紹介する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載

その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
技能	1. 保育計画及び指導計画	保育施設の全体的な計画を十分把握したうえで、担当する子どもの実態を的確にとらえた指導計画を作成し、子どもの意欲的な活動を支える実践を展開することができる。また実施後は十分な省察ができ、改善点を主体的に次へ生かそうとする。	保育施設の全体的な計画を把握したうえで、担当する子どもの実態を捉えた指導計画を作成し、子どもの意欲的な活動を支える実践を展開することができる。また実施後は省察を行い、改善点を次に生かそうとする。	保育施設の全体的な計画をおおむね把握し、担当する子どもの実態を捉えようとした指導計画を作成しているが十分ではない。子どもが楽しめる活動を展開することができていない。また実施後は省察を行い、指摘された改善点を次に生かそうとする。	保育施設の全体的な計画をあまり把握できておらず、担当する子どもの実態を捉えきれない指導計画を作成していたり、作成できないこともある。実施後は省察を行い、指摘された改善点を次に生かそうとする。	保育施設の全体的な計画を全然把握できておらず、担当する子どもの実態を捉えきれない指導計画を作成していたり、作成できないこともある。実施後の省察も十分ではなく、指摘された改善点を理解することも難しい。
技能	2. 発達に応じた援助	発達段階や個人差を十分に理解し、担当する子どもの実態に応じた援助を工夫し、実践できる。	発達段階や個人差を理解し、担当する子どもの実態に応じた援助を工夫し、実践できる。	発達段階や個人差を理解し、担当する子どもの実態に応じた援助を工夫し、実践しようとしている。	発達段階や個人差に対する理解が十分ではないもの、担当する子どもの実態に応じた援助を工夫しようとしている。	発達段階や個人差に対する理解が十分ではなく、子どもの実態に応じて援助を工夫しない。
態度	1. 実習の参加状況	実習指導者と意欲的にコミュニケーションを取り、実習日誌に学修したことを丁寧にまとめ、日々の実践や指導計画の作成に十分に生かすことができる。	実習指導者と意欲的にコミュニケーションを取り、実習日誌に学修したことを丁寧にまとめ、日々の実践や指導計画の作成に生かすことができる。	実習指導者とコミュニケーションを取り、実習日誌に学修したことをまとめ、日々の実践や指導計画の作成に生かそうとしている。	実習指導者とあまりコミュニケーションを取ることができず、実習日誌に十分な省察がみられないもの、経験したことを日々の実践や指導計画の作成に生かそうとしている。	実習指導者と十分なコミュニケーションを取ることができず、実習日誌に十分な省察がみられない。

科目名	児童保育実習Ⅰ			授業番号	CQ431	サブタイトル			
教員	中田 陽作、伊藤 留里								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	実習	必修・選択	選択
授業概要	この授業では、児童保育所で90時間の実習を実施する。実習期間は8月中旬から9月中旬である。								
到達目標	児童保育所は、実際には、どのような保育をしているのか、実習を通して経験する。 また、放課後の子どもたちと接することによって、子どもたちの実態を理解する。 なお、本科目は、ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力のうち「技能」の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
授業計画 自由記載	1. 実習先 実習研究の時間に配付する児童保育所の一覧より、実習先を配当する。 2. 実習期間 おおよそ、次の2つの時期に分けて実施する。 (1)平日の午後10日間 (2)長期休暇および土曜日に6日間								
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢/態度	80	実習に関する書類や実習ノート						
	レポート								
	小テスト								
	定期試験								
	その他	20	実習先の評価						

評価の方法：自由記載	
受講の心得	原則として次の2つの条件を満たしている者のみ履修できる。 (1) 学童保育論と学童保育方法論の両方を履修済である者。 (2) 学童保育実習研究を同時に履修している者。
授業外学修	運営指針解説書は実習時に携行すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載

その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
技能	1. 実習日誌、指導案、部分指導について	毎日の実習の様子を実習日誌にまとめることができる。運営指針に基づいた、指導案を作成し、十分に準備した部分指導ができる。指導や助言に基づいて、実習日誌、指導案の改善ができる。	毎日の実習の様子を実習日誌にまとめることができる。運営指針に基づいた、指導案を作成し、十分に準備した部分指導ができる。	実習日誌、指導案、部分指導が、一通りできている。	実習日誌、指導案、部分指導が、十分に書けていない。	実習日誌、指導案、部分指導が書けていない。
技能	2. 育成支援について	運営指針第3章1. 育成支援の内容①から⑧のうちの全ての事項が、実習生に求められているレベルで実践できている。	運営指針第3章1. 育成支援の内容①から⑧のうちの7つの事項が、実習生に求められているレベルで実践できている。	運営指針第3章1. 育成支援の内容①から⑧のうちの6つの事項が、実習生に求められているレベルで実践できている。	運営指針第3章1. 育成支援の内容①から⑧のうちの4つの事項が、実習生に求められているレベルで実践できている。	運営指針第3章1. 育成支援の内容①から⑧のうちの全ての事項が、実習生に求められているレベルで実践できていない。
態度	1. 実習生に求められる一般的な資質・能力	実習生として、ふさわしい態度で実習に臨み、反省や助言に基づいて実践を改善することができる。	実習生として、ふさわしい態度で実習に臨むことができる。	実習期間の後半には、実習生として、ふさわしい態度で実習に臨むことができる。	実習生として、子どもと積極的にかわることができない。	子どもと関わることができていない。

科目名	児童保育実習Ⅱ		授業番号	CQ432	サブタイトル				
教員	中田 周作								
単位数	2単位	開講年次	が1キリムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	実習	必修・選択	選択
授業概要	この授業では、児童保育所で90時間の実習を実施する。実習期間は8月中旬から9月中旬である。								
到達目標	児童保育所は、実際には、どのような保育をしているのか、実習を通して経験する。 また、放課後の子どもたちと接することによって、子どもたちの実態を理解する。 なお、本科目は、ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力のうち「技能」の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
授業計画 自由記載	1. 実習先 実習研究の時間に配付する児童保育所の一覧より、実習先を配当する。 2. 実習期間 おおよそ、次の2つの時期に分けて実施する。 (1)平日の午後10日間 (2)長期休暇および土曜日に6日間 3. 振り替え 放課後児童指導員資格を取得するためには、本実習の履修が必要であるが、その他の実習（ただし2単位以上）の単位で振り替えることができる。								
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢/態度	80	実習に関する書類や実習ノート						
	レポート								
	小テスト								
	定期試験								
	その他	20	実習先の評価						

評価の方法：自由記載	
受講の心得	原則として次の2つの条件を満たしている者のみ履修できる。 (1) 学童保育論と学童保育方法論の両方を履修済である者。 (2) 学童保育実習研究を同時に履修している者。
授業外学修	運営指針解説書は実習時に携行すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載

その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
技能	1. 実習日誌、指導案、部分指導について	毎日の実習の様子を実習日誌にまとめることができる。運営指針に基づいた、指導案を作成し、十分に準備した部分指導ができる。指導や助言に基づいて、実習日誌、指導案の改善ができる。	毎日の実習の様子を実習日誌にまとめることができる。運営指針に基づいた、指導案を作成し、十分に準備した部分指導ができる。	実習日誌、指導案、部分指導が、一通りできている。	実習日誌、指導案、部分指導が、十分に書けていない。	実習日誌、指導案、部分指導が書けていない。
技能	2. 育成支援について	運営指針第3章1. 育成支援の内容①から⑧のうちの全ての事項が、実習生に求められているレベルで実践できている。	運営指針第3章1. 育成支援の内容①から⑧のうちの7つの事項が、実習生に求められているレベルで実践できている。	運営指針第3章1. 育成支援の内容①から⑧のうちの6つの事項が、実習生に求められているレベルで実践できている。	運営指針第3章1. 育成支援の内容①から⑧のうちの4つの事項が、実習生に求められているレベルで実践できている。	運営指針第3章1. 育成支援の内容①から⑧のうちの全ての事項が、実習生に求められているレベルで実践できていない。
態度	1. 実習生に求められる一般的な資質・能力	実習生として、ふさわしい態度で実習に臨み、反省や助言に基づいて実践を改善することができる。	実習生として、ふさわしい態度で実習に臨むことができる。	実習期間の後半には、実習生として、ふさわしい態度で実習に臨むことができる。	実習生として、子どもと積極的にかわることができない。	子どもと関わることができていない。